

柏原市

子どもの生活に関する実態調査

令和6年3月

柏原市

調査研究業務 受注者

公立大学法人大阪 大阪公立大学

目次

はじめに	2
I 調査概要	3
1. 調査の目的	3
2. 調査方法	3
3. 調査内容	3
4. 調査対象者	3
5. 調査実施日	3
6. 調査配布・回収率(数)	3
7. 調査実施主体	5
8. 研究者一覧	5
9. 大阪府内全自治体のデータ統合時の扱い	5
II 調査結果	7
1. 単純集計結果〔小学生・中学生〕	7
2. 単純集計結果〔保護者〕	84
3. クロス集計および分析結果	182
3－1. 基本情報	182
(1) 経済状況	182
(2) 家庭状況（制度等）	201
3－2. 雇用	248
3－3. 健康	256
3－4. 家庭生活、学習	298
3－5. 対人関係	358
III 総合考察	426
1) 大阪府共同調査の意義	426
2) 単純集計	426
3) クロス集計	429
まとめ	431
IV 資料編	439

はじめに

2014年1月「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が施行されたことをスタートに、2014年8月「子供の貧困対策に関する大綱」が策定された。これら政府の動きを受けて、大阪市や大阪府内自治体含む大阪府は約10万件にも及ぶ子どもの生活に関する実態調査に共同で取り組んだ。府内すべてを網羅したこと、同じ調査で実施したことの意味は、大きい。なぜなら、各自治体がばらばらに実施し結果を見せても共通の指標にならず、この数値がどうなのか、意味があるのか、よくわからない実態も少なくない。世間でもかなり話題になり、マスコミに多数取り上げられた。この頃には、子どもの貧困が広く知られ社会問題化されつつあったが、この大規模な調査の動きは拍車をかけたのみならず、データ数の多さから、全て実証され、以下に示す政策にも少なからず影響をもたらした。

2019年6月「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が5年ぶりに見直され、「子どもの貧困対策の推進に関する法律の一部を改正する法律」が施行された。それを受けて、同年11月「子供の貧困対策に関する大綱～日本の将来を担う子供たちを誰一人取り残すことがない社会に向けて～」が再策定された。大綱では、「支援が届いていない、又は届きにくい子ども・家庭に配慮して対策を推進する」、「困窮層が多様であること」、「社会的孤立に陥ることのないように配慮する」など新たな視点が基本方針として追加され、ヤングケアラーと思われる子どもや、外国籍や障がいを持つ子どもたちなど、具体的な困窮層の子どもや家庭が示された。同時に、2023年4月にこども家庭庁が発足され、貧困をはじめとする子どもを取り巻く社会問題にシームレスに向き合い、途切れない政策・支援を打ち立てていくことが期待されている。

こうして子どもの貧困に関する社会的認知や政策が知られるようになったが、子どもの実態はどう変わったのであろうか。政策の効果は表れたであろうか。そんな思いをもって、大阪府では再度府内自治体とともに子どもの生活に関する実態調査が共同実施されることになった。全国的にここまで一体的に実施する都道府県は存在せず、大阪府が、大阪府内の大半を占める大阪市も含めて牽引した役割は大きい。

子どもの貧困については、前回と同様に、その国の貧困線未満の所得で暮らす相対的貧困の17歳以下の子どもの存在および生活状況を指す相対的貧困率でとらえる。OECDや厚生労働省調査の貧困率には等価可処分所得の中央値の50%が使用されているが、絶対的なものではなく、EU、ユニセフは公式の貧困基準のひとつに中央値の60%を使用（ただし、常に60%基準採用ではない）している。前回同様、60%のラインも含め検討している。子どもの相対的貧困率については、発表主体、統計利用データ年次によって変動する。内容的には、タウンゼンドの定義を元にChild Poverty Action Group (CPAG) が示している、①所得や資産など経済的資本 (capital) の欠如、②健康や教育など人的資本 (human capital) の欠如、③つながりやネットワークなど社会関係資本 (social capital) の欠如、の3つの資本の欠如を基本的な枠組みとしてとらえる。

I 調査概要

1. 調査の目的

柏原市では、「第2期柏原市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、子どもや子育てに関する支援策を実施している中、子どもの貧困対策を含めたより効果的な取り組みを推進していくため、大阪府と共同で子どもの生活に関する実態調査を実施したものであり、今後、今回の調査結果に基づいて分析を行い、支援を必要とする子どもや家庭に対する方策を検証する。

2. 調査方法

柏原市公立学校の調査対象の世帯に、各学校を通じて調査票を配付し、回収を得たもの。

3. 調査内容

巻末の調査票参照

4. 調査対象者

柏原市内公立学校に在籍する小学5年生とその保護者（495世帯）

柏原市内公立学校に在籍する中学2年生とその保護者（488世帯）

5. 調査実施日

柏原市：令和5年9月4日～令和5年9月22日

大阪府内全自治体：令和5年6月27日～令和5年9月30日

6. 調査配布・回収率(数)

表1. 調査票の回収状況

		回収率(%)	回収数	配布数
柏原市	小学5年生	68.5	339	495
	小学5年生の保護者	67.7	335	495
	中学2年生	68.6	335	488
	中学2年生の保護者	59.2	289	488
	小学5年生・中学2年生合計	68.6	674	983
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	63.5	624	983
	計	66.0	1,298	1,966
大阪府全自治体	小学5年生	56.2	23,289	41,458
	小学5年生の保護者	55.0	22,819	41,458
	中学2年生	51.4	19,990	38,911
	中学2年生の保護者	49.8	19,390	38,911
	小学5年生・中学2年生合計	54.0	43,370	80,369
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	53.9	43,358	80,369
	計	54.0	86,728	160,738

※大阪府内全自治体の小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、学年不明分を含んだものとなっている（子ども：91件、保護者：1,149件）

※大阪府内全自治体の小学5年生、小学5年生保護者、中学2年生、中学2年生保護者、小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、一部自治体の他学年分を含んだものとなっている。

※「計」は、「小学5年生・中学2年生合計」と「小学5年生保護者・中学2年生保護者合計」の合計となっている。

大阪府内全自治体回収状況配布・回収方法別

		回収率(%)	回収数	配布数
学校配布・学校回収	小学5年生	61.6	15,927	25,852
	小学5年生の保護者	62.6	16,178	25,852
	中学2年生	58.3	13,712	23,539
	中学2年生の保護者	58.2	13,707	23,539
	小学5年生・中学2年生合計	60.1	29,674	49,391
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	60.7	29,977	49,391
	計	60.4	59,651	98,782
学校配布・郵送回収	小学5年生	22.6	1,401	6,191
	小学5年生の保護者	22.2	1,376	6,191
	中学2年生	15.3	936	6,099
	中学2年生の保護者	15.5	943	6,099
	小学5年生・中学2年生合計	19.2	2,362	12,290
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.2	2,361	12,290
	計	19.2	4,723	24,580
郵送配布・郵送回収	小学5年生	21.3	2,003	9,415
	小学5年生の保護者	21.0	1,978	9,415
	中学2年生	17.8	1,646	9,273
	中学2年生の保護者	17.8	1,653	9,273
	小学5年生・中学2年生合計	19.7	3,676	18,688
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.7	3,675	18,688
	計	19.7	7,351	37,376
学校配布・WEB回答	小学5年生	23.0	3,007	13,068
	小学5年生の保護者	17.0	2,228	13,068
	中学2年生	21.3	2,714	12,718
	中学2年生の保護者	16.0	2,037	12,718
	小学5年生・中学2年生合計	22.2	5,723	25,786
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.2	4,949	25,786
	計	20.7	10,672	51,572
郵送配布・WEB回答	小学5年生	10.1	951	9,415
	小学5年生の保護者	11.2	1,059	9,415
	中学2年生	10.6	982	9,273
	中学2年生の保護者	11.3	1,050	9,273
	小学5年生・中学2年生合計	10.4	1,935	18,688
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	12.8	2,396	18,688
	計	11.6	4,331	37,376

※各配布・回収方法の小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、学年不明分を含んだものとなっている（子ども：91件、保護者：1,149件）

※大阪府内全自治体の小学5年生、小学5年生保護者、中学2年生、中学2年生保護者、小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、一部自治体の他学年分を含んだものとなっている。

※「計」は、「小学5年生・中学2年生合計」と「小学5年生保護者・中学2年生保護者合計」の合計となっている。

なお、未就学児童の保護者を対象とした調査も大阪府内の3自治体において実施した。さらに1自治体では、小5・中2以外の学年の児童とその保護者を対象とした調査も実施した。これらの合計配布数は、19,513件、回収数は14,626件、回収率75.0%であった。

7. 調査実施主体

柏原市

調査研究業務受託者

公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

8. 研究者一覧

担当者	公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科
	教授 山野 則子（業務責任者）
	特任講師 橋本 磨和
	シニア研究員 永田 麻衣 佐伯 厘咲 李 孟
協力者	公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科
	准教授 嵯峨 嘉子
研究補助者	公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 経済学研究科
	准教授 牛 冰
	武庫川女子大学 社会情報学部 社会情報学科 助教 駒田 安紀
	大阪商業大学 公共学部 公共学科 助教 林 萍萍
	奈良佐保短期大学 地域こども学科 講師 河村 信子
	公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科
	研究員 黄 健育 渡邊 陽亮
	大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科 専攻社会福祉学分野 林 慎吾
	松浦 孝範 久地井 寿哉 渡邊 祐作

9. 大阪府内全自治体のデータ統合時の扱い

本報告書においては、柏原市と大阪府内全自治体をそれぞれ掲載している。柏原市のデータについては既に「Ⅰ 調査概要 2～8」で述べた方法で収集したものである。大阪府内全自治体については、大阪府25市町村のデータに共同 実施18市町のデータを統合したものである。これら全自治体においては、小学生・中学生27問、保護者26問をそれぞれ共通設問として調査項目を設計し、全体を統合して扱うあるいは比較することが可能なものとした。なお、一部の市においては、これらの共通設問とは別途把握したい内容がある場合に限り、追加で独自設問を設けている。

調査の結果、府と他共同実施18市町との間で回収率や回収数に差が生じた。府では、予めサンプリングした対象8000件への配布を行いその約30%の回収となったのに対し、他共同実施市ではほとんどの市が全数配布の結果、高いところでは70%を超える回収率となっている。このため、自治体間で回収率あるいはサンプルサイズの補正を行うか否かについて検討し、補正は行わないとの結論に達した。

1点目の理由としては、今回の調査では調査票配布の方法に郵送配布と学校配布の2種類があり、いずれを用いるかは自治体の状況に基づいて決定された。配布方法が異なることで回収率に差が生じることは避けられないものであった。

2点目の理由としては、このような状況に対して、例えば回収率の高かった自治体についてデータの再サンプリングなどの方法を用いて削減を行うことも意見が出された。しかし、その場合、どのような基準で選択するのかが恣意的になってしまうこと、削減後の結果を提示した場合、施策を提言するための貴重な調査結果であるにもかかわらずその一部が掬い取られないことになり、全数調査をした市においては意義が失われてしまう。

このような理由から、大阪府内全自治体のデータは回収したデータをすべて統合したものとなっている。

本報告書では、「柏原市」、「大阪府内全自治体」両者のグラフを掲載しているため、このように書き分けて論じていく。

なお、報告書においてはパーセンテージを用いて記述し、議論を進める。この中で、パーセンテージで示される数値同士の加・減・除を行う（合計する・差を把握する・何倍かに着目する）ことがあるが、実際に示された数値で算出しても結果が異なることがある。これは、示されている数値は小数第二位以下を四捨五入しているものであり、算出には四捨五入前の厳密な数値を用いていることによるものである。

Ⅱ 調査結果

1. 単純集計結果〔小学生・中学生〕

柏原市

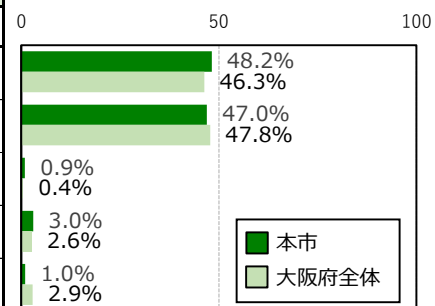
回答者の属性

問27 性別

全体は、「男子」が48.2%で、「女子」が47.0%となっている。
小学生は、「男子」が47.5%で、「女子」が47.5%となっている。
中学生は、「男子」が49.0%で、「女子」が46.3%となっている。

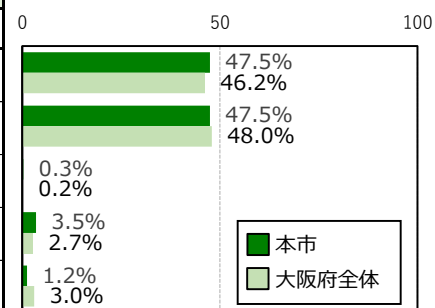
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
男子	326名	48.2%	20,086名	46.3%
女子	318名	47.0%	20,729名	47.8%
その他	6名	0.9%	169名	0.4%
答えたくない	20名	3.0%	1,134名	2.6%
無回答	7名	1.0%	1,252名	2.9%



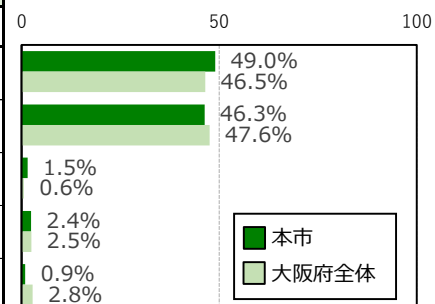
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
男子	161名	47.5%	10,752名	46.2%
女子	161名	47.5%	11,171名	48.0%
その他	1名	0.3%	42名	0.2%
答えたくない	12名	3.5%	636名	2.7%
無回答	4名	1.2%	688名	3.0%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
男子	164名	49.0%	9,295名	46.5%
女子	155名	46.3%	9,516名	47.6%
その他	5名	1.5%	127名	0.6%
答えたくない	8名	2.4%	493名	2.5%
無回答	3名	0.9%	559名	2.8%



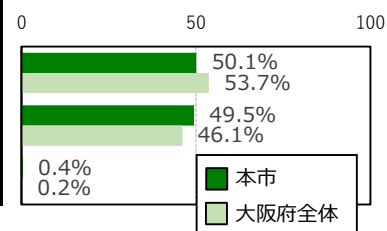
回答者の属性

問1 学年

回答者の学年は、「小学生」が339名・50.1%、「中学生」が335名・49.5%となっている。

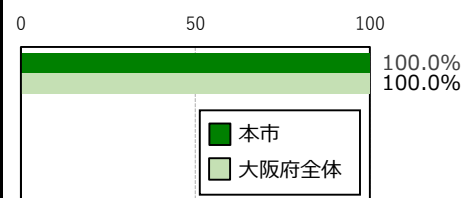
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	677名	100.0%	43,370名	100.0%
小学生	339名	50.1%	23,289名	53.7%
中学生	335名	49.5%	19,990名	46.1%
無回答	3名	0.4%	91名	0.2%



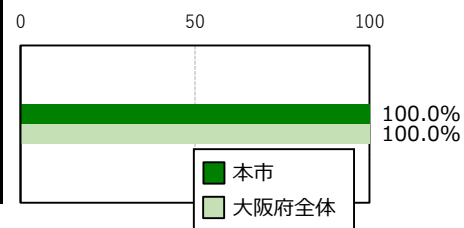
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	339名	100.0%	23,289名	100.0%
小学生	339名	100.0%	23,289名	100.0%
中学生	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	335名	100.0%	19,990名	100.0%
小学生	-	-	-	-
中学生	335名	100.0%	19,990名	100.0%
無回答	-	-	-	-



ふだんの生活のことについて

問2 起床時間の規則性

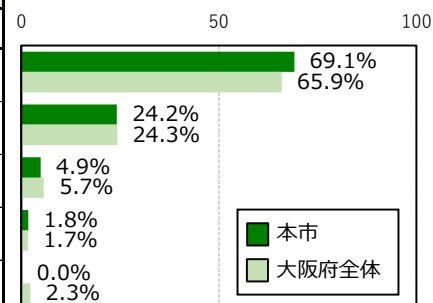
全体は、「起きている」が69.1%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が24.2%、「あまり、起きていない」が4.9%となっている。

小学生は、「起きている」が71.7%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が20.6%、「あまり、起きていない」が5.9%となっている。

中学生は、「起きている」が66.9%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が27.5%、「あまり、起きていない」が3.9%となっている。

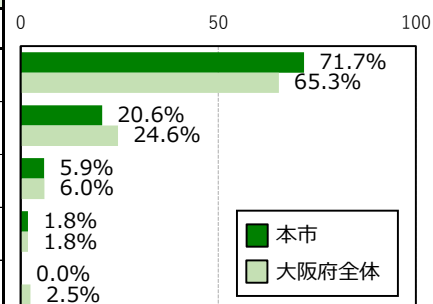
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
起きている	468名	69.1%	28,594名	65.9%
どちらかといえば、起きている	164名	24.2%	10,539名	24.3%
あまり、起きていない	33名	4.9%	2,478名	5.7%
起きていない	12名	1.8%	741名	1.7%
無回答	-	-	1,018名	2.3%



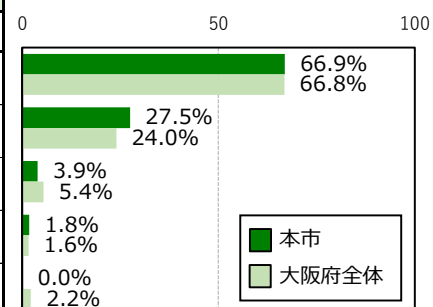
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
起きている	243名	71.7%	15,198名	65.3%
どちらかといえば、起きている	70名	20.6%	5,722名	24.6%
あまり、起きていない	20名	5.9%	1,386名	6.0%
起きていない	6名	1.8%	410名	1.8%
無回答	-	-	573名	2.5%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
起きている	224名	66.9%	13,344名	66.8%
どちらかといえば、起きている	92名	27.5%	4,791名	24.0%
あまり、起きていない	13名	3.9%	1,088名	5.4%
起きていない	6名	1.8%	328名	1.6%
無回答	-	-	439名	2.2%



ふだんの生活のことについて

問3 就寝時間

全体は、「午後10時台」が36.0%で最も多く、次いで「午後11時台」が20.8%、「午後9時台」が18.8%、「午前0時台」が10.2%となっている。

小学生は、「午後10時台」が44.5%で最も多く、次いで「午後9時台」が33.9%、「午後11時台」が10.3%、「きまっていない」が5.9%となっている。

中学生は、「午後11時台」が31.0%で最も多く、次いで「午後10時台」が27.5%、「午前0時台」が17.9%、「きまっていない」が11.9%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問４（１）朝食の頻度

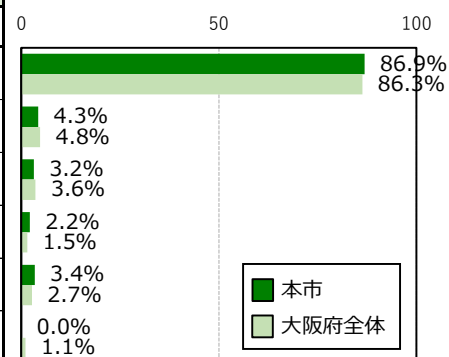
全体は、「毎日またはほとんど毎日」が86.9%で最も多く、次いで「週に４～５回」が4.3%、「食べない」が3.4%、「週に２～３回」が3.2%となっている。

小学生は、「毎日またはほとんど毎日」が90.3%で最も多く、次いで「週に４～５回」が2.9%、「週に２～３回」が2.7%、「食べない」が2.4%となっている。

中学生は、「毎日またはほとんど毎日」が83.6%で最も多く、次いで「週に４～５回」が5.7%、「食べない」が4.5%「週に２～３回」が3.6%となっている。

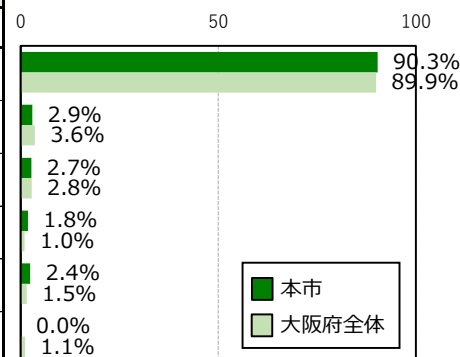
【全体】

	本市		大阪府全体	
	677名	100.0%	43,370名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	588名	86.9%	37,447名	86.3%
週に４～５回	29名	4.3%	2,062名	4.8%
週に２～３回	22名	3.2%	1,564名	3.6%
週に１回程度	15名	2.2%	649名	1.5%
食べない	23名	3.4%	1,180名	2.7%
無回答	-	-	468名	1.1%



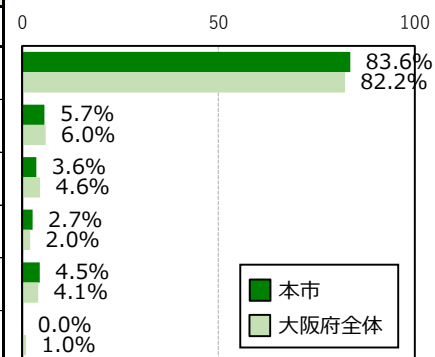
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	339名	100.0%	23,289名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	306名	90.3%	20,939名	89.9%
週に４～５回	10名	2.9%	849名	3.6%
週に２～３回	9名	2.7%	647名	2.8%
週に１回程度	6名	1.8%	241名	1.0%
食べない	8名	2.4%	359名	1.5%
無回答	-	-	254名	1.1%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	19,990名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	280名	83.6%	16,433名	82.2%
週に４～５回	19名	5.7%	1,207名	6.0%
週に２～３回	12名	3.6%	913名	4.6%
週に１回程度	9名	2.7%	408名	2.0%
食べない	15名	4.5%	820名	4.1%
無回答	-	-	209名	1.0%



ふだんの生活のことについて

問4（2）朝食を食べない理由

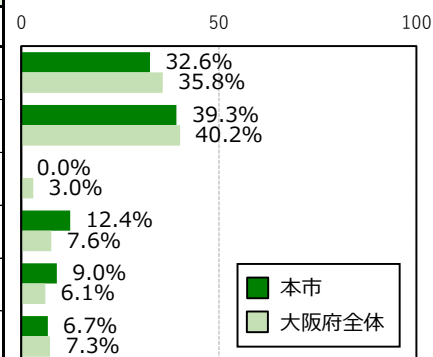
全体は、「おなかがすいていない」が39.3%で最も多く、次いで「時間がない」が32.6%、「食べる習慣がない」が12.4%となっている。

小学生は、「おなかがすいていない」が42.4%で最も多く、次いで「時間がない」が30.3%、「わからない」が12.1%となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が38.2%で最も多く、次いで「時間がない」が32.7%で、「食べる習慣がない」が14.5%となっている。

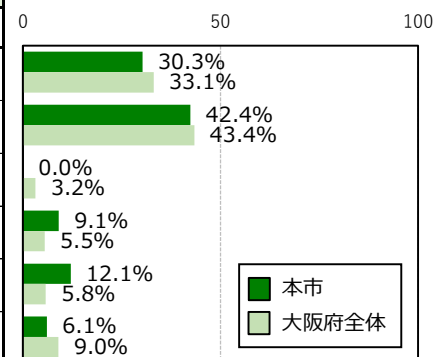
【全体】

	本市		大阪府全体	
	89名	100.0%	5,455名	100.0%
時間がない	29名	32.6%	1,954名	35.8%
おなかがすいていない	35名	39.3%	2,194名	40.2%
用意されていない	-	-	162名	3.0%
食べる習慣がない	11名	12.4%	414名	7.6%
わからない	8名	9.0%	334名	6.1%
無回答	6名	6.7%	397名	7.3%



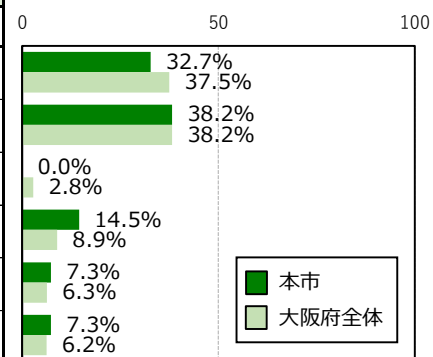
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	33名	100.0%	2,096名	100.0%
時間がない	10名	30.3%	694名	33.1%
おなかがすいていない	14名	42.4%	909名	43.4%
用意されていない	-	-	68名	3.2%
食べる習慣がない	3名	9.1%	116名	5.5%
わからない	4名	12.1%	121名	5.8%
無回答	2名	6.1%	188名	9.0%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	55名	100.0%	3,348名	100.0%
時間がない	18名	32.7%	1,257名	37.5%
おなかがすいていない	21名	38.2%	1,280名	38.2%
用意されていない	-	-	94名	2.8%
食べる習慣がない	8名	14.5%	298名	8.9%
わからない	4名	7.3%	212名	6.3%
無回答	4名	7.3%	207名	6.2%



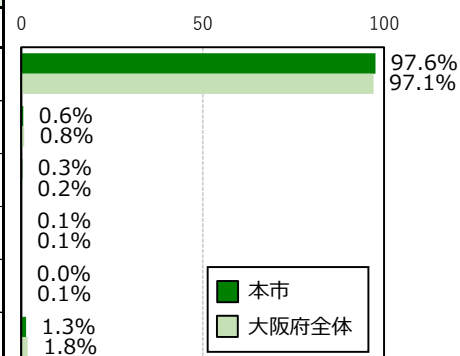
ふだんの生活のことについて

問5（1）夕食の頻度

全体は、「毎日またはほとんど毎日」が97.6%で最も多くなっている。
 小学生は、「毎日またはほとんど毎日」が98.5%で最も多くなっている。
 中学生は、「毎日またはほとんど毎日」が97.0%で最も多くなっている。

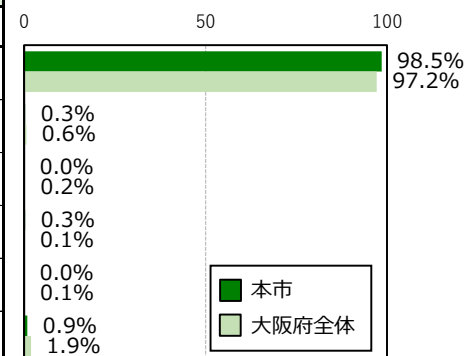
【全体】

	本市		大阪府全体	
	677名	100.0%	43,370名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	661名	97.6%	42,110名	97.1%
週に4～5回	4名	0.6%	327名	0.8%
週に2～3回	2名	0.3%	100名	0.2%
週に1回程度	1名	0.1%	31名	0.1%
食べない	-	-	32名	0.1%
無回答	9名	1.3%	770名	1.8%



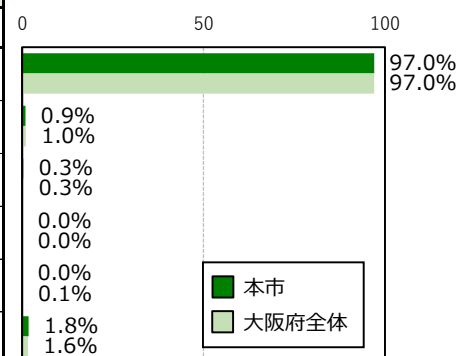
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	339名	100.0%	23,289名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	334名	98.5%	22,637名	97.2%
週に4～5回	1名	0.3%	132名	0.6%
週に2～3回	-	-	39名	0.2%
週に1回程度	1名	0.3%	23名	0.1%
食べない	-	-	16名	0.1%
無回答	3名	0.9%	442名	1.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	19,990名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	325名	97.0%	19,393名	97.0%
週に4～5回	3名	0.9%	195名	1.0%
週に2～3回	1名	0.3%	60名	0.3%
週に1回程度	-	-	8名	0.0%
食べない	-	-	16名	0.1%
無回答	6名	1.8%	318名	1.6%



ふだんの生活のことについて

問5（2）夕食を食べない理由

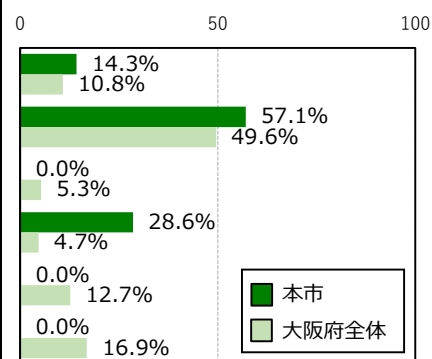
全体は、「おなかがすいていない」が57.1%（4名）で最も多く、次いで「食べる習慣がない」が28.6%（2名）、「時間がない」が14.3%（1名）となっている。

小学生は、「おなかがすいていない」が50.0%（1名）、「食べる習慣がない」が50.0%（1名）となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が50.0%（2名）で最も多く、次いで「時間がない」、「食べる習慣がない」がそれぞれ25.0%（1名）となっている。

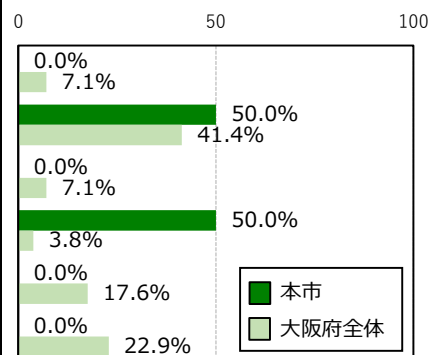
【全体】

	本市		大阪府全体	
	7名	100.0%	490名	100.0%
時間がない	1名	14.3%	53名	10.8%
おなかがすいていない	4名	57.1%	243名	49.6%
用意されていない	-	-	26名	5.3%
食べる習慣がない	2名	28.6%	23名	4.7%
わからない	-	-	62名	12.7%
無回答	-	-	83名	16.9%



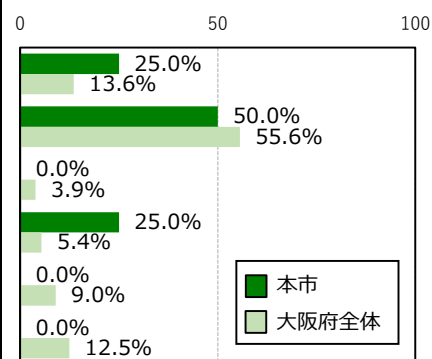
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	2名	100.0%	210名	100.0%
時間がない	-	-	15名	7.1%
おなかがすいていない	1名	50.0%	87名	41.4%
用意されていない	-	-	15名	7.1%
食べる習慣がない	1名	50.0%	8名	3.8%
わからない	-	-	37名	17.6%
無回答	-	-	48名	22.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	4名	100.0%	279名	100.0%
時間がない	1名	25.0%	38名	13.6%
おなかがすいていない	2名	50.0%	155名	55.6%
用意されていない	-	-	11名	3.9%
食べる習慣がない	1名	25.0%	15名	5.4%
わからない	-	-	25名	9.0%
無回答	-	-	35名	12.5%



ふだんの生活のことについて

問6（１）休日の昼食の頻度

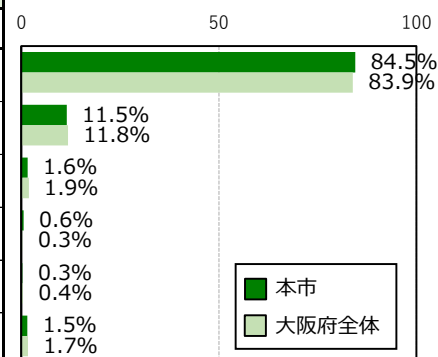
全体は、「必ず食べる」が84.5%で最も多く、次いで「食べることが多い」が11.5%、「食べないことが多い」が1.6%となっている。

小学生は、「必ず食べる」が89.7%で最も多く、次いで「食べることが多い」が8.8%、「食べないことが多い」が0.3%となっている。

中学生は、「必ず食べる」が79.4%で最も多く、次いで「食べることが多い」が14.0%、「食べないことが多い」が3.0%となっている。

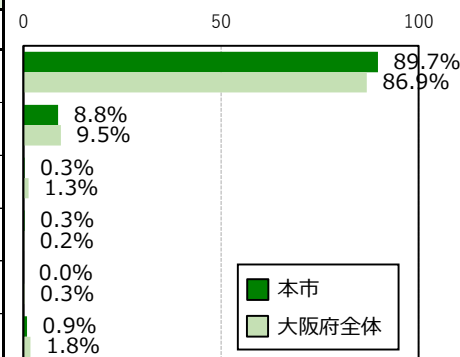
【全体】

	本市		大阪府全体	
	677名	100.0%	43,370名	100.0%
必ず食べる	572名	84.5%	36,388名	83.9%
食べるが多い	78名	11.5%	5,118名	11.8%
食べないことが多い	11名	1.6%	830名	1.9%
食べない	4名	0.6%	117名	0.3%
わからない	2名	0.3%	180名	0.4%
無回答	10名	1.5%	737名	1.7%



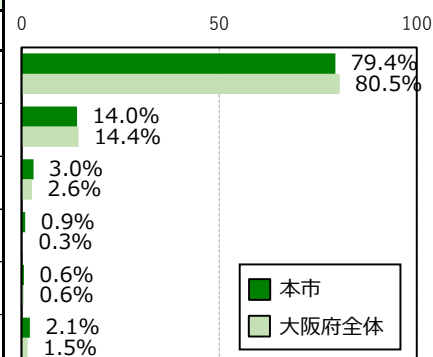
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	339名	100.0%	23,289名	100.0%
必ず食べる	304名	89.7%	20,227名	86.9%
食べるが多い	30名	8.8%	2,221名	9.5%
食べないことが多い	1名	0.3%	306名	1.3%
食べない	1名	0.3%	51名	0.2%
わからない	-	-	62名	0.3%
無回答	3名	0.9%	422名	1.8%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	19,990名	100.0%
必ず食べる	266名	79.4%	16,090名	80.5%
食べるが多い	47名	14.0%	2,886名	14.4%
食べないことが多い	10名	3.0%	524名	2.6%
食べない	3名	0.9%	66名	0.3%
わからない	2名	0.6%	117名	0.6%
無回答	7名	2.1%	307名	1.5%



ふだんの生活のことについて

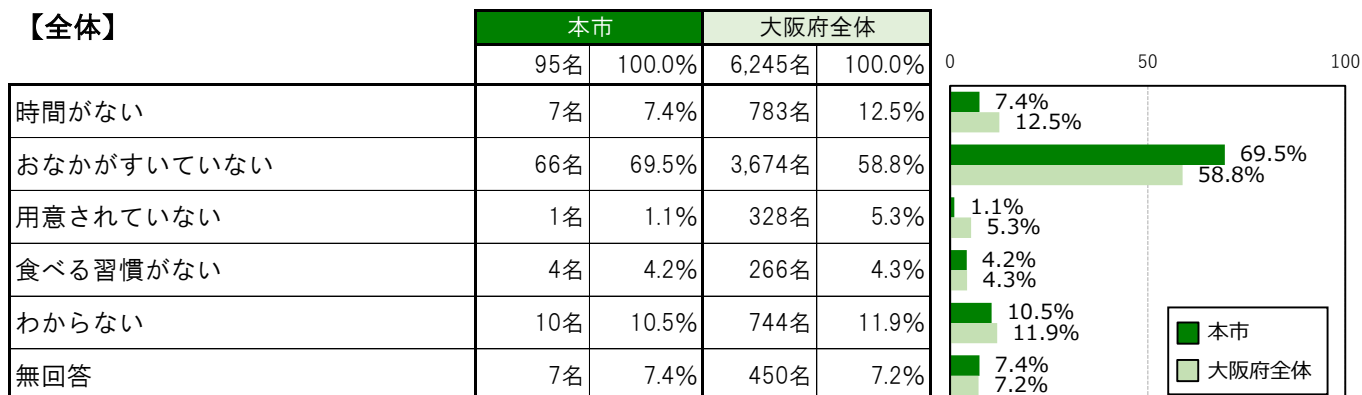
問6（2）休日に昼食を食べない理由

全体は、「おなかがすいていない」が69.5%で最も多く、次いで「わからない」が10.5%、「時間がない」が7.4%となっている。

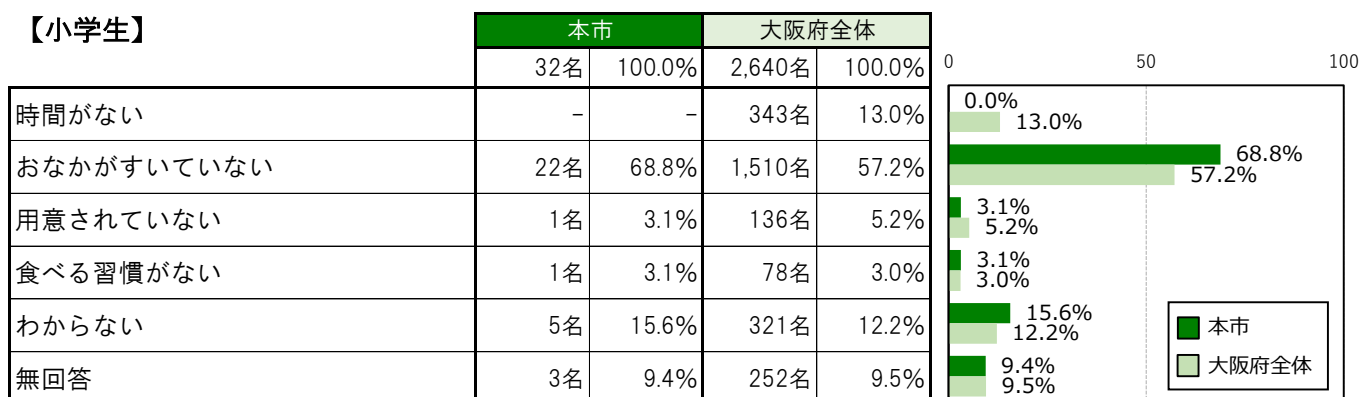
小学生は、「おなかがすいていない」が68.8%で最も多く、次いで「わからない」が15.6%、「食べる習慣がない」、
「用意されていない」が3.1%となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が71.0%で最も多く、次いで「時間がない」が9.7%、「わからない」が8.1%となっている。

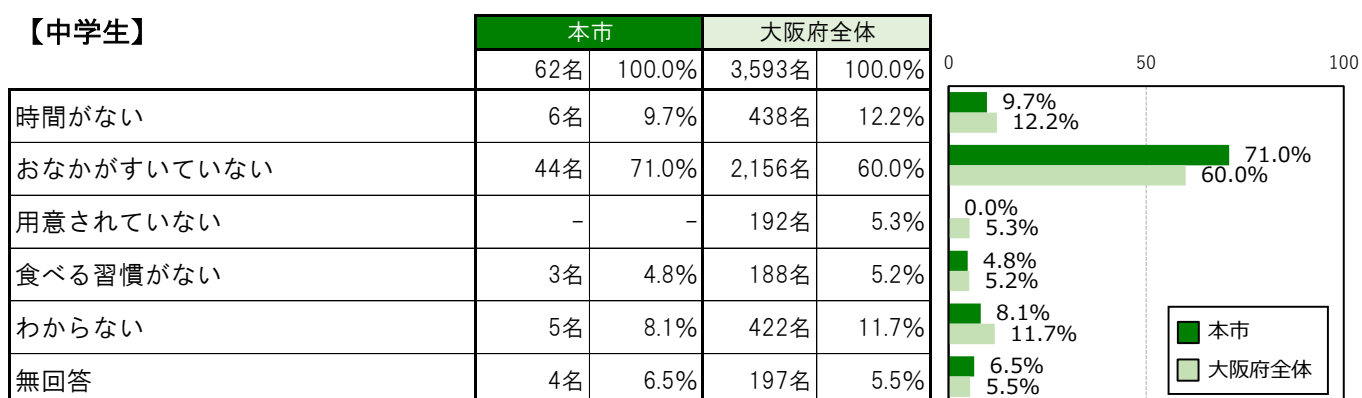
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問7 学校への遅刻

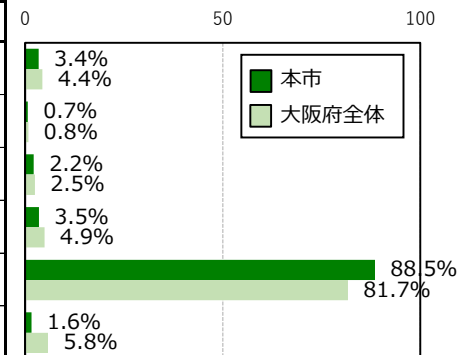
全体は、「遅刻はしない」が88.5%で最も多く、次いで「週に1回程度」が3.5%、「毎日またはほとんど毎日」が3.4%、「週に2～3回」が2.2%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が84.7%で最も多く、次いで「週に4～5回」が7.7%、「週に2～3回」が3.8%、「週に1回程度」が1.2%となっている。

中学生は、「遅刻はしない」が86.9%で最も多く、次いで「週に1回程度」が5.4%、「週に2～3回」が2.7%、「毎日またはほとんど毎日」が2.4%となっている。

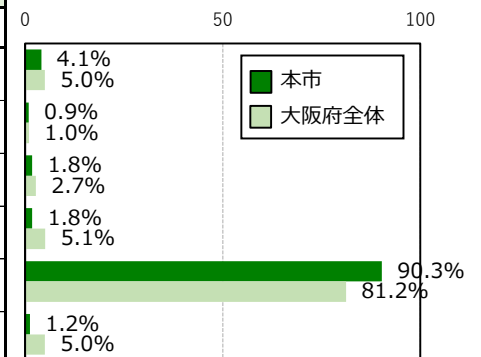
【全体】

	本市		大阪府全体	
	677名	100.0%	43,370名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	23名	3.4%	1,906名	4.4%
週に4～5回	5名	0.7%	333名	0.8%
週に2～3回	15名	2.2%	1,063名	2.5%
週に1回程度	24名	3.5%	2,132名	4.9%
遅刻はしない	599名	88.5%	35,435名	81.7%
無回答	11名	1.6%	2,501名	5.8%



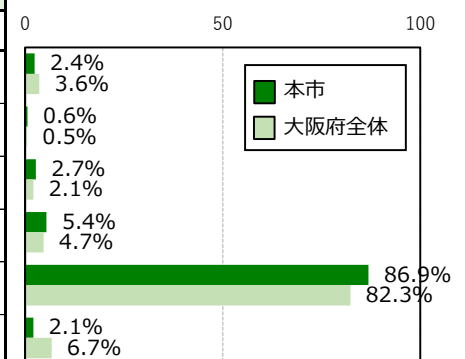
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	339名	100.0%	23,289名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	14名	4.1%	1,168名	5.0%
週に4～5回	3名	0.9%	223名	1.0%
週に2～3回	6名	1.8%	639名	2.7%
週に1回程度	6名	1.8%	1,194名	5.1%
遅刻はしない	306名	90.3%	18,907名	81.2%
無回答	4名	1.2%	1,158名	5.0%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	19,990名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	8名	2.4%	729名	3.6%
週に4～5回	2名	0.6%	109名	0.5%
週に2～3回	9名	2.7%	423名	2.1%
週に1回程度	18名	5.4%	935名	4.7%
遅刻はしない	291名	86.9%	16,459名	82.3%
無回答	7名	2.1%	1,335名	6.7%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ①おうちの大人のひとと一緒に朝食を食べているか

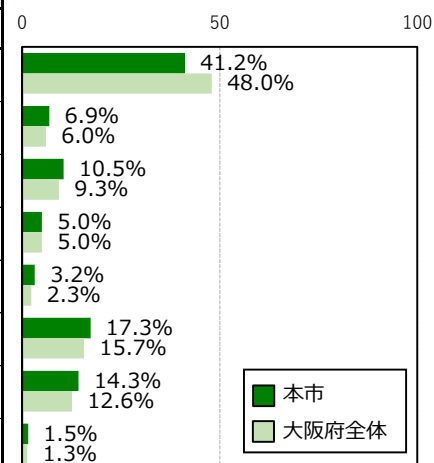
全体は、「ほとんど毎日」が41.2%で最も多く、次いで「ほとんどない」が17.3%、「まったくない」が14.3%、「週に2～3回」が10.5%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が44.5%で最も多く、次いで「ほとんどない」が15.6%、「週に2～3回」が12.7%、「週に4～5回」が8.6%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が37.9%で最も多く、次いで「まったくない」が20.6%、「ほとんどない」が18.8%、「週に2～3回」が8.4%となっている。

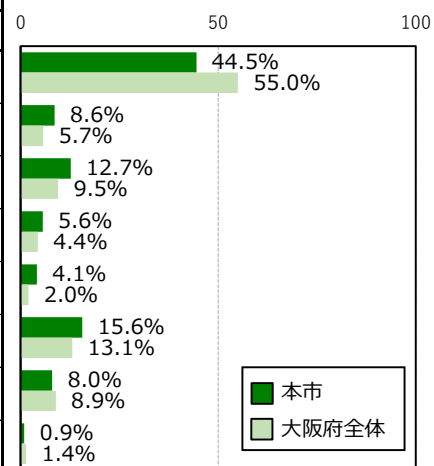
【全体】

	本市		大阪府全体	
	677名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	279名	41.2%	20,810名	48.0%
週に4～5回	47名	6.9%	2,583名	6.0%
週に2～3回	71名	10.5%	4,012名	9.3%
週に1回程度	34名	5.0%	2,155名	5.0%
月に1～2回	22名	3.2%	995名	2.3%
ほとんどない	117名	17.3%	6,794名	15.7%
まったくない	97名	14.3%	5,475名	12.6%
無回答	10名	1.5%	546名	1.3%



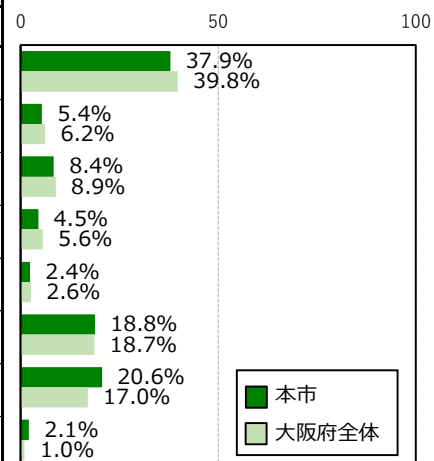
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	339名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	151名	44.5%	12,809名	55.0%
週に4～5回	29名	8.6%	1,328名	5.7%
週に2～3回	43名	12.7%	2,222名	9.5%
週に1回程度	19名	5.6%	1,023名	4.4%
月に1～2回	14名	4.1%	469名	2.0%
ほとんどない	53名	15.6%	3,042名	13.1%
まったくない	27名	8.0%	2,065名	8.9%
無回答	3名	0.9%	331名	1.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	127名	37.9%	7,962名	39.8%
週に4～5回	18名	5.4%	1,248名	6.2%
週に2～3回	28名	8.4%	1,780名	8.9%
週に1回程度	15名	4.5%	1,128名	5.6%
月に1～2回	8名	2.4%	526名	2.6%
ほとんどない	63名	18.8%	3,737名	18.7%
まったくない	69名	20.6%	3,400名	17.0%
無回答	7名	2.1%	209名	1.0%



ふだんの生活のことについて

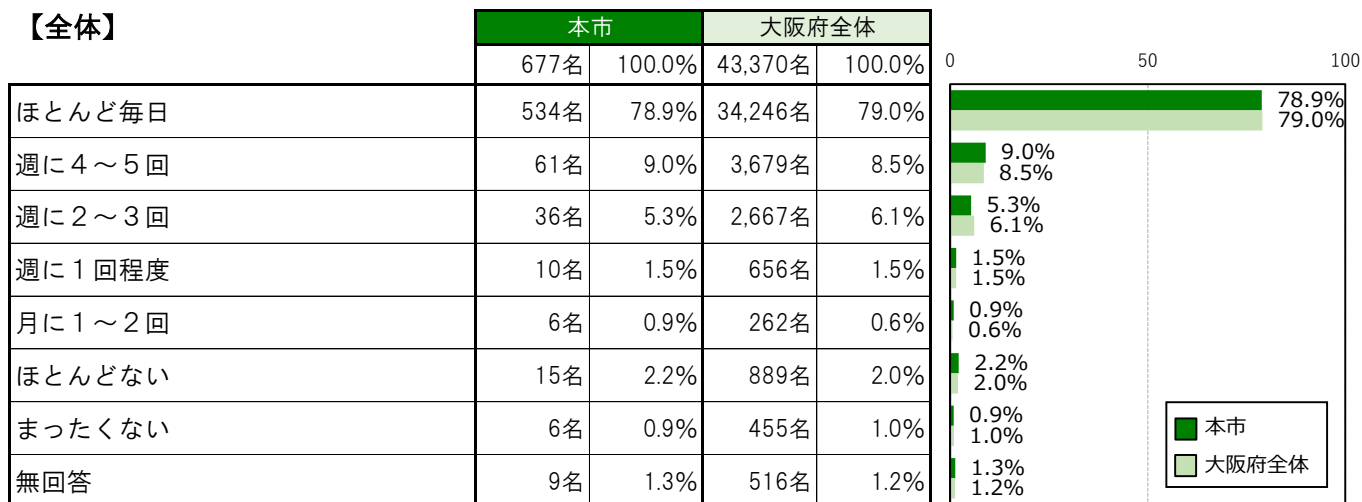
問8 保護者との関係性 ②おうちの大人のひとと一緒に夕食を食べているか

全体は、「ほとんど毎日」が78.9%で最も多く、次いで「週に4～5回」が9.0%、「週に2～3回」が5.3%、「ほとんどない」が2.2%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が84.7%で最も多く、次いで「週に4～5回」が7.7%、「週に2～3回」が3.8%、「ほとんどない」が0.9%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が73.4%で最も多く、次いで「週に4～5回」が10.1%、「週に2～3回」が6.9%、「ほとんどない」が3.3%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ③おうちの大人の人に朝、起こしてもらうか

全体は、「ほとんど毎日」が38.7%で最も多く、次いで「ほとんどない」が14.3%、「まったくない」が12.6%、「週に4～5回」が11.5%となっている。

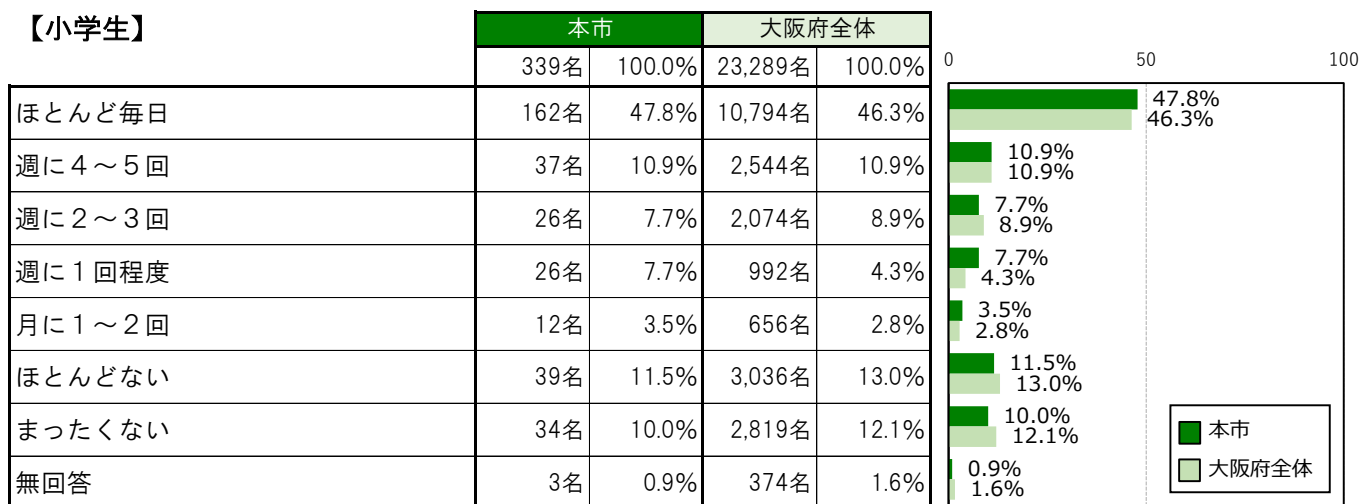
小学生は、「ほとんど毎日」が47.8%で最も多く、次いで「ほとんどない」が11.5%、「週に4～5回」が10.9%、「まったくない」が10.0%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が29.6%で最も多く、次いで「ほとんどない」が17.0%、「まったくない」が15.2%、「週に2～3回」が12.5%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問 8 保護者との関係性 ④おうちの手伝いをしているか

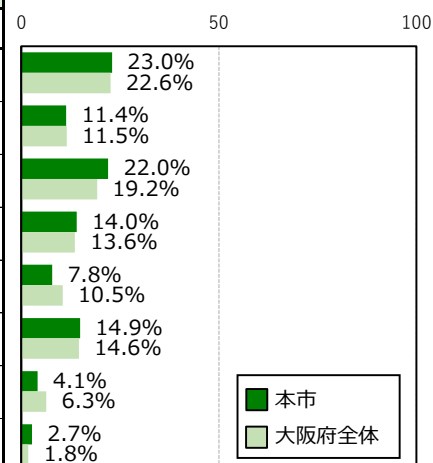
全体は、「ほとんど毎日」が23.0%で最も多く、次いで「週に2～3回」が22.0%、「ほとんどない」が14.9%、「週に1回程度」が14.0%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が26.3%で最も多く、次いで「週に2～3回」が20.1%、「週に1回程度」が14.7%、「週に4～5回」が13.3%となっている。

中学生は、「週に2～3回」が23.9%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が20.0%、「ほとんどない」が17.3%、「週に1回程度」が13.4%となっている。

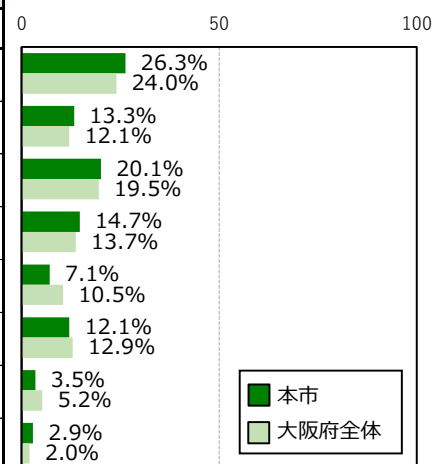
【全体】

	本市		大阪府全体	
	677名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	156名	23.0%	9,795名	22.6%
週に4～5回	77名	11.4%	5,006名	11.5%
週に2～3回	149名	22.0%	8,307名	19.2%
週に1回程度	95名	14.0%	5,879名	13.6%
月に1～2回	53名	7.8%	4,561名	10.5%
ほとんどない	101名	14.9%	6,329名	14.6%
まったくない	28名	4.1%	2,722名	6.3%
無回答	18名	2.7%	771名	1.8%



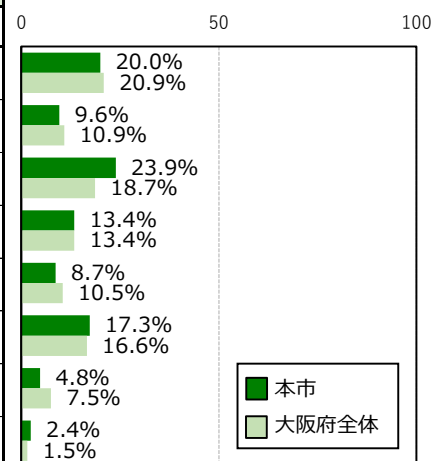
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	339名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	89名	26.3%	5,601名	24.0%
週に4～5回	45名	13.3%	2,812名	12.1%
週に2～3回	68名	20.1%	4,552名	19.5%
週に1回程度	50名	14.7%	3,186名	13.7%
月に1～2回	24名	7.1%	2,448名	10.5%
ほとんどない	41名	12.1%	3,000名	12.9%
まったくない	12名	3.5%	1,219名	5.2%
無回答	10名	2.9%	471名	2.0%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	67名	20.0%	4,171名	20.9%
週に4～5回	32名	9.6%	2,187名	10.9%
週に2～3回	80名	23.9%	3,741名	18.7%
週に1回程度	45名	13.4%	2,684名	13.4%
月に1～2回	29名	8.7%	2,103名	10.5%
ほとんどない	58名	17.3%	3,319名	16.6%
まったくない	16名	4.8%	1,494名	7.5%
無回答	8名	2.4%	291名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問 8 保護者との関係性 ⑤おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

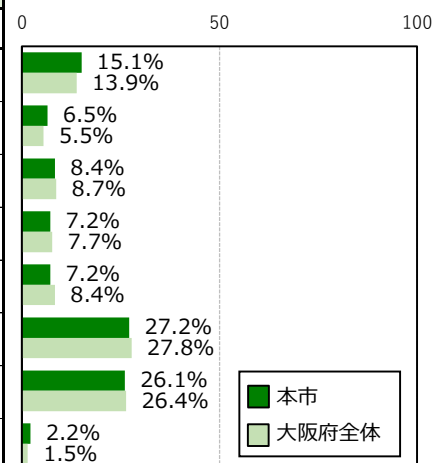
全体は、「ほとんどない」が27.2%で最も多く、次いで「まったくない」が26.1%、「ほとんど毎日」が15.1%、「週に2～3回」が8.4%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が25.4%で最も多く、次いで「ほとんどない」が21.8%、「週に2～3回」が14.2%、「週に4～5回」が10.0%となっている。

中学生は、「まったくない」が43.3%で最も多く、次いで「ほとんどない」が32.5%、「月に1～2回」が6.6%、「週に1回程度」が5.4%となっている。

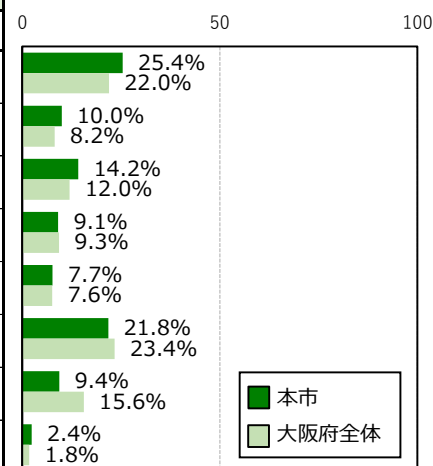
【全体】

	本市		大阪府全体	
	677名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	102名	15.1%	6,031名	13.9%
週に4～5回	44名	6.5%	2,392名	5.5%
週に2～3回	57名	8.4%	3,792名	8.7%
週に1回程度	49名	7.2%	3,336名	7.7%
月に1～2回	49名	7.2%	3,640名	8.4%
ほとんどない	184名	27.2%	12,077名	27.8%
まったくない	177名	26.1%	11,452名	26.4%
無回答	15名	2.2%	650名	1.5%



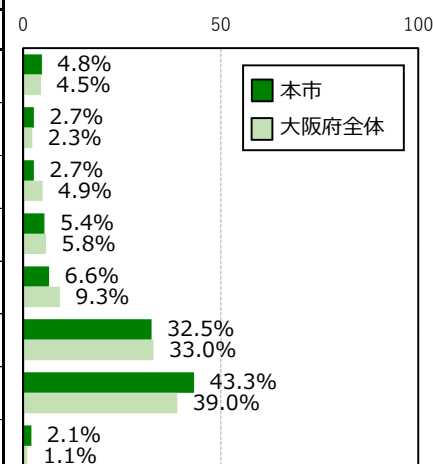
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	339名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	86名	25.4%	5,112名	22.0%
週に4～5回	34名	10.0%	1,921名	8.2%
週に2～3回	48名	14.2%	2,804名	12.0%
週に1回程度	31名	9.1%	2,176名	9.3%
月に1～2回	26名	7.7%	1,777名	7.6%
ほとんどない	74名	21.8%	5,454名	23.4%
まったくない	32名	9.4%	3,626名	15.6%
無回答	8名	2.4%	419名	1.8%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	16名	4.8%	905名	4.5%
週に4～5回	9名	2.7%	465名	2.3%
週に2～3回	9名	2.7%	983名	4.9%
週に1回程度	18名	5.4%	1,151名	5.8%
月に1～2回	22名	6.6%	1,857名	9.3%
ほとんどない	109名	32.5%	6,601名	33.0%
まったくない	145名	43.3%	7,803名	39.0%
無回答	7名	2.1%	225名	1.1%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑥おうちの大人のひとと学校でのできごとについて話すか

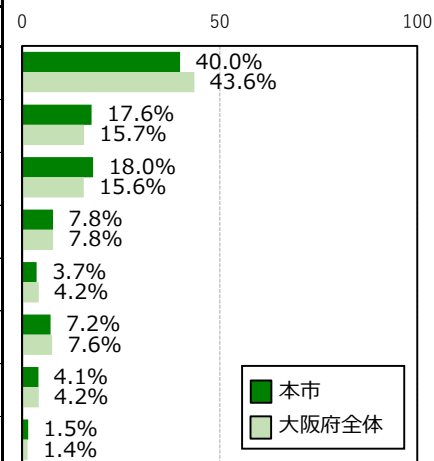
全体は、「ほとんど毎日」が40.0%で最も多く、次いで「週に2～3回」が18.0%、「週に4～5回」が17.6%、「週に1回程度」が7.8%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が49.0%で最も多く、次いで「週に4～5回」が19.8%、「週に2～3回」が14.5%、「週に1回程度」が6.5%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が31.0%で最も多く、次いで「週に2～3回」が21.5%、「週に4～5回」が15.2%、「週に1回程度」が9.3%となっている。

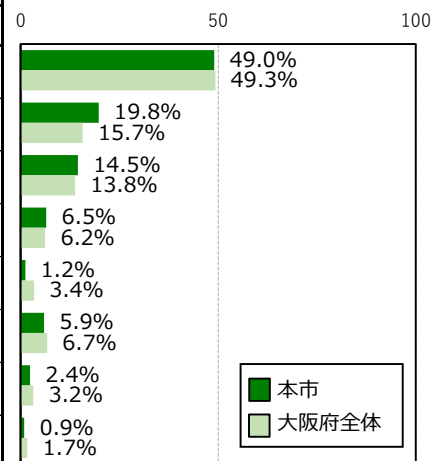
【全体】

	本市		大阪府全体	
	677名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	271名	40.0%	18,891名	43.6%
週に4～5回	119名	17.6%	6,809名	15.7%
週に2～3回	122名	18.0%	6,773名	15.6%
週に1回程度	53名	7.8%	3,386名	7.8%
月に1～2回	25名	3.7%	1,801名	4.2%
ほとんどない	49名	7.2%	3,283名	7.6%
まったくない	28名	4.1%	1,802名	4.2%
無回答	10名	1.5%	625名	1.4%



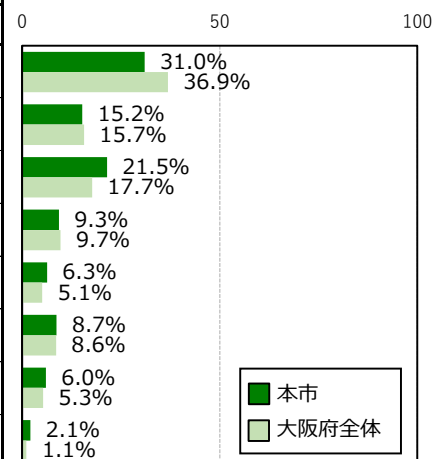
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	339名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	166名	49.0%	11,483名	49.3%
週に4～5回	67名	19.8%	3,660名	15.7%
週に2～3回	49名	14.5%	3,225名	13.8%
週に1回程度	22名	6.5%	1,447名	6.2%
月に1～2回	4名	1.2%	783名	3.4%
ほとんどない	20名	5.9%	1,558名	6.7%
まったくない	8名	2.4%	739名	3.2%
無回答	3名	0.9%	394名	1.7%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	104名	31.0%	7,374名	36.9%
週に4～5回	51名	15.2%	3,138名	15.7%
週に2～3回	72名	21.5%	3,533名	17.7%
週に1回程度	31名	9.3%	1,933名	9.7%
月に1～2回	21名	6.3%	1,015名	5.1%
ほとんどない	29名	8.7%	1,716名	8.6%
まったくない	20名	6.0%	1,056名	5.3%
無回答	7名	2.1%	225名	1.1%



ふだんの生活のことについて

問 8 保護者との関係性 ⑦おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりするか

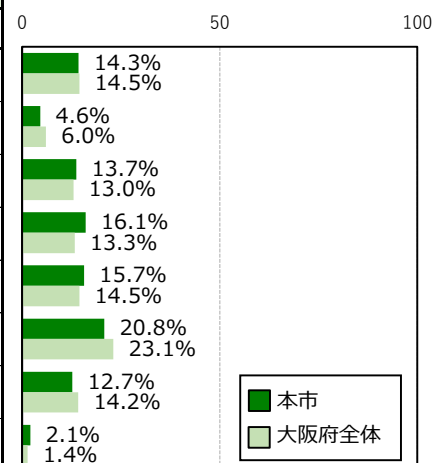
全体は、「ほとんどない」が20.8%で最も多く、次いで「週に1回程度」が16.1%、「月に1～2回」が15.7%、「ほとんど毎日」が14.3%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が22.4%で最も多く、次いで「週に2～3回」が19.5%、「週に1回程度」が18.9%、「ほとんどない」が15.3%となっている。

中学生は、「ほとんどない」が26.0%で最も多く、次いで「まったくない」が21.5%、「月に1～2回」が19.1%、「週に1回程度」が13.1%となっている。

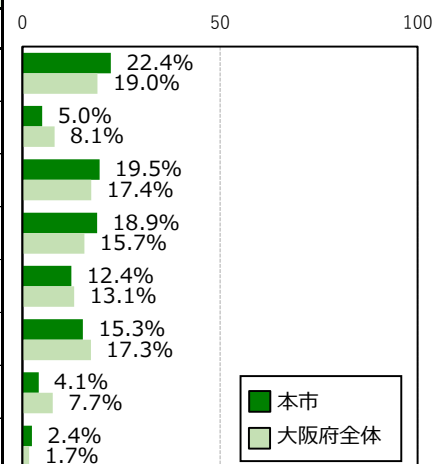
【全体】

	本市		大阪府全体	
	677名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	97名	14.3%	6,287名	14.5%
週に4～5回	31名	4.6%	2,582名	6.0%
週に2～3回	93名	13.7%	5,629名	13.0%
週に1回程度	109名	16.1%	5,782名	13.3%
月に1～2回	106名	15.7%	6,304名	14.5%
ほとんどない	141名	20.8%	10,004名	23.1%
まったくない	86名	12.7%	6,164名	14.2%
無回答	14名	2.1%	618名	1.4%



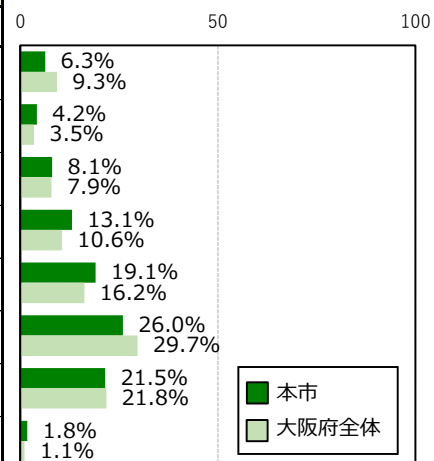
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	339名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	76名	22.4%	4,417名	19.0%
週に4～5回	17名	5.0%	1,880名	8.1%
週に2～3回	66名	19.5%	4,047名	17.4%
週に1回程度	64名	18.9%	3,656名	15.7%
月に1～2回	42名	12.4%	3,054名	13.1%
ほとんどない	52名	15.3%	4,038名	17.3%
まったくない	14名	4.1%	1,801名	7.7%
無回答	8名	2.4%	396名	1.7%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	21名	6.3%	1,860名	9.3%
週に4～5回	14名	4.2%	693名	3.5%
週に2～3回	27名	8.1%	1,571名	7.9%
週に1回程度	44名	13.1%	2,114名	10.6%
月に1～2回	64名	19.1%	3,240名	16.2%
ほとんどない	87名	26.0%	5,944名	29.7%
まったくない	72名	21.5%	4,352名	21.8%
無回答	6名	1.8%	216名	1.1%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑧おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話すか

全体は、「週に2～3回」が20.5%で最も多く、次いで「ほとんどない」が18.9%、「週に1回程度」が15.2%、「ほとんど毎日」が14.0%となっている。

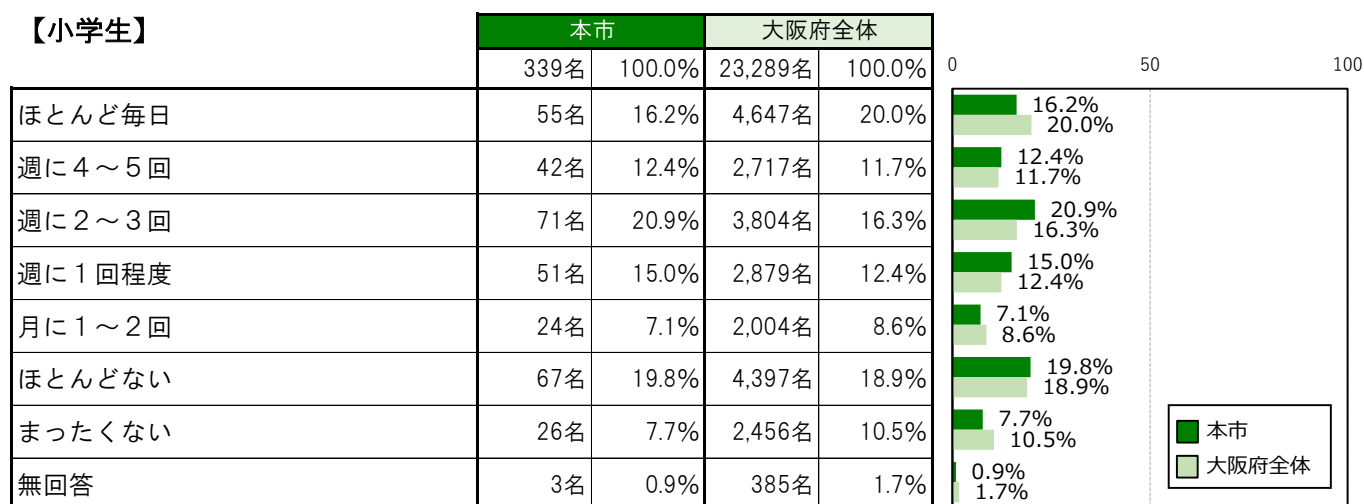
小学生は、「週に2～3回」が20.9%で最も多く、次いで「ほとんどない」が19.8%、「ほとんど毎日」が16.2%、「週に1回程度」が15.0%となっている。

中学生は、「週に2～3回」が19.7%で最も多く、次いで「ほとんどない」が18.2%、「週に1回程度」が15.5%、「まったくない」が12.8%となっている。

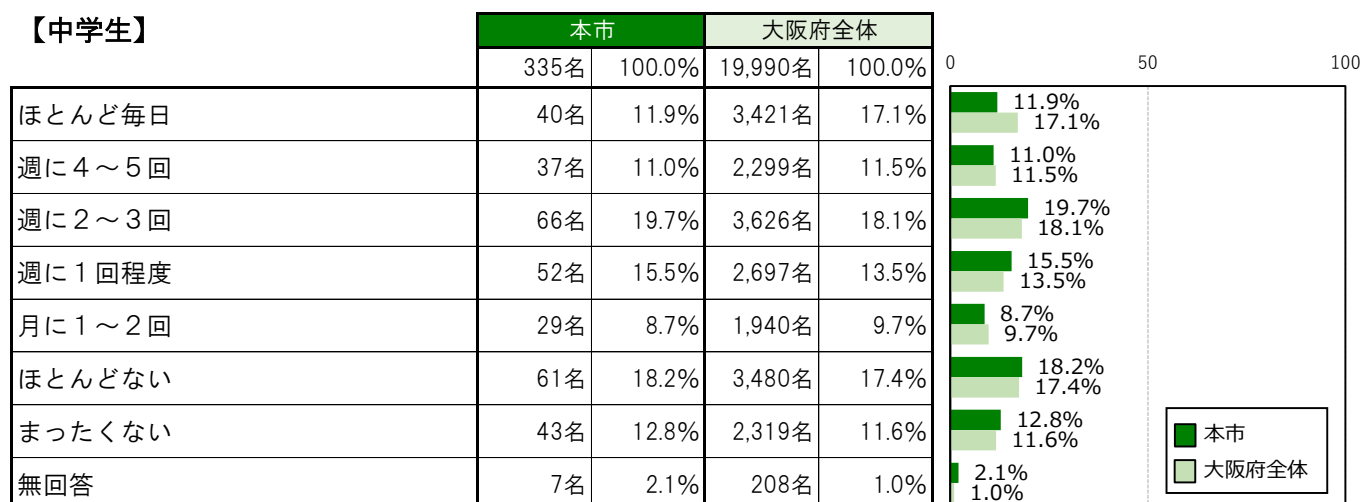
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問 8 保護者との関係性 ⑨おうちの大人のひとと文化活動（図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど）をするか

全体は、「ほとんどない」が42.1%で最も多く、次いで「まったくない」が23.9%、「月に1～2回」が21.6%、「週に1回程度」が5.3%となっている。

小学生は、「ほとんどない」が43.1%で最も多く、次いで「月に1～2回」が24.8%、「まったくない」が16.8%、「週に1回程度」が7.4%となっている。

中学生は、「ほとんどない」が41.2%で最も多く、次いで「まったくない」が31.3%、「月に1～2回」が18.5%、「週に1回程度」が3.0%となっている。

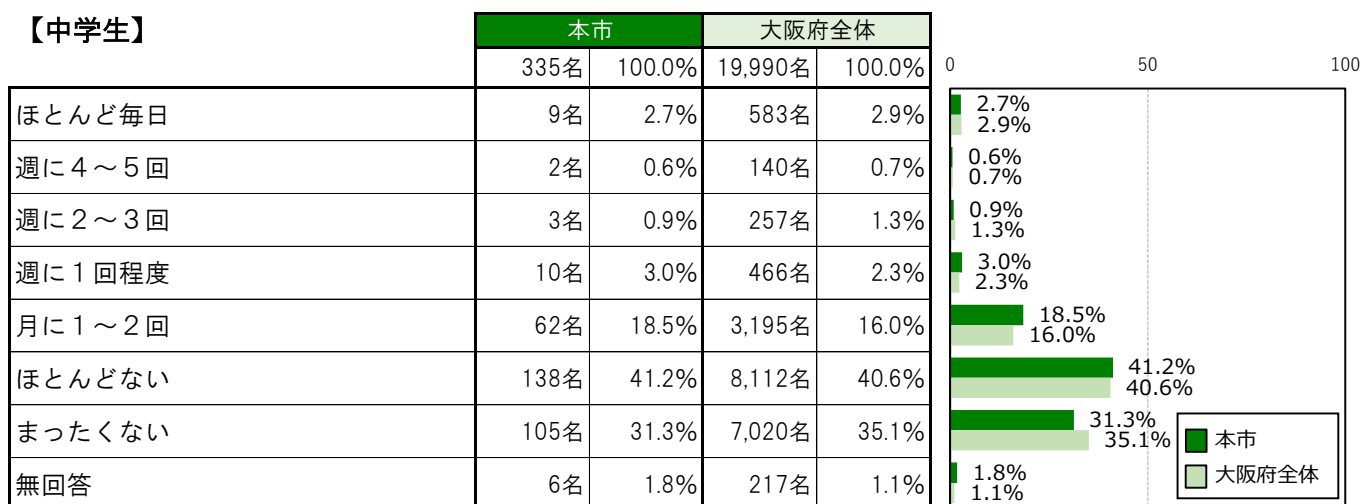
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

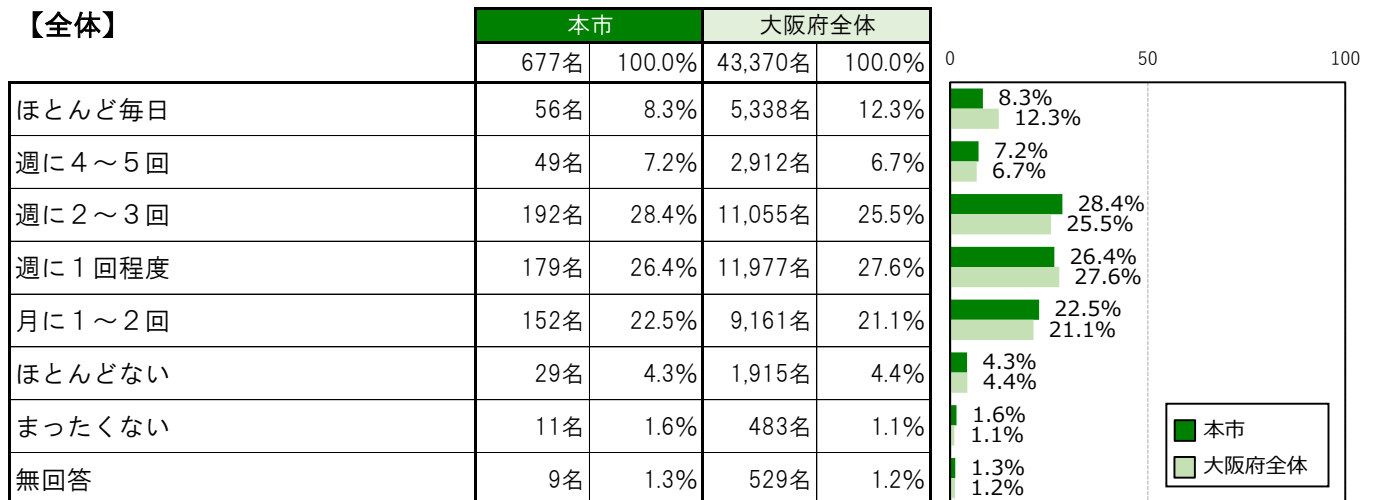
問 8 保護者との関係性 ⑩おうちの大人の人と一緒に外出するか（散歩する・買い物に出かける・外食をするなど）

全体は、「週に2～3回」が28.4%で最も多く、次いで「週に1回程度」が26.4%、「月に1～2回」が22.5%、「ほとんど毎日」が8.3%となっている。

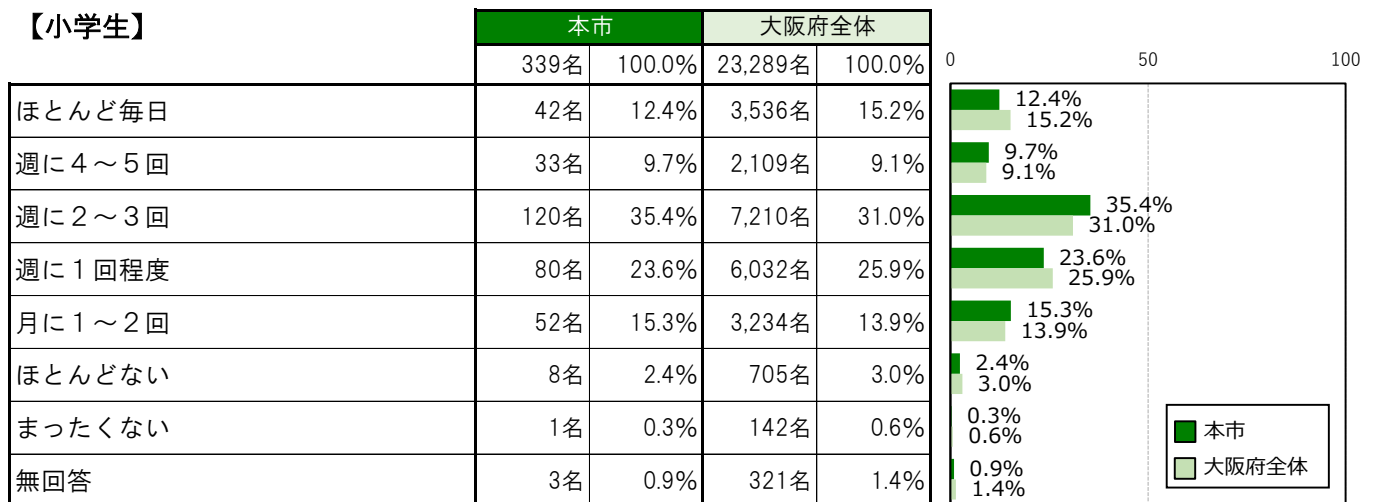
小学生は、「週に2～3回」が35.4%で最も多く、次いで「週に1回程度」が23.6%、「月に1～2回」が15.3%、「ほとんど毎日」が12.4%となっている。

中学生は、「週に1回程度」、「月に1～2回」がそれぞれ29.6%で最も多く、次いで「週に2～3回」が20.9%、「ほとんどない」が6.3%、「週に4～5回」が4.8%となっている。

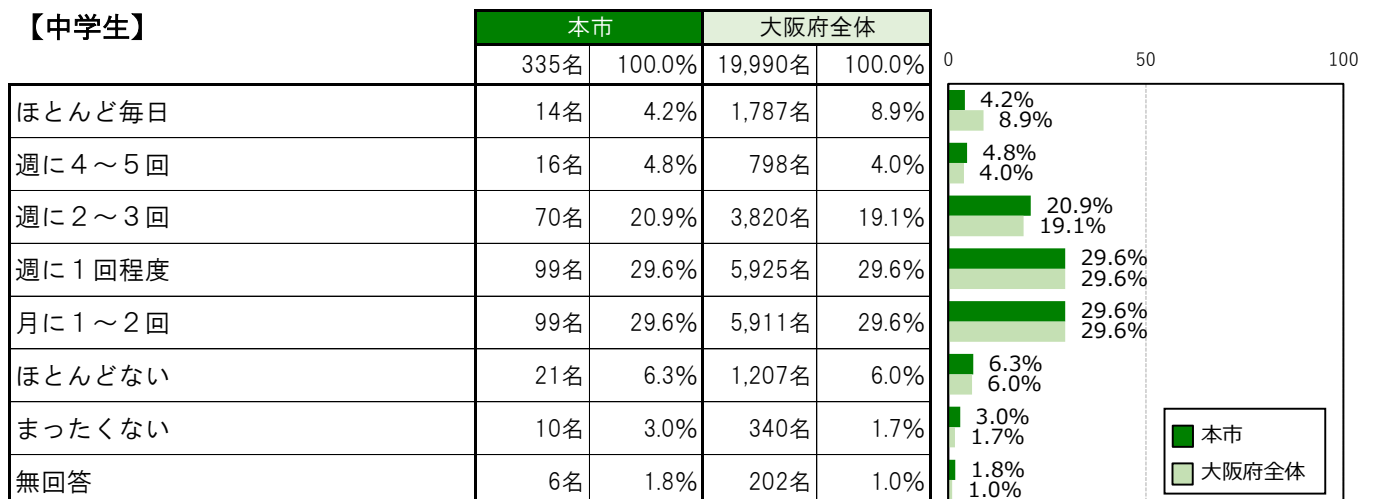
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問9 毎日の生活で楽しいこと

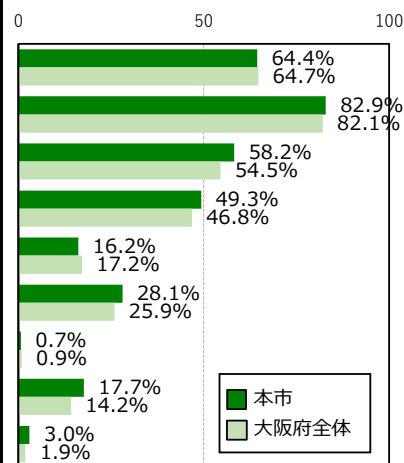
全体は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が82.9%で最も多く、次いで「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が64.4%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が58.2%、「ひとりで過ごしているとき」が49.3%となっている。

小学生は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が82.9%で最も多く、次いで「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が74.9%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が56.0%、「塾や習いごとで過ごしているとき」が39.5%となっている。

中学生は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が83.0%で最も多く、次いで「ひとりで過ごしているとき」が60.9%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が60.6%、「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が53.4%となっている。

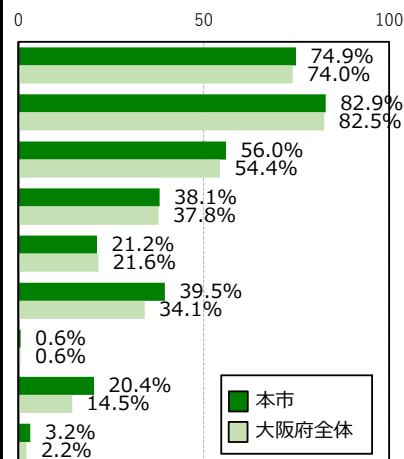
【全体】

	本市		大阪府全体	
	677名	100.0%	43,370名	100.0%
おうちの人と一緒に過ごしているとき	436名	64.4%	28,070名	64.7%
ともだちと一緒に過ごしているとき	561名	82.9%	35,599名	82.1%
学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき	394名	58.2%	23,630名	54.5%
ひとりで過ごしているとき	334名	49.3%	20,290名	46.8%
今、住んでいる地域の行事に参加していると	110名	16.2%	7,469名	17.2%
塾や習いごとで過ごしているとき	190名	28.1%	11,215名	25.9%
特に楽しいと思うときはない	5名	0.7%	407名	0.9%
その他	120名	17.7%	6,162名	14.2%
無回答	20名	3.0%	829名	1.9%



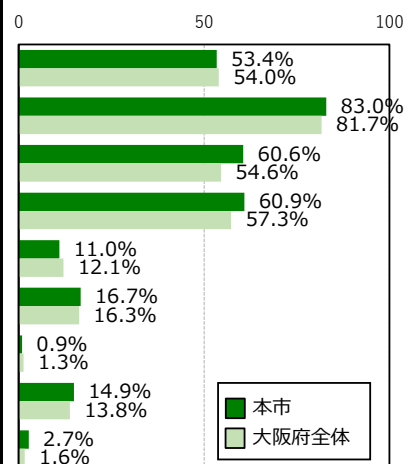
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	339名	100.0%	23,289名	100.0%
おうちの人と一緒に過ごしているとき	254名	74.9%	17,231名	74.0%
ともだちと一緒に過ごしているとき	281名	82.9%	19,212名	82.5%
学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき	190名	56.0%	12,660名	54.4%
ひとりで過ごしているとき	129名	38.1%	8,805名	37.8%
今、住んでいる地域の行事に参加していると	72名	21.2%	5,032名	21.6%
塾や習いごとで過ごしているとき	134名	39.5%	7,944名	34.1%
特に楽しいと思うときはない	2名	0.6%	143名	0.6%
その他	69名	20.4%	3,380名	14.5%
無回答	11名	3.2%	501名	2.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	19,990名	100.0%
おうちの人と一緒に過ごしているとき	179名	53.4%	10,789名	54.0%
ともだちと一緒に過ごしているとき	278名	83.0%	16,324名	81.7%
学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき	203名	60.6%	10,924名	54.6%
ひとりで過ごしているとき	204名	60.9%	11,451名	57.3%
今、住んでいる地域の行事に参加していると	37名	11.0%	2,426名	12.1%
塾や習いごとで過ごしているとき	56名	16.7%	3,256名	16.3%
特に楽しいと思うときはない	3名	0.9%	264名	1.3%
その他	50名	14.9%	2,768名	13.8%
無回答	9名	2.7%	319名	1.6%



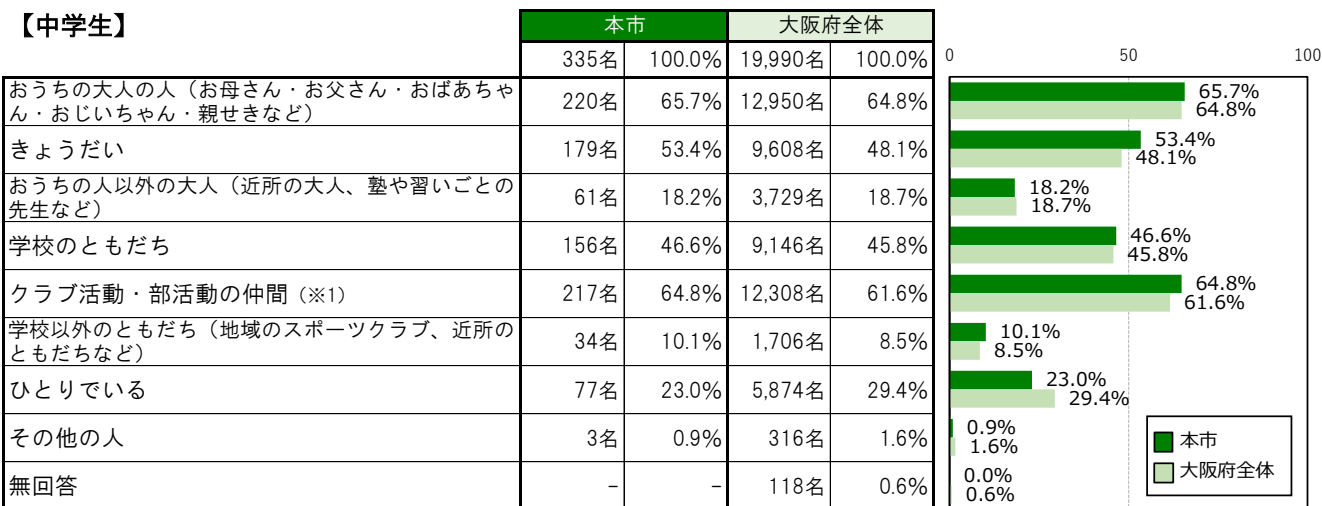
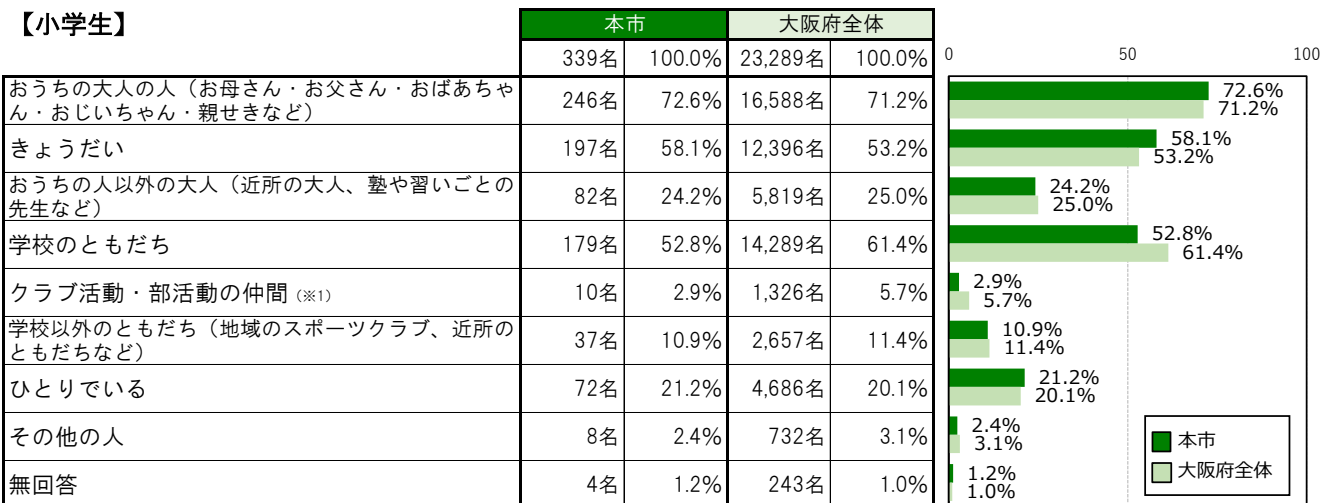
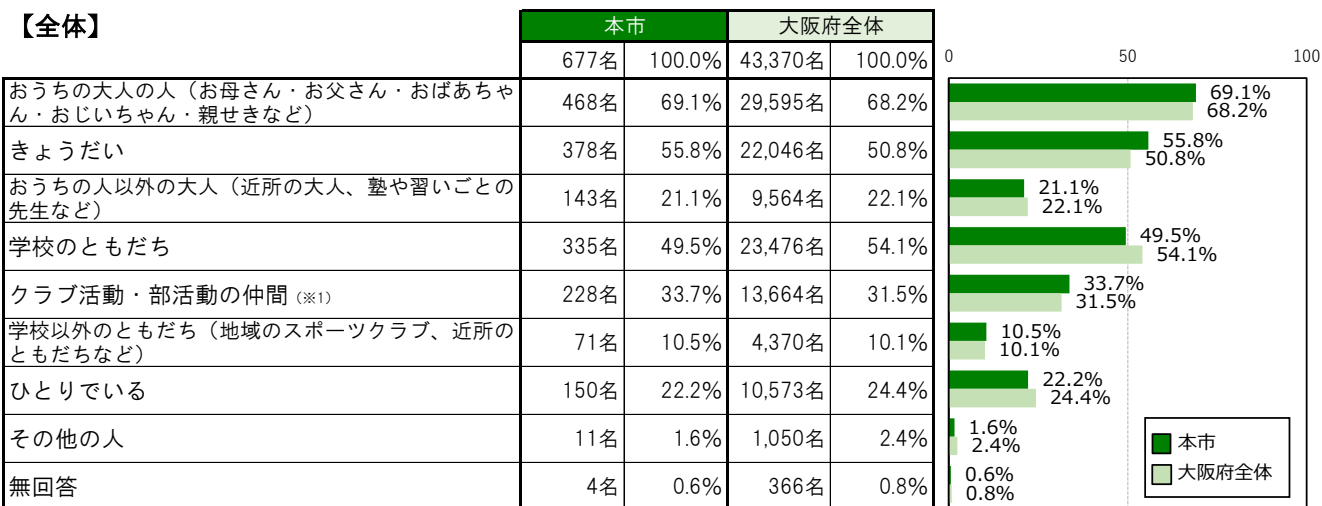
ふだんの生活のことについて

問10 放課後を一緒に過ごす人

全体は、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が69.1%で最も多く、次いで「きょうだい」が55.8%、「学校のともだち」が49.5%、「クラブ活動・部活動の仲間」が33.7%となっている。

小学生は、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が72.6%で最も多く、次いで「きょうだい」が58.1%、「学校のともだち」が52.8%、「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」が24.2%となっている。

中学生は、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が65.7%で最も多く、次いで「クラブ活動・部活動の仲間」が64.8%、「きょうだい」が53.4%、「学校のともだち」が46.6%となっている。



※1 2016年調査では「クラブ活動の仲間」

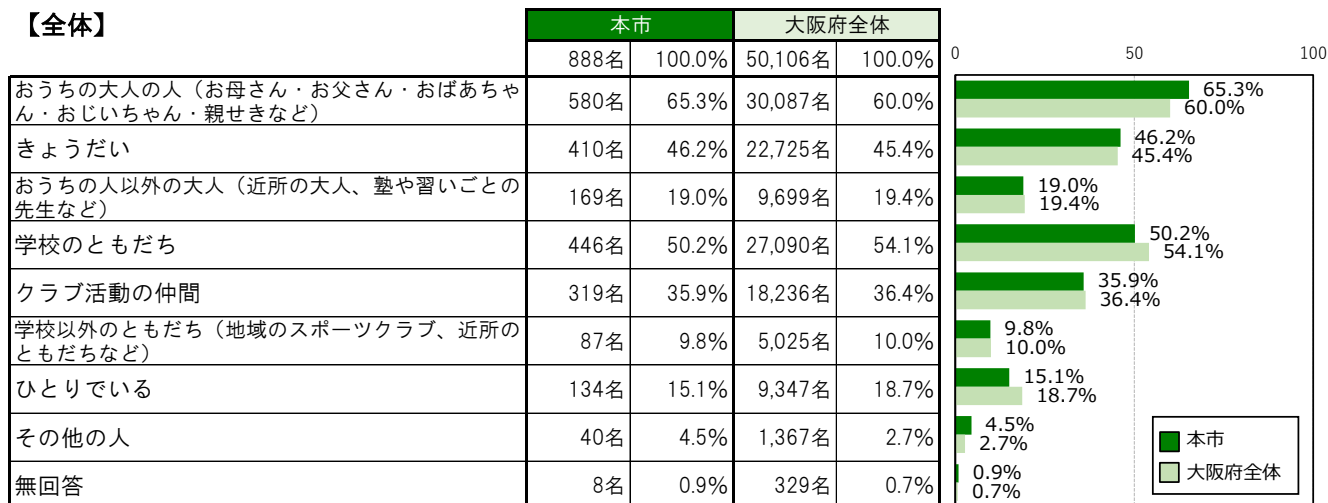
●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、全体は、「きょうだい」が9.6ポイント、「ひとりでいる」が7.1ポイント、それぞれ高くなっている。

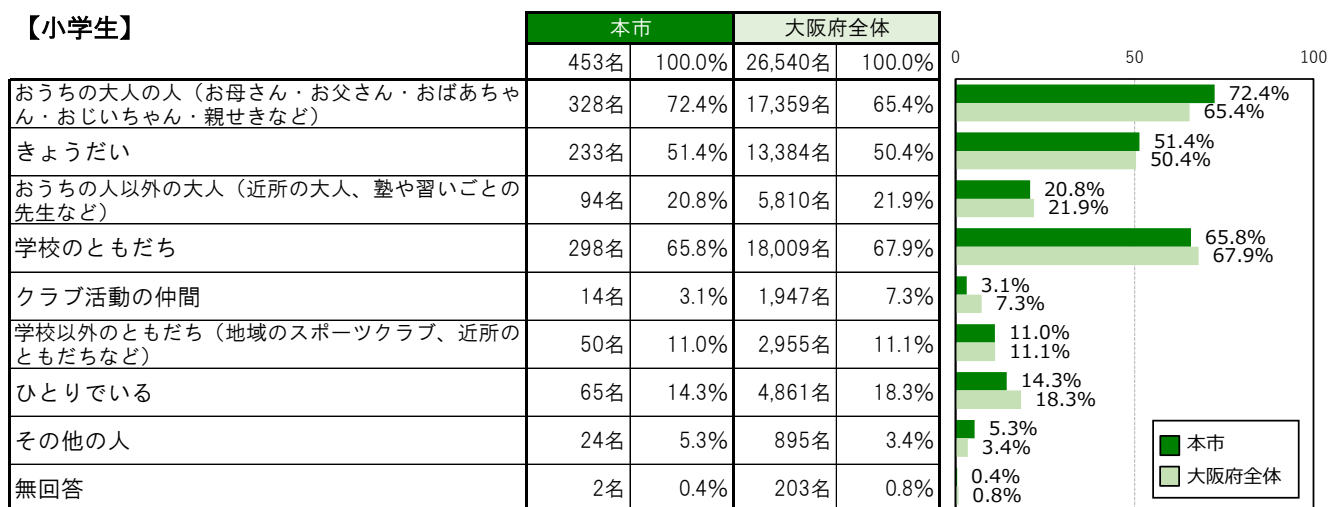
小学生は、「学校のともだち」が13.0ポイント低くなっている。

中学生は、「きょうだい」が12.7ポイント、「学校のともだち」が12.6ポイント高くなっているが、「クラブ活動の仲間」が5.3ポイント低くなっている。

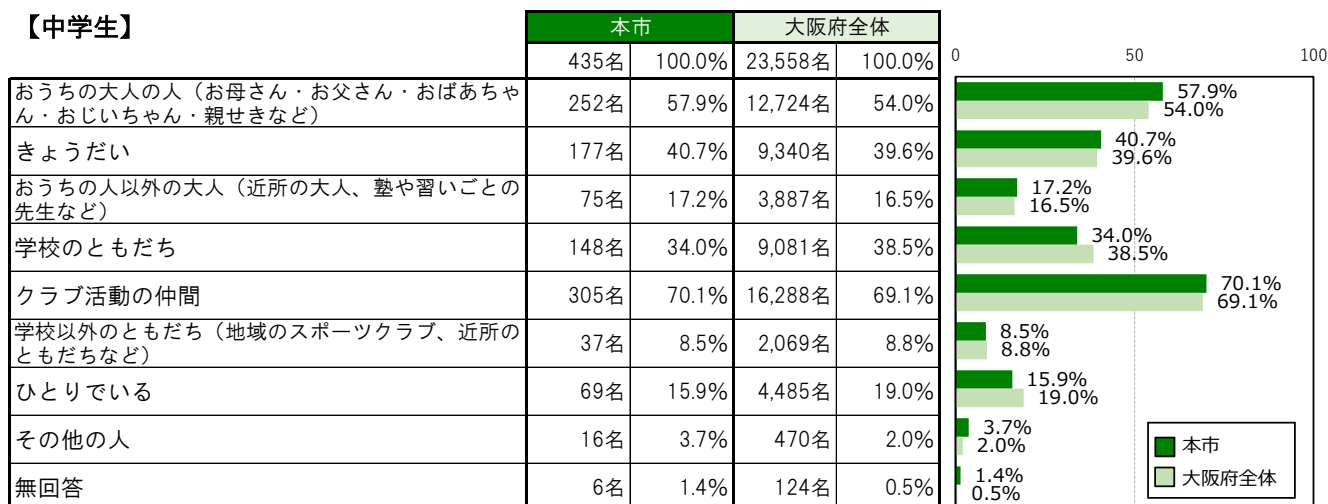
【全体】



【小学生】



【中学生】



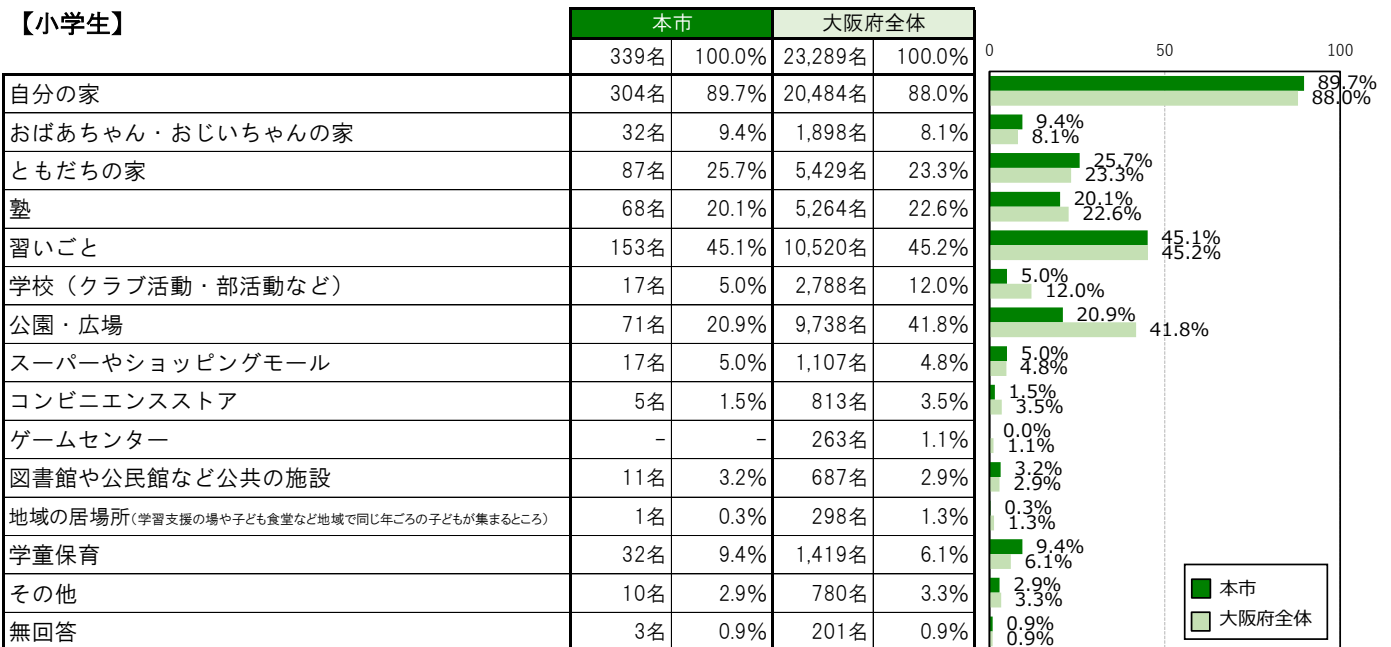
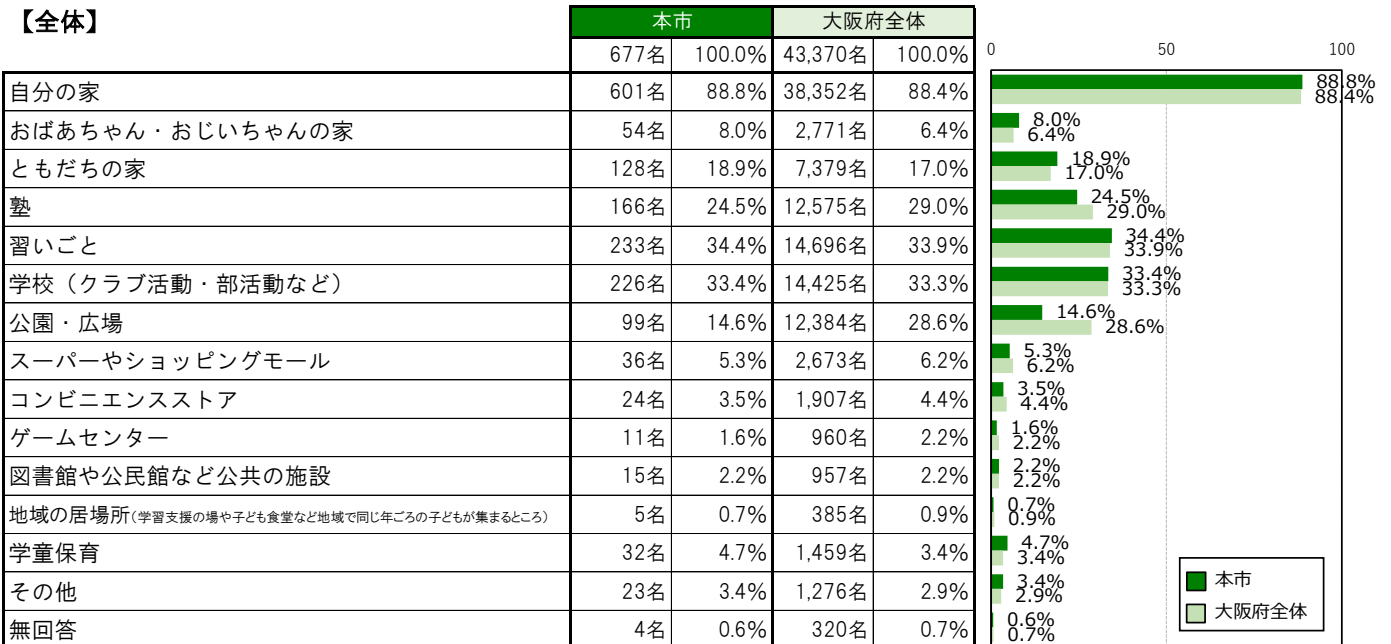
ふだんの生活のことについて

問11 放課後を過ごす場所

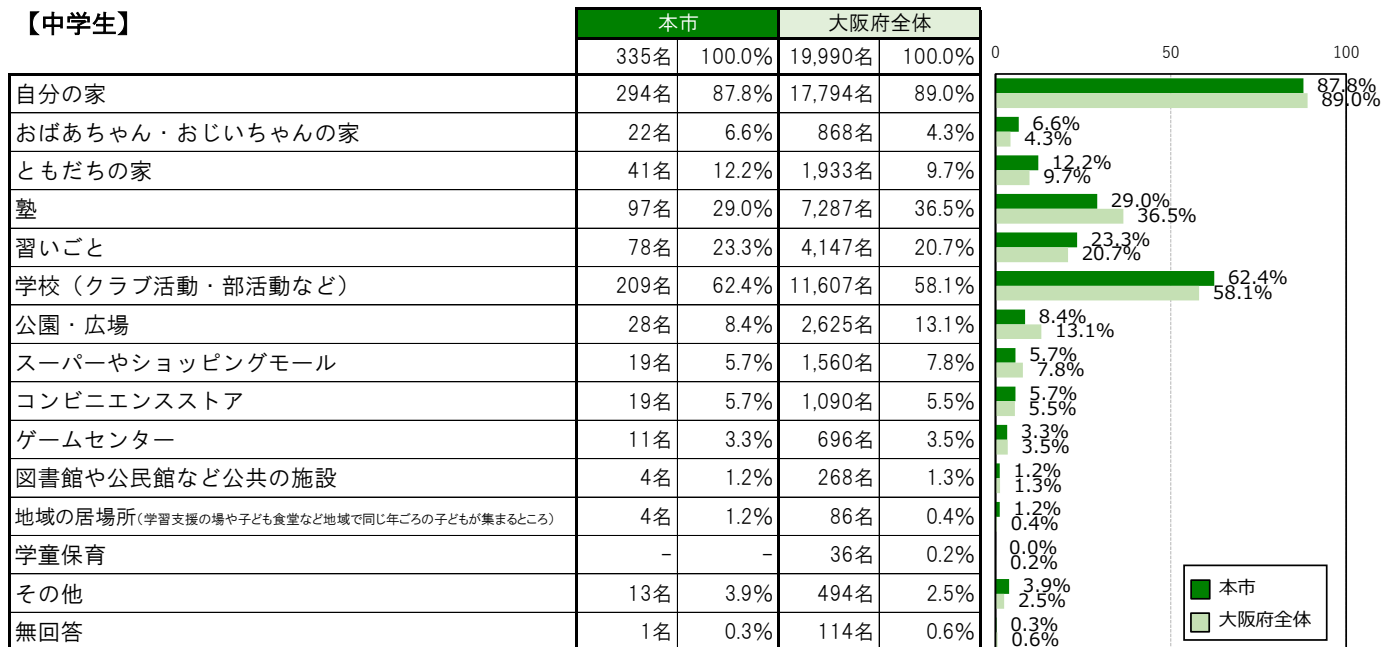
全体は、「自分の家」が88.8%で最も多く、次いで「習いごと」が34.4%、「学校（クラブ活動・部活動など）」が33.4%、「塾」が24.5%となっている。

小学生は、「自分の家」が89.7%で最も多く、次いで「習いごと」が45.1%、「ともだちの家」が25.7%、「公園・広場」が20.9%となっている。

中学生は、「自分の家」が87.8%で最も多く、次いで「学校（クラブ活動・部活動など）」が62.4%、「塾」が29.0%、「習いごと」が23.3%となっている。



【中学生】



ふだんの生活のことについて

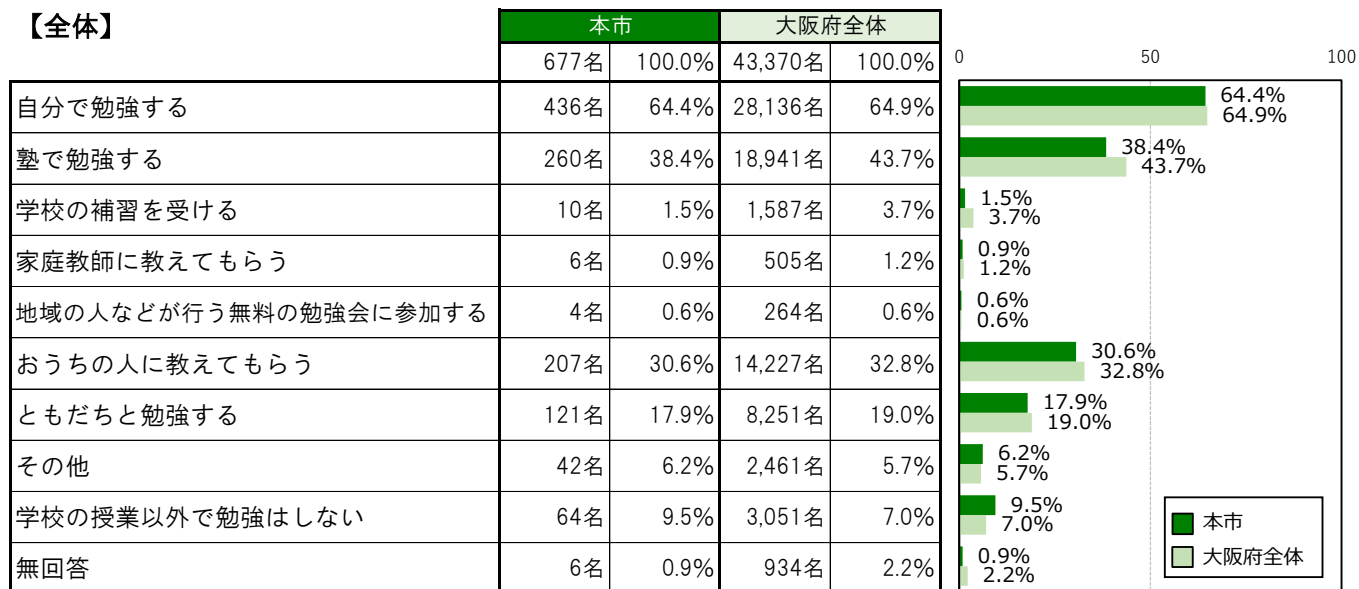
問12 授業以外の勉強状況

全体は、「自分で勉強する」が64.4%で最も多く、次いで「塾で勉強する」が38.4%、「おうちの人に教えてもらう」が30.6%、「ともだちと勉強する」が17.9%となっている。

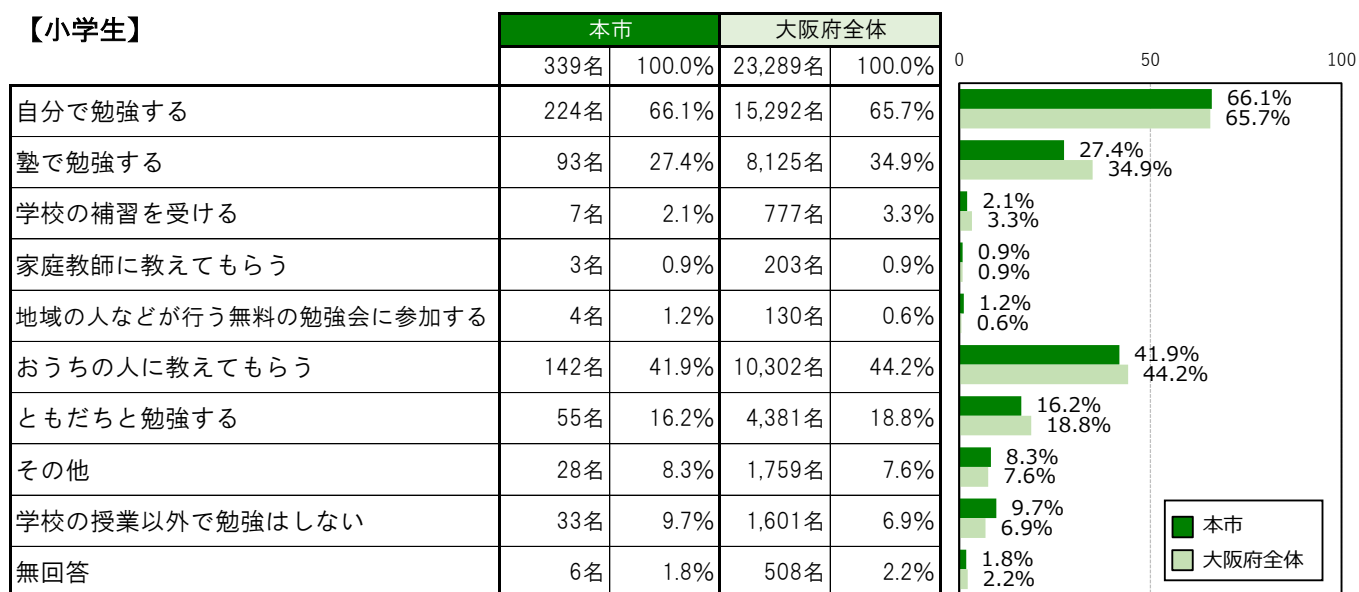
小学生は、「自分で勉強する」が66.1%で最も多く、次いで「おうちの人に教えてもらう」が41.9%、「塾で勉強する」が27.4%、「ともだちと勉強する」が16.2%となっている。

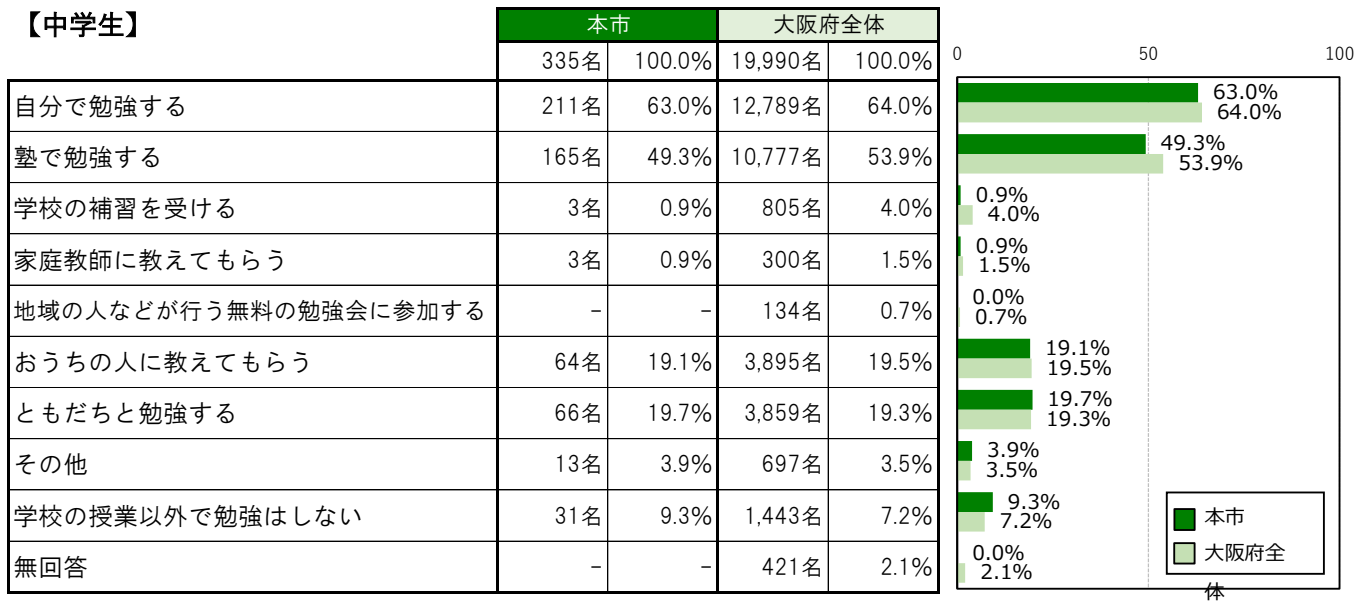
中学生は、「自分で勉強する」が63.0%で最も多く、次いで「塾で勉強する」が49.3%、「ともだちと勉強する」が19.7%、「おうちの人に教えてもらう」が19.1%となっている。

【全体】



【小学生】





ふだんの生活のことについて

問13 授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）

全体は、「30分以上、1時間より少ない」が24.8%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が22.7%、「30分より少ない」が20.1%、「まったくしない」が12.6%となっている。

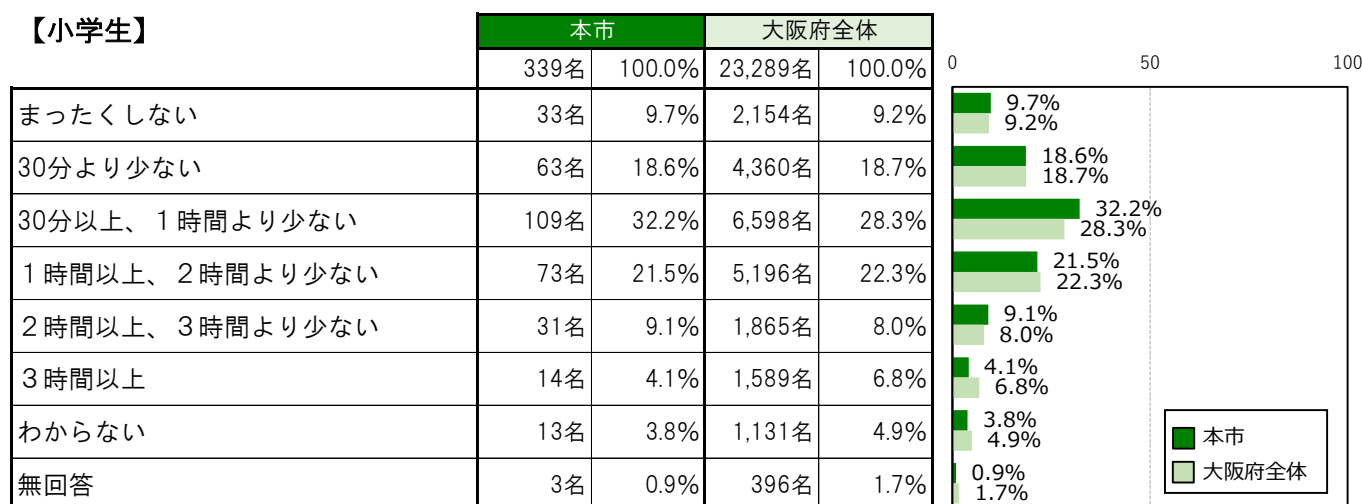
小学生は、「30分以上、1時間より少ない」が32.2%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が21.5%、「30分より少ない」が18.6%、「まったくしない」が9.7%となっている。

中学生は、「1時間以上、2時間より少ない」が23.6%で最も多く、次いで「30分より少ない」が21.8%、「30分以上、1時間より少ない」が17.3%、「まったくしない」が15.5%となっている。

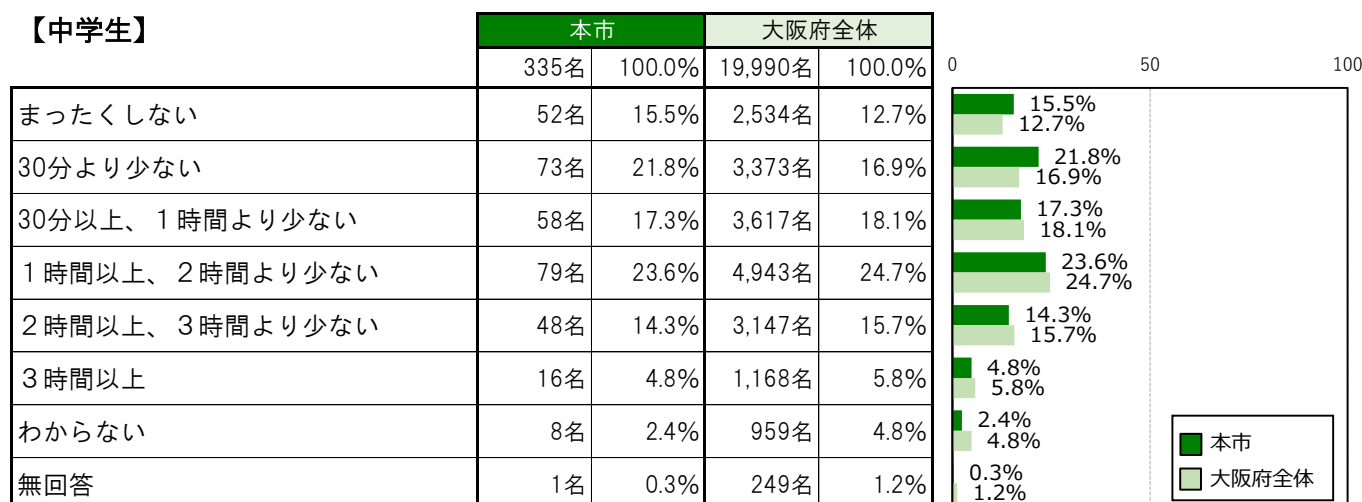
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

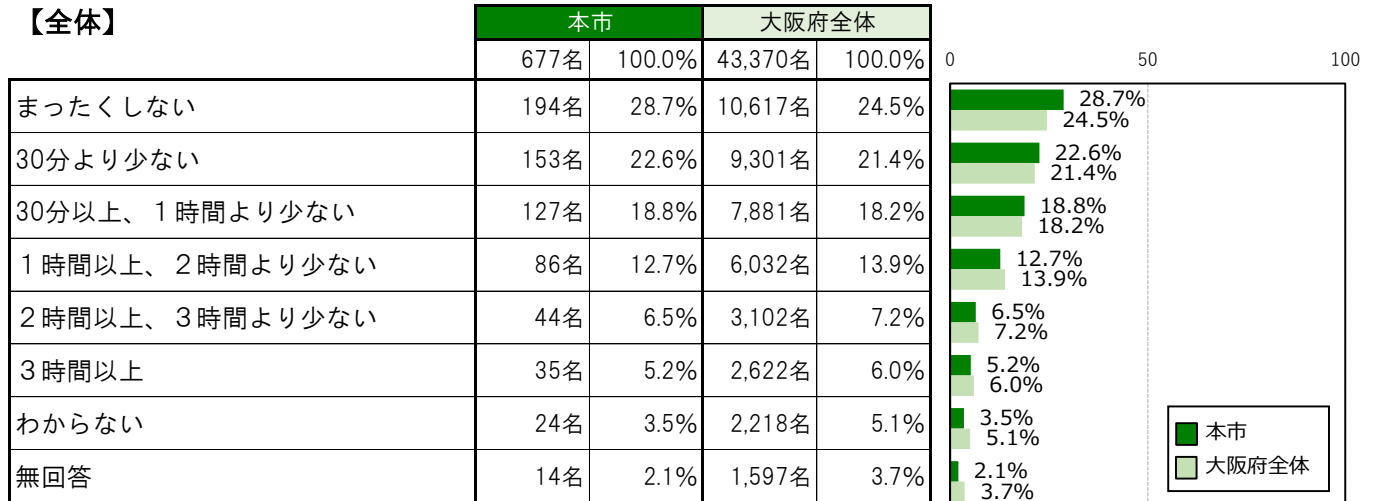
問13 授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）

全体は、「まったくしない」が28.7%で最も多く、次いで「30分より少ない」が22.6%、「30分以上、1時間より少ない」が18.8%、「1時間以上、2時間より少ない」が12.7%となっている。

小学生は、「まったくしない」が29.2%で最も多く、次いで「30分より少ない」が21.8%、「30分以上、1時間より少ない」が20.6%、「1時間以上、2時間より少ない」が11.5%となっている。

中学生は、「まったくしない」が28.4%で最も多く、次いで「30分より少ない」が23.3%、「30分以上、1時間より少ない」が16.4%、「1時間以上、2時間より少ない」が14.0%となっている。

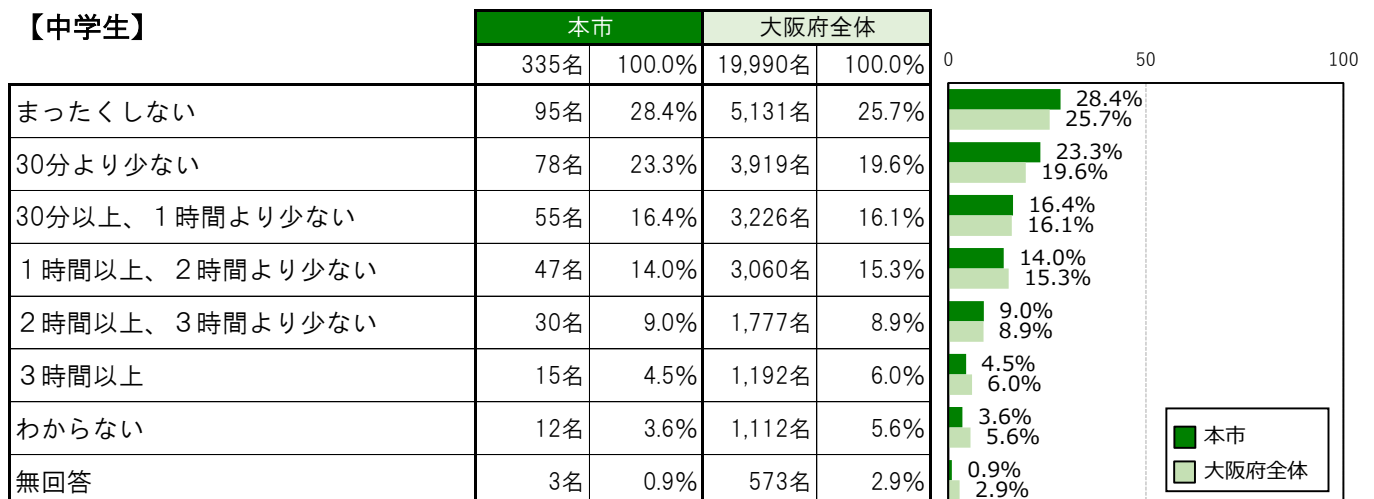
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問14（１）学校の勉強で気持ちに近いもの

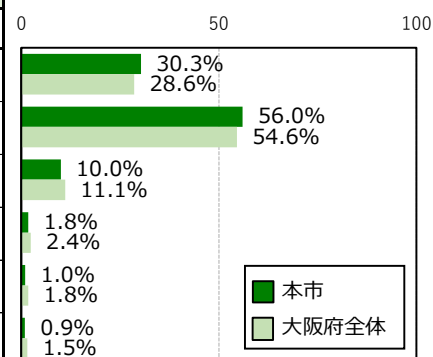
全体は、「だいたいわかる」が56.0%で最も多く、次いで「よくわかる」が30.3%、「あまりわからない」が10.0%、「ほとんどわからない」が1.8%となっている。

小学生は、「だいたいわかる」が49.0%で最も多く、次いで「よくわかる」が40.1%、「あまりわからない」が8.0%、「ほとんどわからない」が1.5%となっている。

中学生は、「だいたいわかる」が63.0%で最も多く、次いで「よくわかる」が20.3%、「あまりわからない」が12.2%、「ほとんどわからない」が2.1%となっている。

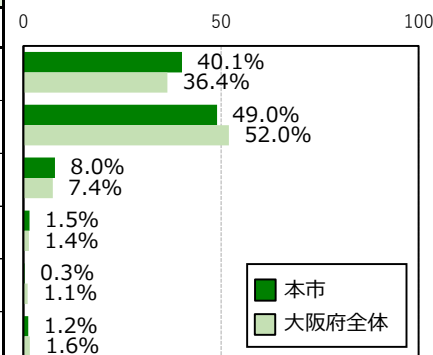
【全体】

	本市		大阪府全体	
	677名	100.0%	43,370名	100.0%
よくわかる	205名	30.3%	12,407名	28.6%
だいたいわかる	379名	56.0%	23,680名	54.6%
あまりわからない	68名	10.0%	4,834名	11.1%
ほとんどわからない	12名	1.8%	1,047名	2.4%
わからない	7名	1.0%	762名	1.8%
無回答	6名	0.9%	640名	1.5%



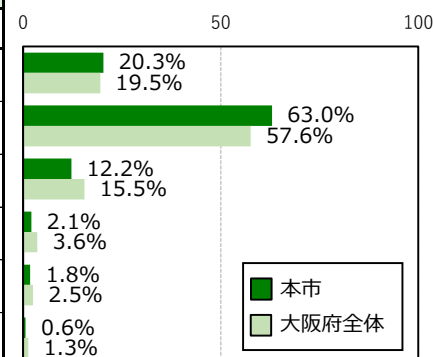
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	339名	100.0%	23,289名	100.0%
よくわかる	136名	40.1%	8,481名	36.4%
だいたいわかる	166名	49.0%	12,116名	52.0%
あまりわからない	27名	8.0%	1,721名	7.4%
ほとんどわからない	5名	1.5%	331名	1.4%
わからない	1名	0.3%	258名	1.1%
無回答	4名	1.2%	382名	1.6%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	19,990名	100.0%
よくわかる	68名	20.3%	3,902名	19.5%
だいたいわかる	211名	63.0%	11,516名	57.6%
あまりわからない	41名	12.2%	3,103名	15.5%
ほとんどわからない	7名	2.1%	715名	3.6%
わからない	6名	1.8%	500名	2.5%
無回答	2名	0.6%	254名	1.3%



ふだんの生活のことについて

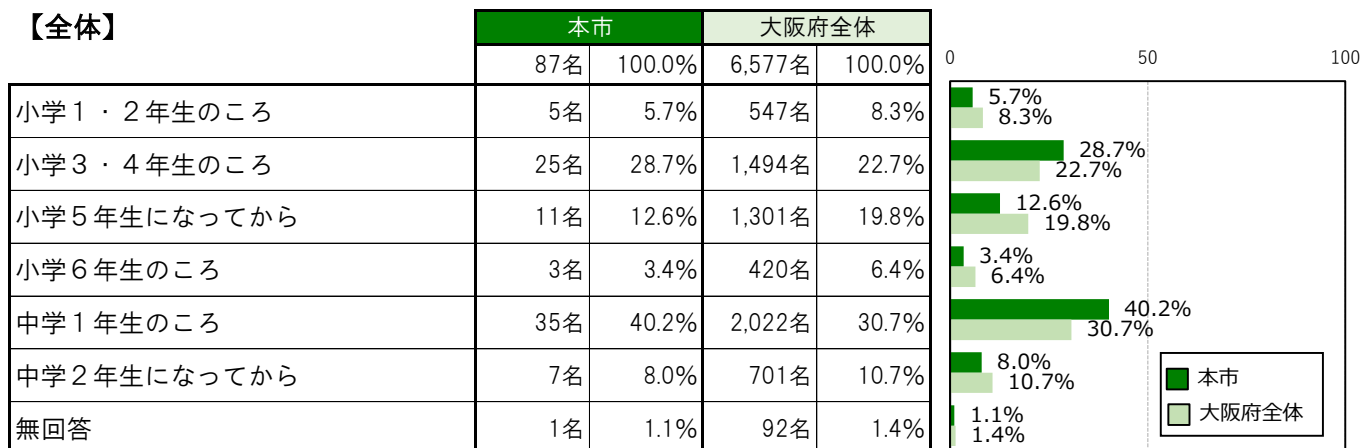
問14（２）授業がわからなくなった時期

全体は、「中学１年生のころ」が40.2%で最も多く、次いで「小学３・４年生のころ」が28.7%、「小学５年生になってから」が12.6%、「中学２年生になってから」が8.0%となっている。

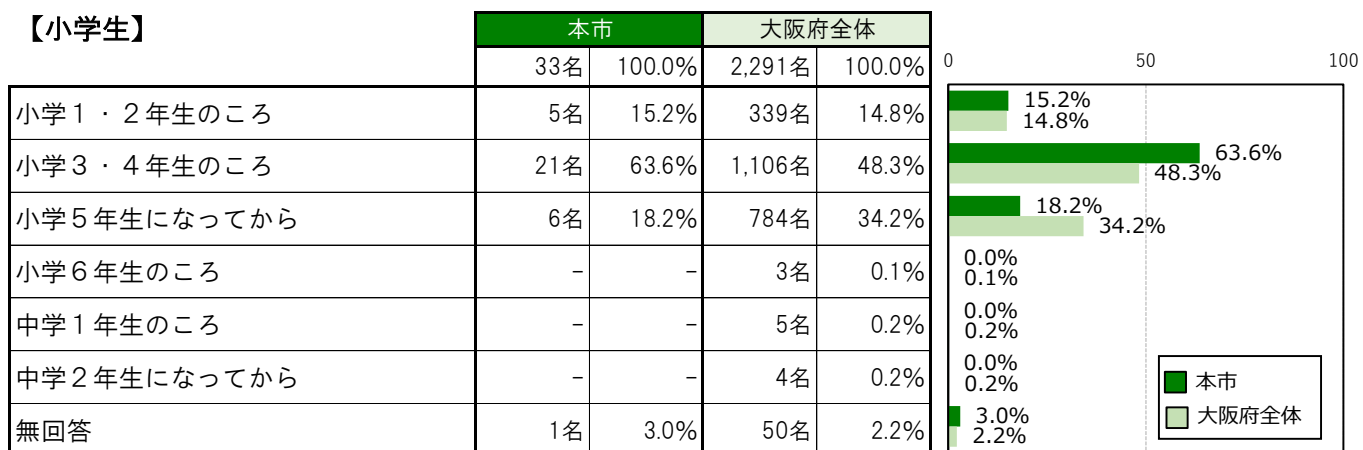
小学生は、「小学３・４年生のころ」が63.6%で最も多く、次いで「小学５年生になってから」が18.2%、「小学１・２年生のころ」が15.2%となっている。

中学生は、「中学１年生のころ」が64.8%で最も多く、次いで「中学２年生になってから」が13.0%、「小学５年生になってから」が9.3%、「小学３・４年生のころ」が7.4%となっている。

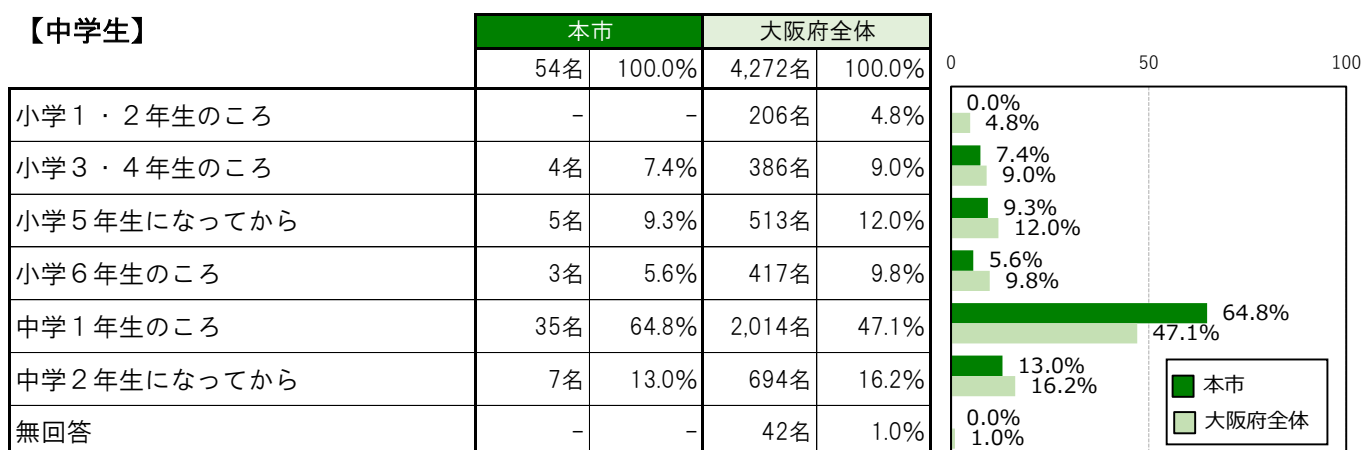
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

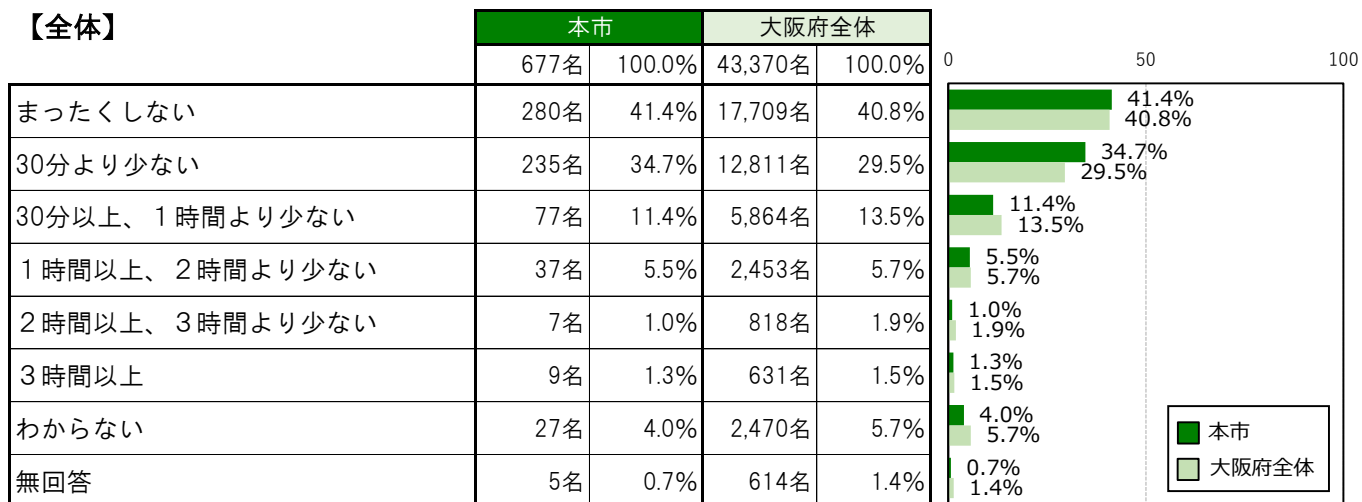
問15 授業以外の読書時間

全体は、「まったくしない」が41.4%で最も多く、次いで「30分より少ない」が34.7%、「30分以上、1時間より少ない」が11.4%、「1時間以上、2時間より少ない」が5.5%となっている。

小学生は、「まったくしない」が40.1%で最も多く、次いで「30分より少ない」が33.3%、「30分以上、1時間より少ない」が12.4%、「1時間以上、2時間より少ない」が6.2%となっている。

中学生は、「まったくしない」が43.0%で最も多く、次いで「30分より少ない」が35.5%、「30分以上、1時間より少ない」が10.4%、「1時間以上、2時間より少ない」が4.8%となっている。

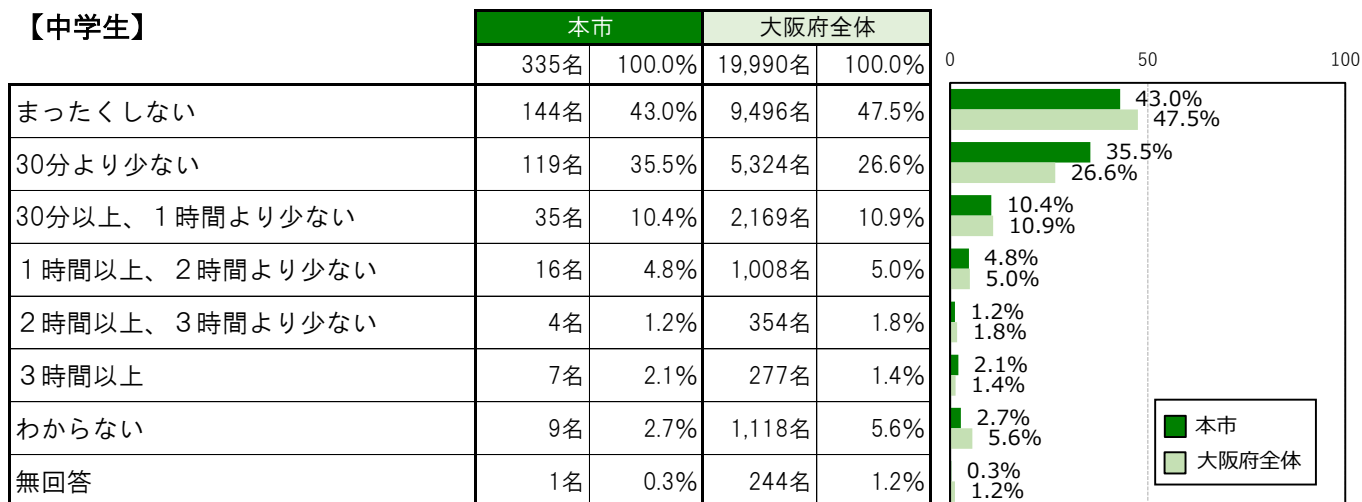
【全体】



【小学生】



【中学生】



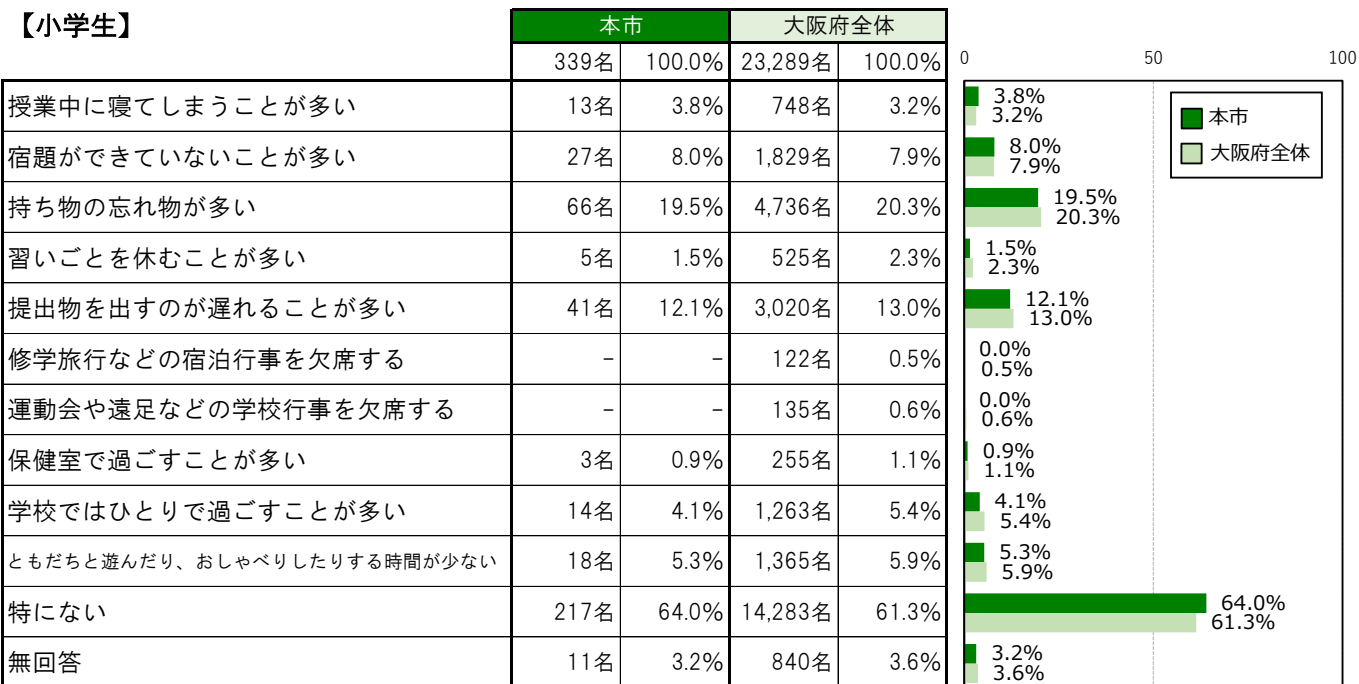
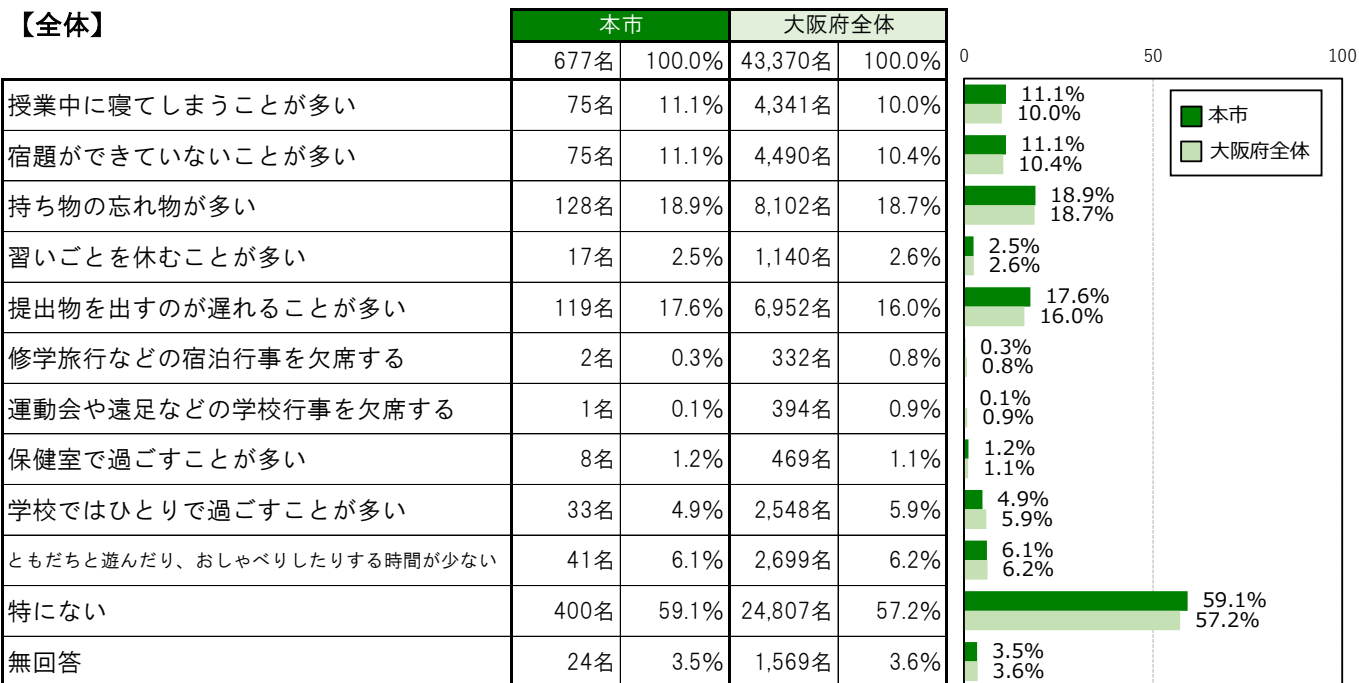
ふだんの生活のことについて

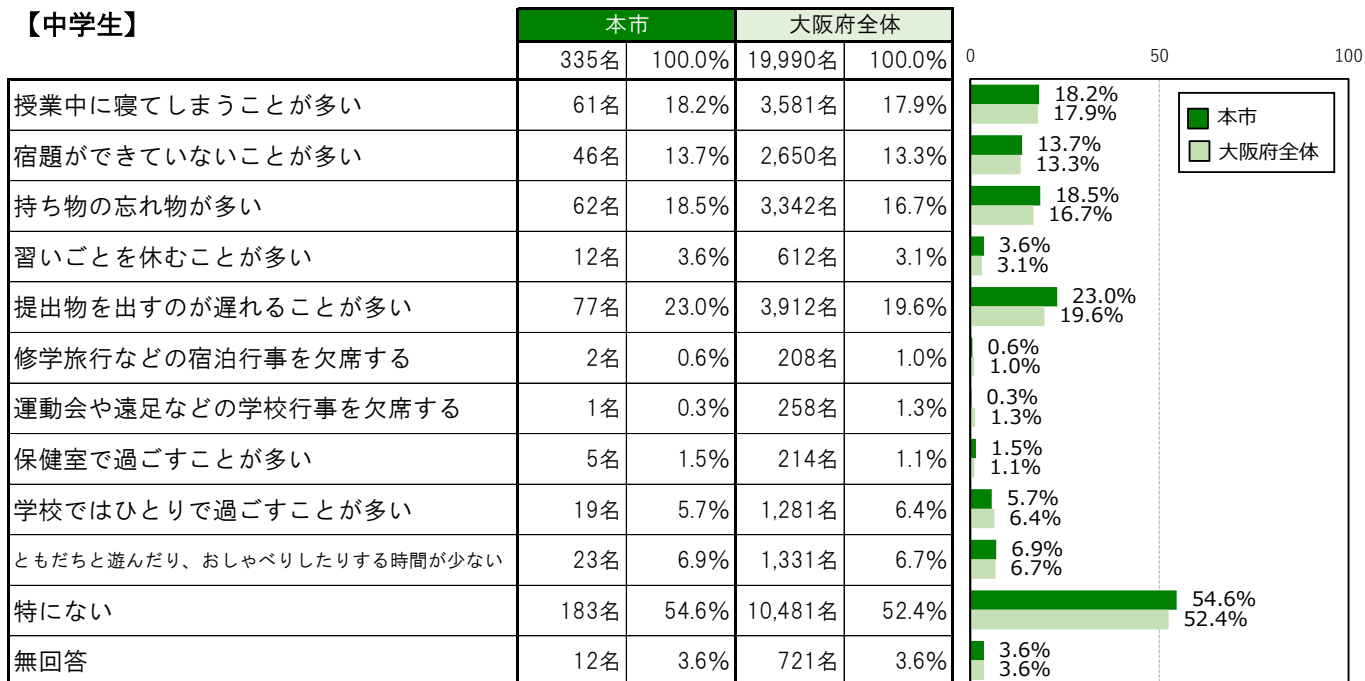
問16 学校や学校の行事等の状況

全体は、「持ち物の忘れ物が多い」が18.9%で最も多く、次いで「提出物を出すのが遅れることが多い」が17.6%、「授業中に寝てしまうことが多い」、「宿題ができていないことが多い」がそれぞれ11.1%、「ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」が6.1%となっている。

小学生は、「持ち物の忘れ物が多い」が19.5%で最も多く、次いで「提出物を出すのが遅れることが多い」が12.1%、「宿題ができていないことが多い」が8.0%、「ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」が5.3%となっている。

中学生は、「提出物を出すのが遅れることが多い」が23.0%で最も多く、次いで「持ち物の忘れ物が多い」が18.5%、「授業中に寝てしまうことが多い」が18.2%、「宿題ができていないことが多い」が13.7%となっている。





ふだんの生活のことについて

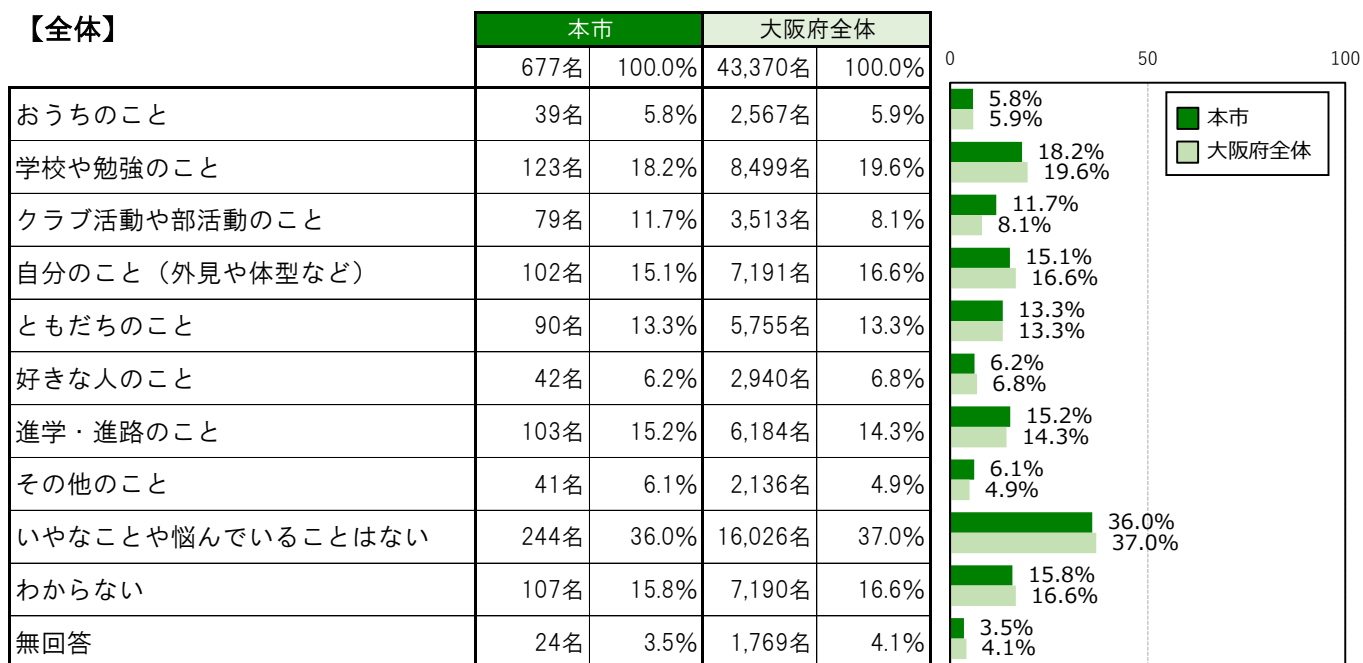
問17 嫌なことや悩んでいること

全体は、「いやなことや悩んでいることはない」が36.0%で最も多く、次いで「学校や勉強のこと」が18.2%、「進学・進路のこと」が15.2%となっている。

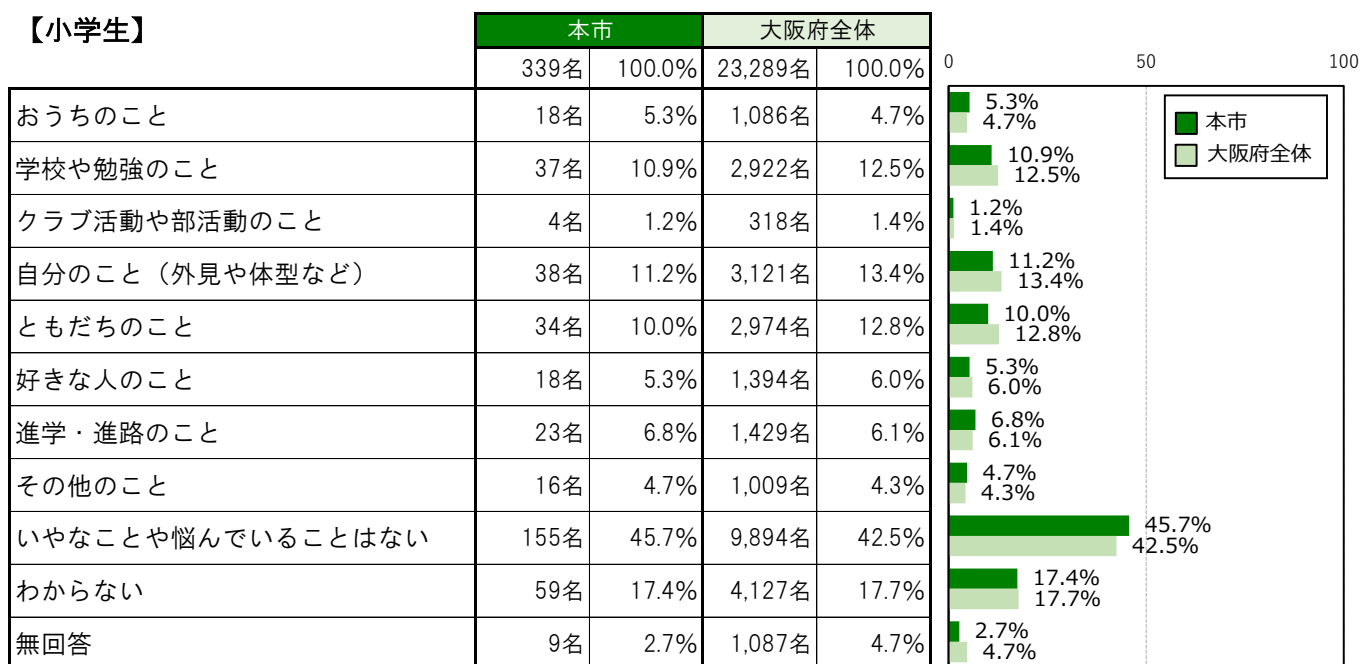
小学生は、「いやなことや悩んでいることはない」が45.7%で最も多く、次いで「自分のこと（外見や体型など）」が11.2%、「学校や勉強のこと」が10.9%となっている。

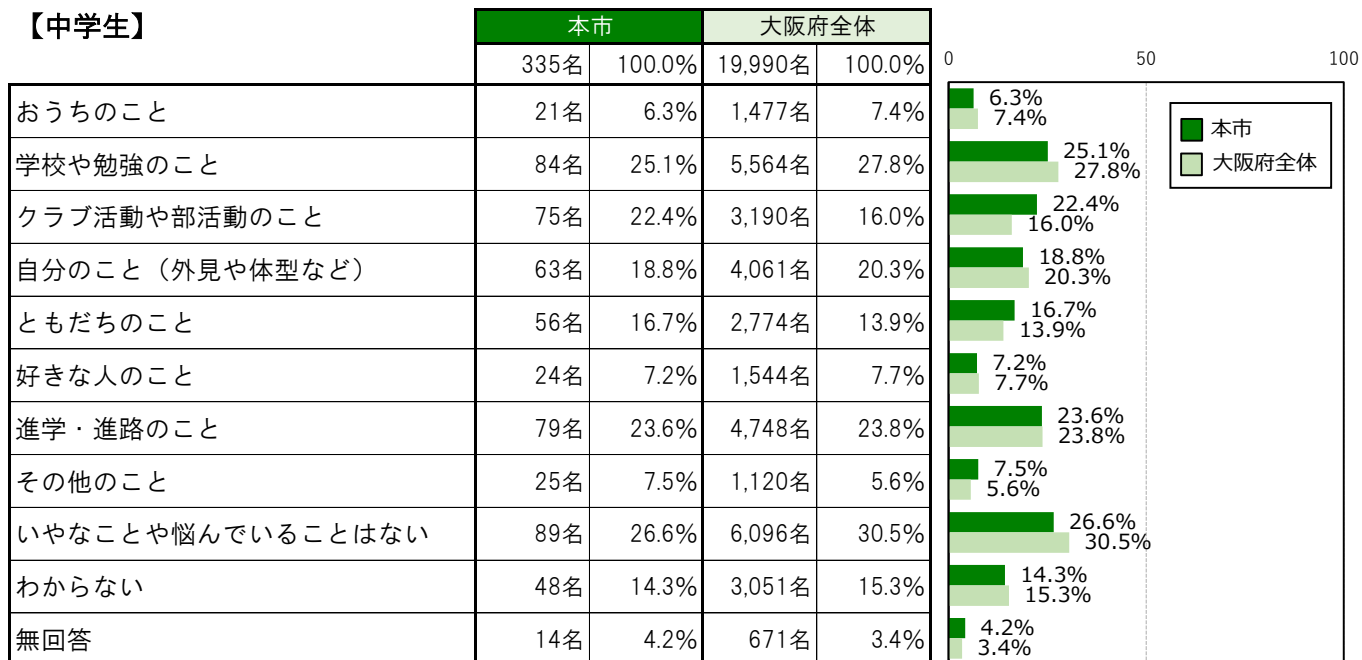
中学生は、「いやなことや悩んでいることはない」が26.6%で最も多く、次いで「学校や勉強のこと」が25.1%、「進学・進路のこと」が23.6%となっている。

【全体】



【小学生】





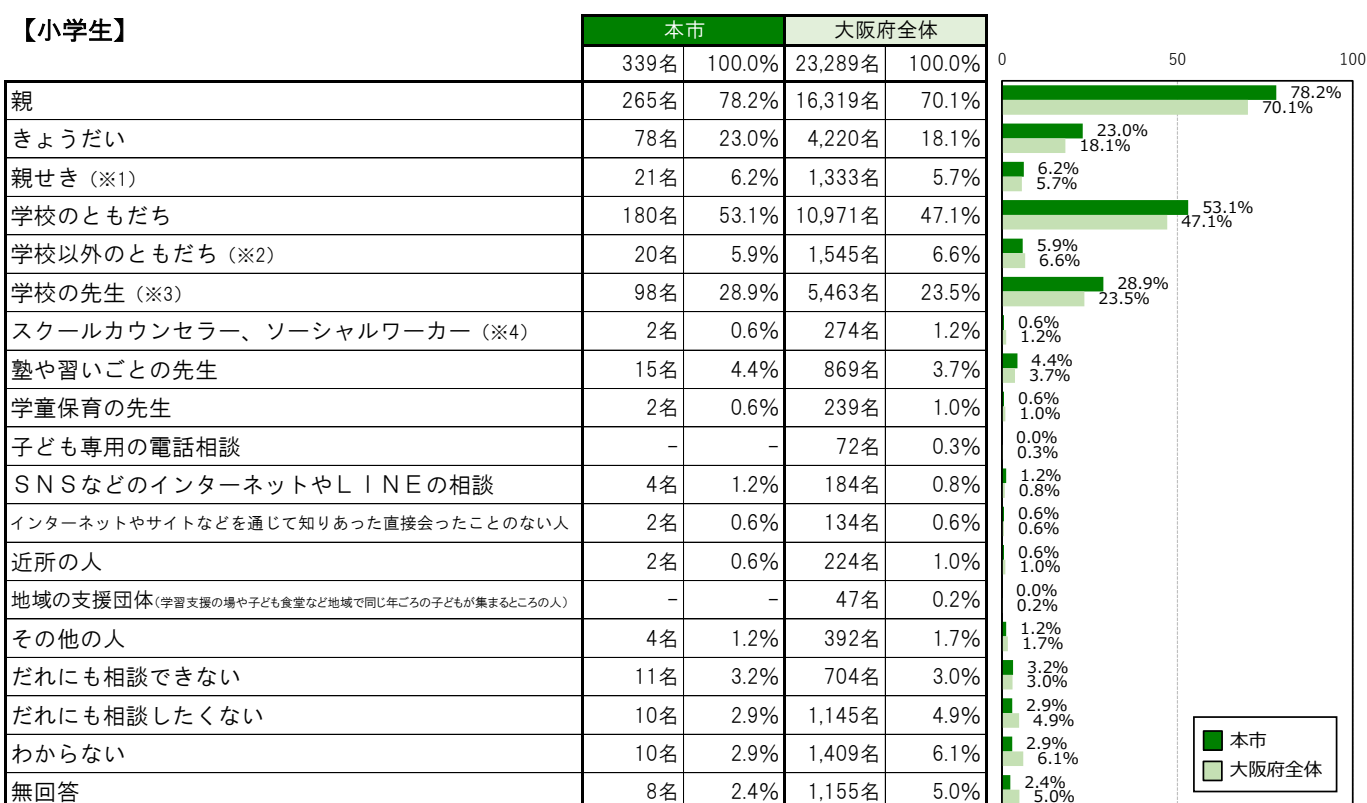
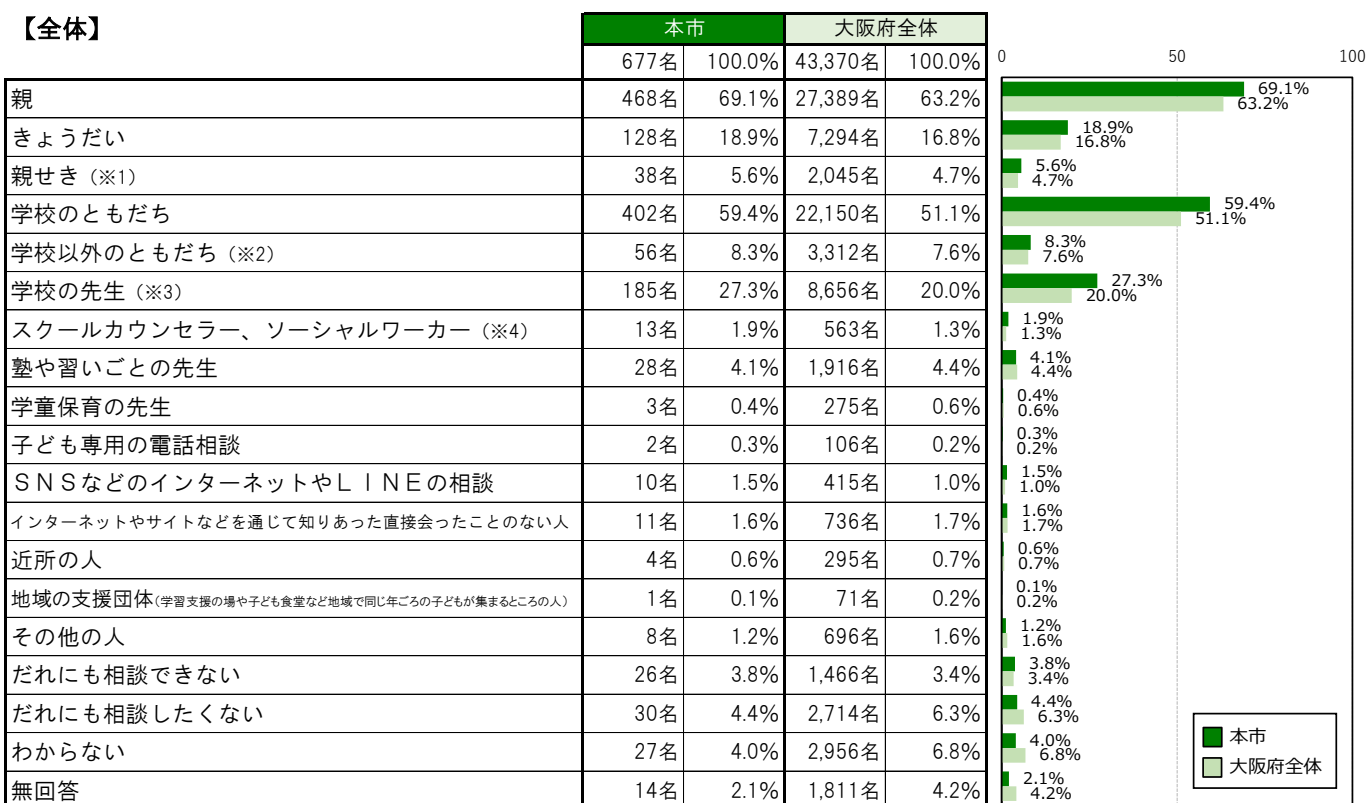
ふだんの生活のことについて

問18 嫌なことや悩んでいるときの相談相手

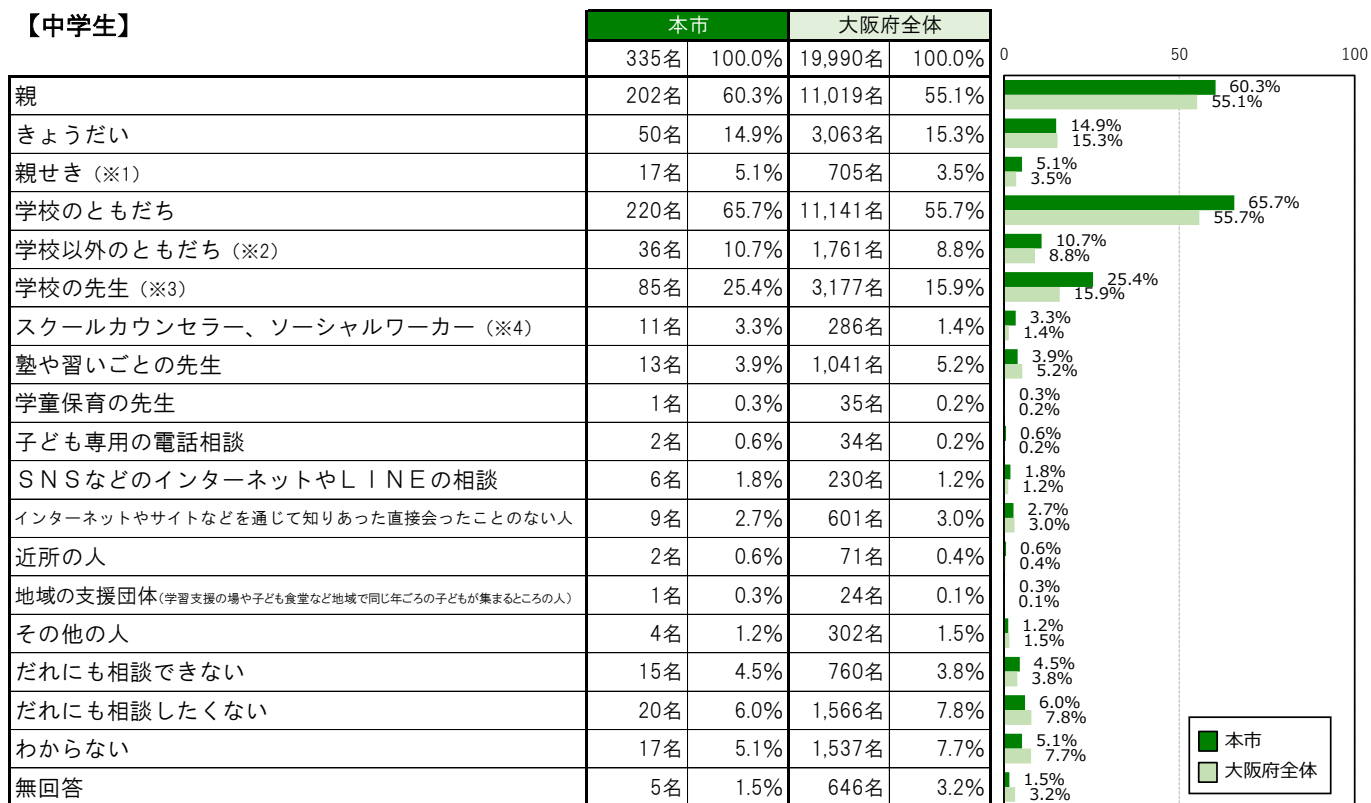
全体は、「親」が69.1%で最も多く、次いで「学校のともだち」が59.4%、「学校の先生」が27.3%、「きょうだい」が18.9%となっている。

小学生は、「親」が78.2%で最も多く、次いで「学校のともだち」が53.1%、「学校の先生」が28.9%、「きょうだい」が23.0%となっている。

中学生は、「学校のともだち」が65.7%で最も多く、次いで「親」が60.3%、「学校の先生」が25.4%、「きょうだい」が14.9%となっている。



【中学生】



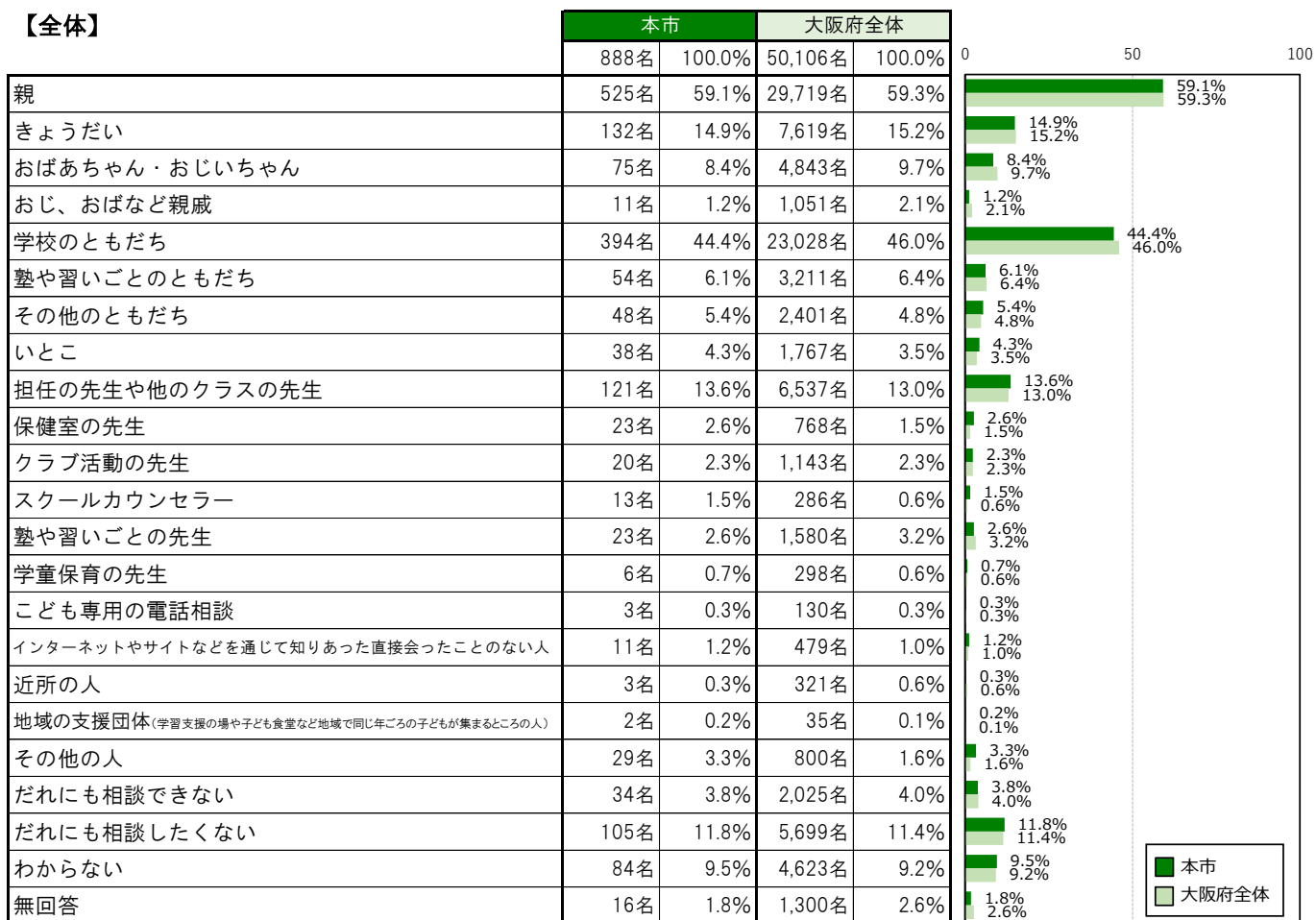
- ※1 2016年調査では「おじ、おばなど親戚」
 ※2 2016年調査では「塾や習いごとのともだち」「その他のともだち」
 ※3 2016年調査では「担任の先生や他のクラスの先生」「保健室の先生」
 ※4 2016年調査では「スクールカウンセラー」

●2016年度 調査結果〔参考データ〕

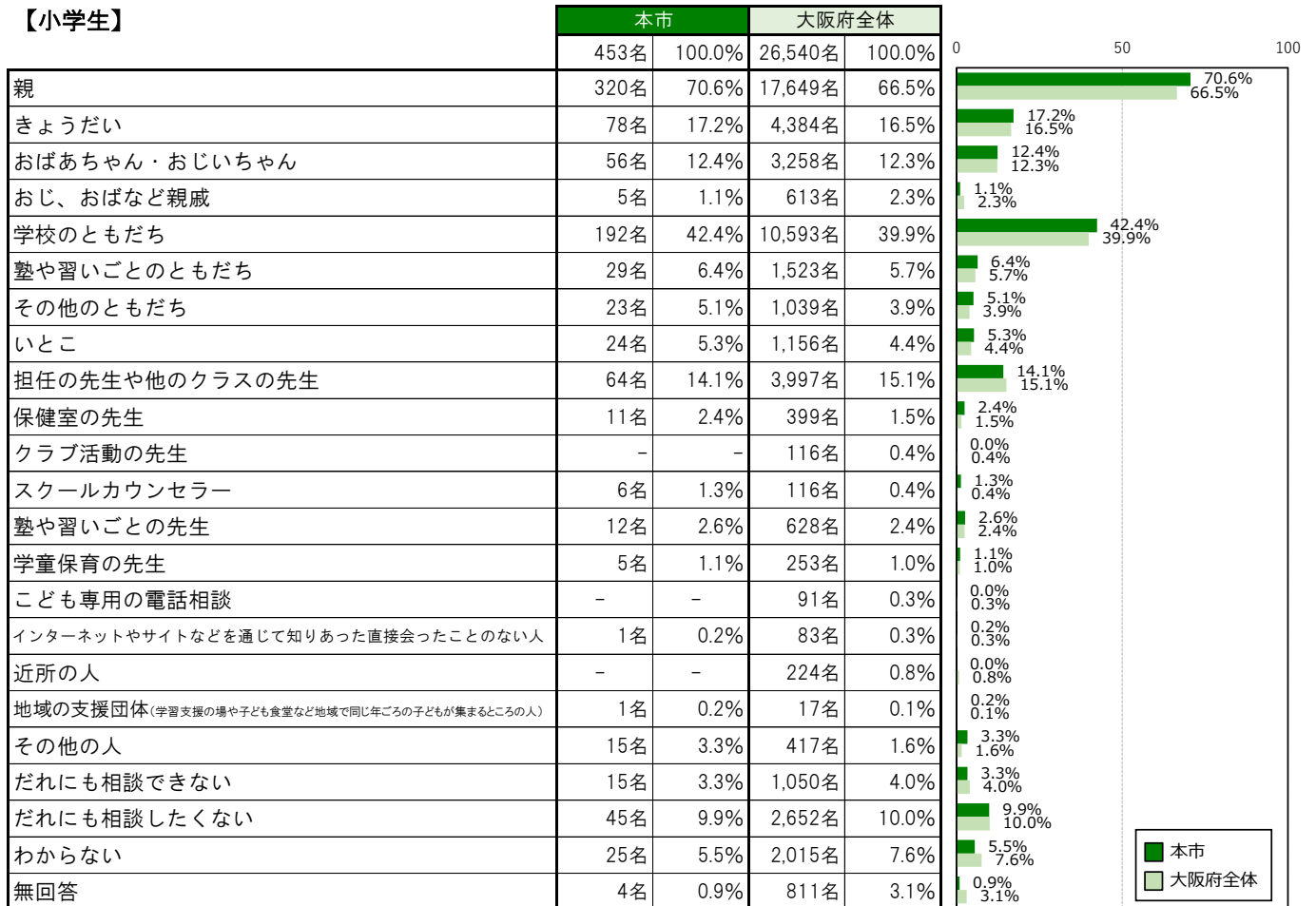
2016年度調査と比較すると、全体は、「学校のともだち」が15ポイント、「学校の先生」（2016年度は「担任の先生や他のクラスの先生」と「保健室の先生」をあわせた割合）が11.1ポイント、それぞれ高くなっている。

小学生は、「学校の先生」が12.4ポイント、「学校のともだち」が10.7ポイント、それぞれ高くなっている。

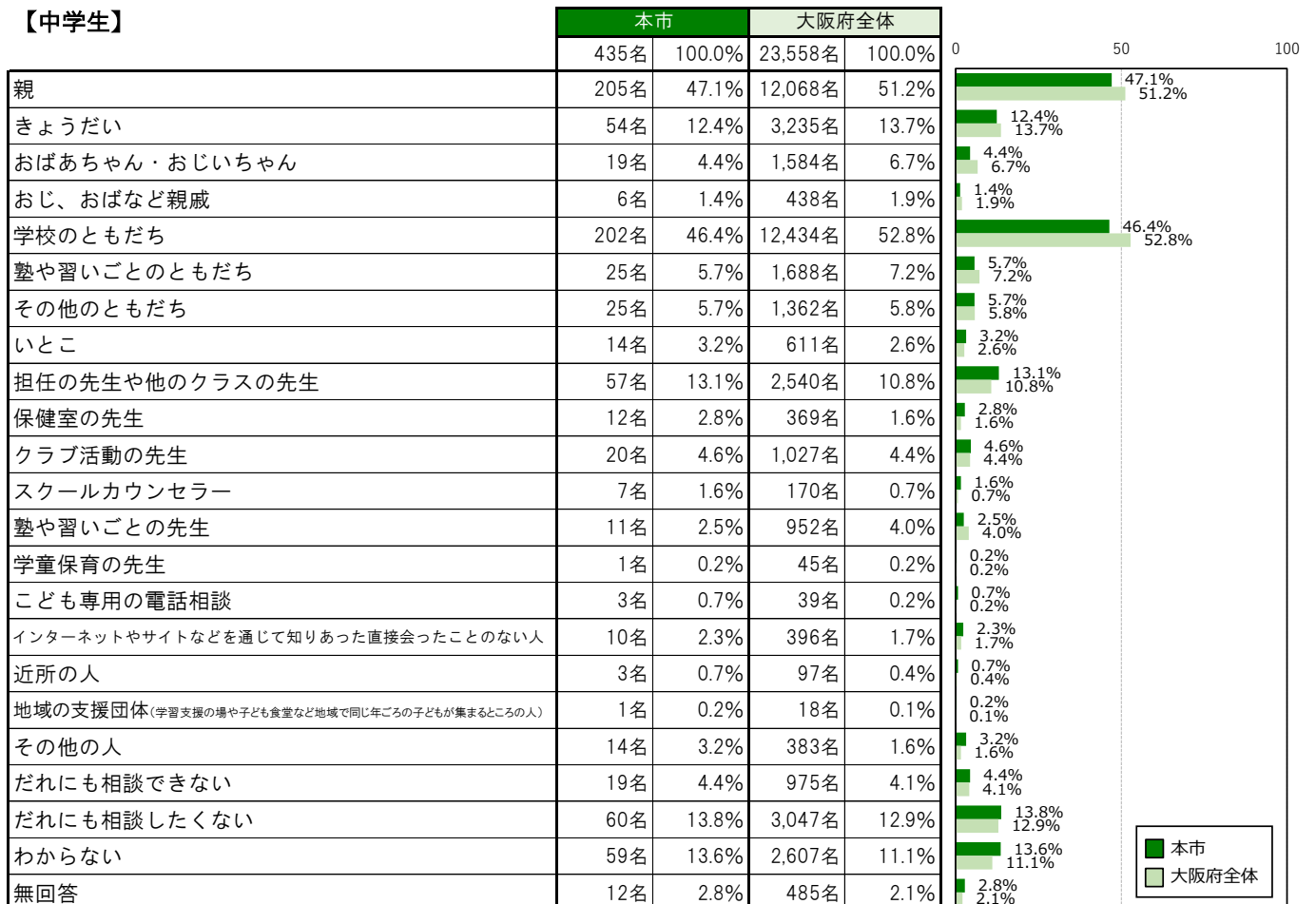
中学生は、「学校のともだち」が19.3ポイント、「親」が13.2ポイント、それぞれ高くなっている。



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある

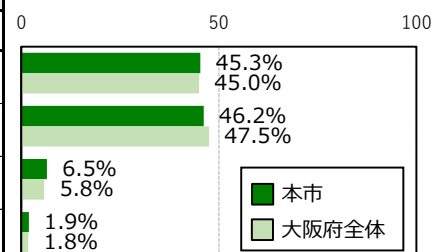
全体は、「ときどきそうだ」が46.2%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が45.3%、「そんなことはない」が6.5%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が48.1%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が44.8%、「そんなことはない」が5.0%となっている。

中学生は、「いつもそうだ」が45.7%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が44.8%、「そんなことはない」が8.1%となっている。

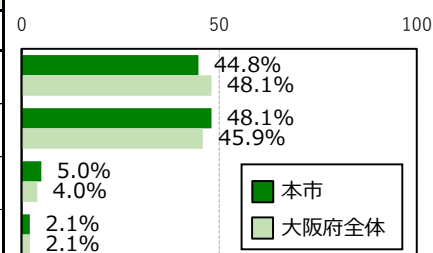
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	307名	45.3%	19,505名	45.0%
ときどきそうだ	313名	46.2%	20,583名	47.5%
そんなことはない	44名	6.5%	2,517名	5.8%
無回答	13名	1.9%	765名	1.8%



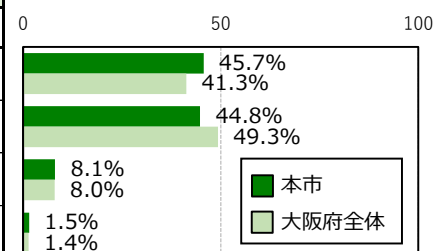
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	152名	44.8%	11,206名	48.1%
ときどきそうだ	163名	48.1%	10,683名	45.9%
そんなことはない	17名	5.0%	922名	4.0%
無回答	7名	2.1%	478名	2.1%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	153名	45.7%	8,256名	41.3%
ときどきそうだ	150名	44.8%	9,858名	49.3%
そんなことはない	27名	8.1%	1,595名	8.0%
無回答	5名	1.5%	281名	1.4%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ

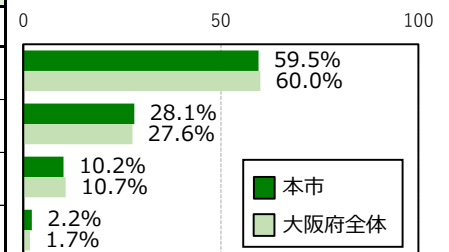
全体は、「いつもそうだ」が59.5%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が28.1%、「そんなことはない」が10.2%となっている。

小学生は、「いつもそうだ」が60.2%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が27.7%、「そんなことはない」が9.4%となっている。

中学生は、「いつもそうだ」が59.1%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が28.4%、「そんなことはない」が11.0%となっている。

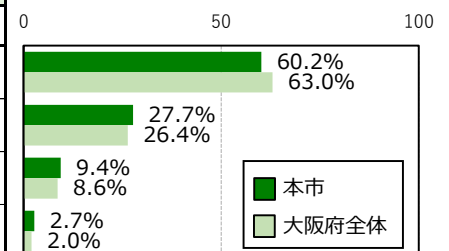
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	403名	59.5%	26,039名	60.0%
ときどきそうだ	190名	28.1%	11,956名	27.6%
そんなことはない	69名	10.2%	4,638名	10.7%
無回答	15名	2.2%	737名	1.7%



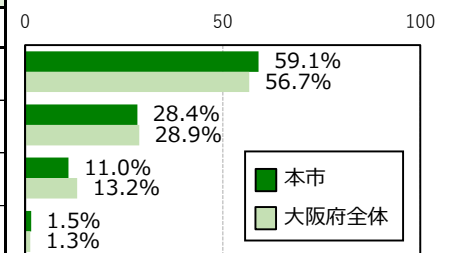
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	204名	60.2%	14,666名	63.0%
ときどきそうだ	94名	27.7%	6,154名	26.4%
そんなことはない	32名	9.4%	1,996名	8.6%
無回答	9名	2.7%	473名	2.0%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	198名	59.1%	11,325名	56.7%
ときどきそうだ	95名	28.4%	5,773名	28.9%
そんなことはない	37名	11.0%	2,634名	13.2%
無回答	5名	1.5%	258名	1.3%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ

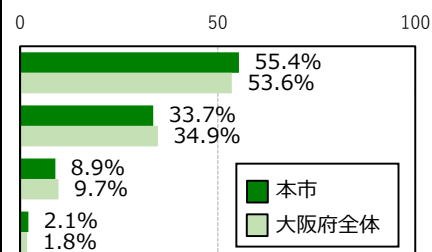
全体は、「いつもそうだ」が55.4%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が33.7%、「そんなことはない」が8.9%となっている。

小学生は、「いつもそうだ」が65.2%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が27.1%、「そんなことはない」が5.3%となっている。

中学生は、「いつもそうだ」が46.0%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が40.0%、「そんなことはない」が12.5%となっている。

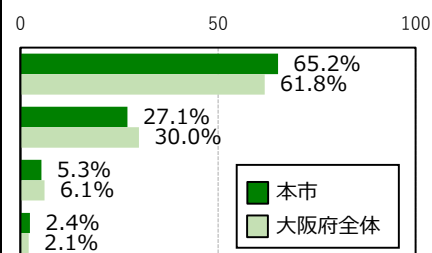
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	375名	55.4%	23,234名	53.6%
ときどきそうだ	228名	33.7%	15,146名	34.9%
そんなことはない	60名	8.9%	4,217名	9.7%
無回答	14名	2.1%	773名	1.8%



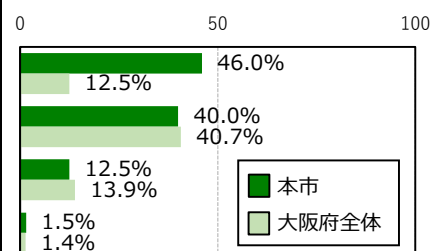
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	221名	65.2%	14,397名	61.8%
ときどきそうだ	92名	27.1%	6,978名	30.0%
そんなことはない	18名	5.3%	1,431名	6.1%
無回答	8名	2.4%	483名	2.1%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	154名	46.0%	40名	12.5%
ときどきそうだ	134名	40.0%	8,128名	40.7%
そんなことはない	42名	12.5%	2,782名	13.9%
無回答	5名	1.5%	284名	1.4%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる

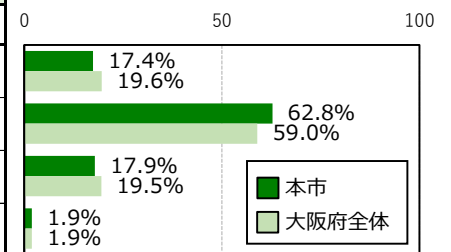
全体は、「ときどきそうだ」が62.8%で最も多く、次いで「そんなことはない」が17.9%、「いつもそうだ」が17.4%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が64.3%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が18.3%、「そんなことはない」が14.7%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が61.5%で最も多く、次いで「そんなことはない」が20.9%、「いつもそうだ」が16.7%となっている。

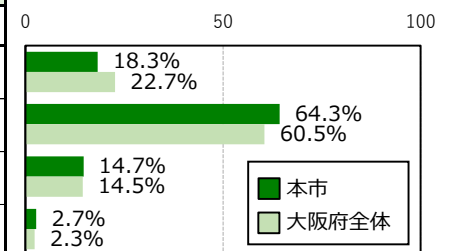
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	118名	17.4%	8,503名	19.6%
ときどきそうだ	425名	62.8%	25,567名	59.0%
そんなことはない	121名	17.9%	8,460名	19.5%
無回答	13名	1.9%	840名	1.9%



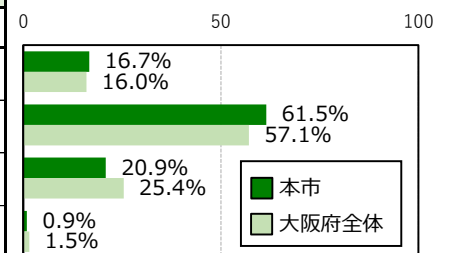
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	62名	18.3%	5,283名	22.7%
ときどきそうだ	218名	64.3%	14,099名	60.5%
そんなことはない	50名	14.7%	3,367名	14.5%
無回答	9名	2.7%	540名	2.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	56名	16.7%	3,199名	16.0%
ときどきそうだ	206名	61.5%	11,416名	57.1%
そんなことはない	70名	20.9%	5,081名	25.4%
無回答	3名	0.9%	294名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする

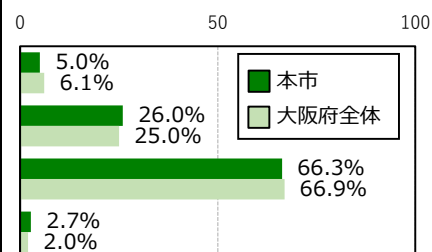
全体は、「そんなことはない」が66.3%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が26.0%、「いつもそうだ」が5.0%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が68.4%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が23.3%、「いつもそうだ」が4.7%となっている。

中学生は、「そんなことはない」が64.8%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が28.4%、「いつもそうだ」が5.4%となっている。

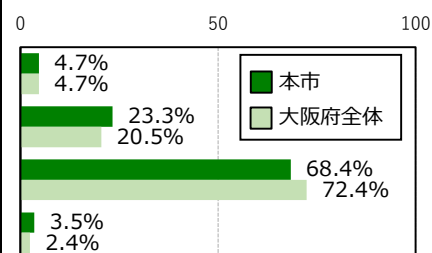
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	34名	5.0%	2,628名	6.1%
ときどきそうだ	176名	26.0%	10,860名	25.0%
そんなことはない	449名	66.3%	29,021名	66.9%
無回答	18名	2.7%	861名	2.0%



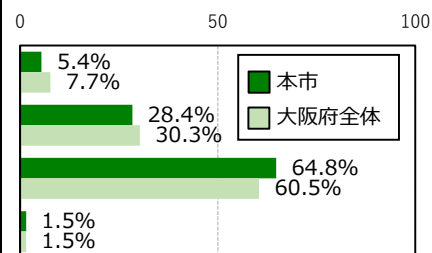
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	16名	4.7%	1,091名	4.7%
ときどきそうだ	79名	23.3%	4,776名	20.5%
そんなことはない	232名	68.4%	16,872名	72.4%
無回答	12名	3.5%	550名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	18名	5.4%	1,534名	7.7%
ときどきそうだ	95名	28.4%	6,057名	30.3%
そんなことはない	217名	64.8%	12,095名	60.5%
無回答	5名	1.5%	304名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

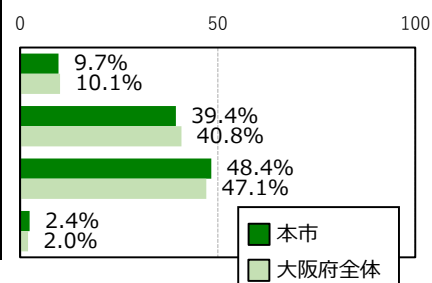
全体は、「そんなことはない」が48.4%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が39.4%、「いつもそうだ」が9.7%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が53.1%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が37.8%、「いつもそうだ」が6.2%となっている。

中学生は、「そんなことはない」が43.9%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が41.2%、「いつもそうだ」が13.4%となっている。

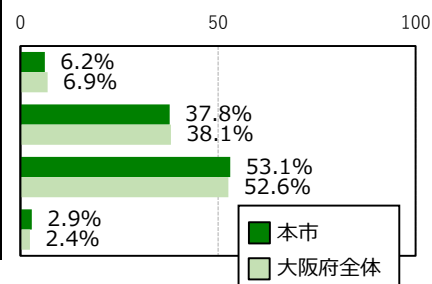
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	66名	9.7%	4,369名	10.1%
ときどきそうだ	267名	39.4%	17,713名	40.8%
そんなことはない	328名	48.4%	20,421名	47.1%
無回答	16名	2.4%	867名	2.0%



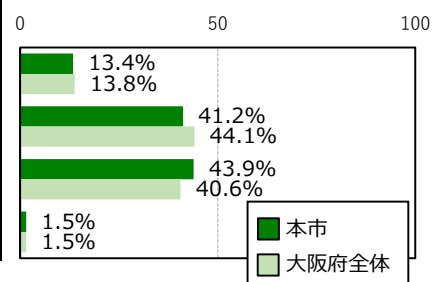
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	21名	6.2%	1,616名	6.9%
ときどきそうだ	128名	37.8%	8,865名	38.1%
そんなことはない	180名	53.1%	12,251名	52.6%
無回答	10名	2.9%	557名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	45名	13.4%	2,750名	13.8%
ときどきそうだ	138名	41.2%	8,814名	44.1%
そんなことはない	147名	43.9%	8,122名	40.6%
無回答	5名	1.5%	304名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

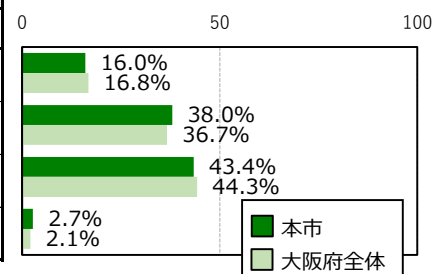
全体は、「そんなことはない」が43.4%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が38.0%、「いつもそうだ」が16.0%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が49.6%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が34.5%、「いつもそうだ」が12.7%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が41.5%で最も多く、次いで「そんなことはない」が37.3%、「いつもそうだ」が19.4%となっている。

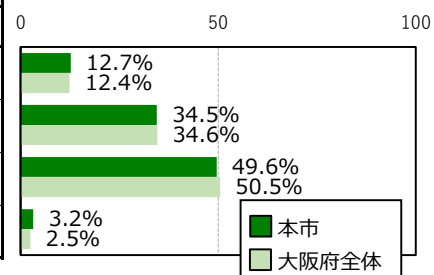
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	108名	16.0%	7,300名	16.8%
ときどきそうだ	257名	38.0%	15,932名	36.7%
そんなことはない	294名	43.4%	19,222名	44.3%
無回答	18名	2.7%	916名	2.1%



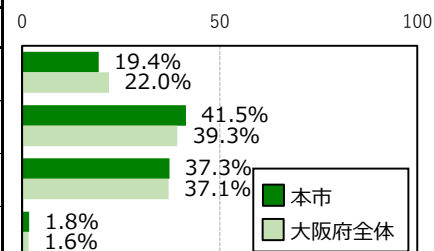
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	43名	12.7%	2,893名	12.4%
ときどきそうだ	117名	34.5%	8,049名	34.6%
そんなことはない	168名	49.6%	11,759名	50.5%
無回答	11名	3.2%	588名	2.5%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	65名	19.4%	4,399名	22.0%
ときどきそうだ	139名	41.5%	7,848名	39.3%
そんなことはない	125名	37.3%	7,422名	37.1%
無回答	6名	1.8%	321名	1.6%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

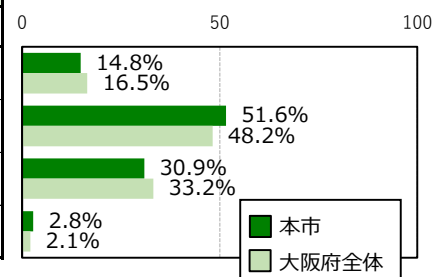
全体は、「ときどきそうだ」が51.6%で最も多く、次いで「そんなことはない」が30.9%、「いつもそうだ」が14.8%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が45.1%で最も多く、次いで「そんなことはない」が40.7%、「いつもそうだ」が10.3%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が58.2%で最も多く、次いで「そんなことはない」が20.9%、「いつもそうだ」が19.4%となっている。

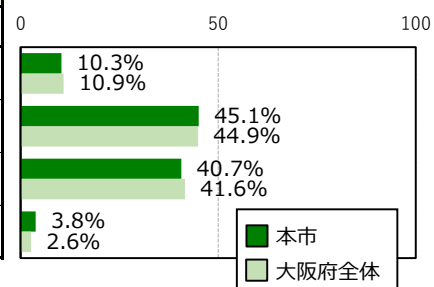
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	100名	14.8%	7,152名	16.5%
ときどきそうだ	349名	51.6%	20,902名	48.2%
そんなことはない	209名	30.9%	14,387名	33.2%
無回答	19名	2.8%	929名	2.1%



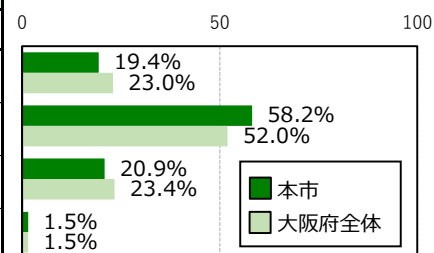
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	35名	10.3%	2,541名	10.9%
ときどきそうだ	153名	45.1%	10,454名	44.9%
そんなことはない	138名	40.7%	9,677名	41.6%
無回答	13名	3.8%	617名	2.6%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	65名	19.4%	4,606名	23.0%
ときどきそうだ	195名	58.2%	10,396名	52.0%
そんなことはない	70名	20.9%	4,682名	23.4%
無回答	5名	1.5%	306名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑨いろいろする

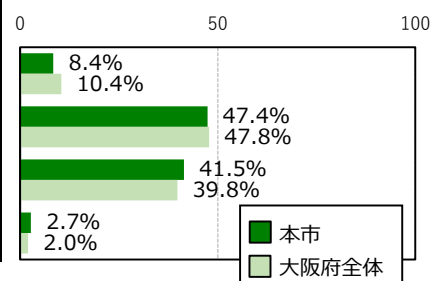
全体は、「ときどきそうだ」が47.4%で最も多く、次いで「そんなことはない」が41.5%、「いつもそうだ」が8.4%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が47.8%で最も多く、次いで「そんなことはない」が40.7%、「いつもそうだ」が8.3%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が47.2%で最も多く、次いで「そんなことはない」が42.7%、「いつもそうだ」が8.4%となっている。

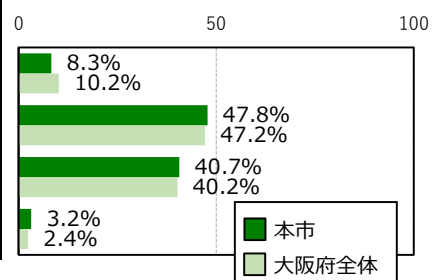
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	57名	8.4%	4,525名	10.4%
ときどきそうだ	321名	47.4%	20,712名	47.8%
そんなことはない	281名	41.5%	17,270名	39.8%
無回答	18名	2.7%	863名	2.0%



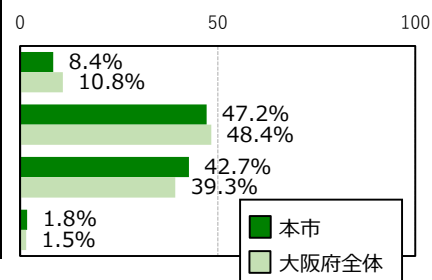
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	28名	8.3%	2,364名	10.2%
ときどきそうだ	162名	47.8%	10,997名	47.2%
そんなことはない	138名	40.7%	9,370名	40.2%
無回答	11名	3.2%	558名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	28名	8.4%	2,152名	10.8%
ときどきそうだ	158名	47.2%	9,674名	48.4%
そんなことはない	143名	42.7%	7,865名	39.3%
無回答	6名	1.8%	299名	1.5%



ふだんの生活のことについて

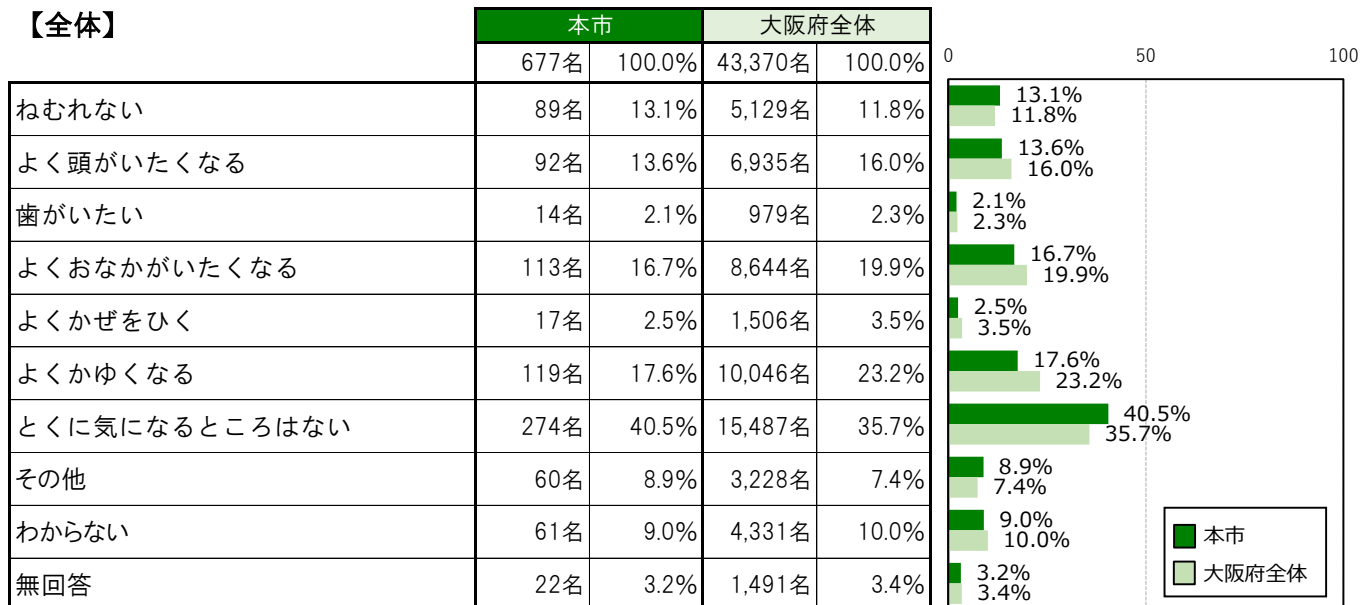
問20 自分の体の状態で気になること

全体は、「とくに気になるところはない」が40.5%で最も多く、次いで「よくかゆくなる」が17.6%、「よくおなかがいたくなる」が16.7%となっている。

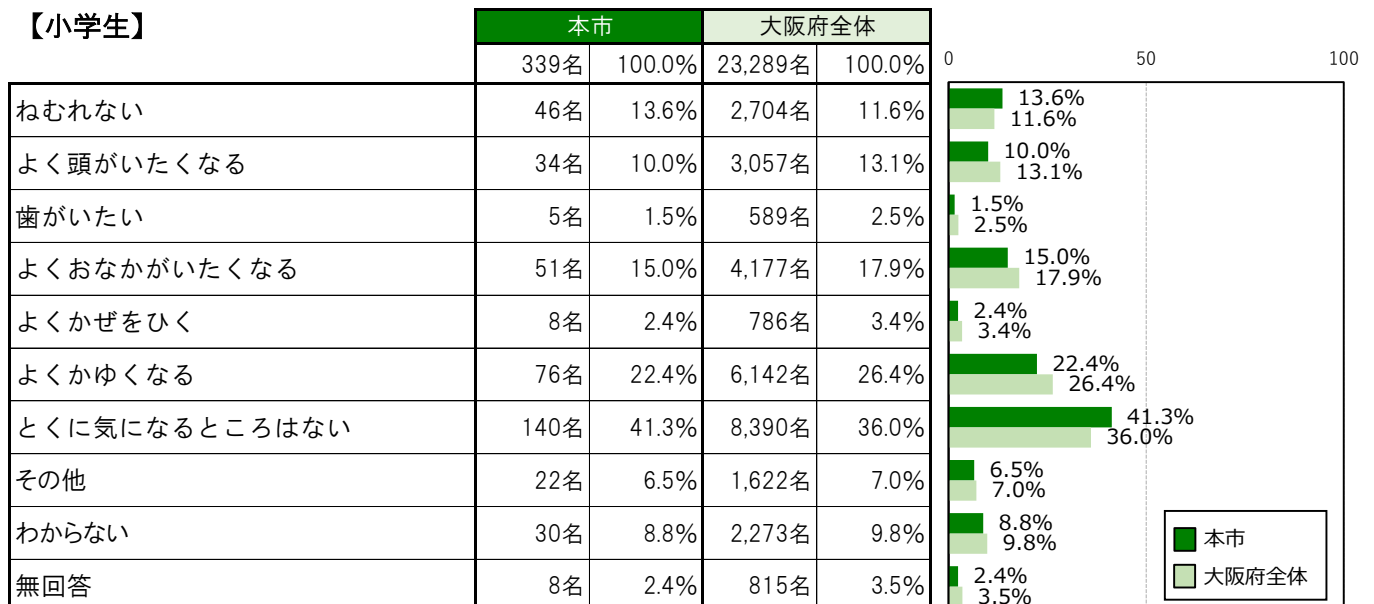
小学生は、「とくに気になるところはない」が41.3%で最も多く、次いで「よくかゆくなる」が22.4%、「よくおなかがいたくなる」が15.0%となっている。

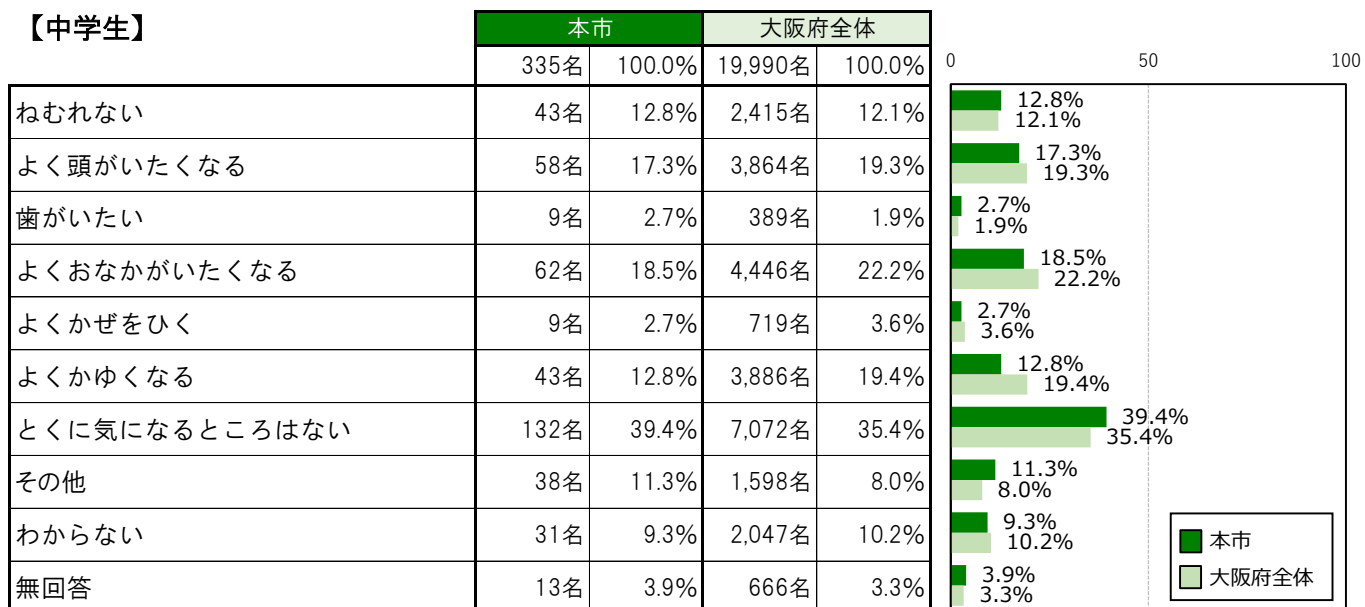
中学生は、「とくに気になるところはない」が39.4%で最も多く、次いで「よくおなかがいたくなる」が18.5%、「よく頭がいたくなる」が17.3%となっている。

【全体】



【小学生】





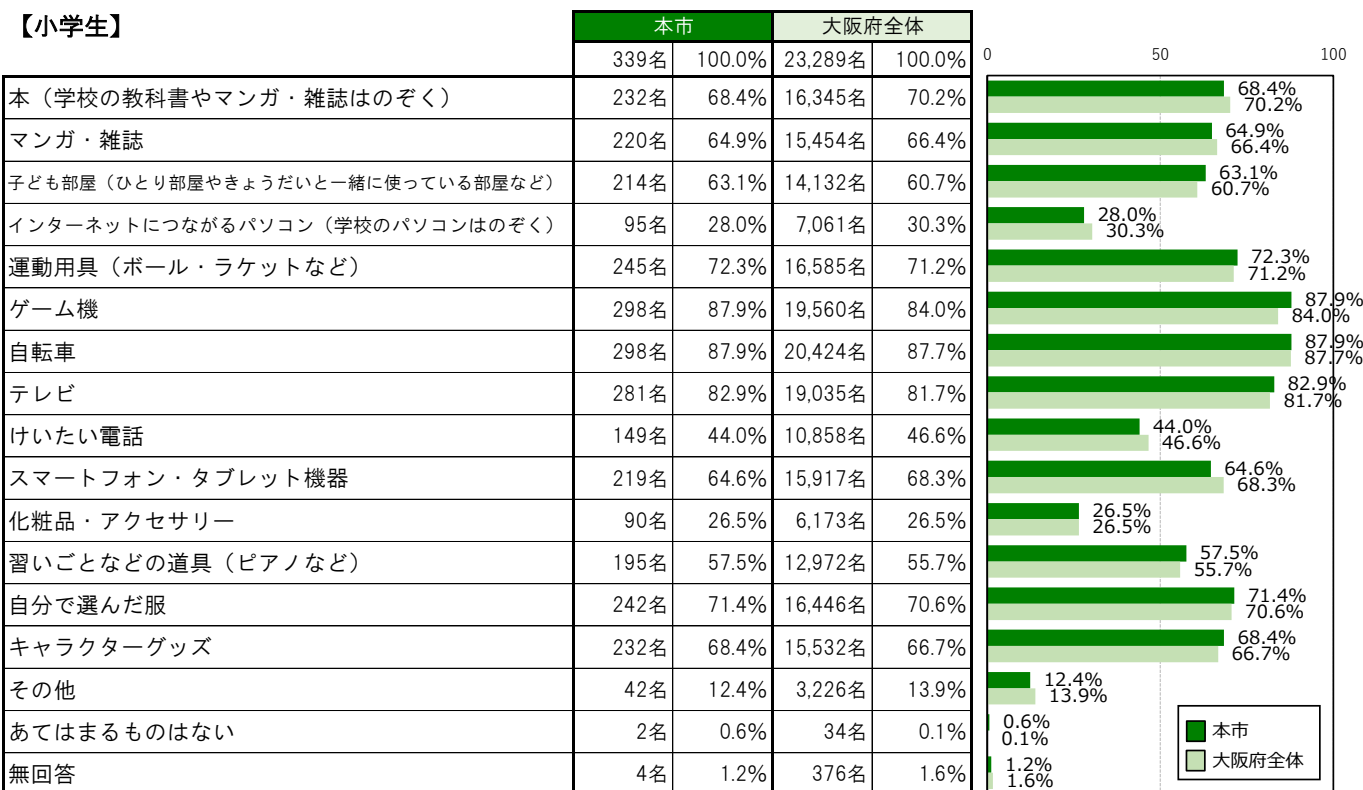
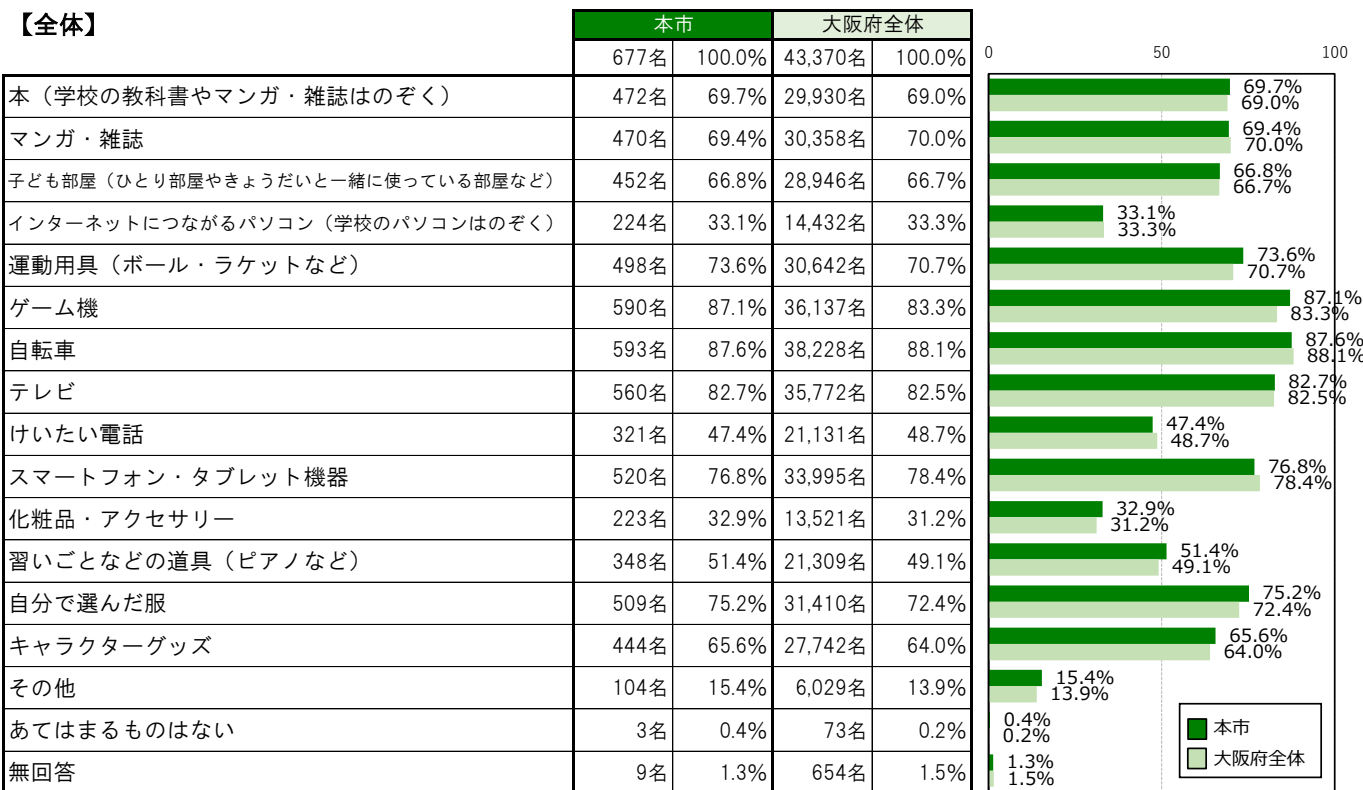
ふだんの生活のことについて

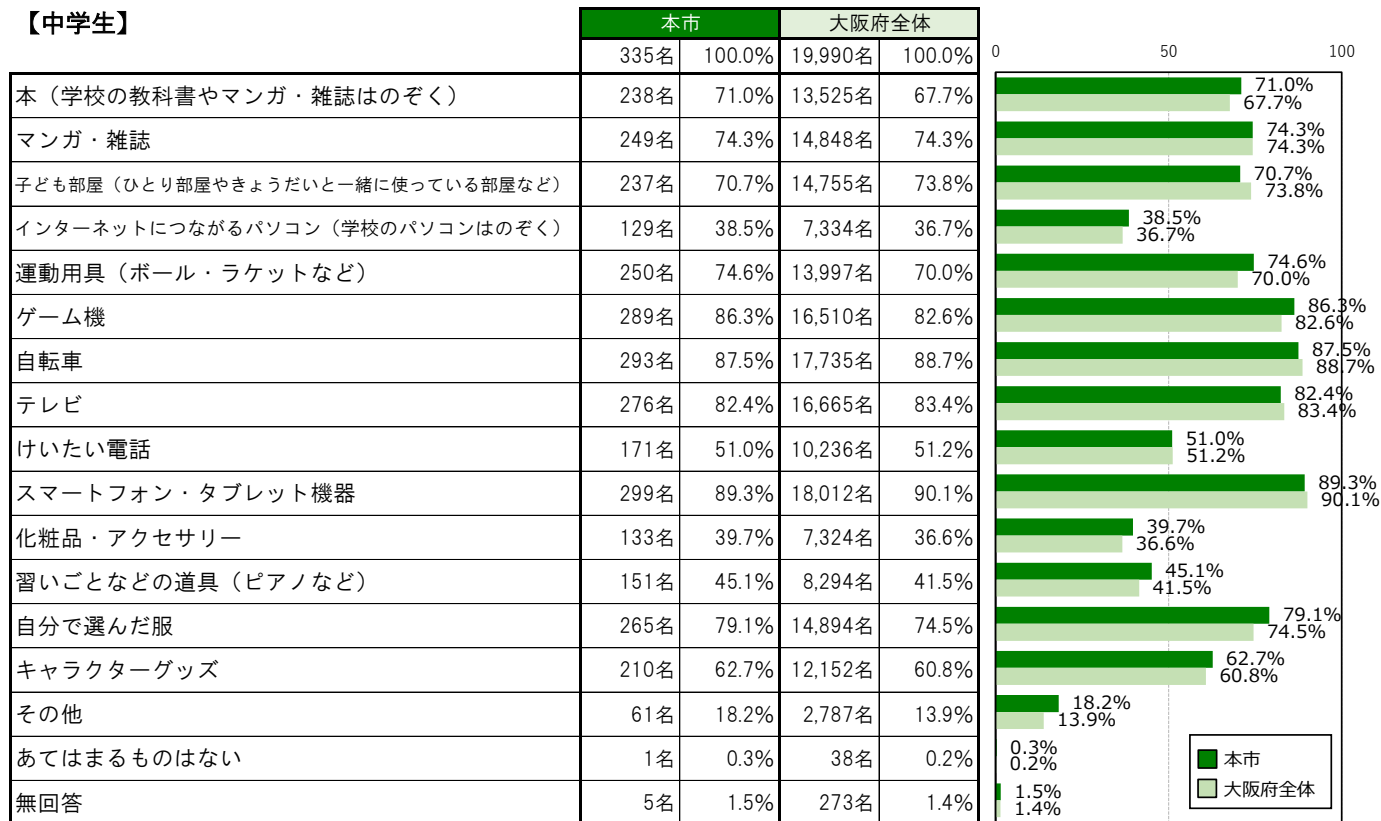
問21 持っているもの、使うことができるもの

全体は、「自転車」が87.6%で最も多く、次いで「ゲーム機」が87.1%、「テレビ」が82.7%、「スマートフォン・タブレット機器」が76.8%となっている。

小学生は、「ゲーム機」、「自転車」がそれぞれ87.9%で最も多く、次いで「テレビ」が82.9%、「運動用具（ボール・ラケットなど）」が72.3%、「自分で選んだ服」が71.4%となっている。

中学生は、「スマートフォン・タブレット機器」が89.3%で最も多く、次いで「自転車」が87.5%、「ゲーム機」が86.3%、「テレビ」が82.4%となっている。





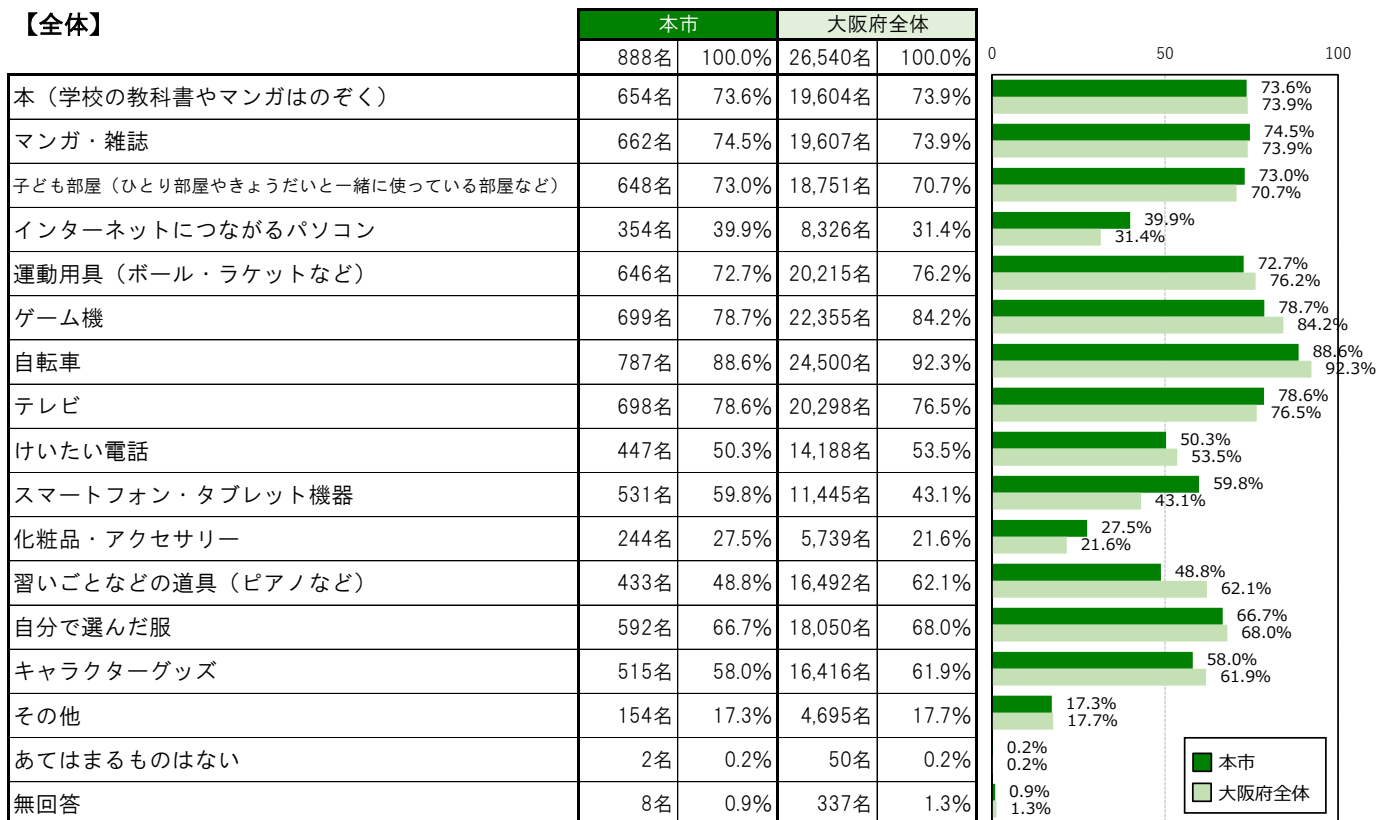
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、全体は、「スマートフォン・タブレット機器」は17ポイント高いが、「インターネットにつながるパソコン」は6.8ポイント低くなっている。

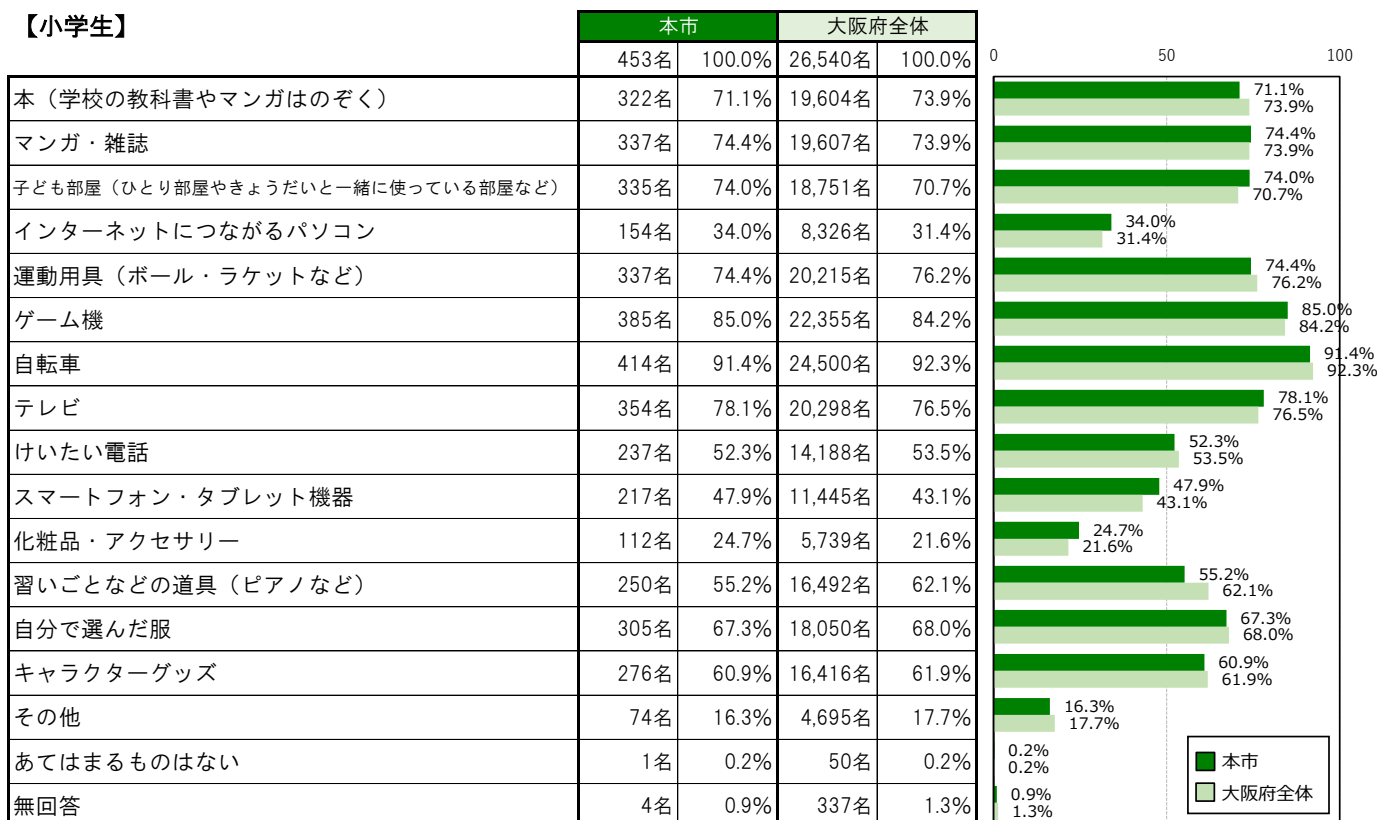
小学生は、「スマートフォン・タブレット機器」は16.7ポイント高いが、「子ども部屋（ひとり部屋やきょうだいと一緒に使っている部屋など）」は10.9ポイント低くなっている。

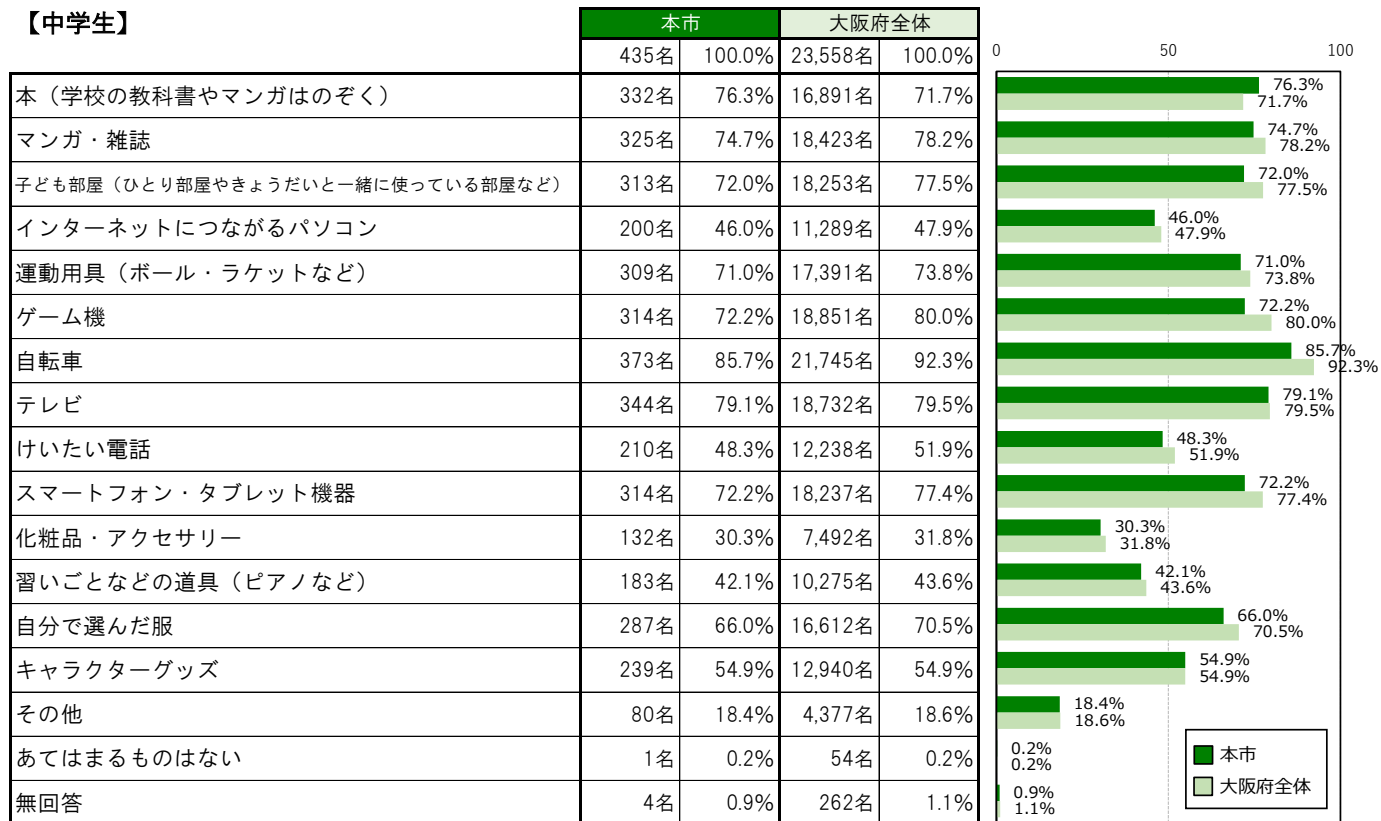
中学生は、「スマートフォン・タブレット機器」は17.1ポイント高いが、「本（学校の教科書やマンガはのぞく）」は5.3ポイント低くなっている。

【全体】



【小学生】





ふだん考えていることについて

問22 すぐに立ち直ることができる

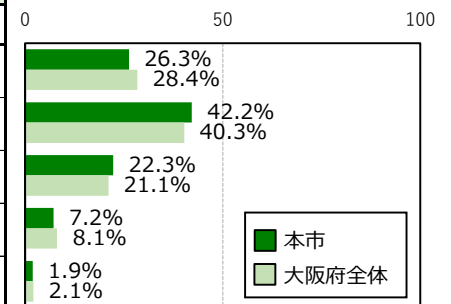
全体は、「どちらかというと思う」が42.2%で最も多く、次いで「そう思う」が26.3%、「どちらかというと思わない」が22.3%、「そう思わない」が7.2%となっている。

小学生は、「どちらかというと思う」が44.0%で最も多く、次いで「そう思う」が27.1%、「どちらかというと思わない」が20.1%、「そう思わない」が6.8%となっている。

中学生は、「どちらかというと思う」が40.3%で最も多く、次いで「そう思う」が25.7%、「どちらかというと思わない」が24.8%、「そう思わない」が7.5%となっている。

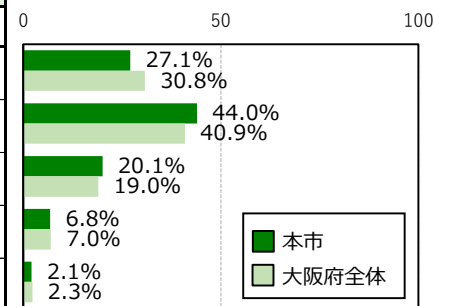
【全体】

	本市		大阪府全体	
	677名	100.0%	43,370名	100.0%
そう思う	178名	26.3%	12,318名	28.4%
どちらかというと思う	286名	42.2%	17,480名	40.3%
どちらかというと思わない	151名	22.3%	9,144名	21.1%
そう思わない	49名	7.2%	3,521名	8.1%
無回答	13名	1.9%	907名	2.1%



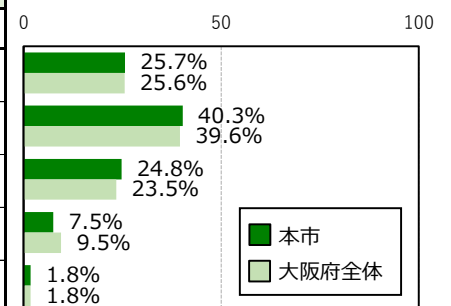
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	339名	100.0%	23,289名	100.0%
そう思う	92名	27.1%	7,172名	30.8%
どちらかというと思う	149名	44.0%	9,521名	40.9%
どちらかというと思わない	68名	20.1%	4,431名	19.0%
そう思わない	23名	6.8%	1,625名	7.0%
無回答	7名	2.1%	540名	2.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	19,990名	100.0%
そう思う	86名	25.7%	5,119名	25.6%
どちらかというと思う	135名	40.3%	7,917名	39.6%
どちらかというと思わない	83名	24.8%	4,703名	23.5%
そう思わない	25名	7.5%	1,891名	9.5%
無回答	6名	1.8%	360名	1.8%



ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（１）自分に自信がある

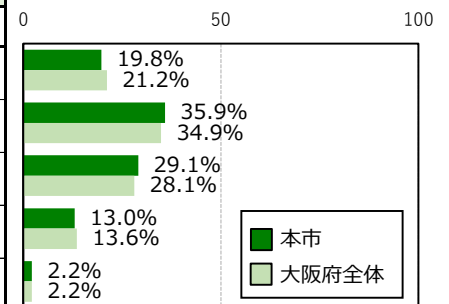
全体は、「どちらかというところある」が35.9%で最も多く、次いで「どちらかというところない」が29.1%、「ある」が19.8%、「ない」が13.0%となっている。

小学生は、「どちらかというところある」が39.5%で最も多く、次いで「ある」が25.1%、「どちらかというところない」が24.5%、「ない」が8.6%となっている。

中学生は、「どちらかというところない」が33.7%で最も多く、次いで「どちらかというところある」が32.2%、「ない」が17.3%、「ある」が14.6%となっている。

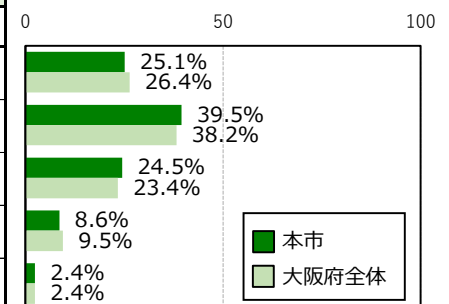
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	134名	19.8%	9,192名	21.2%
どちらかというところある	243名	35.9%	15,132名	34.9%
どちらかというところない	197名	29.1%	12,192名	28.1%
ない	88名	13.0%	5,898名	13.6%
無回答	15名	2.2%	956名	2.2%



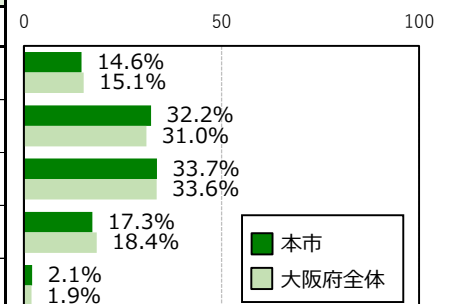
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	85名	25.1%	6,157名	26.4%
どちらかというところある	134名	39.5%	8,904名	38.2%
どちらかというところない	83名	24.5%	5,450名	23.4%
ない	29名	8.6%	2,211名	9.5%
無回答	8名	2.4%	567名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	49名	14.6%	3,011名	15.1%
どちらかというところある	108名	32.2%	6,202名	31.0%
どちらかというところない	113名	33.7%	6,716名	33.6%
ない	58名	17.3%	3,679名	18.4%
無回答	7名	2.1%	382名	1.9%



ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（2）自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

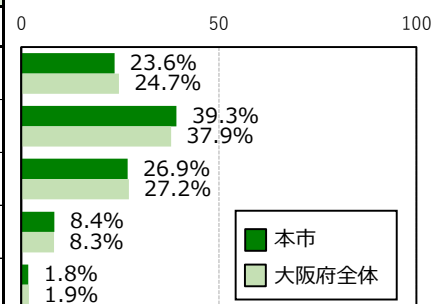
全体は、「どちらかというとできる」が39.3%で最も多く、次いで「どちらかというとできない」が26.9%、「できる」が23.6%、「できない」が8.4%となっている。

小学生は、「どちらかというとできる」が38.3%で最も多く、次いで「どちらかというとできない」が29.5%、「できる」が23.3%、「できない」が7.4%となっている。

中学生は、「どちらかというとできる」が40.3%で最も多く、次いで「どちらかというとできない」が24.5%、「できる」が23.6%、「できない」が9.6%となっている。

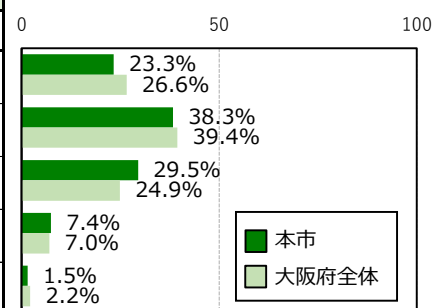
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
できる	160名	23.6%	10,725名	24.7%
どちらかというとできる	266名	39.3%	16,421名	37.9%
どちらかというとできない	182名	26.9%	11,801名	27.2%
できない	57名	8.4%	3,582名	8.3%
無回答	12名	1.8%	841名	1.9%



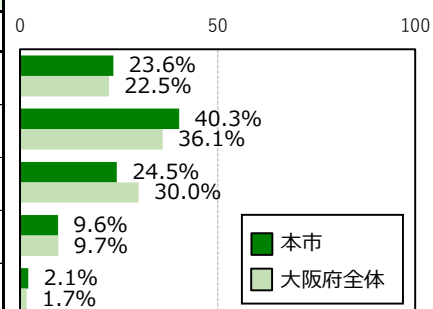
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
できる	79名	23.3%	6,187名	26.6%
どちらかというとできる	130名	38.3%	9,180名	39.4%
どちらかというとできない	100名	29.5%	5,791名	24.9%
できない	25名	7.4%	1,629名	7.0%
無回答	5名	1.5%	502名	2.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
できる	79名	23.6%	4,507名	22.5%
どちらかというとできる	135名	40.3%	7,209名	36.1%
どちらかというとできない	82名	24.5%	5,993名	30.0%
できない	32名	9.6%	1,947名	9.7%
無回答	7名	2.1%	334名	1.7%



ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（3）自分の将来の夢や目標を持っている

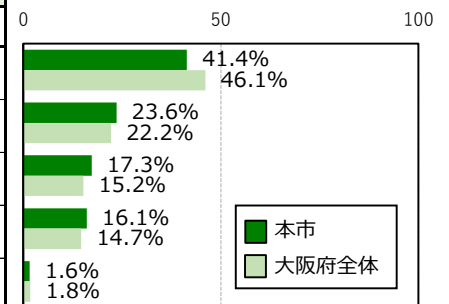
全体は、「持っている」が41.4%で最も多く、次いで「どちらかというを持っている」が23.6%、「どちらかというを持っていない」が17.3%、「持っていない」が16.1%となっている。

小学生は、「持っている」が51.0%で最も多く、次いで「どちらかというを持っている」が24.5%、「どちらかというを持っていない」が11.8%、「持っていない」が11.2%となっている。

中学生は、「持っている」が31.9%で最も多く、次いで「どちらかというを持っていない」が22.7%、「どちらかというを持っている」が22.4%、「持っていない」が21.2%となっている。

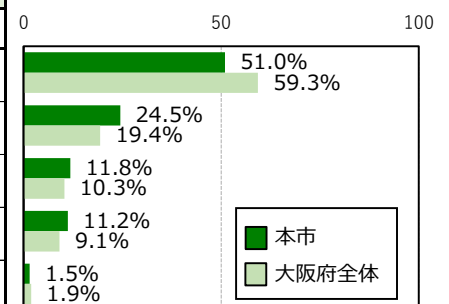
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
持っている	280名	41.4%	19,990名	46.1%
どちらかというを持っている	160名	23.6%	9,645名	22.2%
どちらかというを持っていない	117名	17.3%	6,609名	15.2%
持っていない	109名	16.1%	6,354名	14.7%
無回答	11名	1.6%	772名	1.8%



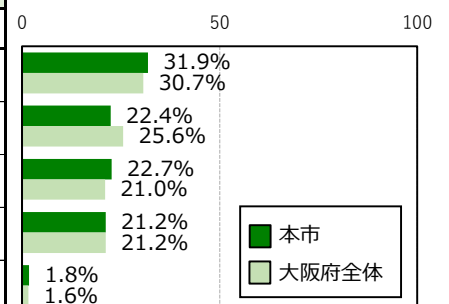
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
持っている	173名	51.0%	13,811名	59.3%
どちらかというを持っている	83名	24.5%	4,518名	19.4%
どちらかというを持っていない	40名	11.8%	2,398名	10.3%
持っていない	38名	11.2%	2,108名	9.1%
無回答	5名	1.5%	454名	1.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
持っている	107名	31.9%	6,139名	30.7%
どちらかというを持っている	75名	22.4%	5,108名	25.6%
どちらかというを持っていない	76名	22.7%	4,195名	21.0%
持っていない	71名	21.2%	4,235名	21.2%
無回答	6名	1.8%	313名	1.6%

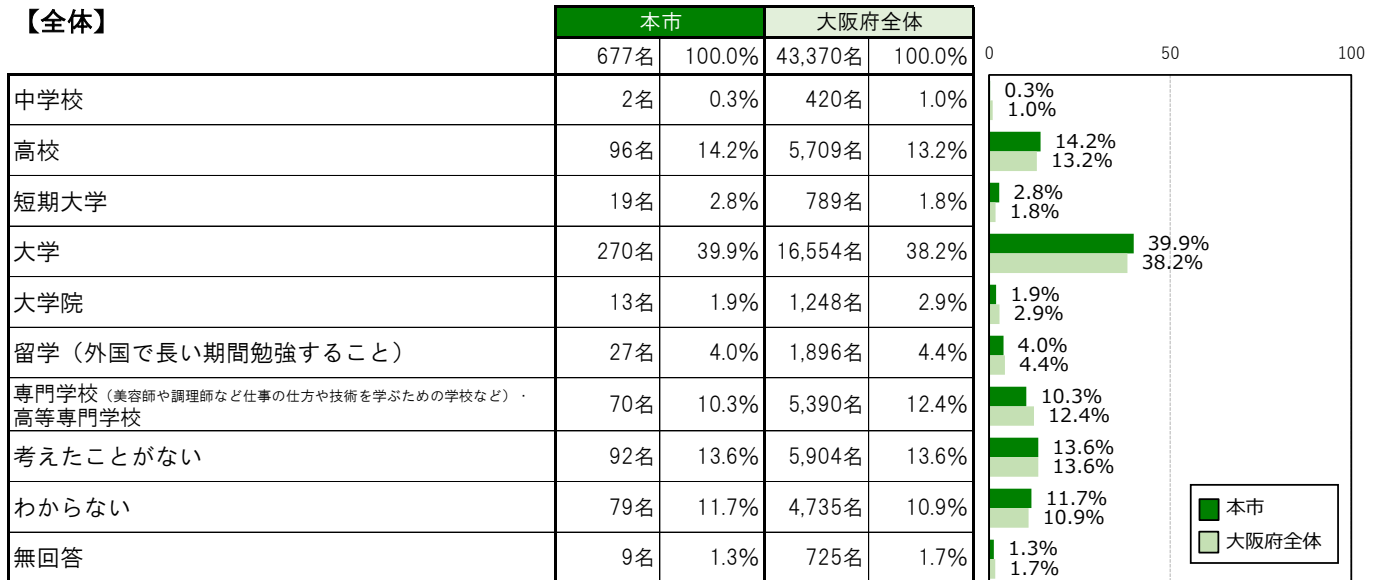


ふだん考えていることについて

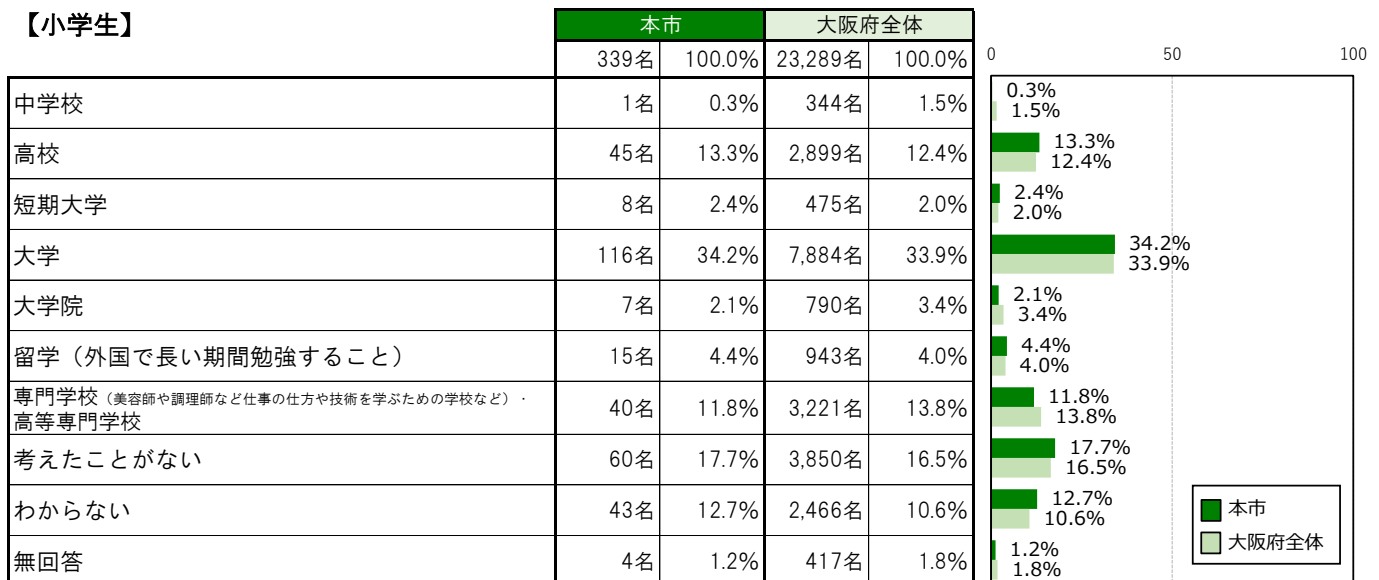
問24 希望する進学先

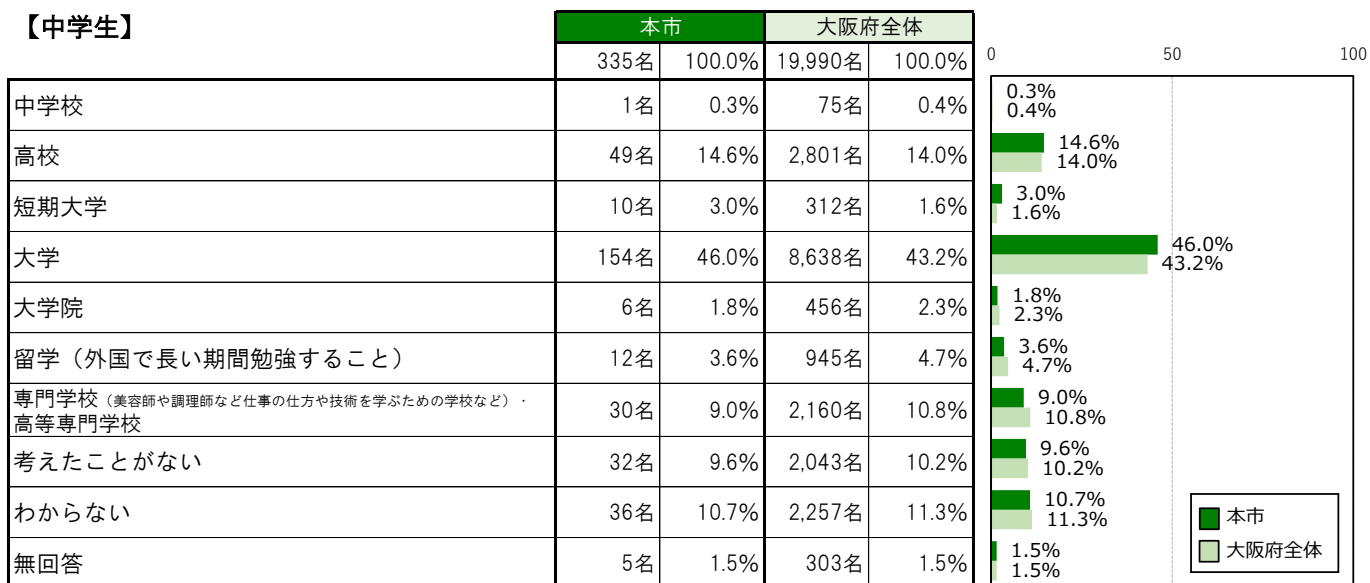
全体は、「大学」が39.9%で最も多く、次いで「高校」が14.2%、「考えたことがない」が13.6%、「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」が10.3%となっている。
 小学生は、「大学」が34.2%で最も多く、次いで「考えたことがない」が17.7%、「高校」が13.3%、「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」が11.8%となっている。
 中学生は、「大学」が46.0%で最も多く、次いで「高校」が14.6%、「考えたことがない」が9.6%、「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」が9.0%となっている。

【全体】



【小学生】





あなたのことについて

問25（１）子どもの居場所の利用状況 ①平日の夜や休日を過ごすことができる場所（学童保育など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が37.5%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が29.2%、「利用したことがある」が25.8%となっている。

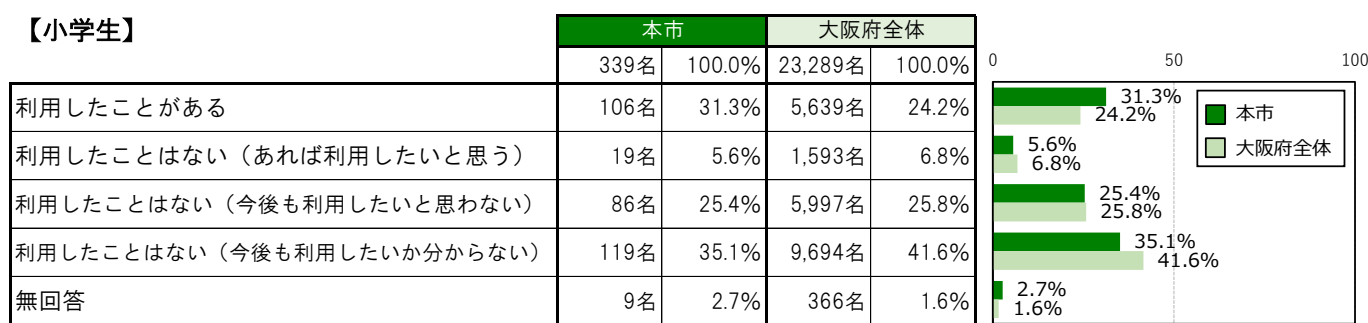
小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が35.1%で最も多く、次いで「利用したことがある」が31.3%、「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が25.4%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が40.3%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が33.4%、「利用したことがある」が20.3%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問25（１）子どもの居場所の利用状況

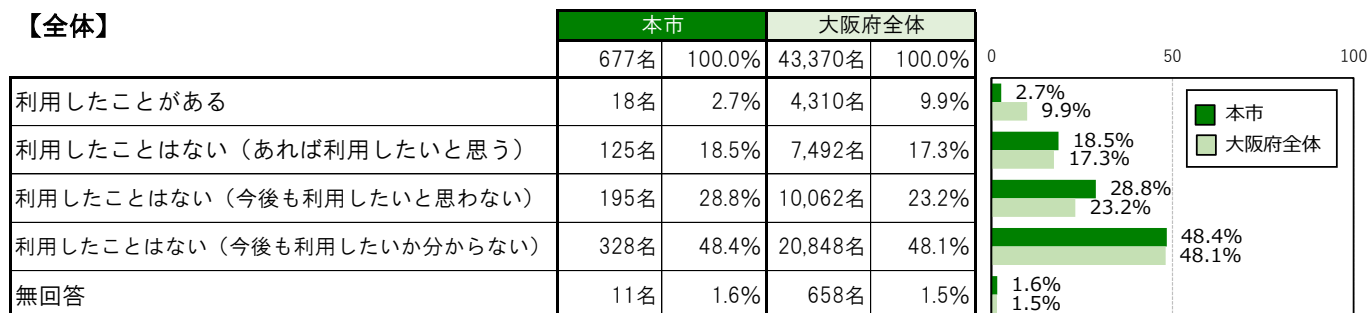
②昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が48.4%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が28.8%となっている。

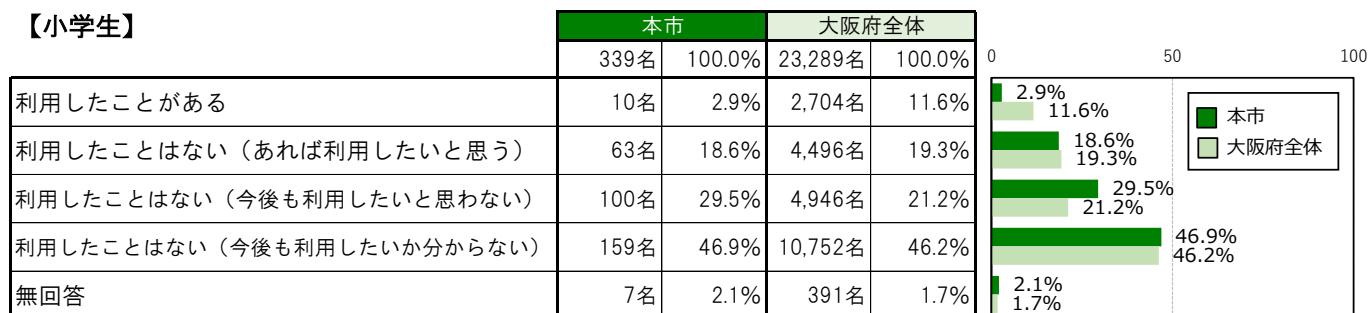
小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が46.9%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が29.5%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が50.4%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が28.1%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問25（１）子どもの居場所の利用状況

③勉強を無料か安い料金でみてくれる場所（一般的な学習塾とはちがう学習支援など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が45.8%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が31.2%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が16.8%、「利用したことがある」が4.6%となっている。

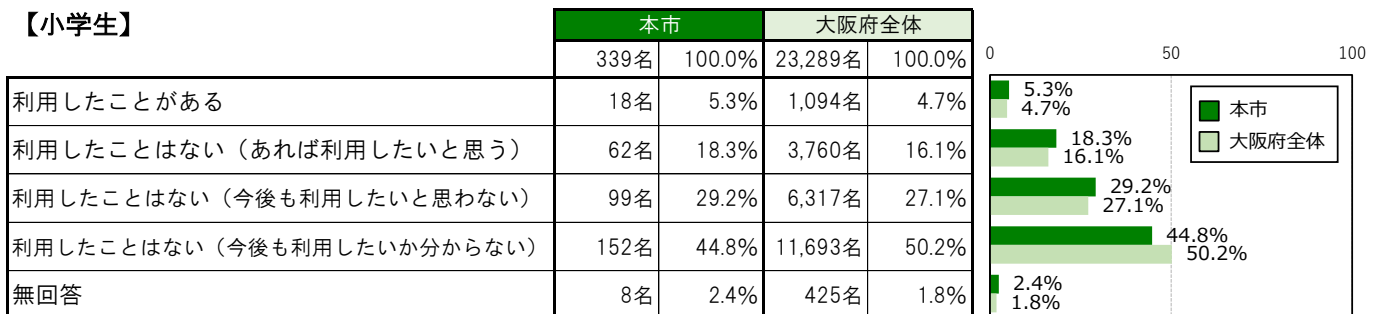
小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が44.8%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が29.2%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が18.3%、「利用したことがある」が5.3%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が46.9%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が33.4%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が15.2%、「利用したことがある」が3.6%となっている。

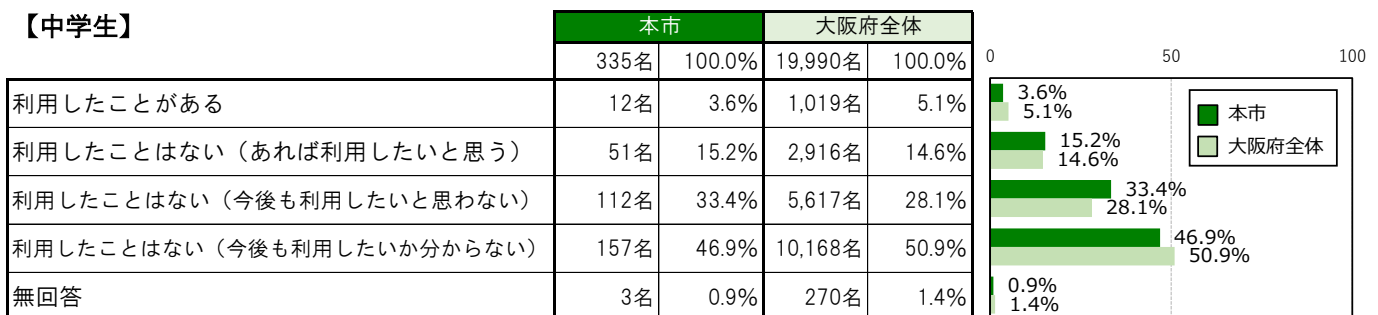
【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

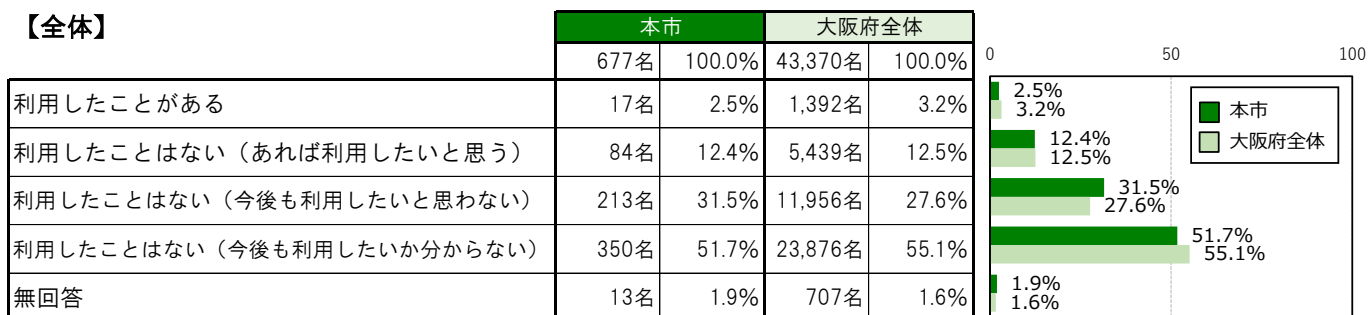
問25（１）子どもの居場所の利用状況 ④何でも相談できる場所（電話やネットの相談をふくむ。）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が51.7%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が31.5%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が12.4%、「利用したことがある」が2.5%となっている。

小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が48.1%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が32.7%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が13.9%、「利用したことがある」が2.7%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が55.8%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が30.1%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が10.4%、「利用したことがある」が2.4%となっている。

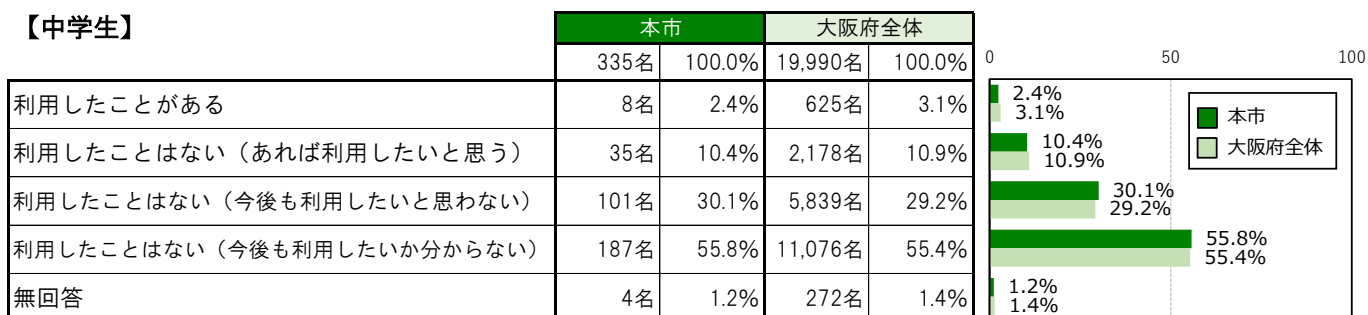
【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

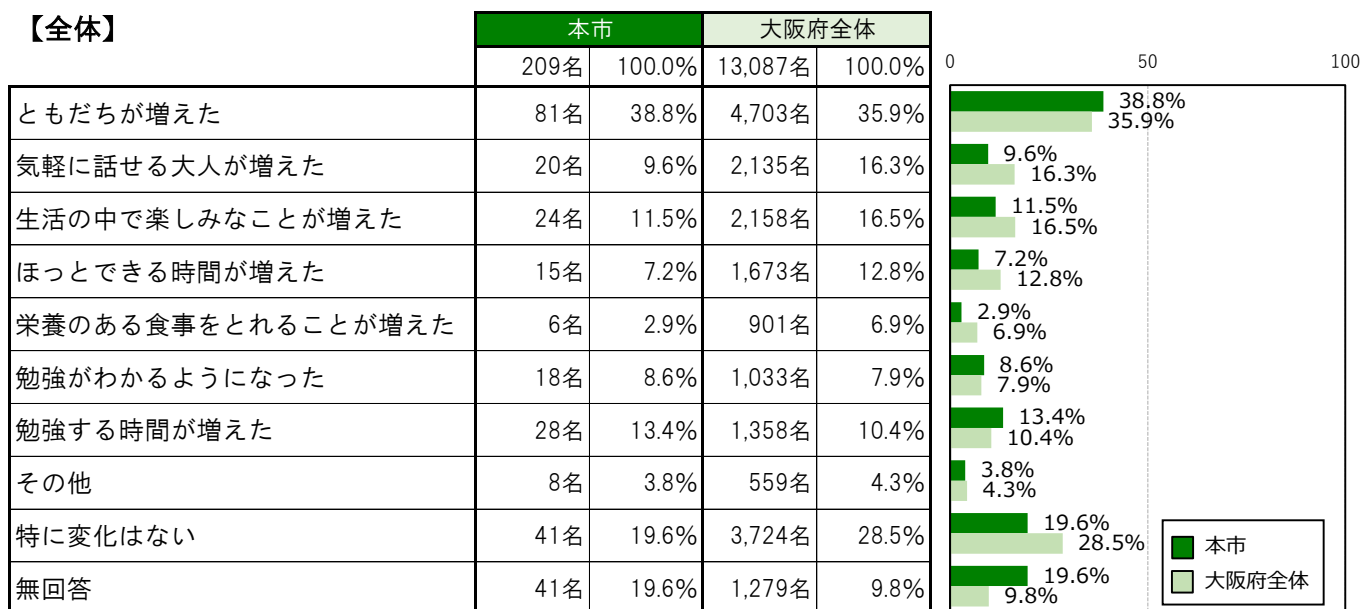
問25（2）子どもの居場所を利用したときの変化

全体は、「ともだちが増えた」が38.8%で最も多く、次いで「勉強する時間が増えた」が13.4%、「生活の中で楽しいことが増えた」が11.5%、「気軽に話せる大人が増えた」が9.6%となっている。

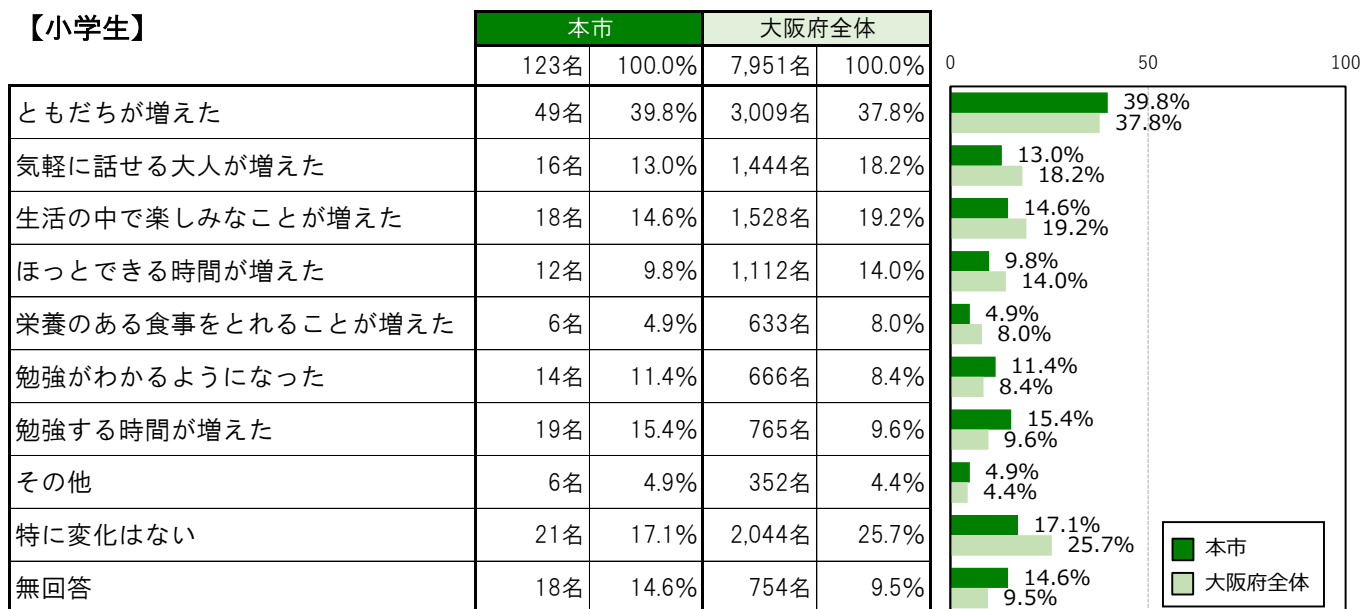
小学生は、「ともだちが増えた」が39.8%で最も多く、次いで「勉強する時間が増えた」が15.4%、「生活の中で楽しいことが増えた」が14.6%、「気軽に話せる大人が増えた」が13.0%となっている。

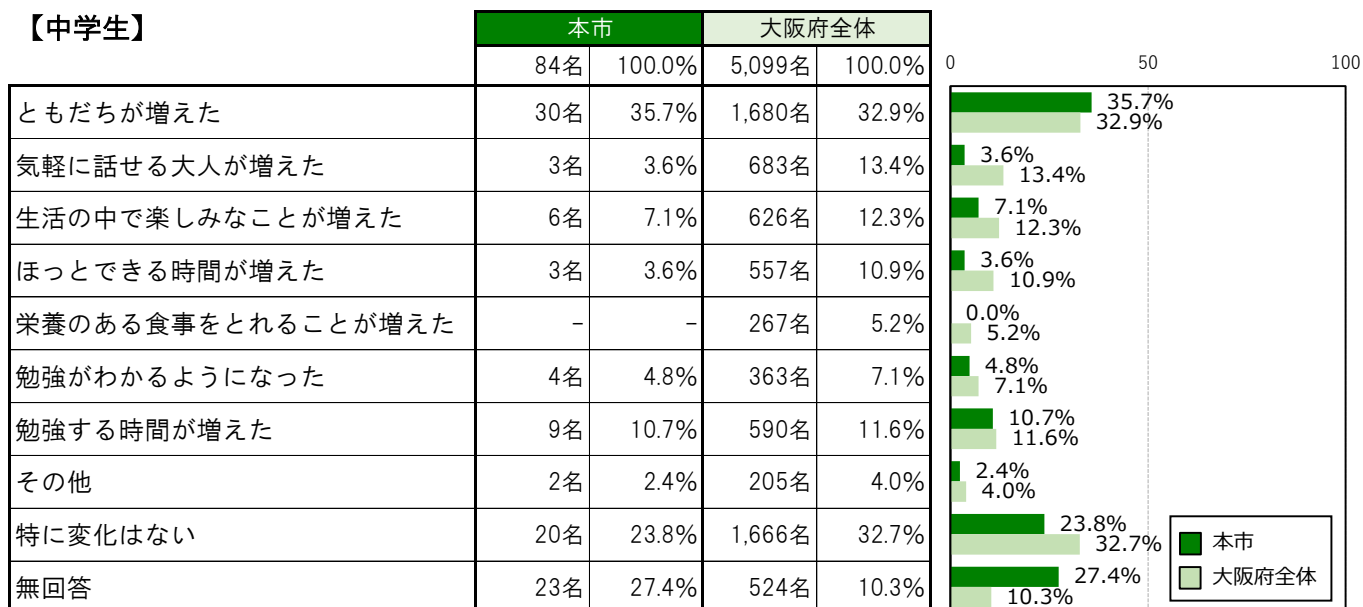
中学生は、「ともだちが増えた」が35.7%で最も多く、次いで「勉強する時間が増えた」が10.7%、「生活の中で楽しいことが増えた」が7.1%、「勉強がわかるようになった」が4.8%となっている。

【全体】



【小学生】





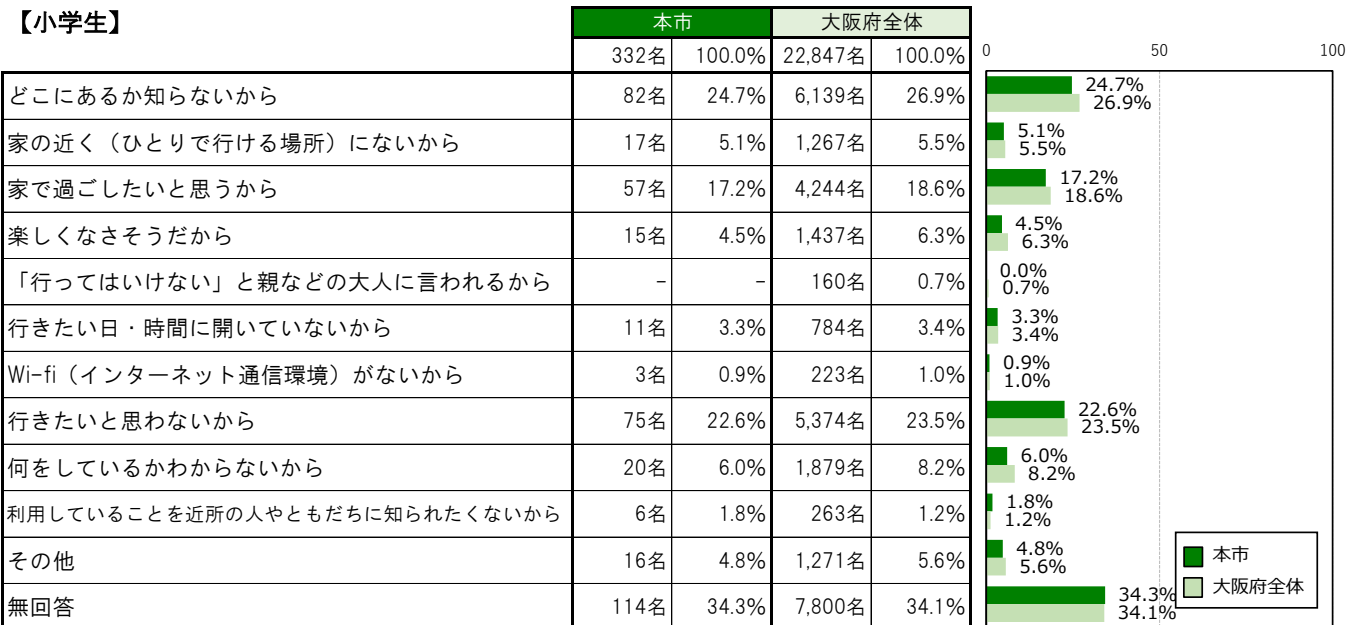
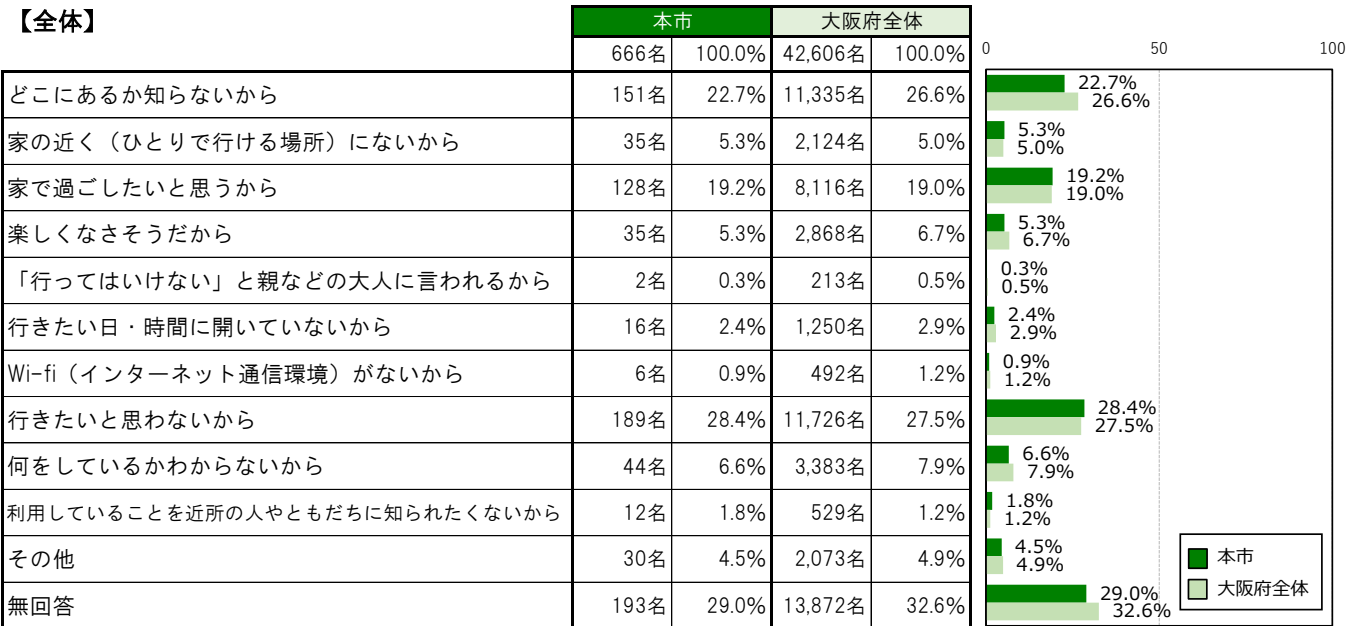
あなたのことについて

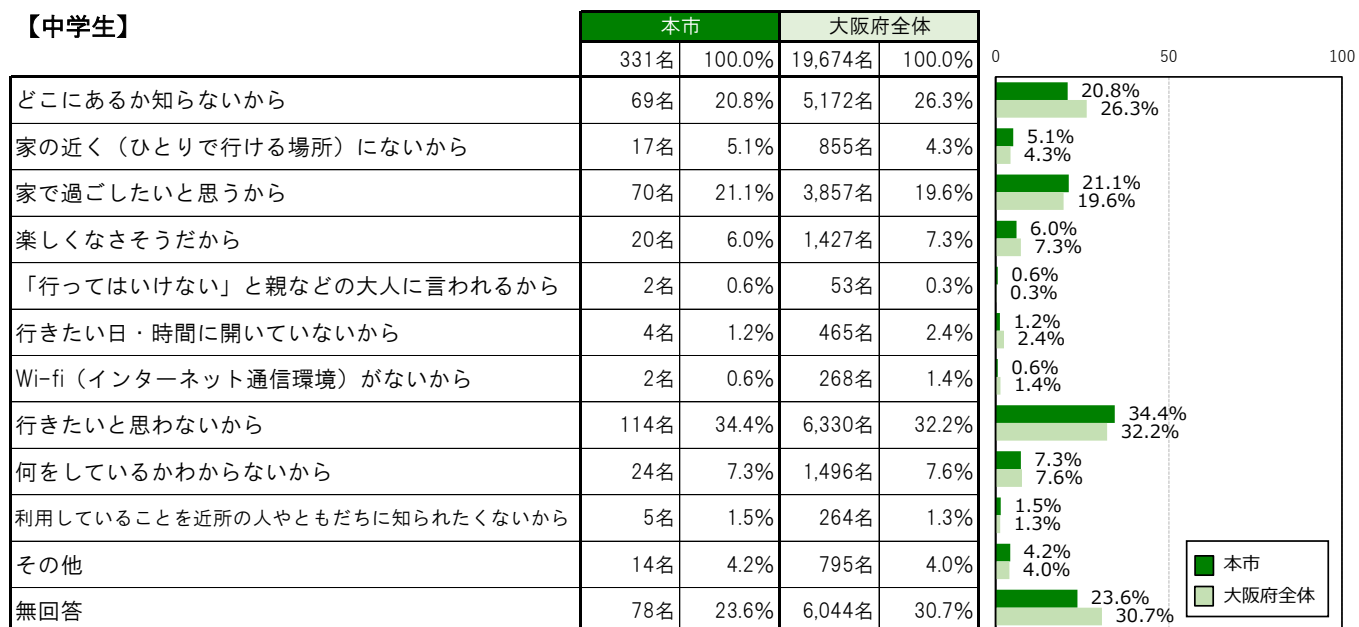
問25（3）子どもの居場所を利用したことがない理由

全体は、「行きたいと思わないから」が28.4%で最も多く、次いで「どこにあるか知らないから」が22.7%、「家で過ごしたいと思うから」が19.2%、「何をしているかわからないから」が6.6%となっている。

小学生は、「どこにあるか知らないから」が24.7%で最も多く、次いで「行きたいと思わないから」が22.6%、「家で過ごしたいと思うから」が17.2%、「何をしているかわからないから」が6.0%となっている。

中学生は、「行きたいと思わないから」が34.4%で最も多く、次いで「家で過ごしたいと思うから」が21.1%、「どこにあるか知らないから」が20.8%、「何をしているかわからないから」が7.3%となっている。





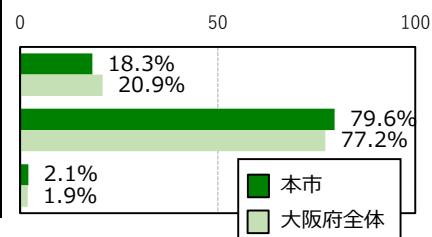
あなたのことについて

問26（１）自分が世話をしている人の有無

全体は、「いる」が18.3%、「いない」が79.6%となっている。
 小学生は、「いる」が22.4%、「いない」が75.5%となっている。
 中学生は、「いる」が14.0%、「いない」が83.9%となっている。

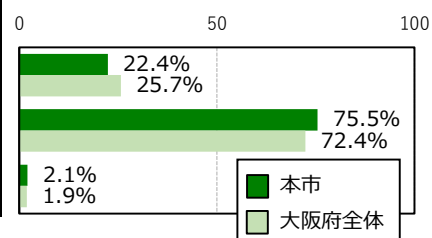
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	677名	100.0%	43,370名	100.0%
いる	124名	18.3%	9,054名	20.9%
いない	539名	79.6%	33,476名	77.2%
無回答	14名	2.1%	840名	1.9%



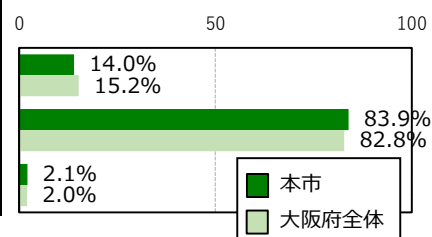
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	339名	100.0%	23,289名	100.0%
いる	76名	22.4%	5,988名	25.7%
いない	256名	75.5%	16,856名	72.4%
無回答	7名	2.1%	445名	1.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	335名	100.0%	19,990名	100.0%
いる	47名	14.0%	3,045名	15.2%
いない	281名	83.9%	16,553名	82.8%
無回答	7名	2.1%	392名	2.0%



あなたのことについて

問26（2）世話をしている相手

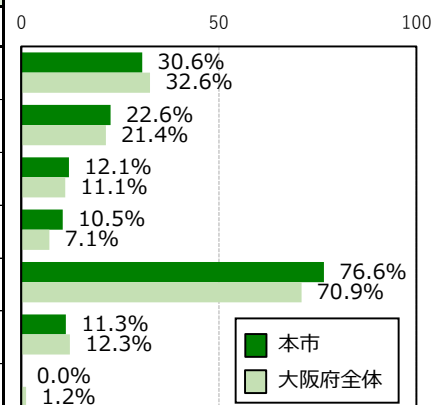
全体は、「きょうだい」が76.6%で最も多く、次いで「お母さん」が30.6%、「お父さん」が22.6%、「おばあちゃん」が12.1%となっている。

小学生は、「きょうだい」が76.3%で最も多く、次いで「お母さん」が28.9%、「お父さん」が18.4%、「おばあちゃん」が13.2%となっている。

中学生は、「きょうだい」が76.6%で最も多く、次いで「お母さん」が31.9%、「お父さん」が27.7%、「おばあちゃん」、「おじいちゃん」がそれぞれ10.6%となっている。

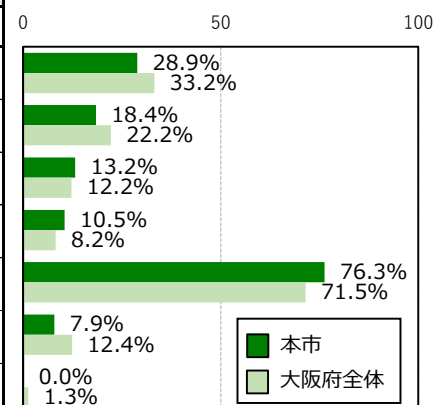
【全体】

	本市		大阪府全体	
	124名	100.0%	9,054名	100.0%
お母さん	38名	30.6%	2,954名	32.6%
お父さん	28名	22.6%	1,939名	21.4%
おばあちゃん	15名	12.1%	1,009名	11.1%
おじいちゃん	13名	10.5%	647名	7.1%
きょうだい	95名	76.6%	6,419名	70.9%
その他	14名	11.3%	1,117名	12.3%
無回答	-	-	112名	1.2%



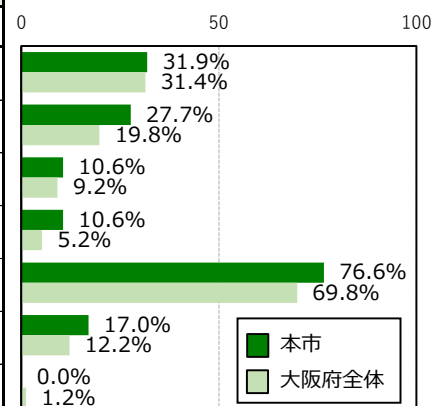
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	76名	100.0%	5,988名	100.0%
お母さん	22名	28.9%	1,990名	33.2%
お父さん	14名	18.4%	1,332名	22.2%
おばあちゃん	10名	13.2%	728名	12.2%
おじいちゃん	8名	10.5%	489名	8.2%
きょうだい	58名	76.3%	4,280名	71.5%
その他	6名	7.9%	741名	12.4%
無回答	-	-	75名	1.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	47名	100.0%	3,045名	100.0%
お母さん	15名	31.9%	957名	31.4%
お父さん	13名	27.7%	604名	19.8%
おばあちゃん	5名	10.6%	280名	9.2%
おじいちゃん	5名	10.6%	157名	5.2%
きょうだい	36名	76.6%	2,125名	69.8%
その他	8名	17.0%	370名	12.2%
無回答	-	-	37名	1.2%



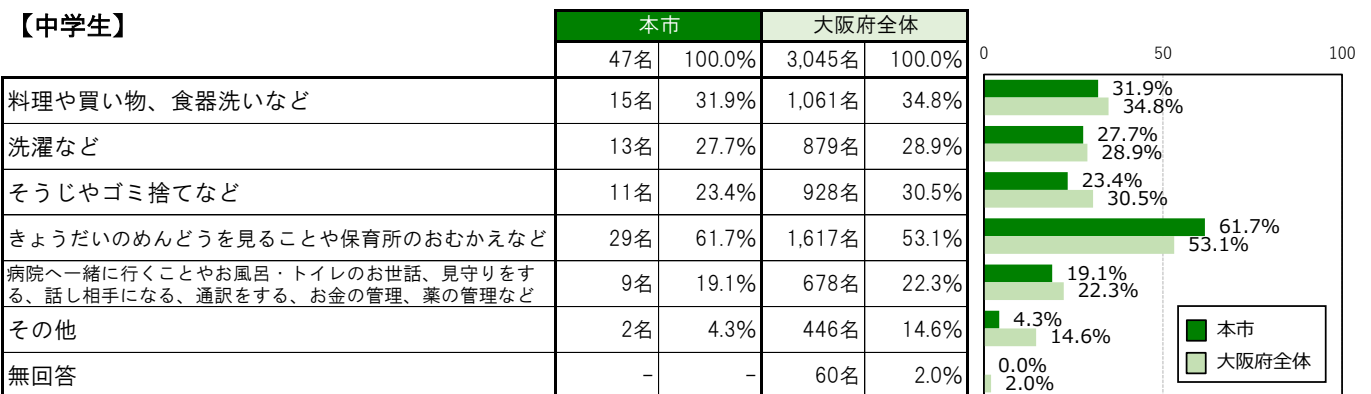
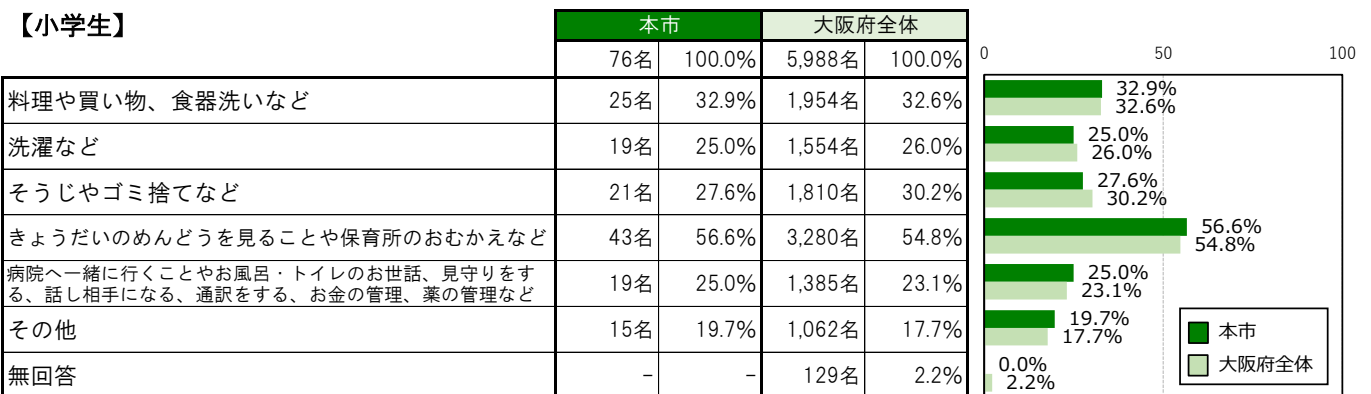
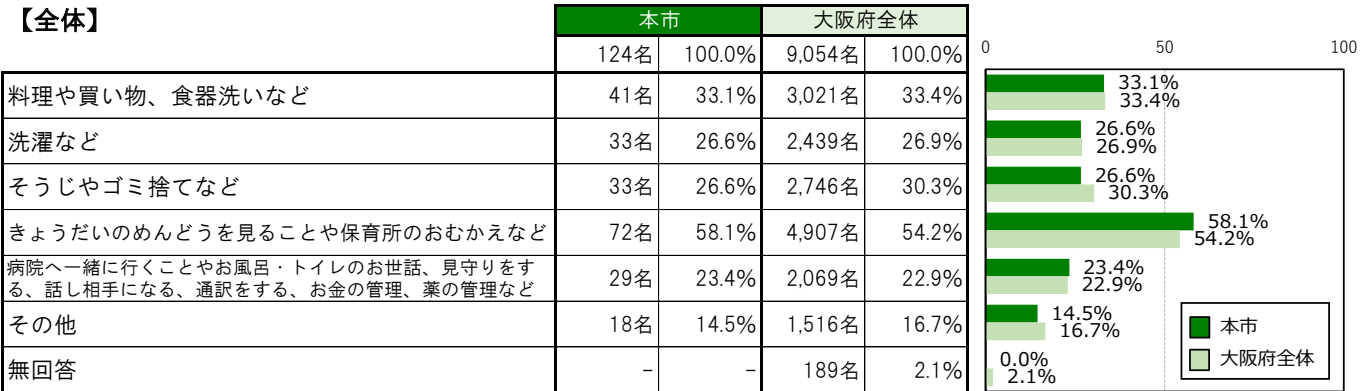
あなたのことについて

問26（3）世話をしている内容

全体は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が58.1%で最も多く、次いで「料理や買い物、食器洗いなど」が33.1%、「洗濯など」、「そうじやゴミ捨てなど」がそれぞれ26.6%となっている。

小学生は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が56.6%で最も多く、次いで「料理や買い物、食器洗いなど」が32.9%、「そうじやゴミ捨てなど」が27.6%となっている。

中学生は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が61.7%で最も多く、次いで「料理や買い物、食器洗いなど」が31.9%、「洗濯など」が27.7%となっている。



あなたのことについて

問26（５）世話をする頻度

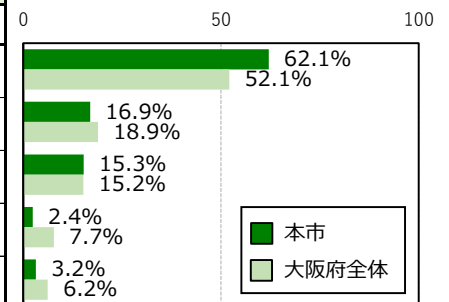
全体は、「ほぼ毎日」が62.1%で最も多く、次いで「週に3日～5日」が16.9%、「週に1日または2日」が15.3%、「1か月に数日」が2.4%となっている。

小学生は、「ほぼ毎日」が67.1%で最も多く、次いで「週に3日～5日」が17.1%、「週に1日または2日」が10.5%、「1か月に数日」が1.3%となっている。

中学生は、「ほぼ毎日」が53.2%で最も多く、次いで「週に1日または2日」が23.4%、「週に3日～5日」が17.0%、「1か月に数日」が4.3%となっている。

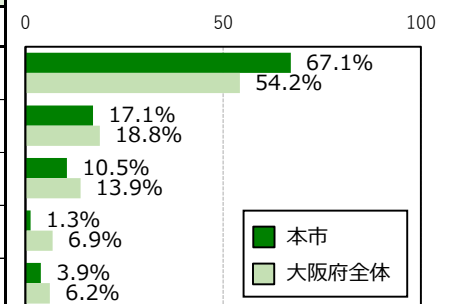
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日	77名	62.1%	4,716名	52.1%
週に3日～5日	21名	16.9%	1,708名	18.9%
週に1日または2日	19名	15.3%	1,375名	15.2%
1か月に数日	3名	2.4%	694名	7.7%
無回答	4名	3.2%	561名	6.2%



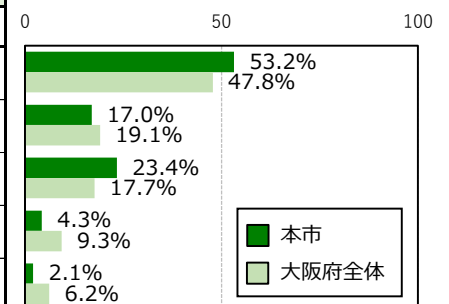
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日	51名	67.1%	3,246名	54.2%
週に3日～5日	13名	17.1%	1,125名	18.8%
週に1日または2日	8名	10.5%	832名	13.9%
1か月に数日	1名	1.3%	412名	6.9%
無回答	3名	3.9%	373名	6.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日	25名	53.2%	1,455名	47.8%
週に3日～5日	8名	17.0%	582名	19.1%
週に1日または2日	11名	23.4%	538名	17.7%
1か月に数日	2名	4.3%	282名	9.3%
無回答	1名	2.1%	188名	6.2%



あなたのことについて

問26（6）学校がある日に世話をする1日の時間

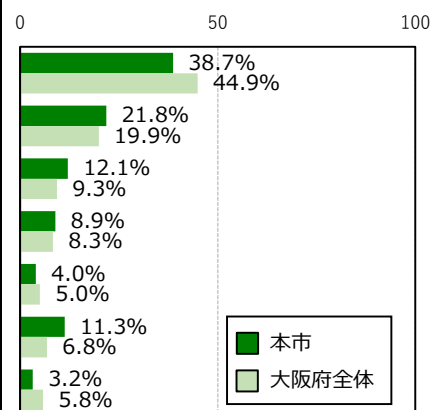
全体は、「1時間より少ない」が38.7%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が21.8%、「2時間以上、3時間より少ない」が12.1%、「7時間より多い」が11.3%となっている。

小学生は、「1時間より少ない」が35.5%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が21.1%、「7時間より多い」が15.8%となっている。

中学生は、「1時間より少ない」が44.7%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が23.4%、「2時間以上、3時間より少ない」が14.9%、「3時間以上、5時間より少ない」が6.4%となっている。

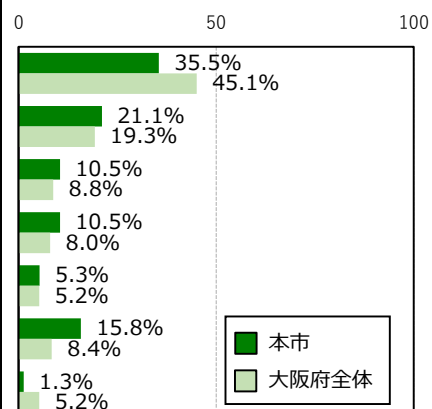
【全体】

	本市		大阪府全体	
	124名	100.0%	9,054名	100.0%
1時間より少ない	48名	38.7%	4,062名	44.9%
1時間以上、2時間より少ない	27名	21.8%	1,805名	19.9%
2時間以上、3時間より少ない	15名	12.1%	843名	9.3%
3時間以上、5時間より少ない	11名	8.9%	751名	8.3%
5時間以上、7時間より少ない	5名	4.0%	450名	5.0%
7時間より多い	14名	11.3%	617名	6.8%
無回答	4名	3.2%	526名	5.8%



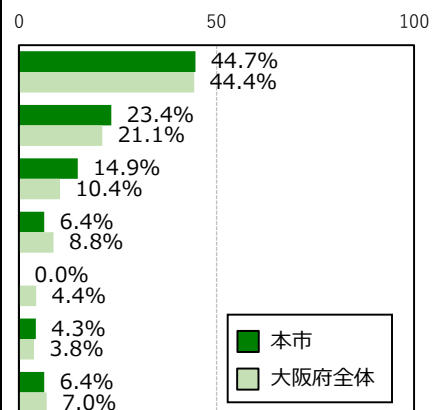
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	76名	100.0%	5,988名	100.0%
1時間より少ない	27名	35.5%	2,700名	45.1%
1時間以上、2時間より少ない	16名	21.1%	1,156名	19.3%
2時間以上、3時間より少ない	8名	10.5%	525名	8.8%
3時間以上、5時間より少ない	8名	10.5%	482名	8.0%
5時間以上、7時間より少ない	4名	5.3%	314名	5.2%
7時間より多い	12名	15.8%	500名	8.4%
無回答	1名	1.3%	311名	5.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	47名	100.0%	3,045名	100.0%
1時間より少ない	21名	44.7%	1,353名	44.4%
1時間以上、2時間より少ない	11名	23.4%	644名	21.1%
2時間以上、3時間より少ない	7名	14.9%	316名	10.4%
3時間以上、5時間より少ない	3名	6.4%	267名	8.8%
5時間以上、7時間より少ない	-	-	135名	4.4%
7時間より多い	2名	4.3%	116名	3.8%
無回答	3名	6.4%	214名	7.0%



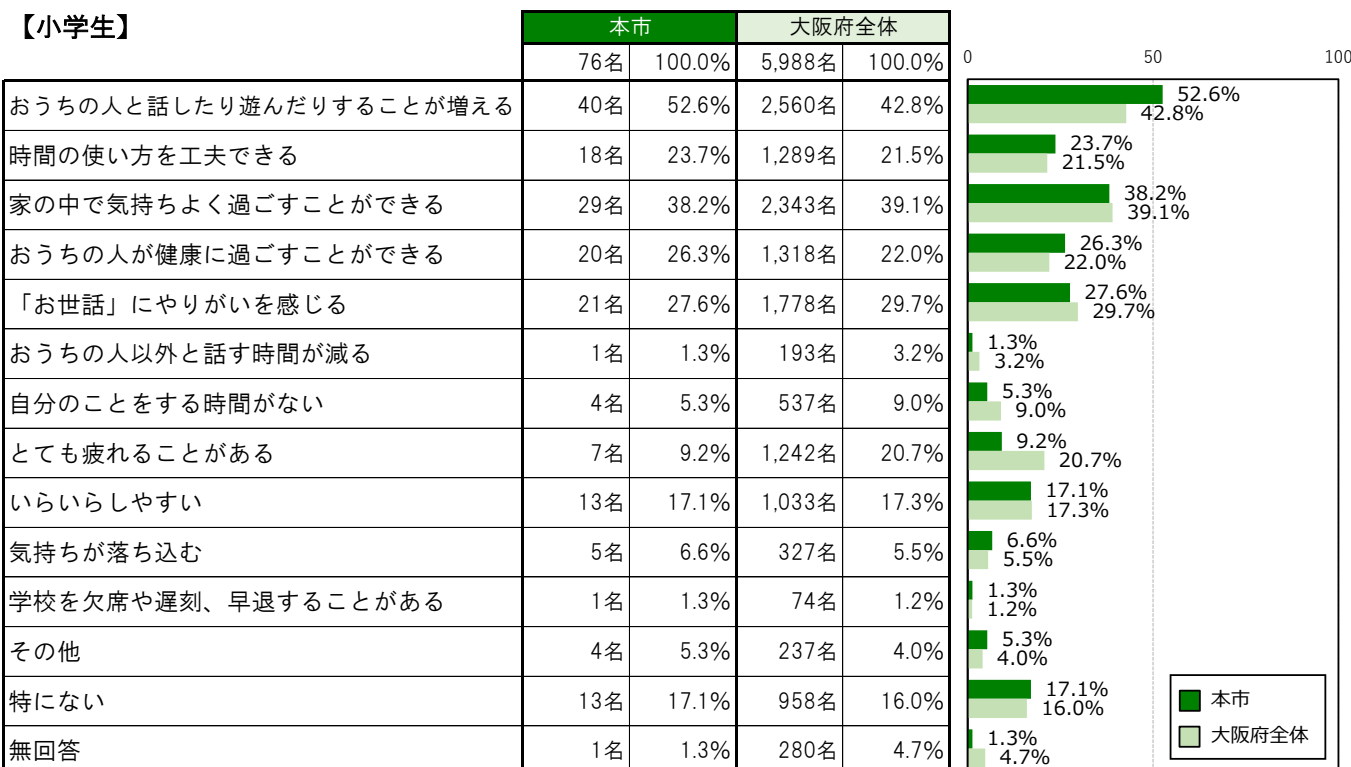
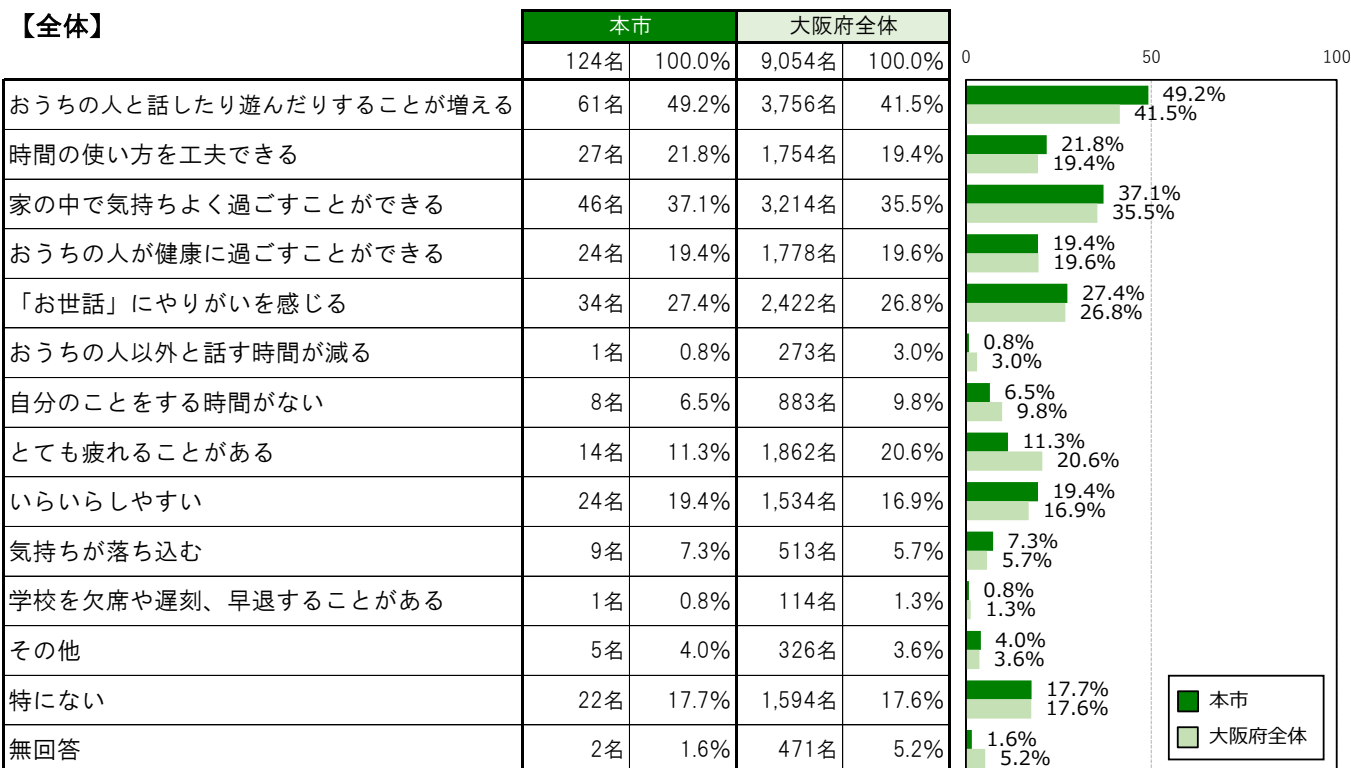
あなたのことについて

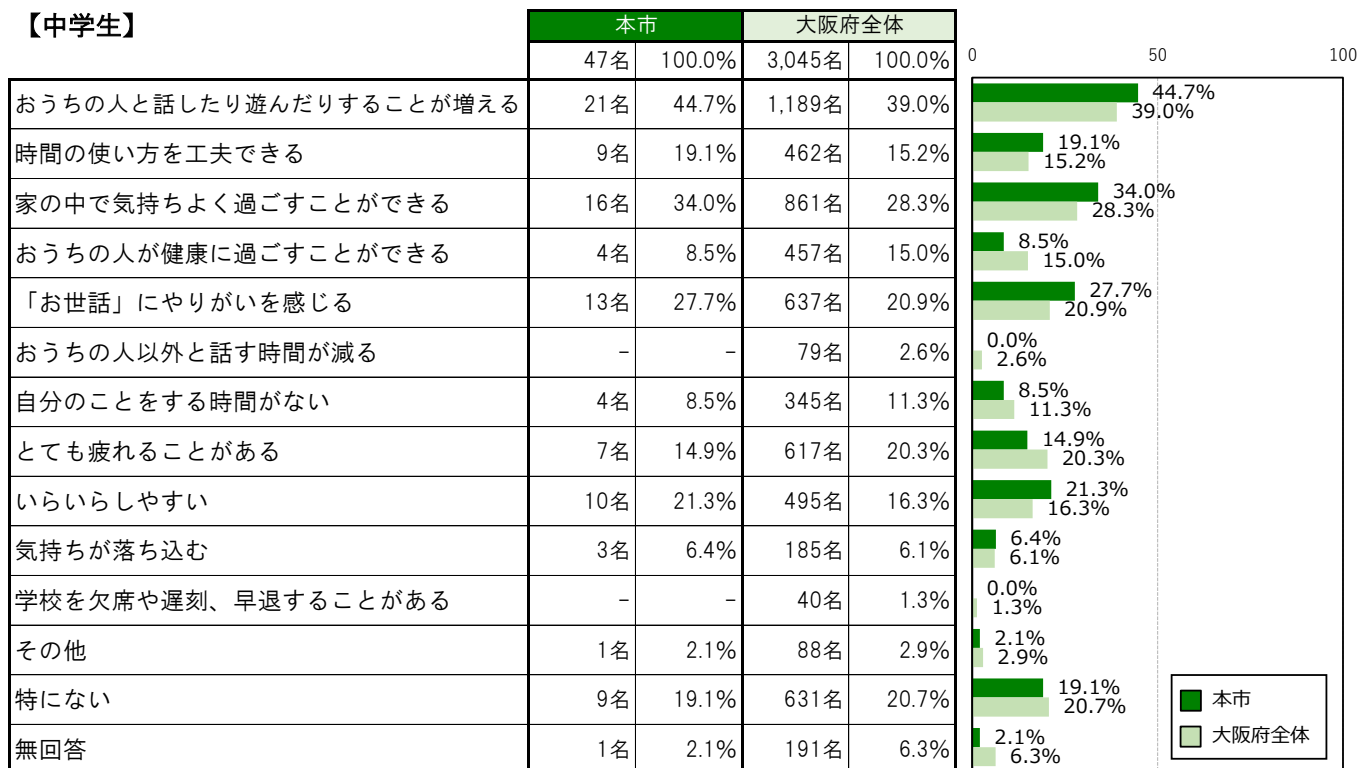
問26（7）世話をしていることの影響

全体は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が49.2%で最も多く、次いで「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が37.1%、「「お世話」にやりがいを感じる」が27.4%、「時間の使い方を工夫できる」が21.8%となっている。

小学生は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が52.6%で最も多く、次いで「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が38.2%、「「お世話」にやりがいを感じる」が27.6%、「おうちの人健康に過ごすことができる」が26.3%となっている。

中学生は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が44.7%で最も多く、次いで「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が34.0%、「「お世話」にやりがいを感じる」が27.7%、「いらいらしやすい」が21.3%となっている。





2. 単純集計結果〔保護者〕

柏原市

子どもとの関係について

問1 子どもとの続柄

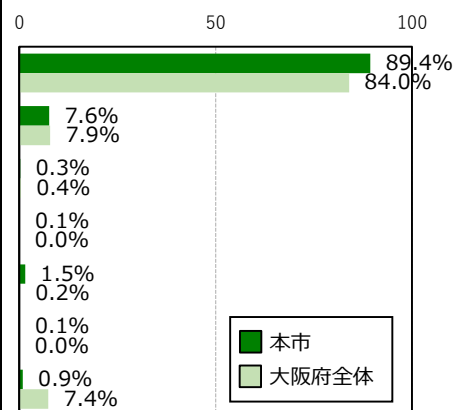
保護者全体は、「お母さん」が89.4%で最も多く、次いで「お父さん」が7.6%、「施設職員・ファミリーホーム・里親」が1.5%となっている。

小学生の保護者は、「お母さん」が89.0%で最も多く、次いで「お父さん」が7.8%、「施設職員・ファミリーホーム・里親」が1.5%となっている。

中学生の保護者は、「お母さん」が90.0%で最も多く、次いで「お父さん」が7.3%、「施設職員・ファミリーホーム・里親」が1.7%となっている。

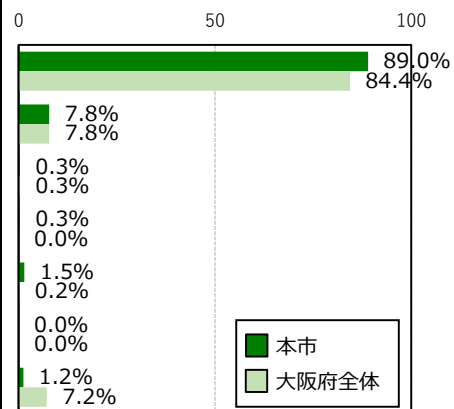
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	669名	100.0%	43,358名	100.0%
お母さん	598名	89.4%	36,436名	84.0%
お父さん	51名	7.6%	3,426名	7.9%
おじいさん・おばあさん	2名	0.3%	154名	0.4%
おじ、おばなど親戚	1名	0.1%	15名	0.0%
施設職員・ファミリーホーム・里親	10名	1.5%	91名	0.2%
その他の人	1名	0.1%	14名	0.0%
無回答	6名	0.9%	3,222名	7.4%



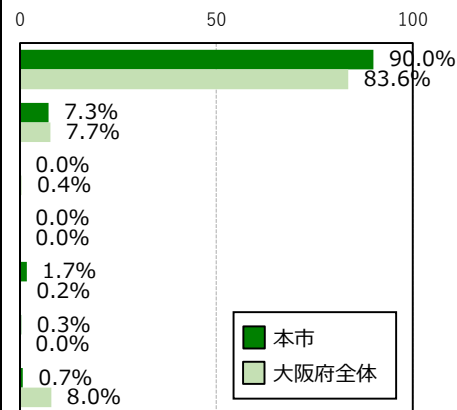
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	22,819名	100.0%
お母さん	298名	89.0%	19,261名	84.4%
お父さん	26名	7.8%	1,776名	7.8%
おじいさん・おばあさん	1名	0.3%	75名	0.3%
おじ、おばなど親戚	1名	0.3%	7名	0.0%
施設職員・ファミリーホーム・里親	5名	1.5%	47名	0.2%
その他の人	-	-	3名	0.0%
無回答	4名	1.2%	1,650名	7.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	289名	100.0%	19,390名	100.0%
お母さん	260名	90.0%	16,208名	83.6%
お父さん	21名	7.3%	1,488名	7.7%
おじいさん・おばあさん	-	-	77名	0.4%
おじ、おばなど親戚	-	-	7名	0.0%
施設職員・ファミリーホーム・里親	5名	1.7%	44名	0.2%
その他の人	1名	0.3%	8名	0.0%
無回答	2名	0.7%	1,558名	8.0%



世帯の状況について

問2 世帯構成 ①おばあさん

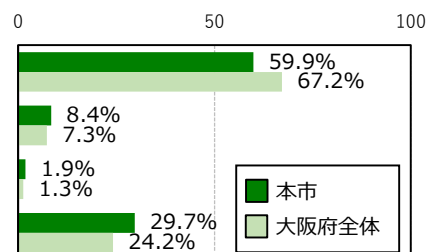
保護者全体は、「いない」が59.9%で最も多く、次いで「1人」が8.4%、「2人」が1.9%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が60.0%で最も多く、次いで「1人」が9.3%、「2人」が1.8%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が60.6%で最も多く、次いで「1人」が8.3%、「2人」が1.4%となっている。

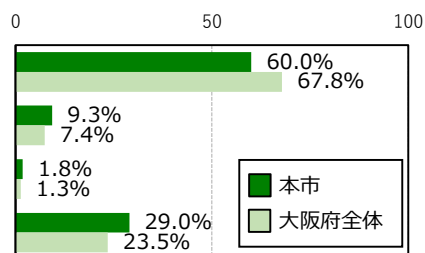
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	401名	59.9%	29,081名	67.2%
1人	56名	8.4%	3,181名	7.3%
2人	13名	1.9%	555名	1.3%
無回答	199名	29.7%	10,483名	24.2%



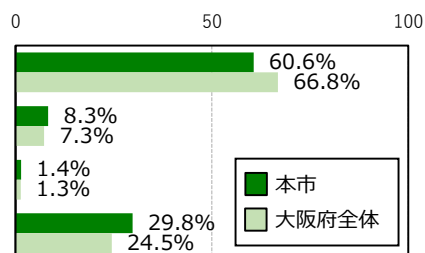
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	201名	60.0%	15,456名	67.8%
1人	31名	9.3%	1,681名	7.4%
2人	6名	1.8%	286名	1.3%
無回答	97名	29.0%	5,363名	23.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	175名	60.6%	12,942名	66.8%
1人	24名	8.3%	1,422名	7.3%
2人	4名	1.4%	257名	1.3%
無回答	86名	29.8%	4,744名	24.5%



世帯の状況について

問2 世帯構成 ②おじいさん

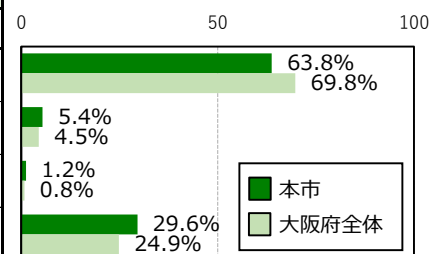
保護者全体は、「いない」が63.8%で最も多く、次いで「1人」が5.4%、「2人」が1.2%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が62.4%で最も多く、次いで「1人」が6.6%、「2人」が1.5%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が66.1%で最も多く、次いで「1人」が4.2%、「2人」が1.0%となっている。

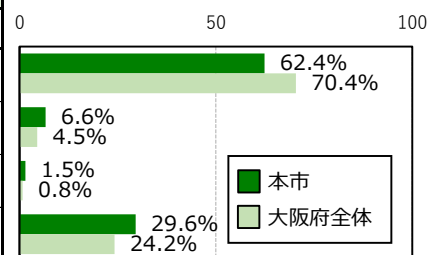
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	427名	63.8%	30,230名	69.8%
1人	36名	5.4%	1,932名	4.5%
2人	8名	1.2%	340名	0.8%
無回答	198名	29.6%	10,798名	24.9%



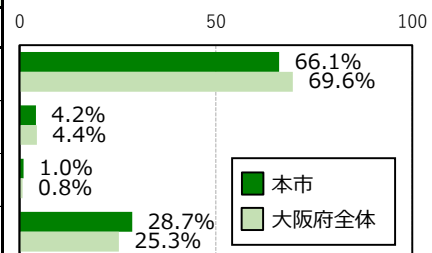
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	209名	62.4%	16,050名	70.4%
1人	22名	6.6%	1,031名	4.5%
2人	5名	1.5%	186名	0.8%
無回答	99名	29.6%	5,519名	24.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	191名	66.1%	13,474名	69.6%
1人	12名	4.2%	853名	4.4%
2人	3名	1.0%	148名	0.8%
無回答	83名	28.7%	4,890名	25.3%



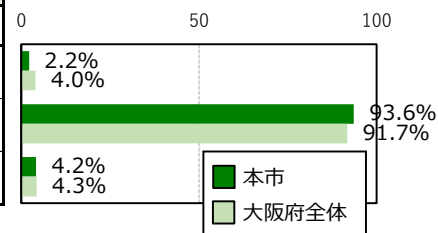
世帯の状況について

問2 世帯構成 ③お母さん

保護者全体は、「いない」が2.2%、「1人」が93.6%となっている。
 小学生の保護者は、「いない」が2.1%、「1人」が93.1%となっている。
 中学生の保護者は、「いない」が2.4%、「1人」が93.8%となっている。

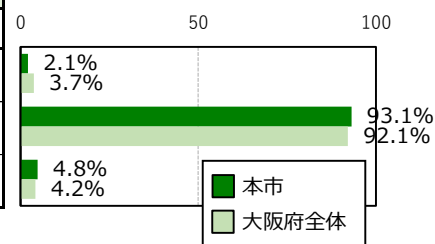
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	669名	100.0%	43,300名	100.0%
いない	15名	2.2%	1,729名	4.0%
1人	626名	93.6%	39,706名	91.7%
無回答	28名	4.2%	1,865名	4.3%



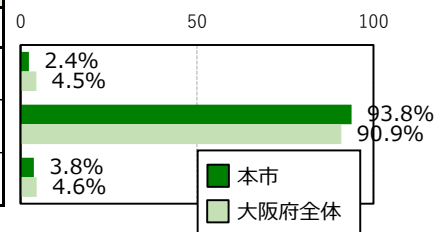
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	22,786名	100.0%
いない	7名	2.1%	841名	3.7%
1人	312名	93.1%	20,990名	92.1%
無回答	16名	4.8%	955名	4.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	289名	100.0%	19,365名	100.0%
いない	7名	2.4%	872名	4.5%
1人	271名	93.8%	17,597名	90.9%
無回答	11名	3.8%	896名	4.6%



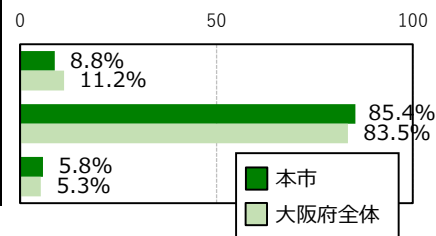
世帯の状況について

問2 世帯構成 ④お父さん

保護者全体は、「いない」が8.8%、「1人」が85.4%となっている。
 小学生の保護者は、「いない」が7.5%、「1人」が85.7%となっている。
 中学生の保護者は、「いない」が10.4%、「1人」が85.1%となっている。

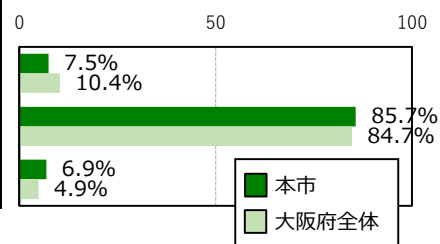
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	669名	100.0%	43,300名	100.0%
いない	59名	8.8%	4,852名	11.2%
1人	571名	85.4%	36,166名	83.5%
無回答	39名	5.8%	2,282名	5.3%



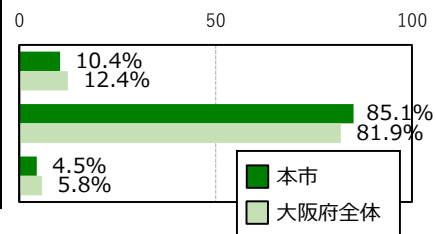
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	22,786名	100.0%
いない	25名	7.5%	2,372名	10.4%
1人	287名	85.7%	19,301名	84.7%
無回答	23名	6.9%	1,113名	4.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	289名	100.0%	19,365名	100.0%
いない	30名	10.4%	2,394名	12.4%
1人	246名	85.1%	15,852名	81.9%
無回答	13名	4.5%	1,119名	5.8%



世帯の状況について

問2 世帯構成 ⑤姉・兄

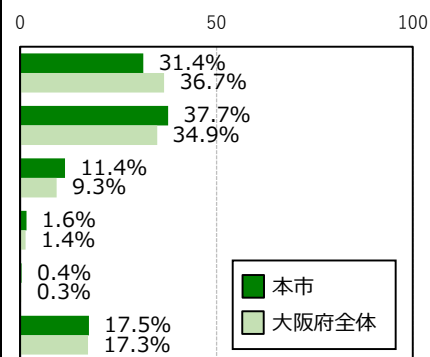
保護者全体は、「1人」が37.7%で最も多く、次いで「いない」が31.4%、「2人」が11.4%、「3人」が1.6%となっている。

小学生の保護者は、「1人」が36.1%で最も多く、次いで「いない」が30.1%、「2人」が12.5%、「3人」が1.8%となっている。

中学生の保護者は、「1人」が39.8%で最も多く、次いで「いない」が32.2%、「2人」が9.7%、「3人」が1.4%となっている。

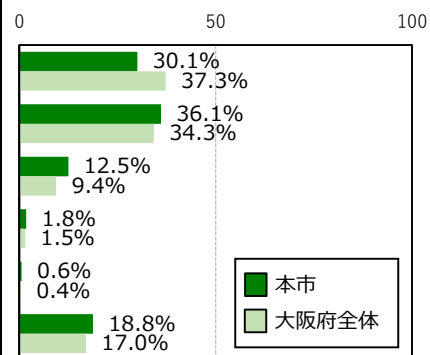
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	210名	31.4%	15,909名	36.7%
1人	252名	37.7%	15,123名	34.9%
2人	76名	11.4%	4,039名	9.3%
3人	11名	1.6%	601名	1.4%
4人以上	3名	0.4%	145名	0.3%
無回答	117名	17.5%	7,483名	17.3%



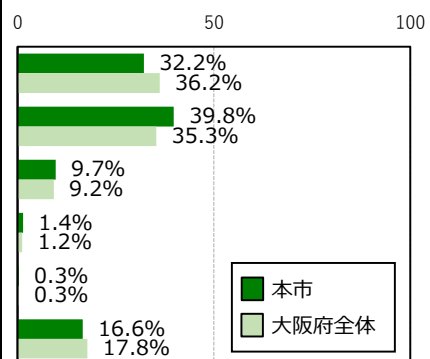
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	101名	30.1%	8,507名	37.3%
1人	121名	36.1%	7,823名	34.3%
2人	42名	12.5%	2,148名	9.4%
3人	6名	1.8%	350名	1.5%
4人以上	2名	0.6%	90名	0.4%
無回答	63名	18.8%	3,868名	17.0%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	93名	32.2%	7,016名	36.2%
1人	115名	39.8%	6,827名	35.3%
2人	28名	9.7%	1,782名	9.2%
3人	4名	1.4%	239名	1.2%
4人以上	1名	0.3%	50名	0.3%
無回答	48名	16.6%	3,451名	17.8%



世帯の状況について

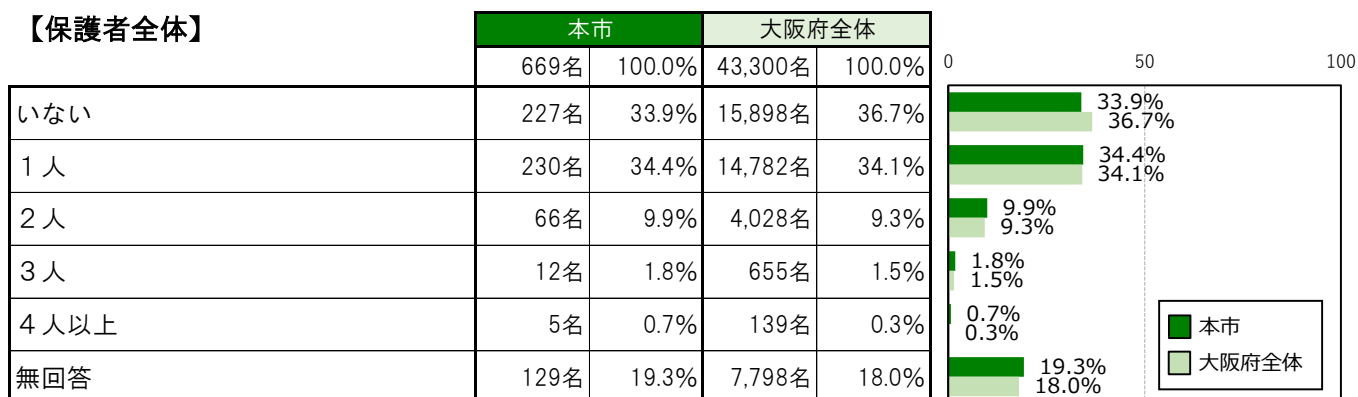
問2 世帯構成 ⑥妹・弟

保護者全体は、「1人」が34.4%で最も多く、次いで「いない」が33.9%、「2人」が9.9%、「3人」が1.8%となっている。

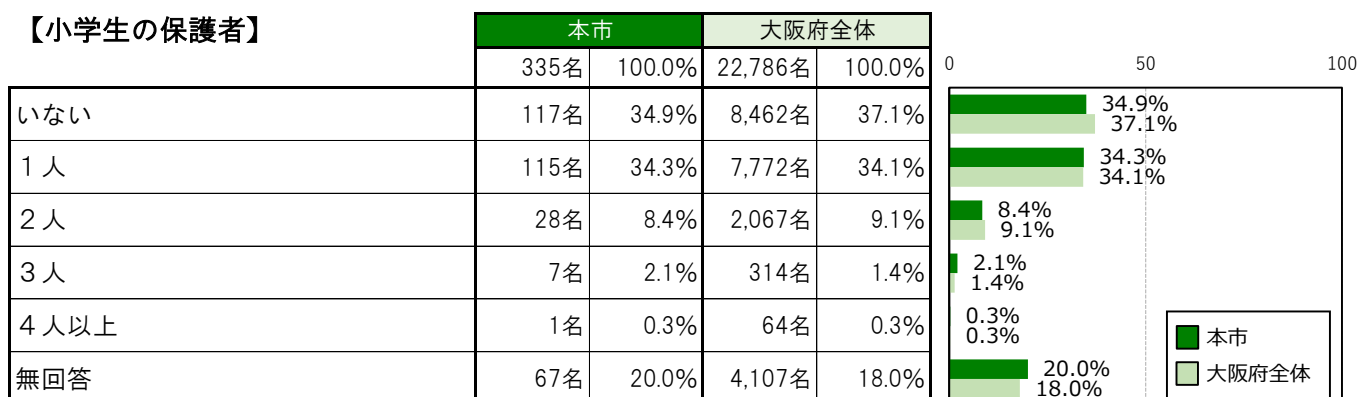
小学生の保護者は、「いない」が34.9%で最も多く、次いで「1人」が34.3%、「2人」が8.4%、「3人」が2.1%となっている。

中学生の保護者は、「いない」、「1人」がそれぞれ33.9%で最も多く、次いで「2人」が10.7%、「3人」が1.7%となっている。

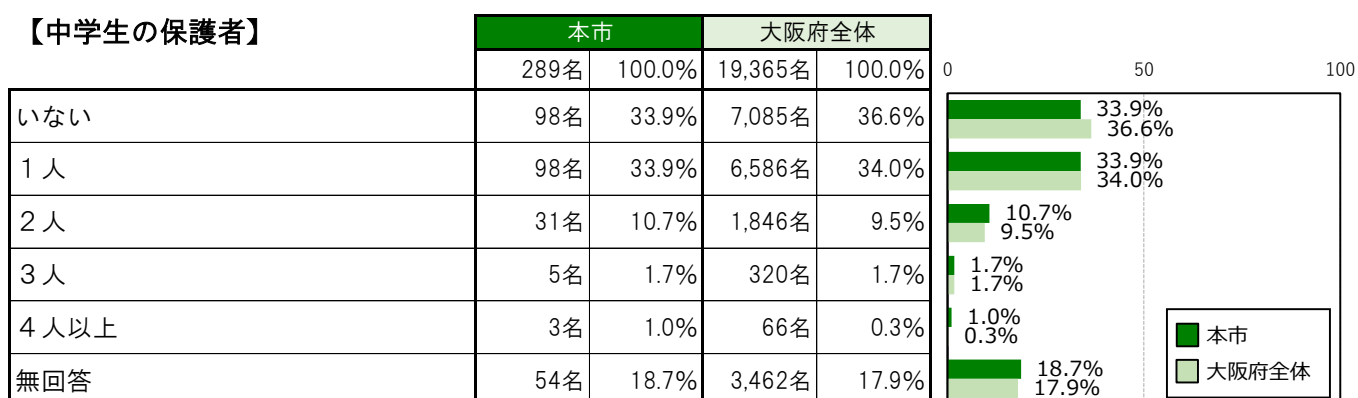
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問2 世帯構成 ⑦その他

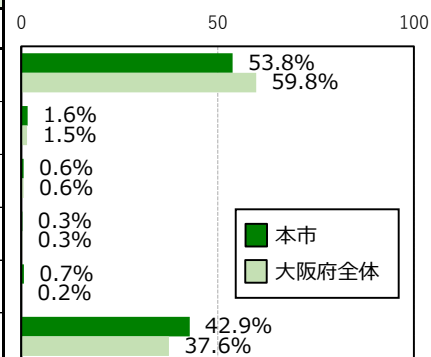
保護者全体は、「いない」が53.8%で最も多く、次いで「1人」が1.6%、「4人以上」が0.7%、「2人」が0.6%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が56.4%で最も多く、次いで「1人」、「4人以上」がそれぞれ1.5%、「2人」が0.6%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が52.2%で最も多く、次いで「1人」が2.1%となっている。

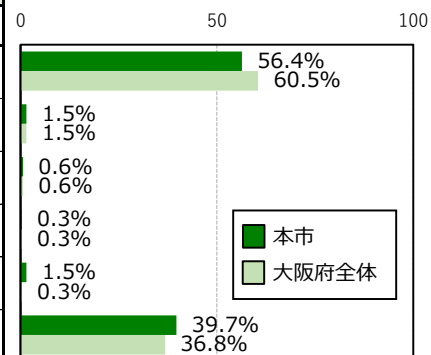
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	669名	100.0%	43,300名	100.0%
いない	360名	53.8%	25,890名	59.8%
1人	11名	1.6%	628名	1.5%
2人	4名	0.6%	261名	0.6%
3人	2名	0.3%	133名	0.3%
4人以上	5名	0.7%	98名	0.2%
無回答	287名	42.9%	16,290名	37.6%



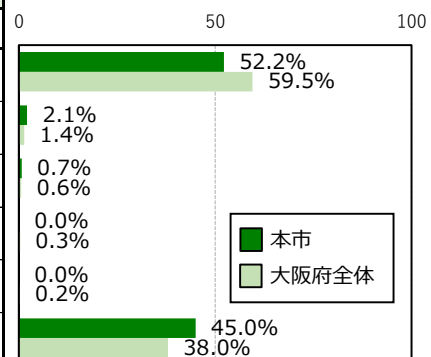
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	22,786名	100.0%
いない	189名	56.4%	13,780名	60.5%
1人	5名	1.5%	347名	1.5%
2人	2名	0.6%	139名	0.6%
3人	1名	0.3%	73名	0.3%
4人以上	5名	1.5%	59名	0.3%
無回答	133名	39.7%	8,388名	36.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	289名	100.0%	19,365名	100.0%
いない	151名	52.2%	11,529名	59.5%
1人	6名	2.1%	275名	1.4%
2人	2名	0.7%	119名	0.6%
3人	-	-	55名	0.3%
4人以上	-	-	36名	0.2%
無回答	130名	45.0%	7,351名	38.0%



世帯の状況について

問2 世帯構成 ＜世帯員の続柄＞

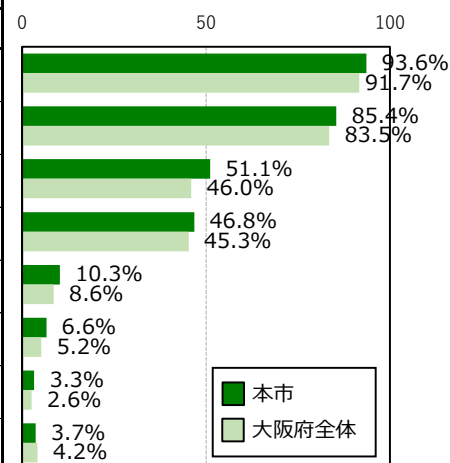
保護者全体は、「お母さん」が93.6%で最も多く、次いで「お父さん」が85.4%、「姉・兄」が51.1%、「妹・弟」が46.8%となっている。

小学生の保護者は、「お母さん」が93.1%で最も多く、次いで「お父さん」が85.7%、「姉・兄」が51.0%、「妹・弟」が45.1%となっている。

中学生の保護者は、「お母さん」が93.8%で最も多く、次いで「お父さん」が85.1%、「姉・兄」が51.2%、「妹・弟」が47.4%となっている。

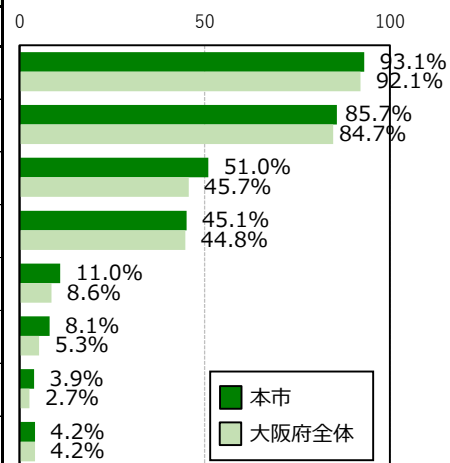
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
お母さん	669名	100.0%	43,300名	100.0%
お父さん	571名	85.4%	36,166名	83.5%
姉・兄	342名	51.1%	19,908名	46.0%
妹・弟	313名	46.8%	19,604名	45.3%
おばあさん	69名	10.3%	3,736名	8.6%
おじいさん	44名	6.6%	2,272名	5.2%
その他	22名	3.3%	1,120名	2.6%
無回答	25名	3.7%	1,839名	4.2%



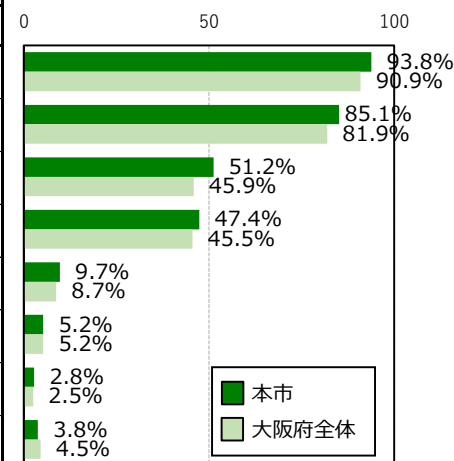
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
お母さん	335名	100.0%	22,786名	100.0%
お父さん	287名	85.7%	19,301名	84.7%
姉・兄	171名	51.0%	10,411名	45.7%
妹・弟	151名	45.1%	10,217名	44.8%
おばあさん	37名	11.0%	1,967名	8.6%
おじいさん	27名	8.1%	1,217名	5.3%
その他	13名	3.9%	618名	2.7%
無回答	14名	4.2%	953名	4.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
お母さん	289名	100.0%	19,365名	100.0%
お父さん	246名	85.1%	15,852名	81.9%
姉・兄	148名	51.2%	8,898名	45.9%
妹・弟	137名	47.4%	8,818名	45.5%
おばあさん	28名	9.7%	1,679名	8.7%
おじいさん	15名	5.2%	1,001名	5.2%
その他	8名	2.8%	485名	2.5%
無回答	11名	3.8%	876名	4.5%



世帯の状況について

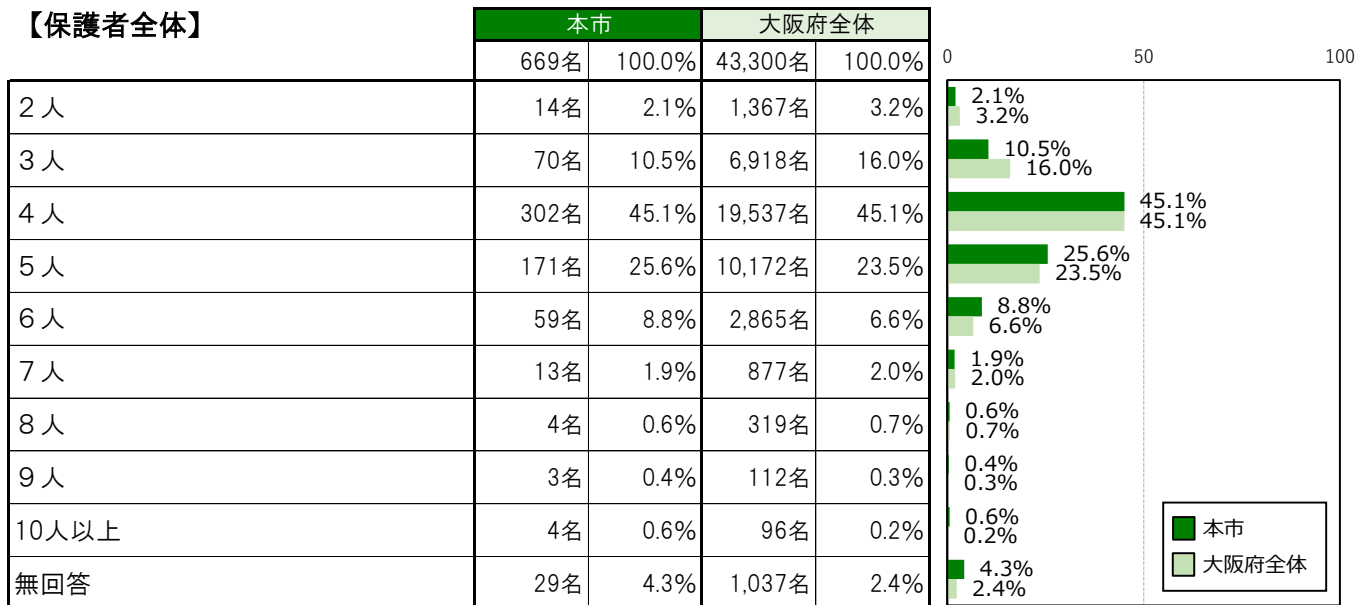
問2 世帯構成 ⑧世帯人数

保護者全体は、「4人」が45.1%で最も多く、次いで「5人」が25.6%、「3人」が10.5%、「6人」が8.8%となっている。

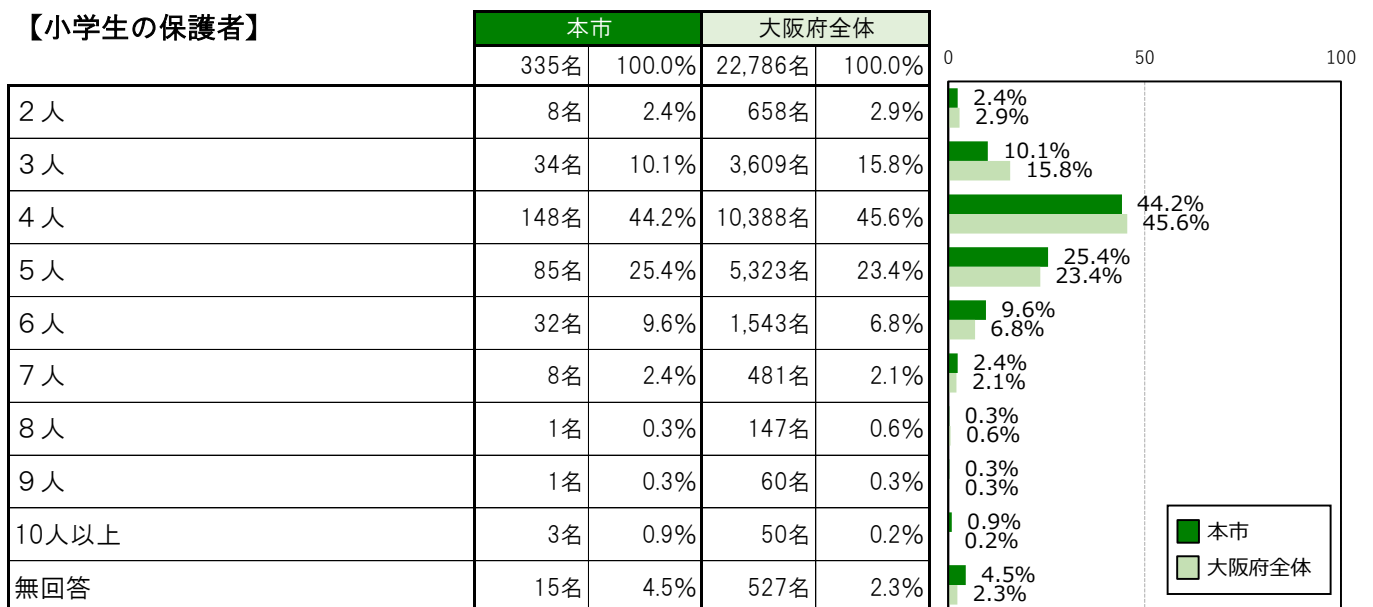
小学生の保護者は、「4人」が44.2%で最も多く、次いで「5人」が25.4%、「3人」が10.1%、「6人」が9.6%となっている。

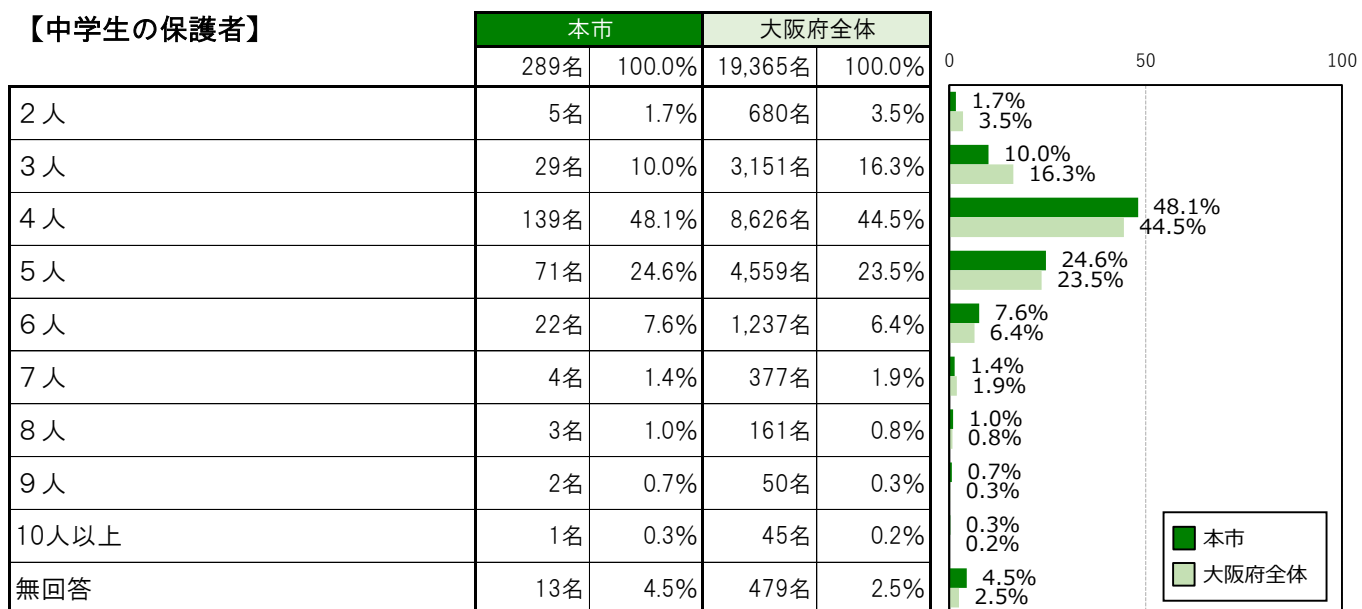
中学生の保護者は、「4人」が48.1%で最も多く、次いで「5人」が24.6%、「3人」が10.0%、「6人」が7.6%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】





世帯の状況について

問3 親の婚姻状況

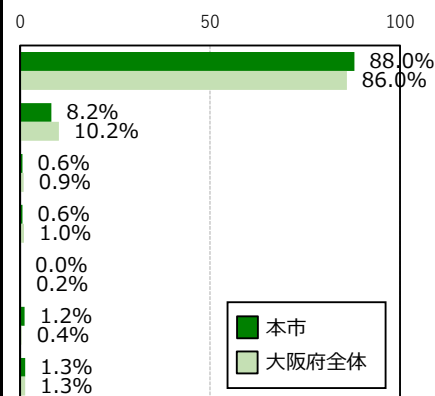
保護者全体は、「結婚している（再婚や事実婚を含む）」が88.0%で最も多く、次いで「離婚」が8.2%、「死別」、「未婚」がそれぞれ0.6%となっている。

小学生の保護者は、「結婚している（再婚や事実婚を含む）」が89.6%で最も多く、次いで「離婚」が6.9%、「死別」が0.6%となっている。

中学生の保護者は、「結婚している（再婚や事実婚を含む）」が86.9%で最も多く、次いで「離婚」が9.3%、「未婚」が1.0%となっている。

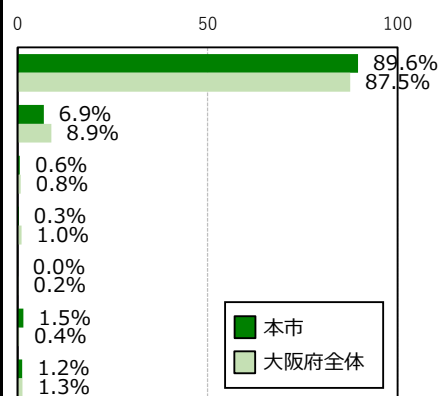
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	669名	100.0%	43,300名	100.0%
結婚している（再婚や事実婚を含む。）	589名	88.0%	37,253名	86.0%
離婚	55名	8.2%	4,407名	10.2%
死別	4名	0.6%	400名	0.9%
未婚	4名	0.6%	412名	1.0%
わからない	-	-	77名	0.2%
いない	8名	1.2%	177名	0.4%
無回答	9名	1.3%	574名	1.3%



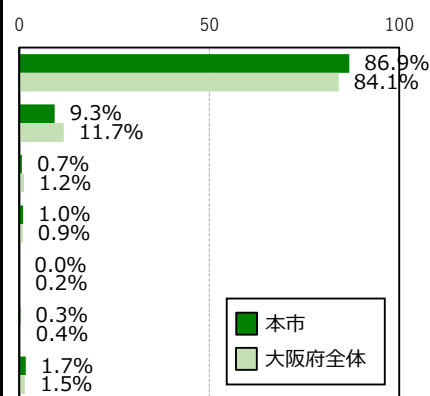
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	22,786名	100.0%
結婚している（再婚や事実婚を含む。）	300名	89.6%	19,949名	87.5%
離婚	23名	6.9%	2,030名	8.9%
死別	2名	0.6%	172名	0.8%
未婚	1名	0.3%	224名	1.0%
わからない	-	-	39名	0.2%
いない	5名	1.5%	84名	0.4%
無回答	4名	1.2%	288名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	289名	100.0%	19,365名	100.0%
結婚している（再婚や事実婚を含む。）	251名	86.9%	16,290名	84.1%
離婚	27名	9.3%	2,273名	11.7%
死別	2名	0.7%	223名	1.2%
未婚	3名	1.0%	181名	0.9%
わからない	-	-	34名	0.2%
いない	1名	0.3%	82名	0.4%
無回答	5名	1.7%	282名	1.5%



世帯の状況について

問4 離婚相手との養育費の取り決めや受け取り

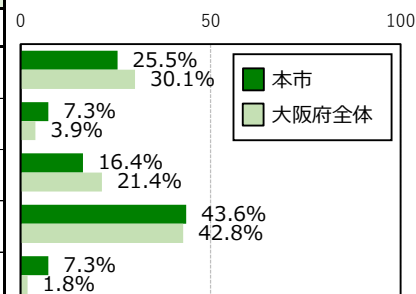
保護者全体は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が43.6%で最も多く、次いで「取り決めをしており、受け取っている」が25.5%、「取り決めをしているが、受け取っていない」が16.4%となっている。

小学生の保護者は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が56.5%で最も多く、次いで「取り決めをしており、受け取っている」が26.1%となっている。

中学生の保護者は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が40.7%で最も多く、次いで「取り決めをしており、受け取っている」が29.6%、「特に取り決めはしていないが、受け取っている」が14.8%となっている。

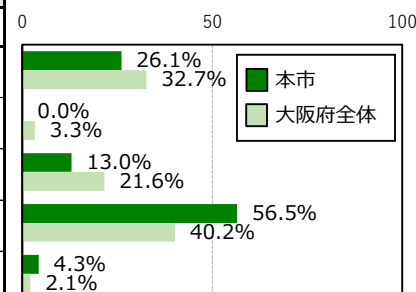
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	55名	100.0%	4,407名	100.0%
取り決めをしており、受け取っている	14名	25.5%	1,325名	30.1%
特に取り決めはしていないが、受け取っている	4名	7.3%	174名	3.9%
取り決めをしているが、受け取っていない	9名	16.4%	941名	21.4%
取り決めをしておらず、受け取っていない	24名	43.6%	1,888名	42.8%
無回答	4名	7.3%	79名	1.8%



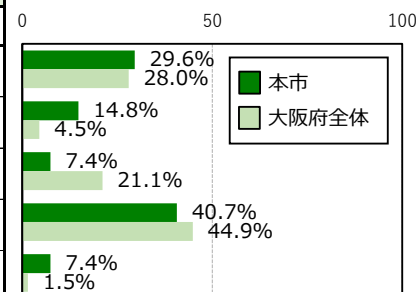
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	23名	100.0%	2,030名	100.0%
取り決めをしており、受け取っている	6名	26.1%	664名	32.7%
特に取り決めはしていないが、受け取っている	-	-	68名	3.3%
取り決めをしているが、受け取っていない	3名	13.0%	438名	21.6%
取り決めをしておらず、受け取っていない	13名	56.5%	817名	40.2%
無回答	1名	4.3%	43名	2.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	27名	100.0%	2,273名	100.0%
取り決めをしており、受け取っている	8名	29.6%	636名	28.0%
特に取り決めはしていないが、受け取っている	4名	14.8%	103名	4.5%
取り決めをしているが、受け取っていない	2名	7.4%	479名	21.1%
取り決めをしておらず、受け取っていない	11名	40.7%	1,020名	44.9%
無回答	2名	7.4%	35名	1.5%



世帯の状況について

問5 住居形態

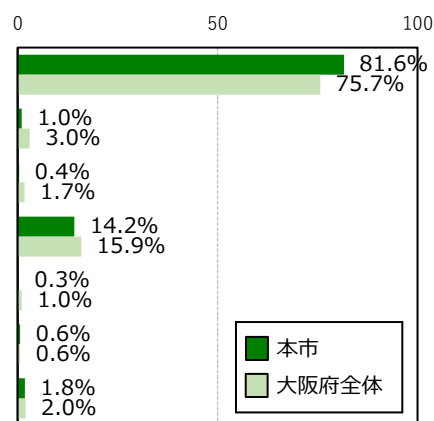
保護者全体は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が81.6%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が14.2%、「府営・市営の住宅」が1.0%、「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」が0.4%となっている。

小学生の保護者は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が82.4%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が14.0%、「府営・市営の住宅」が1.2%となっている。

中学生の保護者は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が80.3%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が14.5%、「府営・市営の住宅」が1.0%、「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」が0.7%となっている。

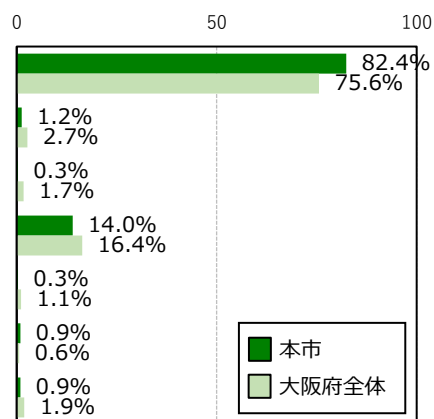
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	669名	100.0%	43,300名	100.0%
持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	546名	81.6%	32,784名	75.7%
府営・市営の住宅	7名	1.0%	1,316名	3.0%
UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	3名	0.4%	752名	1.7%
民間の賃貸住宅	95名	14.2%	6,890名	15.9%
官舎・社宅	2名	0.3%	438名	1.0%
その他	4名	0.6%	257名	0.6%
無回答	12名	1.8%	863名	2.0%



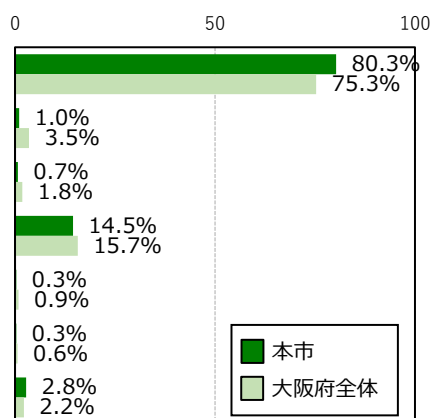
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	22,786名	100.0%
持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	276名	82.4%	17,221名	75.6%
府営・市営の住宅	4名	1.2%	620名	2.7%
UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	1名	0.3%	386名	1.7%
民間の賃貸住宅	47名	14.0%	3,738名	16.4%
官舎・社宅	1名	0.3%	255名	1.1%
その他	3名	0.9%	129名	0.6%
無回答	3名	0.9%	437名	1.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	289名	100.0%	19,365名	100.0%
持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	232名	80.3%	14,585名	75.3%
府営・市営の住宅	3名	1.0%	676名	3.5%
UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	2名	0.7%	356名	1.8%
民間の賃貸住宅	42名	14.5%	3,036名	15.7%
官舎・社宅	1名	0.3%	171名	0.9%
その他	1名	0.3%	121名	0.6%
無回答	8名	2.8%	420名	2.2%



世帯の状況について

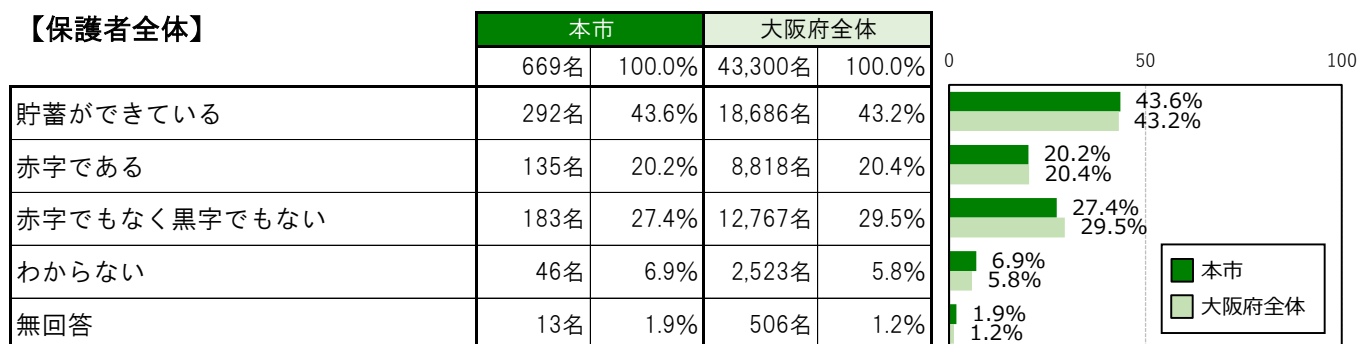
問6（1）家計の状況

保護者全体は、「貯蓄ができています」が43.6%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が27.4%、「赤字である」が20.2%となっている。

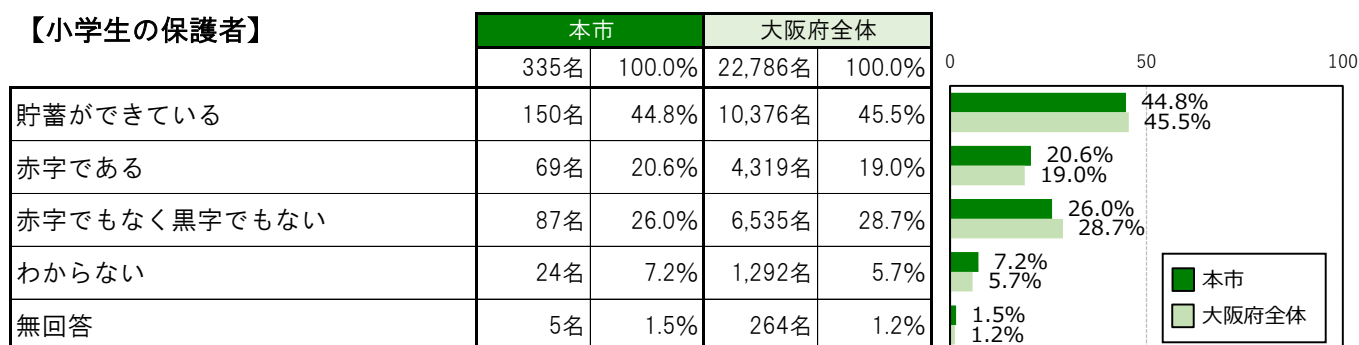
小学生の保護者は、「貯蓄ができています」が44.8%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が26.0%、「赤字である」が20.6%となっている。

中学生の保護者は、「貯蓄ができています」が42.2%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が27.7%、「赤字である」が20.4%となっている。

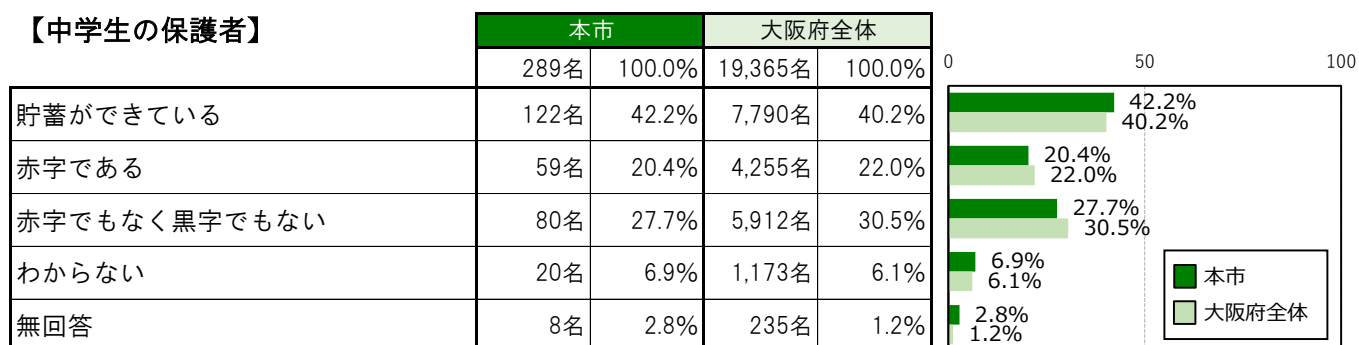
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問6（2）子どもの将来のための貯蓄状況

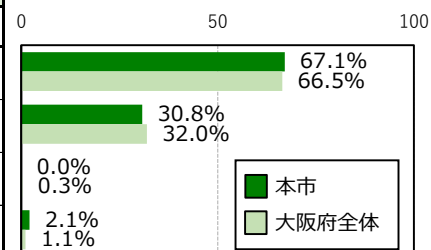
保護者全体は、「貯蓄をしている」が67.1%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が30.8%となっている。

小学生の保護者は、「貯蓄をしている」が71.0%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が27.2%となっている。

中学生の保護者は、「貯蓄をしている」が62.6%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が34.6%となっている。

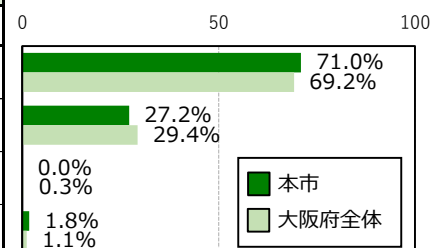
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
貯蓄をしている	449名	67.1%	28,802名	66.5%
貯蓄をしたいが、できていない	206名	30.8%	13,877名	32.0%
貯蓄をするつもりはない	-	-	138名	0.3%
無回答	14名	2.1%	483名	1.1%



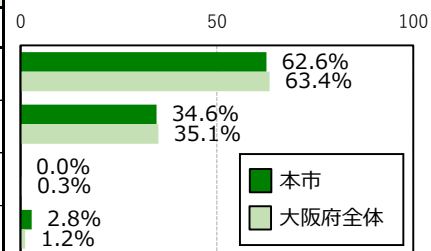
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
貯蓄をしている	238名	71.0%	15,765名	69.2%
貯蓄をしたいが、できていない	91名	27.2%	6,698名	29.4%
貯蓄をするつもりはない	-	-	74名	0.3%
無回答	6名	1.8%	249名	1.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
貯蓄をしている	181名	62.6%	12,277名	63.4%
貯蓄をしたいが、できていない	100名	34.6%	6,798名	35.1%
貯蓄をするつもりはない	-	-	63名	0.3%
無回答	8名	2.8%	227名	1.2%



世帯の状況について

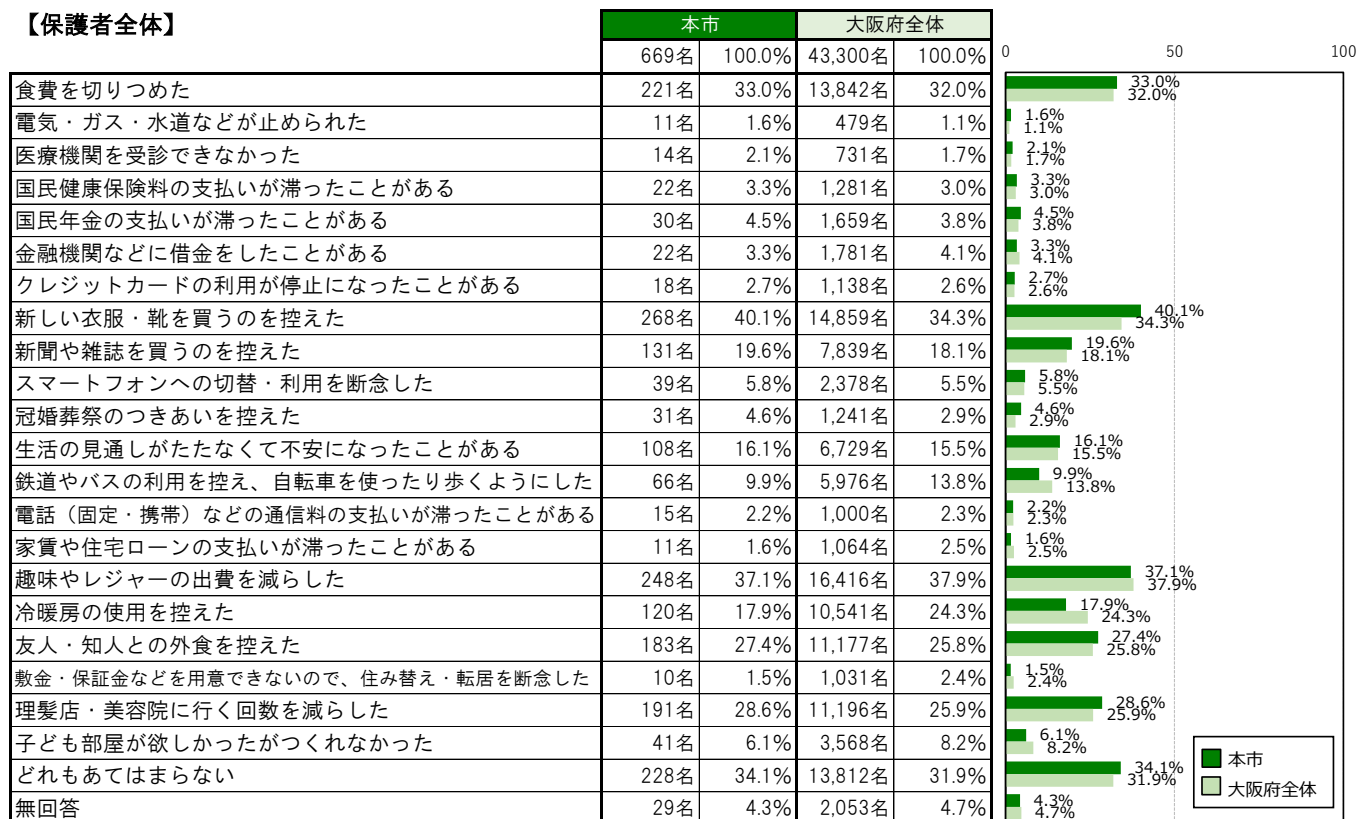
問7 経済的な理由による経験

保護者全体は、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が40.1%で最も多く、次いで「趣味やレジャーの出費を減らした」が37.1%、「どれもあてはまらない」が34.1%、「食費を切りつめた」が33.0%となっている。

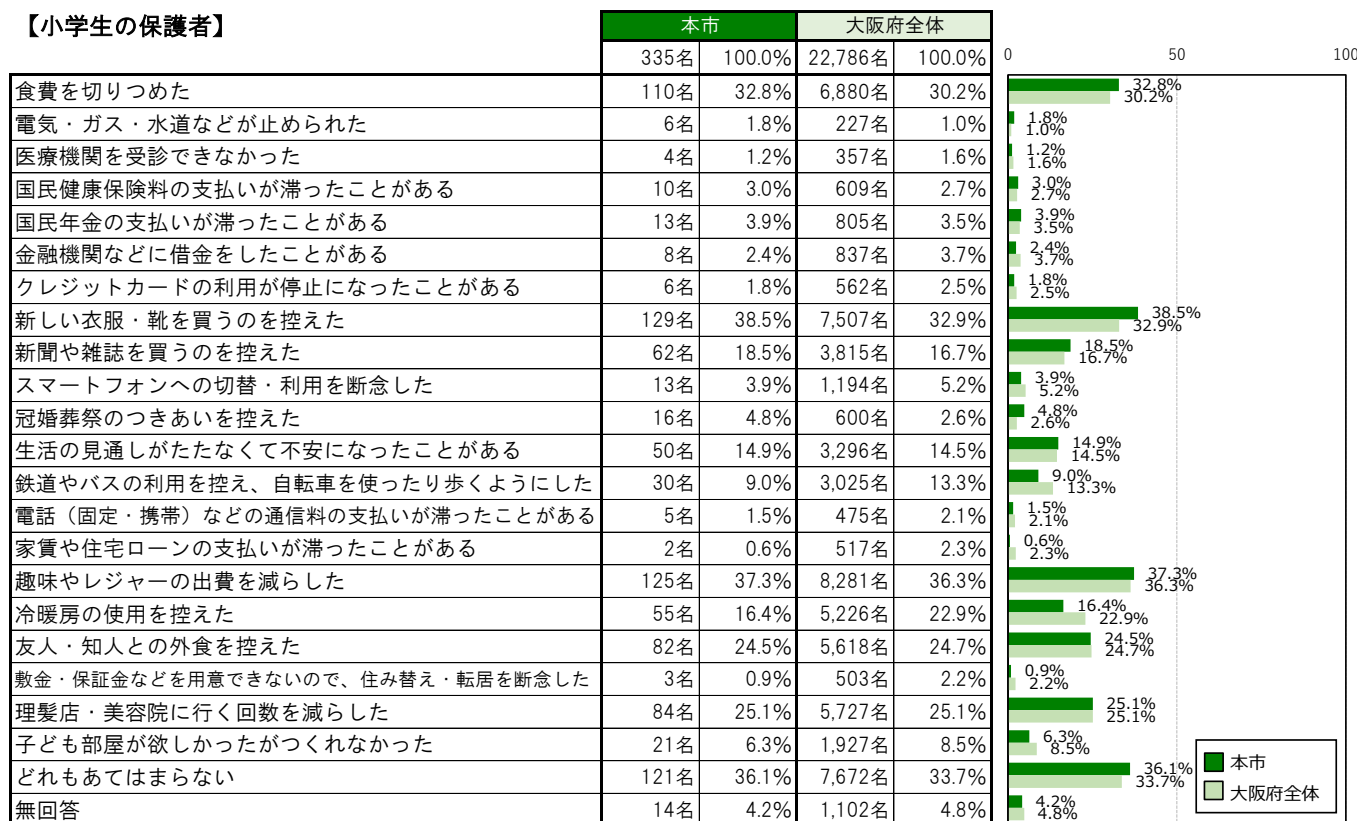
小学生の保護者は、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が38.5%で最も多く、次いで「趣味やレジャーの出費を減らした」が37.3%、「どれもあてはまらない」が36.1%、「食費を切りつめた」が32.8%となっている。

中学生の保護者は、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が41.9%で最も多く、次いで「趣味やレジャーの出費を減らした」が38.1%、「食費を切りつめた」が33.9%、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」が31.8%となっている。

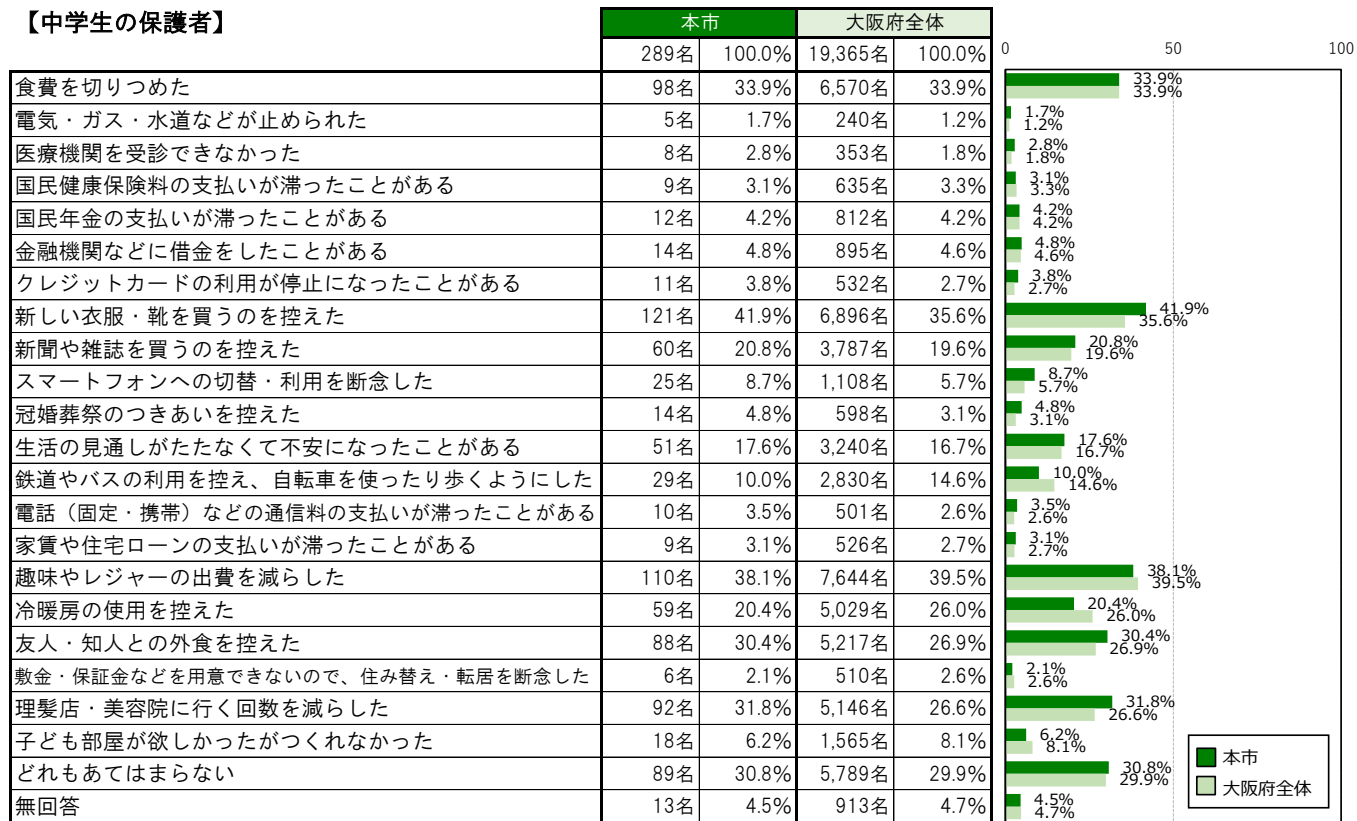
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】

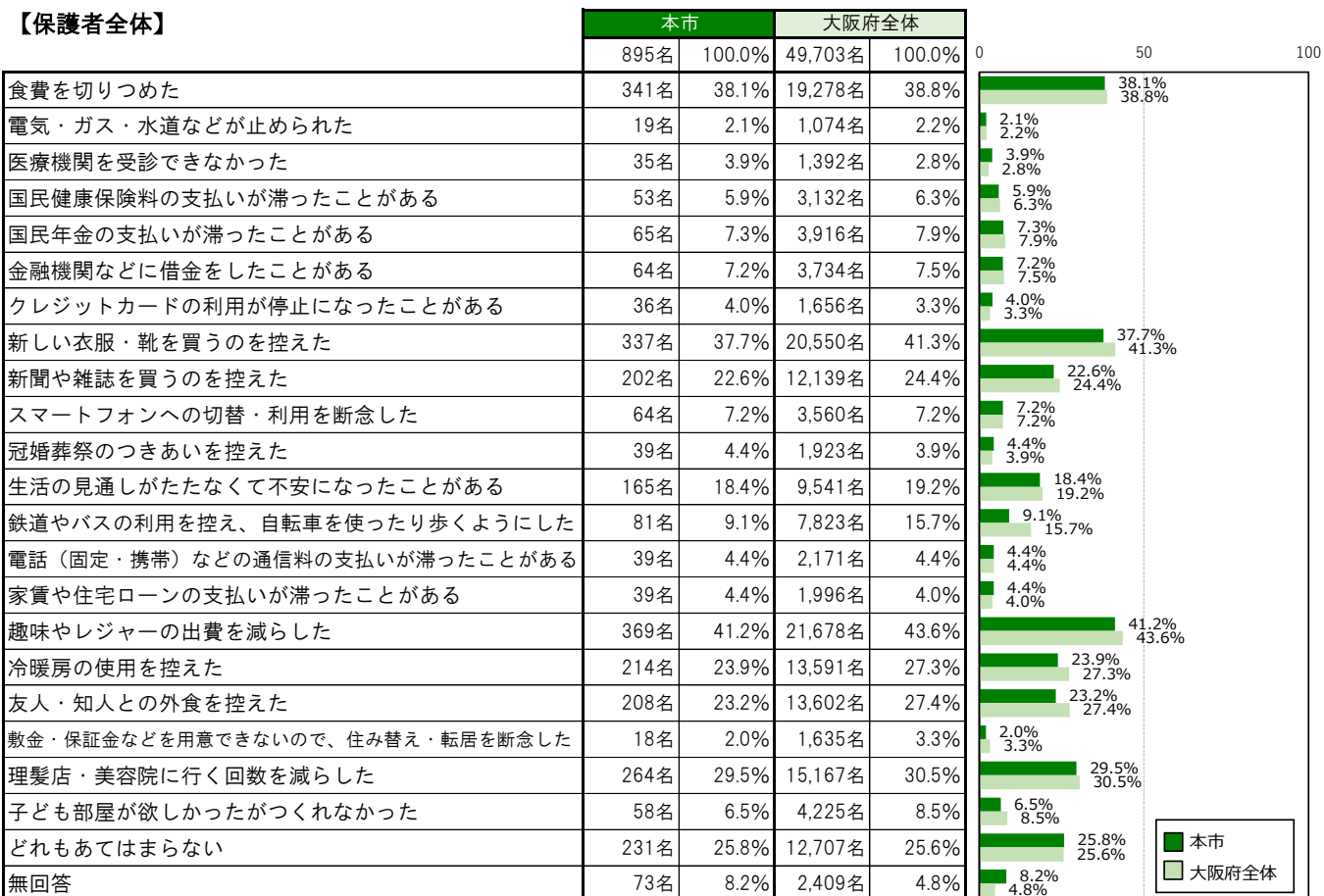


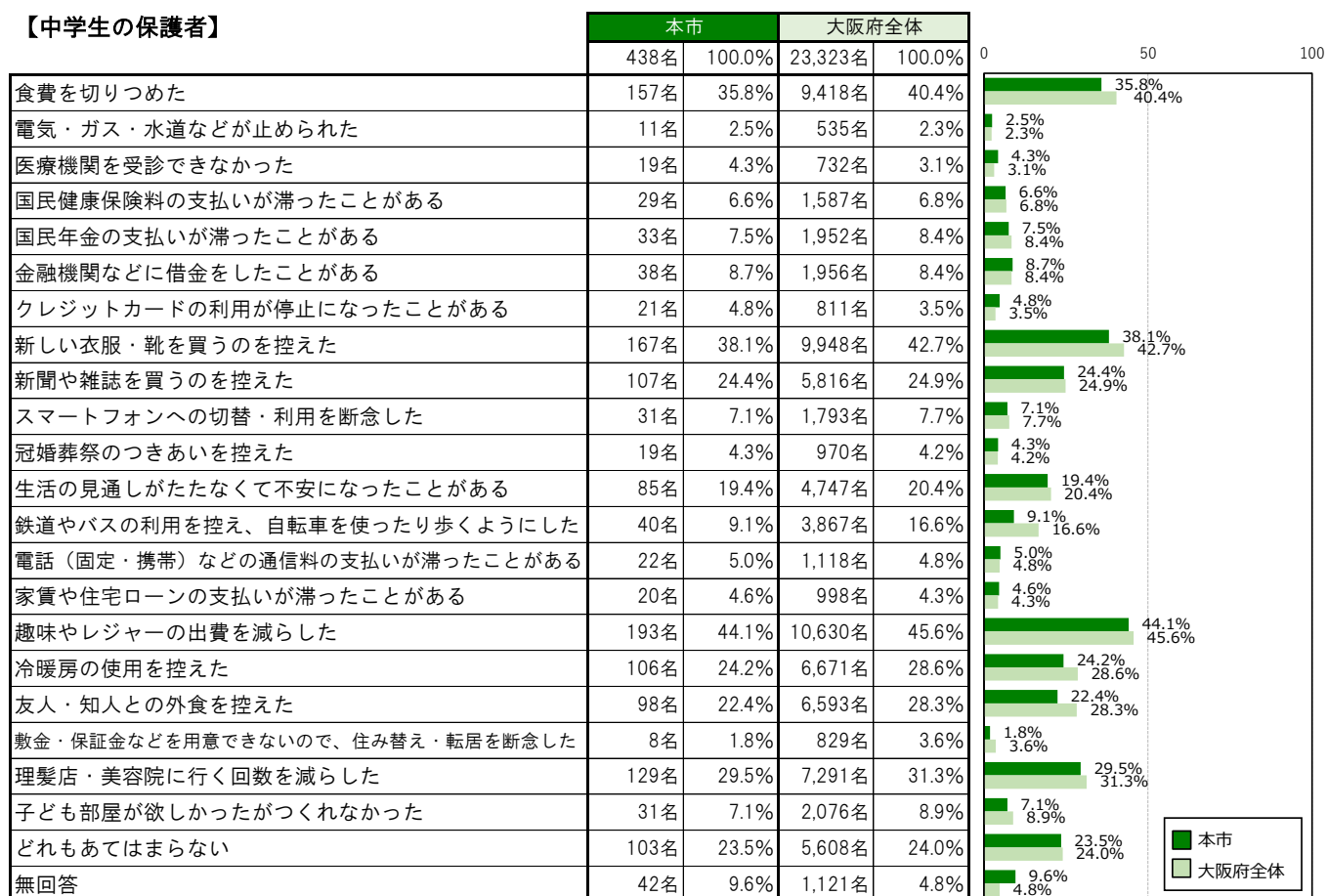
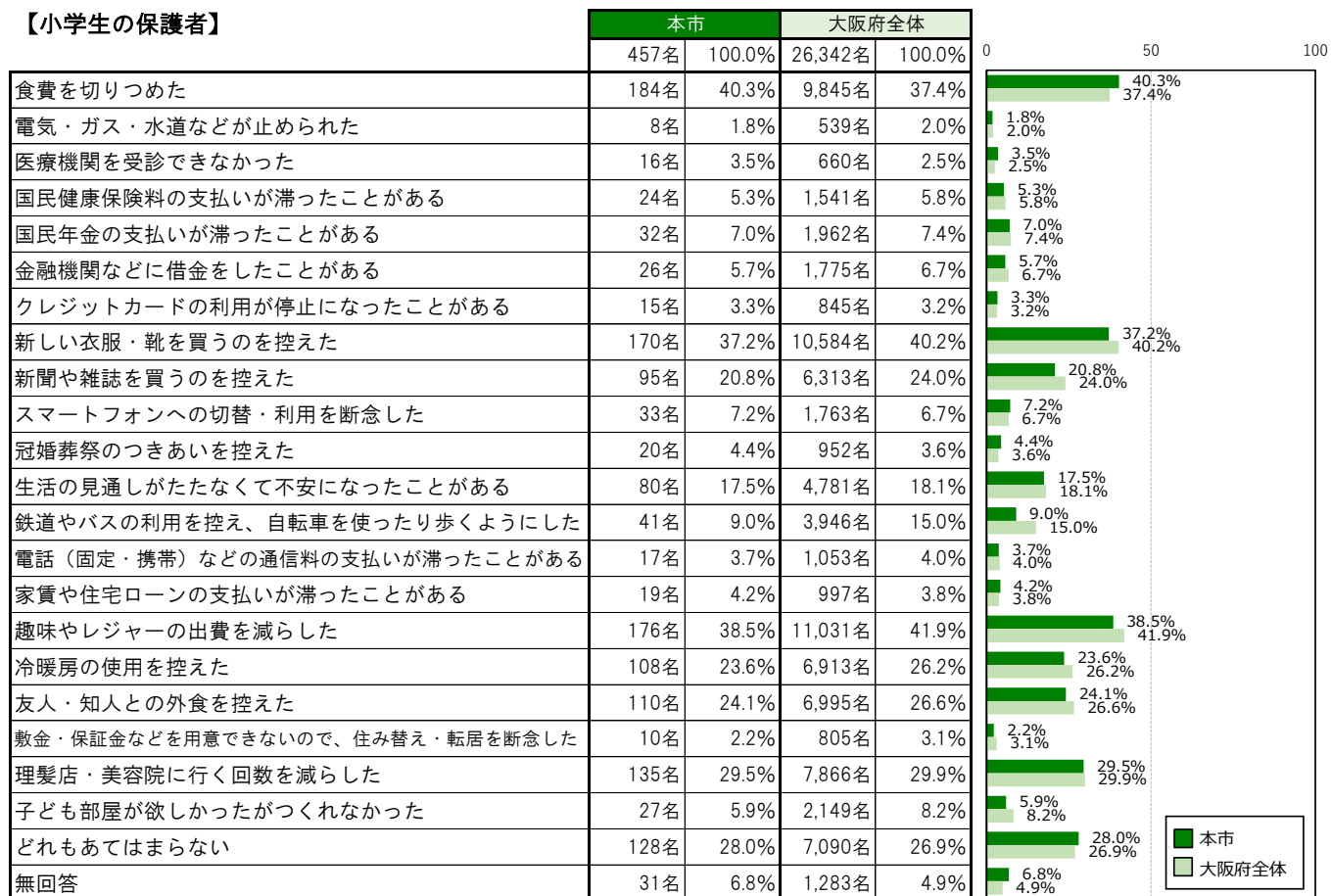
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「冷暖房の使用を控えた」が6.0ポイント、「食費を切りつめた」が5.1ポイント、「趣味やレジャーの出費を減らした」が4.1ポイント、それぞれ低くなっている。

小学生は、「食費を切りつめた」が7.5ポイント、「冷暖房の使用を控えた」が7.2ポイント、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」が4.4ポイント、それぞれ低くなっている。

中学生は、「友人・知人との外食を控えた」が8.0ポイント高いが、「趣味やレジャーの出費を減らした」が6.0ポイント低くなっている。





世帯の状況について

問7 経済的な理由による経験（はく奪指標）

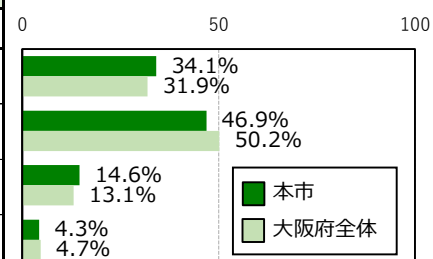
経済的な理由による経験について、はく奪指標でみると、保護者全体は、「1～6個に該当」が46.9%で最も多く、次いで「該当なし」が34.1%、「7個以上に該当」が14.6%となっている。

小学生の保護者は、「1～6個に該当」が47.5%で最も多く、次いで「該当なし」が36.1%、「7個以上に該当」が12.2%となっている。

中学生の保護者は、「1～6個に該当」が47.4%で最も多く、次いで「該当なし」が30.8%、「7個以上に該当」が17.3%となっている。

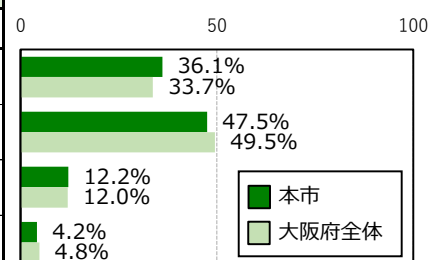
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	669名	100.0%	43,300名	100.0%
該当なし	228名	34.1%	13,812名	31.9%
1～6個に該当	314名	46.9%	21,747名	50.2%
7個以上に該当	98名	14.6%	5,688名	13.1%
無回答	29名	4.3%	2,053名	4.7%



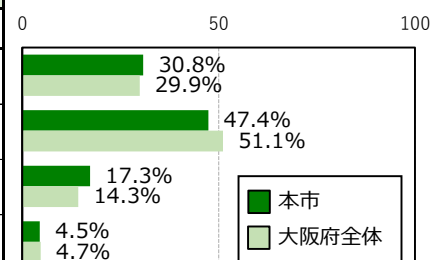
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	22,786名	100.0%
該当なし	121名	36.1%	7,672名	33.7%
1～6個に該当	159名	47.5%	11,270名	49.5%
7個以上に該当	41名	12.2%	2,742名	12.0%
無回答	14名	4.2%	1,102名	4.8%



【中学生の保護者】

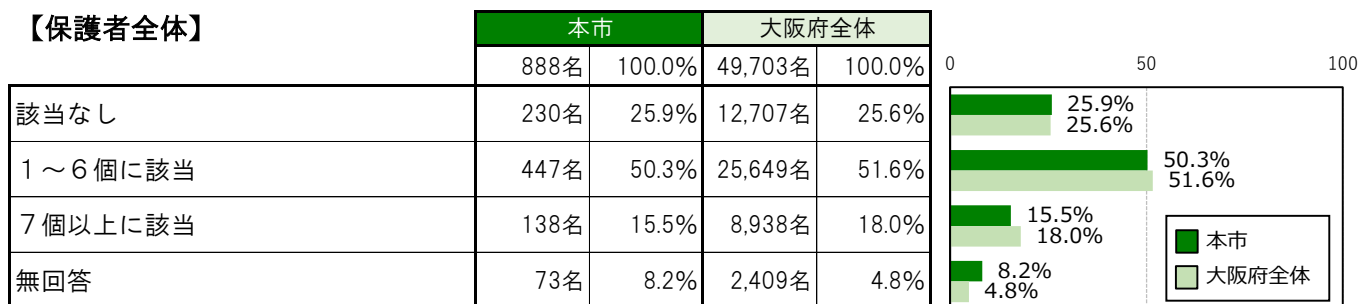
	本市		大阪府全体	
	289名	100.0%	19,365名	100.0%
該当なし	89名	30.8%	5,789名	29.9%
1～6個に該当	137名	47.4%	9,888名	51.1%
7個以上に該当	50名	17.3%	2,775名	14.3%
無回答	13名	4.5%	913名	4.7%



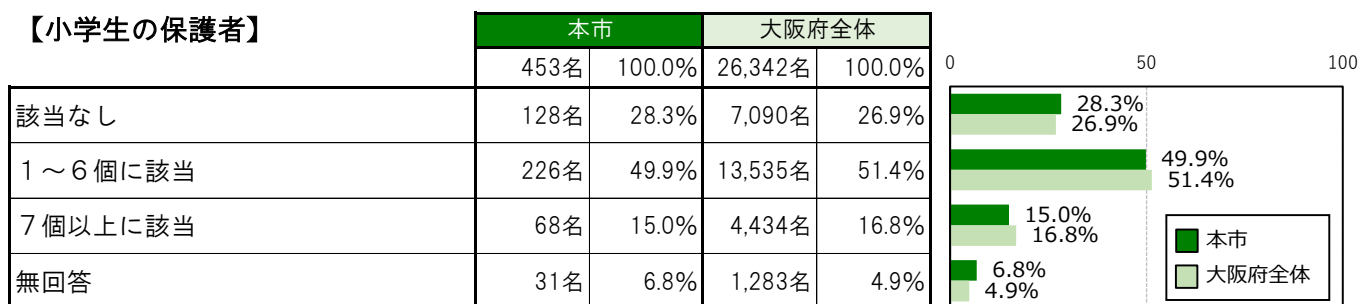
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「該当なし」が8.2ポイント高くなっている。
 小学生の保護者は、「該当なし」が7.8ポイント高くなっている。
 中学生の保護者は、「該当なし」が7.4ポイント高くなっている。

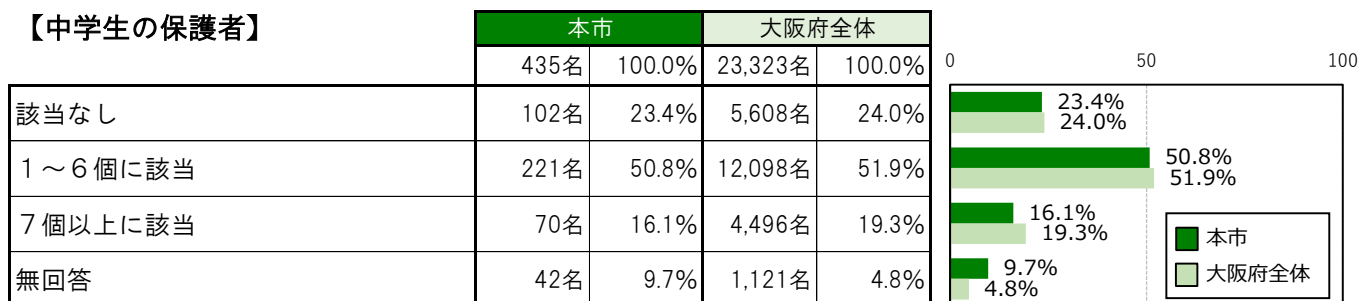
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

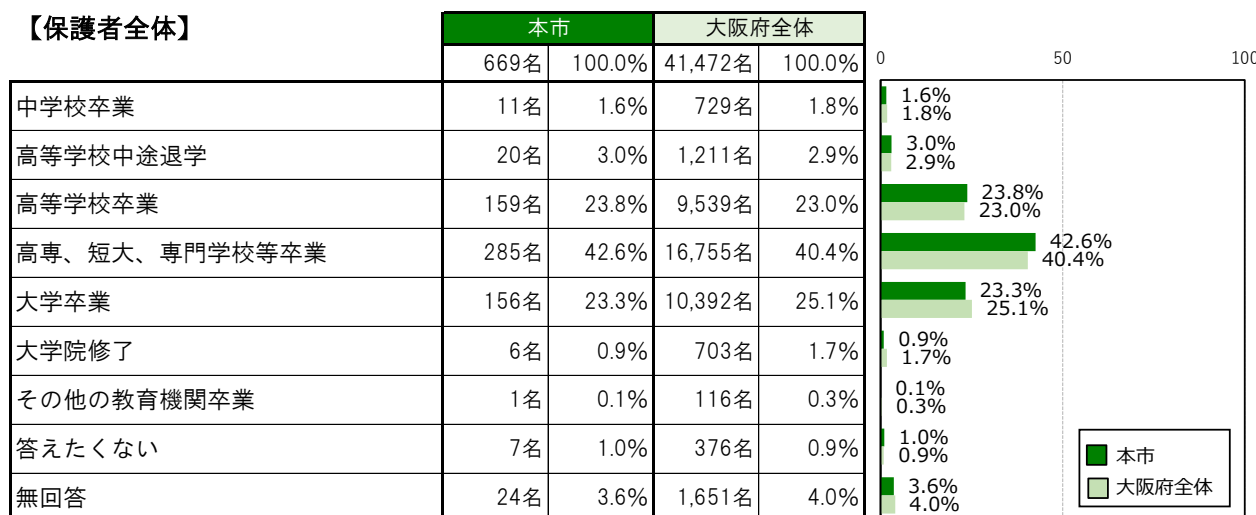
問8 お母さんの最終学歴

保護者全体は、「高専、短大、専門学校等卒業」が42.6%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が23.8%、「大学卒業」が23.3%、「高等学校中途退学」が3.0%となっている。

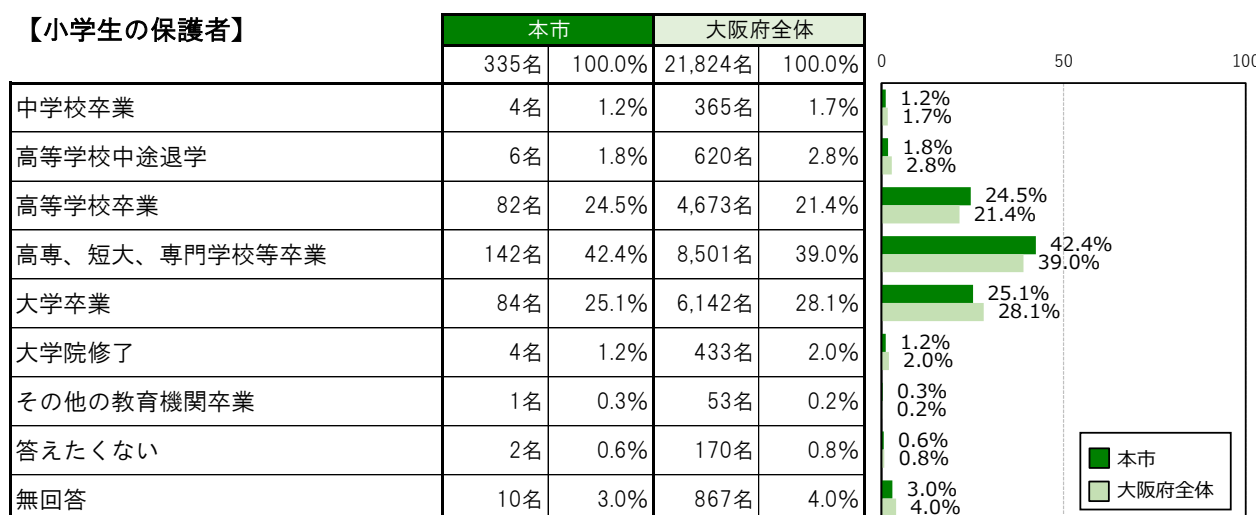
小学生の保護者は、「高専、短大、専門学校等卒業」が42.4%で最も多く、次いで「大学卒業」が25.1%、「高等学校卒業」が24.5%、「高等学校中途退学」が1.8%となっている。

中学生の保護者は、「高専、短大、専門学校等卒業」が43.3%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が23.5%、「大学卒業」が20.4%、「高等学校中途退学」が3.8%となっている。

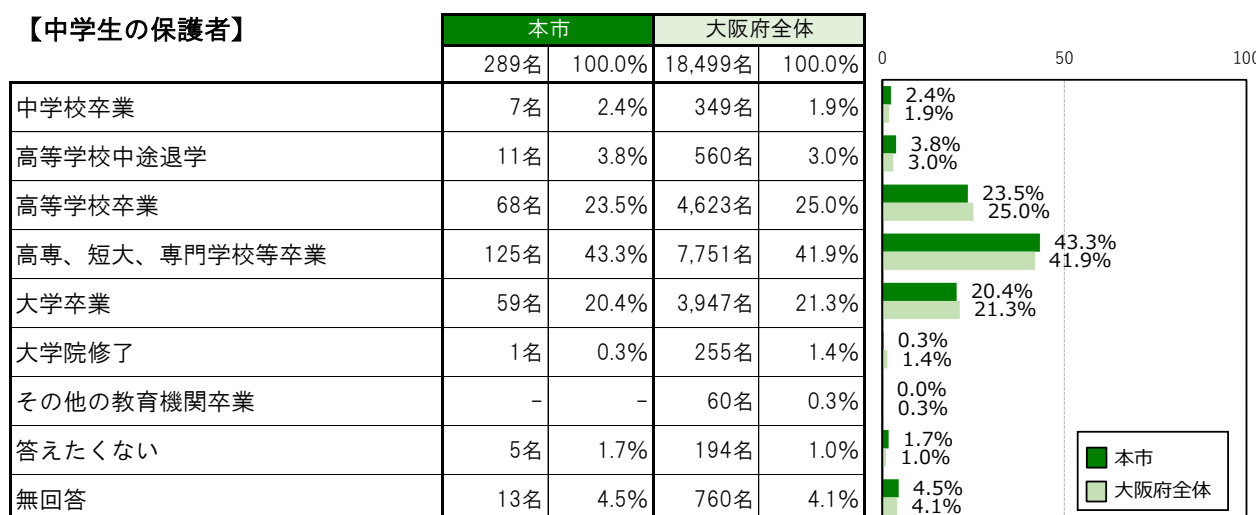
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

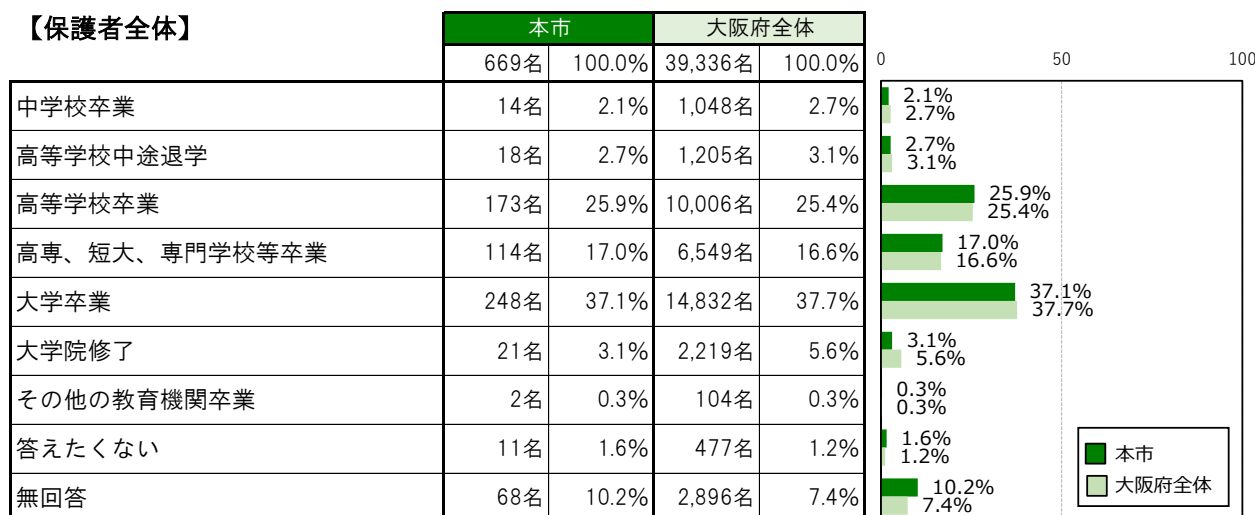
問 8 お父さんの最終学歴

保護者全体は、「大学卒業」が37.1%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が25.9%、「高専、短大、専門学校等卒業」が17.0%、「大学院修了」が3.1%となっている。

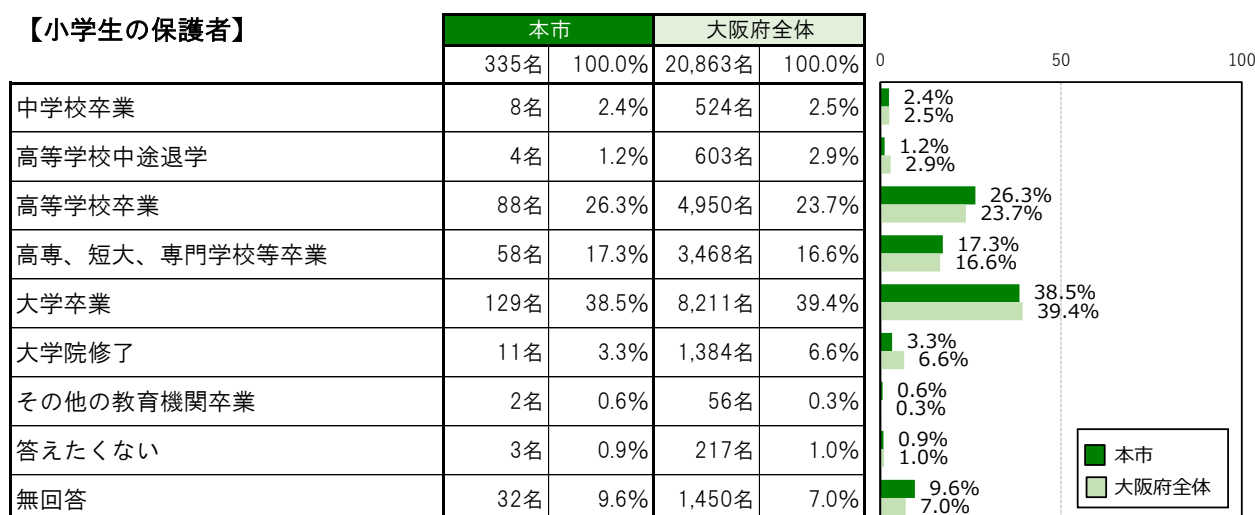
小学生の保護者は、「大学卒業」が38.5%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が26.3%、「高専、短大、専門学校等卒業」が17.3%、「大学院修了」が3.3%となっている。

中学生の保護者は、「大学卒業」が34.9%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が26.0%、「高専、短大、専門学校等卒業」が16.6%、「高等学校中途退学」が4.2%となっている。

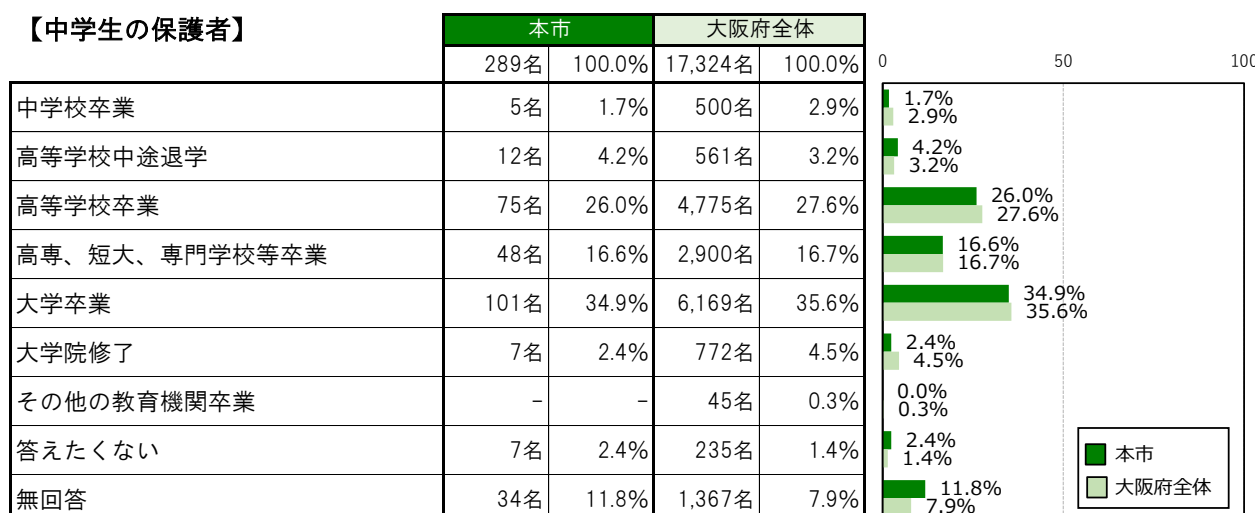
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



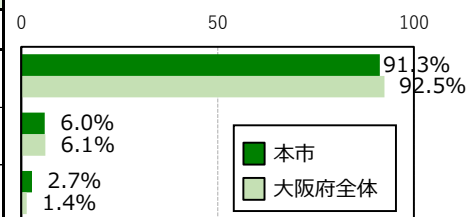
世帯の状況について

問9 お母さんの有無

保護者全体は、「いる」が91.3%、「いない」が6.0%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が90.7%、「いない」が6.6%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が91.3%、「いない」が5.5%となっている。

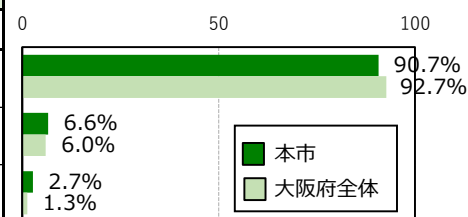
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	611名	91.3%	40,053名	92.5%
いない	40名	6.0%	2,634名	6.1%
無回答	18名	2.7%	613名	1.4%



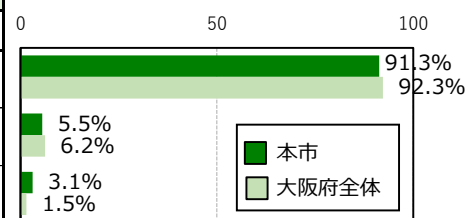
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	304名	90.7%	21,115名	92.7%
いない	22名	6.6%	1,368名	6.0%
無回答	9名	2.7%	303名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	264名	91.3%	17,877名	92.3%
いない	16名	5.5%	1,192名	6.2%
無回答	9名	3.1%	296名	1.5%



世帯の状況について

問9 お母さんの就業状況

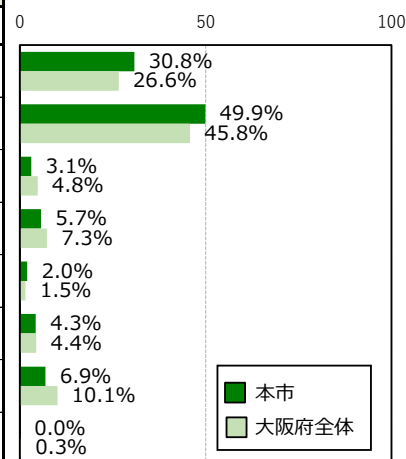
保護者全体は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が49.9%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が30.8%、「仕事を探していない」が6.9%、「自営業・家業」が5.7%となっている。

小学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が45.7%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が30.3%、「仕事を探していない」が9.9%、「仕事を探している」が5.9%となっている。

中学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が53.4%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が31.4%、「自営業・家業」が5.3%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）」が4.5%となっている。

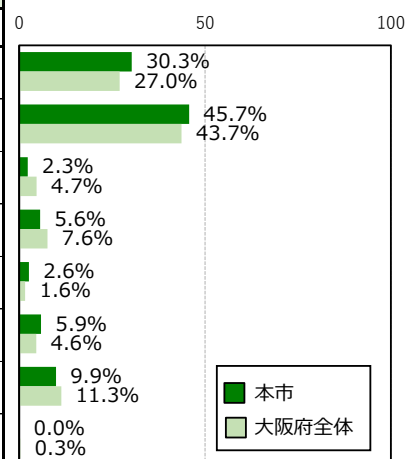
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	611名	100.0%	40,053名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	188名	30.8%	10,673名	26.6%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	305名	49.9%	18,336名	45.8%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	19名	3.1%	1,932名	4.8%
自営業・家業	35名	5.7%	2,943名	7.3%
その他の就業形態	12名	2.0%	592名	1.5%
仕事を探している	26名	4.3%	1,761名	4.4%
仕事を探していない	42名	6.9%	4,027名	10.1%
無回答	-	-	111名	0.3%



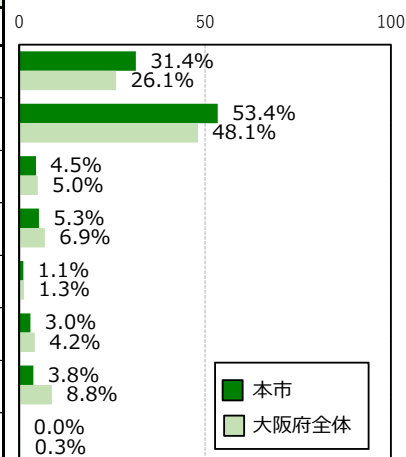
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	304名	100.0%	21,115名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	92名	30.3%	5,704名	27.0%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	139名	45.7%	9,234名	43.7%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	7名	2.3%	999名	4.7%
自営業・家業	17名	5.6%	1,615名	7.6%
その他の就業形態	8名	2.6%	339名	1.6%
仕事を探している	18名	5.9%	971名	4.6%
仕事を探していない	30名	9.9%	2,381名	11.3%
無回答	-	-	54名	0.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	264名	100.0%	17,877名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	83名	31.4%	4,670名	26.1%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	141名	53.4%	8,596名	48.1%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	12名	4.5%	895名	5.0%
自営業・家業	14名	5.3%	1,237名	6.9%
その他の就業形態	3名	1.1%	235名	1.3%
仕事を探している	8名	3.0%	744名	4.2%
仕事を探していない	10名	3.8%	1,570名	8.8%
無回答	-	-	51名	0.3%

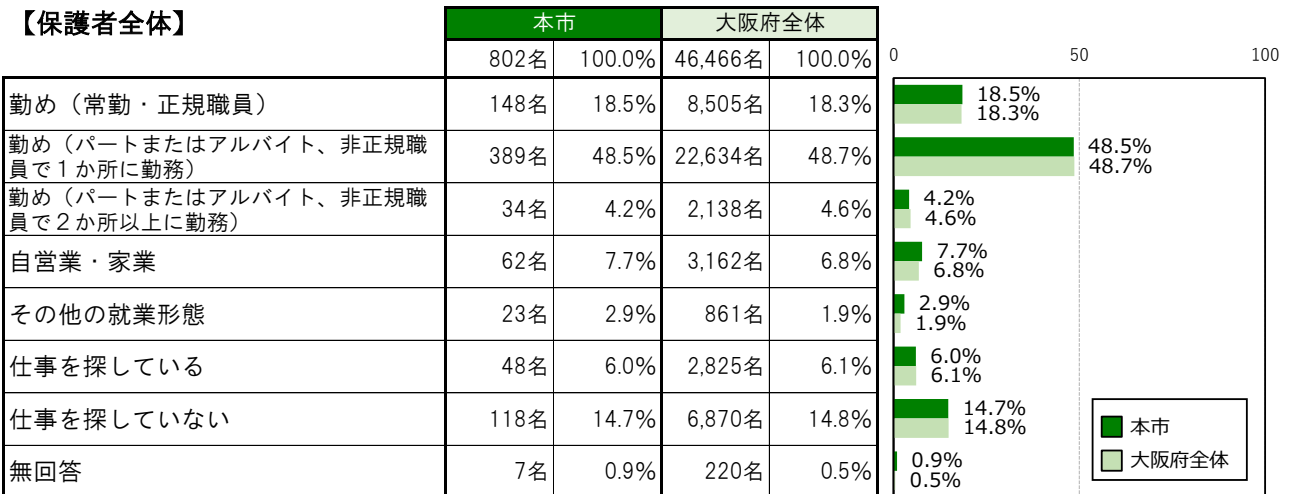


●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「仕事を探していない」は7.8ポイント低い、「勤め（常勤・正規職員）」が12.3ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「仕事を探していない」は8.6ポイント低い、「勤め（常勤・正規職員）」が14.0ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「仕事を探していない」は6.8ポイント低い、「勤め（常勤・正規職員）」が10.6ポイント高くなっている。



世帯の状況について

問9 お母さんが仕事を探していない理由

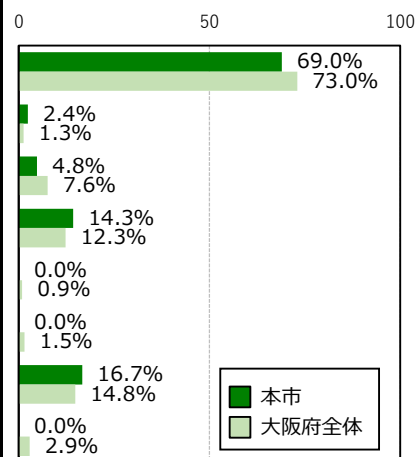
保護者全体は、「家事や育児に専念したいため」が69.0%で最も多く、次いで「病気療養のため」が14.3%、「おうちの人の介護や介助のため」が4.8%となっている。

小学生の保護者は、「家事や育児に専念したいため」が70.0%で最も多く、次いで「おうちの人の介護や介助のため」、「病気療養のため」がそれぞれ6.7%となっている。

中学生の保護者は、「家事や育児に専念したいため」が60.0%で最も多く、次いで「病気療養のため」が30.0%となっている。

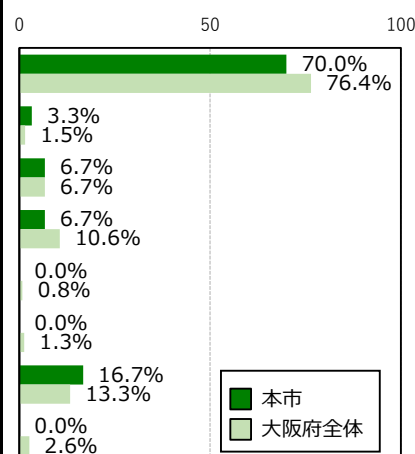
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	42名	100.0%	4,027名	100.0%
家事や育児に専念したいため	29名	69.0%	2,939名	73.0%
学生のため	1名	2.4%	51名	1.3%
おうちの人の介護や介助のため	2名	4.8%	307名	7.6%
病気療養のため	6名	14.3%	496名	12.3%
年金収入があるため	-	-	35名	0.9%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	-	-	62名	1.5%
その他	7名	16.7%	595名	14.8%
無回答	-	-	115名	2.9%



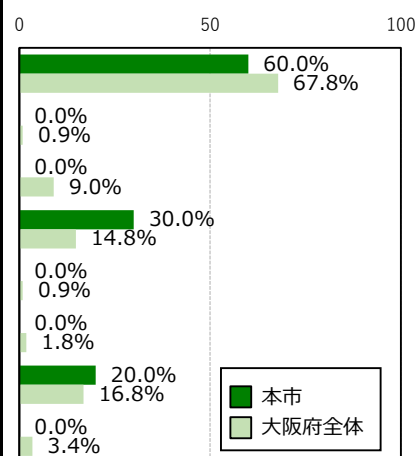
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	30名	100.0%	2,381名	100.0%
家事や育児に専念したいため	21名	70.0%	1,820名	76.4%
学生のため	1名	3.3%	36名	1.5%
おうちの人の介護や介助のため	2名	6.7%	160名	6.7%
病気療養のため	2名	6.7%	252名	10.6%
年金収入があるため	-	-	20名	0.8%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	-	-	32名	1.3%
その他	5名	16.7%	317名	13.3%
無回答	-	-	61名	2.6%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	10名	100.0%	1,570名	100.0%
家事や育児に専念したいため	6名	60.0%	1,064名	67.8%
学生のため	-	-	14名	0.9%
おうちの人の介護や介助のため	-	-	141名	9.0%
病気療養のため	3名	30.0%	232名	14.8%
年金収入があるため	-	-	14名	0.9%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	-	-	29名	1.8%
その他	2名	20.0%	263名	16.8%
無回答	-	-	54名	3.4%



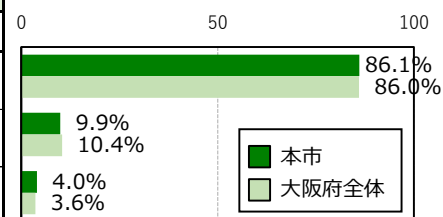
世帯の状況について

問9 お父さんの有無

保護者全体は、「いる」が86.1%、「いない」が9.9%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が88.1%、「いない」が8.7%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が84.1%、「いない」が11.1%となっている。

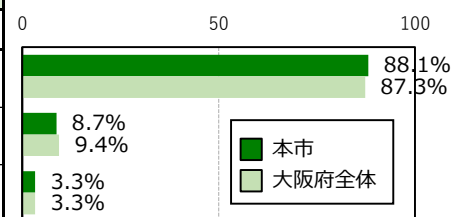
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	576名	86.1%	37,256名	86.0%
いない	66名	9.9%	4,504名	10.4%
無回答	27名	4.0%	1,540名	3.6%



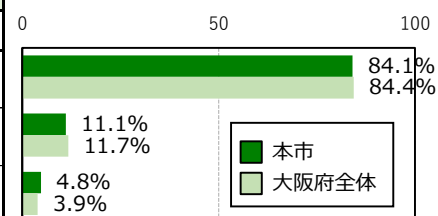
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	295名	88.1%	19,882名	87.3%
いない	29名	8.7%	2,149名	9.4%
無回答	11名	3.3%	755名	3.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	243名	84.1%	16,352名	84.4%
いない	32名	11.1%	2,261名	11.7%
無回答	14名	4.8%	752名	3.9%



世帯の状況について

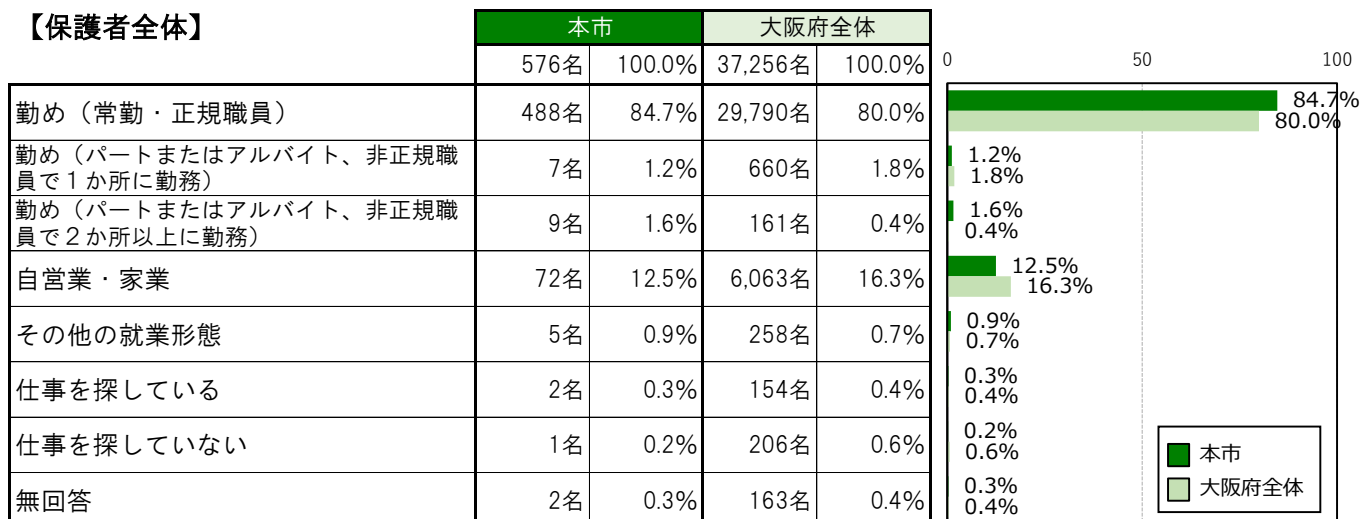
問9 お父さんの就業状況

保護者全体は、「勤め（常勤・正規職員）」が84.7%で最も多く、次いで「自営業・家業」が12.5%となっている。

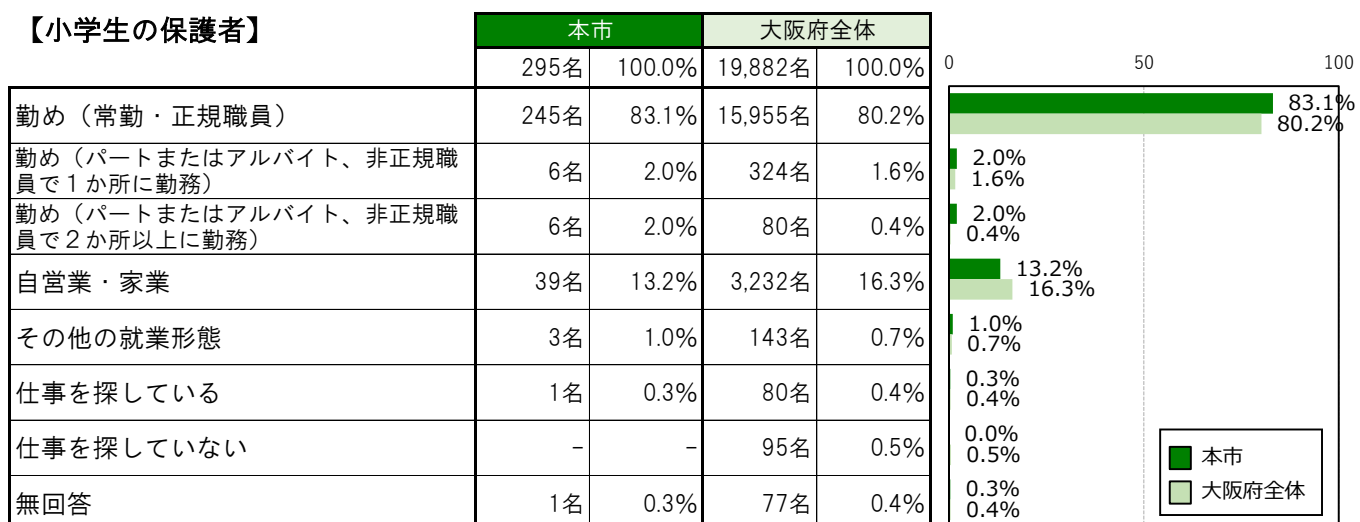
小学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が83.1%で最も多く、次いで「自営業・家業」が13.2%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」となっている。

中学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が86.8%で最も多く、次いで「自営業・家業」が11.9%となっている。

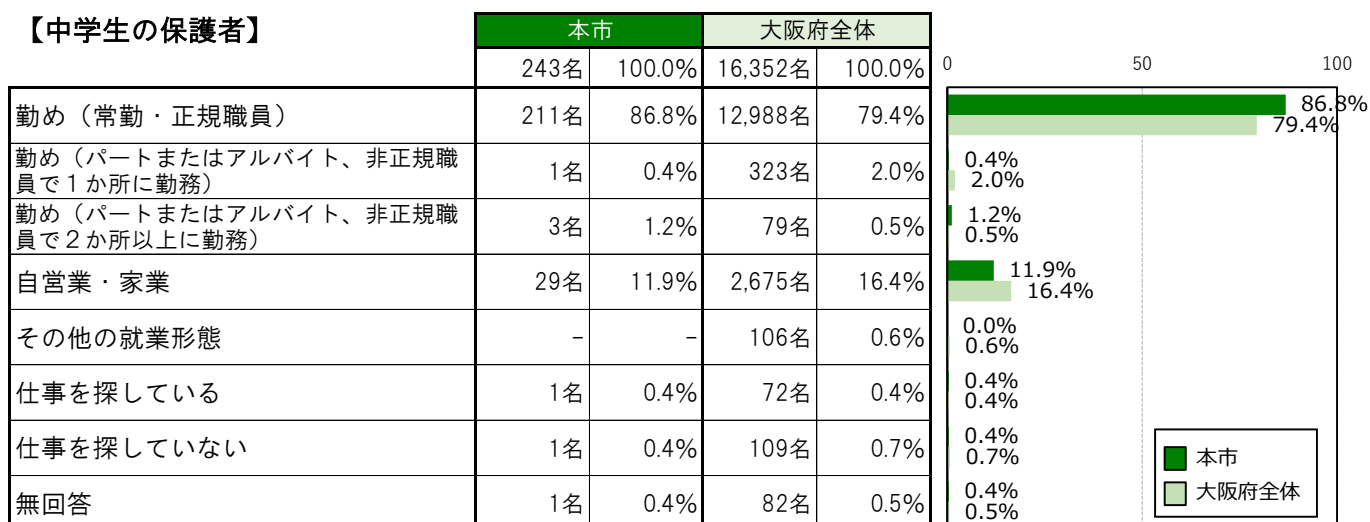
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



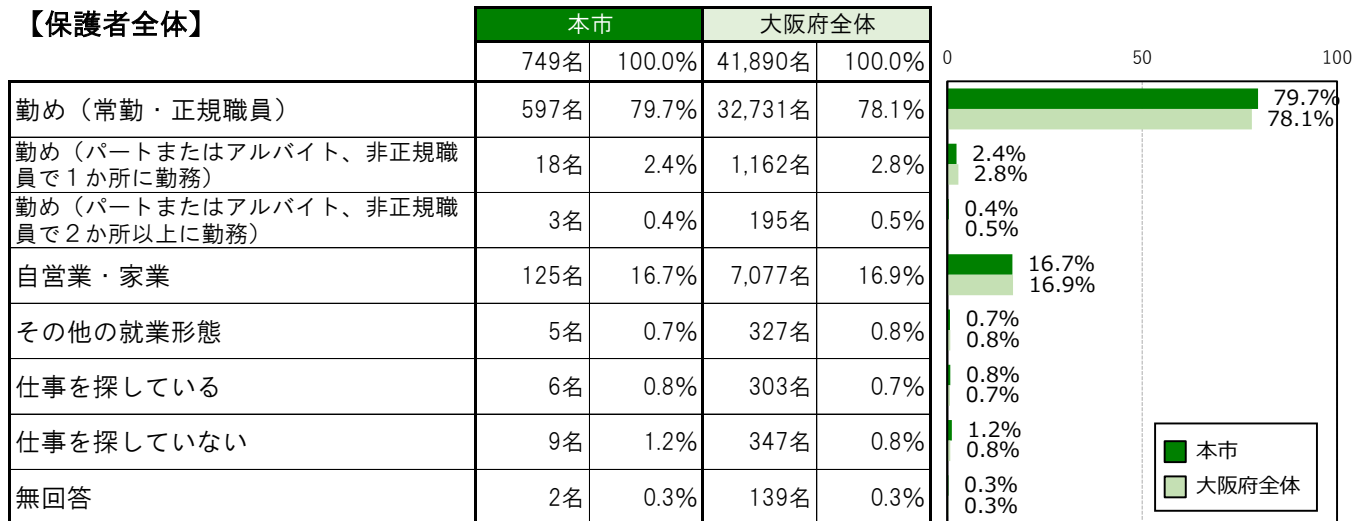
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「勤め（常勤・正規職員）」は5.0ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「自営業・家業」は3.1ポイント低い、「勤め（常勤・正規職員）」は3.6ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」は6.9ポイント高い、「自営業・家業」は5.3ポイント低くなっている。

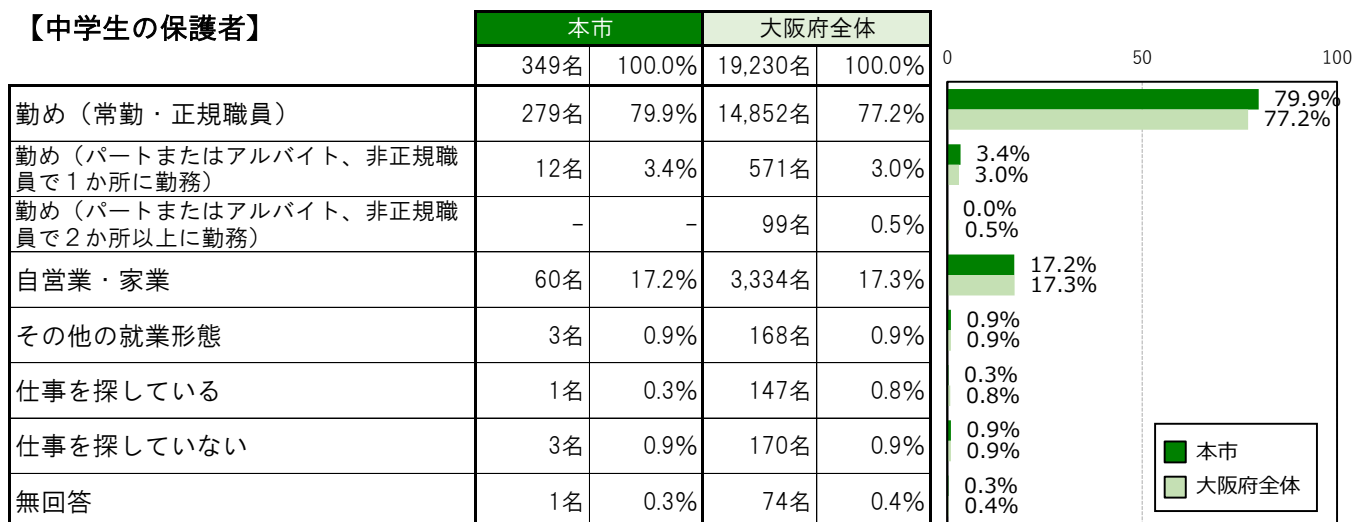
【保護者全体】



【小学生の保護者】



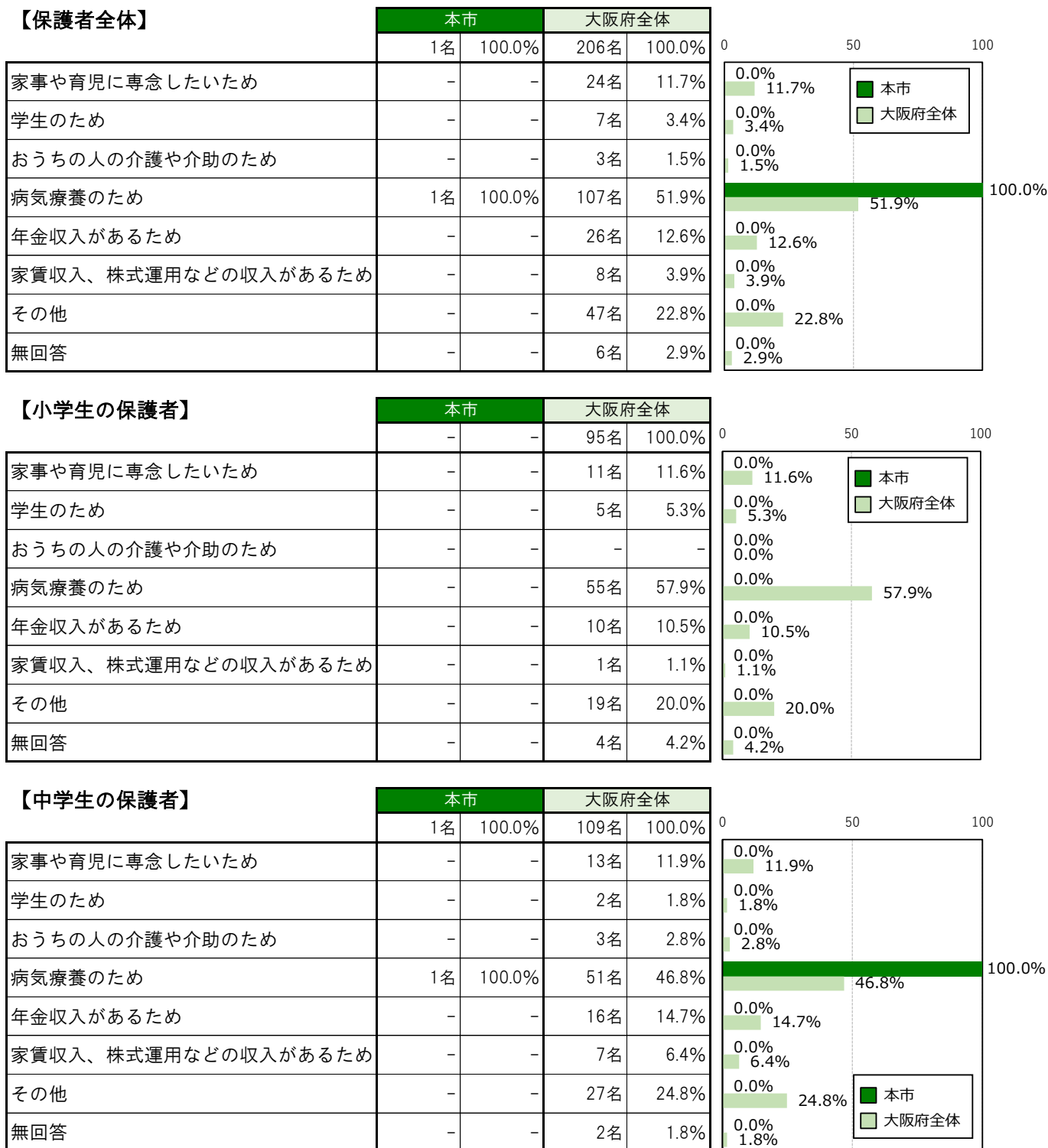
【中学生の保護者】



世帯の状況について

問9 お父さんが仕事を探していない理由

保護者全体、中学生の保護者は、「病気療養のため」が100.0%（1名）となっている。



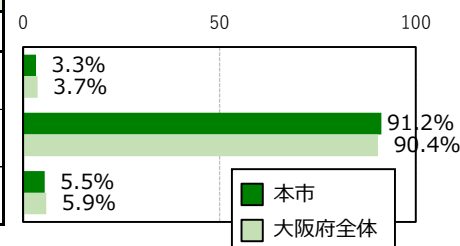
世帯の状況について

問9 親以外に主として家計を支えている人の有無

保護者全体は、「いる」が3.3%、「いない」が91.2%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が3.6%、「いない」が91.6%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が3.1%、「いない」が90.7%となっている。

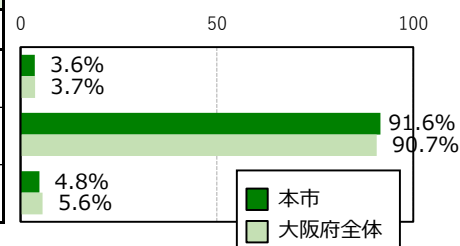
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	22名	3.3%	1,611名	3.7%
いない	610名	91.2%	39,140名	90.4%
無回答	37名	5.5%	2,549名	5.9%



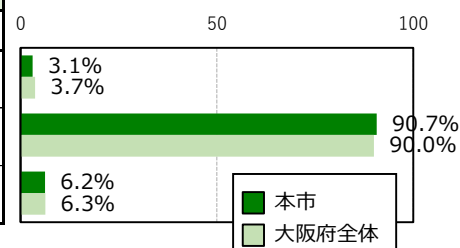
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	12名	3.6%	854名	3.7%
いない	307名	91.6%	20,666名	90.7%
無回答	16名	4.8%	1,266名	5.6%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	9名	3.1%	718名	3.7%
いない	262名	90.7%	17,432名	90.0%
無回答	18名	6.2%	1,215名	6.3%



世帯の状況について

問9 親以外に主として家計を支えている人の就業状況

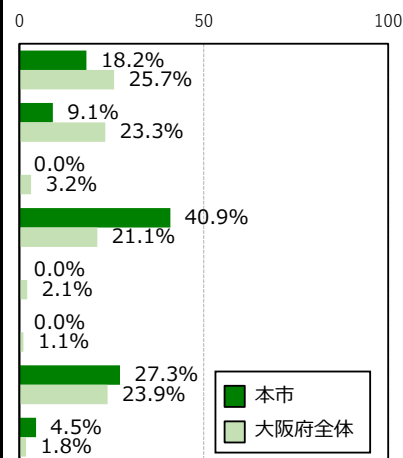
保護者全体は、「自営業・家業」が40.9%で最も多く、次いで「仕事を探していない」が27.3%、「勤め（常勤・正規職員）」が18.2%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が9.1%となっている。

小学生の保護者は、「仕事を探していない」が41.7%で最も多く、次いで「自営業・家業」が33.3%、「勤め（常勤・正規職員）」が25.0%となっている。

中学生の保護者は、「自営業・家業」が44.4%で最も多く、次いで「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が22.2%、「勤め（常勤・正規職員）」、「仕事を探していない」がそれぞれ11.1%となっている。

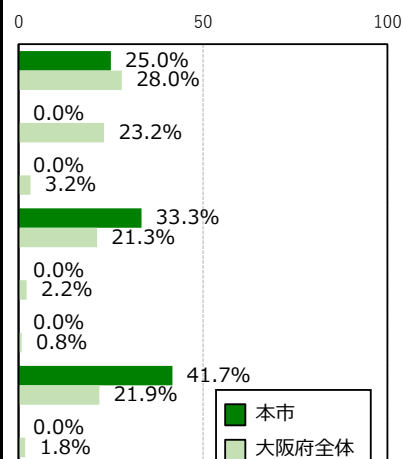
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	22名	100.0%	1,611名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	4名	18.2%	414名	25.7%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	2名	9.1%	375名	23.3%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	-	-	51名	3.2%
自営業・家業	9名	40.9%	340名	21.1%
その他の就業形態	-	-	34名	2.1%
仕事を探している	-	-	18名	1.1%
仕事を探していない	6名	27.3%	385名	23.9%
無回答	1名	4.5%	29名	1.8%



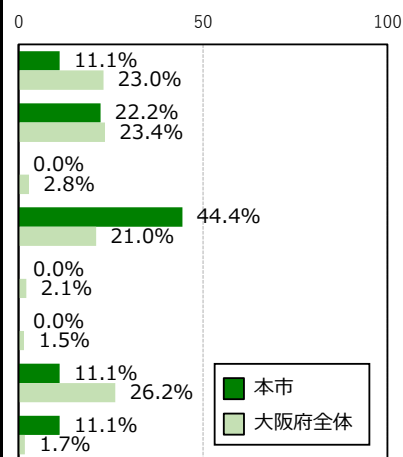
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	12名	100.0%	854名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	3名	25.0%	239名	28.0%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	-	-	198名	23.2%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	-	-	27名	3.2%
自営業・家業	4名	33.3%	182名	21.3%
その他の就業形態	-	-	19名	2.2%
仕事を探している	-	-	7名	0.8%
仕事を探していない	5名	41.7%	187名	21.9%
無回答	-	-	15名	1.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	9名	100.0%	718名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	1名	11.1%	165名	23.0%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	2名	22.2%	168名	23.4%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	-	-	20名	2.8%
自営業・家業	4名	44.4%	151名	21.0%
その他の就業形態	-	-	15名	2.1%
仕事を探している	-	-	11名	1.5%
仕事を探していない	1名	11.1%	188名	26.2%
無回答	1名	11.1%	12名	1.7%



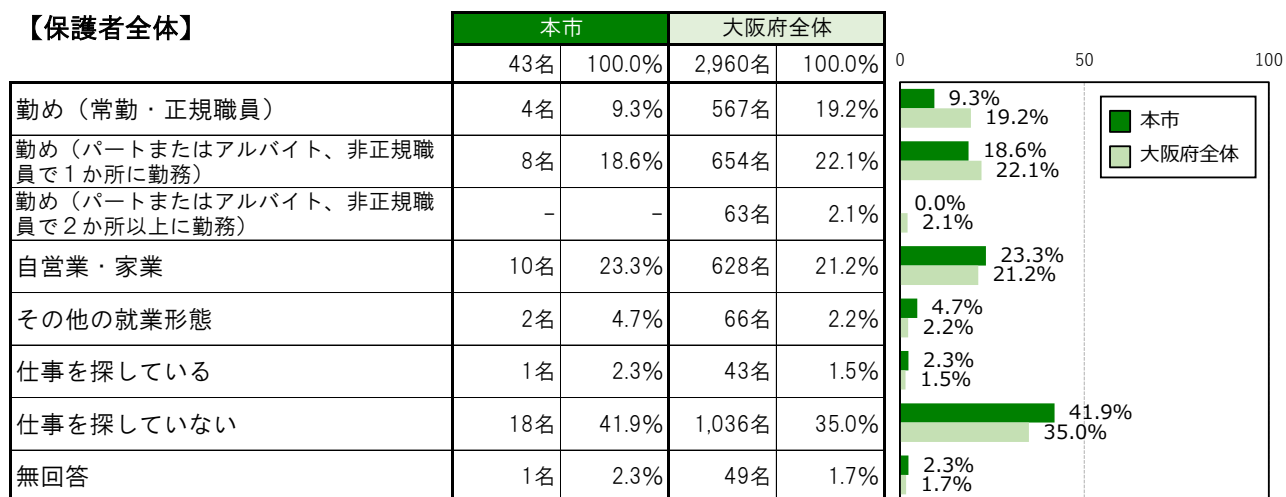
●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、母数が少ないため一概には言えないが、保護者全体は、「自営業・家業」は17.6ポイント高く、「仕事を探していない」が14.6ポイント低くなっている。

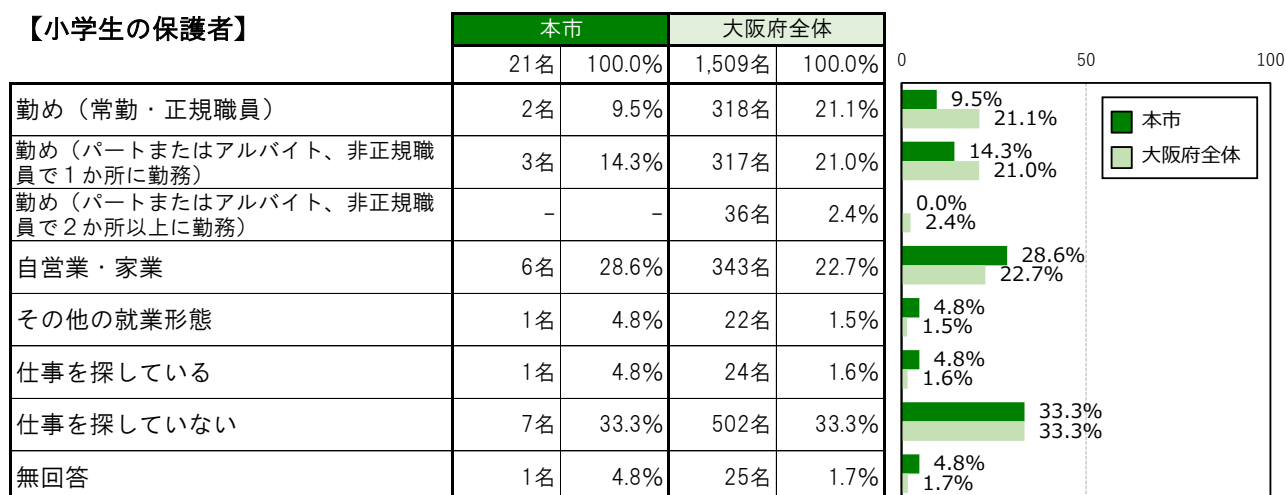
小学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」は15.5ポイント、「仕事を探していない」は8.4ポイントそれぞれ高くなっている。

中学生の保護者は、「自営業・家業」は26.2ポイント高くなっている。

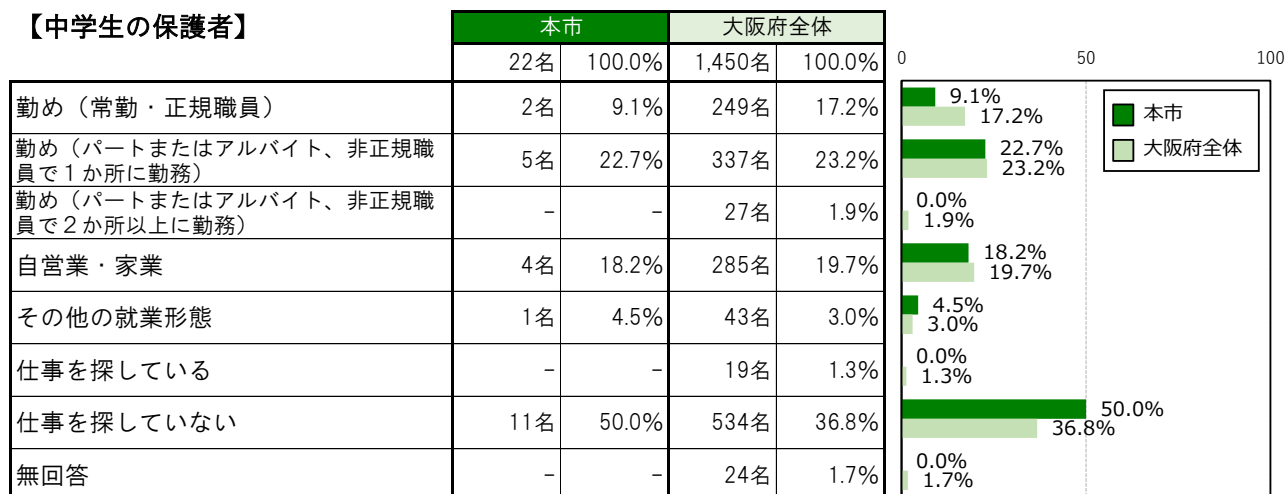
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問9 親以外に主として家計を支えている人が仕事を探していない理由

保護者全体は、「年金収入があるため」が83.3%（5名）で最も多く、次いで「病気療養のため」が33.3%（2名）、「家賃収入、株式運用などの収入があるため」が16.7%（1名）となっている。

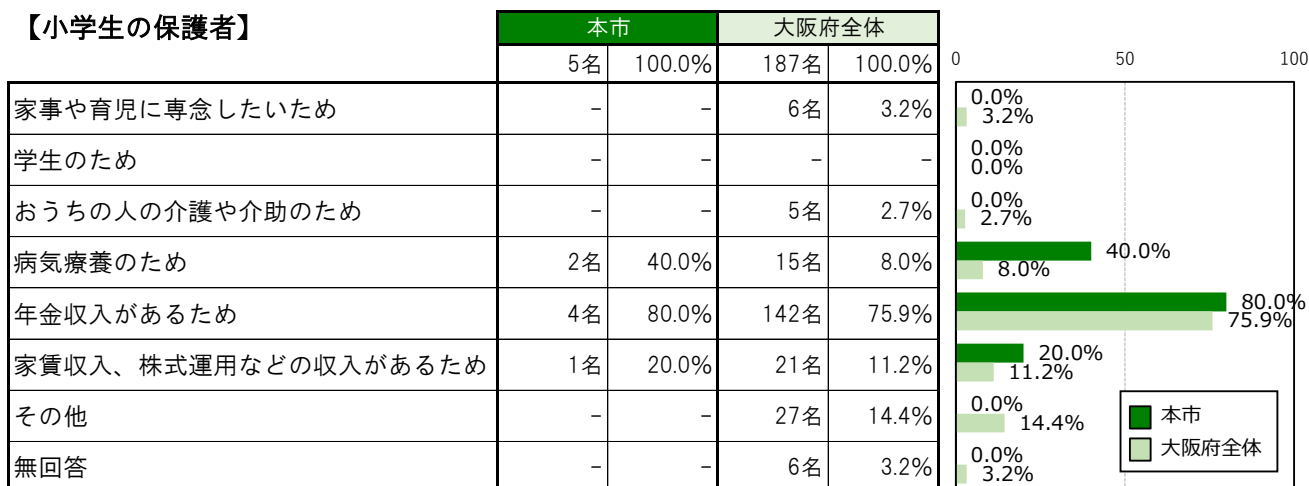
小学生の保護者は、「年金収入があるため」が80.0%（4名）で最も多く、次いで「病気療養のため」が40.0%（2名）、「家賃収入、株式運用などの収入があるため」が20.0%（1名）となっている。

中学生の保護者は、「年金収入があるため」が100.0%（1名）となっている。

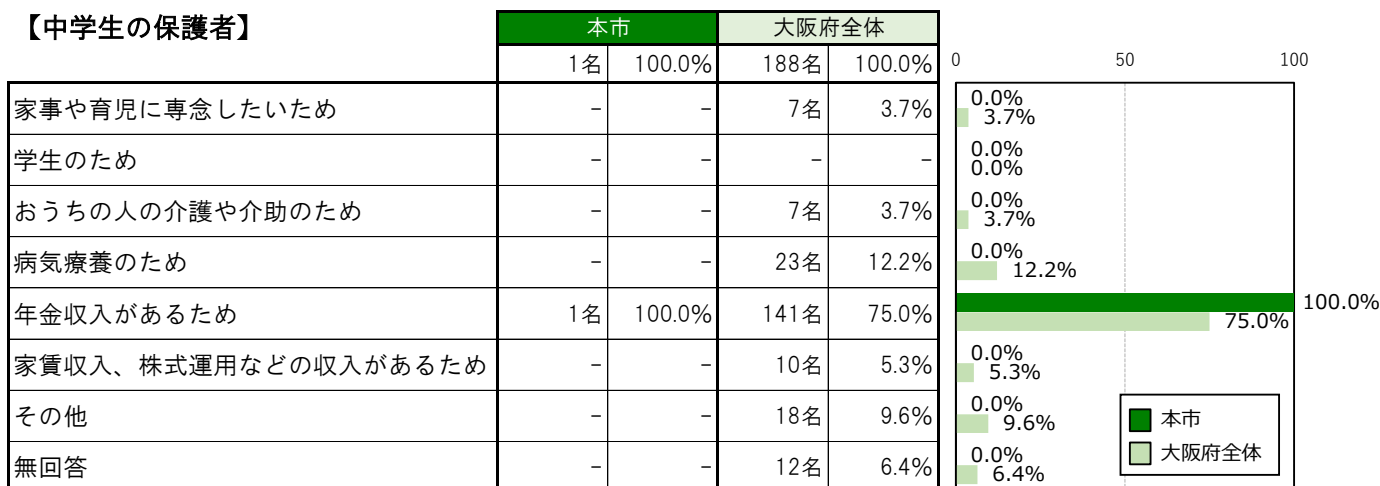
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問10 保護者が家にいる時間帯

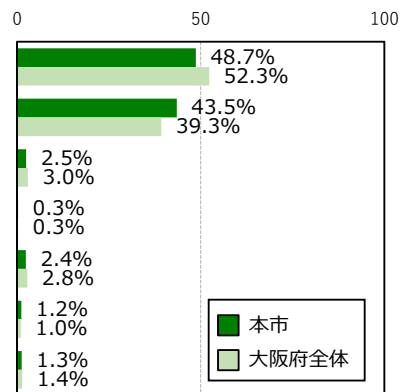
保護者全体は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が48.7%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が43.5%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が2.5%、「帰宅時間が決まっていない」が2.4%となっている。

小学生の保護者は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が51.0%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が43.0%、「帰宅時間が決まっていない」が2.1%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が1.5%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が46.0%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が43.9%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が4.2%となっている。

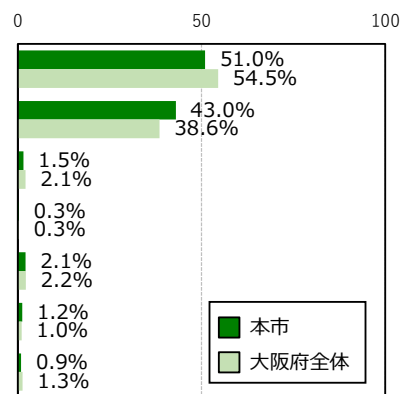
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	669名	100.0%	43,300名	100.0%
お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	326名	48.7%	22,638名	52.3%
お子さんの夕食時間には家にいる	291名	43.5%	17,029名	39.3%
お子さんの寝る時間には家にいる	17名	2.5%	1,283名	3.0%
お子さんが寝た後に帰ってくる	2名	0.3%	129名	0.3%
帰宅時間が決まっていない	16名	2.4%	1,212名	2.8%
その他	8名	1.2%	416名	1.0%
無回答	9名	1.3%	593名	1.4%



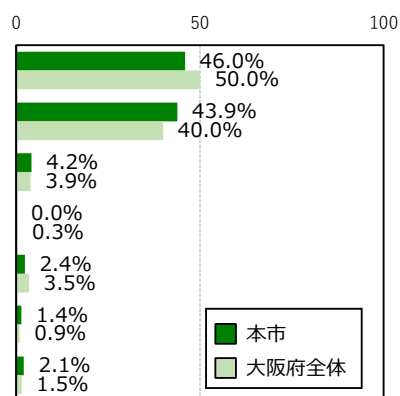
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	22,786名	100.0%
お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	171名	51.0%	12,408名	54.5%
お子さんの夕食時間には家にいる	144名	43.0%	8,796名	38.6%
お子さんの寝る時間には家にいる	5名	1.5%	489名	2.1%
お子さんが寝た後に帰ってくる	1名	0.3%	66名	0.3%
帰宅時間が決まっていない	7名	2.1%	505名	2.2%
その他	4名	1.2%	222名	1.0%
無回答	3名	0.9%	300名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	289名	100.0%	19,365名	100.0%
お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	133名	46.0%	9,674名	50.0%
お子さんの夕食時間には家にいる	127名	43.9%	7,739名	40.0%
お子さんの寝る時間には家にいる	12名	4.2%	747名	3.9%
お子さんが寝た後に帰ってくる	-	-	61名	0.3%
帰宅時間が決まっていない	7名	2.4%	676名	3.5%
その他	4名	1.4%	182名	0.9%
無回答	6名	2.1%	286名	1.5%



世帯の状況について

問11 日本語以外の言語の使用状況

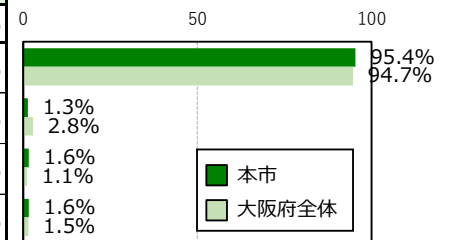
保護者全体は、「日本語のみを使用している」が95.4%で最も多く、次いで「日本語以外の言語を使うことが多い」が1.6%、「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が1.3%となっている。

小学生の保護者は、「日本語のみを使用している」が95.5%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」、「日本語以外の言語を使うことが多い」がそれぞれ1.8%となっている。

中学生の保護者は、「日本語のみを使用している」が95.5%で最も多く、次いで「日本語以外の言語を使うことが多い」が1.7%、「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が0.3%となっている。

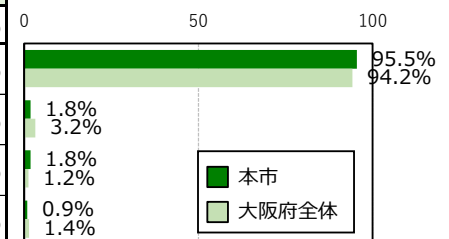
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	669名	100.0%	43,300名	100.0%
日本語のみを使用している	638名	95.4%	40,991名	94.7%
日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い	9名	1.3%	1,201名	2.8%
日本語以外の言語を使うことが多い	11名	1.6%	476名	1.1%
無回答	11名	1.6%	632名	1.5%



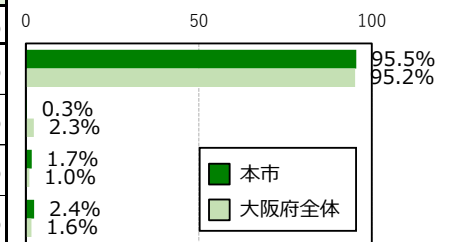
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	22,786名	100.0%
日本語のみを使用している	320名	95.5%	21,457名	94.2%
日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い	6名	1.8%	729名	3.2%
日本語以外の言語を使うことが多い	6名	1.8%	280名	1.2%
無回答	3名	0.9%	320名	1.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	289名	100.0%	19,365名	100.0%
日本語のみを使用している	276名	95.5%	18,426名	95.2%
日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い	1名	0.3%	446名	2.3%
日本語以外の言語を使うことが多い	5名	1.7%	188名	1.0%
無回答	7名	2.4%	305名	1.6%



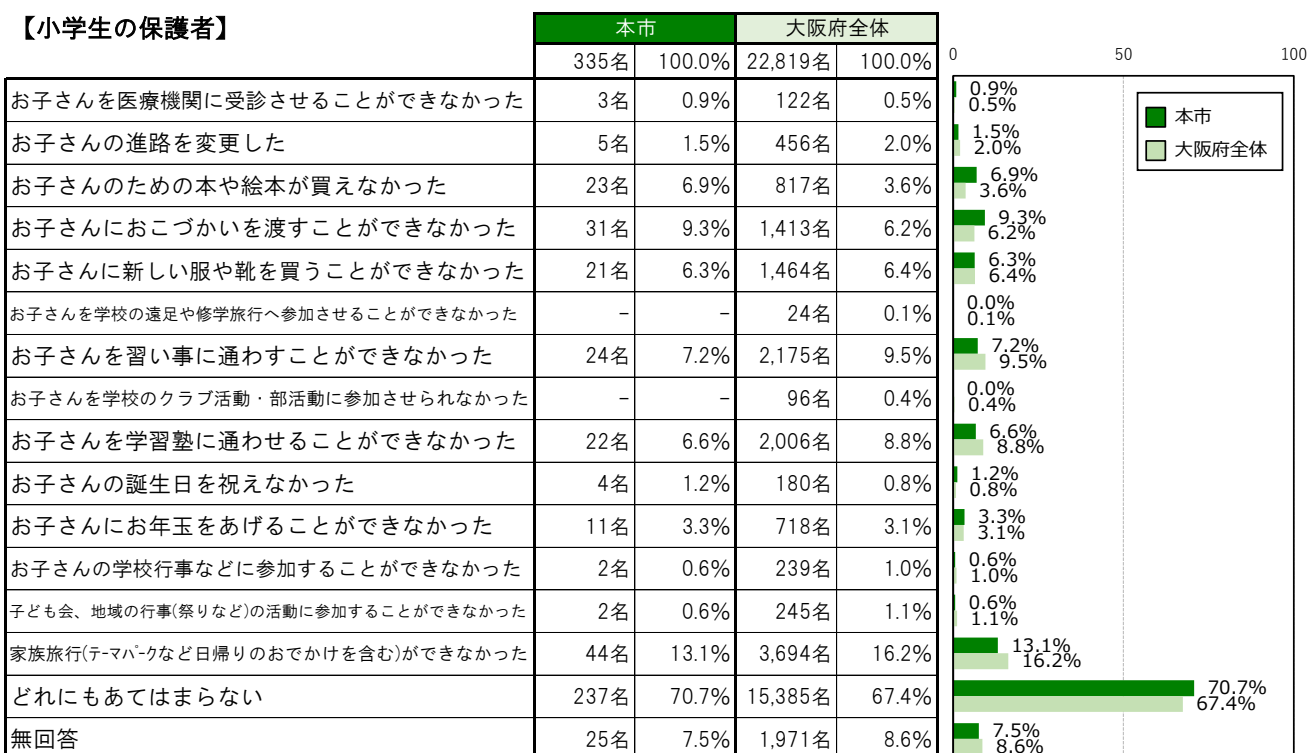
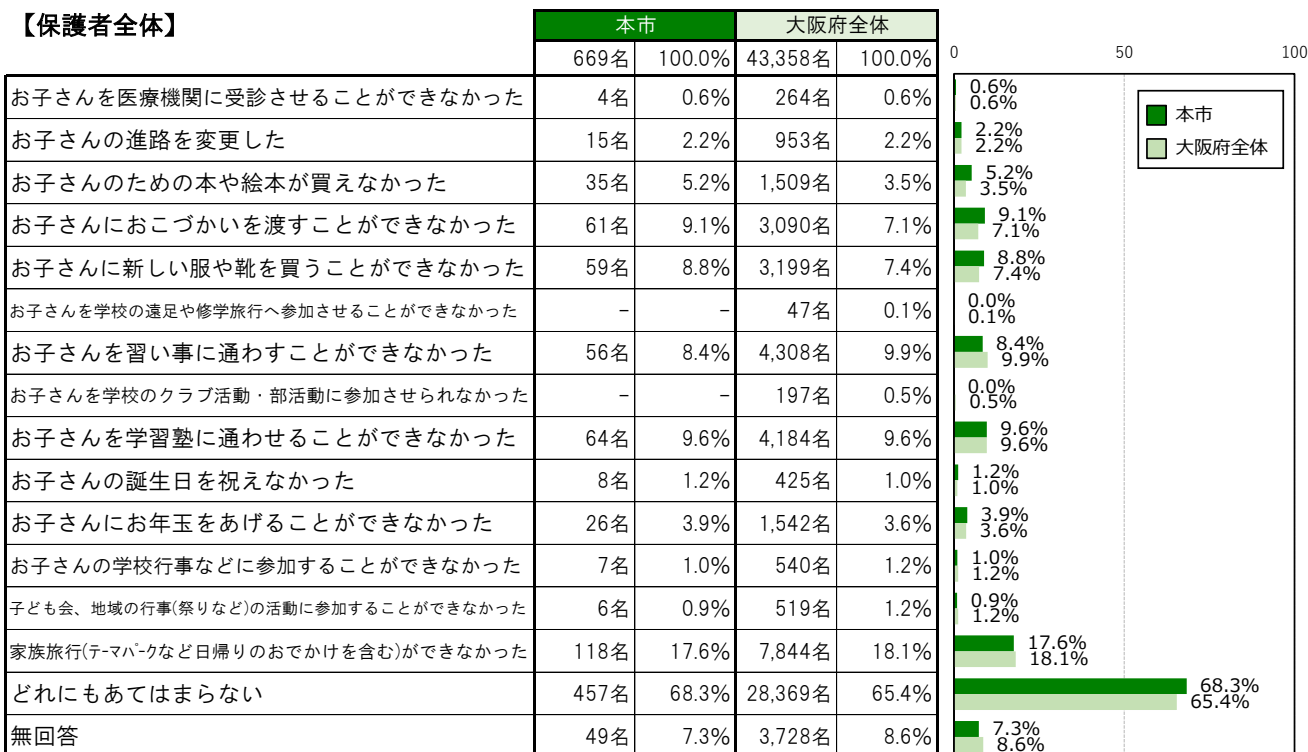
子どもに関することについて

問12 経済的な理由による子どもに関する経験

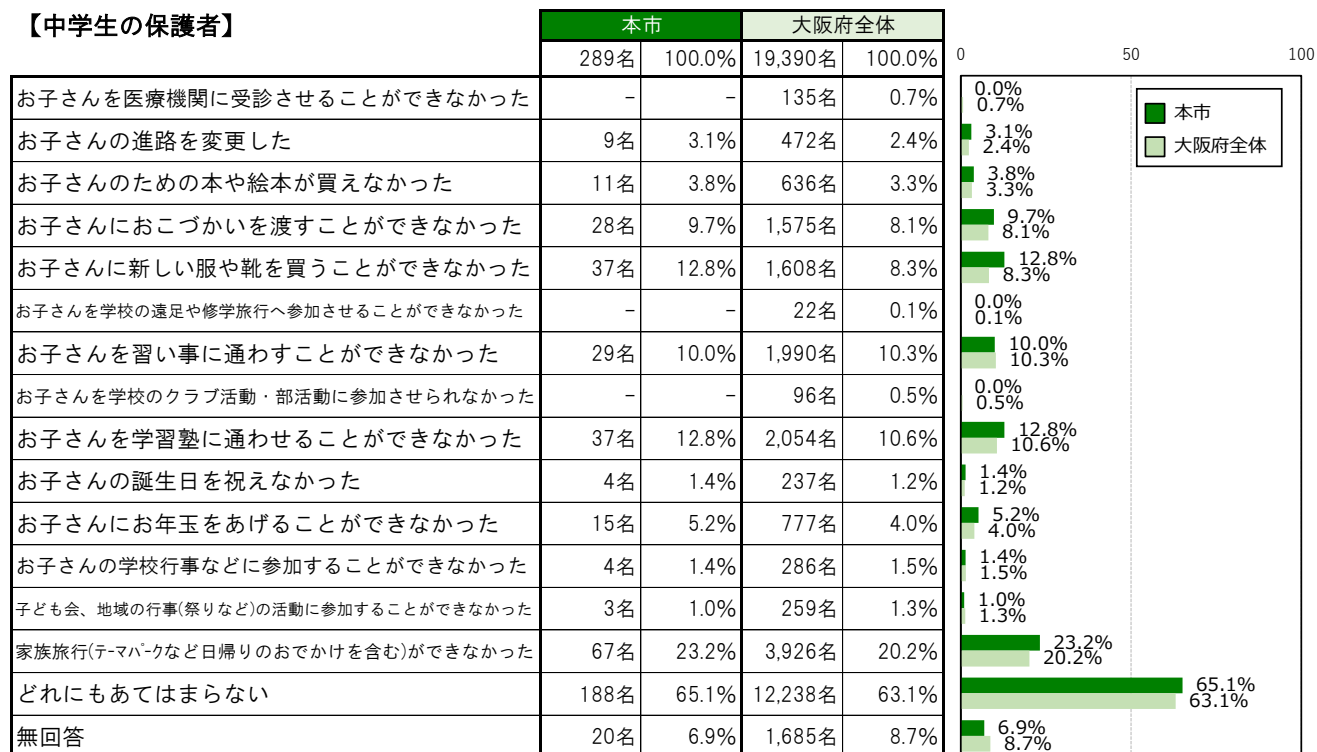
保護者全体は、「どれにもあてはまらない」が68.3%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が17.6%、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」が9.6%となっている。

小学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が70.7%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が13.1%、「お子さんにおこづかいを渡すことができなかった」が9.3%となっている。

中学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が65.1%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が23.2%、「お子さんに新しい服や靴を買うことができなかった」、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」がそれぞれ12.8%となっている。

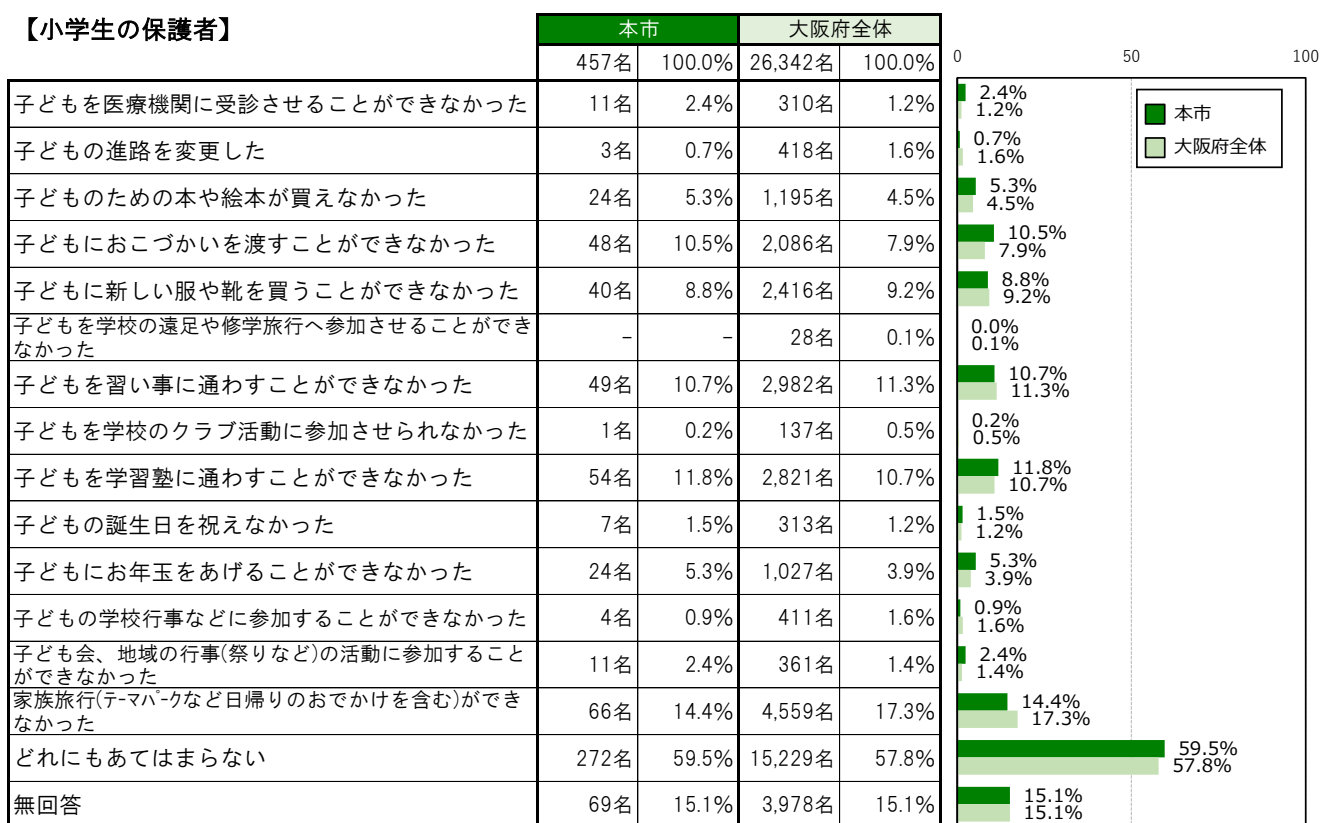
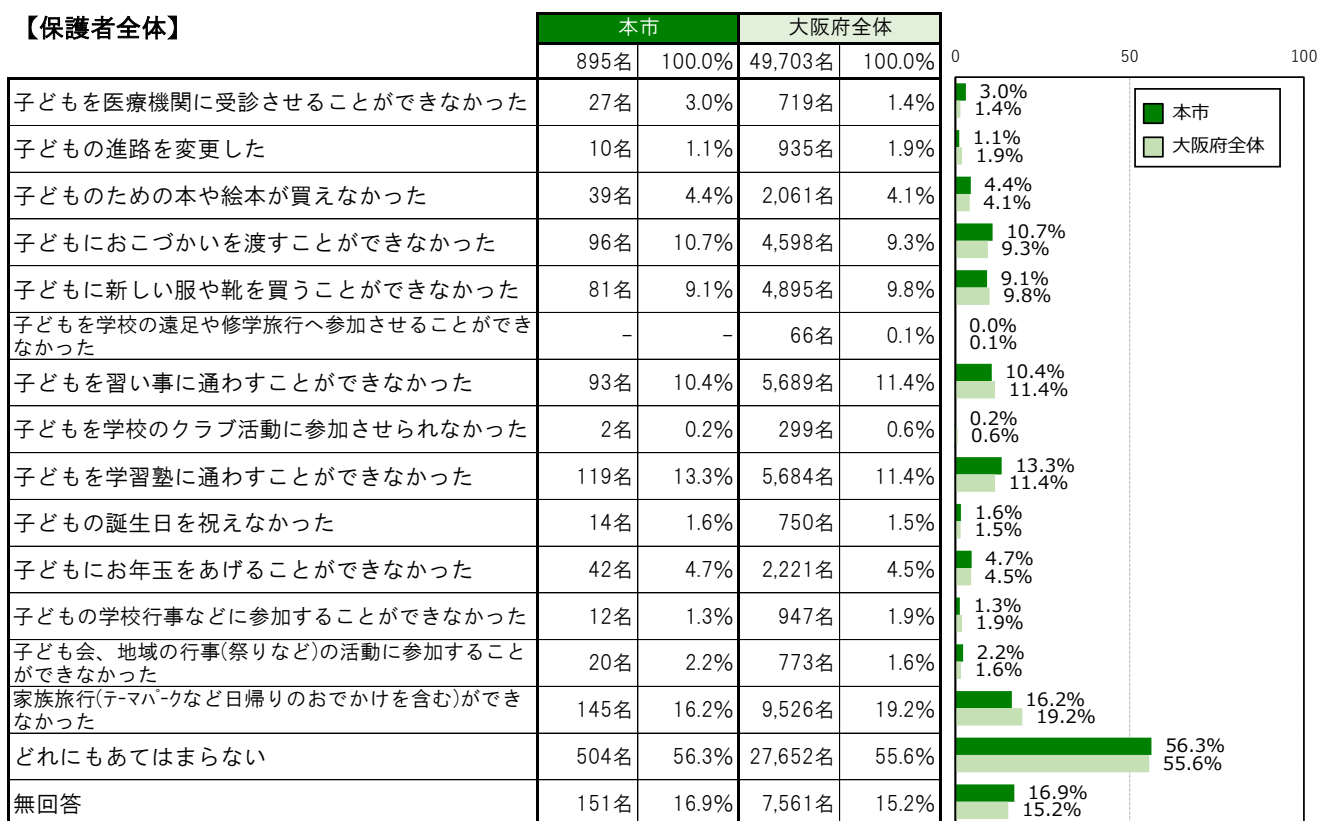


【中学生の保護者】

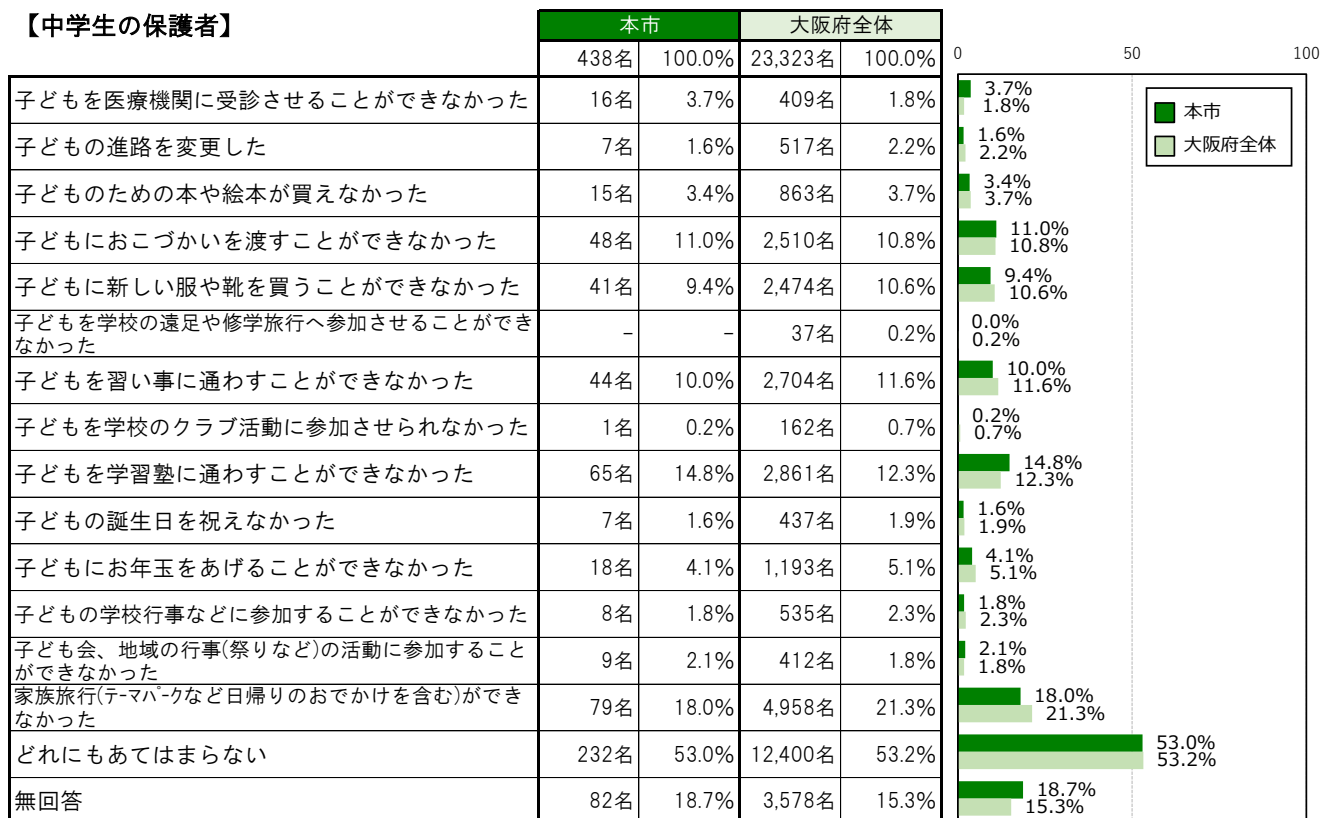


●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「どれにもあてはまらない」が12.0ポイント高くなっている。
 小学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が11.2ポイント高くなっている。
 中学生の保護者は、「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が5.2ポイント高くなっている。



【中学生の保護者】



子どもに関することについて

問13（１）子どもへの信頼度

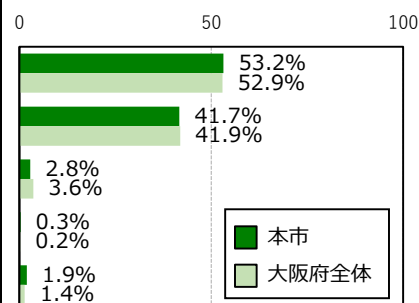
保護者全体は、「とても信頼している」が53.2%で最も多く、次いで「信頼している」が41.7%、「あまり信頼していない」が2.8%、「信頼していない」が0.3%となっている。

小学生の保護者は、「とても信頼している」が55.5%で最も多く、次いで「信頼している」が39.7%、「あまり信頼していない」が2.1%、「信頼していない」が0.3%となっている。

中学生の保護者は、「とても信頼している」が51.2%で最も多く、次いで「信頼している」が43.6%、「あまり信頼していない」が3.5%となっている。

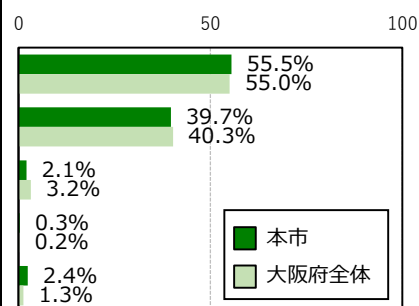
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても信頼している	356名	53.2%	22,948名	52.9%
信頼している	279名	41.7%	18,151名	41.9%
あまり信頼していない	19名	2.8%	1,566名	3.6%
信頼していない	2名	0.3%	101名	0.2%
無回答	13名	1.9%	592名	1.4%



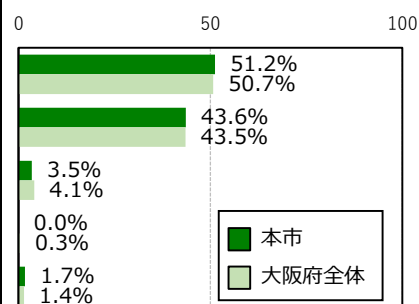
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても信頼している	186名	55.5%	12,553名	55.0%
信頼している	133名	39.7%	9,191名	40.3%
あまり信頼していない	7名	2.1%	720名	3.2%
信頼していない	1名	0.3%	48名	0.2%
無回答	8名	2.4%	307名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても信頼している	148名	51.2%	9,835名	50.7%
信頼している	126名	43.6%	8,429名	43.5%
あまり信頼していない	10名	3.5%	796名	4.1%
信頼していない	-	-	50名	0.3%
無回答	5名	1.7%	280名	1.4%



子どもに関することについて

問13（２）子どもとの会話頻度

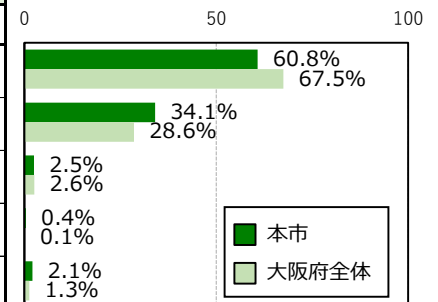
保護者全体は、「よくする」が60.8%で最も多く、次いで「する」が34.1%、「あまりしない」が2.5%となっている。

小学生の保護者は、「よくする」が65.4%で最も多く、次いで「する」が30.4%、「あまりしない」が1.8%となっている。

中学生の保護者は、「よくする」が58.1%で最も多く、次いで「する」が36.0%、「あまりしない」が2.8%となっている。

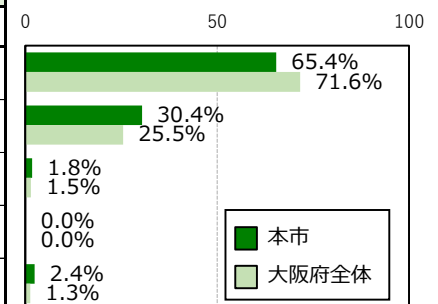
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくする	407名	60.8%	29,262名	67.5%
する	228名	34.1%	12,391名	28.6%
あまりしない	17名	2.5%	1,110名	2.6%
しない	3名	0.4%	30名	0.1%
無回答	14名	2.1%	565名	1.3%



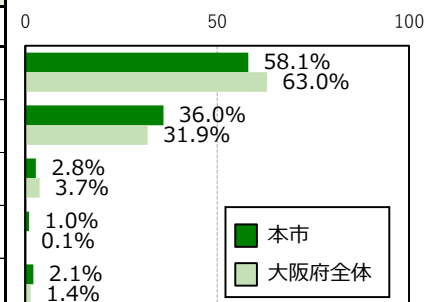
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくする	219名	65.4%	16,345名	71.6%
する	102名	30.4%	5,827名	25.5%
あまりしない	6名	1.8%	337名	1.5%
しない	-	-	10名	0.0%
無回答	8名	2.4%	300名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくする	168名	58.1%	12,214名	63.0%
する	104名	36.0%	6,176名	31.9%
あまりしない	8名	2.8%	719名	3.7%
しない	3名	1.0%	19名	0.1%
無回答	6名	2.1%	262名	1.4%



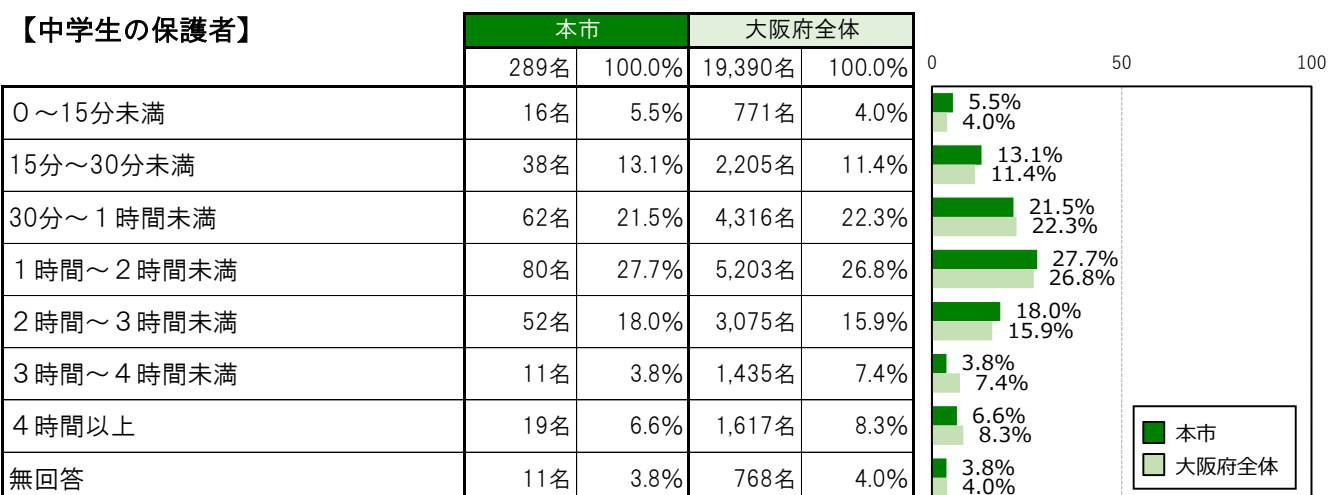
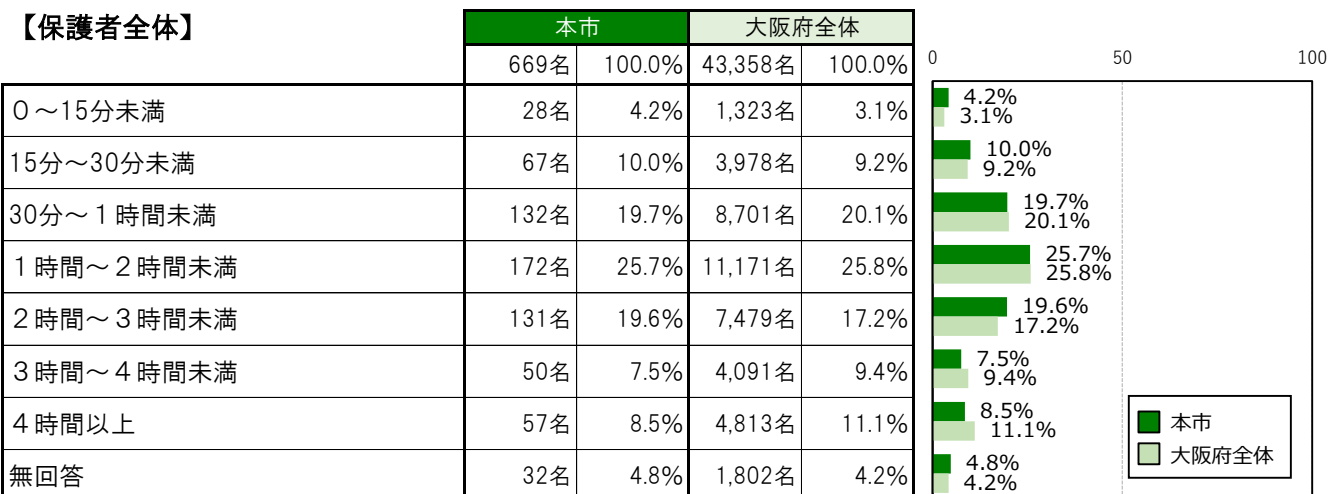
子どもに関することについて

問13（３）平日での子どもとの関わり時間

保護者全体は、「１時間～２時間未満」が25.7%で最も多く、次いで「30分～１時間未満」が19.7%、「２時間～３時間未満」が19.6%、「15分～30分未満」が10.0%となっている。

小学生の保護者は、「１時間～２時間未満」が23.3%で最も多く、次いで「２時間～３時間未満」が22.1%、「30分～１時間未満」が16.4%、「３時間～４時間未満」が11.3%となっている。

中学生の保護者は、「１時間～２時間未満」が27.7%で最も多く、次いで「30分～１時間未満」が21.5%、「２時間～３時間未満」が18.0%、「15分～30分未満」が13.1%となっている。



子どもに関することについて

問13（３）休日での子どもとの関わり時間

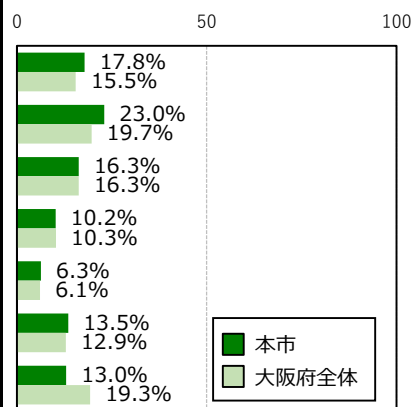
保護者全体は、「２時間～４時間未満」が23.0%で最も多く、次いで「２時間未満」が17.8%、「４時間～６時間未満」が16.3%、「10時間以上」が13.5%となっている。

小学生の保護者は、「２時間～４時間未満」が20.6%で最も多く、次いで「４時間～６時間未満」が18.8%、「10時間以上」が18.5%、「６時間～８時間未満」が11.9%となっている。

中学生の保護者は、「２時間未満」が26.3%で最も多く、次いで「２時間～４時間未満」が25.6%、「４時間～６時間未満」が12.8%、「６時間～８時間未満」、「10時間以上」がそれぞれ8.3%となっている。

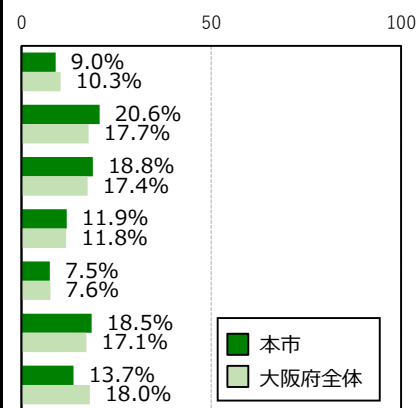
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	669名	100.0%	43,358名	100.0%
２時間未満	119名	17.8%	6,723名	15.5%
２時間～４時間未満	154名	23.0%	8,521名	19.7%
４時間～６時間未満	109名	16.3%	7,050名	16.3%
６時間～８時間未満	68名	10.2%	4,454名	10.3%
８時間～10時間未満	42名	6.3%	2,659名	6.1%
10時間以上	90名	13.5%	5,577名	12.9%
無回答	87名	13.0%	8,374名	19.3%



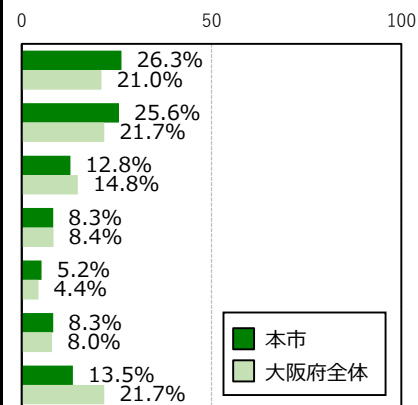
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	22,819名	100.0%
２時間未満	30名	9.0%	2,357名	10.3%
２時間～４時間未満	69名	20.6%	4,031名	17.7%
４時間～６時間未満	63名	18.8%	3,977名	17.4%
６時間～８時間未満	40名	11.9%	2,700名	11.8%
８時間～10時間未満	25名	7.5%	1,740名	7.6%
10時間以上	62名	18.5%	3,896名	17.1%
無回答	46名	13.7%	4,118名	18.0%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	289名	100.0%	19,390名	100.0%
２時間未満	76名	26.3%	4,070名	21.0%
２時間～４時間未満	74名	25.6%	4,216名	21.7%
４時間～６時間未満	37名	12.8%	2,876名	14.8%
６時間～８時間未満	24名	8.3%	1,632名	8.4%
８時間～10時間未満	15名	5.2%	845名	4.4%
10時間以上	24名	8.3%	1,542名	8.0%
無回答	39名	13.5%	4,209名	21.7%



子どもに関することについて

問13（４）子どもの将来への期待度

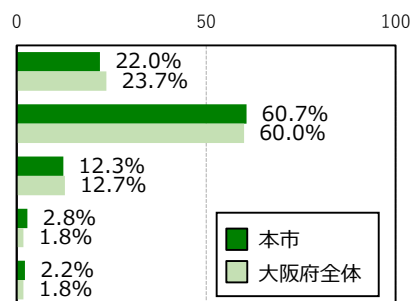
保護者全体は、「期待している」が60.7%で最も多く、次いで「とても期待している」が22.0%、「あまり期待していない」が12.3%、「期待していない」が2.8%となっている。

小学生の保護者は、「期待している」が60.9%で最も多く、次いで「とても期待している」が22.4%、「あまり期待していない」が11.6%、「期待していない」が2.7%となっている。

中学生の保護者は、「期待している」が61.6%で最も多く、次いで「とても期待している」が21.5%、「あまり期待していない」が12.8%、「期待していない」が2.1%となっている。

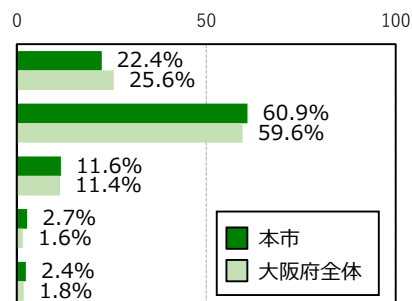
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	669名	100.0%	43,358名	100.0%
とても期待している	147名	22.0%	10,264名	23.7%
期待している	406名	60.7%	26,035名	60.0%
あまり期待していない	82名	12.3%	5,485名	12.7%
期待していない	19名	2.8%	779名	1.8%
無回答	15名	2.2%	795名	1.8%



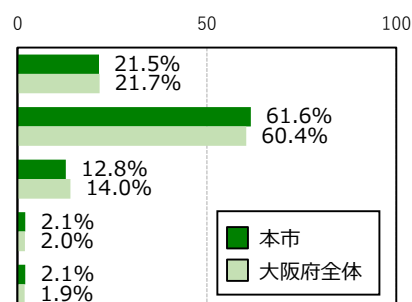
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	22,819名	100.0%
とても期待している	75名	22.4%	5,831名	25.6%
期待している	204名	60.9%	13,610名	59.6%
あまり期待していない	39名	11.6%	2,603名	11.4%
期待していない	9名	2.7%	363名	1.6%
無回答	8名	2.4%	412名	1.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	289名	100.0%	19,390名	100.0%
とても期待している	62名	21.5%	4,207名	21.7%
期待している	178名	61.6%	11,704名	60.4%
あまり期待していない	37名	12.8%	2,717名	14.0%
期待していない	6名	2.1%	388名	2.0%
無回答	6名	2.1%	374名	1.9%



子どもに関することについて

問13（５）子どもの授業参観や運動会などの学校行事への参加状況

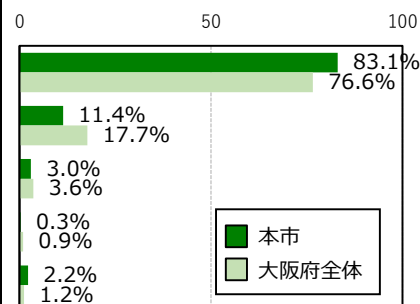
保護者全体は、「よく参加している」が83.1%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が11.4%、「あまり参加していない」が3.0%となっている。

小学生の保護者は、「よく参加している」が90.1%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が6.0%、「あまり参加していない」が0.9%となっている。

中学生の保護者は、「よく参加している」が74.0%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が18.0%、「あまり参加していない」が5.5%となっている。

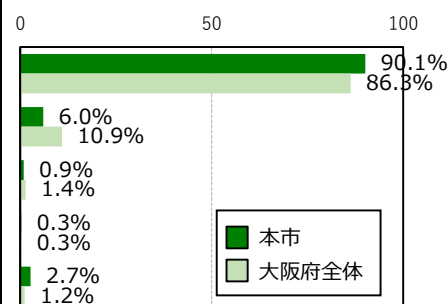
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よく参加している	556名	83.1%	33,215名	76.6%
ときどき参加している	76名	11.4%	7,691名	17.7%
あまり参加していない	20名	3.0%	1,550名	3.6%
まったく参加していない	2名	0.3%	376名	0.9%
無回答	15名	2.2%	526名	1.2%



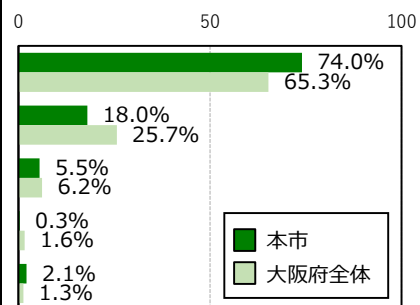
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よく参加している	302名	90.1%	19,697名	86.3%
ときどき参加している	20名	6.0%	2,477名	10.9%
あまり参加していない	3名	0.9%	309名	1.4%
まったく参加していない	1名	0.3%	58名	0.3%
無回答	9名	2.7%	278名	1.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よく参加している	214名	74.0%	12,665名	65.3%
ときどき参加している	52名	18.0%	4,975名	25.7%
あまり参加していない	16名	5.5%	1,202名	6.2%
まったく参加していない	1名	0.3%	304名	1.6%
無回答	6名	2.1%	244名	1.3%



子どもに関することについて

問14 子どもに希望する進学

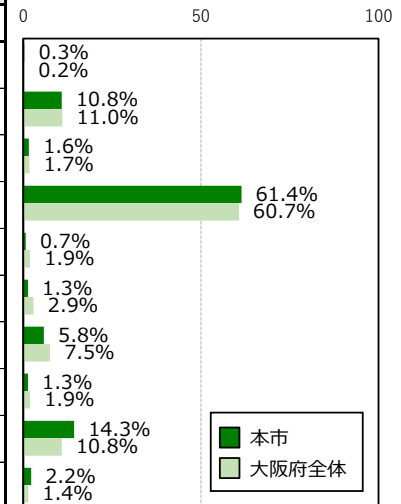
保護者全体は、「大学」が61.4%で最も多く、次いで「高校」が10.8%、「専門学校・高等専門学校」が5.8%、「短期大学」が1.6%となっている。

小学生の保護者は、「大学」が61.8%で最も多く、次いで「高校」が9.6%、「専門学校・高等専門学校」が3.0%、「考えたことがない」が2.4%となっている。

中学生の保護者は、「大学」が61.6%で最も多く、次いで「高校」が12.8%、「専門学校・高等専門学校」が8.3%、「短期大学」が1.7%となっている。

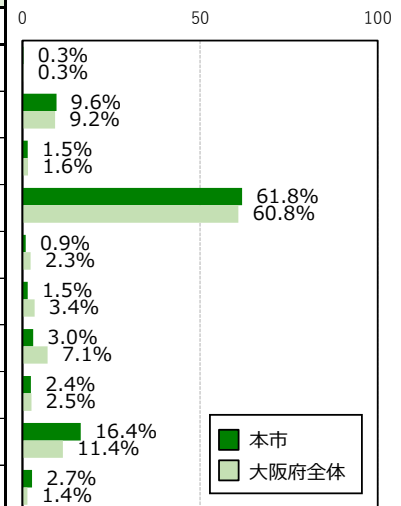
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	669名	100.0%	43,358名	100.0%
中学校	2名	0.3%	106名	0.2%
高校	72名	10.8%	4,765名	11.0%
短期大学	11名	1.6%	716名	1.7%
大学	411名	61.4%	26,334名	60.7%
大学院	5名	0.7%	827名	1.9%
留学	9名	1.3%	1,261名	2.9%
専門学校・高等専門学校	39名	5.8%	3,262名	7.5%
考えたことがない	9名	1.3%	818名	1.9%
わからない	96名	14.3%	4,674名	10.8%
無回答	15名	2.2%	595名	1.4%



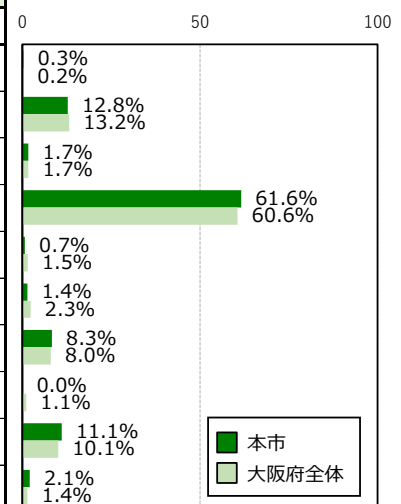
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	22,819名	100.0%
中学校	1名	0.3%	72名	0.3%
高校	32名	9.6%	2,090名	9.2%
短期大学	5名	1.5%	366名	1.6%
大学	207名	61.8%	13,868名	60.8%
大学院	3名	0.9%	519名	2.3%
留学	5名	1.5%	786名	3.4%
専門学校・高等専門学校	10名	3.0%	1,631名	7.1%
考えたことがない	8名	2.4%	579名	2.5%
わからない	55名	16.4%	2,592名	11.4%
無回答	9名	2.7%	316名	1.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	289名	100.0%	19,390名	100.0%
中学校	1名	0.3%	31名	0.2%
高校	37名	12.8%	2,557名	13.2%
短期大学	5名	1.7%	322名	1.7%
大学	178名	61.6%	11,753名	60.6%
大学院	2名	0.7%	285名	1.5%
留学	4名	1.4%	451名	2.3%
専門学校・高等専門学校	24名	8.3%	1,548名	8.0%
考えたことがない	-	-	219名	1.1%
わからない	32名	11.1%	1,951名	10.1%
無回答	6名	2.1%	273名	1.4%



子どもに関することについて

問15 子どもの通学状況

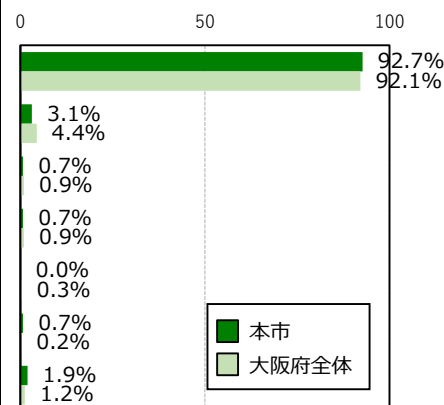
保護者全体は、「ほぼ毎日通っている」が92.7%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が3.1%となっている。

小学生の保護者は、「ほぼ毎日通っている」が92.8%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が3.3%となっている。

中学生の保護者は、「ほぼ毎日通っている」が92.4%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が3.1%となっている。

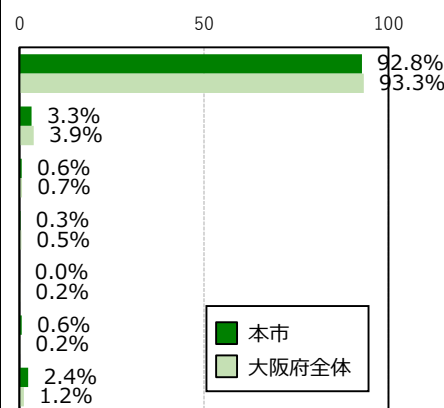
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日通っている	620名	92.7%	39,916名	92.1%
欠席は年間30日未満である	21名	3.1%	1,900名	4.4%
欠席が年間30日以上、60日未満である	5名	0.7%	406名	0.9%
欠席が年間60日以上、1年未満である	5名	0.7%	379名	0.9%
欠席が1年以上続いている	-	-	127名	0.3%
わからない	5名	0.7%	108名	0.2%
無回答	13名	1.9%	522名	1.2%



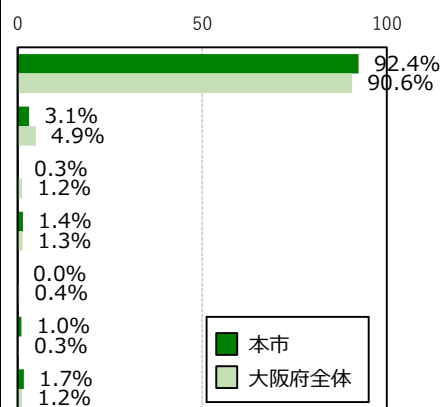
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日通っている	311名	92.8%	21,301名	93.3%
欠席は年間30日未満である	11名	3.3%	895名	3.9%
欠席が年間30日以上、60日未満である	2名	0.6%	158名	0.7%
欠席が年間60日以上、1年未満である	1名	0.3%	107名	0.5%
欠席が1年以上続いている	-	-	36名	0.2%
わからない	2名	0.6%	44名	0.2%
無回答	8名	2.4%	278名	1.2%



【中学生の保護者】

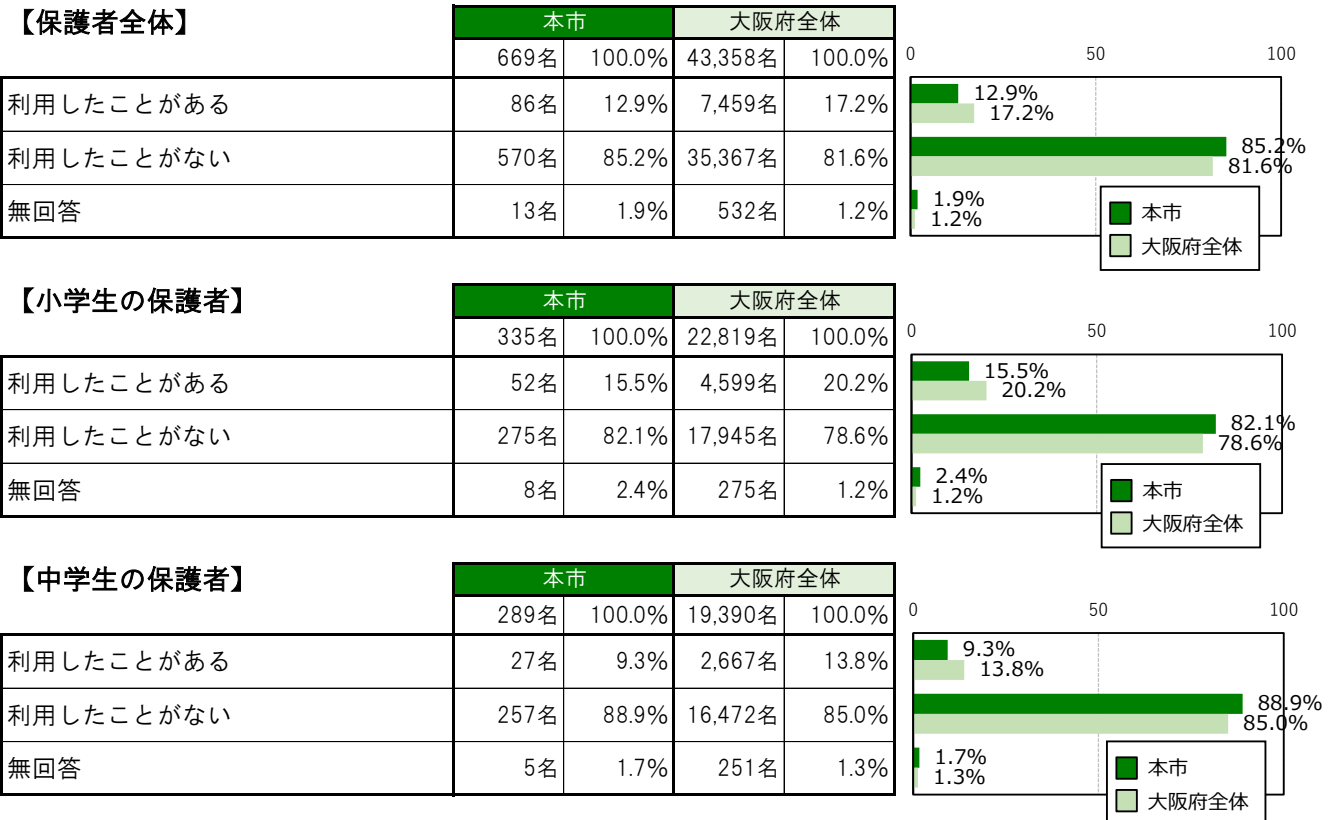
	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日通っている	267名	92.4%	17,568名	90.6%
欠席は年間30日未満である	9名	3.1%	945名	4.9%
欠席が年間30日以上、60日未満である	1名	0.3%	232名	1.2%
欠席が年間60日以上、1年未満である	4名	1.4%	257名	1.3%
欠席が1年以上続いている	-	-	86名	0.4%
わからない	3名	1.0%	62名	0.3%
無回答	5名	1.7%	240名	1.2%



子どもに関することについて

問16（１）子どもの居場所の利用経験

保護者全体は、「利用したことがある」が12.9%、「利用したことがない」が85.2%となっている。
 小学生の保護者は、「利用したことがある」が15.5%、「利用したことがない」が82.1%となっている。
 中学生の保護者は、「利用したことがある」が9.3%、「利用したことがない」が88.9%となっている。



子どもに関することについて

問16（2）子どもの居場所を利用することで良いと思うこと

保護者全体は、「お子さんが楽しんでいるから」が66.3%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が36.0%、「宿題など勉強を見てくれるから」が25.6%、「運営者が相談に乗ってくれるから」が3.5%となっている。

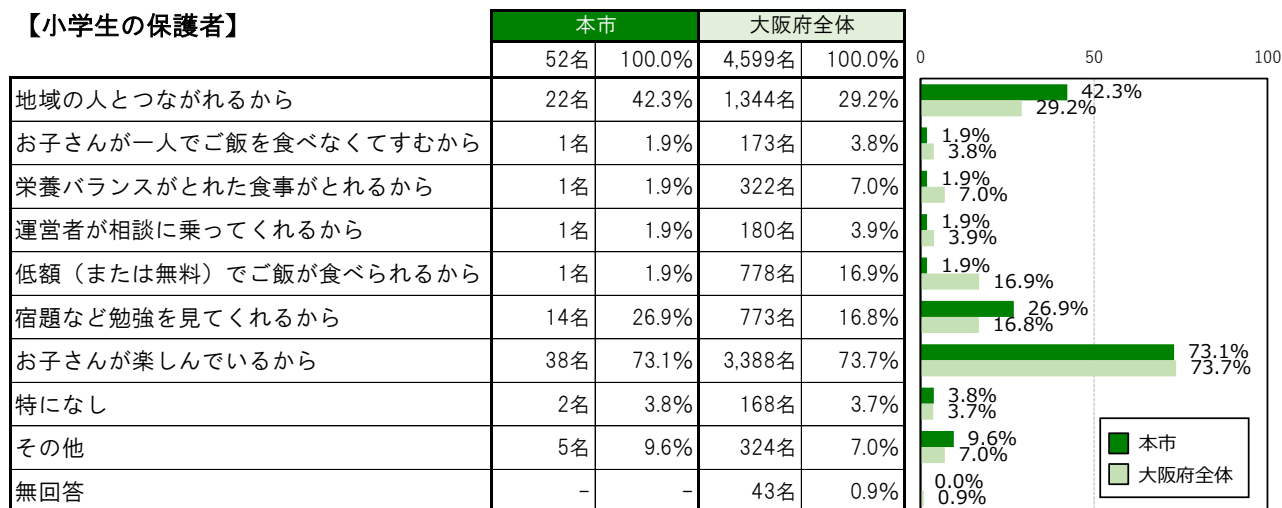
小学生の保護者は、「お子さんが楽しんでいるから」が73.1%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が42.3%、「宿題など勉強を見てくれるから」が26.9%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんが楽しんでいるから」が55.6%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が25.9%、「宿題など勉強を見てくれるから」が18.5%、「運営者が相談に乗ってくれるから」が7.4%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



子どもに関することについて

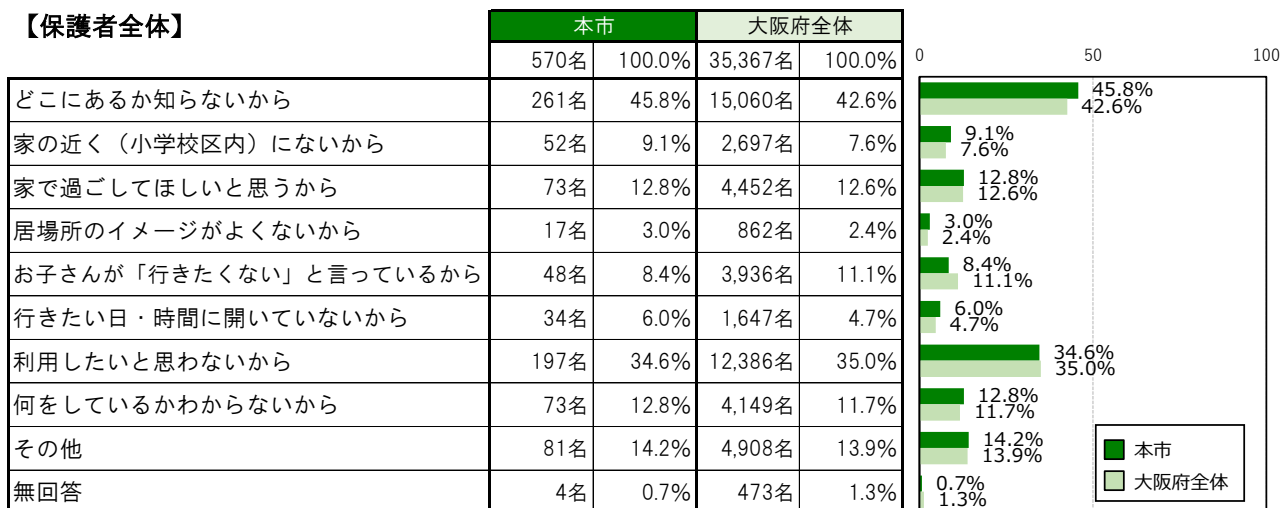
問16（3）子どもの居場所を利用しない理由

保護者全体は、「どこにあるか知らないから」が45.8%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が34.6%、「家で過ごしてほしいと思うから」が12.8%、「何をしているかわからないから」がそれぞれ12.8%、「家の近く（小学校区内）にないから」が9.1%となっている。

小学生の保護者は、「どこにあるか知らないから」が49.1%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が31.6%、「何をしているかわからないから」が13.8%、「家で過ごしてほしいと思うから」が12.4%となっている。

中学生の保護者は、「どこにあるか知らないから」が42.8%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が39.3%、「家で過ごしてほしいと思うから」が14.0%、「何をしているかわからないから」が10.9%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

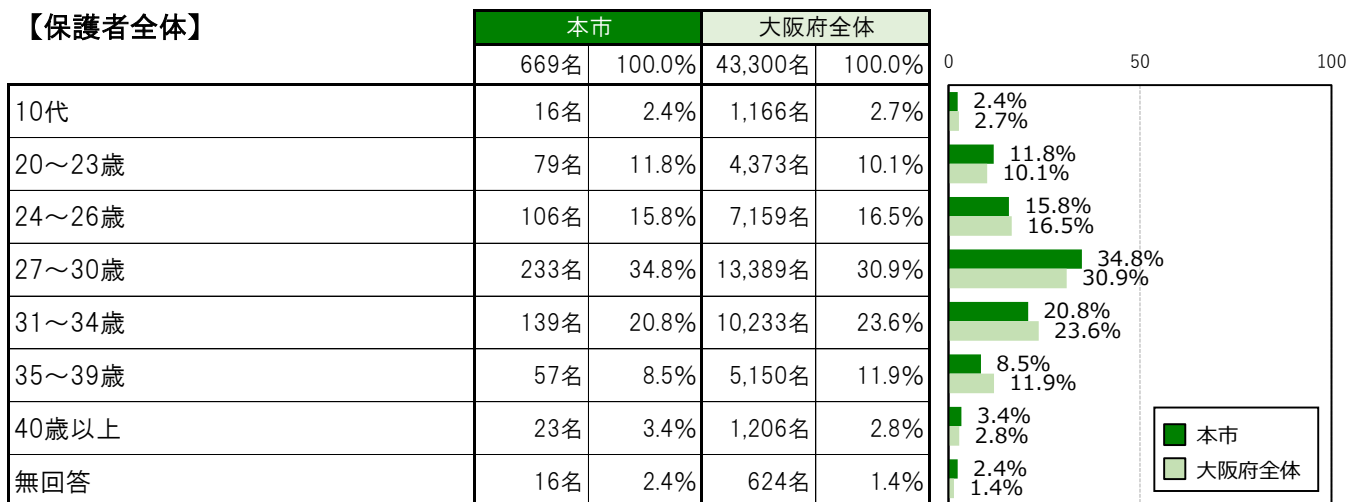
問17 初めて親となった年齢

保護者全体は、「27～30歳」が34.8%で最も多く、次いで「31～34歳」が20.8%、「24～26歳」が15.8%、「20～23歳」が11.8%となっている。

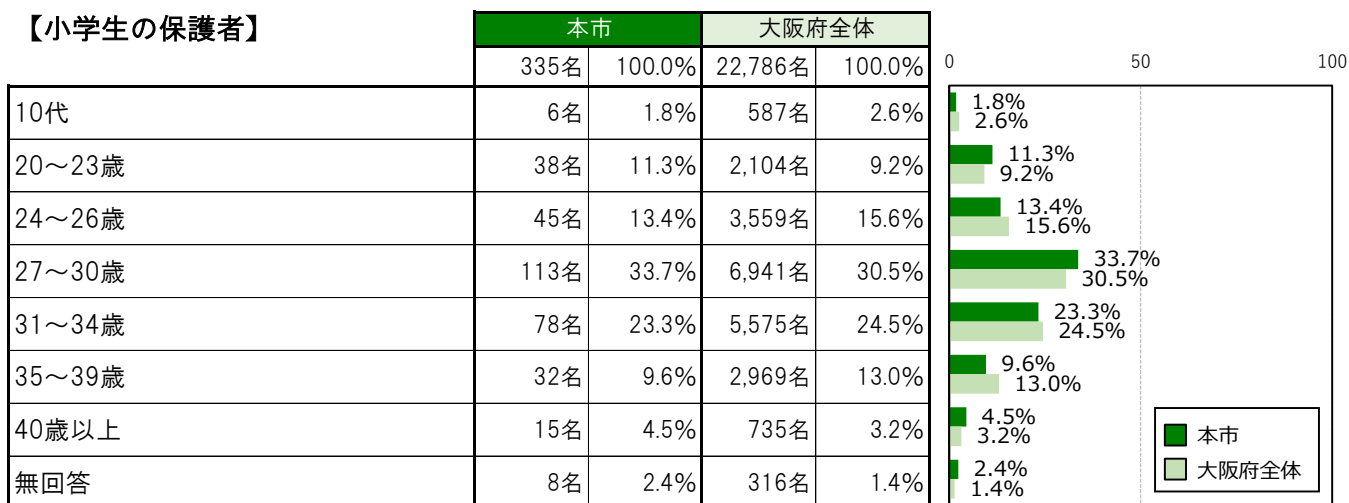
小学生の保護者は、「27～30歳」が33.7%で最も多く、次いで「31～34歳」が23.3%、「24～26歳」が13.4%、「20～23歳」が11.3%となっている。

中学生の保護者は、「27～30歳」が36.7%で最も多く、次いで「31～34歳」が18.0%、「24～26歳」が17.6%、「20～23歳」が11.8%となっている。

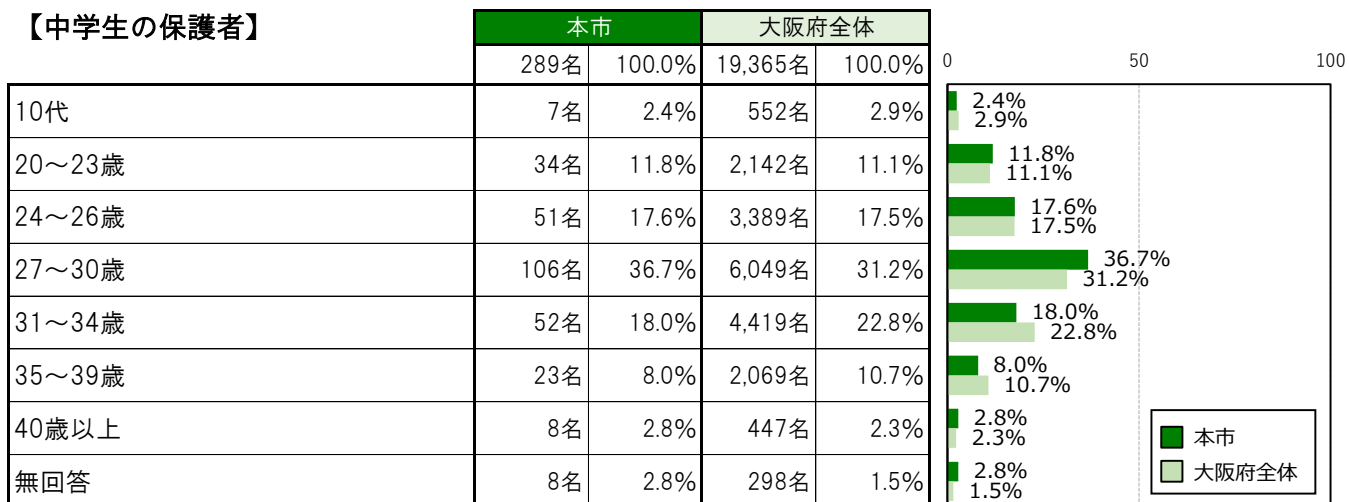
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

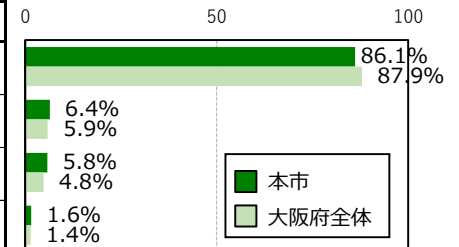
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

①心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人

保護者全体は、「いる」が86.1%、「いない」が6.4%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が86.9%、「いない」が6.3%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が85.8%、「いない」が6.9%となっている。

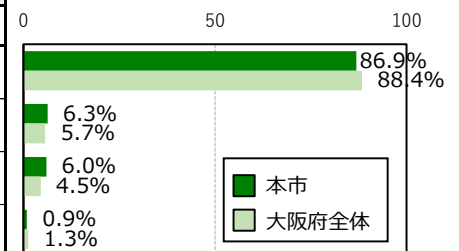
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	576名	86.1%	38,049名	87.9%
いない	43名	6.4%	2,548名	5.9%
わからない	39名	5.8%	2,099名	4.8%
無回答	11名	1.6%	604名	1.4%



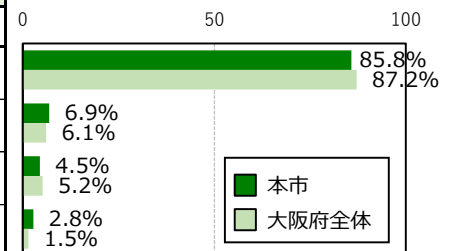
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	291名	86.9%	20,150名	88.4%
いない	21名	6.3%	1,304名	5.7%
わからない	20名	6.0%	1,026名	4.5%
無回答	3名	0.9%	306名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	248名	85.8%	16,885名	87.2%
いない	20名	6.9%	1,173名	6.1%
わからない	13名	4.5%	1,016名	5.2%
無回答	8名	2.8%	291名	1.5%



保護者のことについて

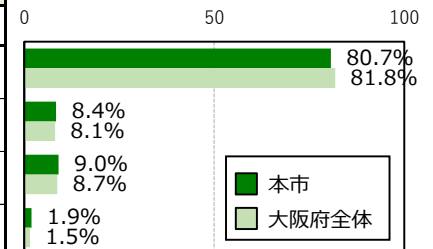
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

②気持ちを察して思いやってくれる人

保護者全体は、「いる」が80.7%、「いない」が8.4%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が83.0%、「いない」が8.1%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が79.9%、「いない」が8.0%となっている。

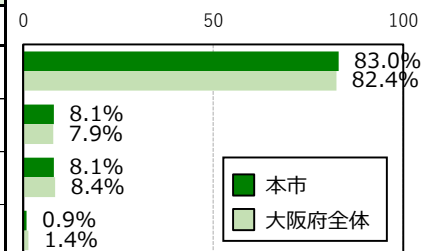
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	540名	80.7%	35,406名	81.8%
いない	56名	8.4%	3,491名	8.1%
わからない	60名	9.0%	3,748名	8.7%
無回答	13名	1.9%	655名	1.5%



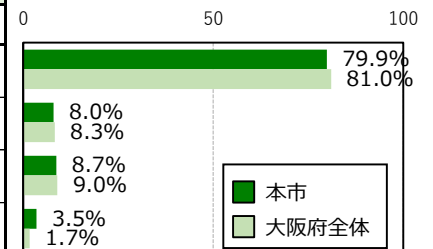
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	278名	83.0%	18,767名	82.4%
いない	27名	8.1%	1,791名	7.9%
わからない	27名	8.1%	1,904名	8.4%
無回答	3名	0.9%	324名	1.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	231名	79.9%	15,691名	81.0%
いない	23名	8.0%	1,610名	8.3%
わからない	25名	8.7%	1,741名	9.0%
無回答	10名	3.5%	323名	1.7%



保護者のことについて

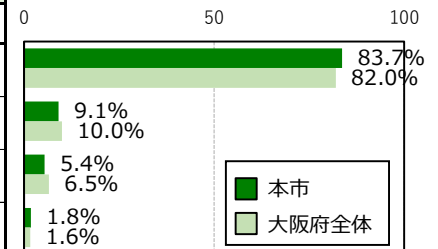
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

③趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人

保護者全体は、「いる」が83.7%、「いない」が9.1%となっている。
小学生の保護者は、「いる」が82.4%、「いない」が9.6%となっている。
中学生の保護者は、「いる」が84.4%、「いない」が9.3%となっている。

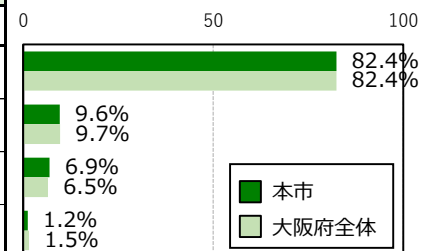
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	560名	83.7%	35,496名	82.0%
いない	61名	9.1%	4,317名	10.0%
わからない	36名	5.4%	2,806名	6.5%
無回答	12名	1.8%	681名	1.6%



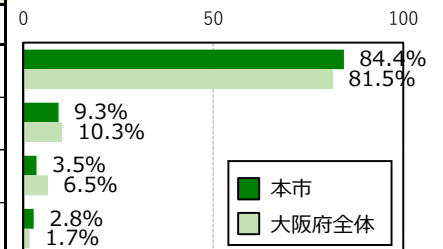
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	276名	82.4%	18,771名	82.4%
いない	32名	9.6%	2,201名	9.7%
わからない	23名	6.9%	1,474名	6.5%
無回答	4名	1.2%	340名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	244名	84.4%	15,782名	81.5%
いない	27名	9.3%	1,990名	10.3%
わからない	10名	3.5%	1,259名	6.5%
無回答	8名	2.8%	334名	1.7%



保護者のことについて

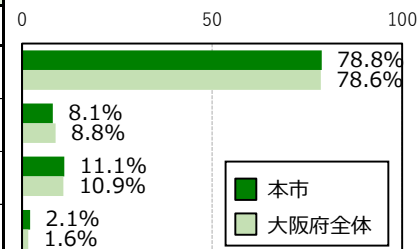
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

④子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人

保護者全体は、「いる」が78.8%、「いない」が8.1%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が79.7%、「いない」が7.8%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が79.6%、「いない」が7.6%となっている。

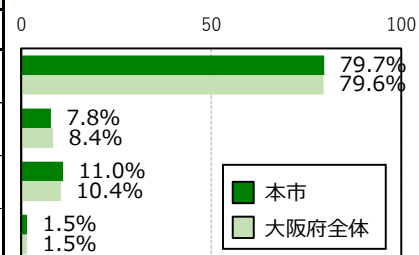
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	527名	78.8%	34,034名	78.6%
いない	54名	8.1%	3,824名	8.8%
わからない	74名	11.1%	4,731名	10.9%
無回答	14名	2.1%	711名	1.6%



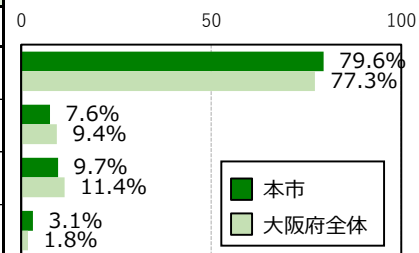
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	267名	79.7%	18,149名	79.6%
いない	26名	7.8%	1,912名	8.4%
わからない	37名	11.0%	2,381名	10.4%
無回答	5名	1.5%	344名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	230名	79.6%	14,966名	77.3%
いない	22名	7.6%	1,826名	9.4%
わからない	28名	9.7%	2,217名	11.4%
無回答	9名	3.1%	356名	1.8%



保護者のことについて

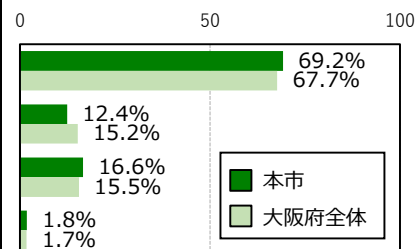
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑤子どもの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）

保護者全体は、「いる」が69.2%、「いない」が12.4%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が69.6%、「いない」が11.9%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が69.6%、「いない」が13.1%となっている。

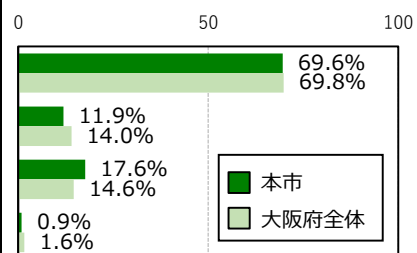
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	463名	69.2%	29,297名	67.7%
いない	83名	12.4%	6,570名	15.2%
わからない	111名	16.6%	6,713名	15.5%
無回答	12名	1.8%	720名	1.7%



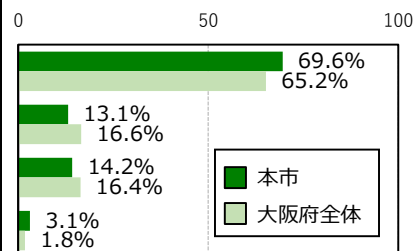
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	233名	69.6%	15,896名	69.8%
いない	40名	11.9%	3,195名	14.0%
わからない	59名	17.6%	3,334名	14.6%
無回答	3名	0.9%	361名	1.6%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	201名	69.6%	12,629名	65.2%
いない	38名	13.1%	3,218名	16.6%
わからない	41名	14.2%	3,167名	16.4%
無回答	9名	3.1%	351名	1.8%



保護者のことについて

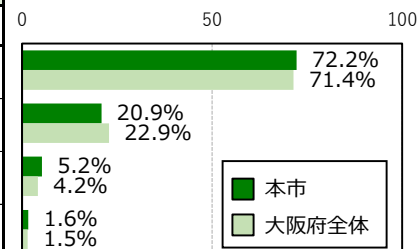
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑥子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人

保護者全体は、「いる」が72.2%、「いない」が20.9%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が73.7%、「いない」が19.4%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が70.6%、「いない」が21.8%となっている。

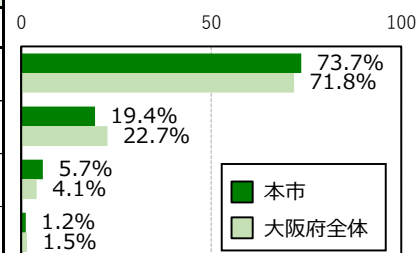
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	483名	72.2%	30,902名	71.4%
いない	140名	20.9%	9,922名	22.9%
わからない	35名	5.2%	1,822名	4.2%
無回答	11名	1.6%	654名	1.5%



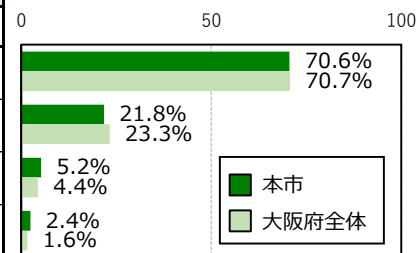
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	247名	73.7%	16,360名	71.8%
いない	65名	19.4%	5,164名	22.7%
わからない	19名	5.7%	930名	4.1%
無回答	4名	1.2%	332名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	204名	70.6%	13,687名	70.7%
いない	63名	21.8%	4,519名	23.3%
わからない	15名	5.2%	850名	4.4%
無回答	7名	2.4%	309名	1.6%



保護者のことについて

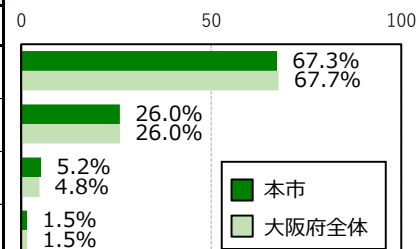
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑦留守を頼める人

保護者全体は、「いる」が67.3%、「いない」が26.0%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が69.3%、「いない」が24.2%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が66.4%、「いない」が27.3%となっている。

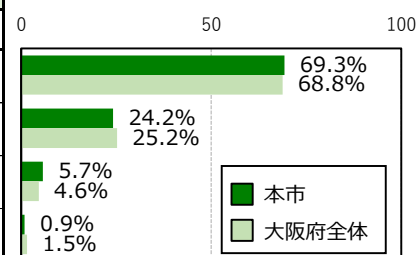
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	450名	67.3%	29,312名	67.7%
いない	174名	26.0%	11,256名	26.0%
わからない	35名	5.2%	2,066名	4.8%
無回答	10名	1.5%	666名	1.5%



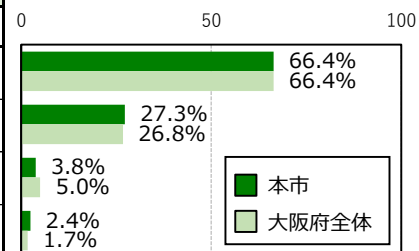
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	232名	69.3%	15,668名	68.8%
いない	81名	24.2%	5,746名	25.2%
わからない	19名	5.7%	1,037名	4.6%
無回答	3名	0.9%	335名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	192名	66.4%	12,868名	66.4%
いない	79名	27.3%	5,198名	26.8%
わからない	11名	3.8%	977名	5.0%
無回答	7名	2.4%	322名	1.7%



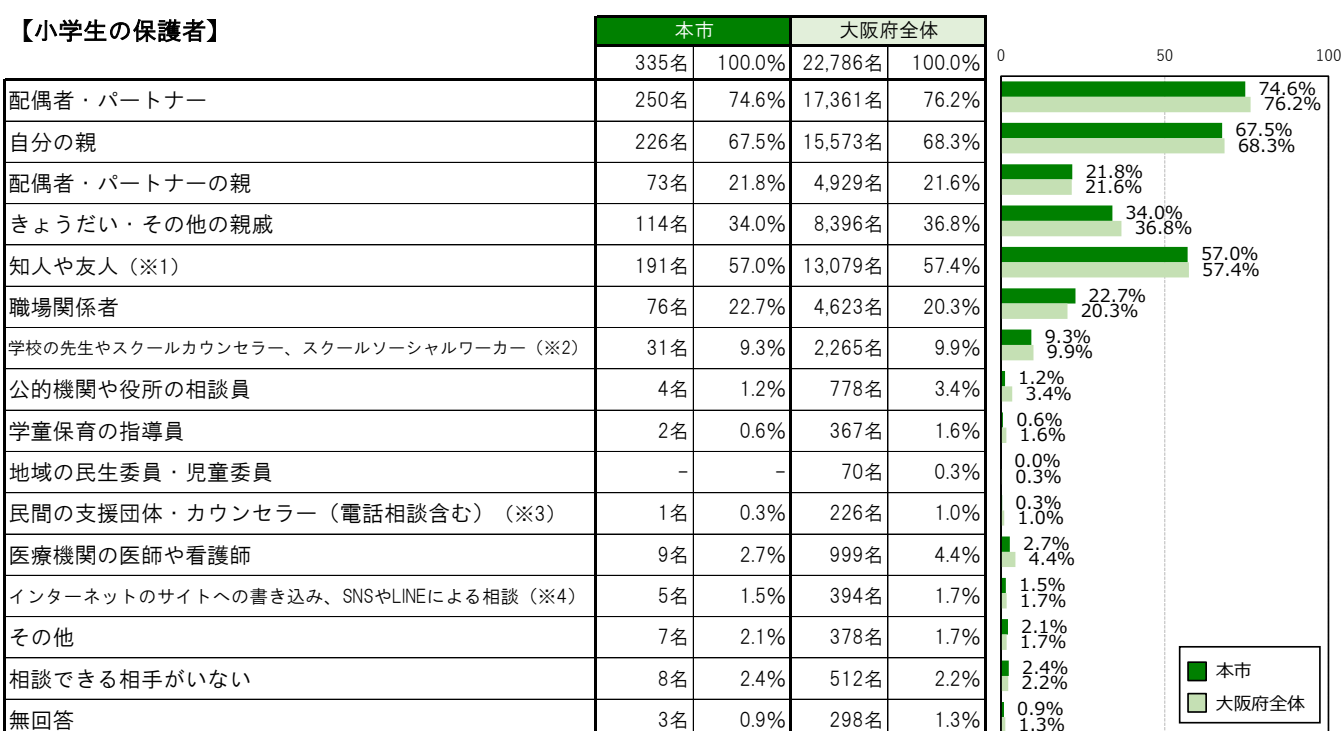
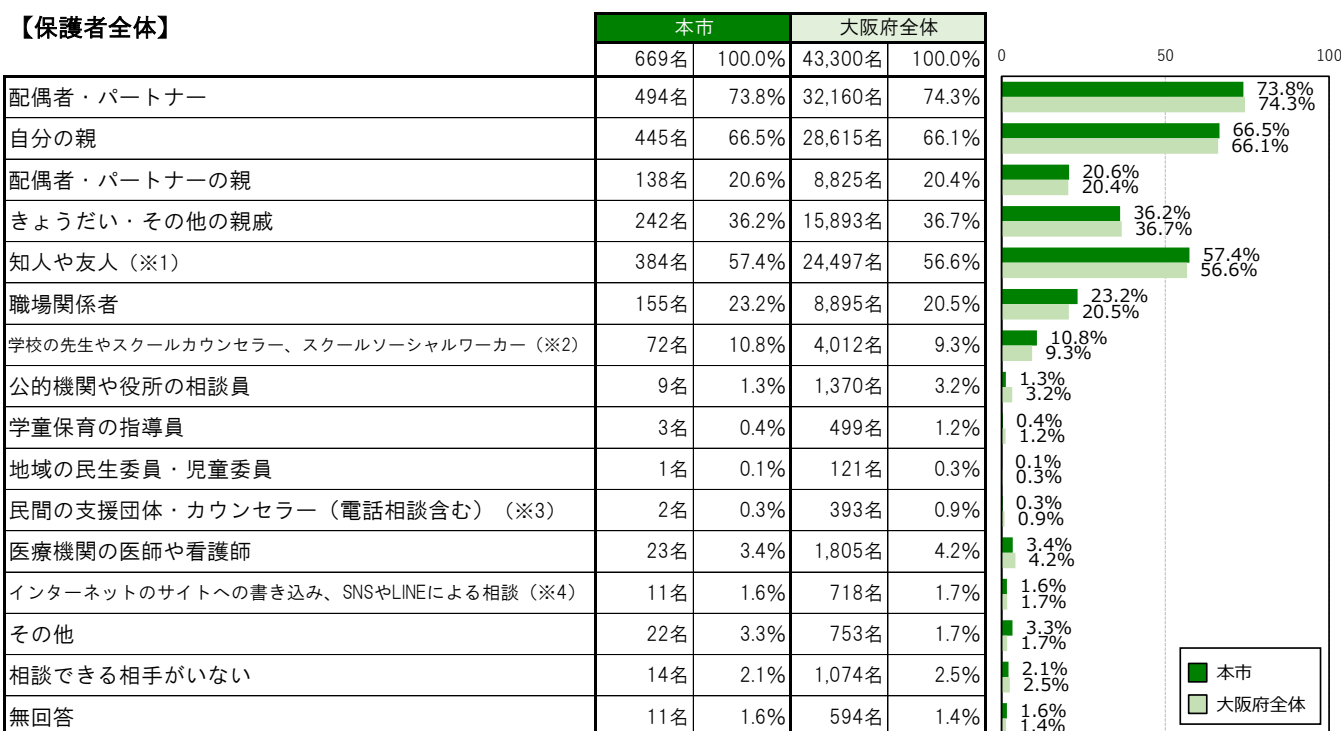
保護者のことについて

問19 本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

保護者全体は、「配偶者・パートナー」が73.8%で最も多く、次いで「自分の親」が66.5%、「知人や友人」が57.4%、「きょうだい・その他の親戚」が36.2%となっている。

小学生の保護者は、「配偶者・パートナー」が74.6%で最も多く、次いで「自分の親」が67.5%、「知人や友人」が57.0%、「きょうだい・その他の親戚」が34.0%となっている。

中学生の保護者は、「配偶者・パートナー」が73.7%で最も多く、次いで「自分の親」が67.5%、「知人や友人」が56.7%、「きょうだい・その他の親戚」が38.8%となっている。



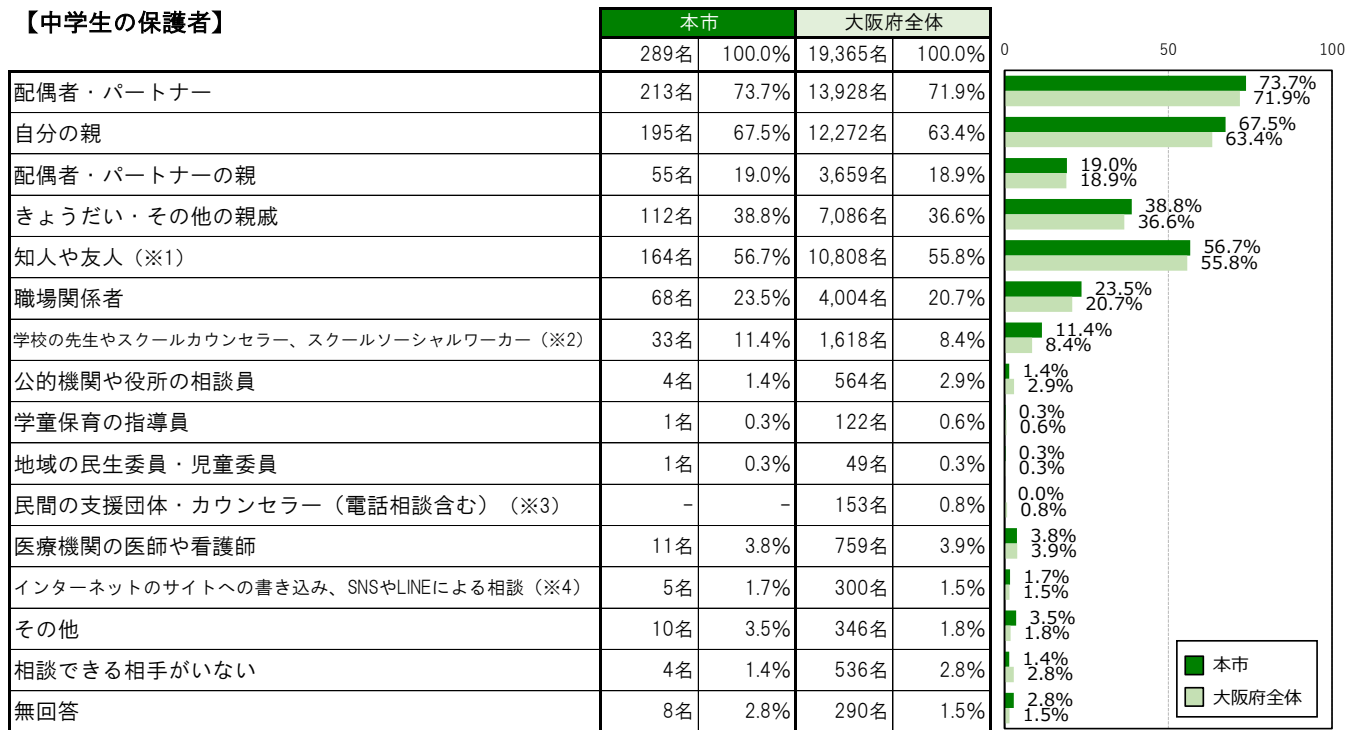
※1 2016年度調査の「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」を「知人や友人」に変更

※2 2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」

※3 2016年度調査の「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」を「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」に変更

※4 2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

【中学生の保護者】



※1 2016年度調査の「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」を「知人や友人」に変更

※2 2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」

※3 2016年度調査の「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」を「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」に変更

※4 2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

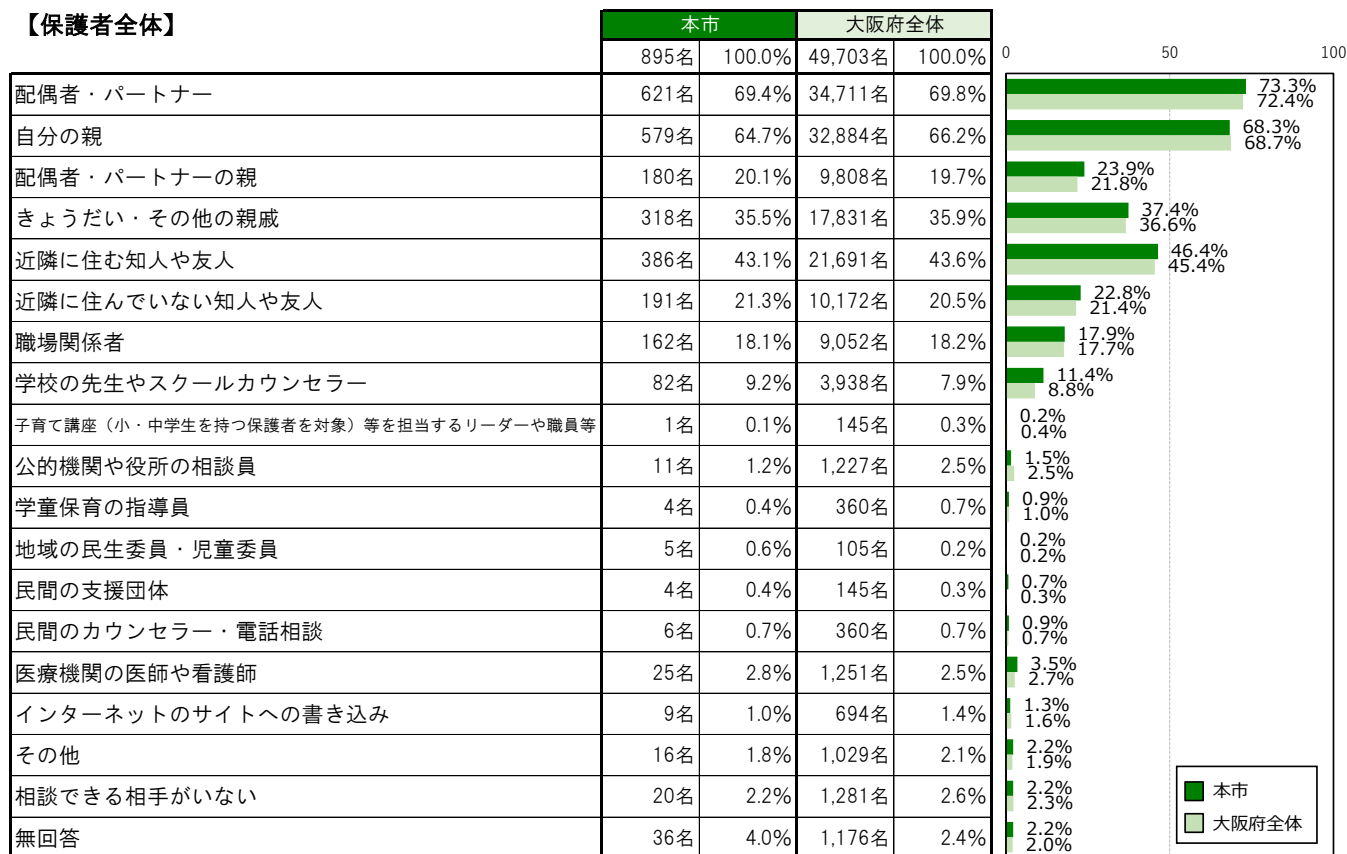
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「知人や友人」（2016年度は「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」の合計）が7.0ポイント低くなっている。

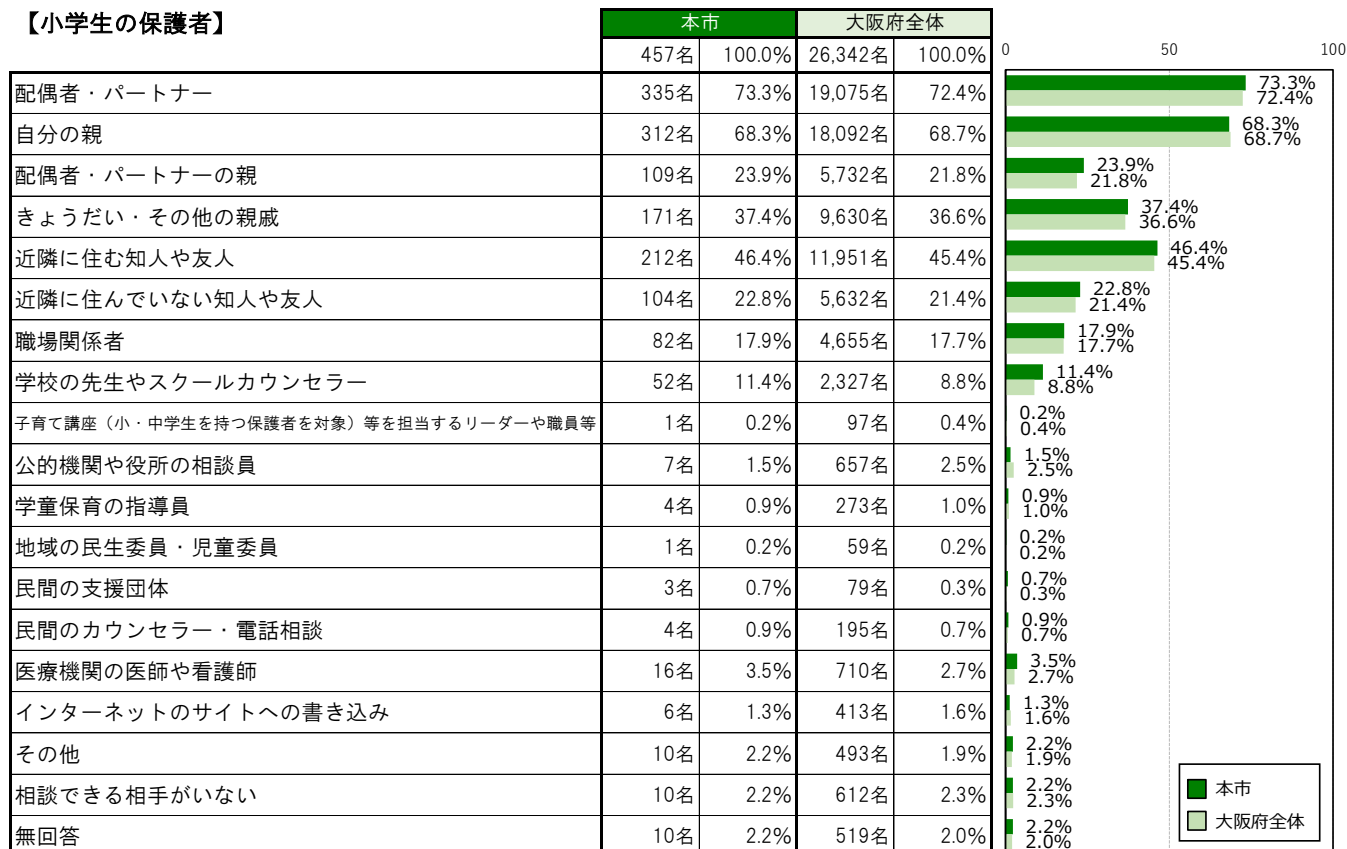
小学生の保護者は、「知人や友人」が12.2ポイント低く、「職場関係者」が4.8ポイント高くなっている。

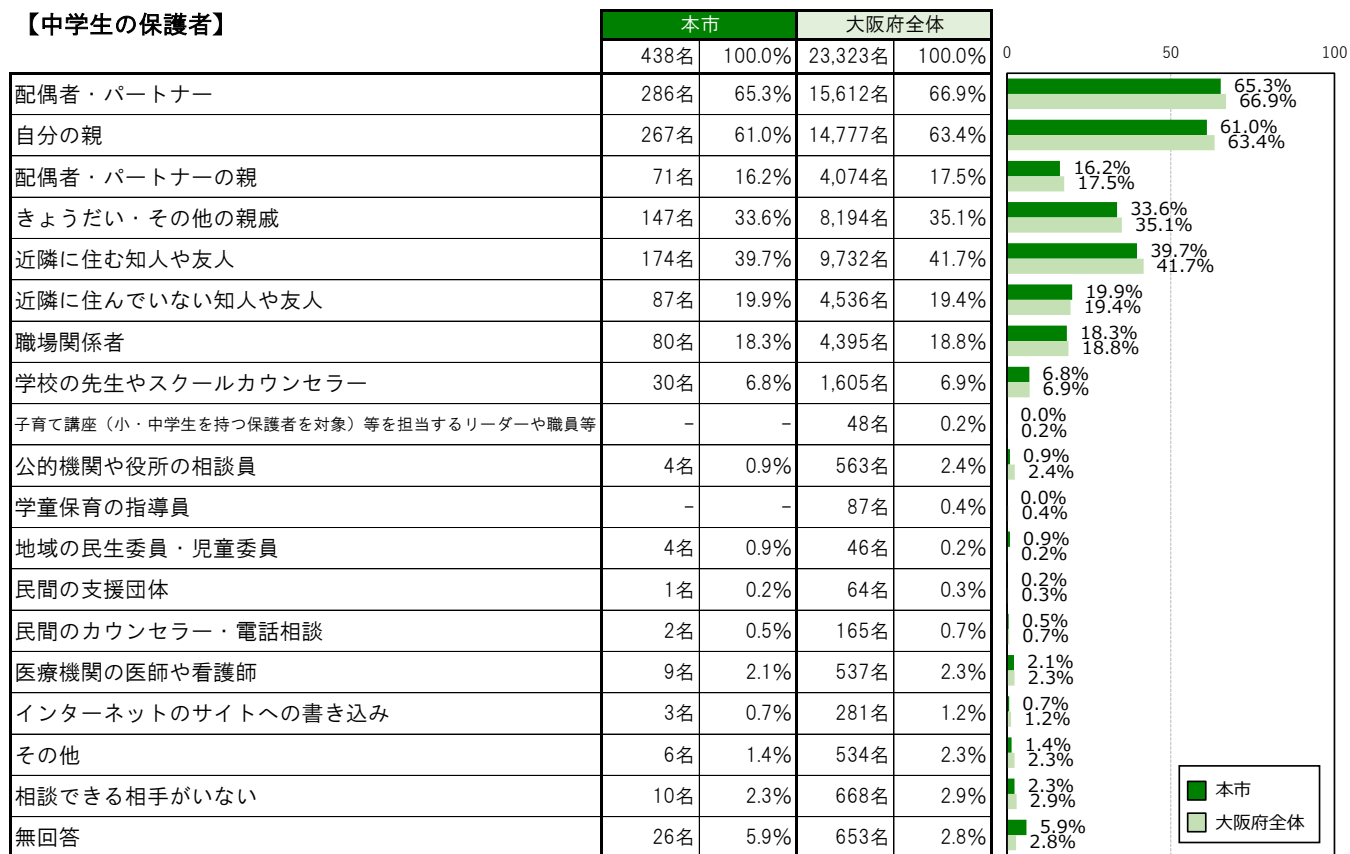
中学生の保護者は、「配偶者・パートナー」が8.4ポイント、「自分の親」が6.5ポイント、それぞれ高くなっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】





保護者のことについて

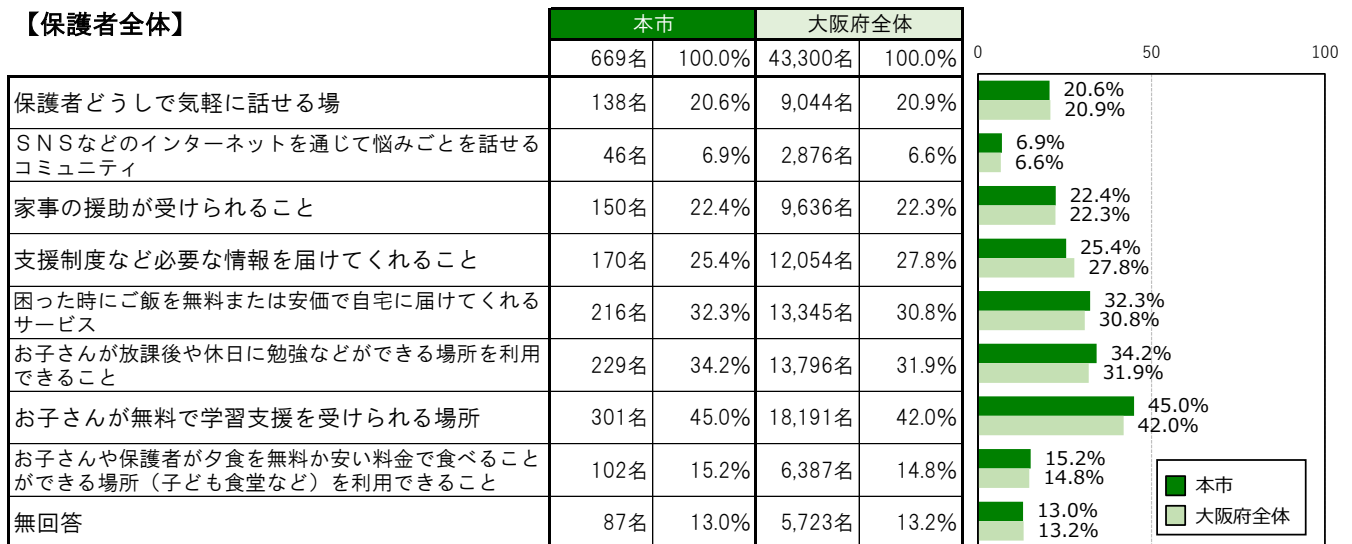
問20 身近にあると思うこと

保護者全体は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が45.0%で最も多く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が34.2%、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が32.3%となっている。

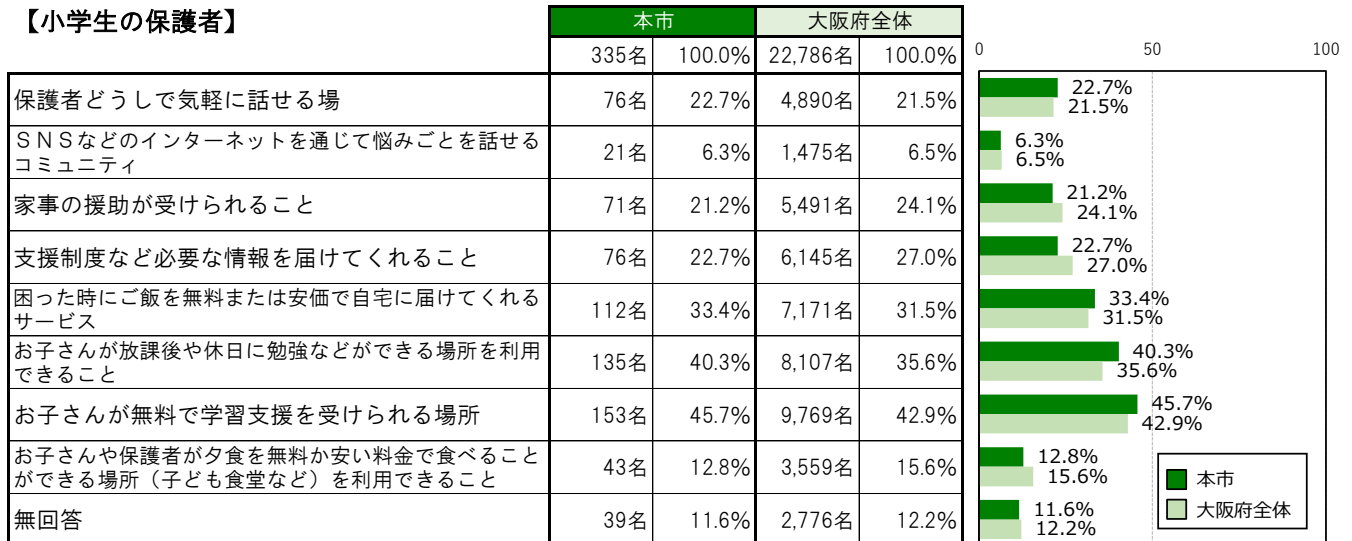
小学生の保護者は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が45.7%で最も多く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が40.3%、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が33.4%となっている。

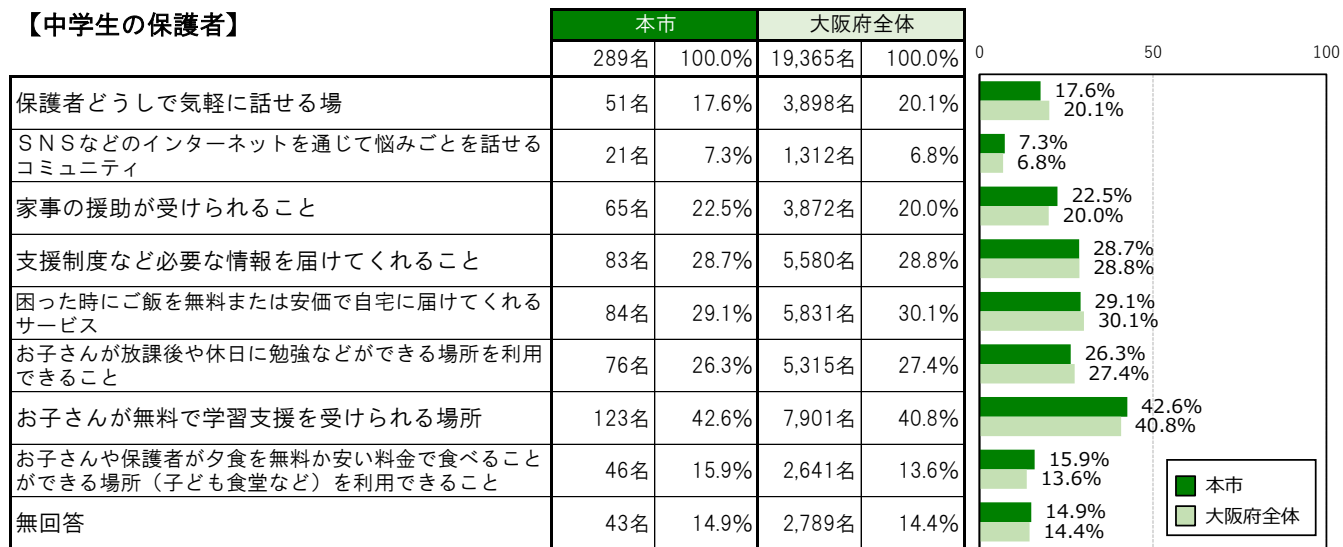
中学生の保護者は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が42.6%で最も多く、次いで「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が29.1%、「支援制度など必要な情報を届けてくれること」が28.7%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】





保護者のことについて

問21（１）生活を楽しんでいるか

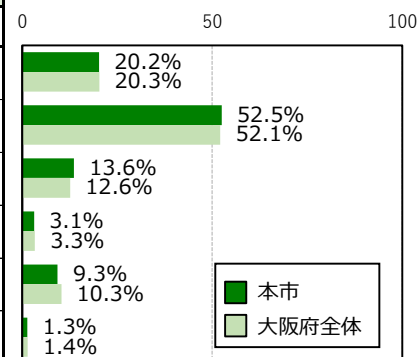
保護者全体は、「楽しんでいる」が52.5%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が20.2%、「あまり楽しんでいない」が13.6%、「楽しんでいない」が3.1%となっている。

小学生の保護者は、「楽しんでいる」が52.8%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が21.8%、「あまり楽しんでいない」が12.8%、「楽しんでいない」が3.6%となっている。

中学生の保護者は、「楽しんでいる」が54.3%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が17.0%、「あまり楽しんでいない」が13.5%、「楽しんでいない」が2.8%となっている。

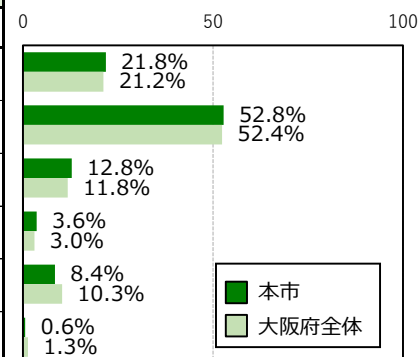
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	669名	100.0%	43,300名	100.0%
とても楽しんでいる	135名	20.2%	8,791名	20.3%
楽しんでいる	351名	52.5%	22,555名	52.1%
あまり楽しんでいない	91名	13.6%	5,466名	12.6%
楽しんでいない	21名	3.1%	1,411名	3.3%
わからない	62名	9.3%	4,473名	10.3%
無回答	9名	1.3%	604名	1.4%



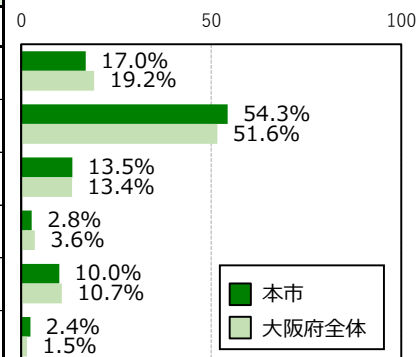
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	22,786名	100.0%
とても楽しんでいる	73名	21.8%	4,835名	21.2%
楽しんでいる	177名	52.8%	11,934名	52.4%
あまり楽しんでいない	43名	12.8%	2,699名	11.8%
楽しんでいない	12名	3.6%	680名	3.0%
わからない	28名	8.4%	2,340名	10.3%
無回答	2名	0.6%	298名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	289名	100.0%	19,365名	100.0%
とても楽しんでいる	49名	17.0%	3,719名	19.2%
楽しんでいる	157名	54.3%	9,994名	51.6%
あまり楽しんでいない	39名	13.5%	2,592名	13.4%
楽しんでいない	8名	2.8%	690名	3.6%
わからない	29名	10.0%	2,070名	10.7%
無回答	7名	2.4%	300名	1.5%



保護者のことについて

問21（2）将来に対して希望を持っているか

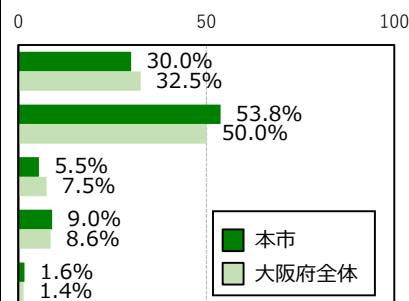
保護者全体は、「希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある」が53.8%で最も多く、次いで「希望が持てる」が30.0%、「希望が持てない」が5.5%となっている。

小学生の保護者は、「希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある」が54.6%で最も多く、次いで「希望が持てる」が28.7%、「希望が持てない」が6.0%となっている。

中学生の保護者は、「希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある」が53.3%で最も多く、次いで「希望が持てる」が30.4%、「希望が持てない」が4.8%となっている。

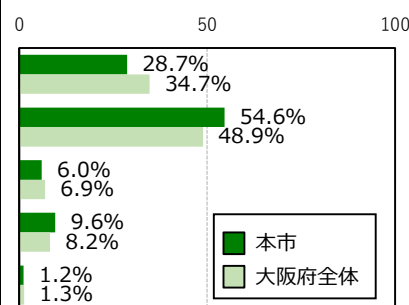
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
希望が持てる	201名	30.0%	14,080名	32.5%
希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある	360名	53.8%	21,662名	50.0%
希望が持てない	37名	5.5%	3,239名	7.5%
わからない	60名	9.0%	3,718名	8.6%
無回答	11名	1.6%	601名	1.4%



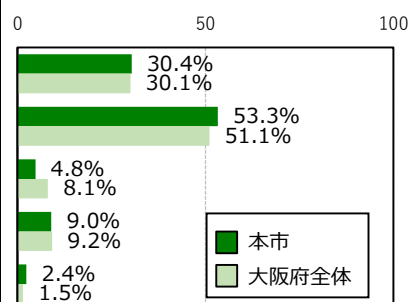
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
希望が持てる	96名	28.7%	7,896名	34.7%
希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある	183名	54.6%	11,142名	48.9%
希望が持てない	20名	6.0%	1,575名	6.9%
わからない	32名	9.6%	1,874名	8.2%
無回答	4名	1.2%	299名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
希望が持てる	88名	30.4%	5,831名	30.1%
希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある	154名	53.3%	9,890名	51.1%
希望が持てない	14名	4.8%	1,574名	8.1%
わからない	26名	9.0%	1,774名	9.2%
無回答	7名	2.4%	296名	1.5%



保護者のことについて

問21（3）ストレスを発散できるものがあるか

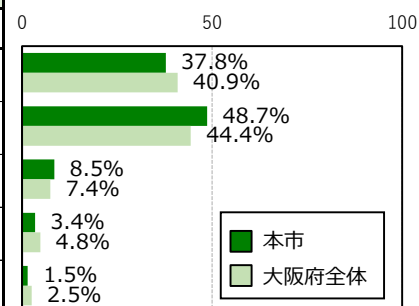
保護者全体は、「あるときもあれば、ないときもある」が48.7%で最も多く、次いで「ある」が37.8%、「ない」が8.5%となっている。

小学生の保護者は、「あるときもあれば、ないときもある」が48.4%で最も多く、次いで「ある」が38.8%、「ない」が8.1%となっている。

中学生の保護者は、「あるときもあれば、ないときもある」が50.2%で最も多く、次いで「ある」が36.3%、「ない」が8.0%となっている。

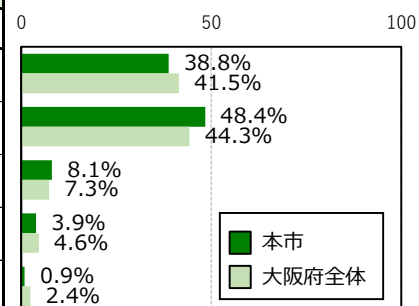
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	253名	37.8%	17,707名	40.9%
あるときもあれば、ないときもある	326名	48.7%	19,240名	44.4%
ない	57名	8.5%	3,221名	7.4%
わからない	23名	3.4%	2,061名	4.8%
無回答	10名	1.5%	1,071名	2.5%



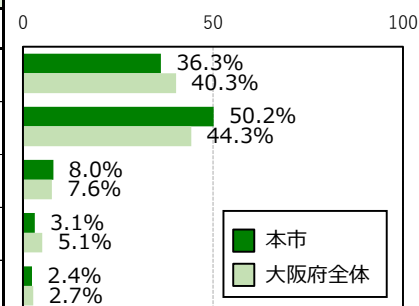
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	130名	38.8%	9,455名	41.5%
あるときもあれば、ないときもある	162名	48.4%	10,090名	44.3%
ない	27名	8.1%	1,668名	7.3%
わからない	13名	3.9%	1,037名	4.6%
無回答	3名	0.9%	536名	2.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	105名	36.3%	7,803名	40.3%
あるときもあれば、ないときもある	145名	50.2%	8,576名	44.3%
ない	23名	8.0%	1,467名	7.6%
わからない	9名	3.1%	990名	5.1%
無回答	7名	2.4%	529名	2.7%



保護者のことについて

問21（４）自分が幸せだと思うか

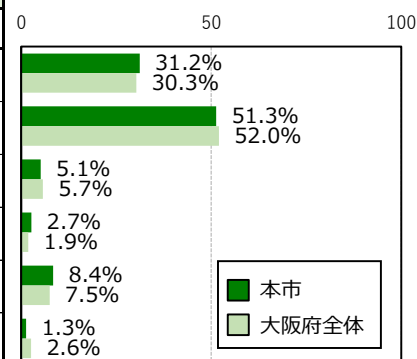
保護者全体は、「幸せだと思う」が51.3%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が31.2%、「あまり幸せだと思わない」が5.1%、「幸せだと思わない」が2.7%となっている。

小学生の保護者は、「幸せだと思う」が50.4%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が32.5%、「あまり幸せだと思わない」が6.3%、「幸せだと思わない」が2.1%となっている。

中学生の保護者は、「幸せだと思う」が53.6%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が28.7%、「あまり幸せだと思わない」が4.2%、「幸せだと思わない」が2.1%となっている。

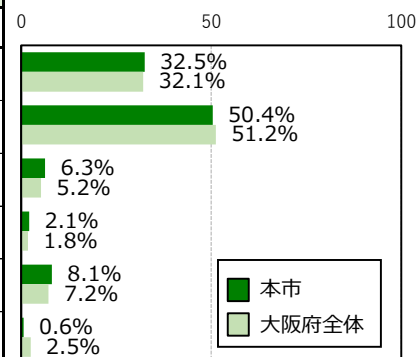
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	669名	100.0%	43,300名	100.0%
とても幸せだと思う	209名	31.2%	13,119名	30.3%
幸せだと思う	343名	51.3%	22,517名	52.0%
あまり幸せだと思わない	34名	5.1%	2,464名	5.7%
幸せだと思わない	18名	2.7%	819名	1.9%
わからない	56名	8.4%	3,246名	7.5%
無回答	9名	1.3%	1,135名	2.6%



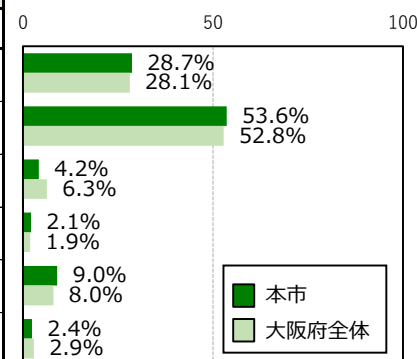
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	22,786名	100.0%
とても幸せだと思う	109名	32.5%	7,323名	32.1%
幸せだと思う	169名	50.4%	11,664名	51.2%
あまり幸せだと思わない	21名	6.3%	1,176名	5.2%
幸せだと思わない	7名	2.1%	413名	1.8%
わからない	27名	8.1%	1,640名	7.2%
無回答	2名	0.6%	570名	2.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	289名	100.0%	19,365名	100.0%
とても幸せだと思う	83名	28.7%	5,439名	28.1%
幸せだと思う	155名	53.6%	10,225名	52.8%
あまり幸せだと思わない	12名	4.2%	1,211名	6.3%
幸せだと思わない	6名	2.1%	376名	1.9%
わからない	26名	9.0%	1,555名	8.0%
無回答	7名	2.4%	559名	2.9%



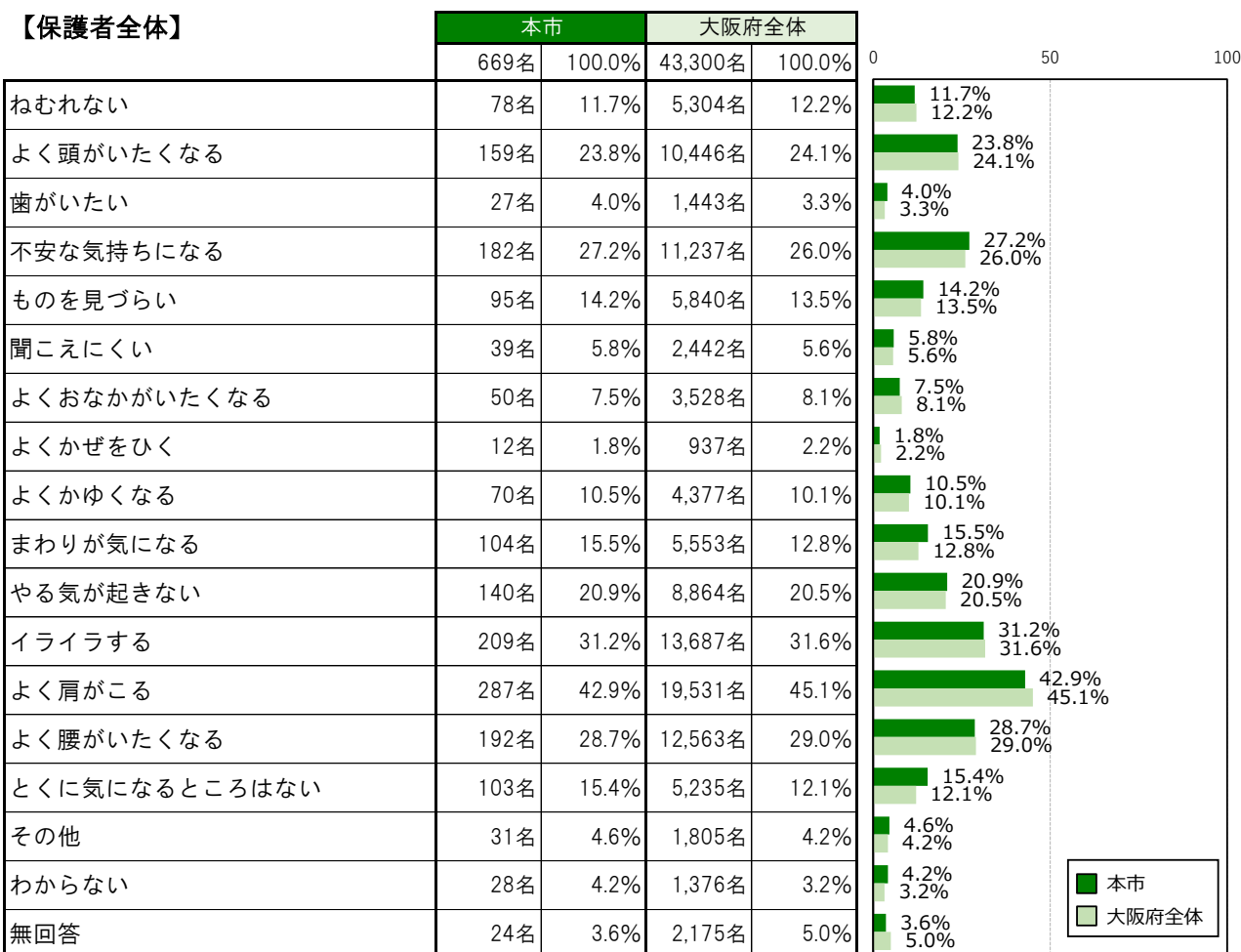
保護者のことについて

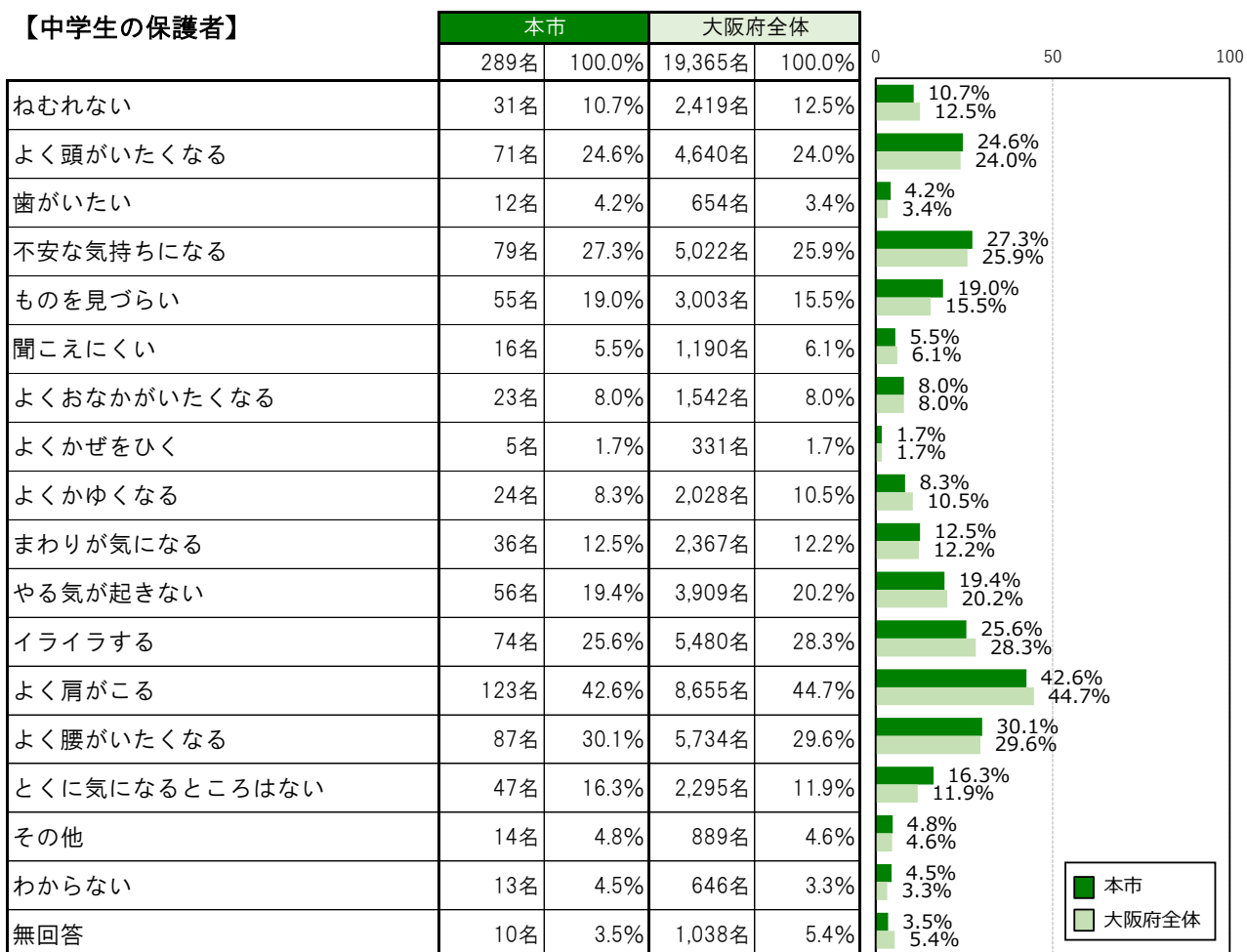
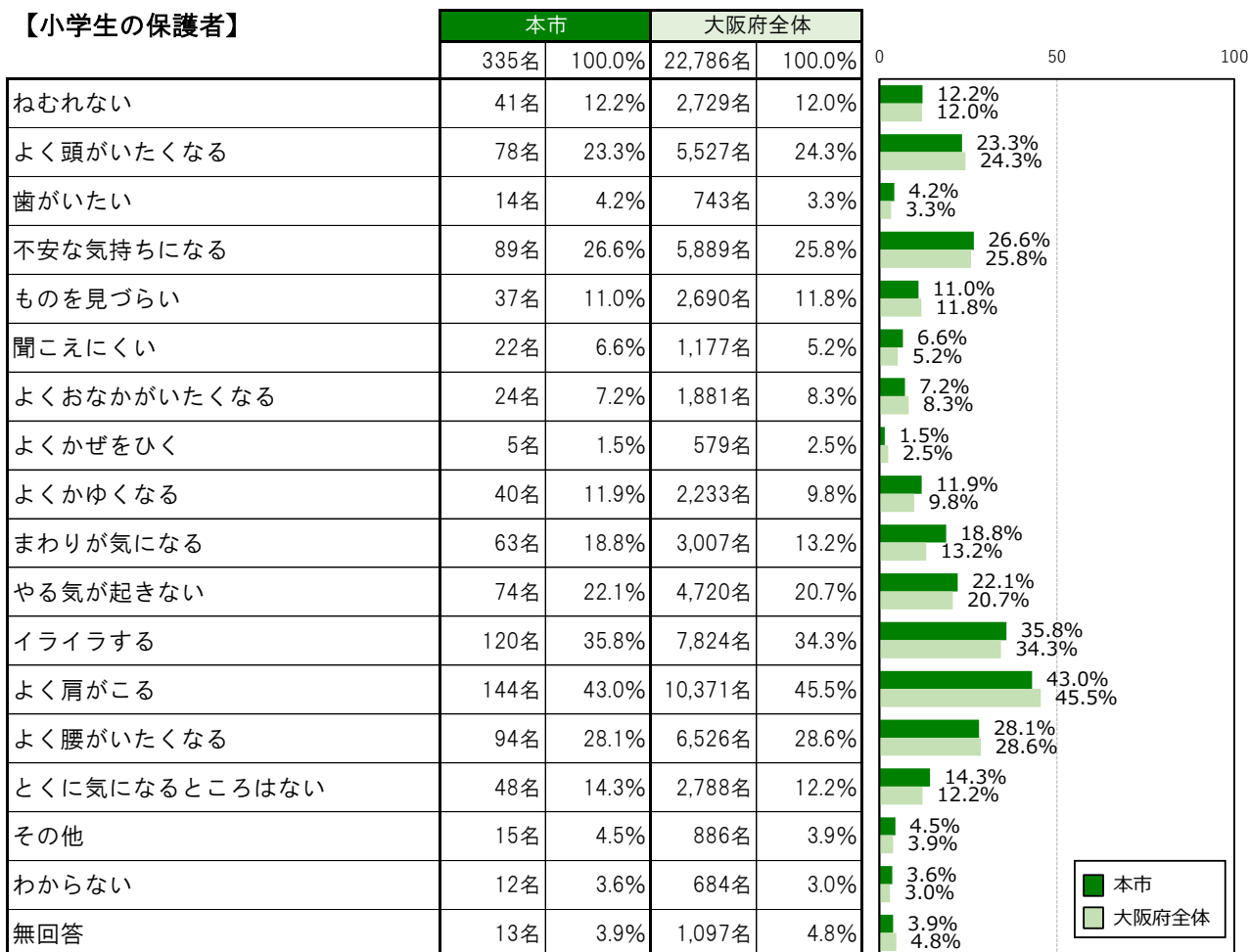
問22 自分の体や気持ちで気になること

保護者全体は、「よく肩がこる」が42.9%で最も多く、次いで「イライラする」が31.2%、「よく腰がいたくなる」が28.7%、「不安な気持ちになる」が27.2%、「よく頭がいたくなる」が23.8%となっている。

小学生の保護者は、「よく肩がこる」が43.0%で最も多く、次いで「イライラする」が35.8%、「よく腰がいたくなる」が28.1%、「不安な気持ちになる」が26.6%、「よく頭がいたくなる」が23.3%となっている。

中学生の保護者は、「よく肩がこる」が42.6%で最も多く、次いで「よく腰がいたくなる」が30.1%、「不安な気持ちになる」が27.3%、「イライラする」が25.6%、「よく頭がいたくなる」が24.6%となっている。





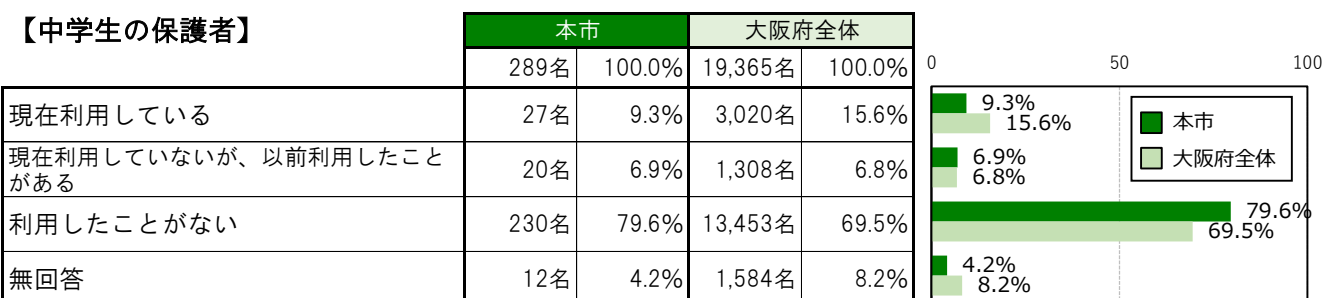
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 a 就学援助

保護者全体は、「利用したことがない」が81.0%で最も多く、次いで「現在利用している」が9.4%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が4.3%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が81.2%で最も多く、次いで「現在利用している」が9.9%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.1%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が79.6%で最も多く、次いで「現在利用している」が9.3%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が6.9%となっている。



※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

●2016年度 調査結果【参考データ】

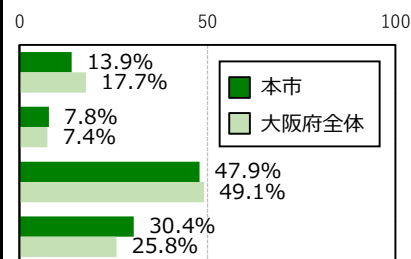
2016年度調査と比較すると、全体は、「利用したことがない」（2016年度調査では「受けたことはな
い」）が33.1ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が28.5ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が36.7ポイント高くなっている。

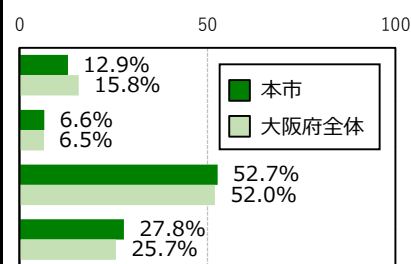
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	895名	100.0%	49,703名	100.0%
受けている	124名	13.9%	8,792名	17.7%
受けたことがある	70名	7.8%	3,669名	7.4%
受けたことはない	429名	47.9%	24,429名	49.1%
無回答	272名	30.4%	12,813名	25.8%



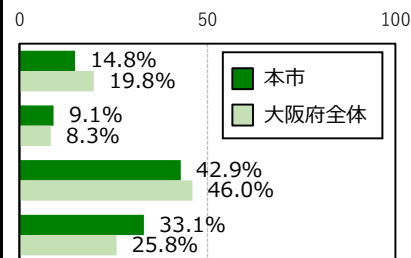
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	457名	100.0%	26,342名	100.0%
受けている	59名	12.9%	4,154名	15.8%
受けたことがある	30名	6.6%	1,724名	6.5%
受けたことはない	241名	52.7%	13,686名	52.0%
無回答	127名	27.8%	6,778名	25.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	438名	100.0%	23,323名	100.0%
受けている	65名	14.8%	4,628名	19.8%
受けたことがある	40名	9.1%	1,942名	8.3%
受けたことはない	188名	42.9%	10,733名	46.0%
無回答	145名	33.1%	6,020名	25.8%



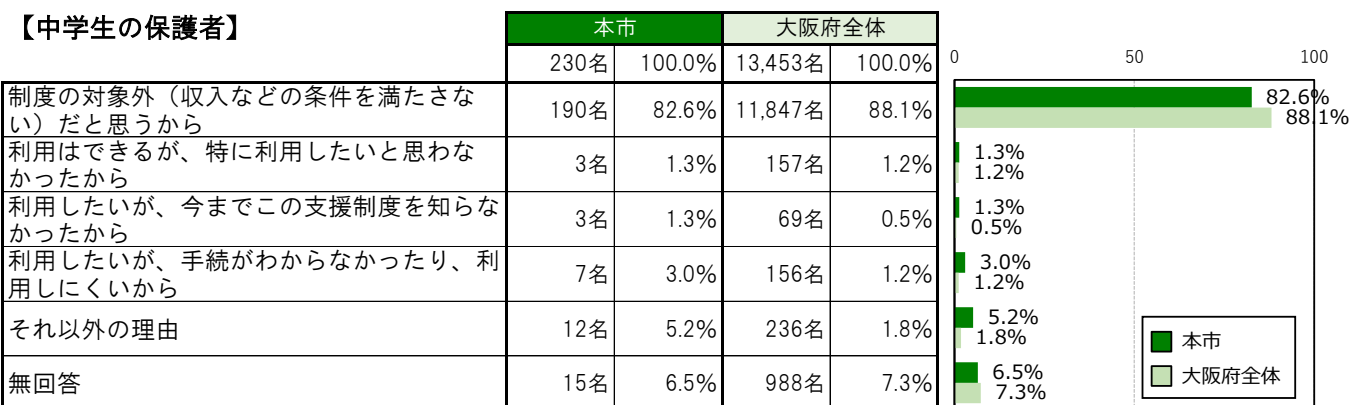
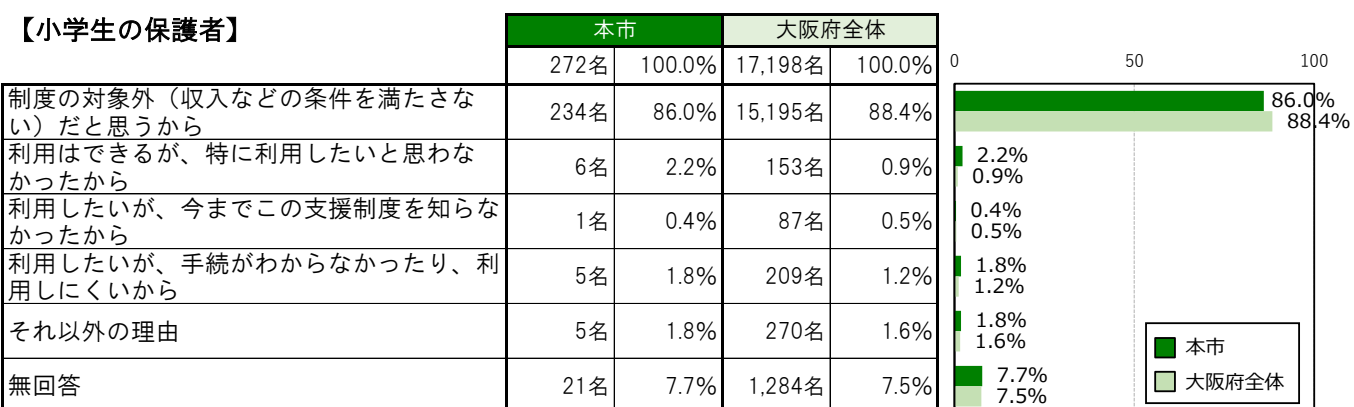
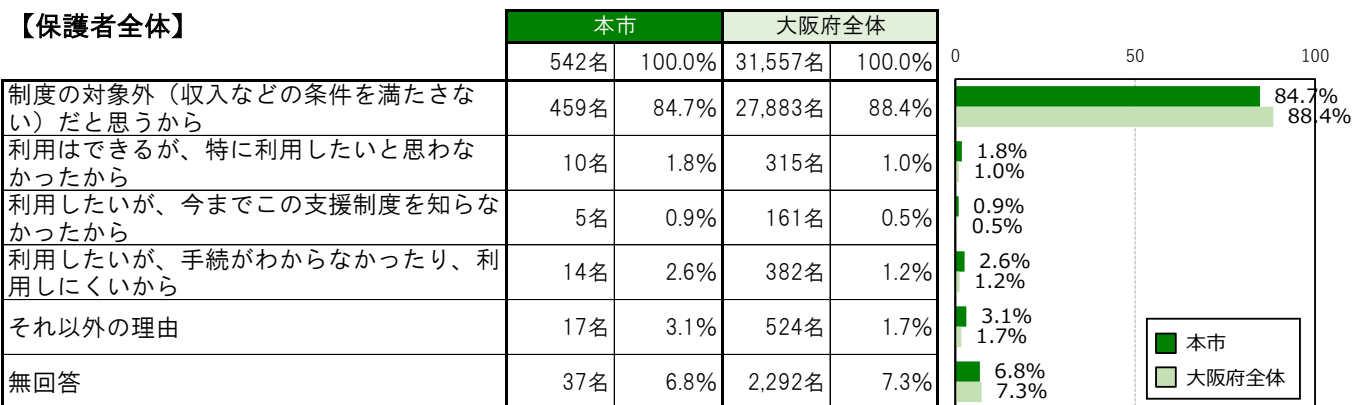
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 a 就学援助 <利用したことがない理由>

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が84.7%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.1%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が2.6%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が86.0%で最も多く、次いで「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.2%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」、「それ以外の理由」がそれぞれ1.8%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が82.6%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が5.2%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が3.0%となっている。



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 b 生活保護

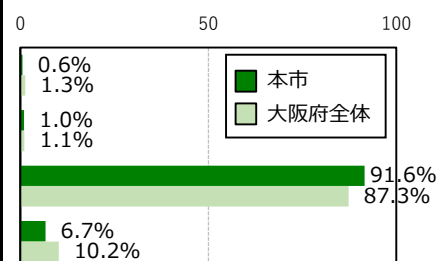
保護者全体は、「利用したことがない」が91.6%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.0%、「現在利用している」が0.6%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が90.4%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が0.9%、「現在利用している」が0.6%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が92.0%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.4%、「現在利用している」が0.7%となっている。

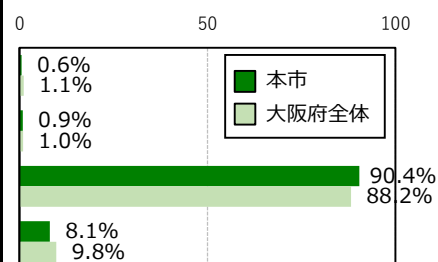
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
現在利用している	4名	0.6%	580名	1.3%
現在利用していないが、以前利用したことがある	7名	1.0%	497名	1.1%
利用したことがない	613名	91.6%	37,793名	87.3%
無回答	45名	6.7%	4,430名	10.2%



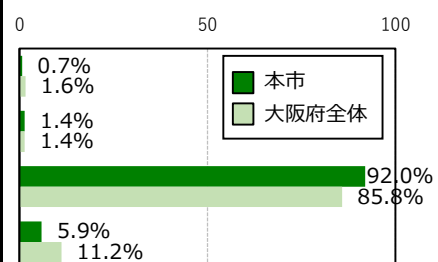
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
現在利用している	2名	0.6%	254名	1.1%
現在利用していないが、以前利用したことがある	3名	0.9%	218名	1.0%
利用したことがない	303名	90.4%	20,090名	88.2%
無回答	27名	8.1%	2,224名	9.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
現在利用している	2名	0.7%	316名	1.6%
現在利用していないが、以前利用したことがある	4名	1.4%	267名	1.4%
利用したことがない	266名	92.0%	16,608名	85.8%
無回答	17名	5.9%	2,174名	11.2%



※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

●2016年度 調査結果【参考データ】

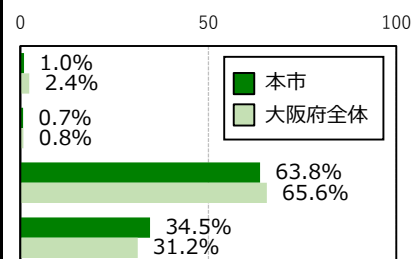
2016年度調査と比較すると、全体は、「利用したことがない」（2016年度調査では「受けたことはな
い」）が27.8ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が24.1ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が30.8ポイント高くなっている。

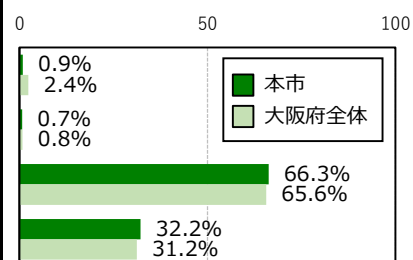
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	895名	100.0%	26,342名	100.0%
受けている	9名	1.0%	622名	2.4%
受けたことがある	6名	0.7%	211名	0.8%
受けたことはない	571名	63.8%	17,286名	65.6%
無回答	309名	34.5%	8,223名	31.2%



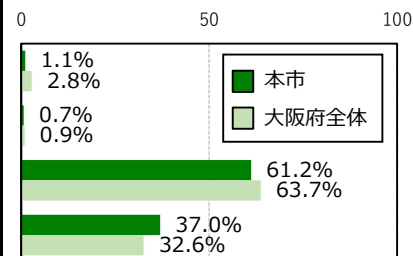
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	457名	100.0%	26,342名	100.0%
受けている	4名	0.9%	622名	2.4%
受けたことがある	3名	0.7%	211名	0.8%
受けたことはない	303名	66.3%	17,286名	65.6%
無回答	147名	32.2%	8,223名	31.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	438名	100.0%	23,323名	100.0%
受けている	5名	1.1%	650名	2.8%
受けたことがある	3名	0.7%	211名	0.9%
受けたことはない	268名	61.2%	14,855名	63.7%
無回答	162名	37.0%	7,607名	32.6%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 b 生活保護 <利用したことがない理由>

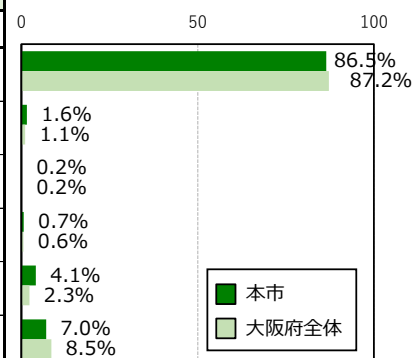
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が86.5%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が4.1%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.6%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が0.7%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が86.5%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.0%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.7%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が86.1%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が4.5%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.9%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が0.8%となっている。

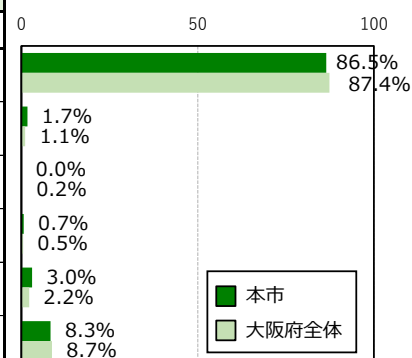
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	613名	100.0%	37,793名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	530名	86.5%	32,964名	87.2%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	10名	1.6%	434名	1.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	1名	0.2%	73名	0.2%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	4名	0.7%	230名	0.6%
それ以外の理由	25名	4.1%	867名	2.3%
無回答	43名	7.0%	3,225名	8.5%



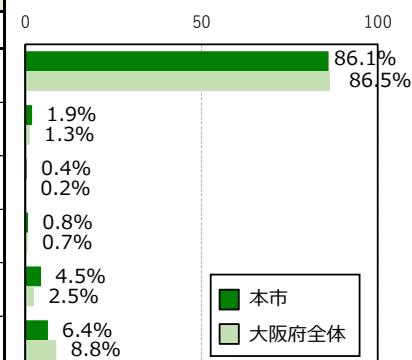
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	303名	100.0%	20,090名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	262名	86.5%	17,567名	87.4%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	5名	1.7%	211名	1.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	-	-	31名	0.2%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	2名	0.7%	104名	0.5%
それ以外の理由	9名	3.0%	433名	2.2%
無回答	25名	8.3%	1,744名	8.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	266名	100.0%	16,608名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	229名	86.1%	14,367名	86.5%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	5名	1.9%	219名	1.3%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	1名	0.4%	40名	0.2%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	2名	0.8%	117名	0.7%
それ以外の理由	12名	4.5%	411名	2.5%
無回答	17名	6.4%	1,454名	8.8%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 c 生活困窮者の自立支援相談窓口

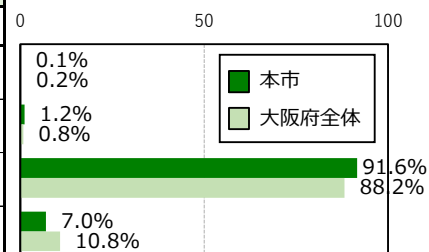
保護者全体は、「利用したことがない」が91.6%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.2%、「現在利用している」が0.1%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が91.0%で最も多く、次いで「現在利用している」が0.3%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が92.0%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.1%となっている。

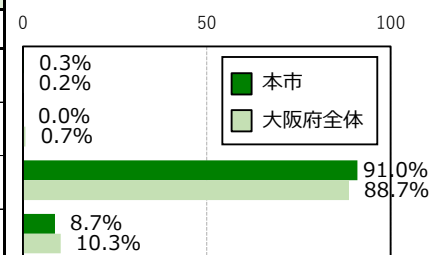
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	669名	100.0%	43,300名	100.0%
現在利用している	1名	0.1%	101名	0.2%
現在利用していないが、以前利用したことがある	8名	1.2%	338名	0.8%
利用したことがない	613名	91.6%	38,173名	88.2%
無回答	47名	7.0%	4,688名	10.8%



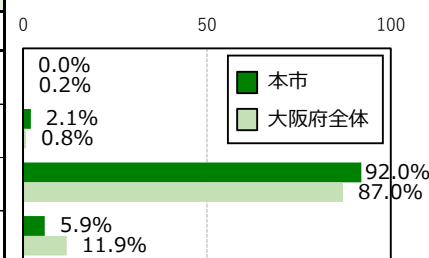
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	22,786名	100.0%
現在利用している	1名	0.3%	55名	0.2%
現在利用していないが、以前利用したことがある	-	-	163名	0.7%
利用したことがない	305名	91.0%	20,220名	88.7%
無回答	29名	8.7%	2,348名	10.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	289名	100.0%	19,365名	100.0%
現在利用している	-	-	44名	0.2%
現在利用していないが、以前利用したことがある	6名	2.1%	162名	0.8%
利用したことがない	266名	92.0%	16,851名	87.0%
無回答	17名	5.9%	2,308名	11.9%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 c 生活困窮者の自立支援相談窓口 <利用したことがない理由>

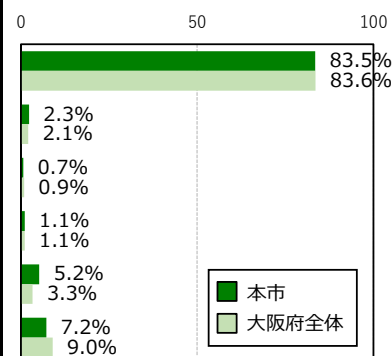
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が83.5%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が5.2%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.3%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.1%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が83.6%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が4.6%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.6%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.3%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が83.1%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が4.9%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.3%となっている。

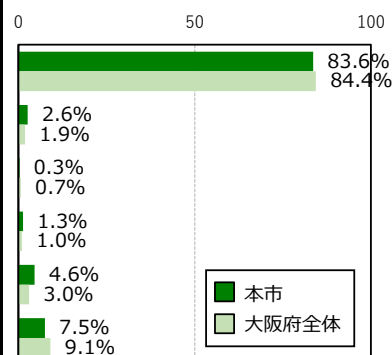
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	613名	100.0%	38,173名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	512名	83.5%	31,919名	83.6%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	14名	2.3%	790名	2.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	4名	0.7%	332名	0.9%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	7名	1.1%	410名	1.1%
それ以外の理由	32名	5.2%	1,275名	3.3%
無回答	44名	7.2%	3,447名	9.0%



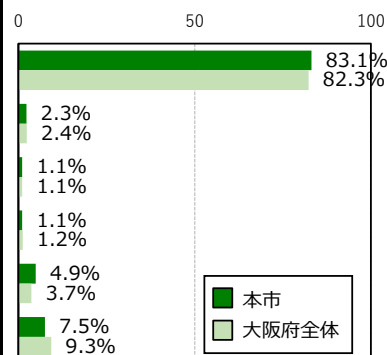
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	305名	100.0%	20,220名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	255名	83.6%	17,059名	84.4%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	8名	2.6%	382名	1.9%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	1名	0.3%	134名	0.7%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	4名	1.3%	193名	1.0%
それ以外の理由	14名	4.6%	609名	3.0%
無回答	23名	7.5%	1,843名	9.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	266名	100.0%	16,851名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	221名	83.1%	13,863名	82.3%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	6名	2.3%	397名	2.4%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	3名	1.1%	192名	1.1%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	3名	1.1%	204名	1.2%
それ以外の理由	13名	4.9%	625名	3.7%
無回答	20名	7.5%	1,570名	9.3%



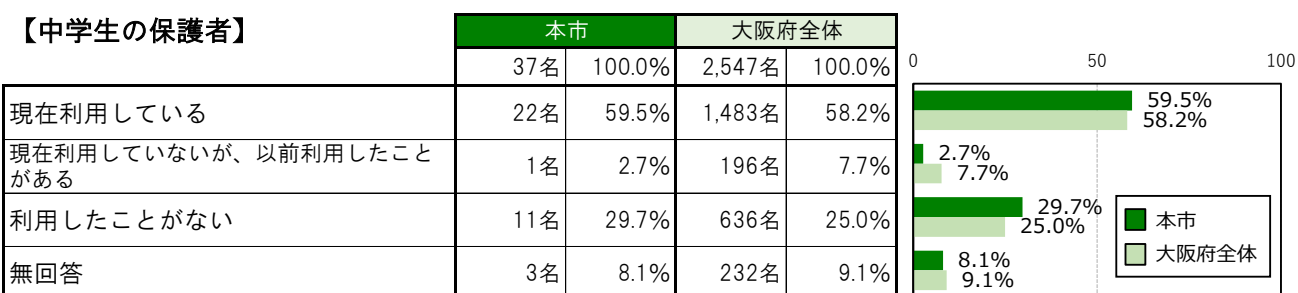
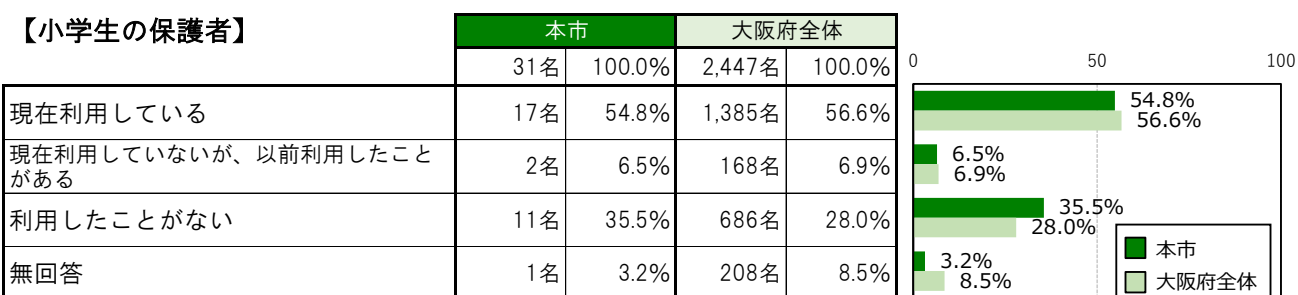
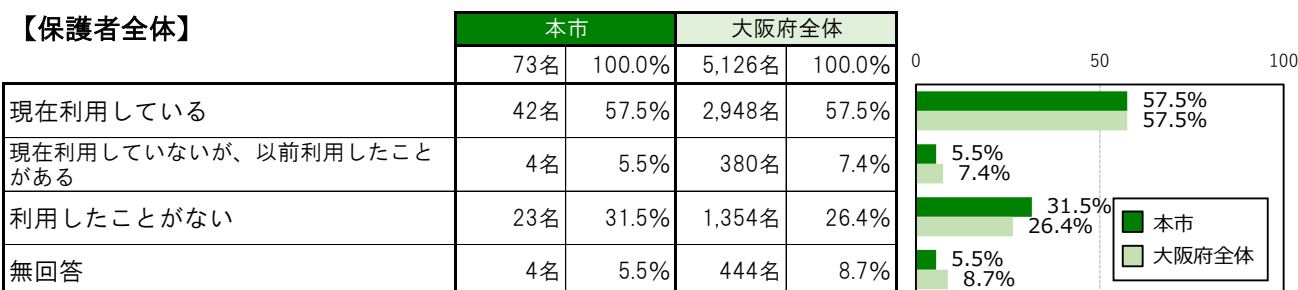
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 d 児童扶養手当（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯のみでみると、保護者全体は、「現在利用している」が57.5%で最も多く、次いで「利用したことがない」が31.5%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が5.5%となっている。

小学生の保護者は、「現在利用している」が54.8%で最も多く、次いで「利用したことがない」が35.5%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が6.5%となっている。

中学生の保護者は、「現在利用している」が59.5%で最も多く、次いで「利用したことがない」が29.7%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.7%となっている。



※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

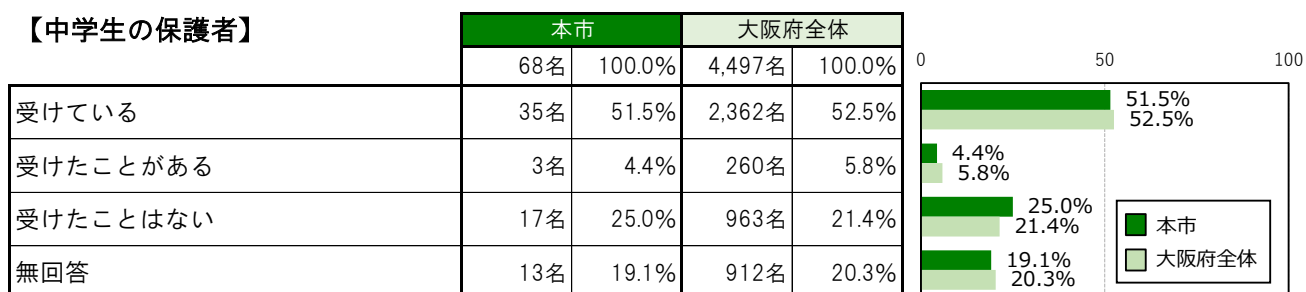
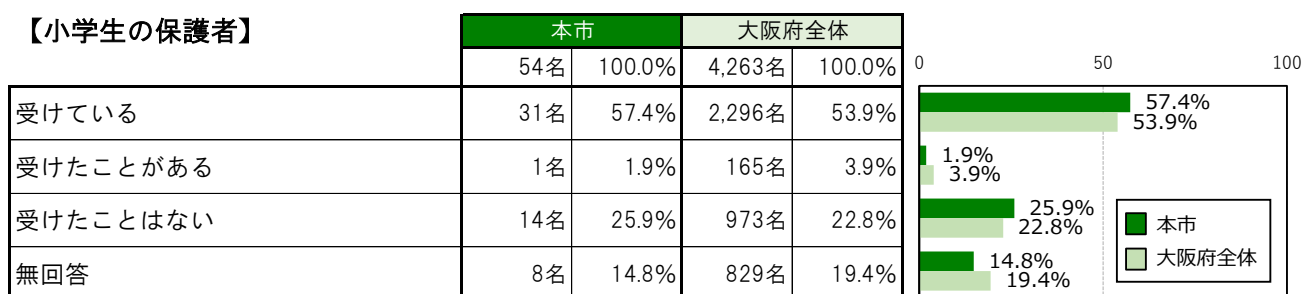
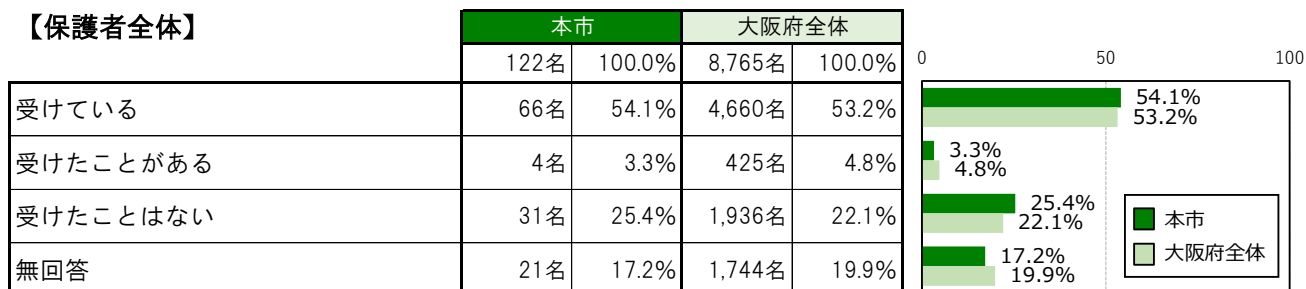
※ ひとり親世帯のみで集計。

●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、全体は、「利用したことがない」（2016年度調査では「受けたことはない」）が6.1ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が9.6ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「現在利用している」（2016年度調査では「受けている」）が8.0ポイント高くなっている。



※ ひとり親世帯のみで集計。

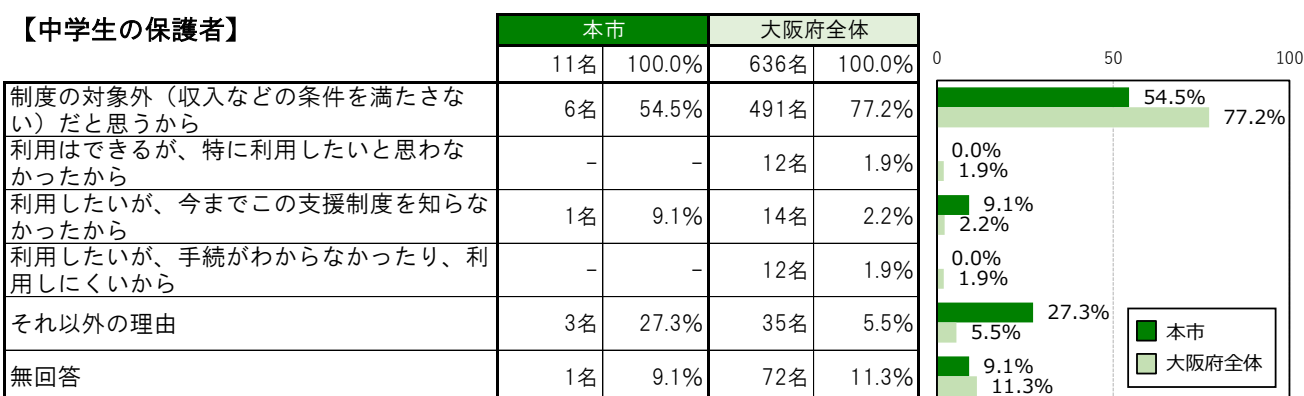
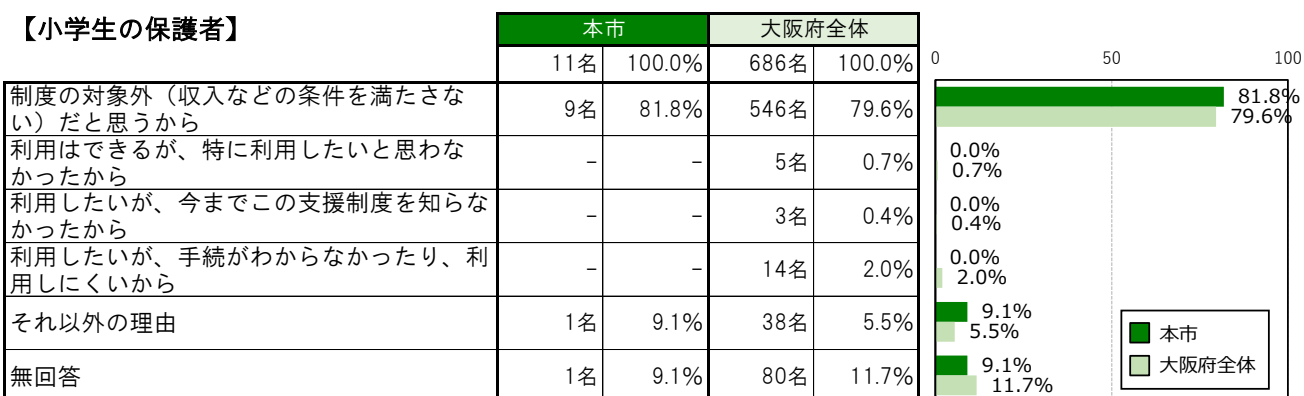
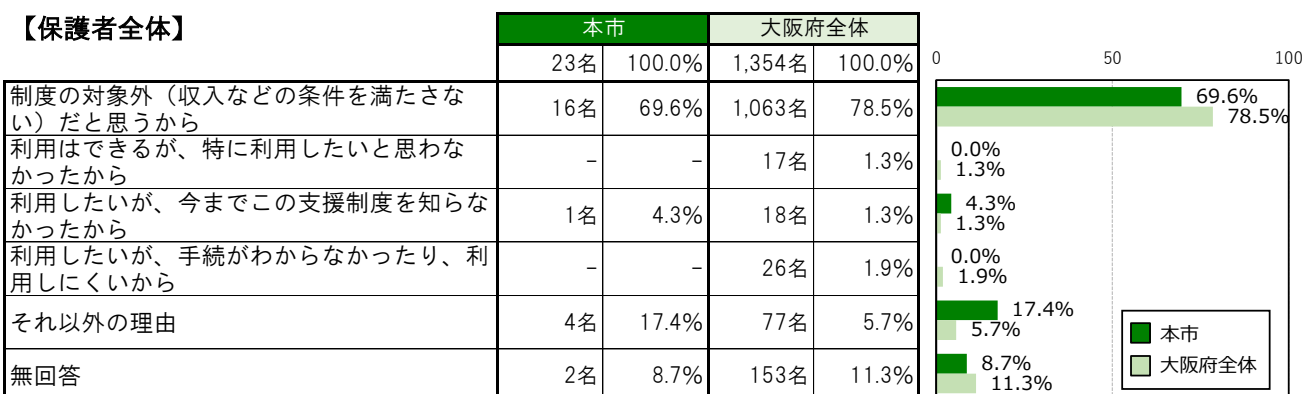
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 d 児童扶養手当 <利用したことがない理由> (ひとり親世帯のみ)

ひとり親世帯のみでみると、保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が69.6%（16名）で最も多く、次いで「それ以外の理由」が17.4%（4名）、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が4.3%（1名）となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が81.8%（9名）で最も多く、次いで「それ以外の理由」（1名）が9.1%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が54.5%（6名）で最も多く、次いで「それ以外の理由」が27.3%（3名）、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が9.1%（1名）となっている。



※ ひとり親世帯のみで集計。

保護者のことについて

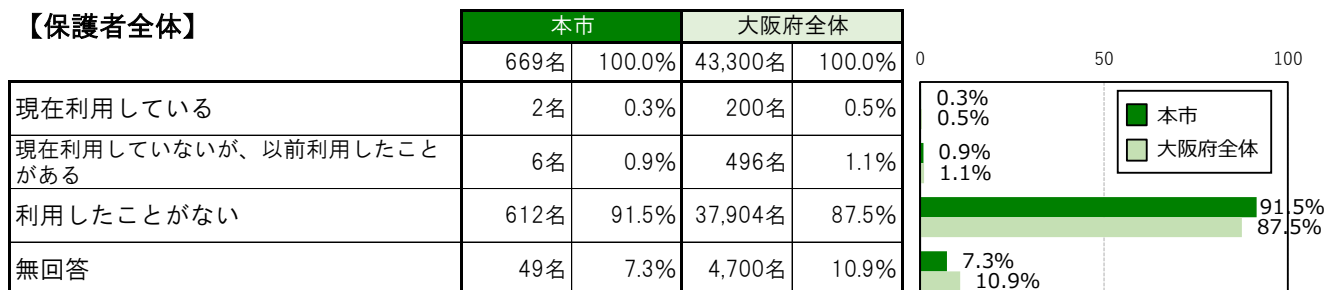
問23 支援制度の利用状況 e 母子家庭等就業・自立支援センター

保護者全体は、「利用したことがない」が91.5%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が0.9%、「現在利用している」が0.3%となっている。

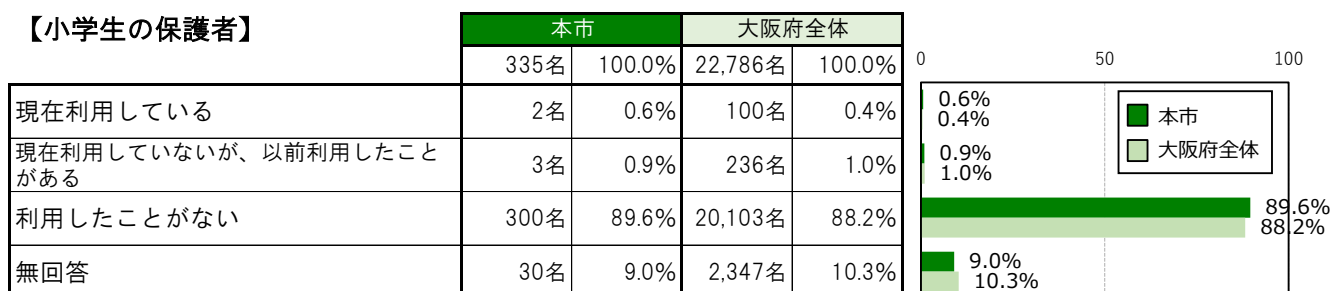
小学生の保護者は、「利用したことがない」が89.6%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が0.9%、「現在利用している」が0.6%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が92.7%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.0%となっている。

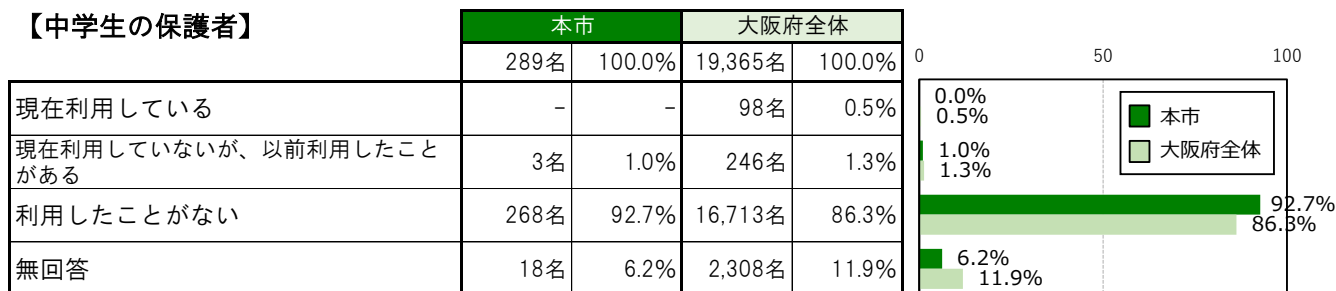
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

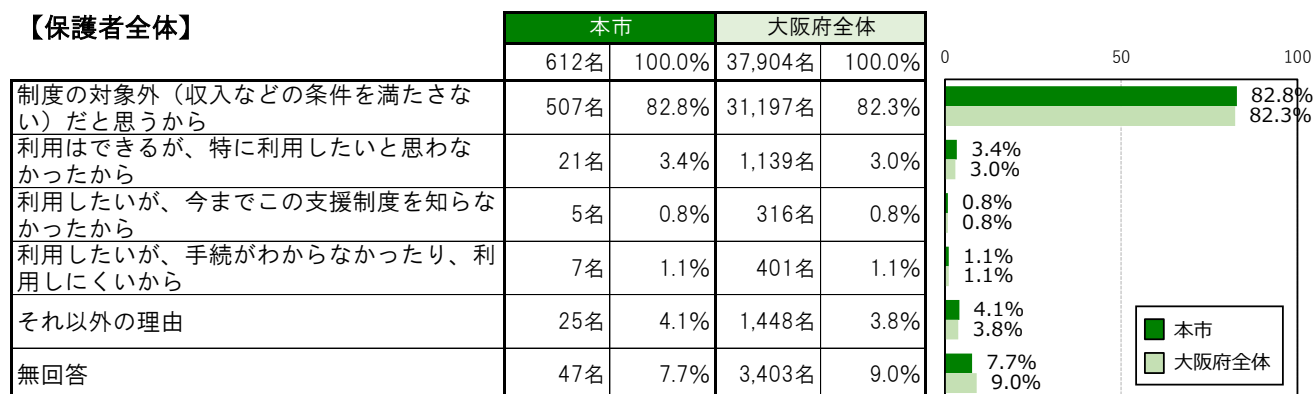
問23 支援制度の利用状況 e 母子家庭等就業・自立支援センター <利用したことがない理由>

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が82.8%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が4.1%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が3.4%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.1%となっている。

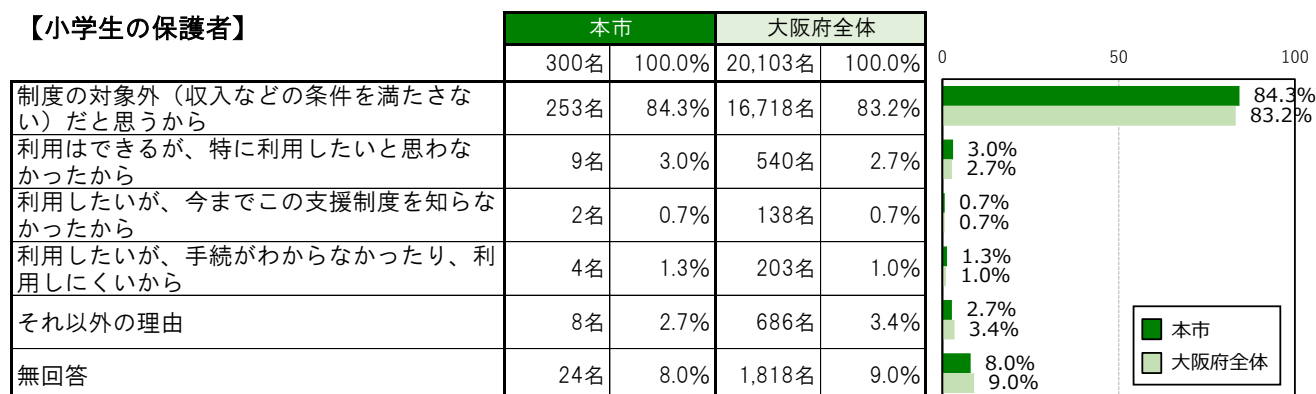
小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が84.3%で最も多く、次いで「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が3.0%、「それ以外の理由」が2.7%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.3%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が81.0%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が5.2%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が3.7%となっている。

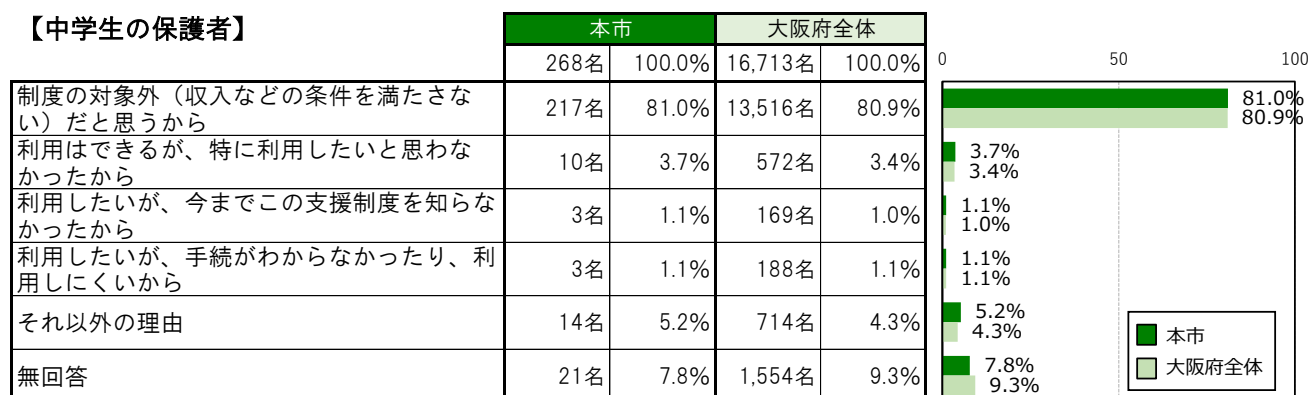
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



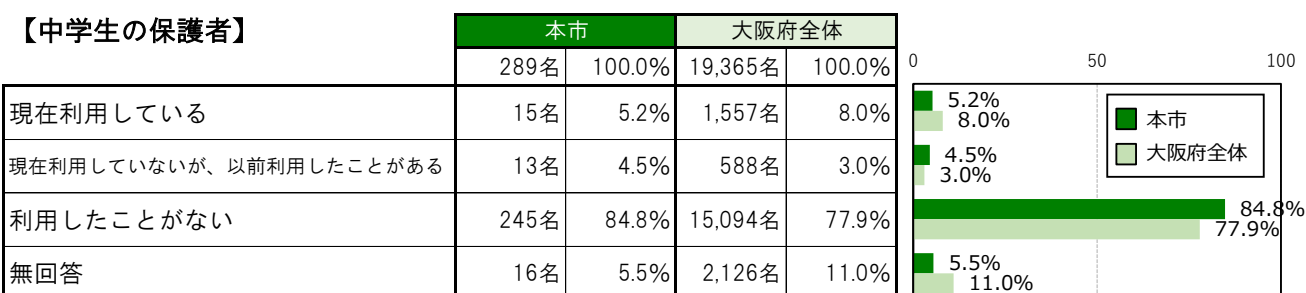
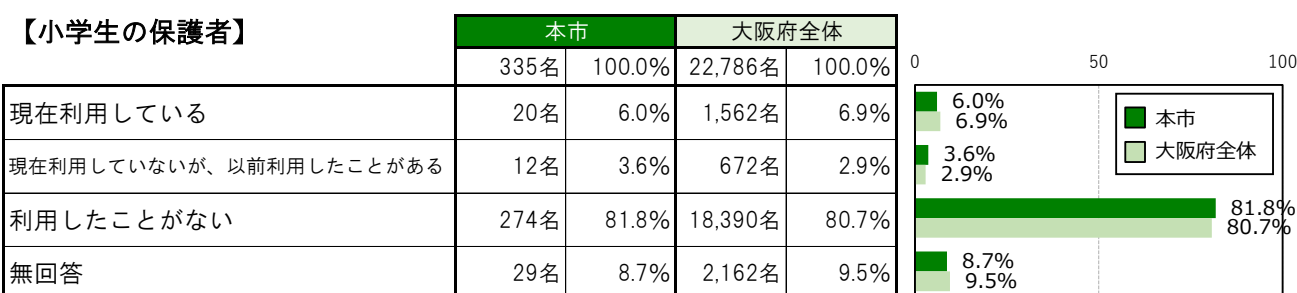
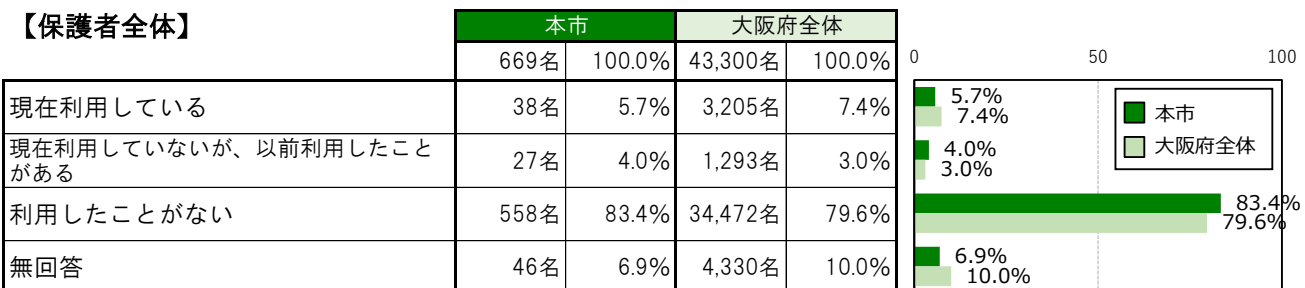
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 f 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金

保護者全体は、「利用したことがない」が83.4%で最も多く、次いで「現在利用している」が5.7%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が4.0%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が81.8%で最も多く、次いで「現在利用している」が6.0%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が3.6%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が84.8%で最も多く、次いで「現在利用している」が5.2%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が4.5%となっている。



保護者のことについて

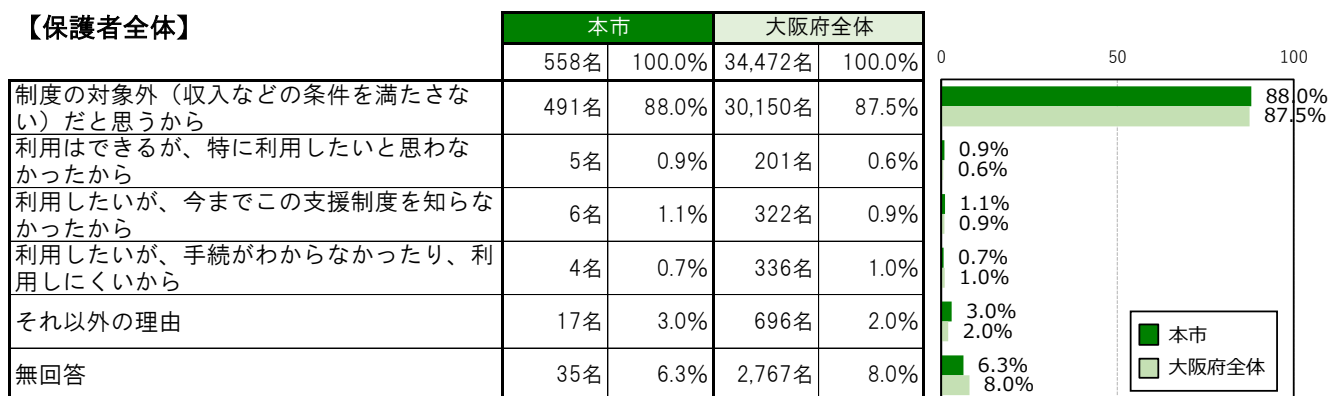
問23 支援制度の利用状況 f 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金 ＜利用したことがない理由＞

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.0%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.0%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が1.1%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が0.9%となっている。

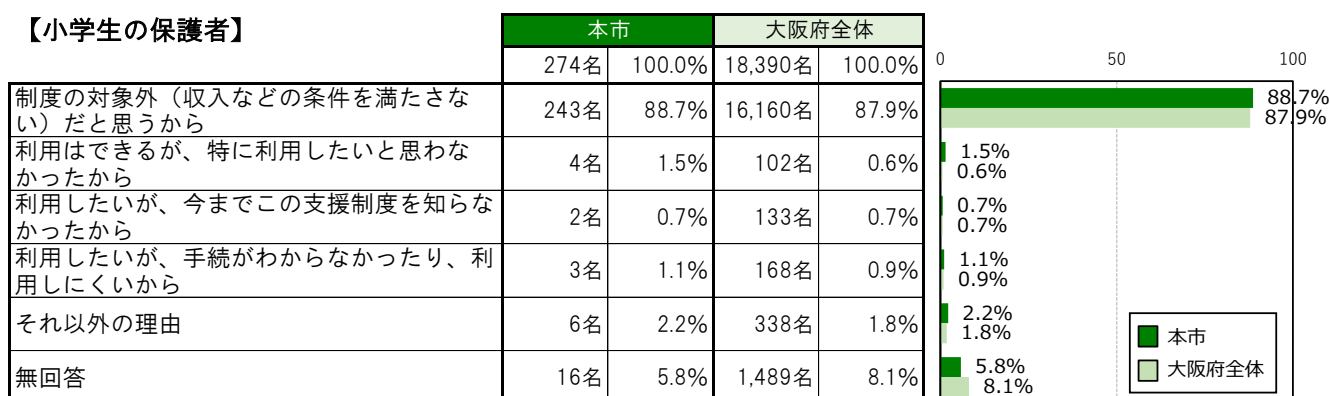
小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.7%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.2%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.5%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.1%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が86.1%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が4.1%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が1.6%となっている。

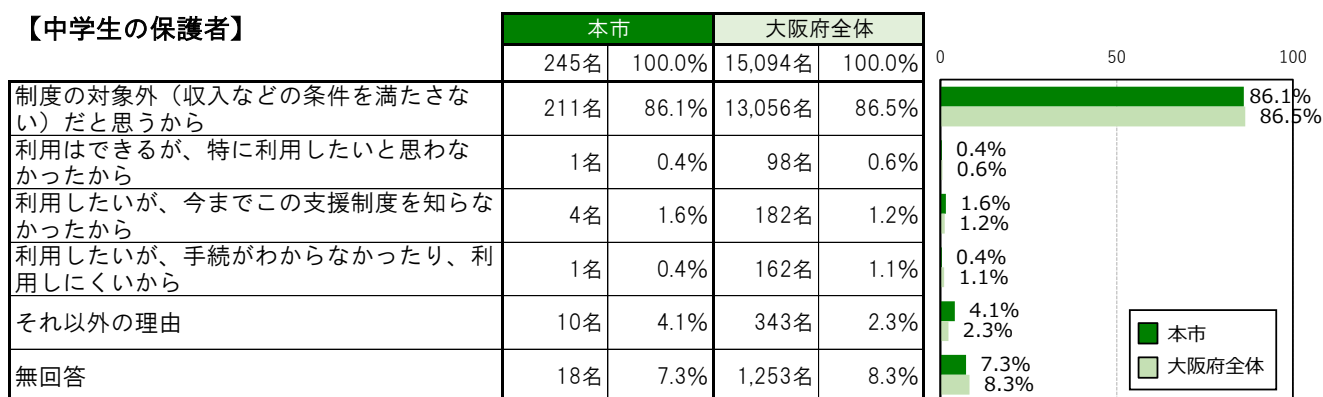
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



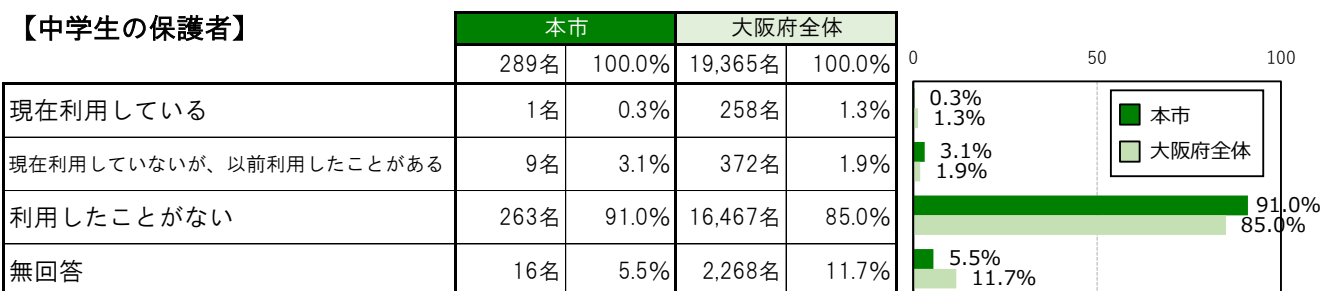
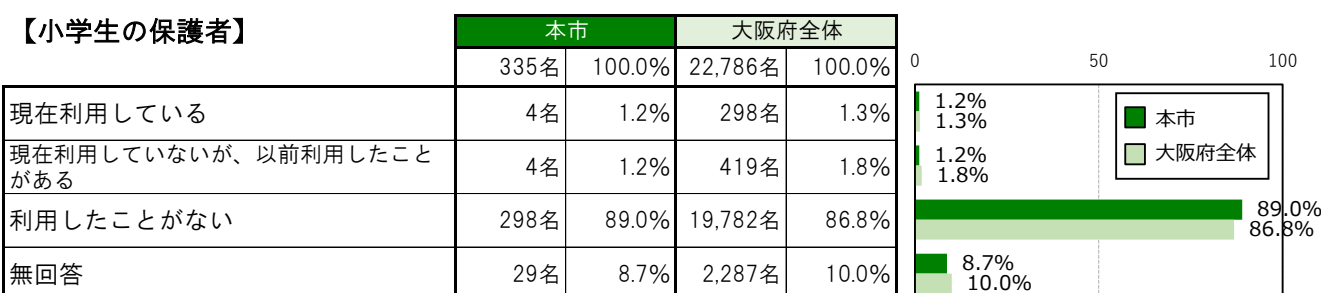
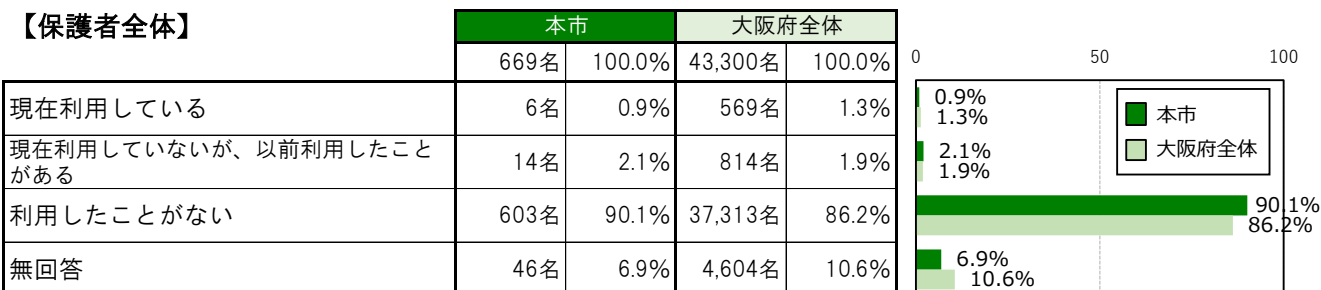
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 g 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）

保護者全体は、「利用したことがない」が90.1%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.1%、「現在利用している」が0.9%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が89.0%で最も多く、次いで「現在利用している」、「現在利用していないが、以前利用したことがある」がそれぞれ1.2%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が91.0%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が3.1%、「現在利用している」が0.3%となっている。



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 g 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金） ＜利用したことがない理由＞

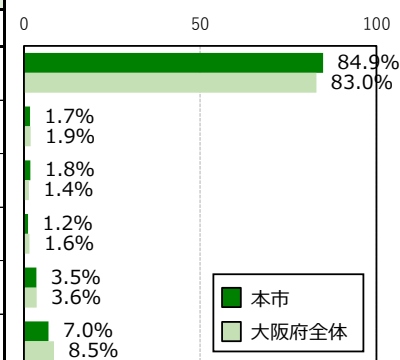
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が84.9%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.5%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が1.8%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.7%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が85.2%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.3%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が1.7%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が83.7%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が4.9%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」がそれぞれ1.9%となっている。

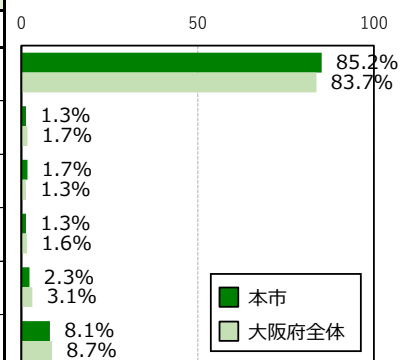
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	603名	100.0%	37,313名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	512名	84.9%	30,971名	83.0%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	10名	1.7%	708名	1.9%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	11名	1.8%	529名	1.4%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	7名	1.2%	611名	1.6%
それ以外の理由	21名	3.5%	1,331名	3.6%
無回答	42名	7.0%	3,163名	8.5%



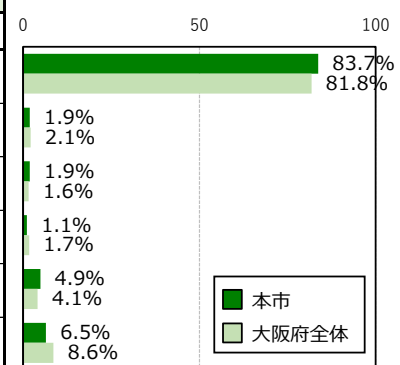
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	298名	100.0%	19,782名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	254名	85.2%	16,548名	83.7%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	4名	1.3%	343名	1.7%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	5名	1.7%	258名	1.3%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	4名	1.3%	308名	1.6%
それ以外の理由	7名	2.3%	613名	3.1%
無回答	24名	8.1%	1,712名	8.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	263名	100.0%	16,467名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	220名	83.7%	13,474名	81.8%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	5名	1.9%	350名	2.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	5名	1.9%	263名	1.6%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	3名	1.1%	284名	1.7%
それ以外の理由	13名	4.9%	675名	4.1%
無回答	17名	6.5%	1,421名	8.6%



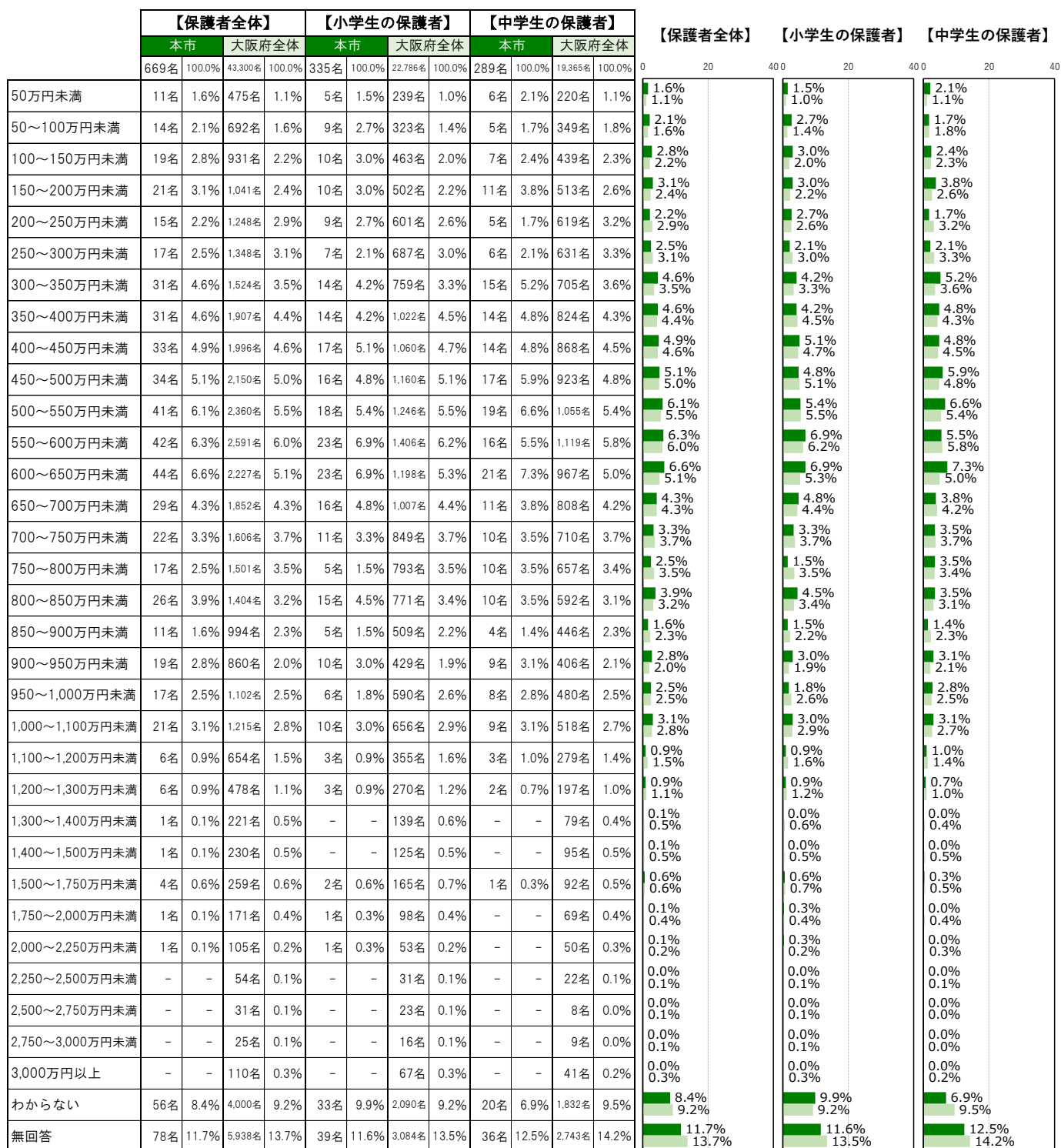
保護者のことについて

問24 世帯収入

保護者__問24世帯収入（手取り） 保護者全体は、「600～650万円未満」が6.6％で最も多く、次いで「550～600万円未満」が6.3％、「500～550万円未満」が6.1％、「450～500万円未満」が5.1％となっている。

小学生の保護者は、「550～600万円未満」、「600～650万円未満」がそれぞれ6.9％で最も多く、次いで「500～550万円未満」が5.4％、「400～450万円未満」が5.1％、「450～500万円未満」、「650～700万円未満」がそれぞれ4.8％となっている。

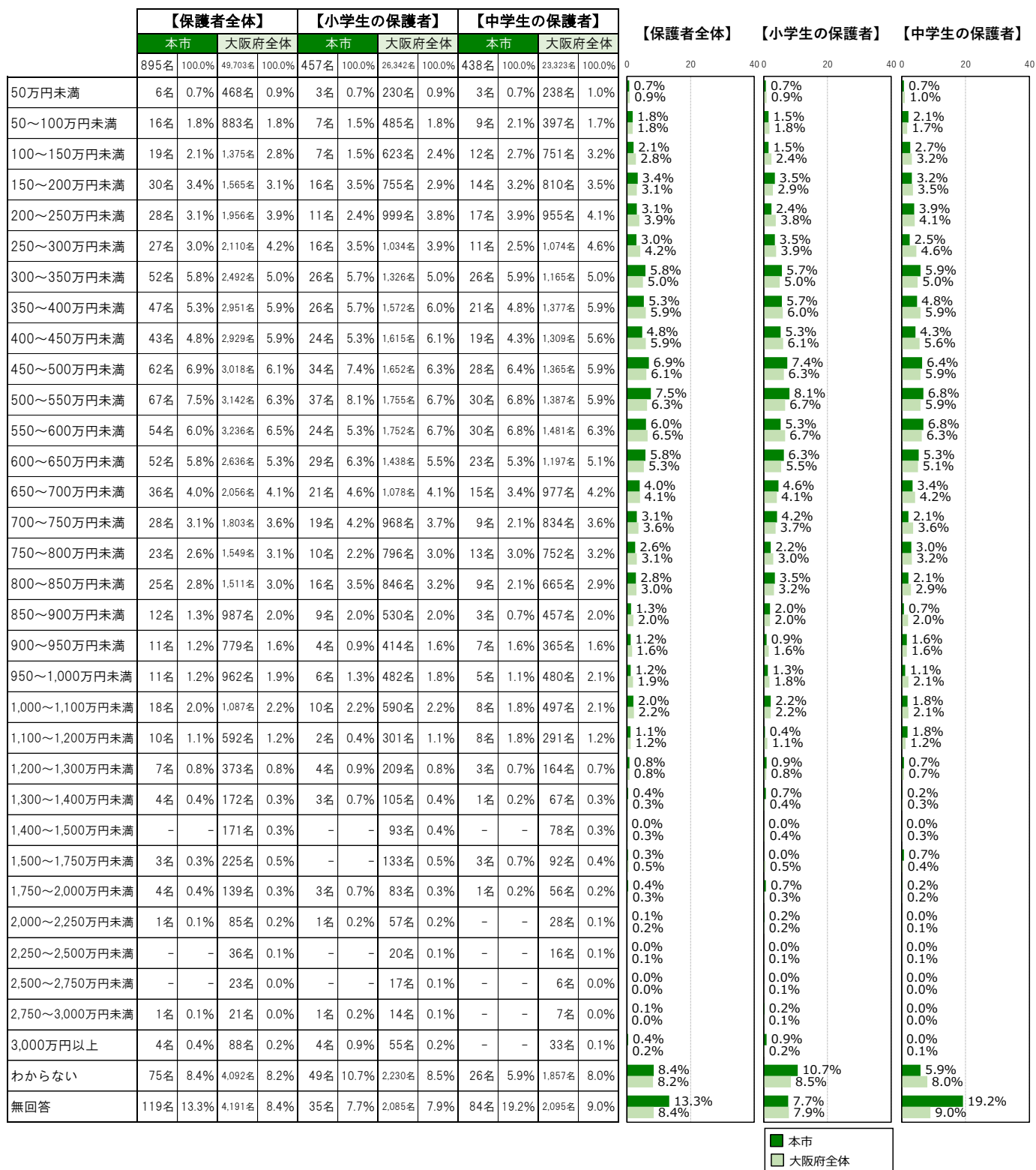
中学生の保護者は、「600～650万円未満」が7.3％で最も多く、次いで「500～550万円未満」が6.6％、「450～500万円未満」が5.9％、「550～600万円未満」が5.5％となっている。



■ 本市
■ 大阪府全体

●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「450～500万円未満」が1.8ポイント低くなっている。
 小学生の保護者は、「500～550万円未満」が2.7ポイント低くなっている。
 中学生の保護者は、「200～250万円未満」が2.2ポイント低くなっている。



世帯収入額と世帯人数に基づく等価可処分所得

今回の調査において世帯所得をたずねているが、この回答のみで世帯の困窮の状態を測ることはできない。実際の生活上の体験や困りごとを把握するため、多面的に貧困を測る指標として、「等価可処分所得」およびそれらを基に区分した「困窮度」を用いている。

国民生活基礎調査における相対的貧困率は、一定基準（貧困線）を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合をいう。貧困線とは、等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額をいう。算出方法は、OECD（経済協力開発機構）の作成基準に基づく。EU、ユニセフ（ただし、常に60%基準採用ではない）は60%を採用している。

世帯の可処分所得はその世帯の世帯人員数に影響されるので、世帯人員数で調整する必要がある。最も簡単なのは「世帯の可処分所得÷世帯人員数」とすることであるが、生活水準を考えた場合、世帯人員数が少ない方が生活コストが割高になることを考慮する必要がある、このため、世帯人員数の違いを調整するにあたって「世帯人員数の平方根」を用いている。

出典：厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/20-21a-01.pdf>

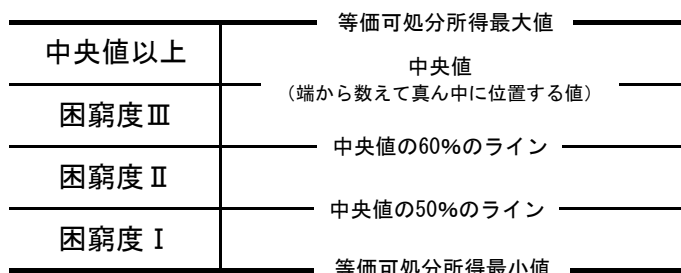
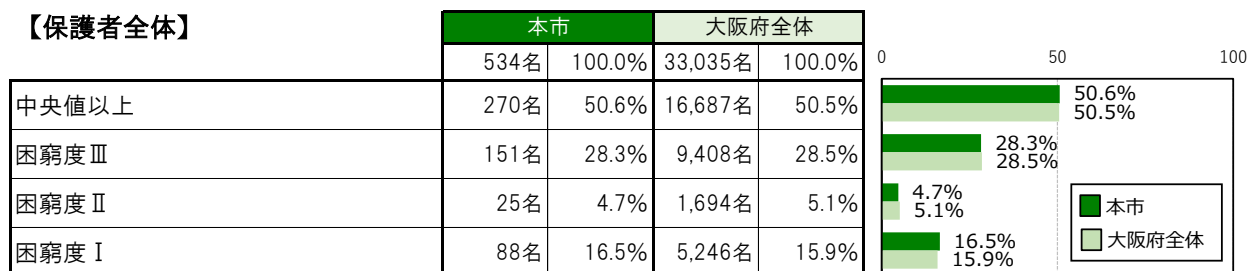


図 困窮度の分類と基準

中央値は263万円、国の定める基準で行くと相対的貧困率は16.5%であった。
なお、大阪府内全自治体における相対的貧困率は15.9%であった。

【保護者全体】



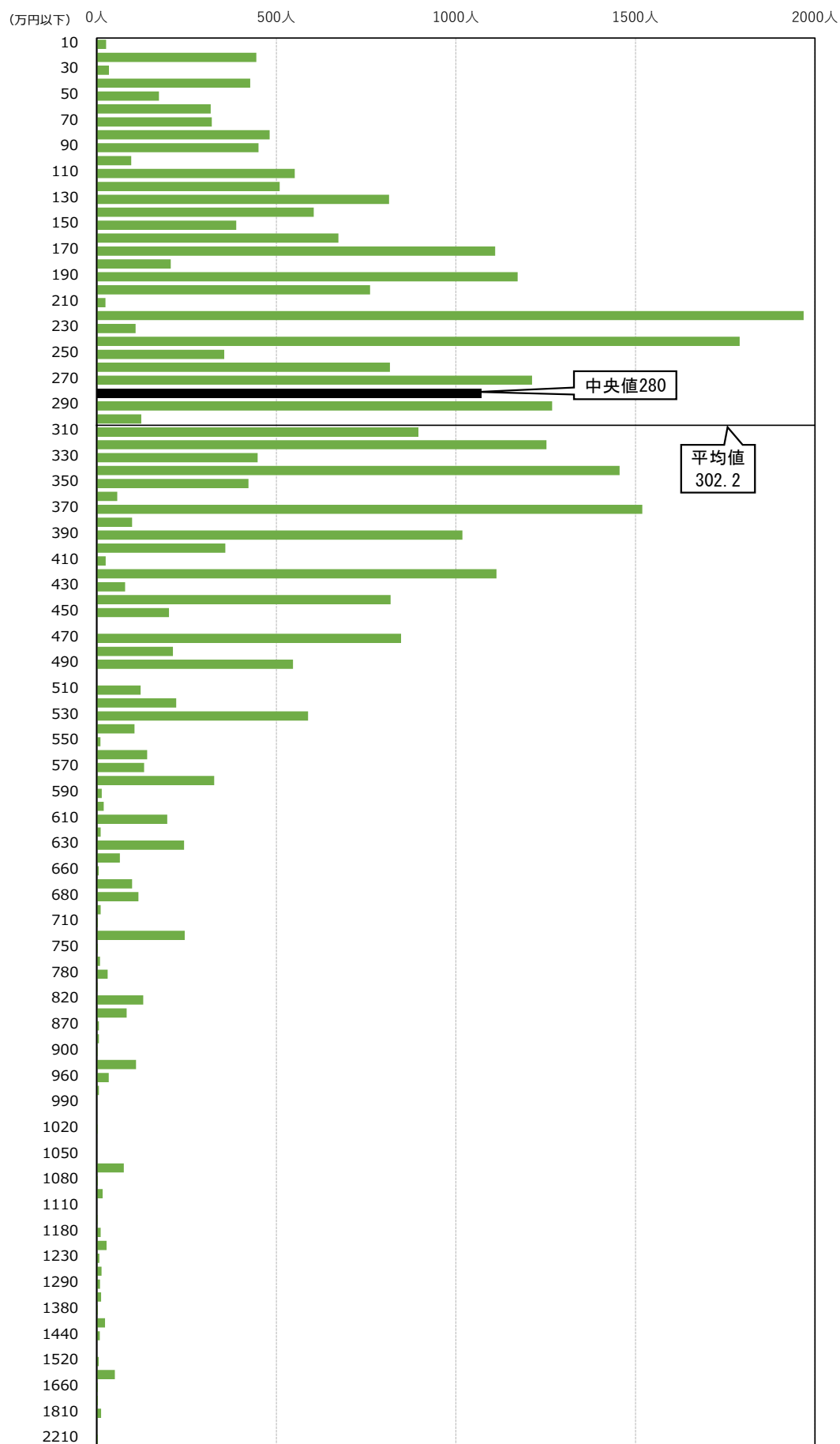
保護者全体は、「中央値以上」が50.6%で最も多く、次いで「困窮度Ⅲ」が28.3%、「困窮度Ⅰ」が16.5%、「困窮度Ⅱ」が4.7%となっている。

●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「困窮度Ⅰ」が3.5ポイント高くなっている。

【保護者全体】





※ 2016年度調査では、中央値255万円、平均値272.7万円であった。
 注) 2023年度調査ではグラフ作成方法を改訂している。

図 大阪府内全自治体における等価可処分所得の分布

保護者のことについて

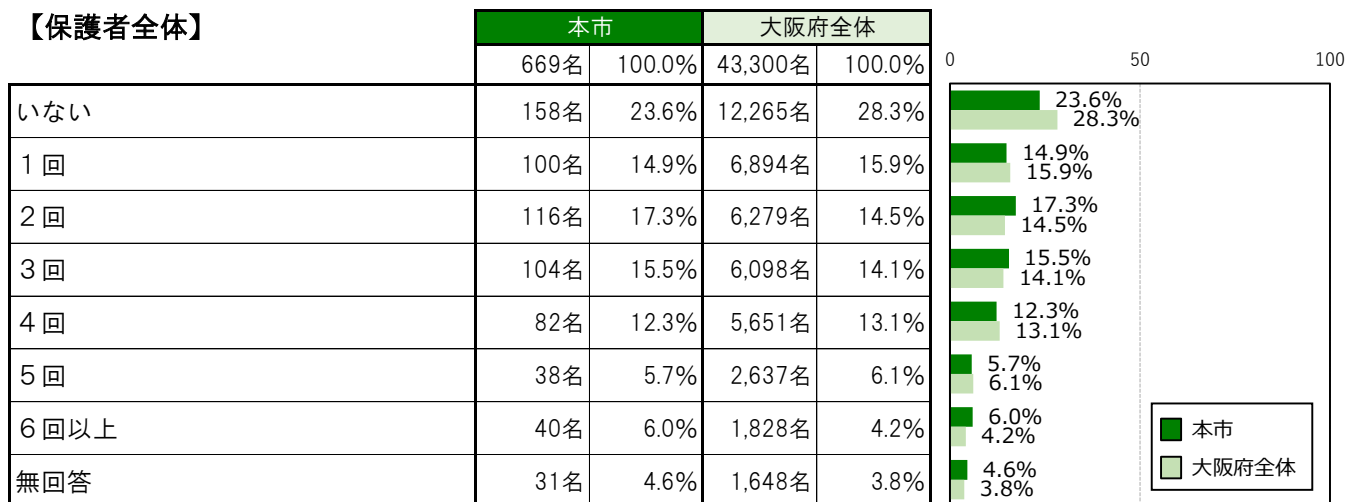
問25 同居家族が新型コロナウイルスに感染した延べ回数

保護者全体は、「いない」が23.6%で最も多く、次いで「2回」が17.3%、「3回」が15.5%、「1回」が14.9%、「4回」が12.3%となっている。

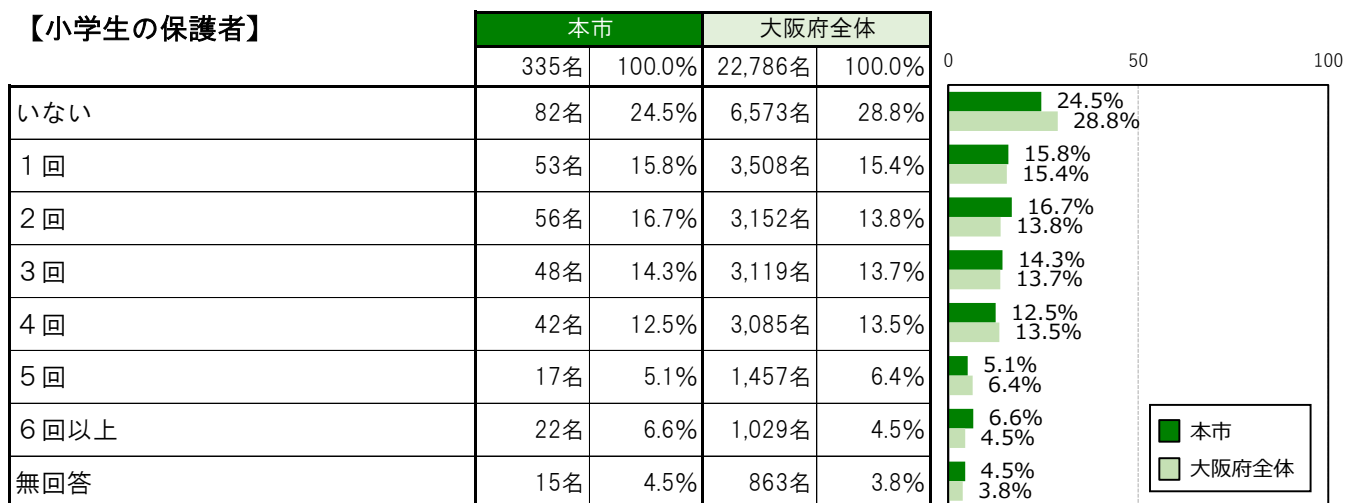
小学生の保護者は、「いない」が24.5%で最も多く、次いで「2回」が16.7%、「1回」が15.8%、「3回」が14.3%、「4回」が12.5%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が22.5%で最も多く、次いで「3回」が18.0%、「2回」が15.9%、「1回」が14.2%、「4回」が12.1%となっている。

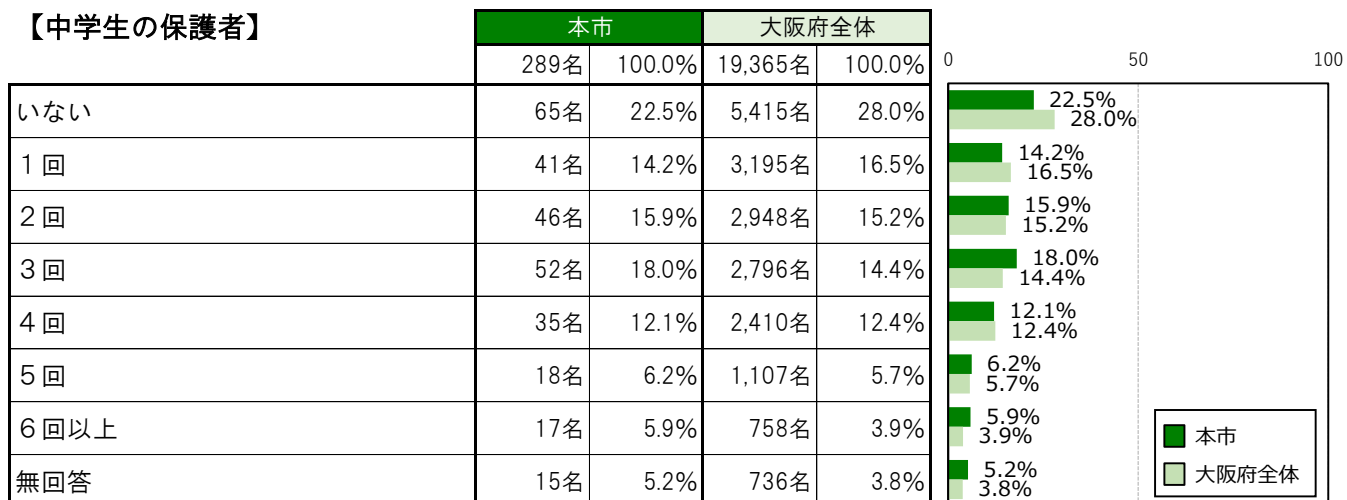
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問26（１）住居の間取り

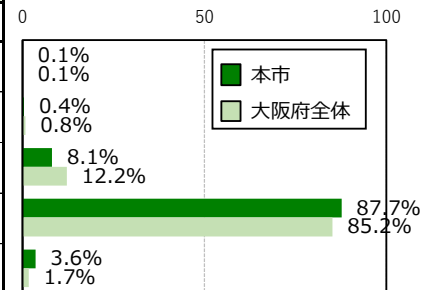
保護者全体は、「居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上」が87.7%で最も多く、次いで「居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）」が8.1%、「居室１部屋（１Ｋ、１ＤＫ、１ＬＤＫ）」が0.4%となっている。

小学生の保護者は、「居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上」が88.4%で最も多く、次いで「居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）」が7.8%となっている。

中学生の保護者は、「居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上」が86.5%で最も多く、次いで「居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）」が8.3%となっている。

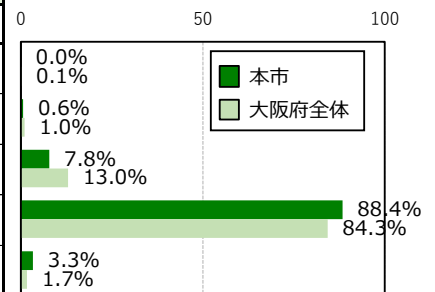
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	669名	100.0%	43,300名	100.0%
ワンルーム	1名	0.1%	43名	0.1%
居室１部屋（１Ｋ、１ＤＫ、１ＬＤＫ）	3名	0.4%	358名	0.8%
居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）	54名	8.1%	5,272名	12.2%
居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上	587名	87.7%	36,876名	85.2%
無回答	24名	3.6%	751名	1.7%



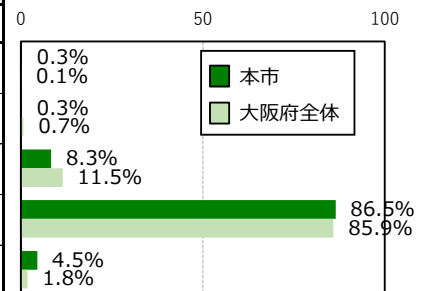
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	335名	100.0%	22,786名	100.0%
ワンルーム	-	-	21名	0.1%
居室１部屋（１Ｋ、１ＤＫ、１ＬＤＫ）	2名	0.6%	217名	1.0%
居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）	26名	7.8%	2,951名	13.0%
居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上	296名	88.4%	19,206名	84.3%
無回答	11名	3.3%	391名	1.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	289名	100.0%	19,365名	100.0%
ワンルーム	1名	0.3%	21名	0.1%
居室１部屋（１Ｋ、１ＤＫ、１ＬＤＫ）	1名	0.3%	134名	0.7%
居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）	24名	8.3%	2,233名	11.5%
居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上	250名	86.5%	16,638名	85.9%
無回答	13名	4.5%	339名	1.8%



保護者のことについて

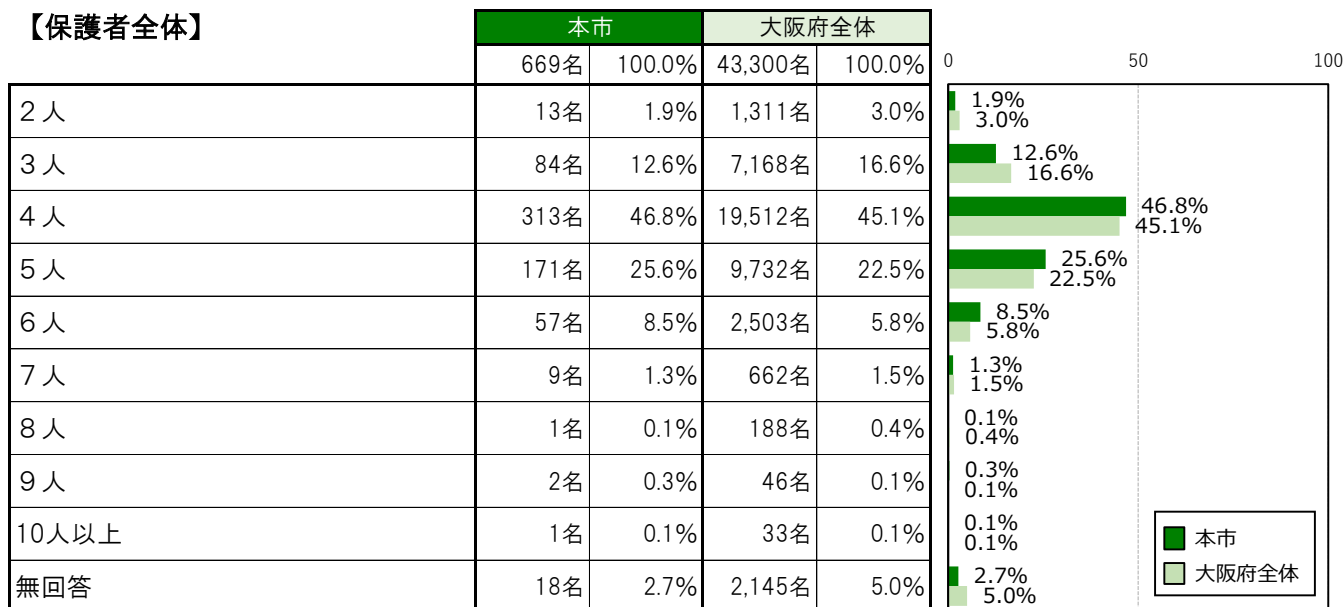
問26（2）同居人数

保護者全体は、「4人」が46.8%で最も多く、次いで「5人」が25.6%、「3人」が12.6%、「6人」が8.5%となっている。

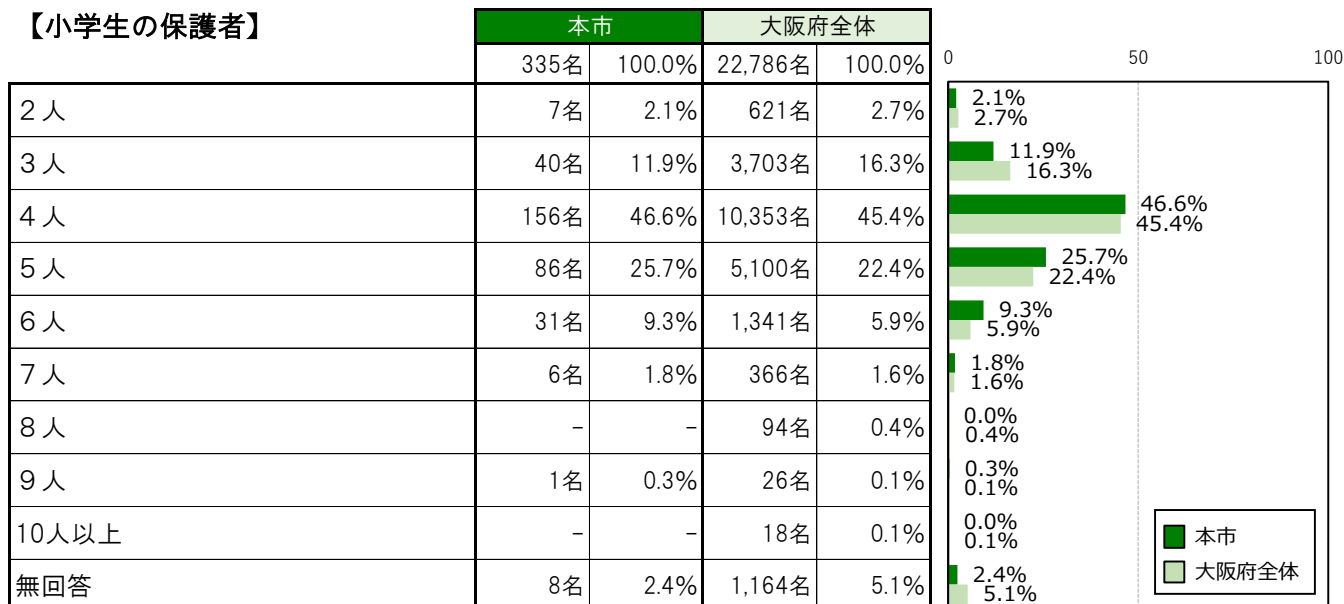
小学生の保護者は、「4人」が46.6%で最も多く、次いで「5人」が25.7%、「3人」が11.9%、「6人」が9.3%となっている。

中学生の保護者は、「4人」が48.4%で最も多く、次いで「5人」が24.2%、「3人」が12.8%、「6人」が7.6%となっている。

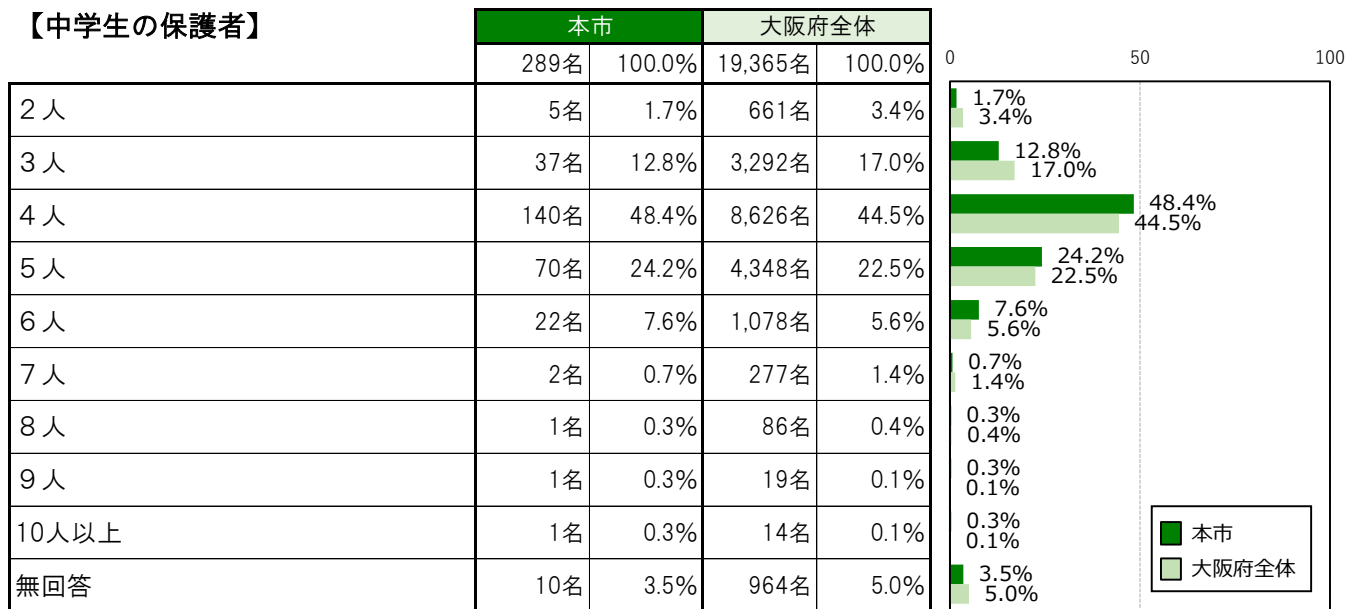
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



3. クロス集計および分析結果

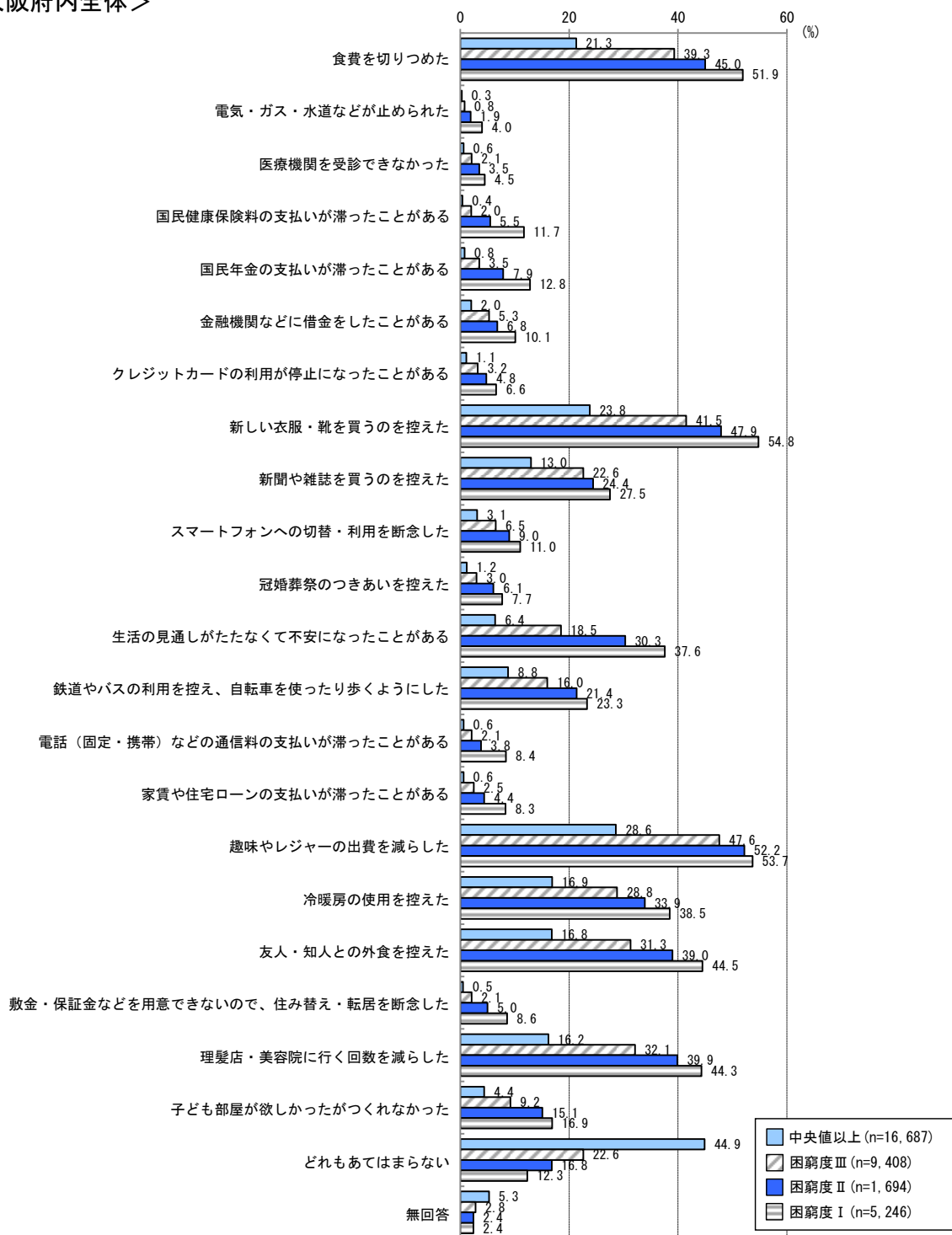
以下のグラフは、主に困窮度別に示している。大阪府内全自治体の傾向については記述していないが、多くにおいて、本自治体調査結果と同様の傾向が見られる。さらに顕著な傾向が見られるものもある。

3-1. 基本情報

(1) 経済状況

困窮度別に見た、経済的な理由による経験（保護者票問7）

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

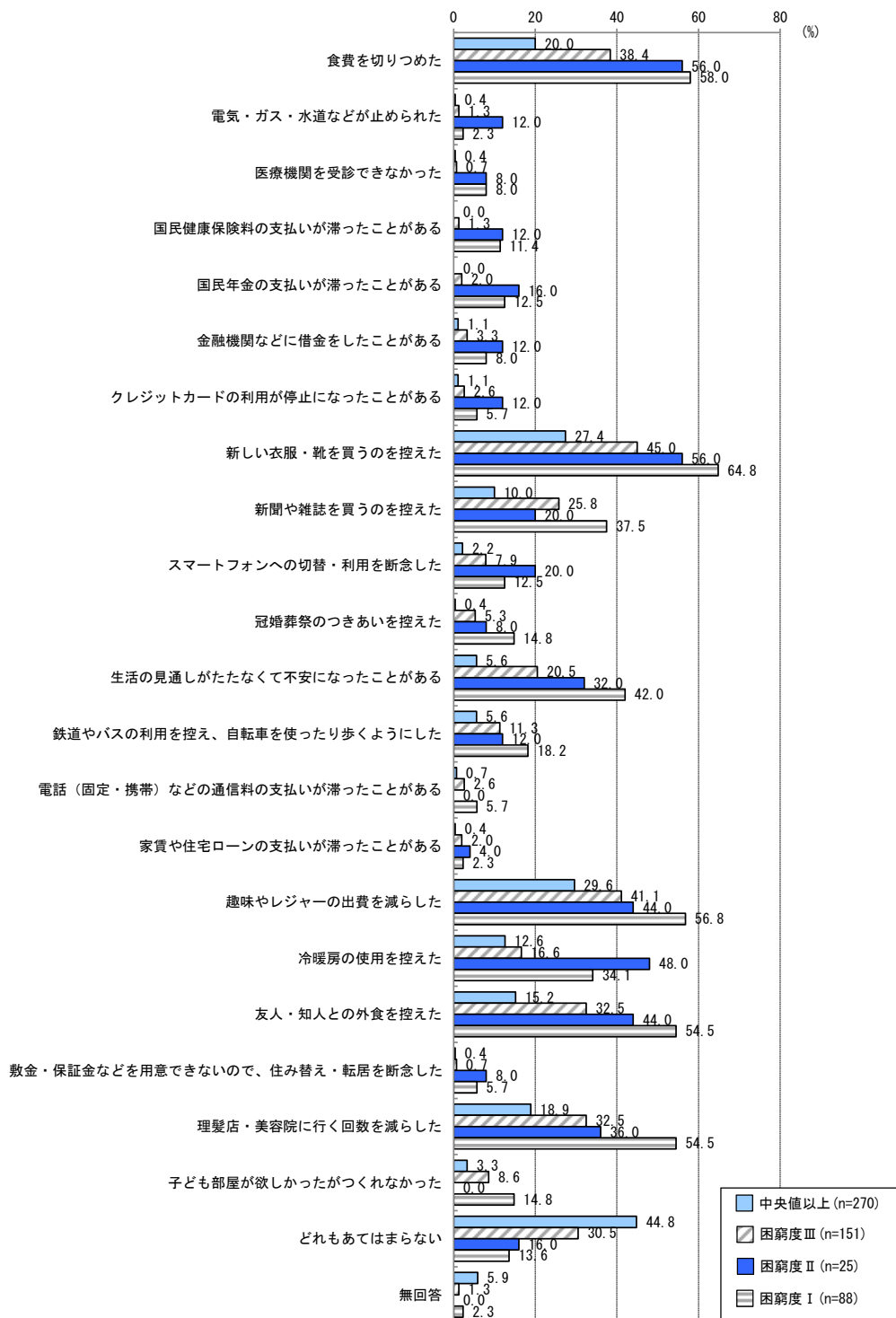
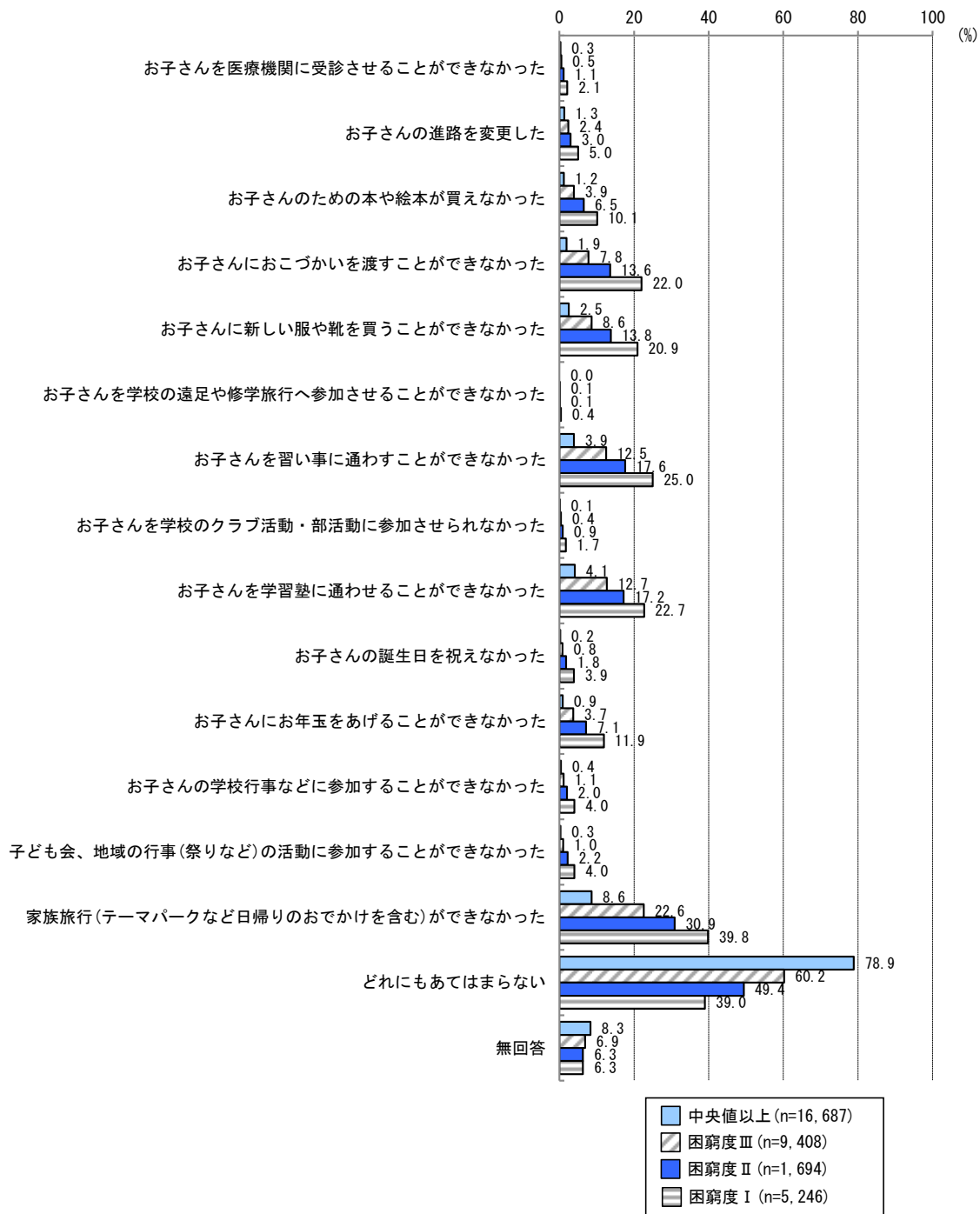


図 1. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験

困窮度別に経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「冠婚葬祭のつきあいを控えた」が14.8%（中央値以上群に対して37.0倍）、「医療機関を受診できなかった」が8.0%（同様に20.0倍）、「敷金・保証金などを用意できないので、住み替え・転居を断念した」が5.7%（同様に14.3倍）となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。また「どれもあてはまらない」は中央値以上群で44.8%に対して、困窮度Ⅰ群において13.6%だった。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験（保護者票問 12）

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

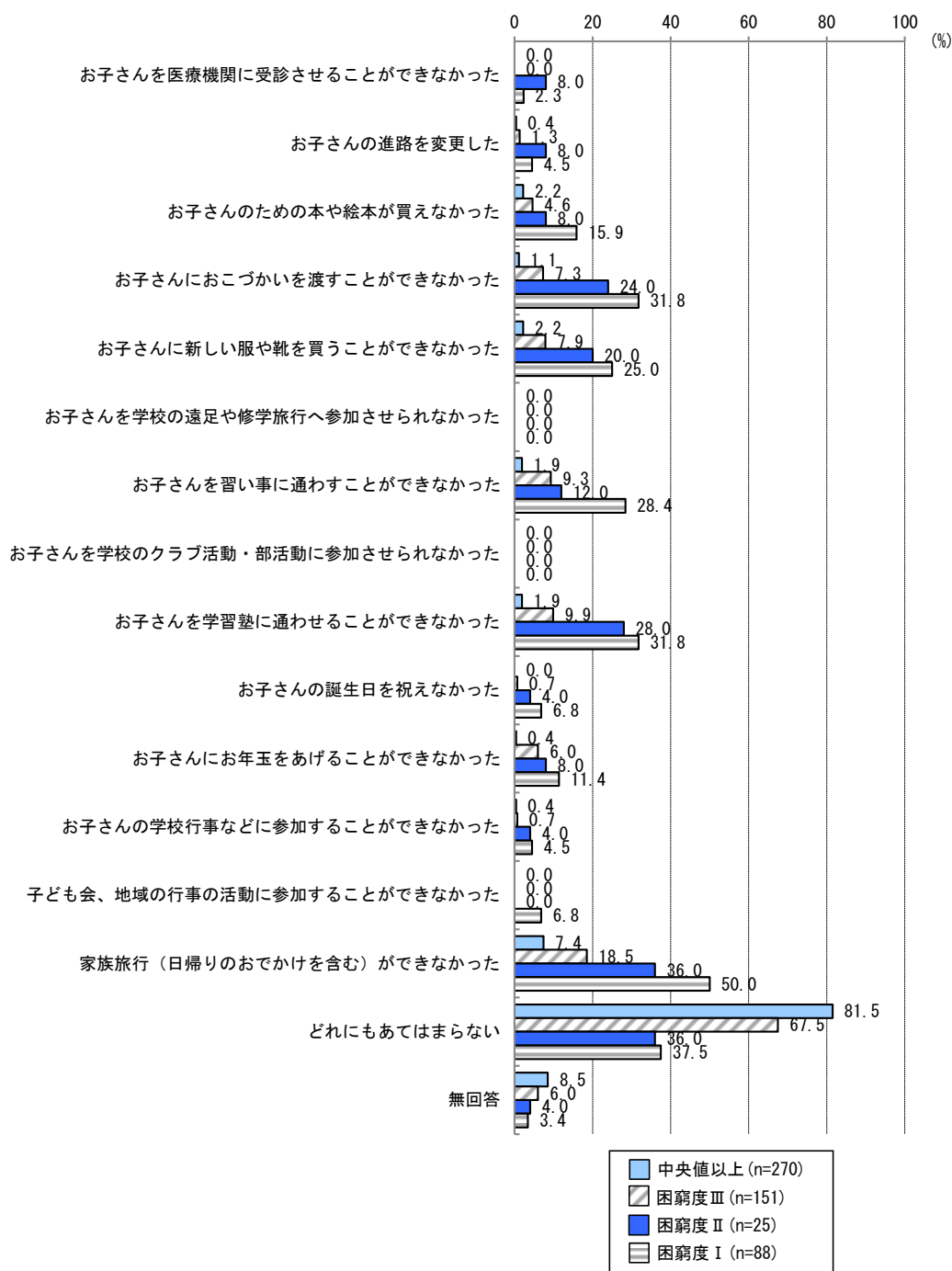


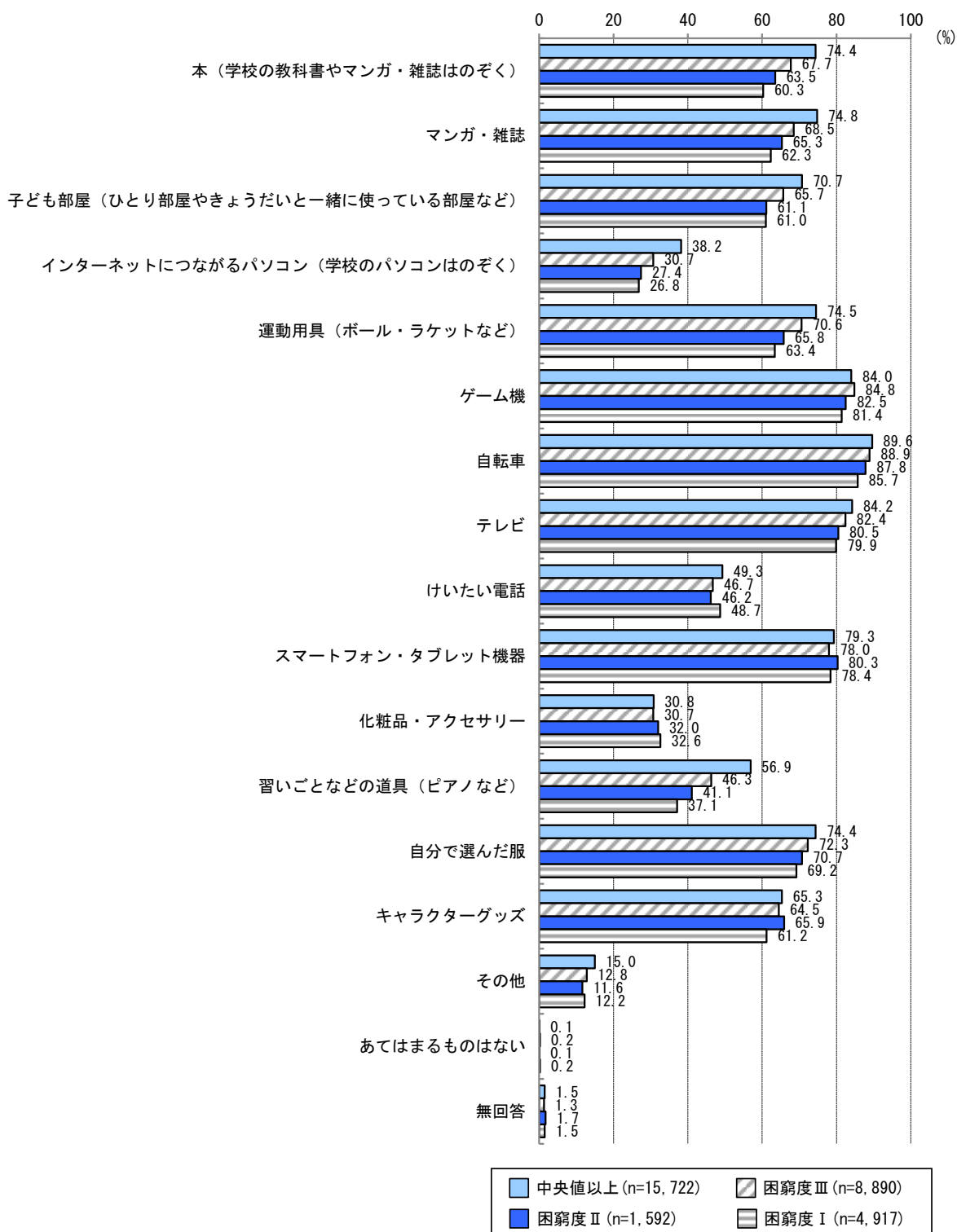
図 2. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験

困窮度別に子どもへの経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「お子さんにおこづかいを渡すことができなかった」が31.8%（中央値以上群に対して28.9倍）、「お子さんにお年玉をあげることができなかった」が11.4%（同じく28.5倍）となっている。

また、「どれにもあてはまらない」は中央値以上群が81.5%に対して、困窮度Ⅰ群において37.5%だった。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの（子ども票問 21）

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

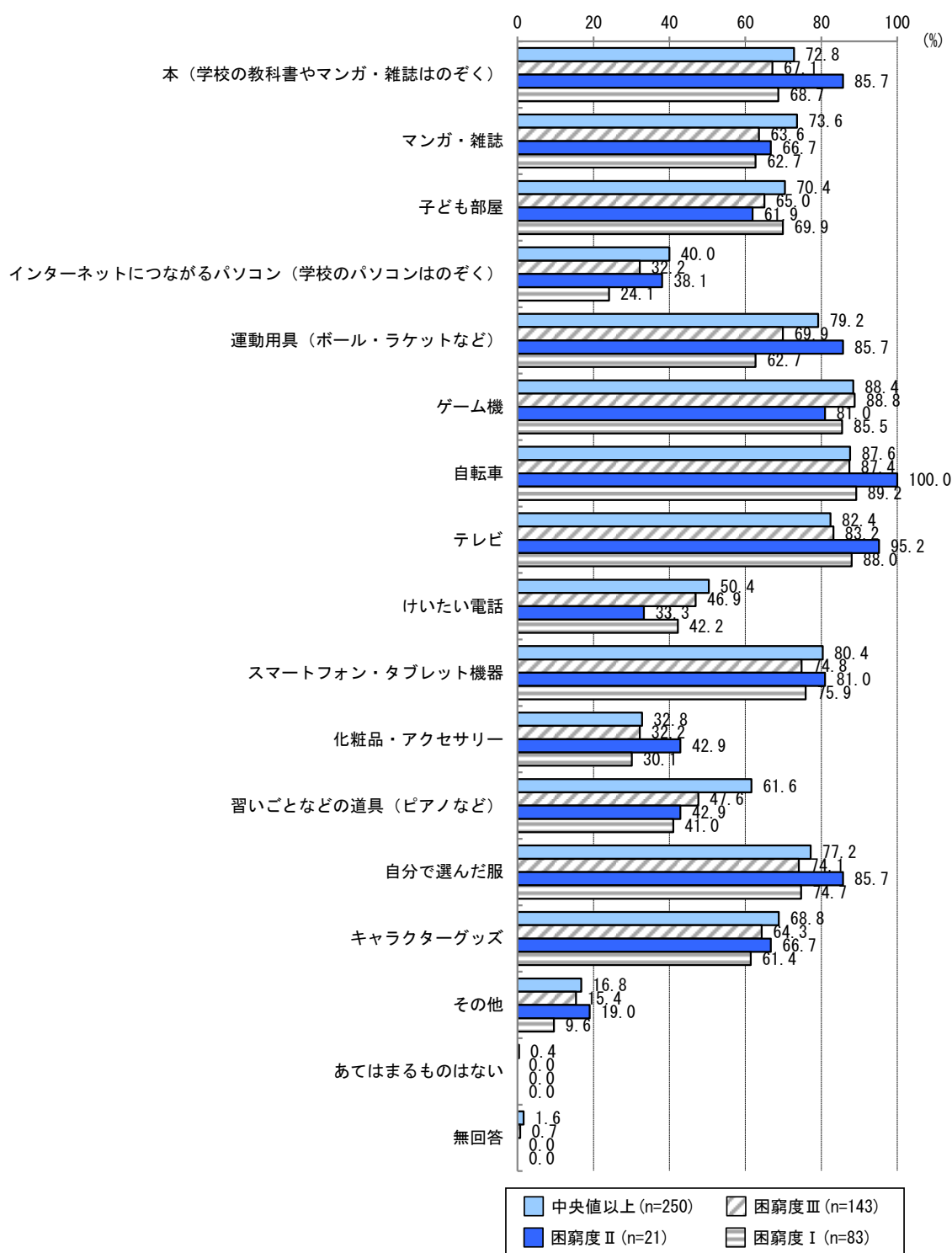
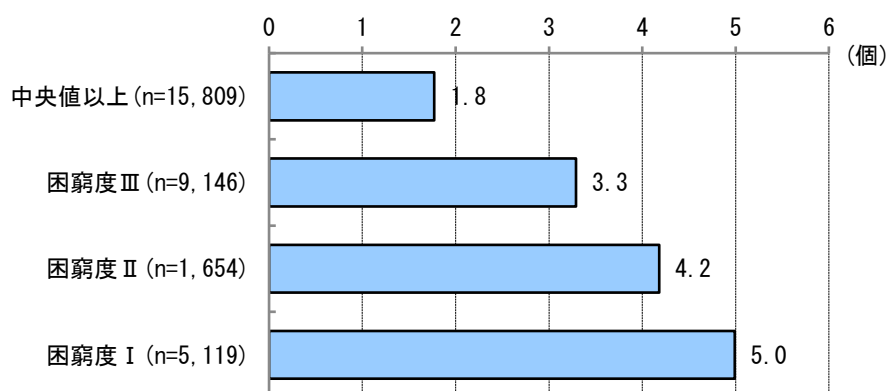


図 3. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、中央値以上群を見ると、「インターネットにつながるパソコン（学校のパソコンはのぞく）」が40.0%（困窮度Ⅰ群に対して1.7倍）、「習いごとなどの道具（ピアノなど）」が61.6%（同じく1.5倍）、「運動用具（ボール・ラケットなど）」が79.2%（同じく1.3倍）となり、中央値以上群において高い項目、すなわち困窮度Ⅰ群においては低い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問7）

<大阪府内全体>



<柏原市>

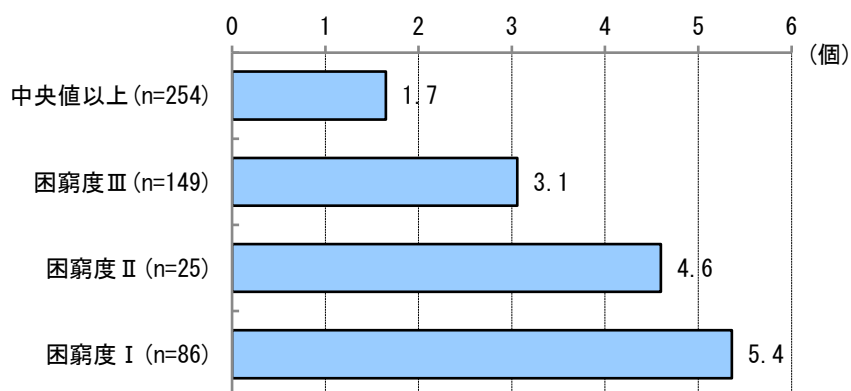


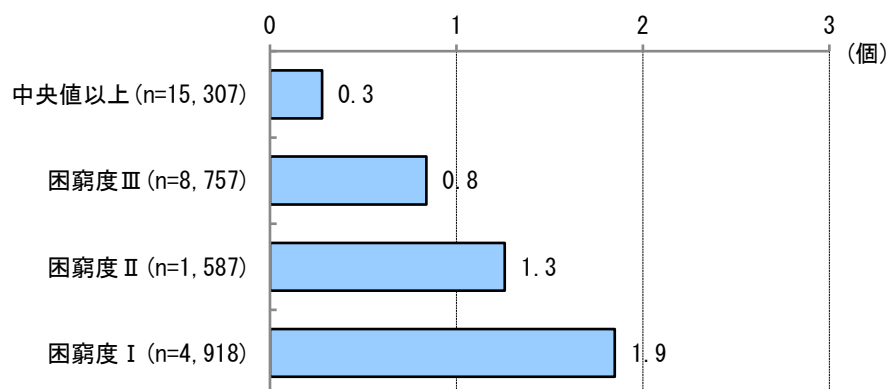
図 4. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均

経済的な理由による経験として示した21個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、経済的な理由による経験の該当数は多くなっていることがみられた。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問 12）

<大阪府内全体>



<柏原市>

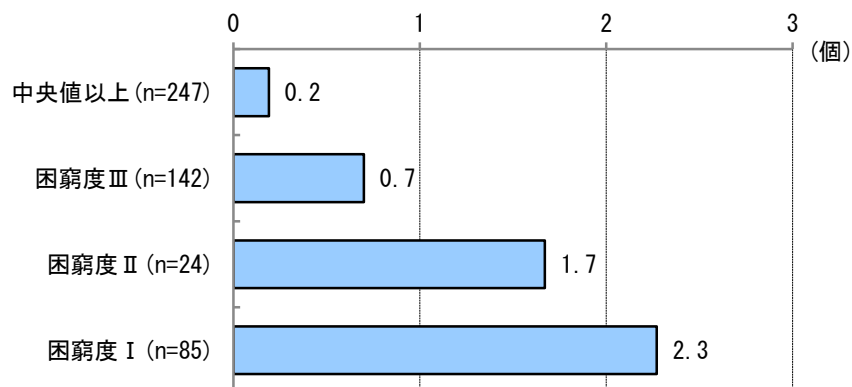


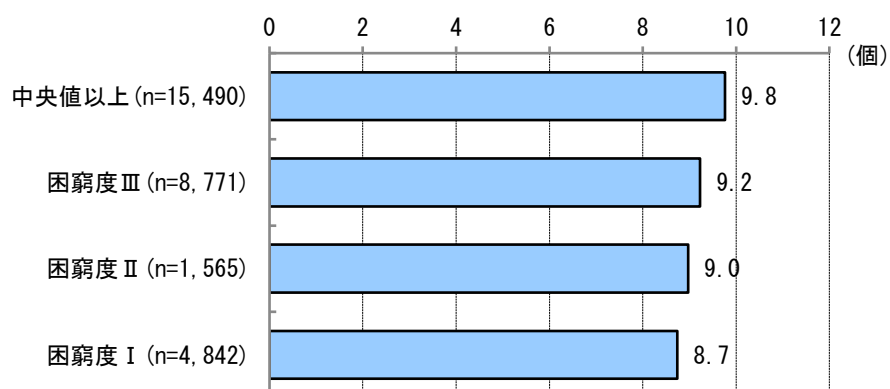
図 5. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均

子どもに関して経済的な理由による経験として示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、経済的な理由で子どもにできなかったことの該当数は多くなっていることがみられた。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均（子ども票問 21）

<大阪府内全体>



<柏原市>

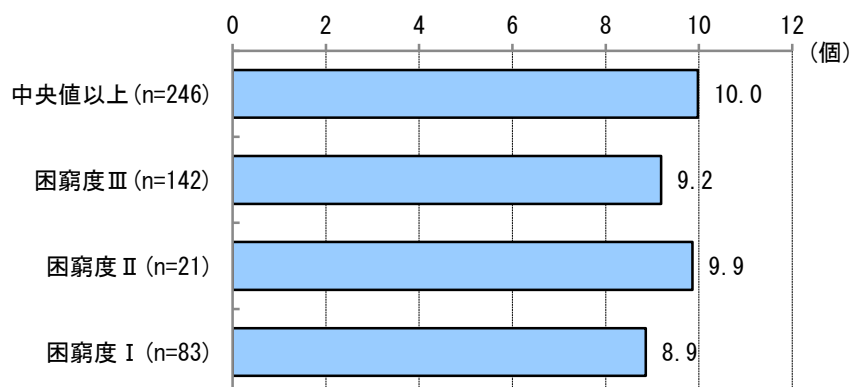


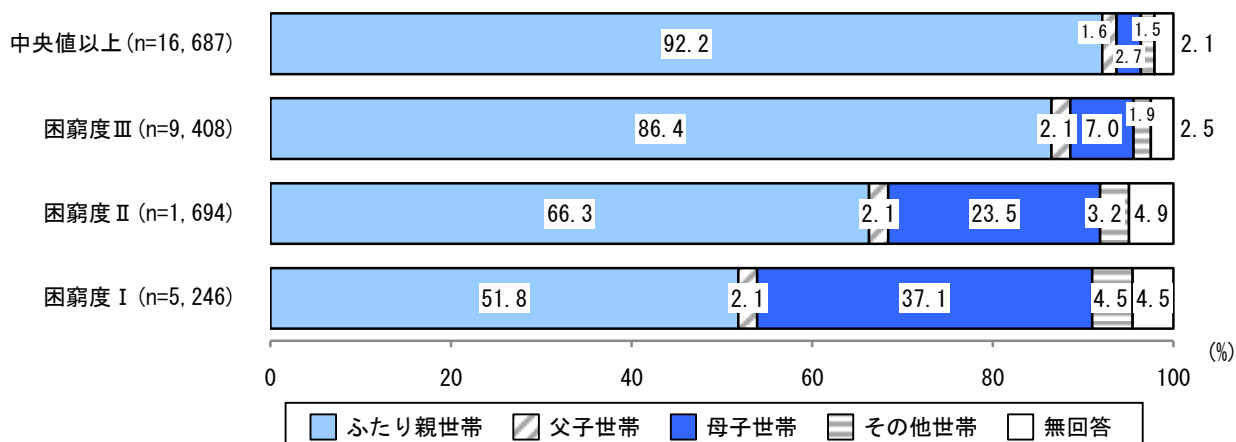
図 6. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均

子どもの持っているもの、使うことができるものとして示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度によって子どもの持ちもの、使えるものの該当数に大きな差は見られなかった。

困窮度別に見た、世帯員の構成（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<柏原市>

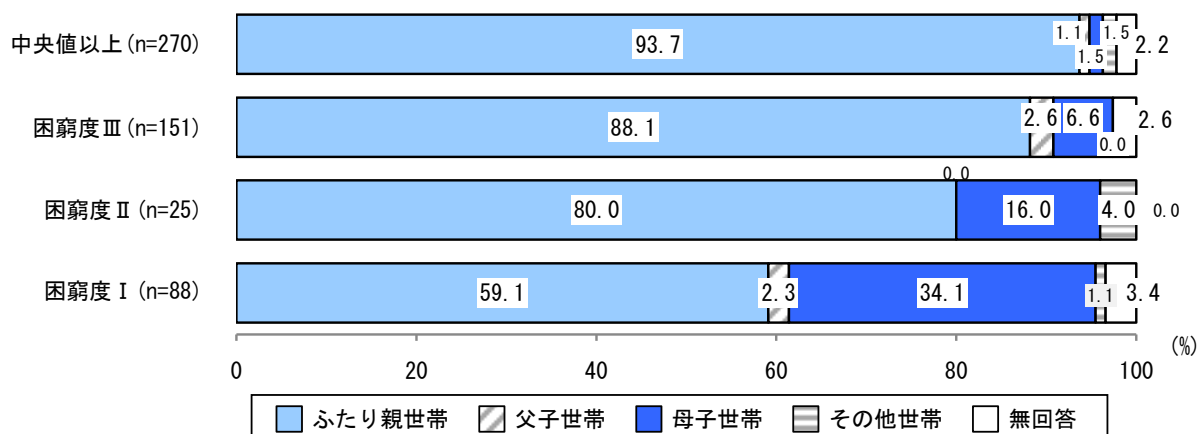


図 7. 困窮度別に見た、世帯員の構成

困窮度別に世帯員の構成を見ると、「ふたり親世帯」と回答したのは、中央値以上群が93.7%であるのに対して、困窮度Ⅰ群は59.1%だった。また、「母子世帯」と回答したのは、中央値以上群が1.5%であるのに対して、困窮度Ⅰ群は34.1%だった。

<2016年度調査との比較／柏原市>

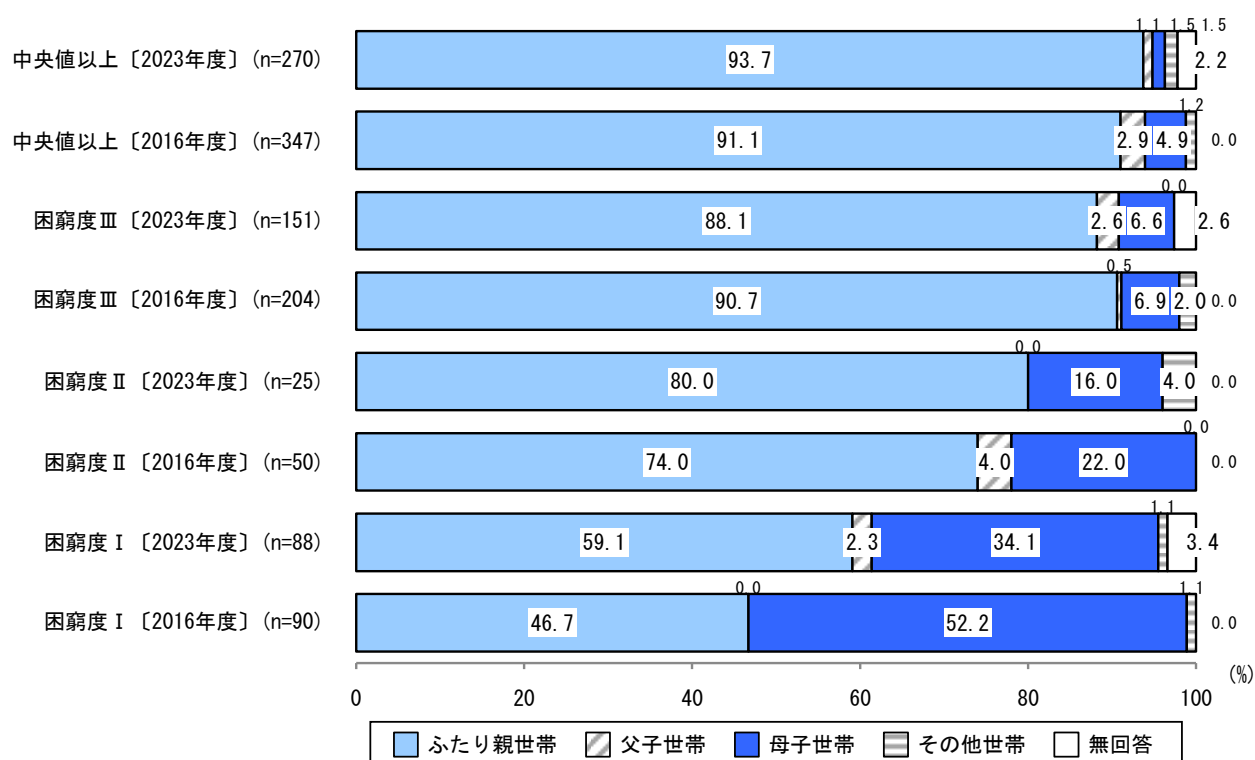
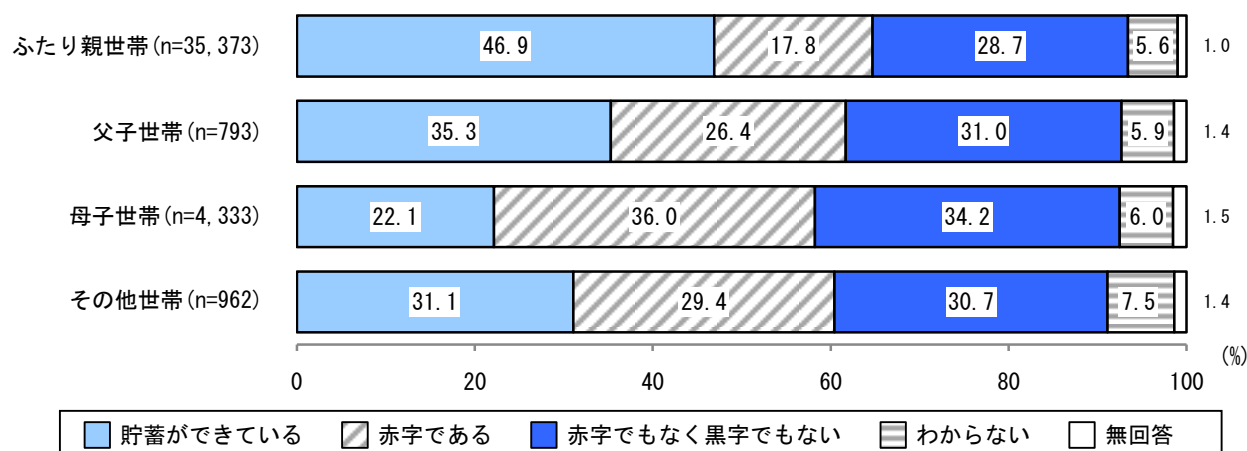


図 8. 困窮度別に見た、世帯員の構成（2016 年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「ふたり親世帯」と回答した割合は、困窮度Ⅲ群以外の困窮度で2016年度調査に比べて高くなっており、一方で、「母子世帯」は2016年度調査に比べて割合が低くなっている。

世帯構成別に見た、家計の状況（保護者票問 6(1)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

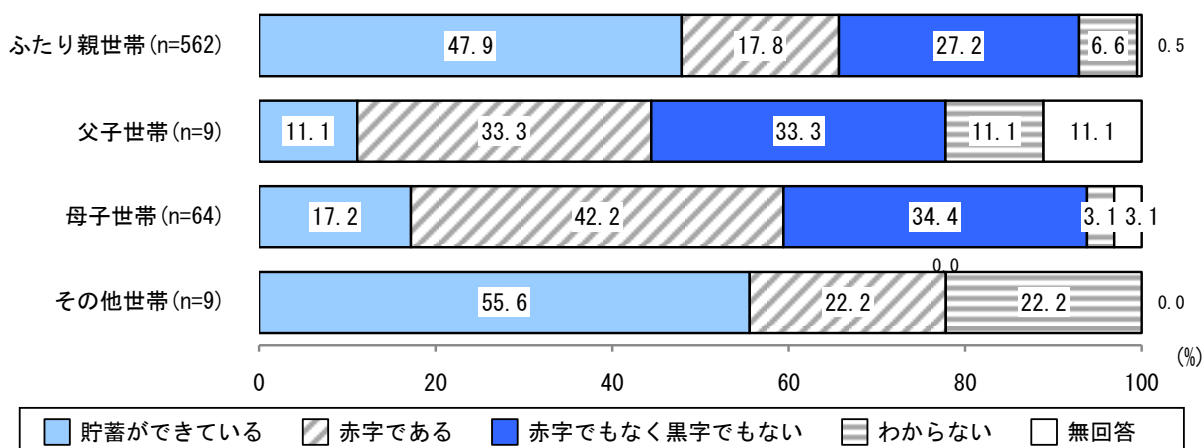
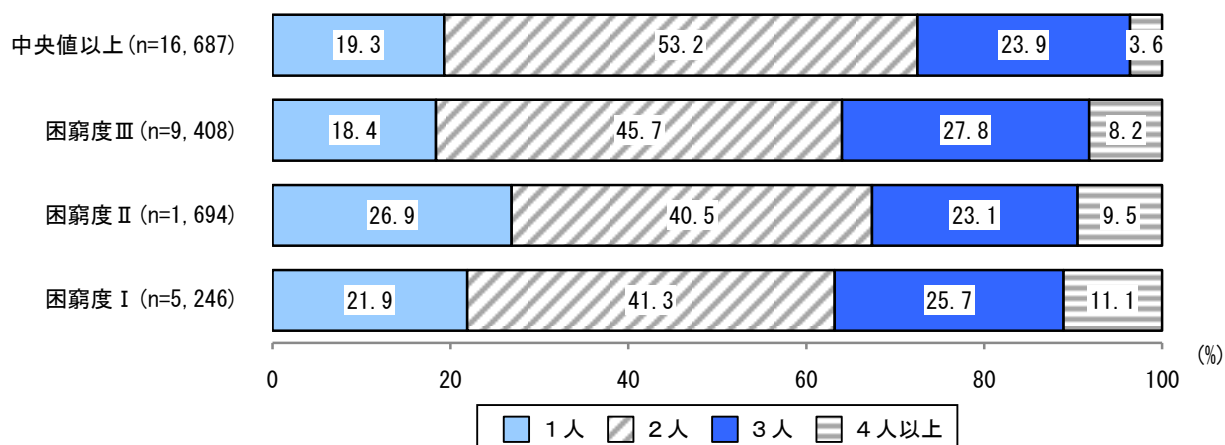


図 9. 世帯構成別に見た、家計の状況

世帯構成別に家計の状況を見ると、「貯蓄ができていない」と回答した割合は、ふたり親世帯が 47.9%なのに対して、父子世帯11.1%、母子世帯17.2%だった。また、「赤字である」と回答したのは、ふたり親世帯が17.8%なのに対して、母子世帯は42.2%だった。

困窮度別に見た、子どもの人数（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<柏原市>

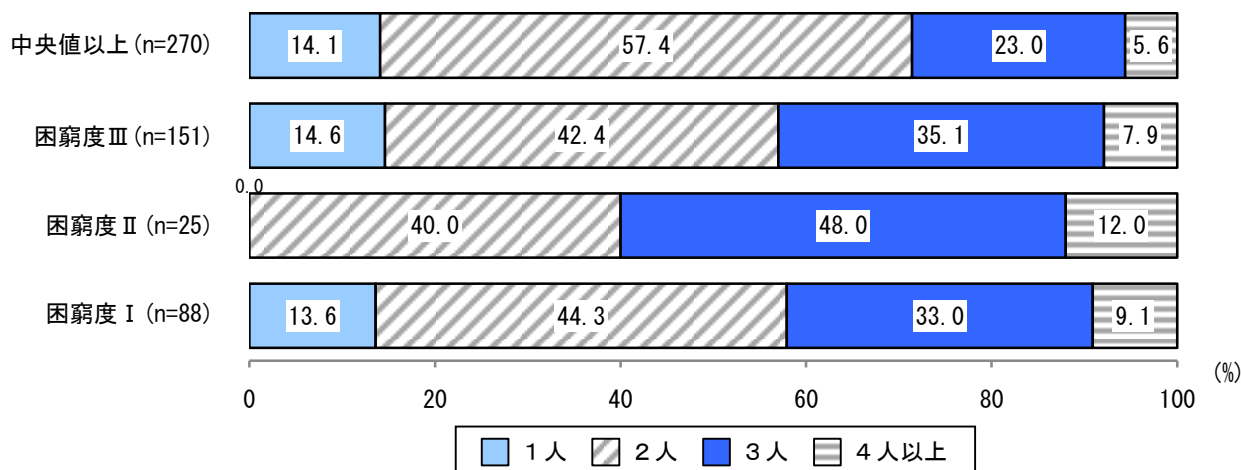
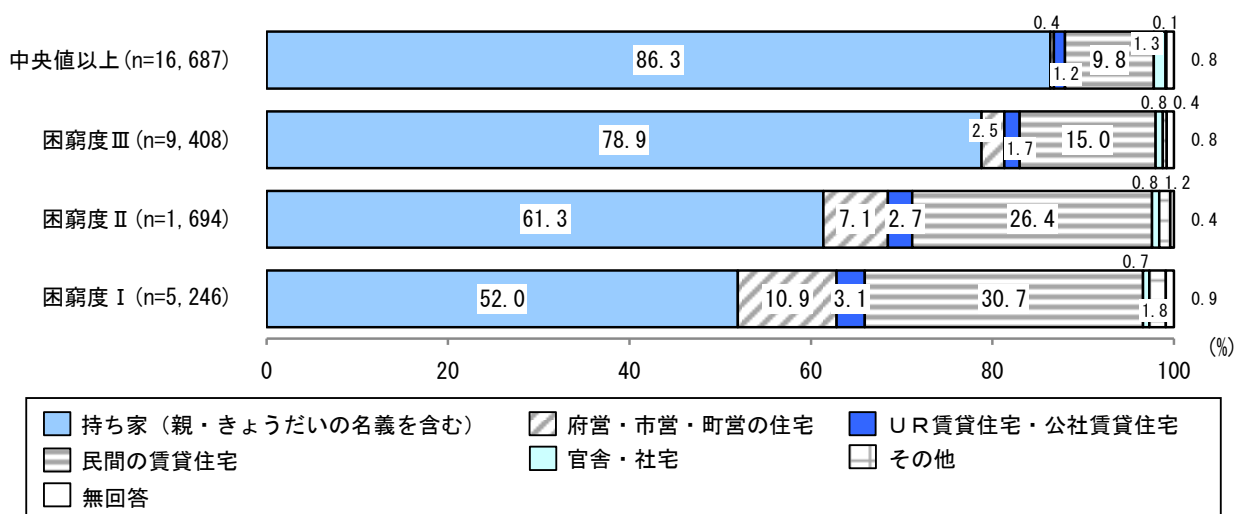


図 10. 困窮度別に見た、子どもの人数

困窮度別に子どもの人数を見ると、中央値以上群において3人以上が28.6%（3人23.0%、4人以上5.6%）であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、3人以上が42.1%（3人33.0%、4人以上9.1%）と高くなっている。

困窮度別に見た、住居形態（保護者票問5）

<大阪府内全体>



<柏原市>

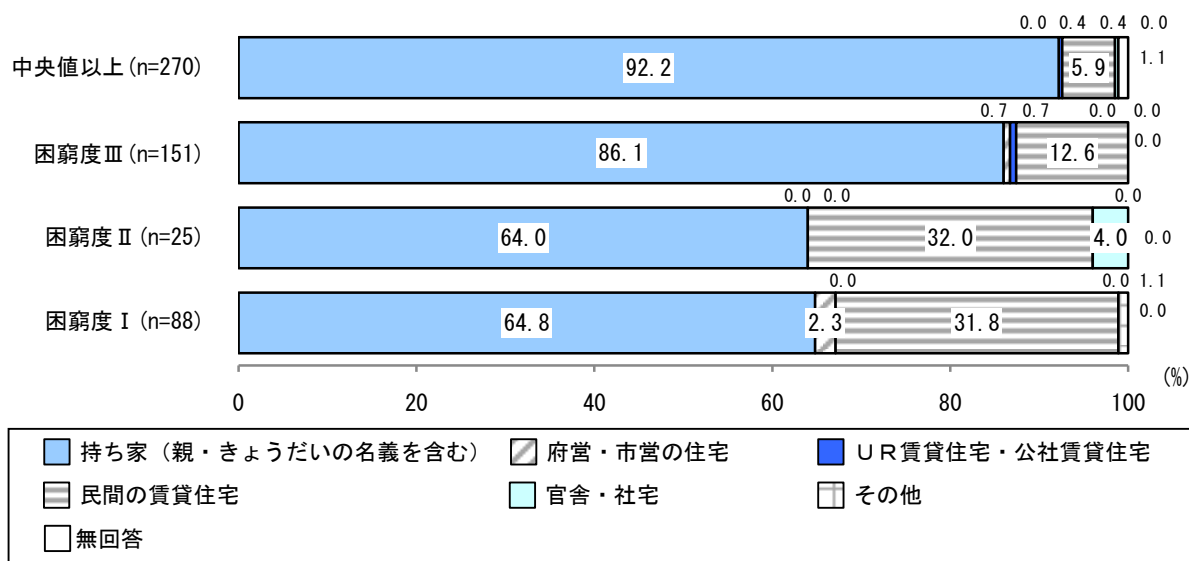
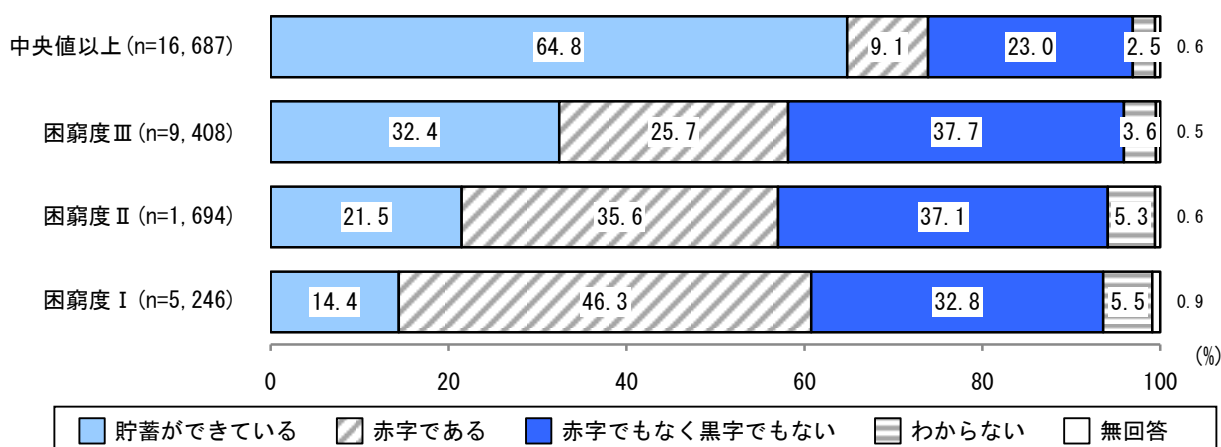


図 11. 困窮度別に見た、住居形態

困窮度別に住居形態を見ると、概ね困窮度が高まるにつれ、持ち家の保有率は低くなっている。中央値以上群では、「持ち家」と回答した割合は92.2%であるのに対して、困窮度Ⅱ群では、64.0%に、困窮度Ⅰ群では、64.8%にとどまっている。

困窮度別に見た、家計の状況（保護者票問 6(1)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

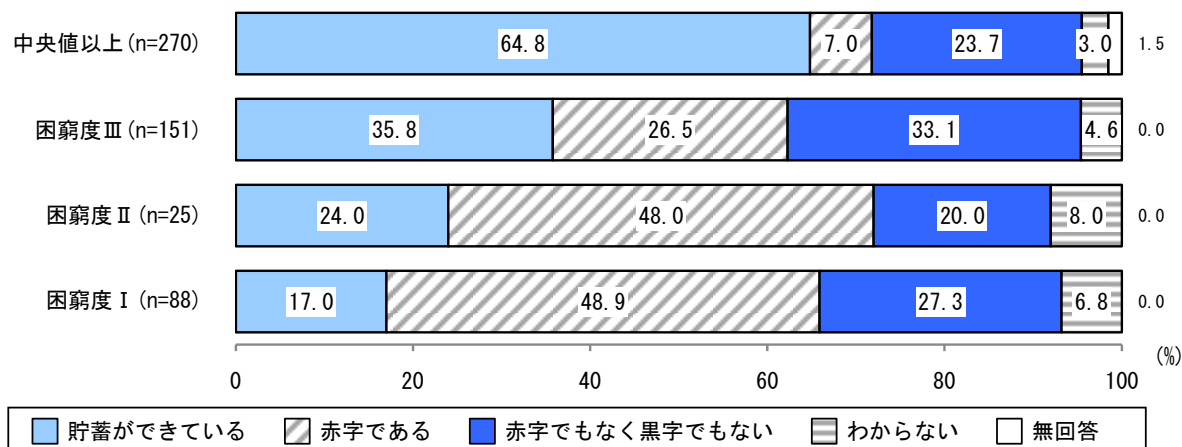
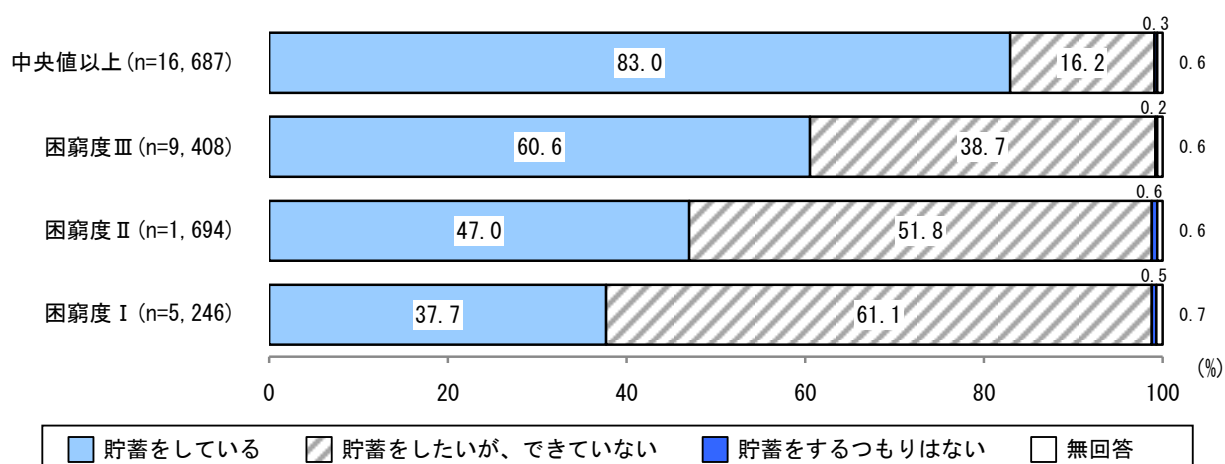


図 12. 困窮度別に見た、家計の状況

困窮度別に家計の状況を見ると、困窮度が高まるにつれて、「貯蓄ができています」と回答する割合が低くなり、逆に、「赤字である」という回答が高くなっている。中央値以上群では、「赤字である」と回答した世帯の割合は、7.0%であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、48.9%となり、困窮度Ⅰ・Ⅱ群で4割を超えている。

困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問 6(2)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

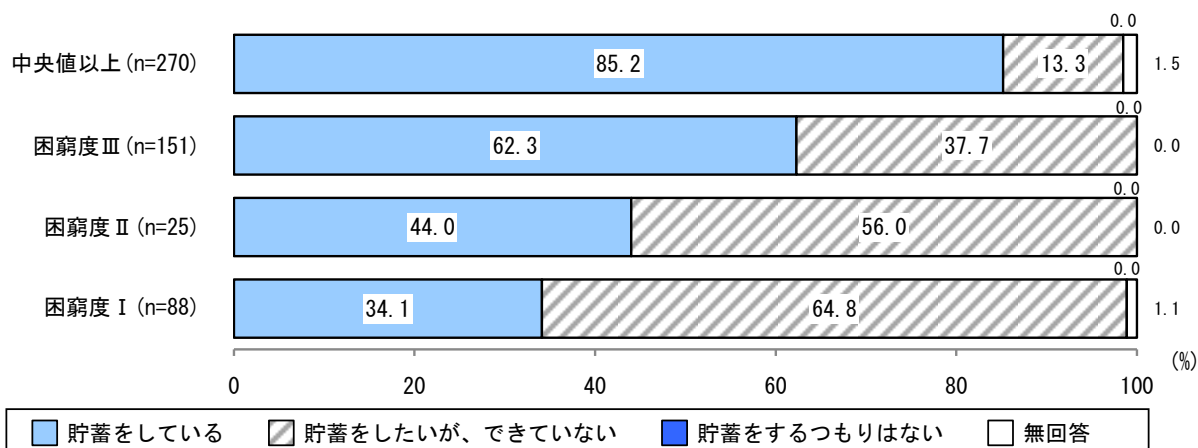
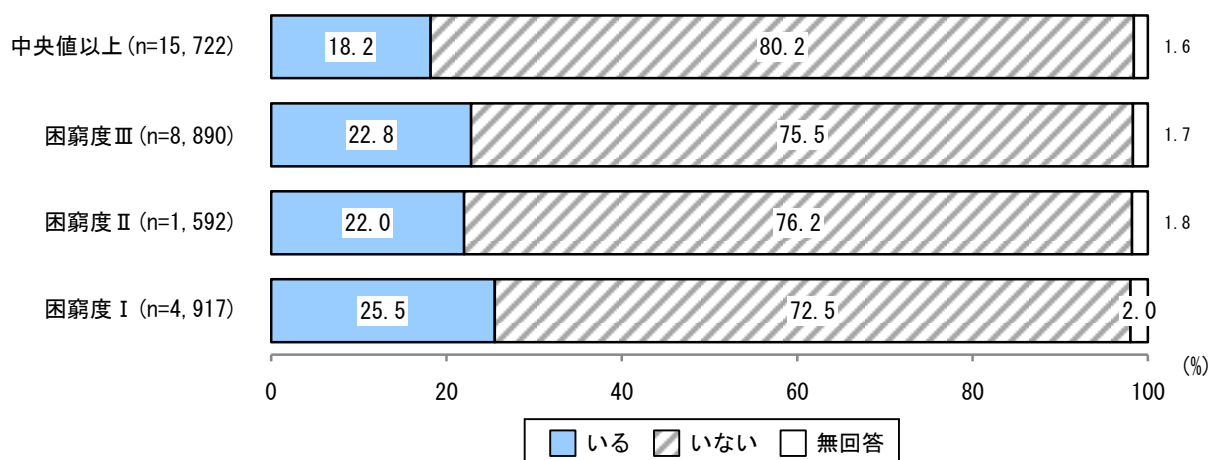


図 13. 困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況

困窮度別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「貯蓄をしたいが、できていない」という回答が高くなっている。中央値以上群では、「貯蓄をしている」と回答する割合が85.2%を占めたが、困窮度Ⅰ群では34.1%にとどまり、約6割が「貯蓄をしたいが、できていない」と回答している。

困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無（子ども票問 26(1)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

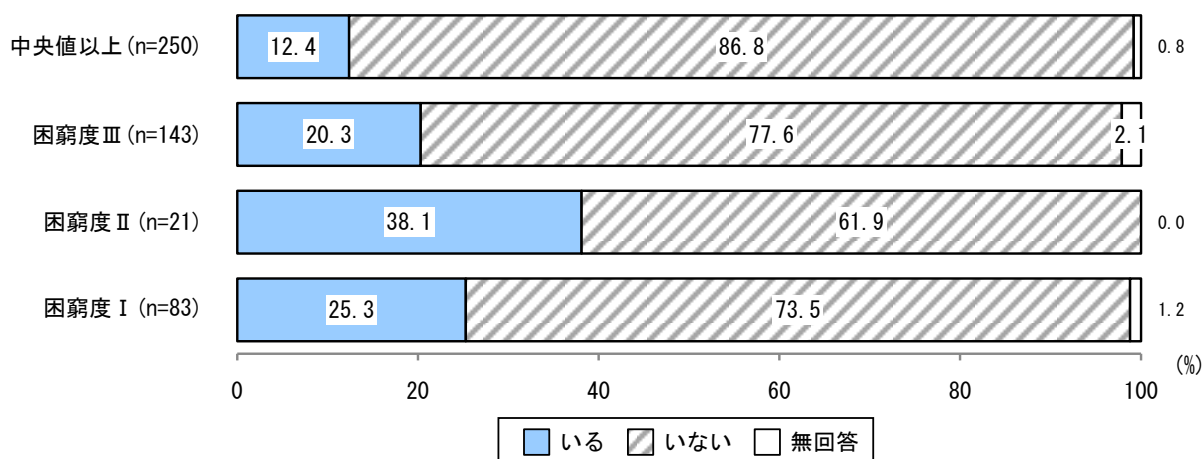


図 14. 困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無

困窮度別に自分が世話をしている人の有無を見ると、自分が世話をしている人が「いる」と回答した割合は困窮度Ⅱ群で38.1%と最も高くなっている。中央値以上群では、「いない」と回答する割合が86.8%を占め、最も高くなっている。

<経済状況に関する考察>

経済的理由で生じた生活上の困難についての質問項目は、現在の日本社会において、「通常であれば可能な生活」を基準に設定している。「どれもあてはまらない」という回答は、その基準に達していることを示すものであるが、中央値以上群の層で44.8%に対して、困窮度Ⅰ群では13.6%にすぎない。一方、困窮度が深刻化するにしたがい経済的理由から生活面での困難は増す傾向にあり、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「電気・ガス・水道などが止められた」(2.3%対0.4%)、「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」(2.3%対0.4%)、「電話(固定・携帯)など通信料の支払いが滞ったことがある」(5.7%対0.7%)と回答した割合が高くなっており、生活面で大きな格差が存在する。また、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「国民年金の支払いが滞ったことがある」(12.5%対該当なし)と回答した割合が高くなっており、子どもの親(保護者)の将来(老後)の生活困窮を示唆するデータであると言える。さらに、こういった経済状況は、親の心理的な面にも影響しており、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」(42.0%対5.6%)と回答した割合が高くなっている。これらの結果から、経済的困難な家庭では、生活インフラへの支払いの滞りや年金支払いの義務が果たせなくなることに加え、将来への不安感が多いことが示唆される。

世帯の経済状況は、子どもの教育にも影響を及ぼしていることが確認できる。主な項目をあげると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「お子さんの進路を変更した」(4.5%対0.4%)、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」(28.4%対1.9%)、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」(31.8%対1.9%)と回答した割合が高くなっており、子どもに与える教育の格差が示されている。これらの結果から、経済状況によって、子どもの進路や学習環境、家族以外の社会的交流を行う機会が制限されることが示唆される。

同様に、学校以外での子どもの多様な「体験」の有無は、子どものヒューマンキャピタルの形成に影響を与えることが予想されるが、調査結果では、所得階群によって体験の機会に格差があることが示されている。具体的には、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「家族旅行(日帰りのおでかけを含む)ができなかった」(50.0%対7.4%)といった経験に大きな差がある。その一方、「どれにもあてはまらない」が、中央値以上群では81.5%であり、困窮度Ⅰ群でも37.5%ある。所得階群によって体験の機会に差が見られるが、どの階群においても子どもに対して様々な体験や勉強の機会が提供できている世帯も多数いるという点がデータから読み取れる。

また、「子どもの将来のための貯蓄状況」という質問項目に対して、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「貯蓄をしている」と回答した割合が高くなっている(85.2%対34.1%)。また、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合が高くなっており(64.8%対13.3%)、貯蓄の状況に大きな差があることが確認できる。これらの結果から、経済的困難な家庭では、貯蓄不足により、将来子どもに起こり得るリスク(病気や進路選択など)に備えることや、子どもに対しての投資が難しくなると予想される。

近年、子どもの貧困やヤングケアラーへの社会的関心が深まりつつあり、厚生労働省と文部科学省が連携して行った全国調査では、ヤングケアラーと思われる子どもは小学6年生で6.5%(令和3年度実施)、中学2年生で5.7%(令和2年度実施)と報告されている(『ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム報告(令和3年5月17日)』)。全国調査の結果より、回答した小学6年生の15人に1人程度、中学2年生の17人に1人程度が家族の世話をしていることが明らかになった。

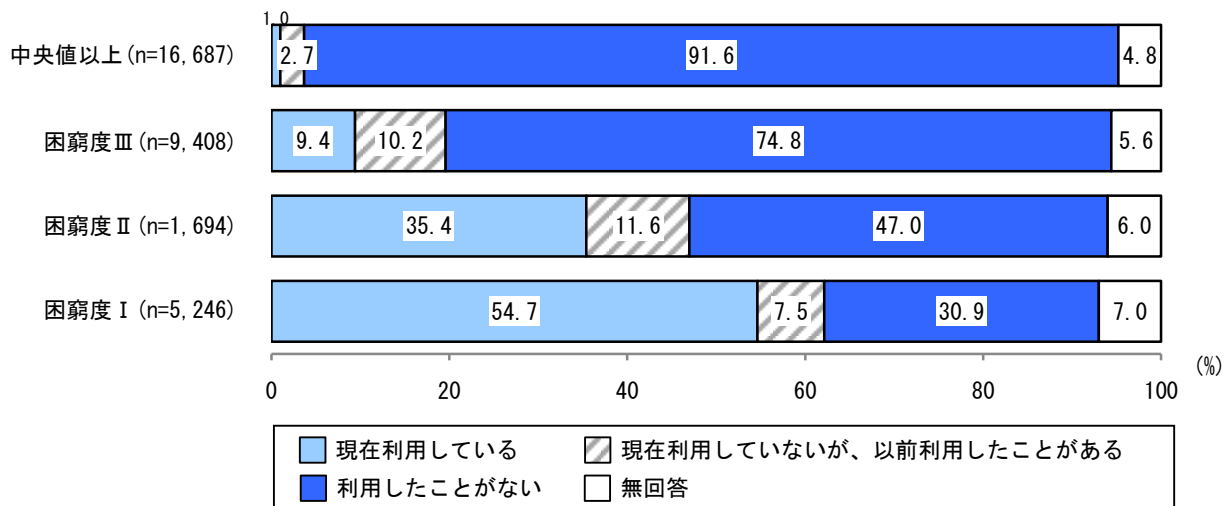
全国の状況を踏まえて、柏原市が令和5年に実施した、小学5年生、中学2年生を対象とする本調査では、「自分が世話をしている人の有無」という質問に対して「いる」と答えている割合は、

全体においては18.8%であるが、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べて「いる」と答えた割合が高くなっている（25.3%対12.4%）。これは、困窮度Ⅰ群では、回答した4人に1人程度が、中央値以上群では、8人に1人程度が世話をしている人が「いる」と回答していることになる。これらの結果から、柏原市ではヤングケアラーと思われる子どもの割合が高く、特に経済的困難な家庭ではその割合が高いことが読み取れる。

(2) 家庭状況（制度等）

困窮度別に見た、就学援助の利用状況（保護者票問 23-a）

<大阪府内全体>



<柏原市>

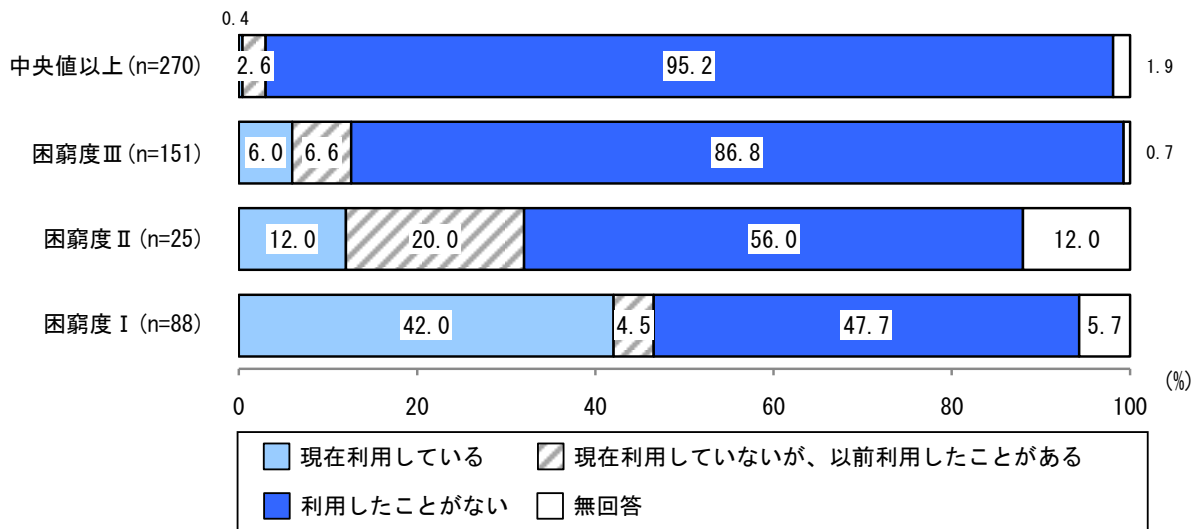
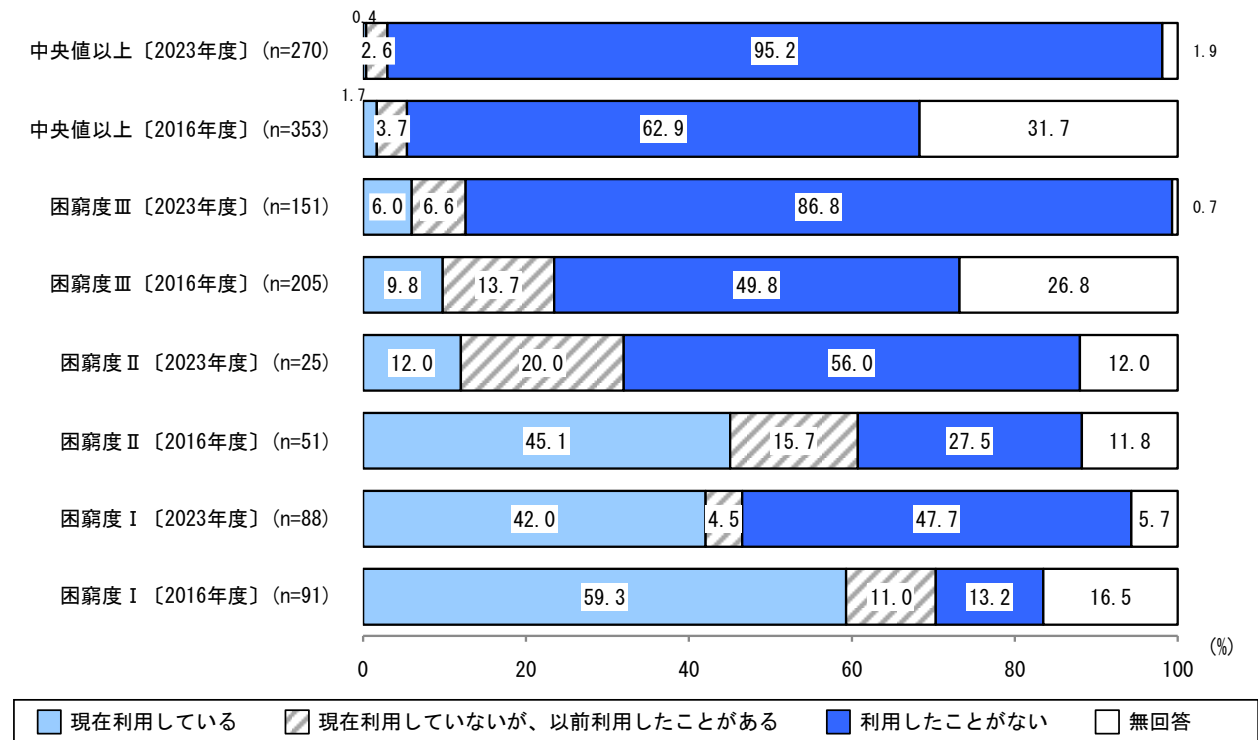


図 15. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況

困窮度別に就学援助の利用状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。

<2016年度調査との比較／柏原市>



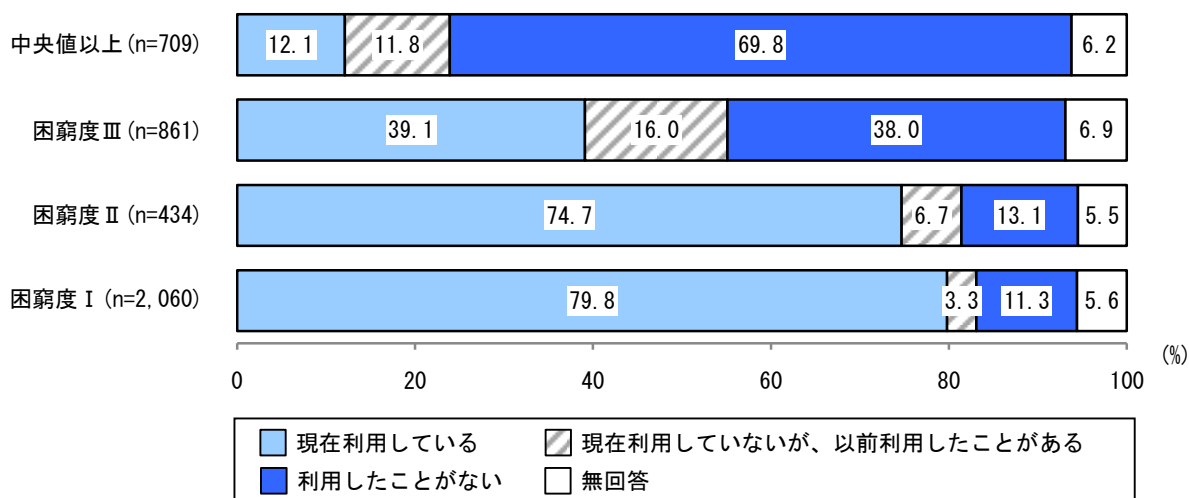
※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

図 16. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、いずれの困窮度も2016年度調査に比べて低くなっており、一方で、「利用したことがない」は2016年度調査に比べて割合が高くなっている。

困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（保護者票問 23-d）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<柏原市>

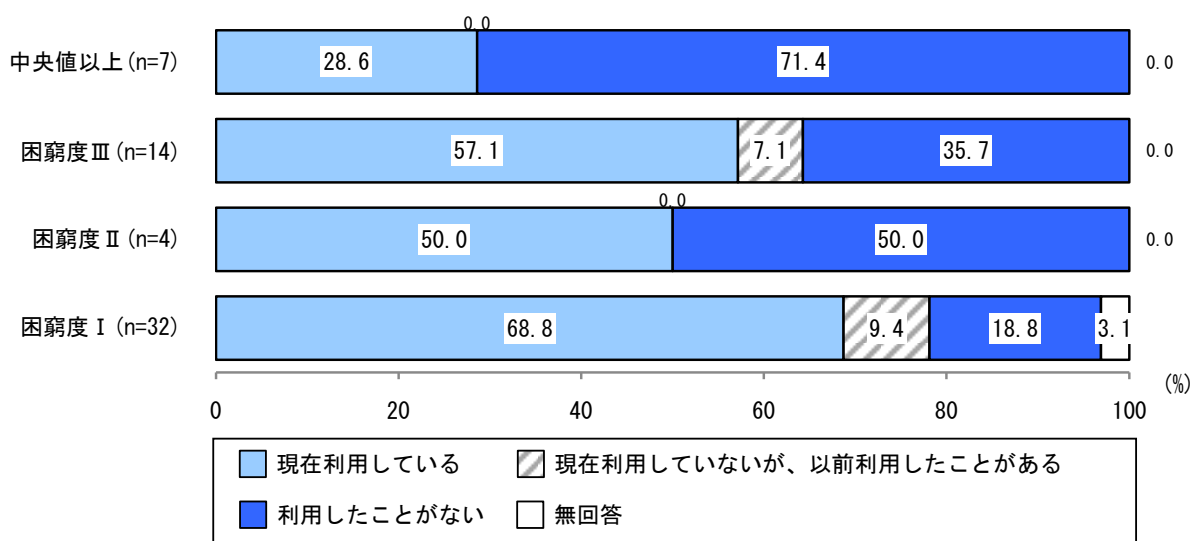


図 17. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の困窮度別に児童扶養手当の利用状況を見ると、困窮度Ⅰ群が、「現在利用している」と回答した割合が一番高くなっている。困窮度Ⅰ群でも「利用したことがない」と回答した割合は18.8%を占めている。

<2016年度調査との比較／柏原市>

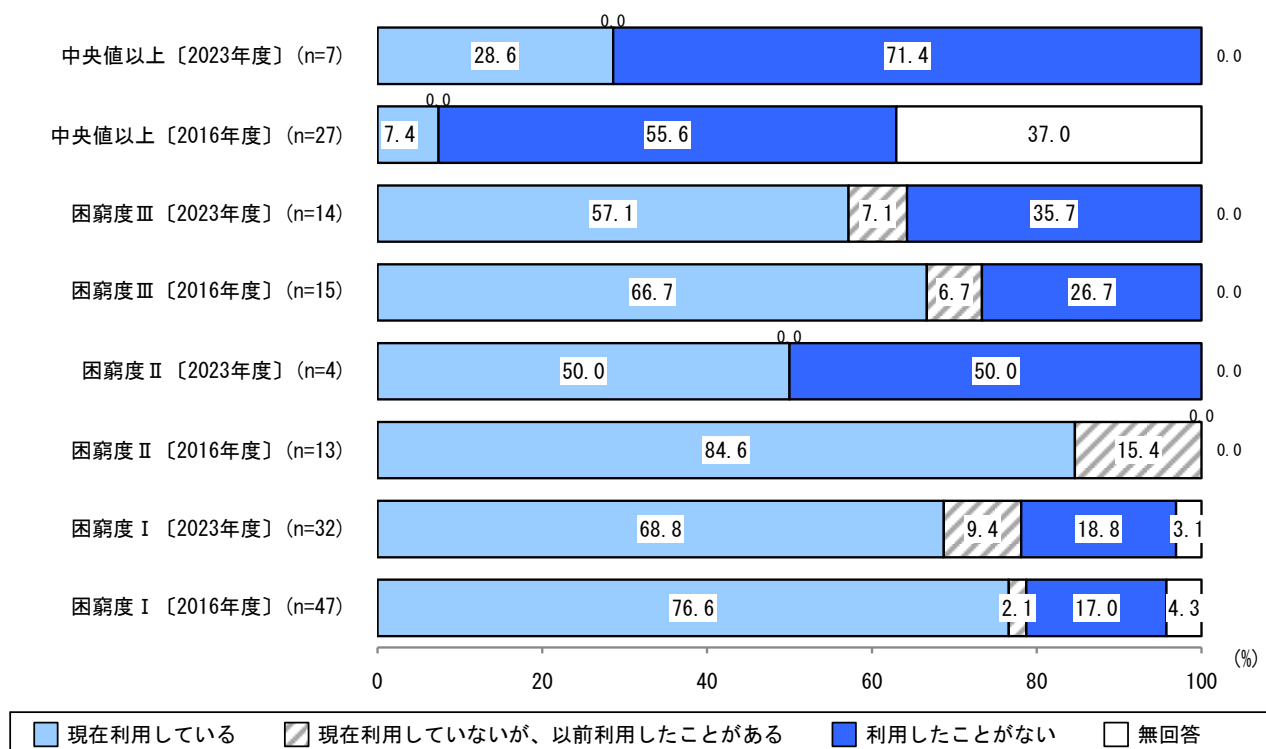
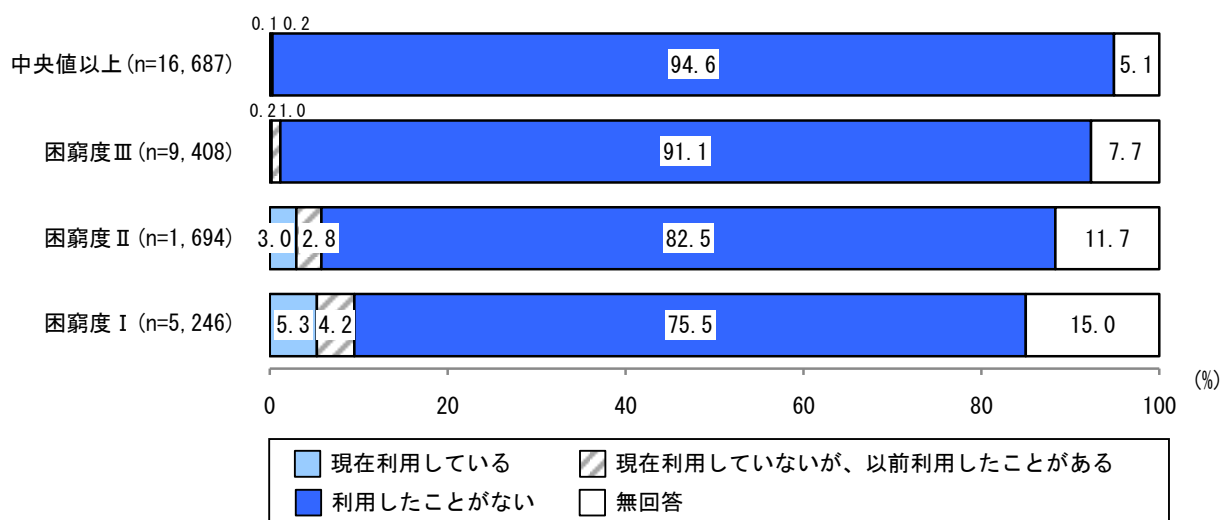


図 18. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、中央値以上群では2016年度調査より割合が高いが、それ以外の困窮度では2016年度調査よりも低くなっている。

困窮度別に見た、生活保護の利用状況（保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



<柏原市>

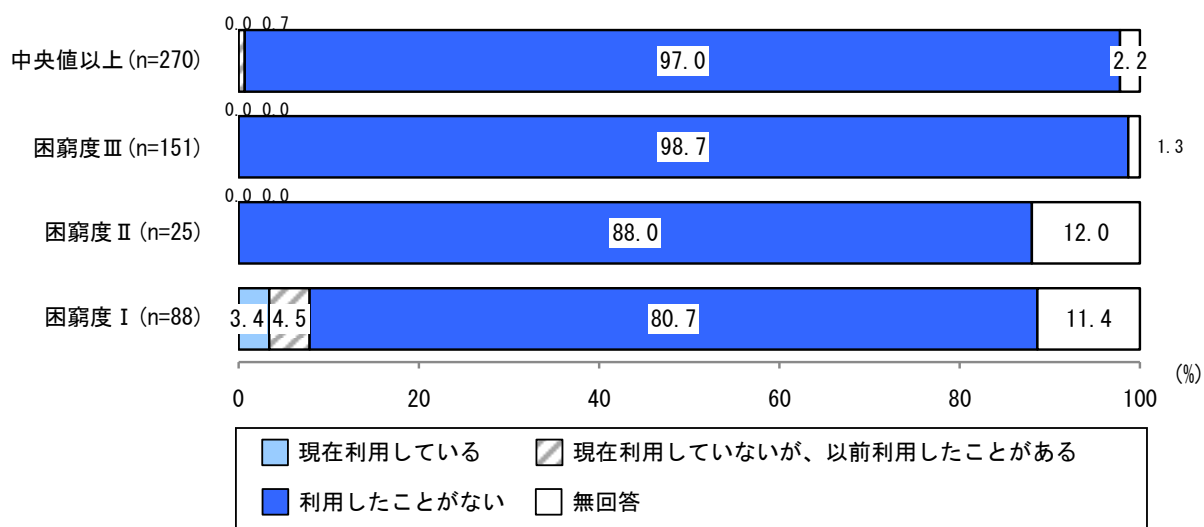


図 19. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況

困窮度別に生活保護の利用状況を見ると、困窮度Ⅰ群においては「現在利用している」と回答した割合は3.4%であった。

<2016年度調査との比較／柏原市>

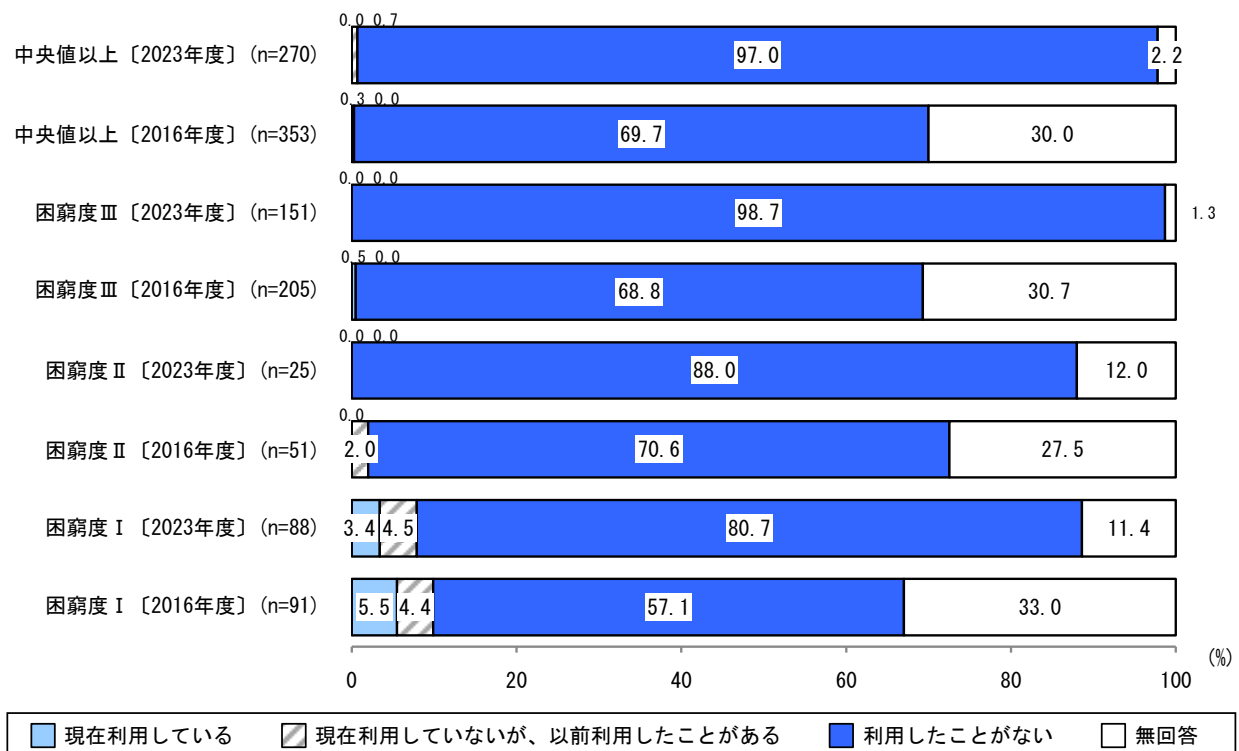
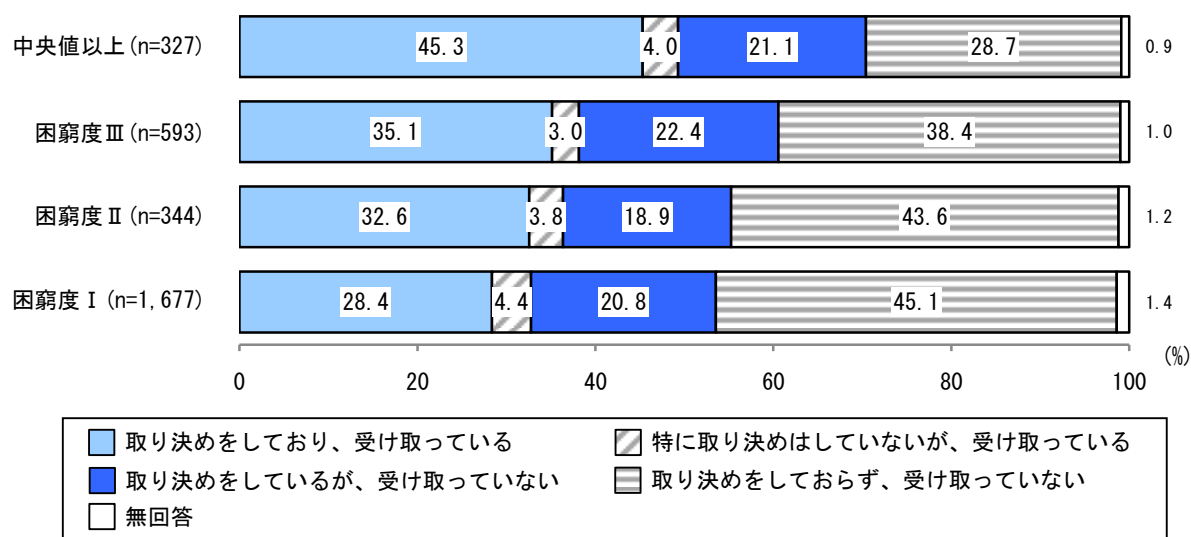


図 20. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群では2016年度調査より割合が低くなっている。

困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（保護者票問4）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<柏原市>

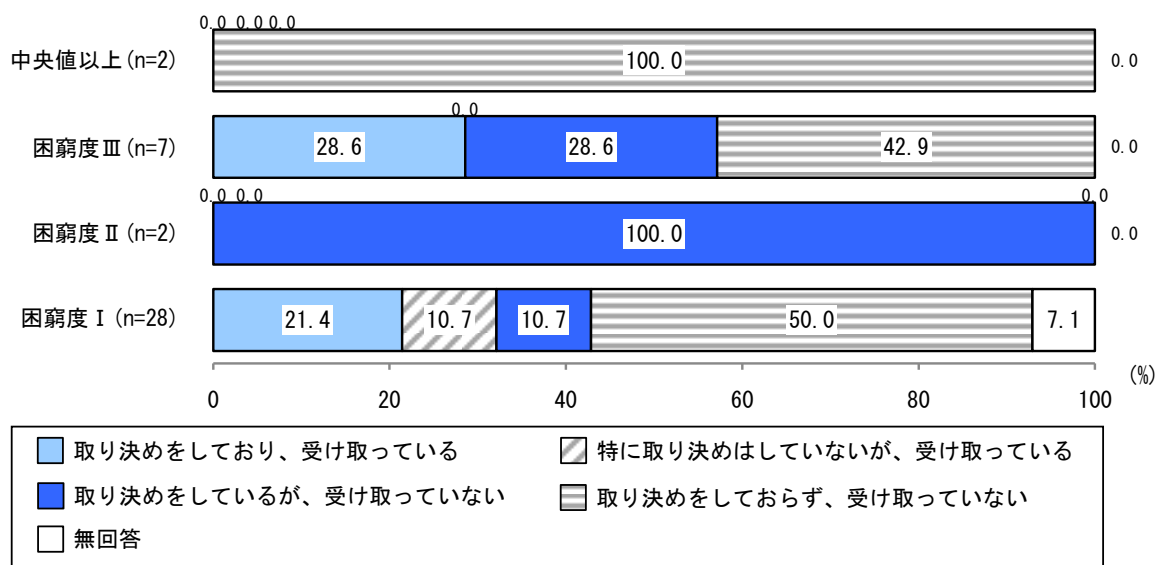
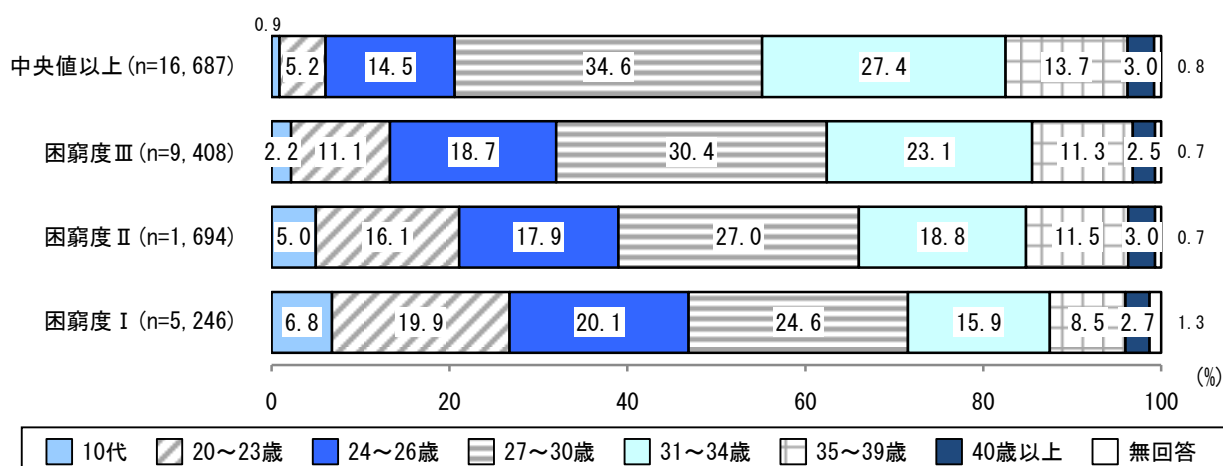


図 21. 困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の困窮度別に離婚相手との養育費の取り決めや受け取りを見ると、困窮度Ⅰ群においては「取り決めをしており、受け取っている」と回答した割合が21.4%に対し、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が50.0%であり、「取り決めをしているが、受け取っていない」の10.7%をあわせた養育費を受け取っていない人が60.7%となっている。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票問 17）

<大阪府内全体>



<柏原市>

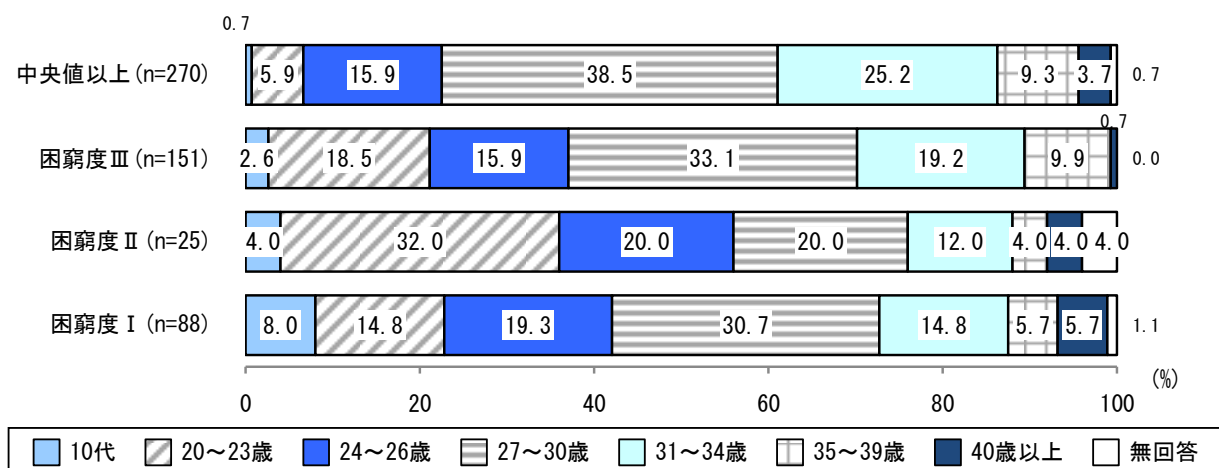
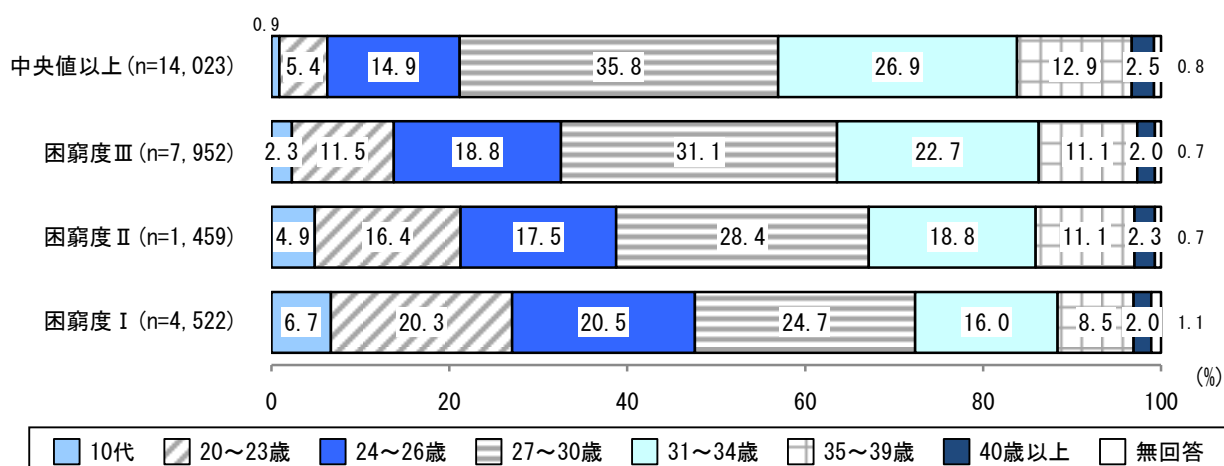


図 22. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢

全ての回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度が高まるにつれ、10代で初めて親となったと答えた割合が高くなっている。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票問 17）・母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<柏原市>

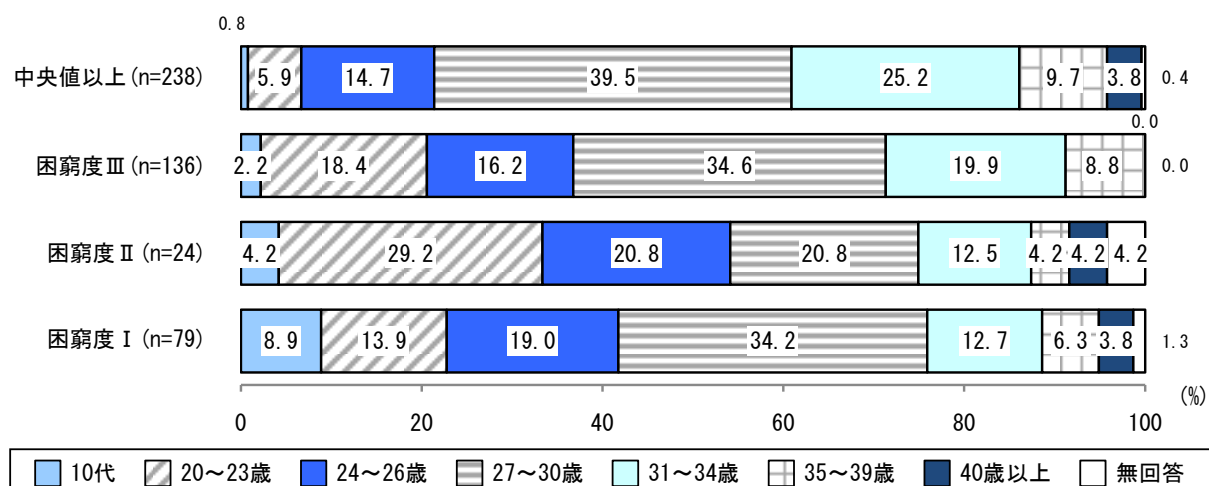
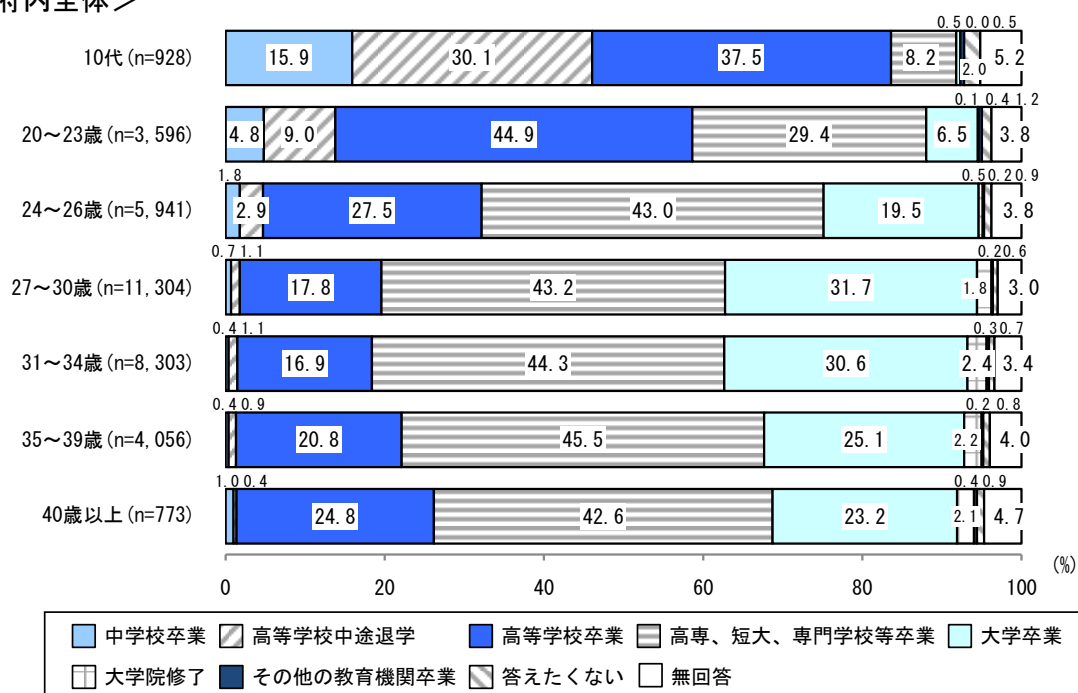


図 23. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度が高まるにつれ、10代で初めて親となったと答えた割合が高くなっている。若くして母親となった人ほど、経済的な問題を抱えている可能性が考えられる。

初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（保護者票問 17×保護者票問 8）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<柏原市>

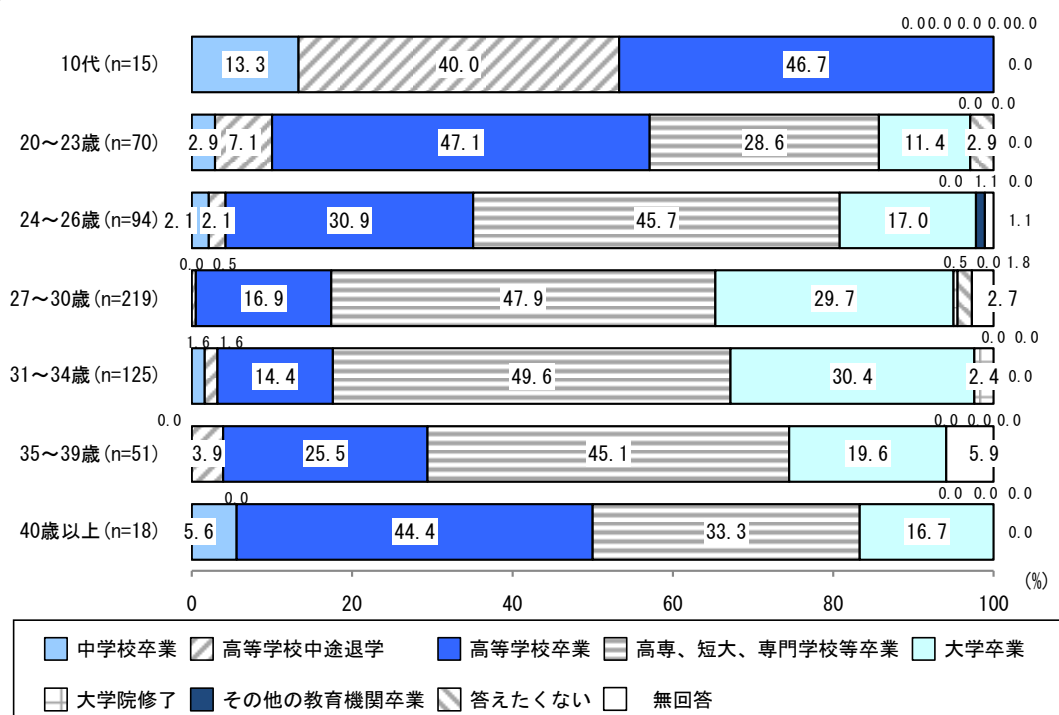
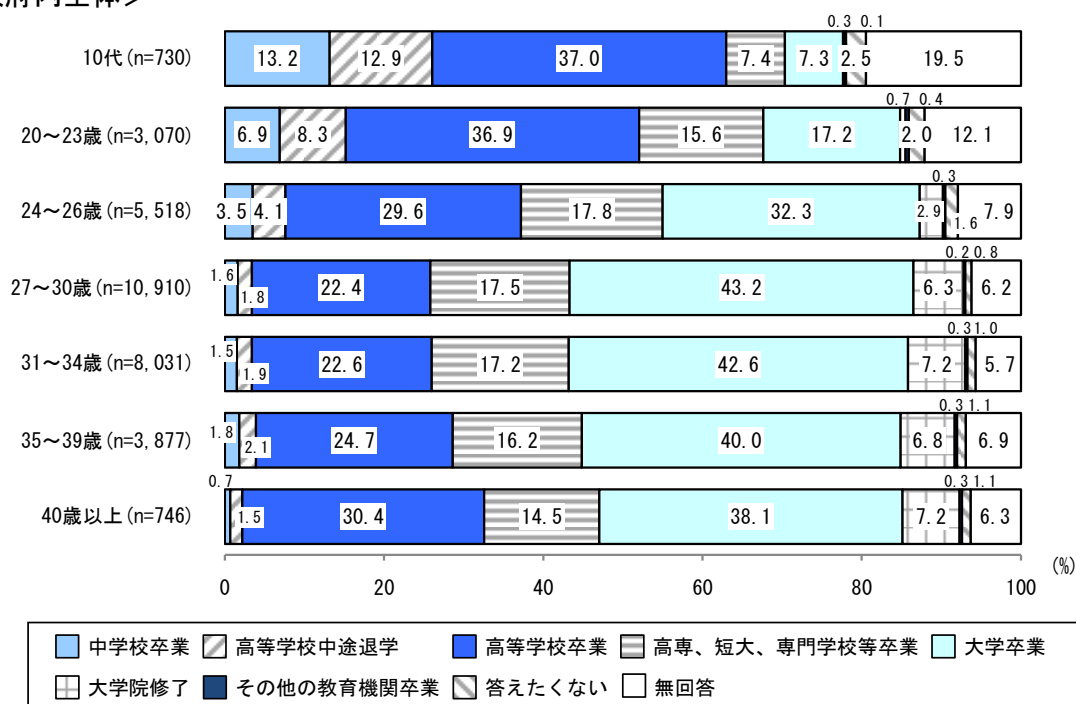


図 24. 初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に母親自身の最終学歴を見ると、10代において「中学校卒業」（13.3%）または「高等学校中途退学」（40.0%）と回答した割合が高かった。

初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（保護者票問 17×保護者票問 8）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<柏原市>

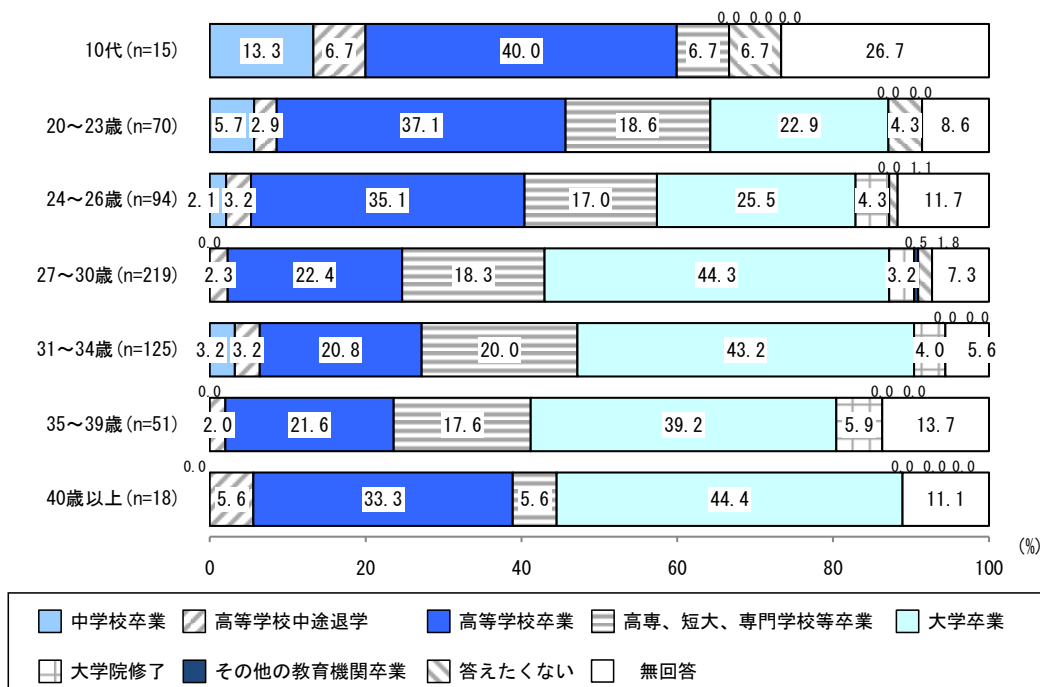
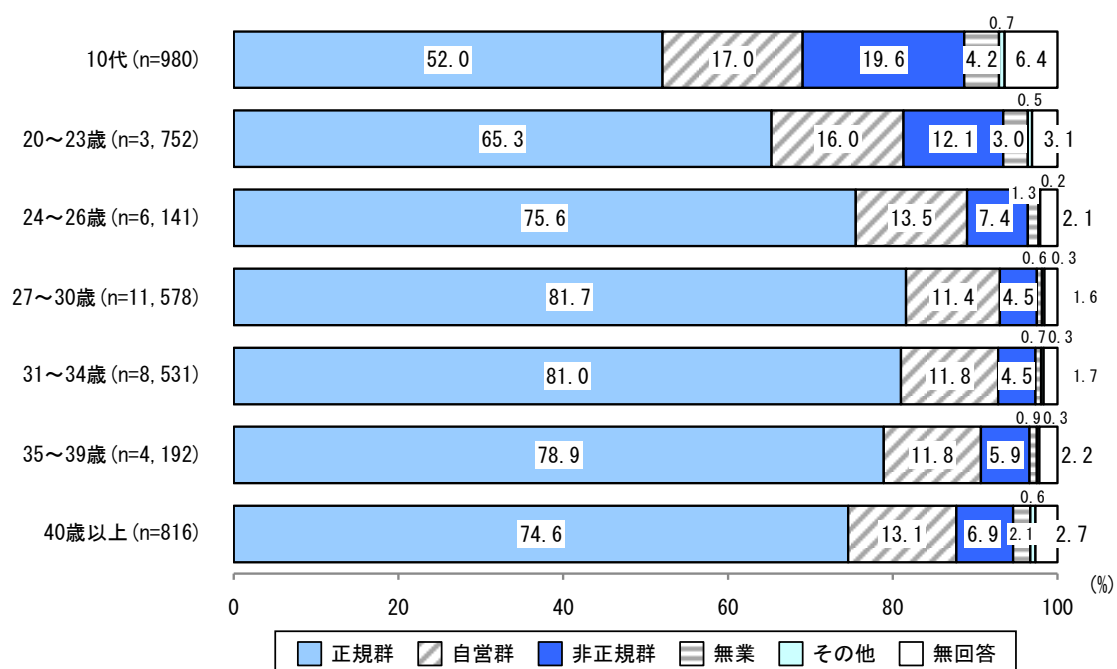


図 25. 初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に父親の最終学歴を見ると、10代において「中学校卒業」（13.3%）または「高等学校中途退学」（6.7%）と回答した割合が高かった。

初めて親となった年齢別に見た、就労状況（保護者票問 17×保護者票問 9）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<柏原市>

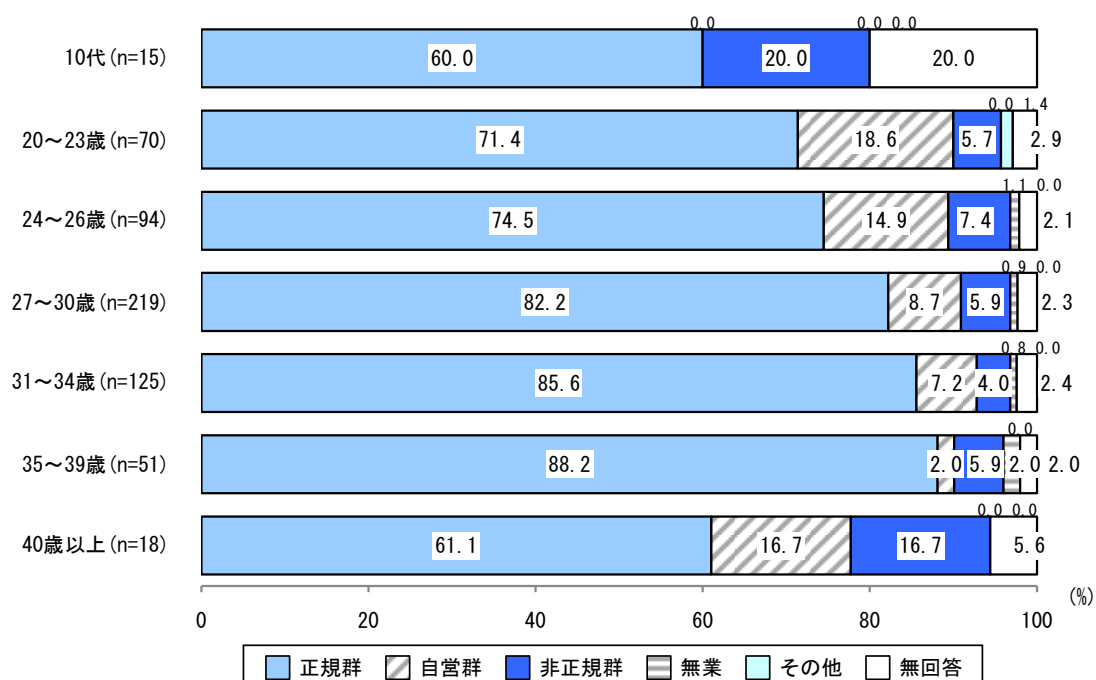
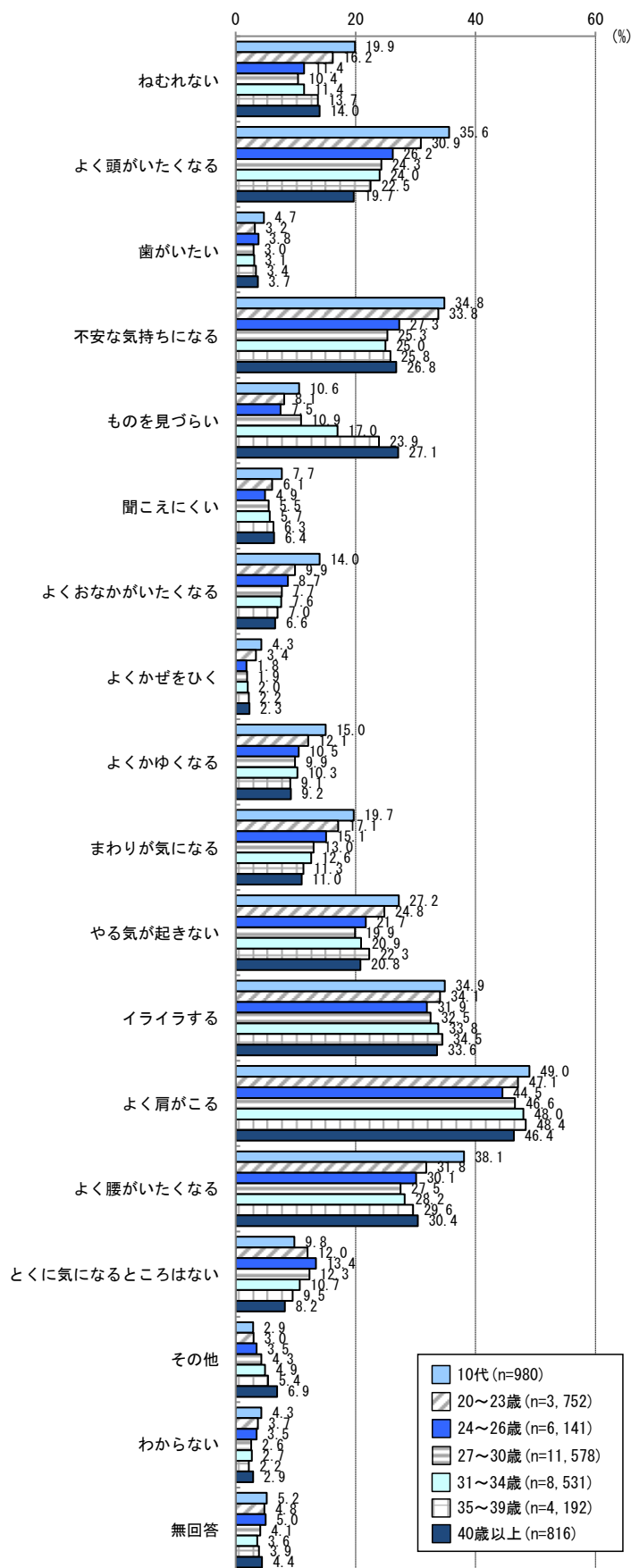


図 26. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況（母親の回答者のみ）

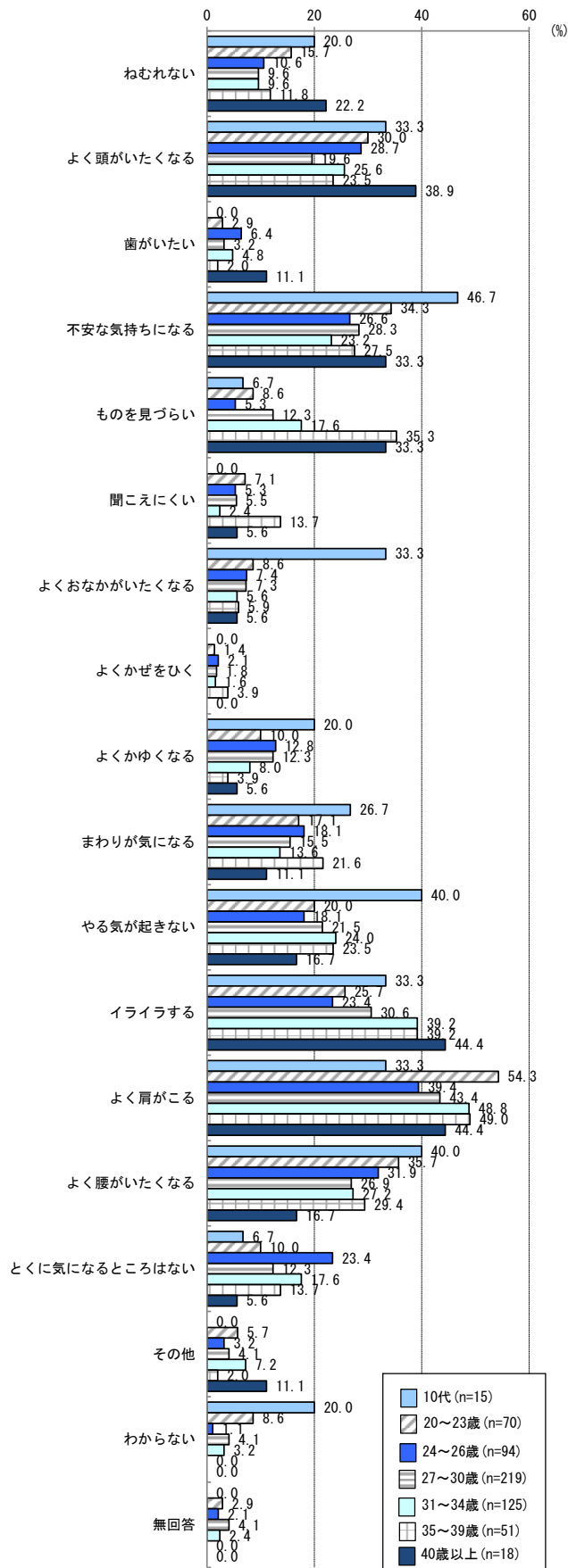
母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に就労状況を見ると、10代は他の群と比較して「正規群」の割合が低く、「非正規群」の割合が高かった。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
 (保護者票問 17×保護者票問 22) ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

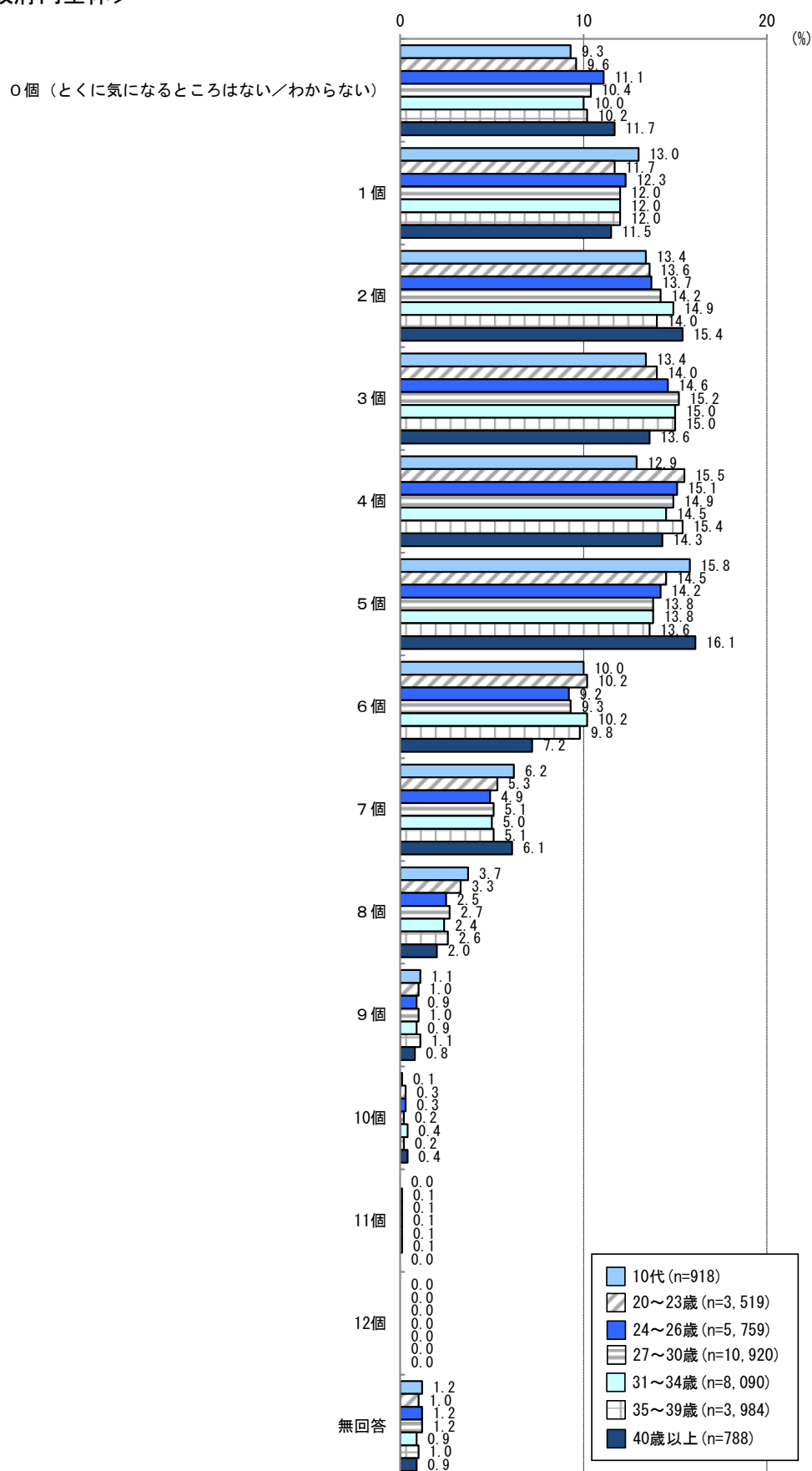


母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、10代は他の年代と比較して「不安な気持ちになる」、「よくおなかがいたくなる」、「よくかゆくなる」、「まわりが気になる」、「やる気が起きない」「よく腰がいたくなる」の割合が高かった。

図 27. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること（母親の回答者のみ）

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票問 17
× 子ども票問 19・20） ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

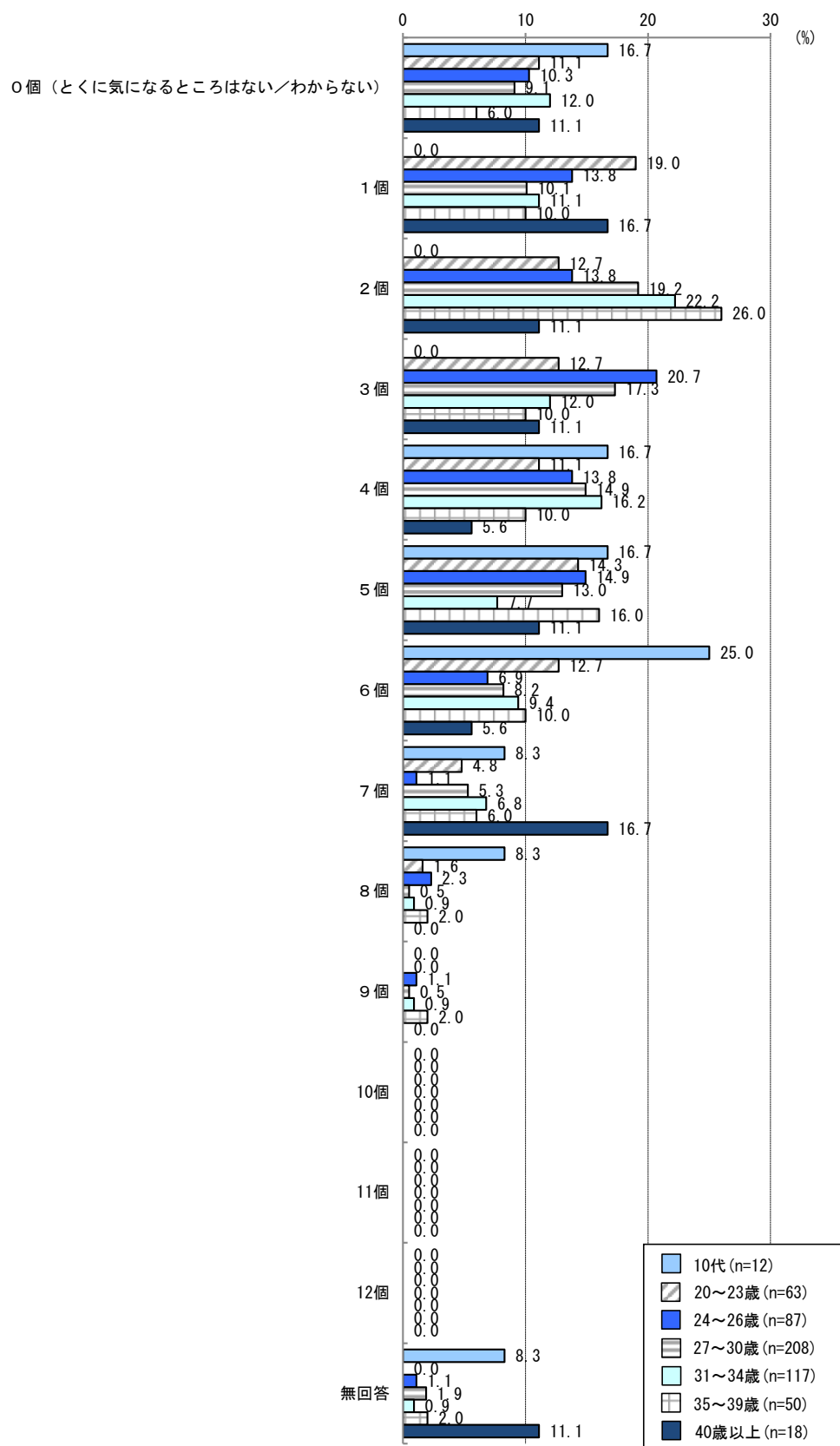
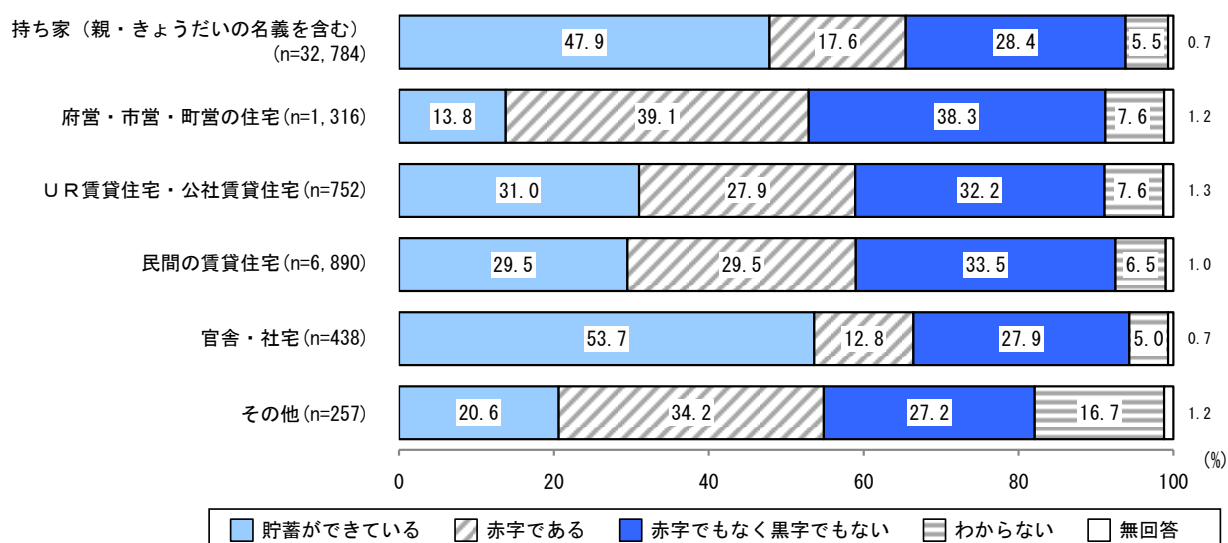


図 28. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10代は、他の年齢と比較して「6個」（25.0％）の割合が最も高かった。

住居形態別に見た、家計の状況（保護者票問5×保護者票問6(1)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

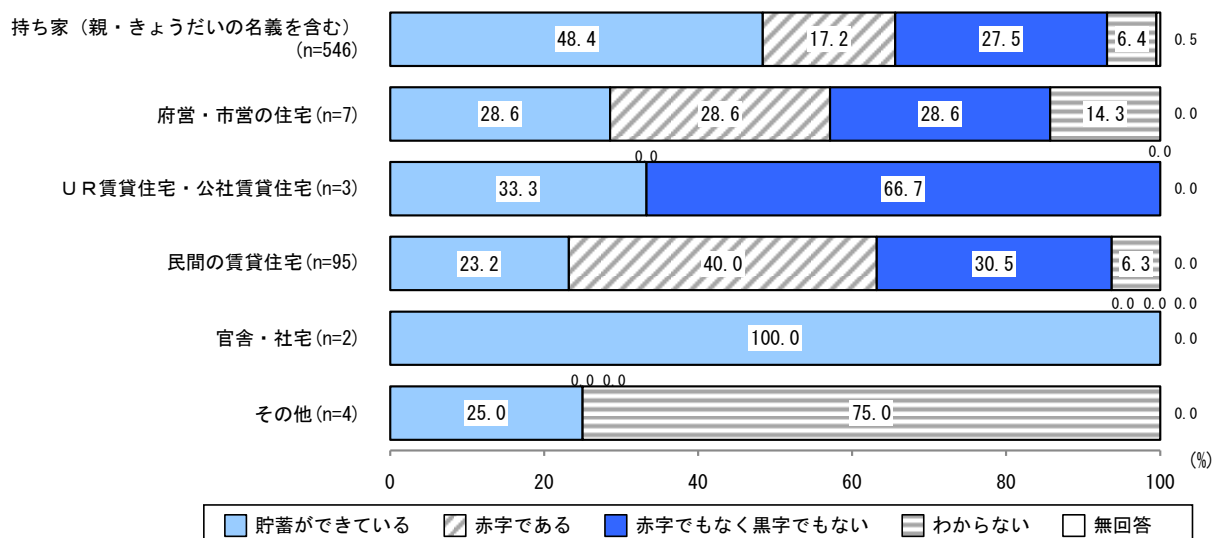
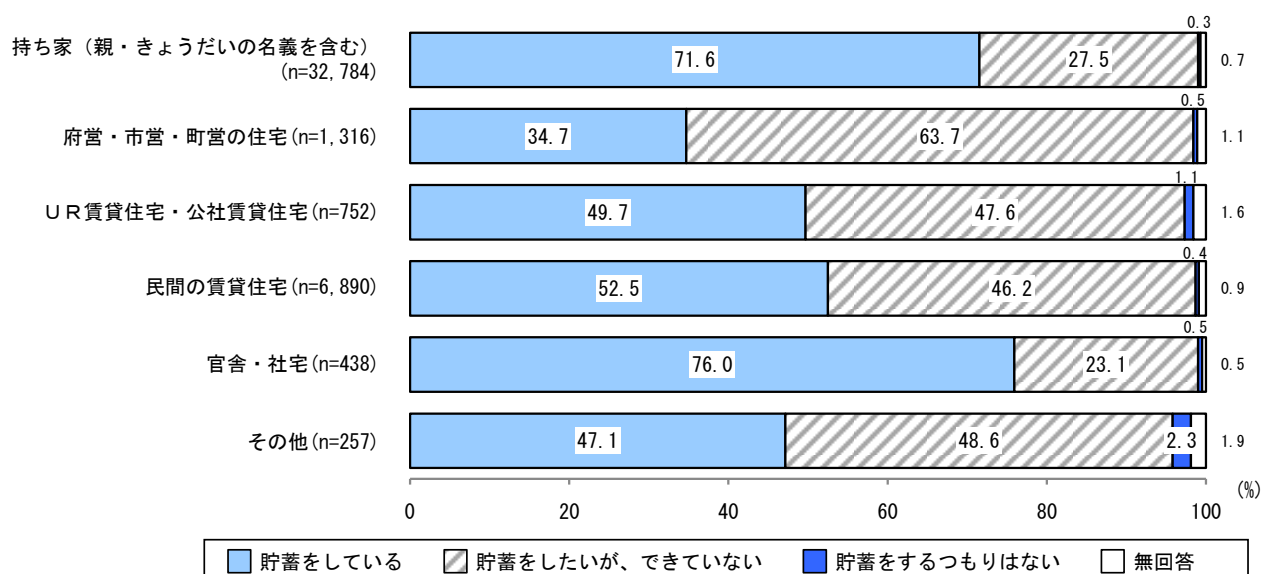


図 29. 住居形態別に見た、家計の状況

住居別に家計状況を見ると、府営・市営の住宅（28.6%）、民間の賃貸住宅（40.0%）に住む人で、「赤字である」と回答した割合が高かった。また、持ち家に住む人で「赤字である」と回答した割合は17.2%であった。

住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問5×保護者票問6(2)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

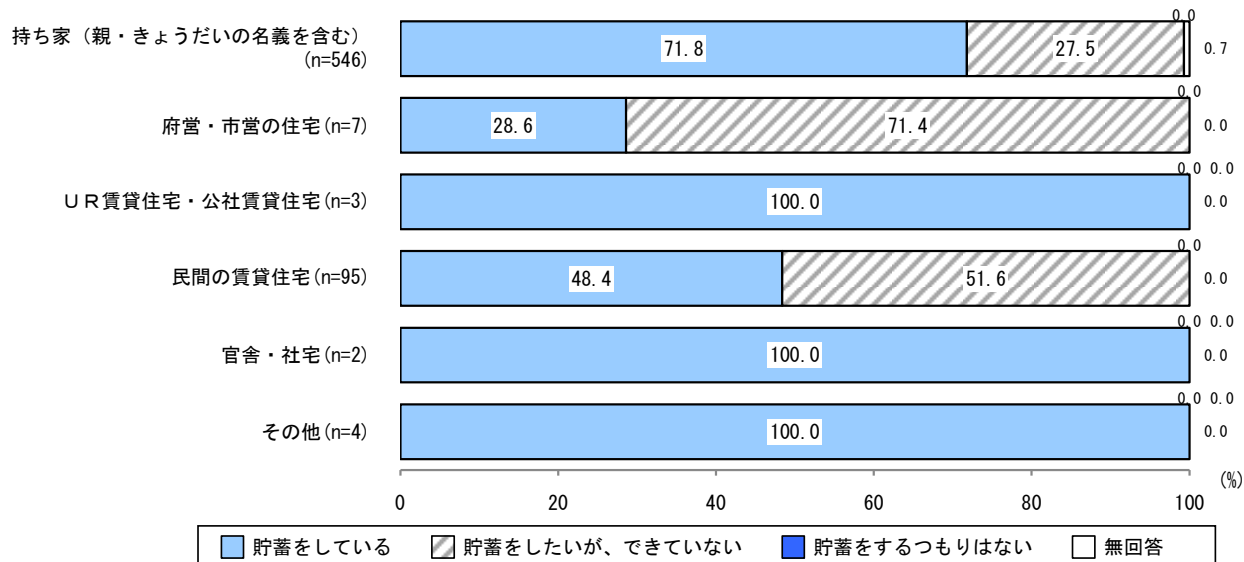
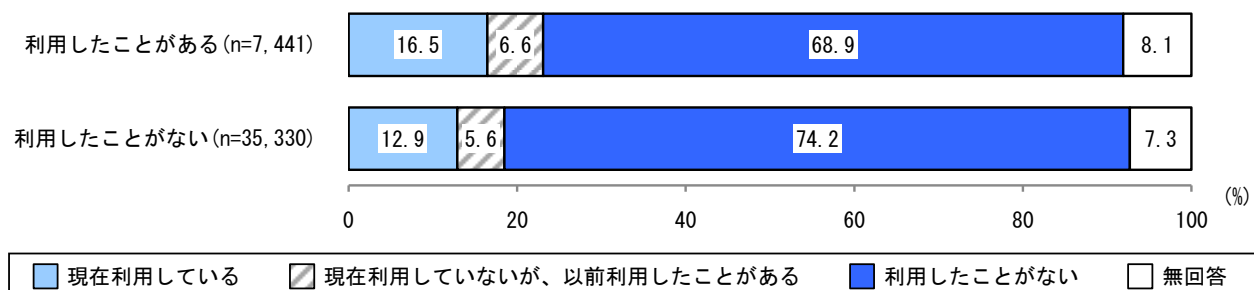


図 30. 住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況

住居形態別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、府営・市営の住宅（71.4%）、民間の賃貸住宅（51.6%）に住む人で、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合が高かった。

子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<柏原市>

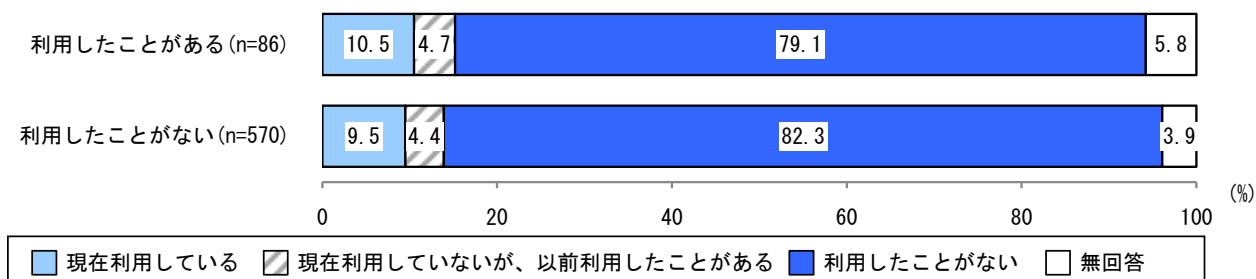
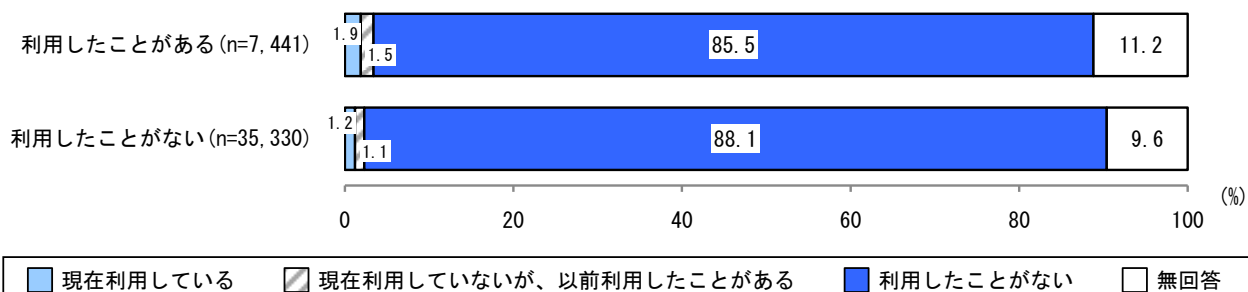


図 31. 子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に就学援助の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがない」人より「利用したことがある」人のほうが就学援助を「現在利用している」と回答した割合がやや高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-b)

<大阪府内全体>



<柏原市>

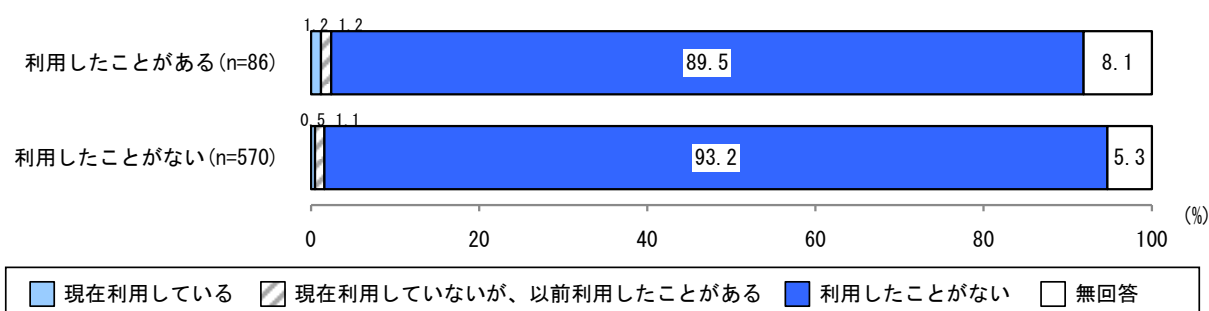
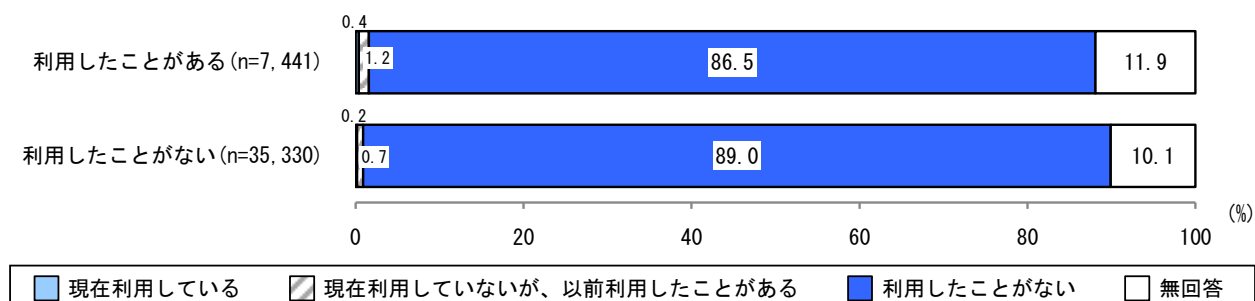


図 32. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に生活保護の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが生活保護を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<柏原市>

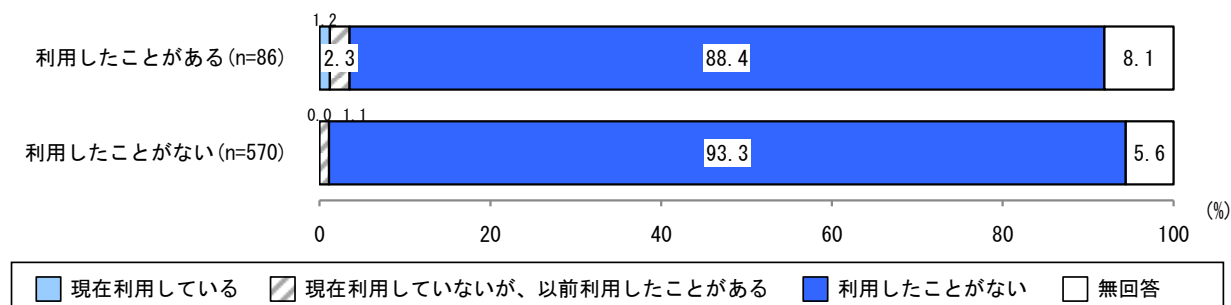
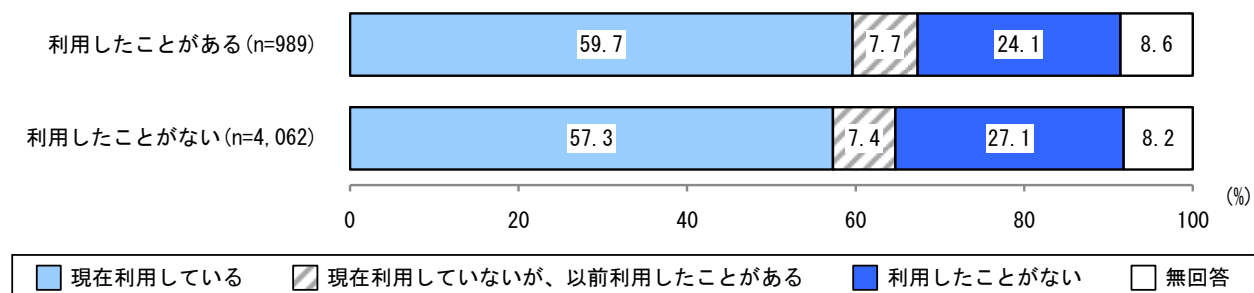


図 33. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが生活困窮者の自立支援相談窓口を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-d)

<大阪府内全体>



<柏原市>

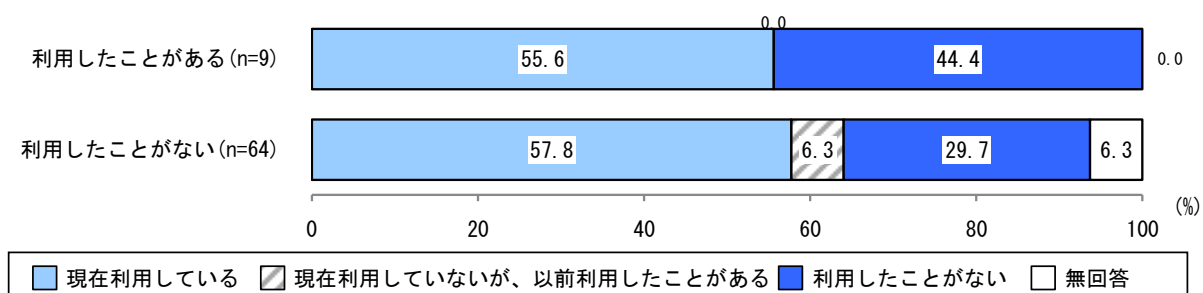
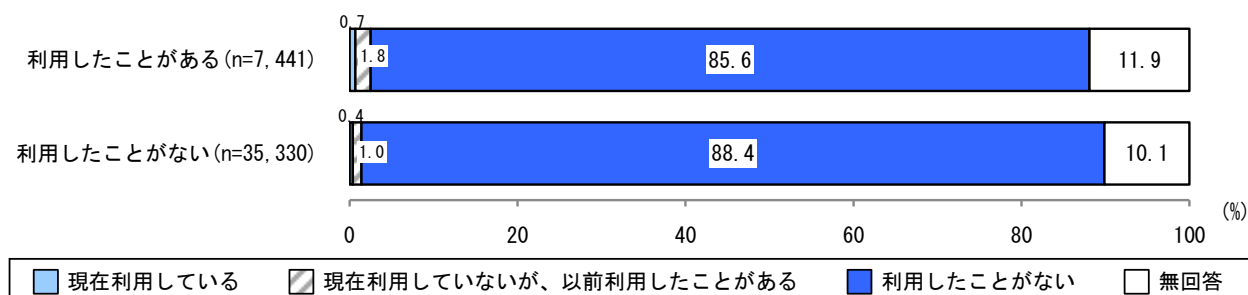


図 34. 子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

子どもの居場所の利用経験別に児童扶養手当の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが児童扶養手当を「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<柏原市>

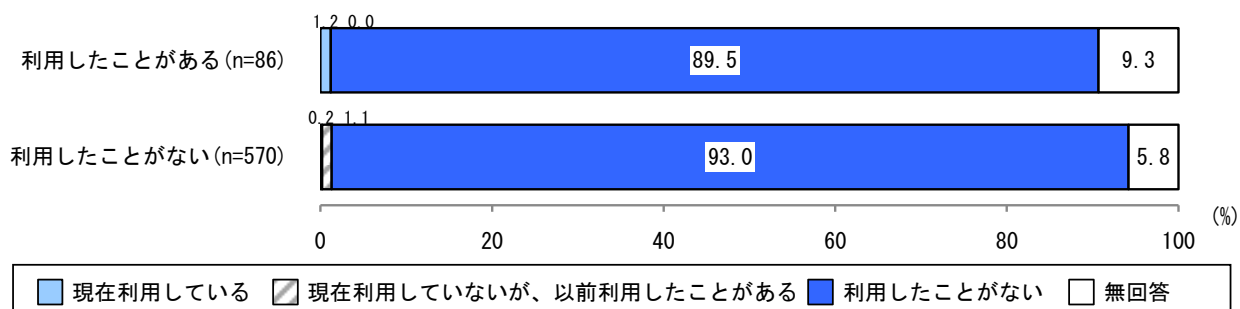
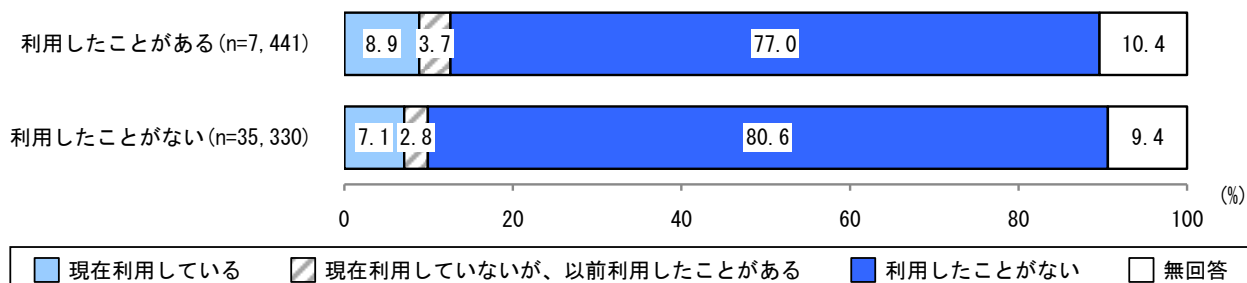


図 35. 子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

子どもの居場所の利用経験別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが母子家庭等就業・自立支援センターを「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



<柏原市>

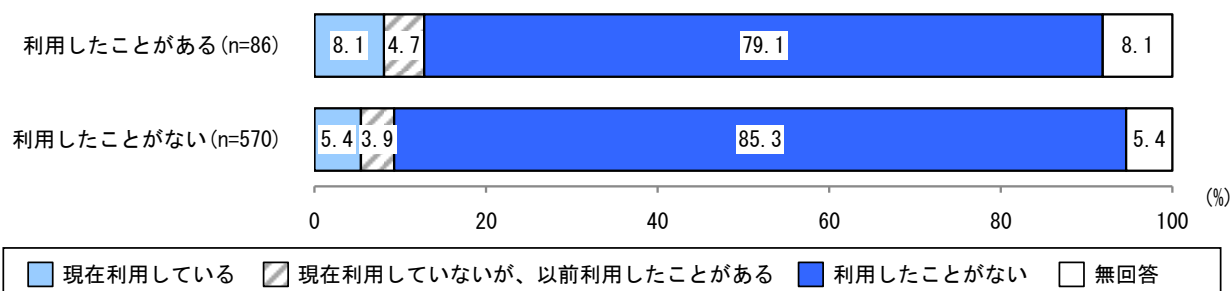
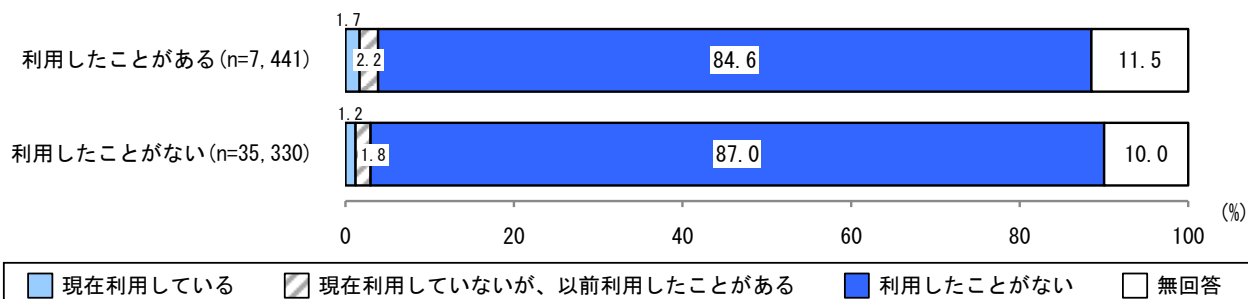


図 36. 子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-g)

<大阪府内全体>



<柏原市>

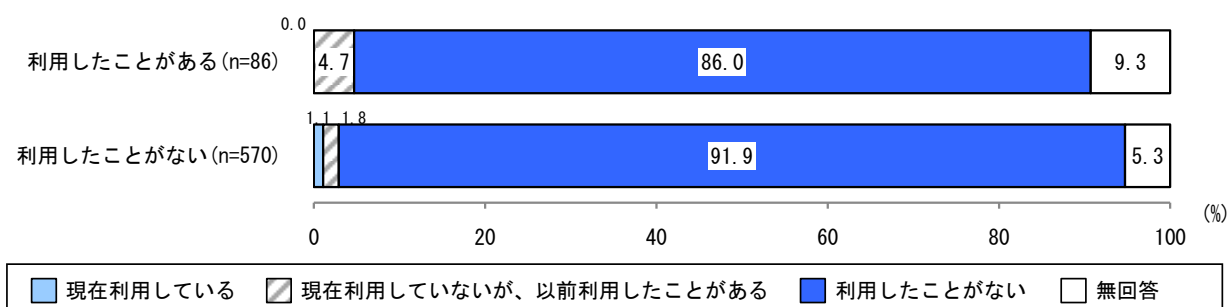
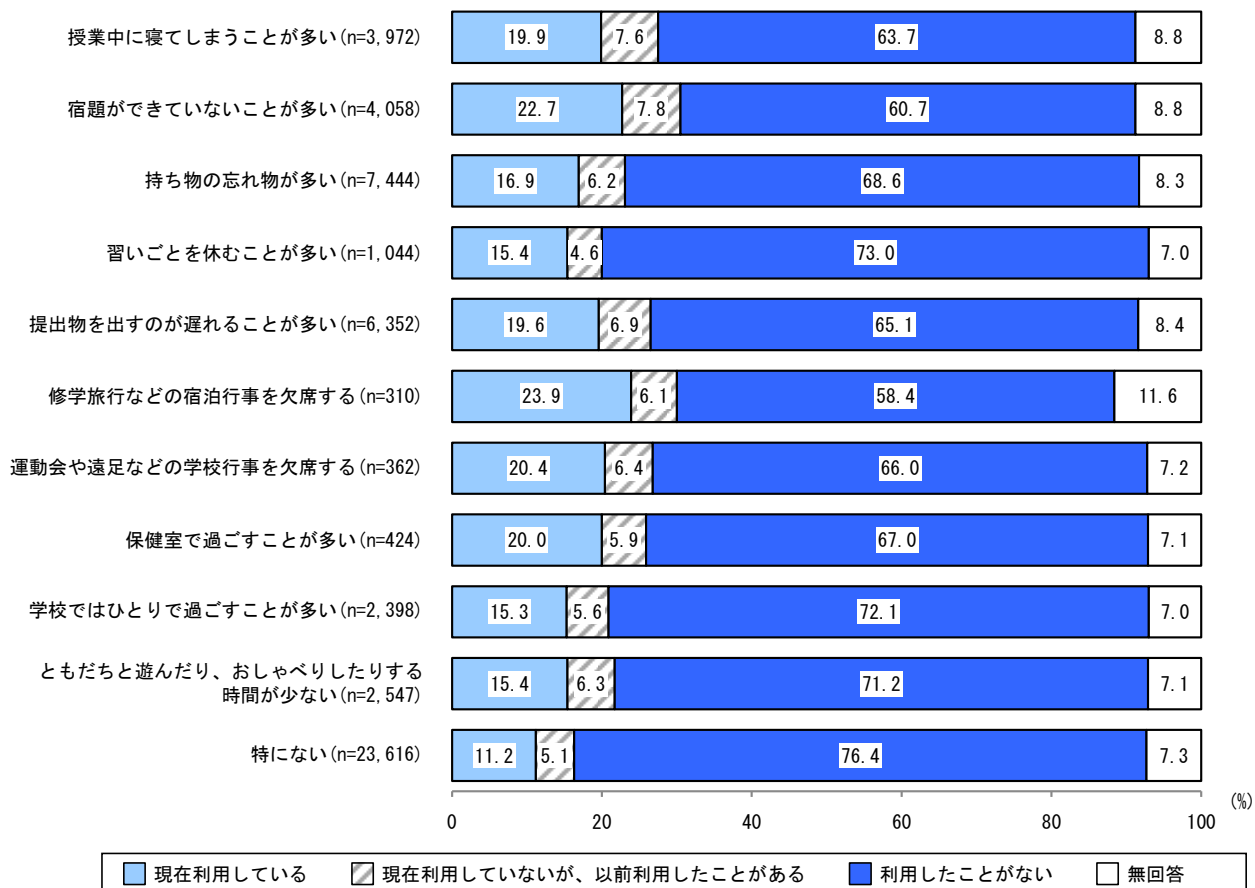


図 37. 子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-a）

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

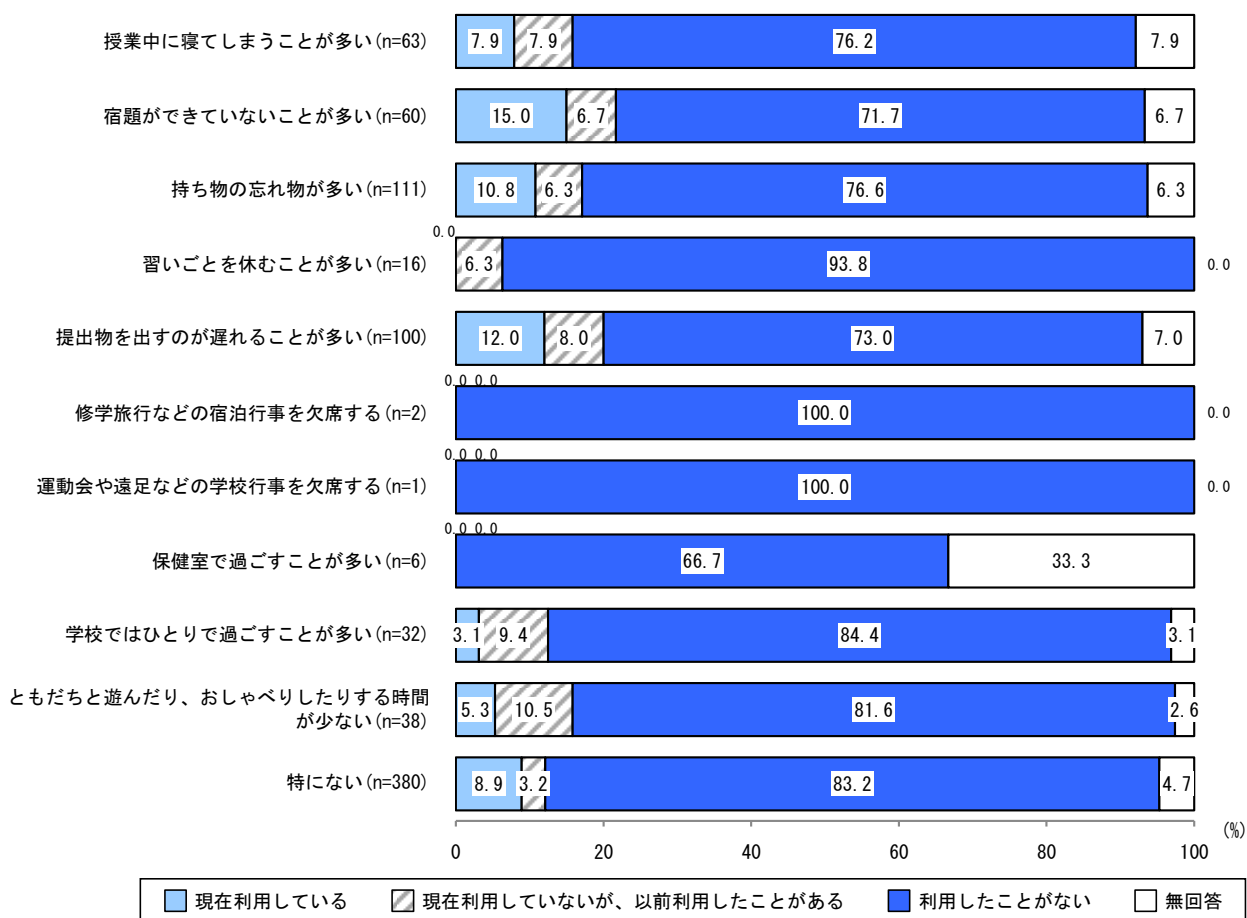
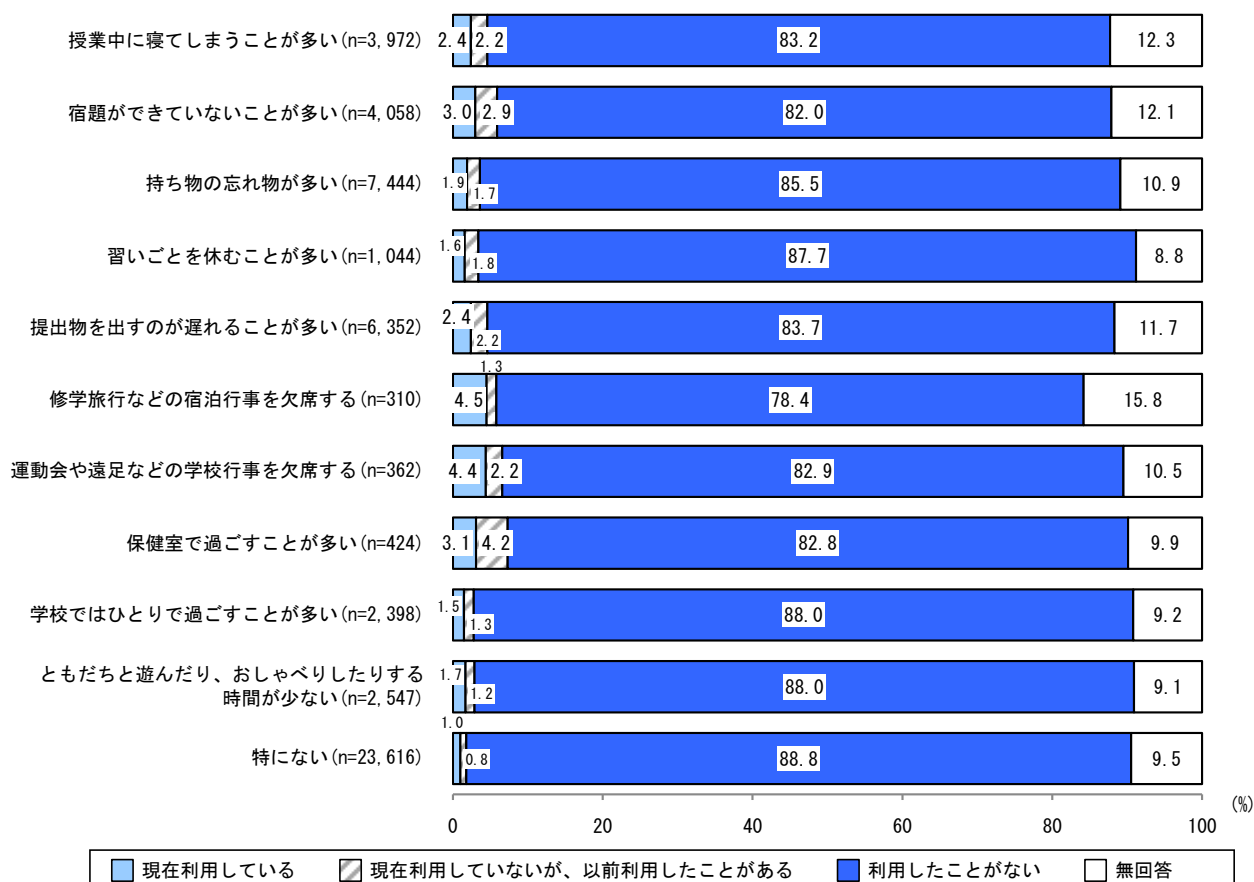


図 38. 学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「宿題ができていないことが多い」と回答した割合が15.0%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

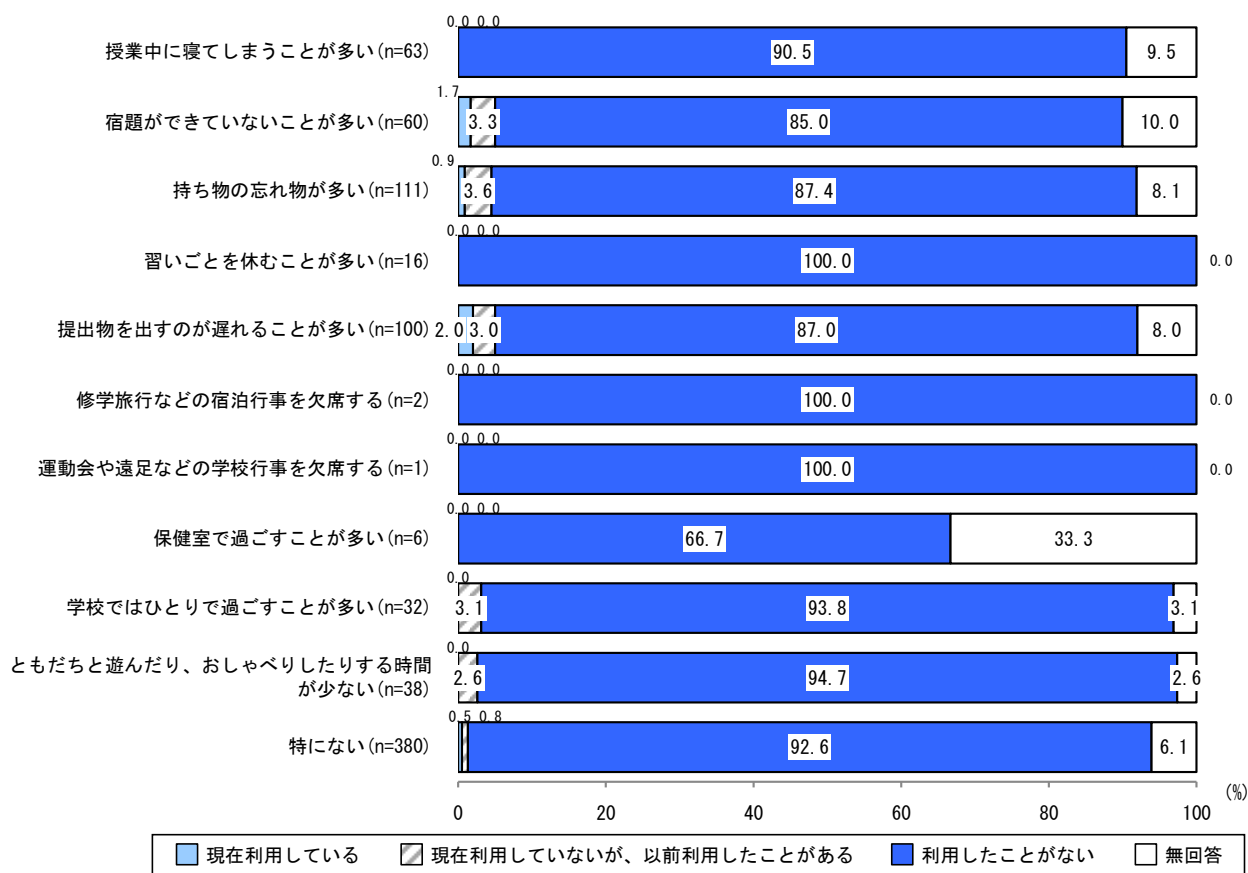
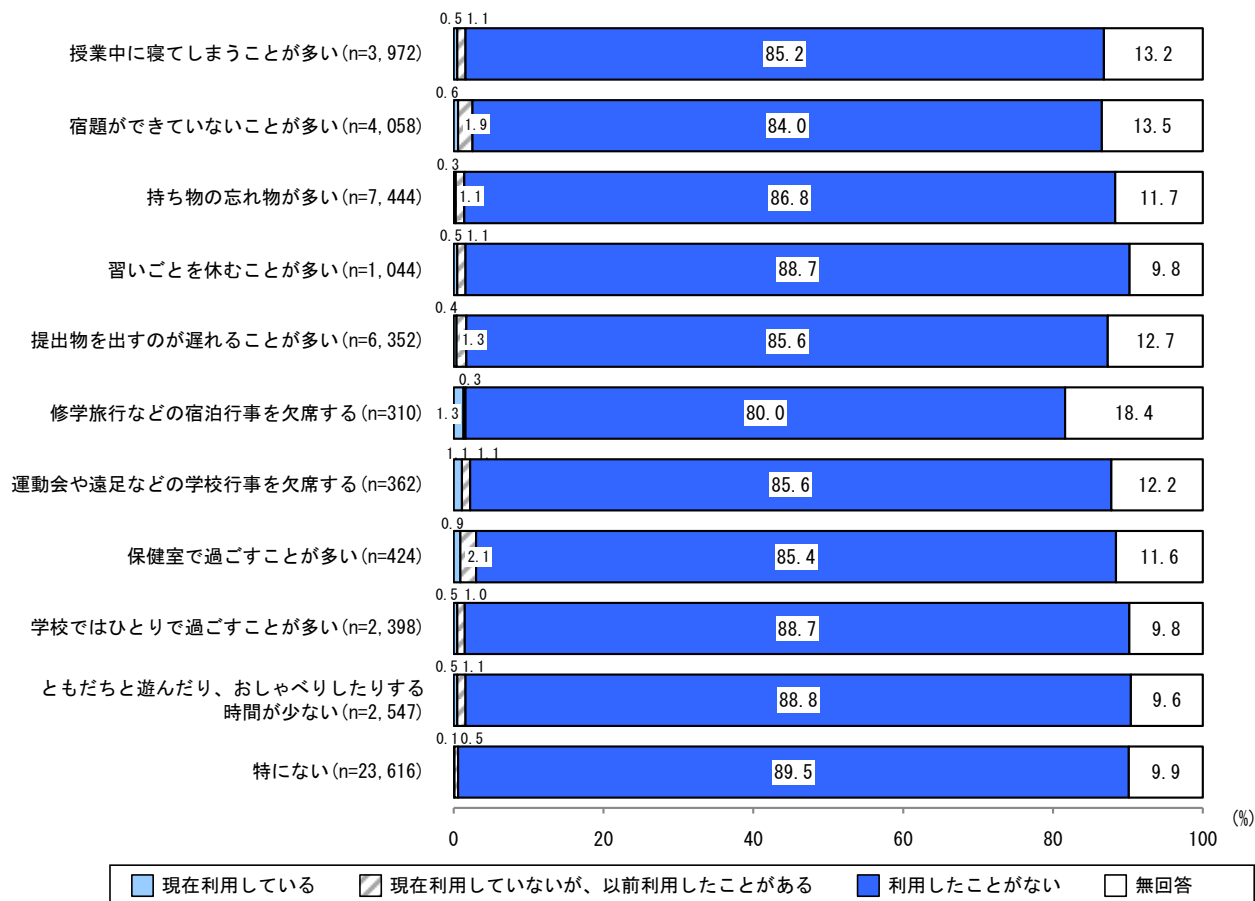


図 39. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に生活保護の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「提出物を出すのが遅れることが多い」と回答した割合が2.0%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(子ども票問 16×保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

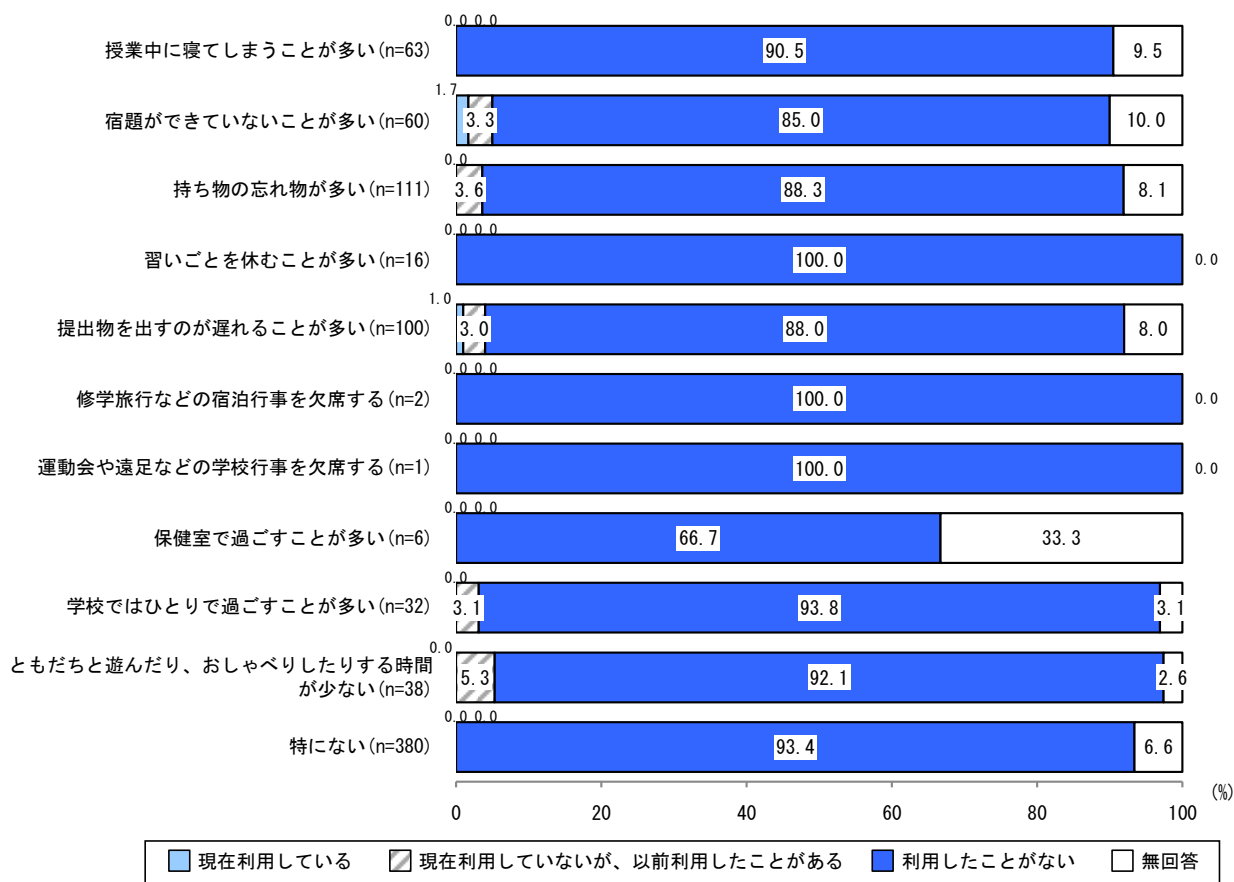
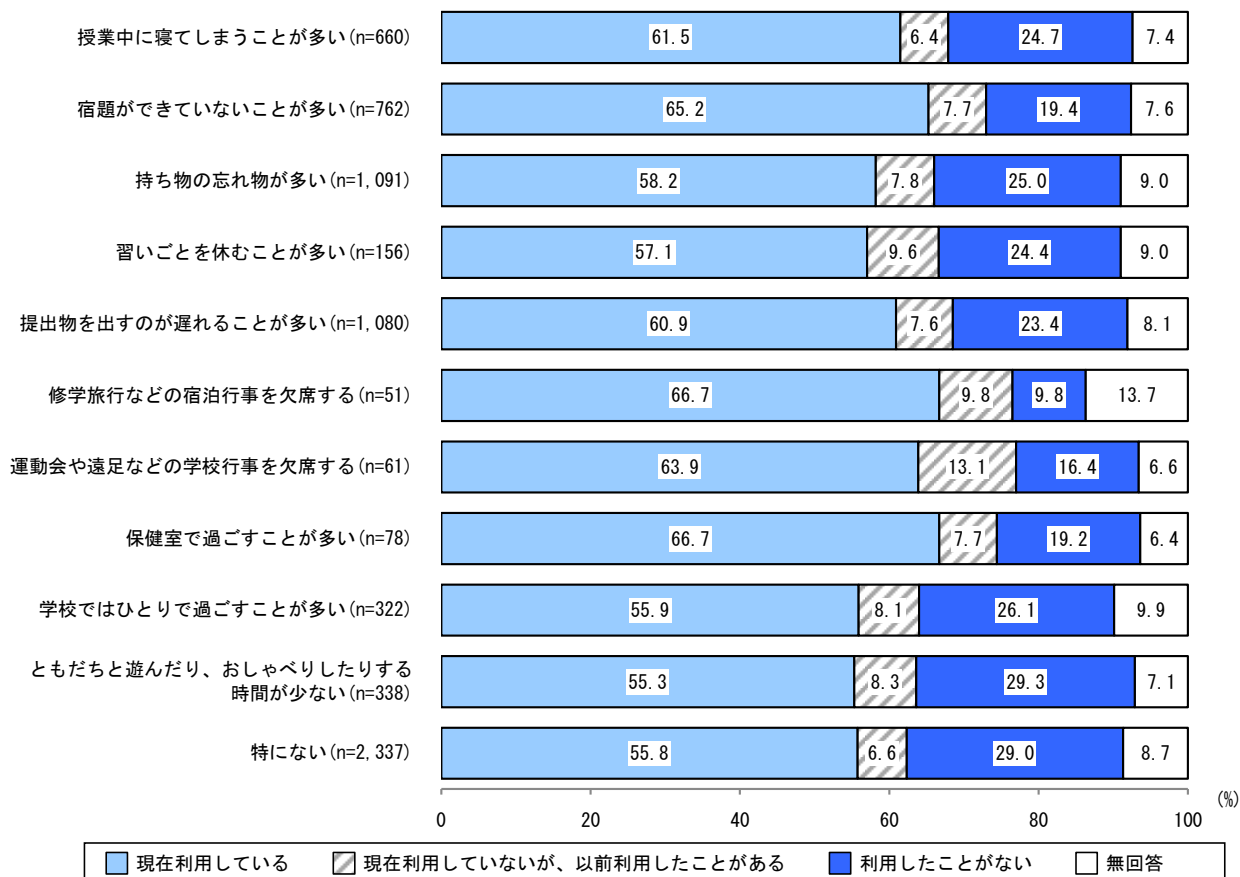


図 40. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ても、大きな差はみられない。

学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（子ども票問 16×保護者票問 23-d）

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

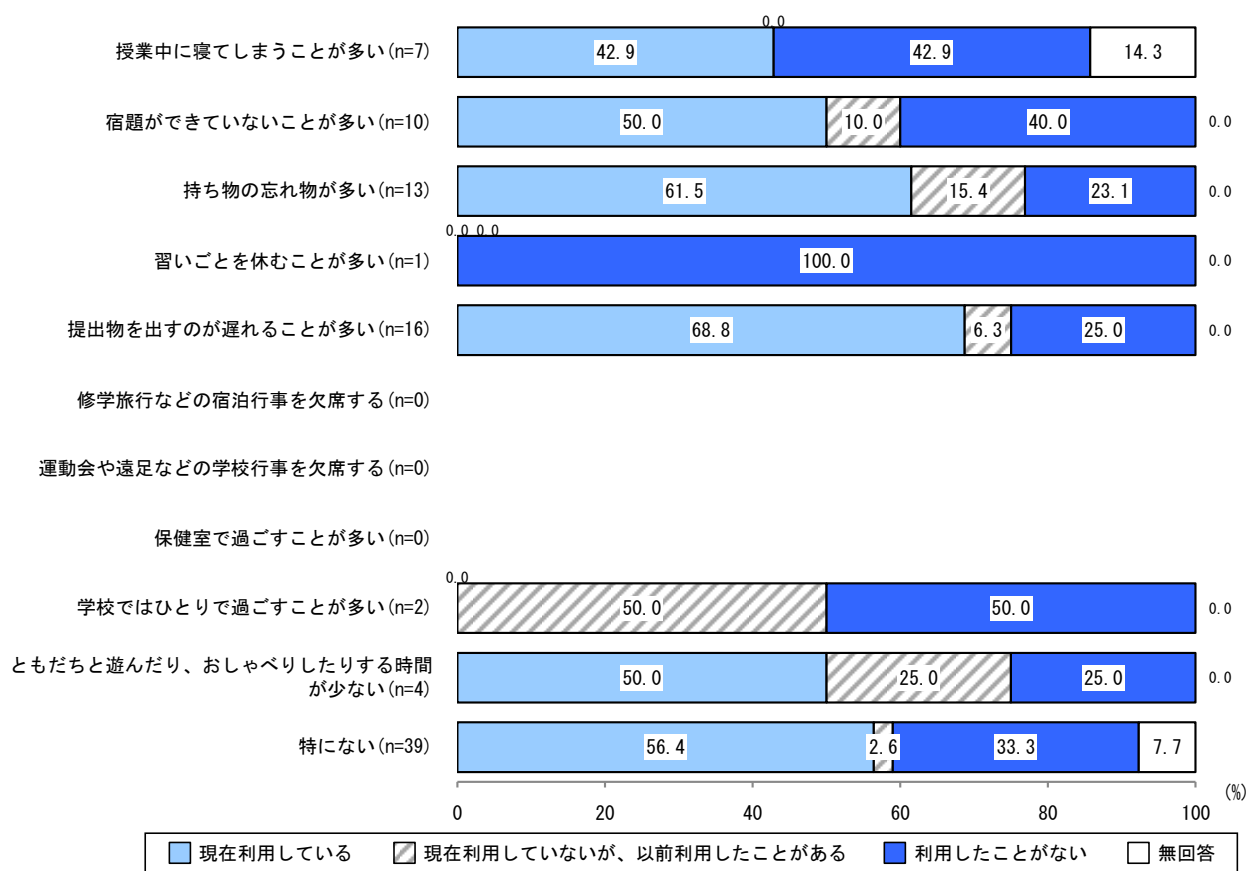
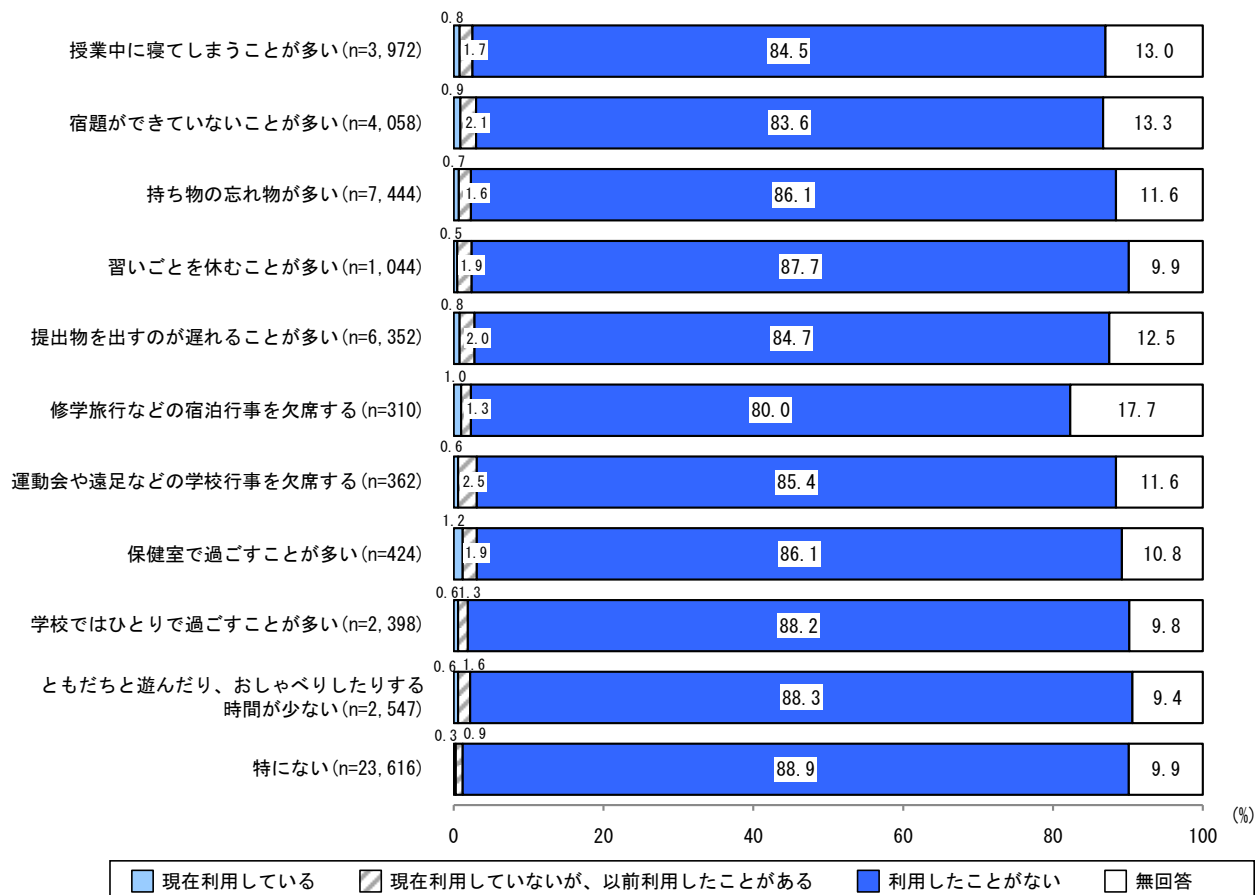


図 41. 学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

学校や学校の行事等の状況別に児童扶養手当の利用状況を見ると、母数が少ないため一概には言えないが、「現在利用している」と回答した人の割合は、「提出物を出すのが遅れることが多い」と回答した割合が68.8%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(子ども票問 16×保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

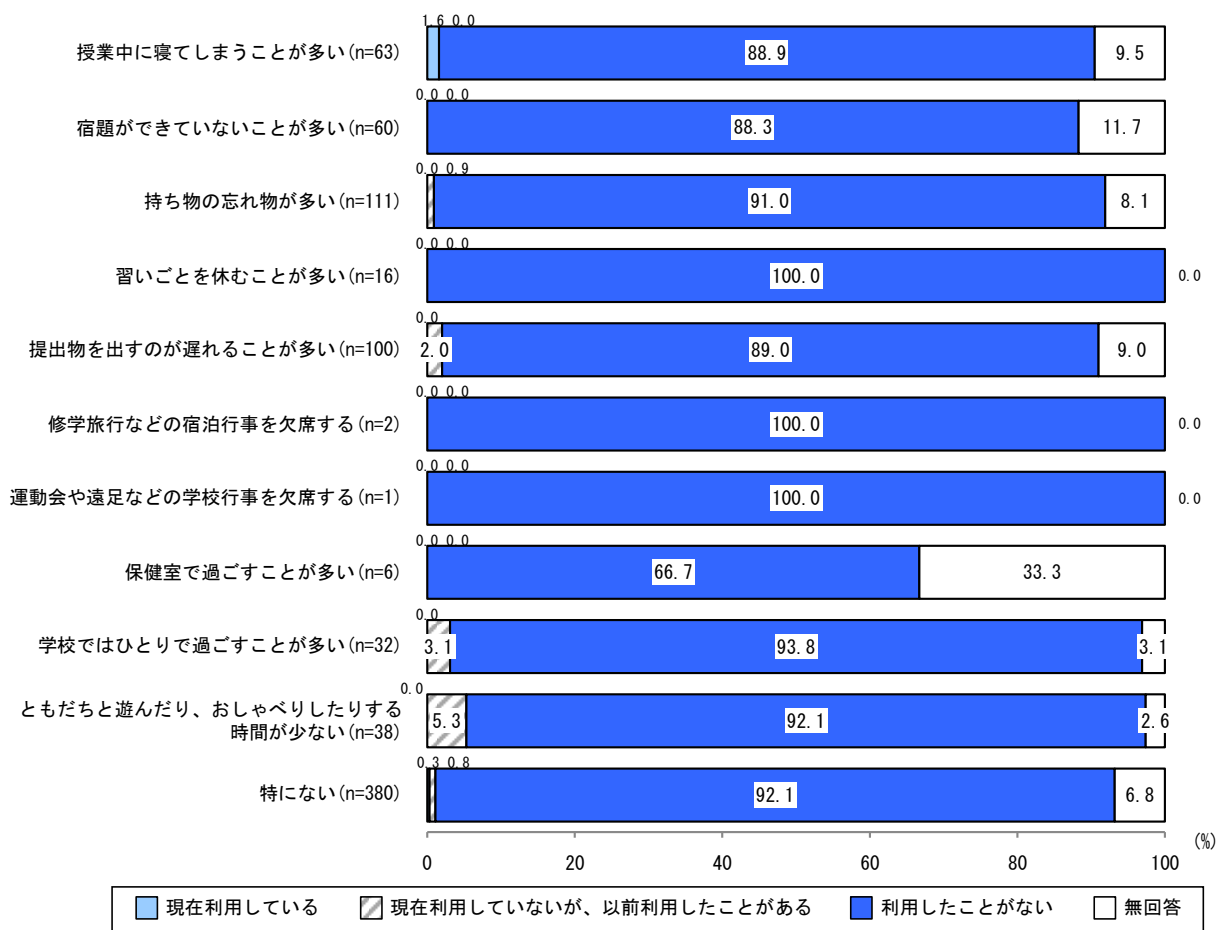
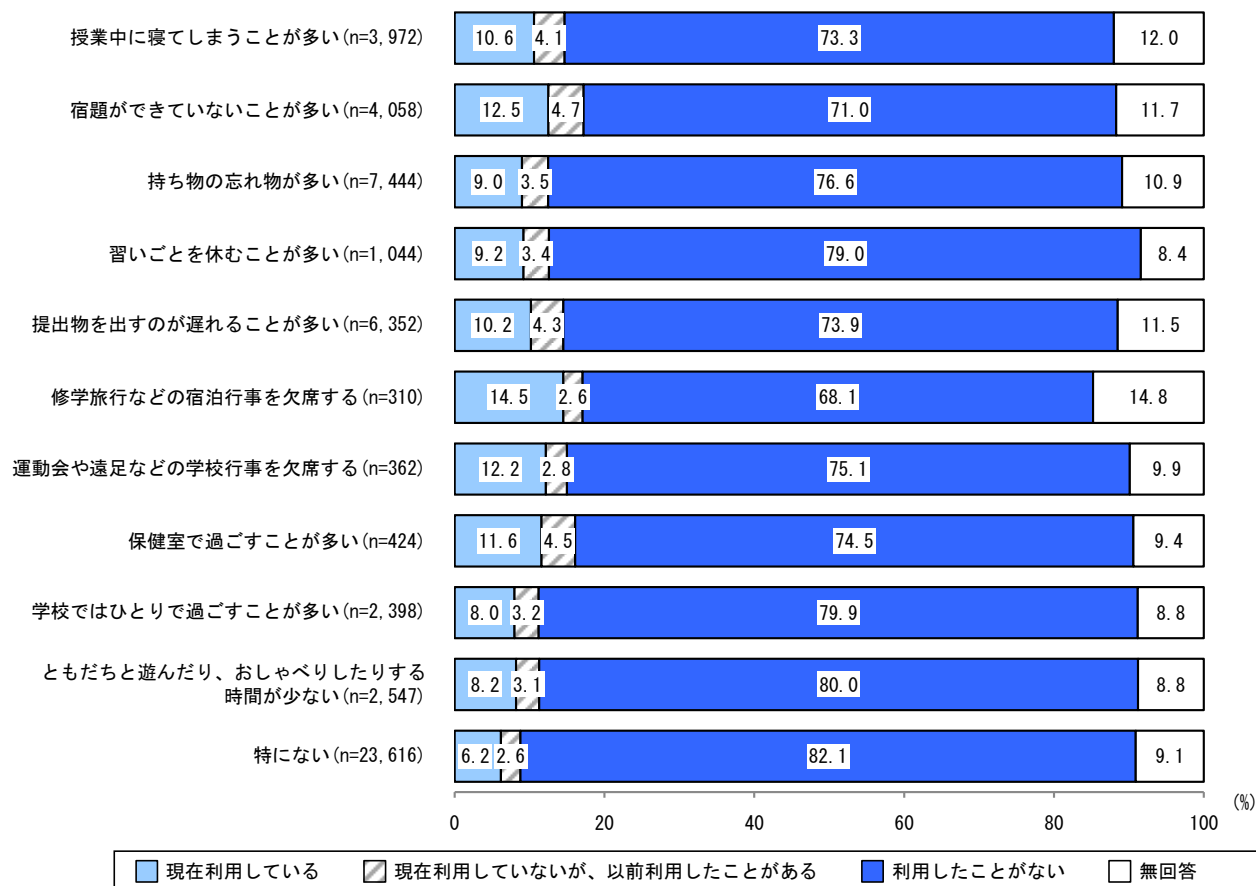


図 42. 学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

学校や学校の行事等の状況別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「授業中に寝てしまうことが多い」と回答した割合が1.6%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

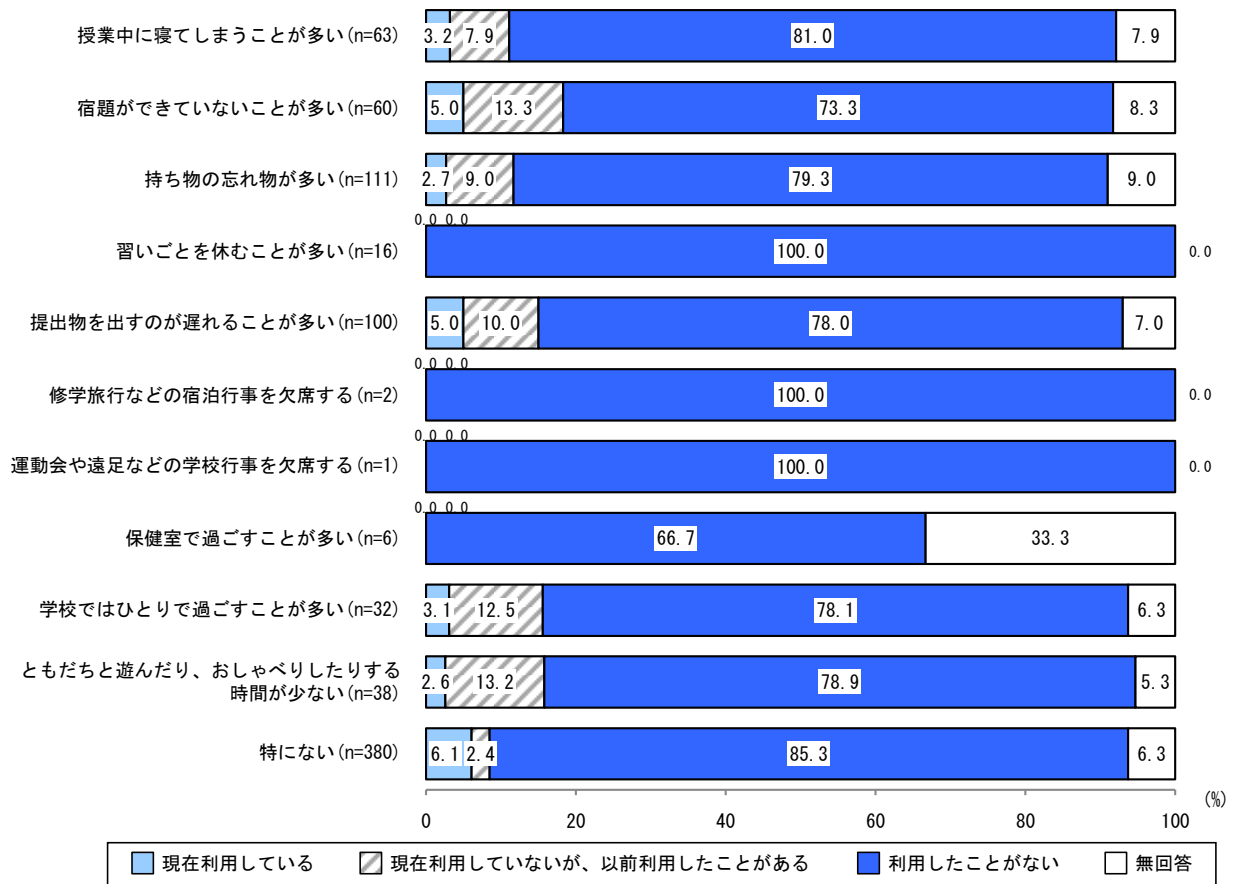
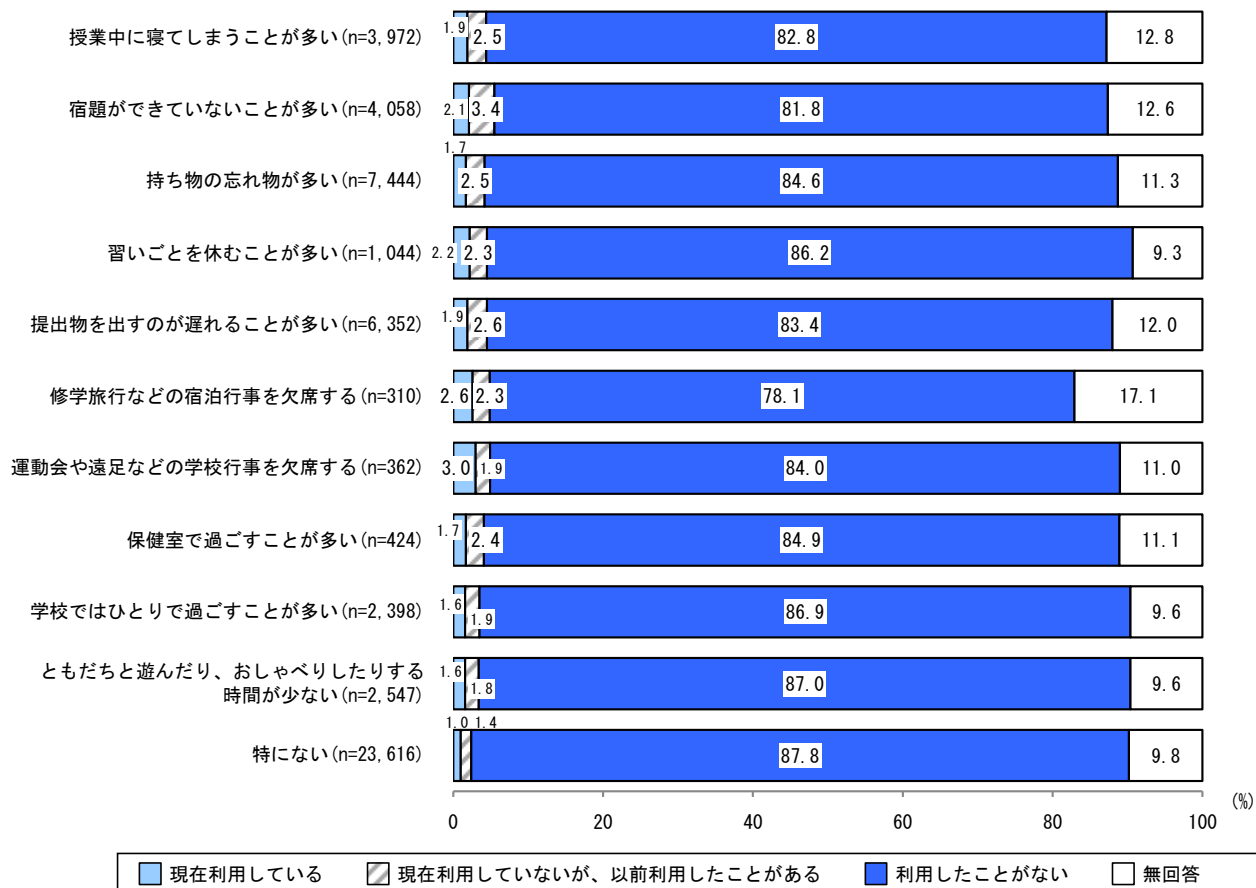


図 43. 学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、母数が少ないため一概には言えないが、「現在利用している」と回答した人の割合は、「宿題ができていないことが多い」(5.0%)、「提出物を出すのが遅れることが多い」(5.0%) と回答した割合が最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-g）

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

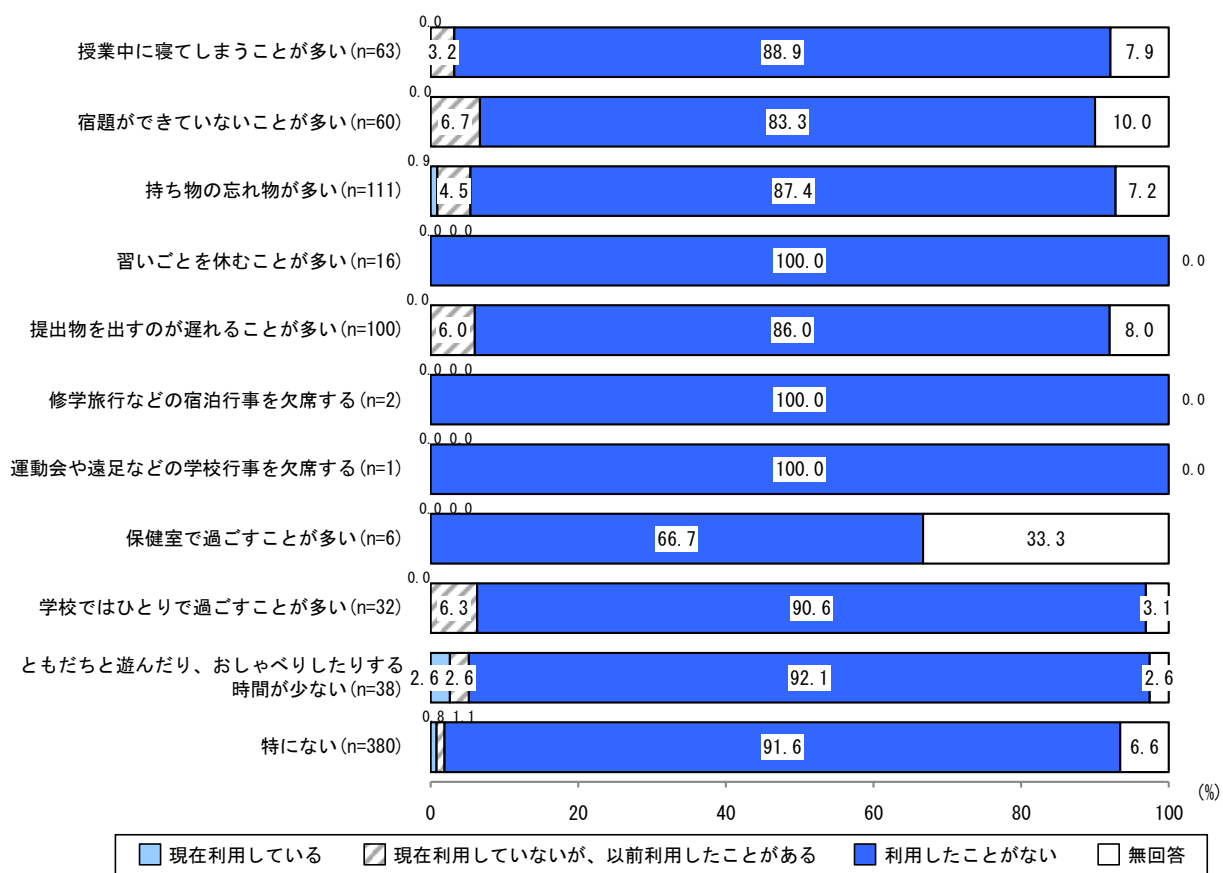
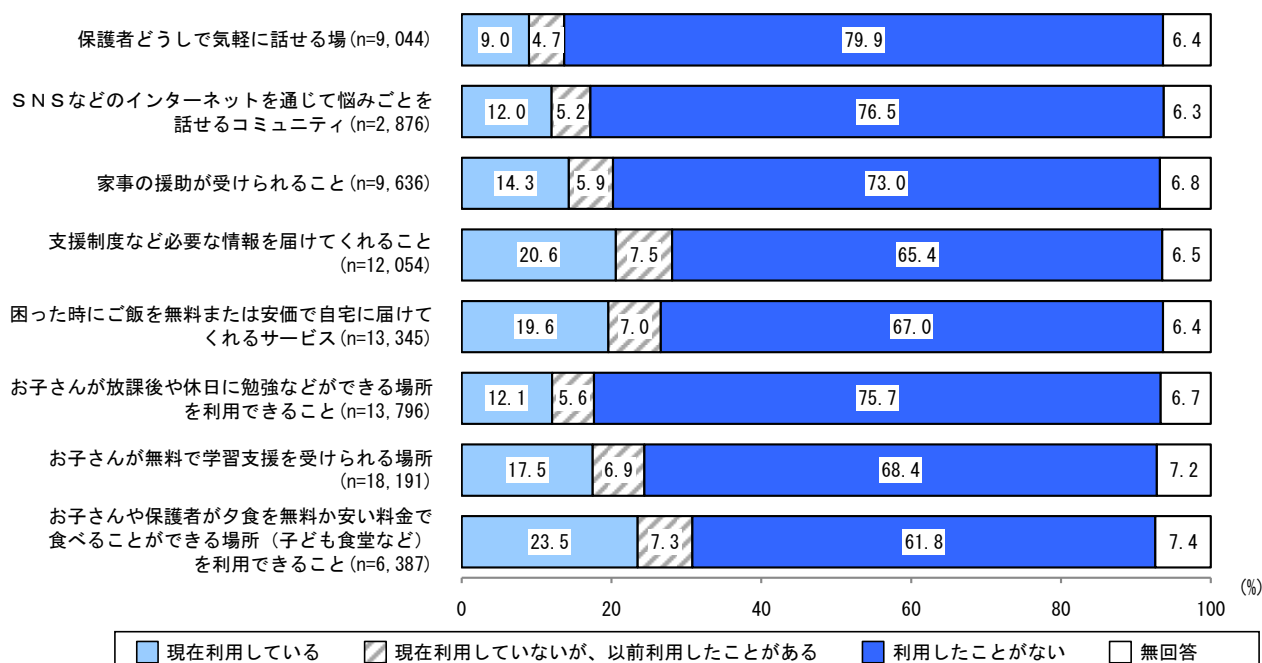


図 44. 学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」と回答した割合が2.6%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<柏原市>

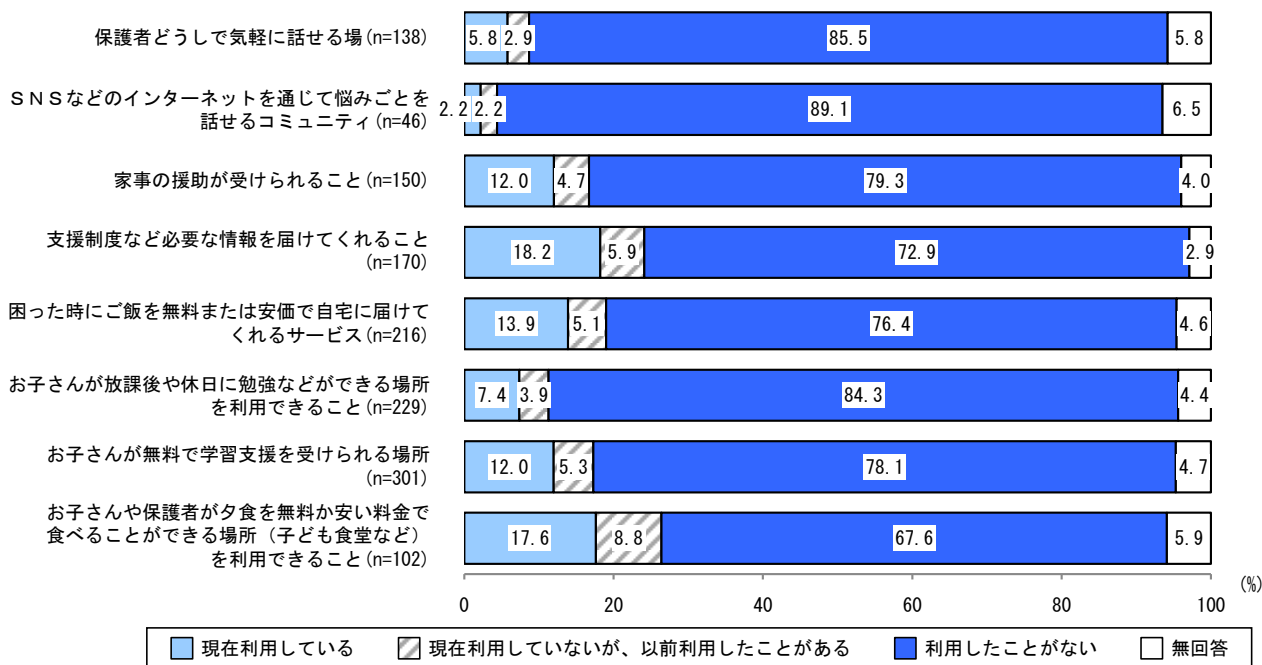
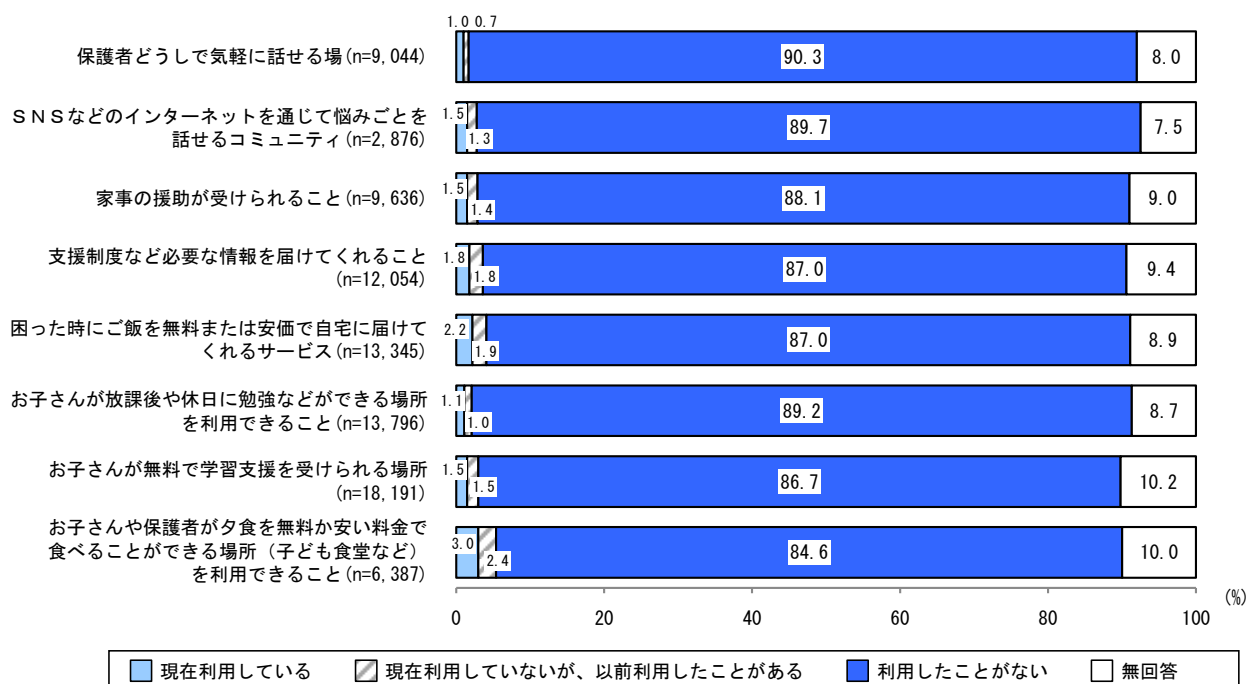


図 45. 身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「支援制度など必要な情報を届けてくれること」と回答した割合が18.2%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-b)

<大阪府内全体>



<柏原市>

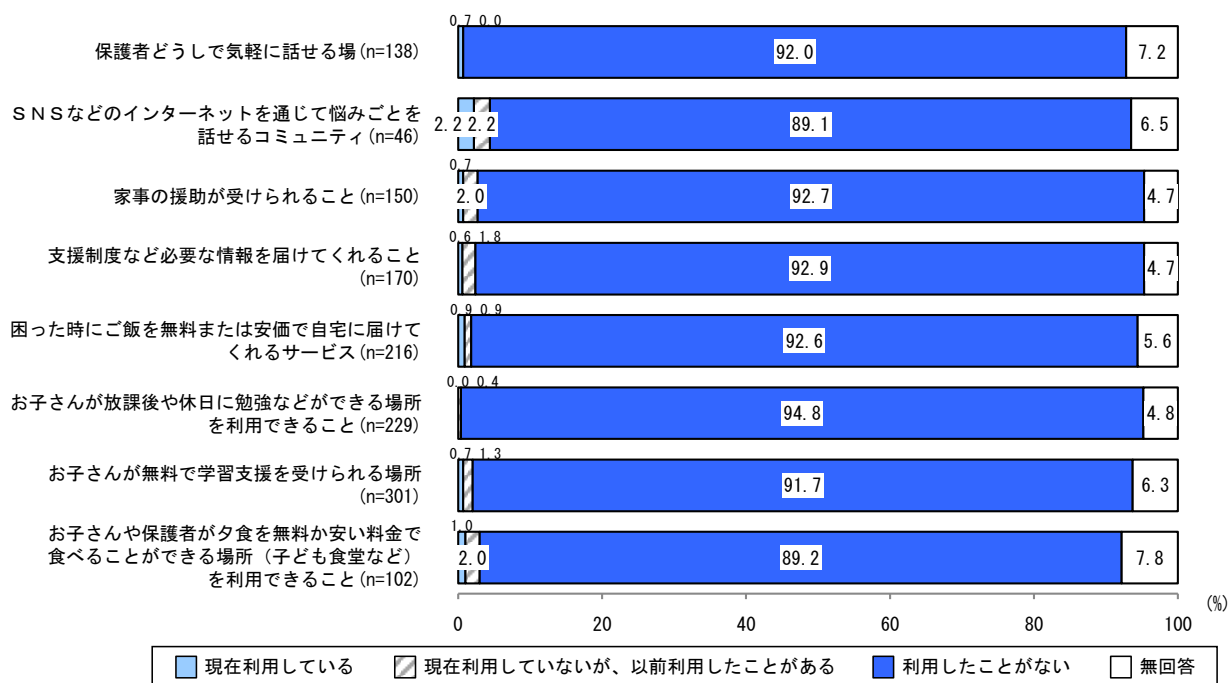
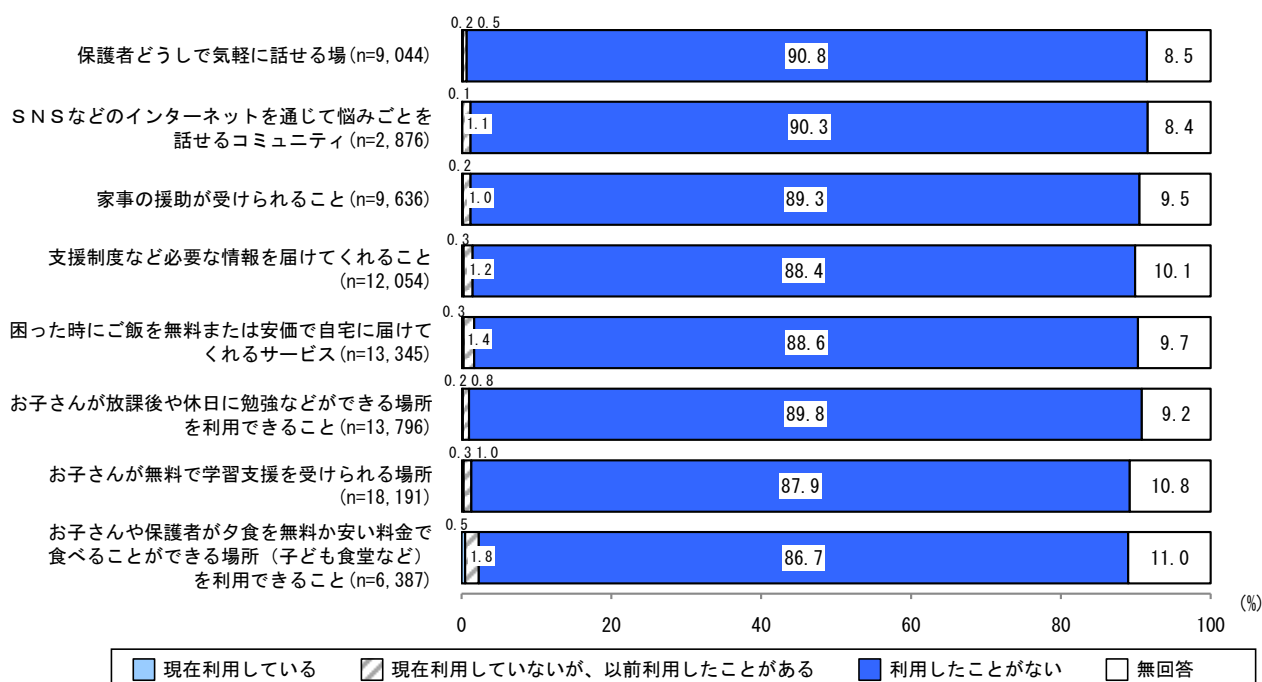


図 46. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に生活保護の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ」と回答した割合が2.2%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<柏原市>

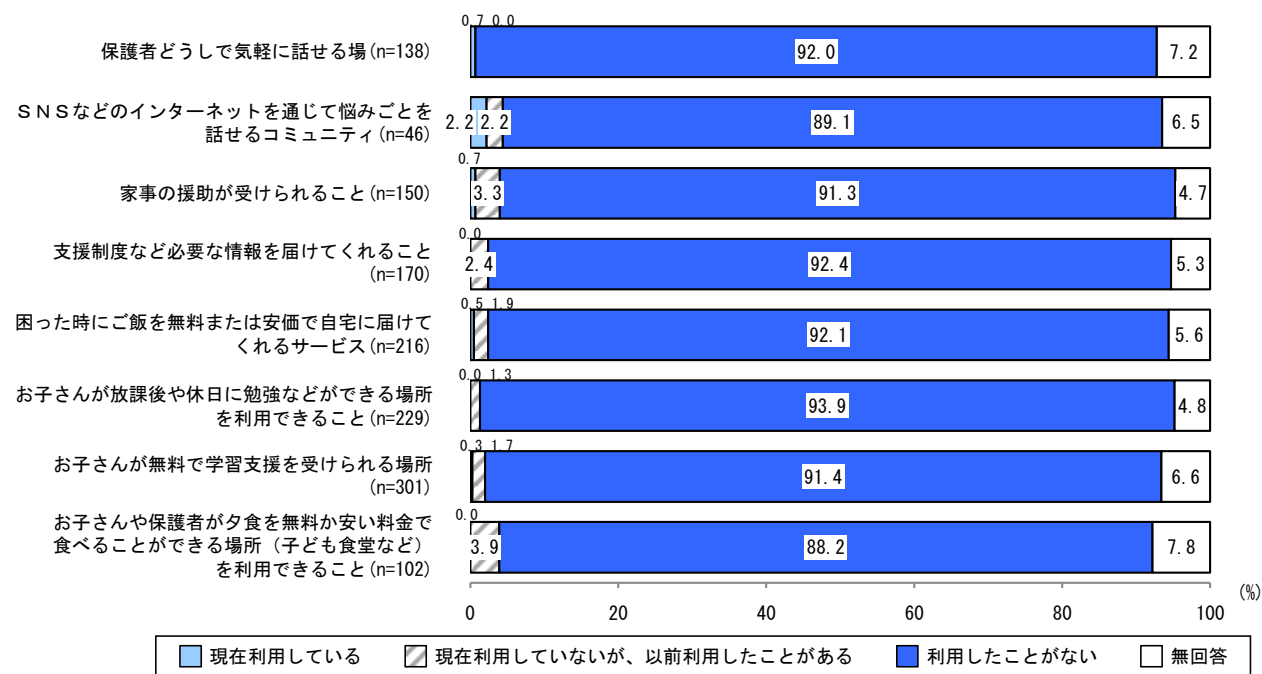
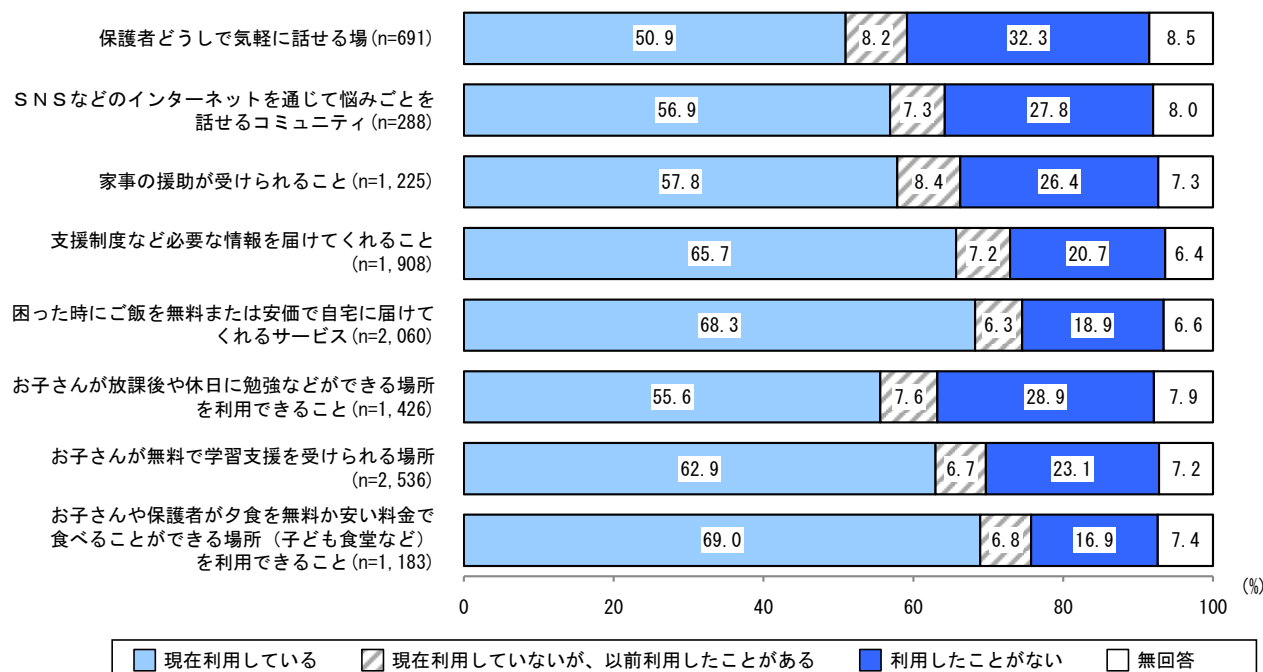


図 47. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ」と回答した割合が2.2%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（保護者票問 20×保護者票問 23-d）

<大阪府内全体>



<柏原市>

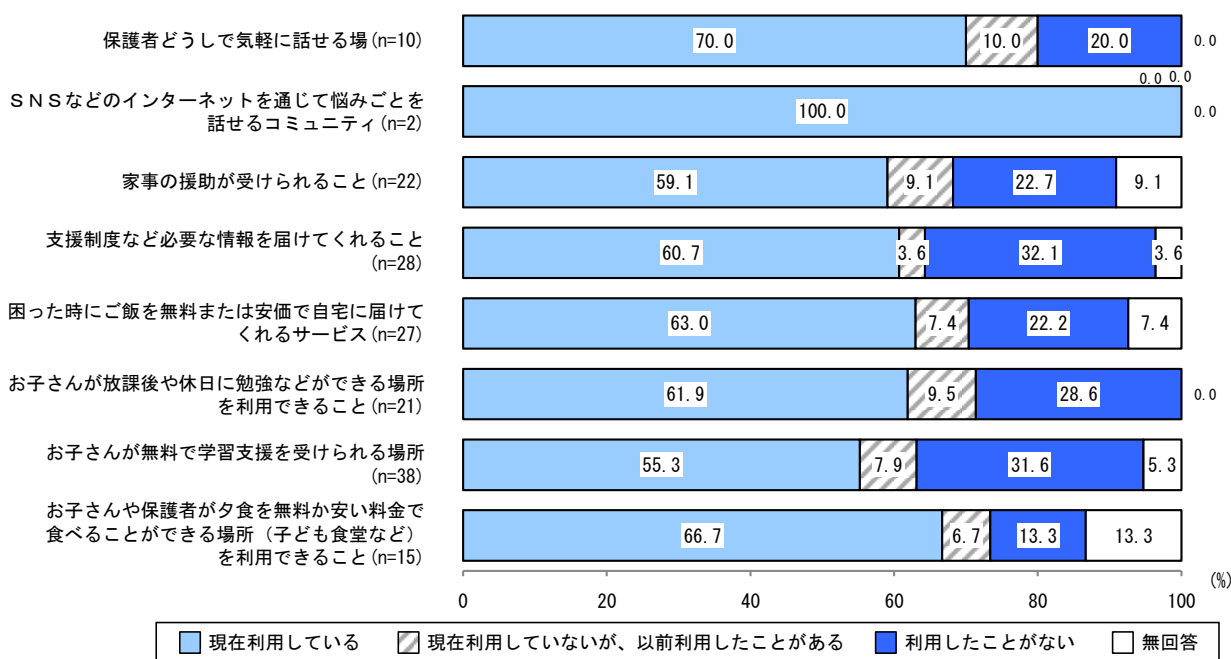
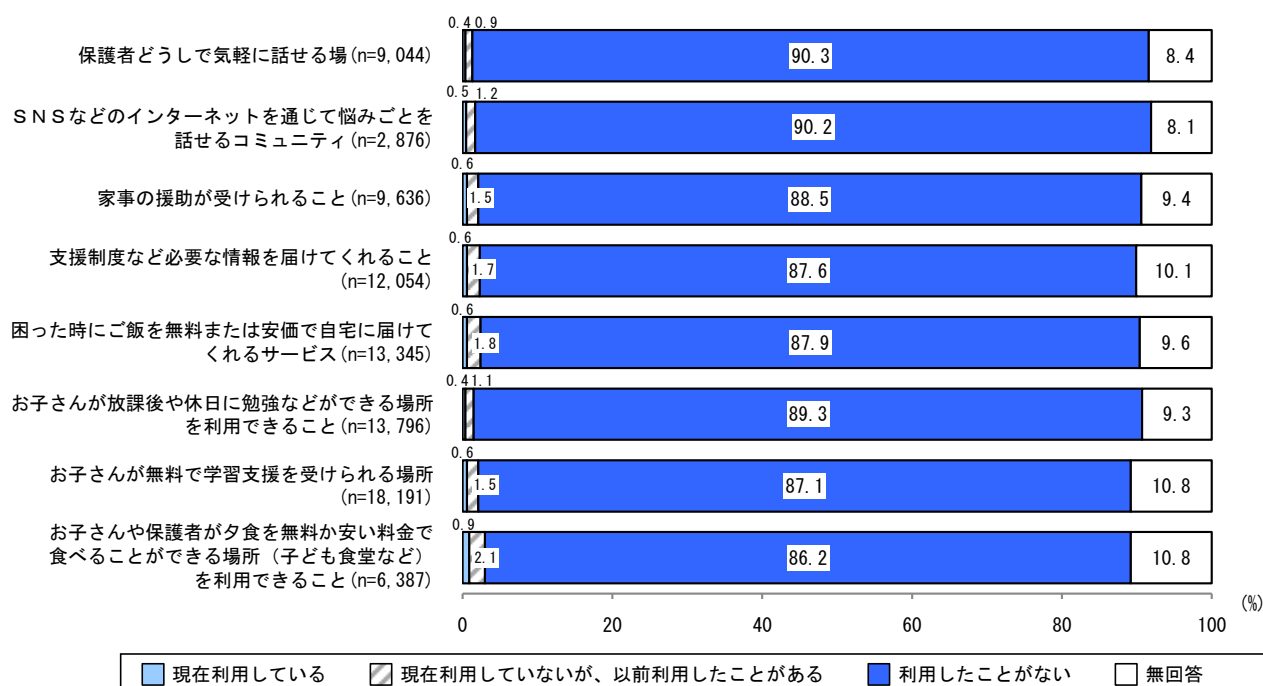


図 48. 身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

身近にあるといいと思うこと別に児童扶養手当の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ」と回答した割合が100.0%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<柏原市>

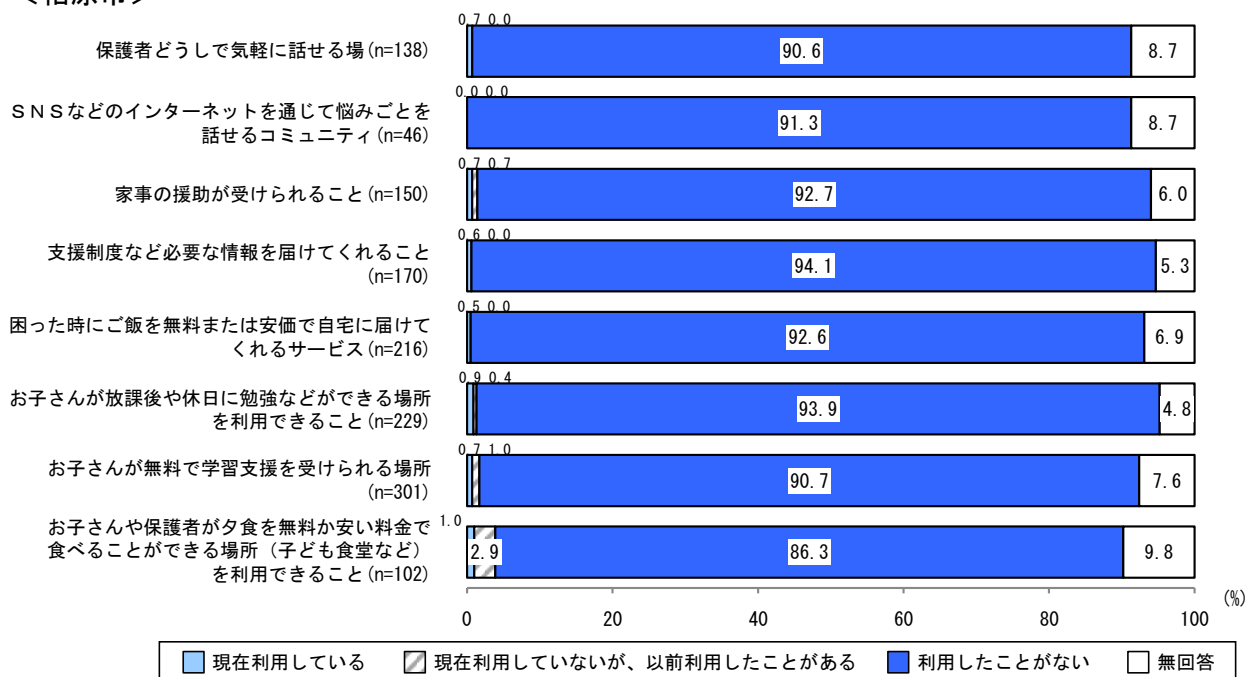
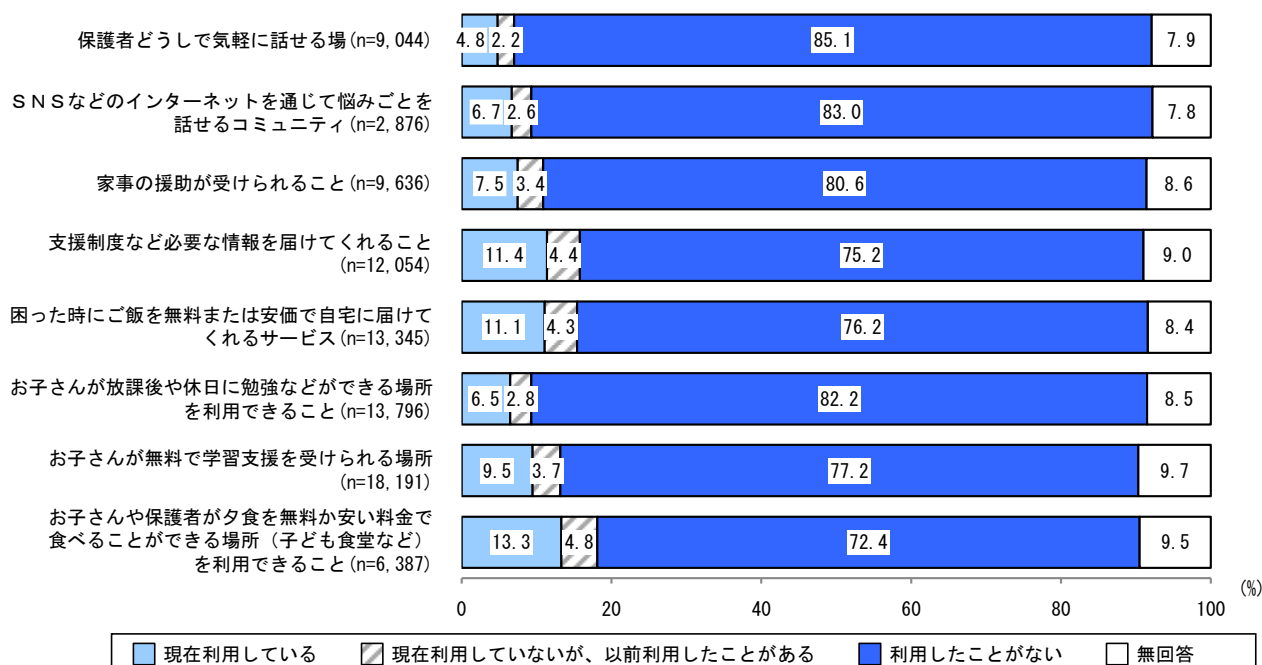


図 49. 身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

身近にあるといいと思うこと別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ても、大きな差はみられない。

身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（保護者票問 20×保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



<柏原市>

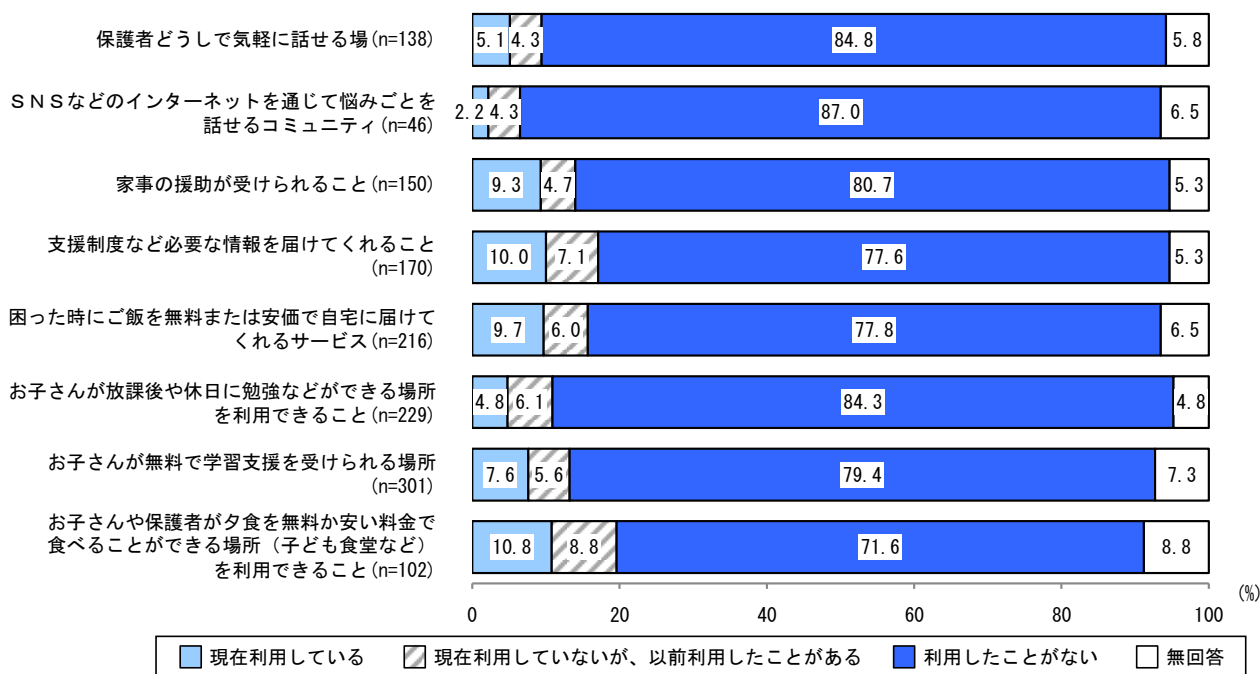
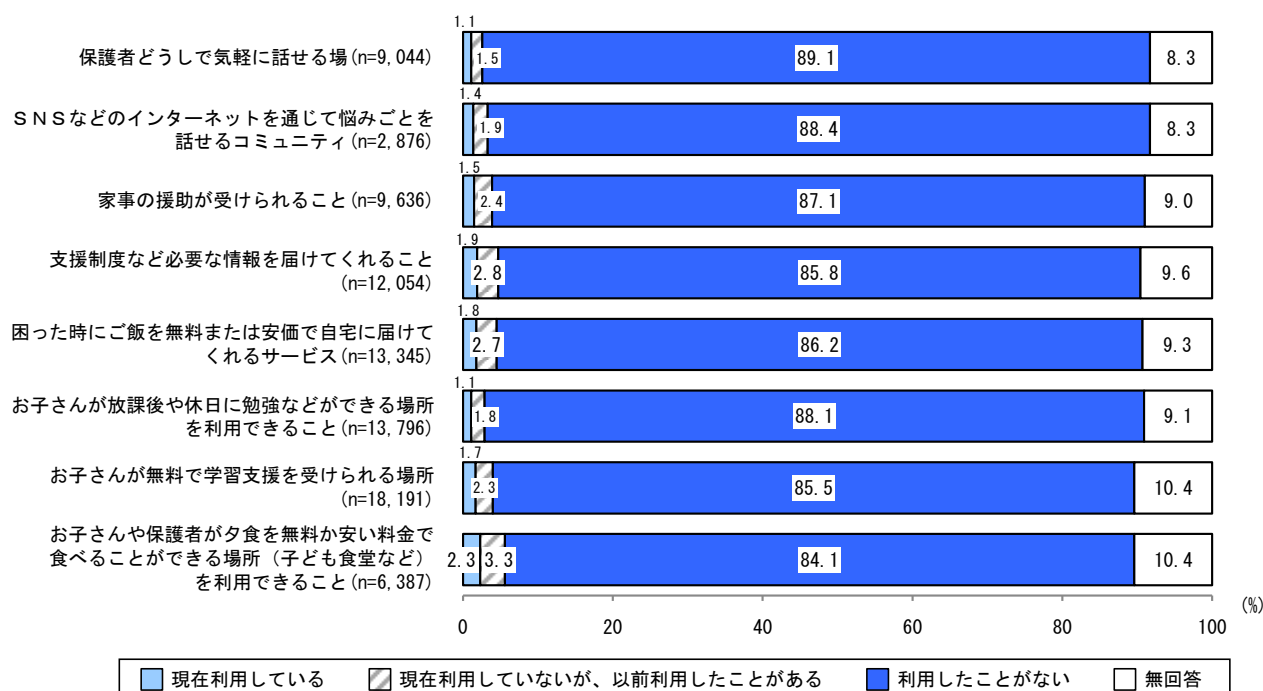


図 50. 身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」と回答した割合が10.8%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（保護者票問 20×保護者票問 23-g）

<大阪府内全体>



<柏原市>

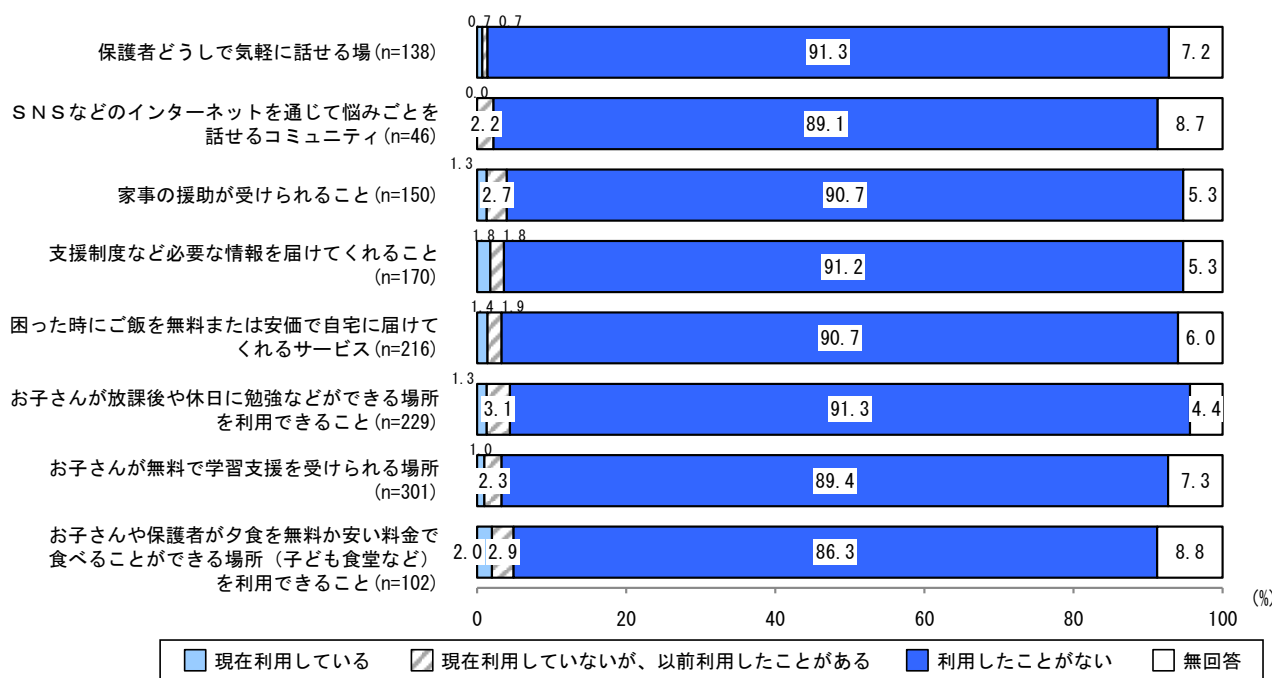


図 51. 身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」と回答した割合が2.0%で最も高くなっている。

<家庭状況（制度等）に関する考察>

就学援助の利用状況については、全体で、「現在利用している」が9.4%となっている。困窮度Ⅰ群では、42.0%、困窮度Ⅱ群では、12.0%を占めている。次にひとり親世帯を対象とする児童扶養手当の利用状況は、全体で57.5%、困窮度Ⅰ群で68.8%、困窮度Ⅱ群で50.0%となっている。生活保護制度の利用状況は、全体で0.6%と低水準にとどまっている。困窮度Ⅰ群では3.4%となっている。今回調査の回答者から一定層の貧困層が漏れ落ちている可能性についても留意しておく必要がある。いずれにしても、社会保障制度の捕捉率を上げるために、給付を必要な世帯が利用しやすいような各制度の要件緩和、手続きの簡素化等の施策が求められている。

ひとり親世帯について、養育費の取り決めや受け取りをしている世帯は、全体で24.5%にとどまっている。「取り決めをしておらず、受け取っていない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群で50.0%となっている。離別の場合、生活状況の激変のなか、ひとり親自身が養育費の取り決めを行うことは容易なことではないため、相談機関等の支援策の充実が求められる。

初めて親となった年齢と最終学歴について、特に母親に着目すると、「10代」で中学校卒業が13.3%、高等学校中途退学が40.0%と、他の年齢階層に比べて高くなっている。妊娠・出産しても学修を中断せず継続できるような学修面でのサポート体制、子育て支援が求められる。また学びを一時中断した者についても、あとからでも「学び直し」を可能にするような学修機会の提供等が求められる。

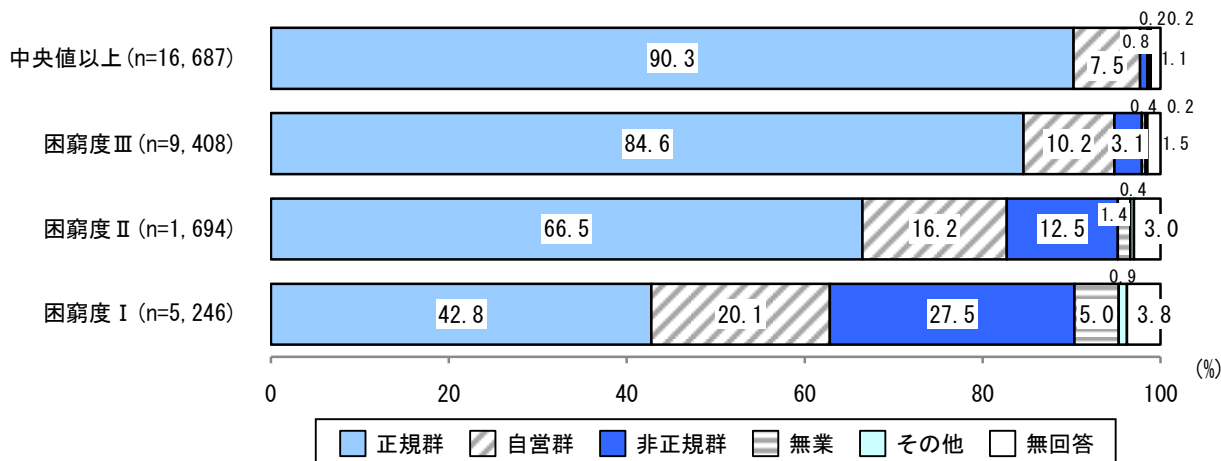
住宅形態別に家計の状況をみると、「民間の賃貸住宅」において「赤字である」と回答した者の割合が40.0%と高水準となっている。同様に、「民間の賃貸住宅」については、「子どもの将来のための貯蓄状況」についても「貯蓄をしたいが、できていない」が51.6%となっており、経済的余裕のなさが示されている。ただし、この項目の値は「府営・市営の住宅」において71.4%と高い値を示している。家賃分の負担軽減に加えて、生活費部分の経済的支援の必要性が示されている。

全般的に、公的な資金援助の利用状況は困窮度によって大きな開きがある。また、母子世帯における養育費の受け取り世帯の割合が十分ではなく、若くして母親になった者への教育支援の必要性も示唆される。さらに、住宅形態の公共性が低いものほど、経済的余裕を欠く傾向があることが示されている。

3-2. 雇用

困窮度別に見た、就労状況（保護者票問9より）

<大阪府内全体>



<柏原市>

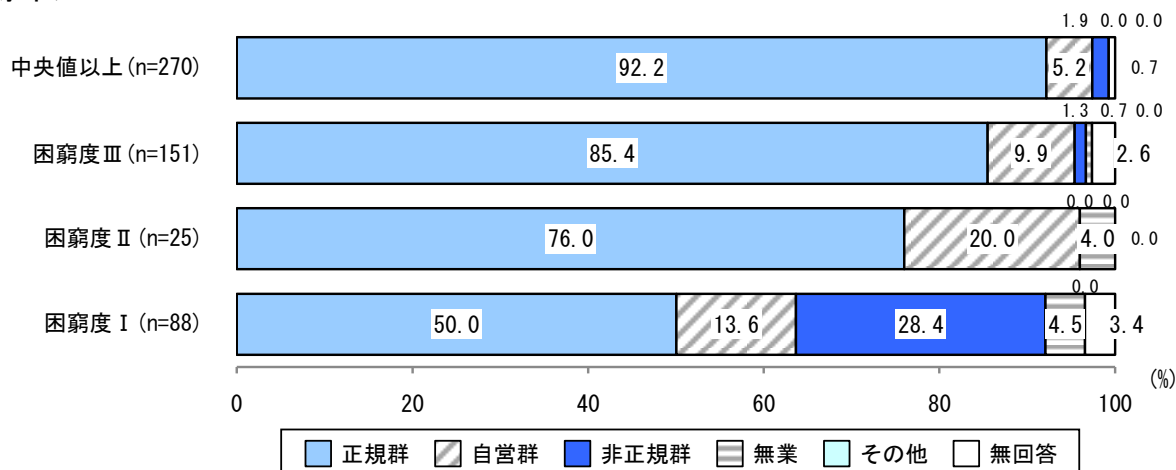


図 52. 困窮度別に見た、就労状況

困窮度別に就労状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「正規群」の割合が低くなり、「無業」の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群においては他と比べて「非正規群」、「無業」の割合がやや高く、それぞれ28.4%、4.5%となっている。

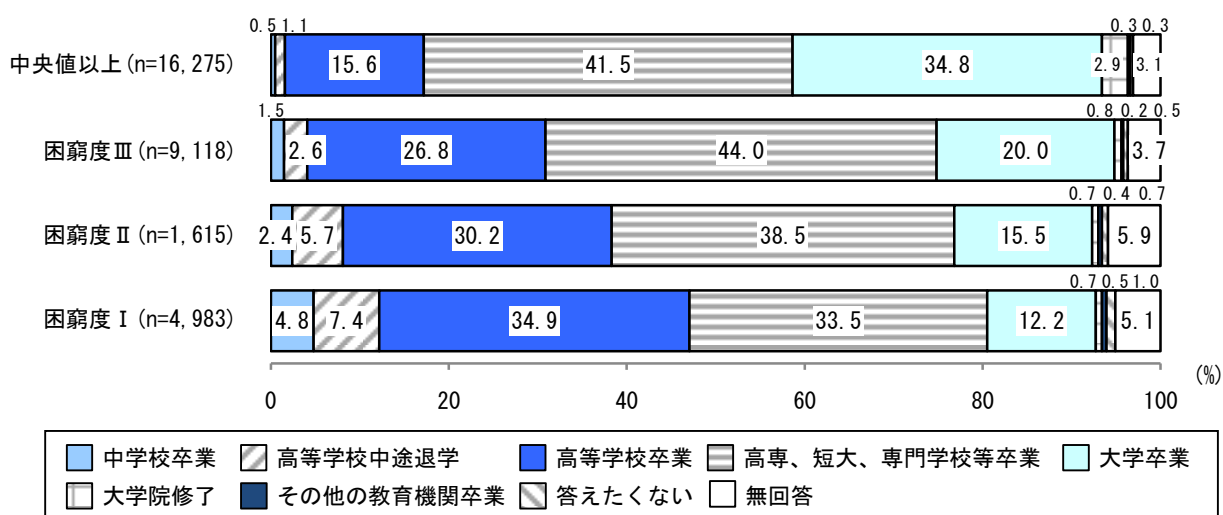
※分類方法は以下の通り。

父母あるいは主たる生計者に正規が含まれば「正規群」（問9選択肢1）、
上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれば「自営群」（問9選択肢4）、
上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれば「非正規群」（問9選択肢2、3）、
上記以外で、誰も働いていなければ「無業」（問9選択肢6、7）。
上記以外が「その他」となる。

ここでの無業とは、「ふだん仕事をしていない者、すなわち、ふだん全く仕事をしていない者及び臨時的にしか仕事をしていない者」を指す（就業構造基本調査による）。クロス集計で「就労状況」を用いる時は、上記区分による。

困窮度別に見た、お母さんの最終学歴（保護者票問8）

<大阪府内全体>



<柏原市>

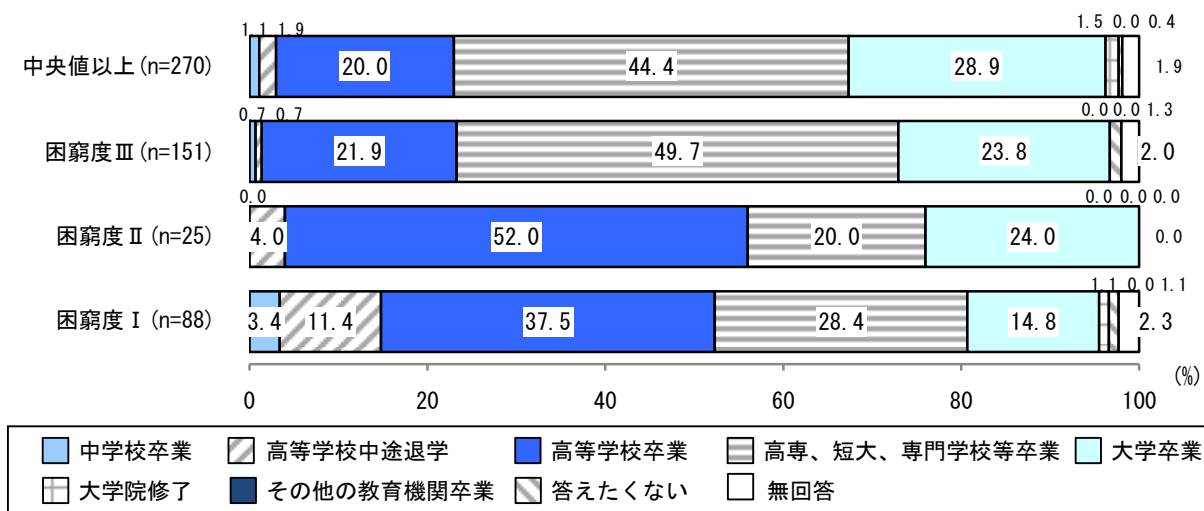
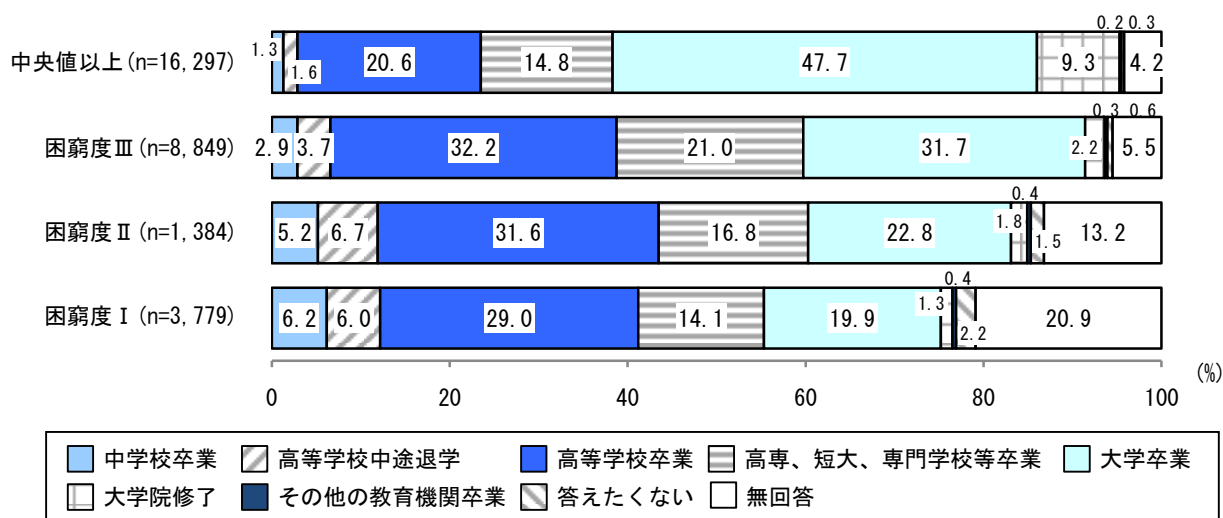


図 53. 困窮度別に見た、お母さんの最終学歴

困窮度別に母親の最終学歴を見ると、困窮度が高まるにつれ、「中学校卒業」と「高等学校中途退学」の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ～Ⅲ群では中央値以上群に比べ、「大学卒業」の割合が低い。

困窮度別に見た、お父さんの最終学歴（保護者票問8）

<大阪府内全体>



<柏原市>

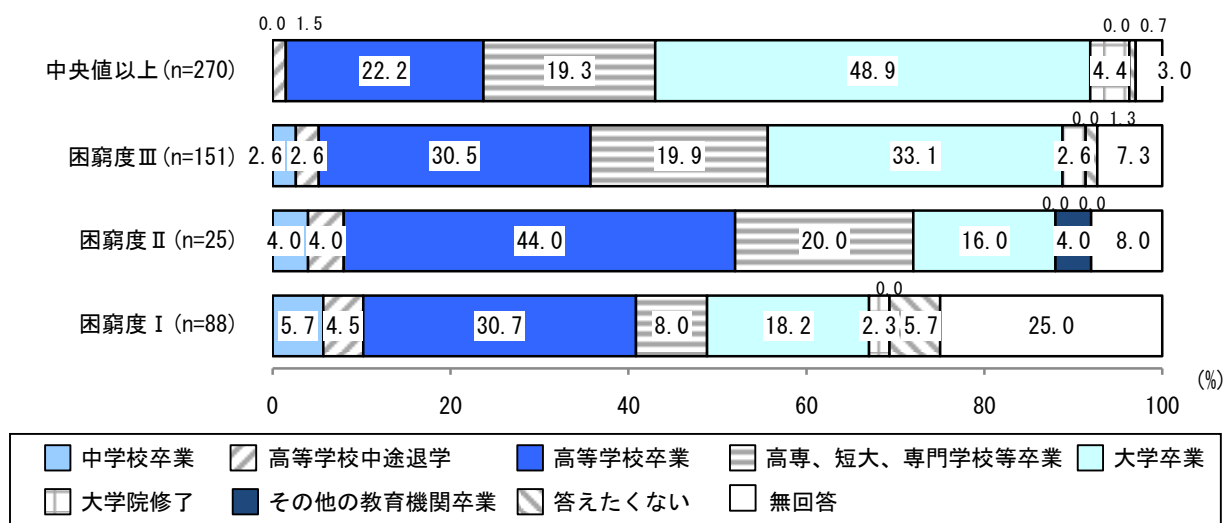
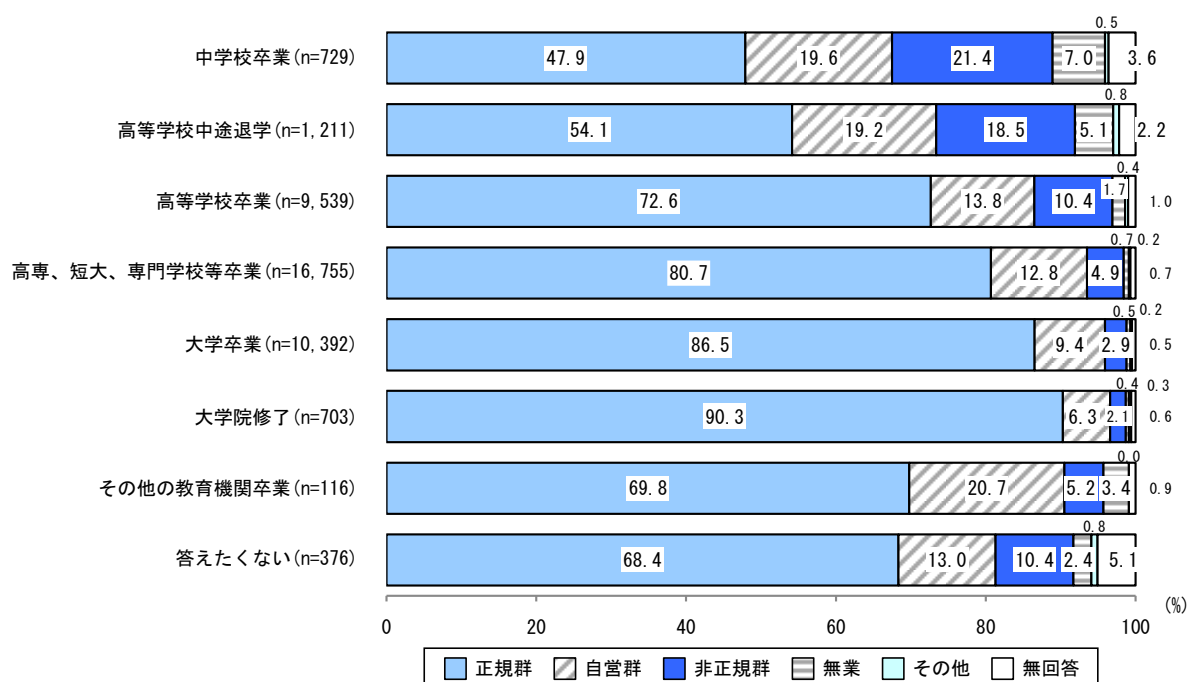


図 54. 困窮度別に見た、お父さんの最終学歴

困窮度別に父親の最終学歴を見ると、困窮度が高まるにつれ、「中学校卒業」と「高等学校中途退学」の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群において、「中学校卒業」と「高等学校中途退学」の割合はそれぞれ5.7%、4.5%である。また、困窮度Ⅰ群では無回答（25.0%）の割合も高い。

お母さんの最終学歴別に見た、就労状況（保護者票問 8 × 保護者票問 9）

<大阪府内全体>



<柏原市>

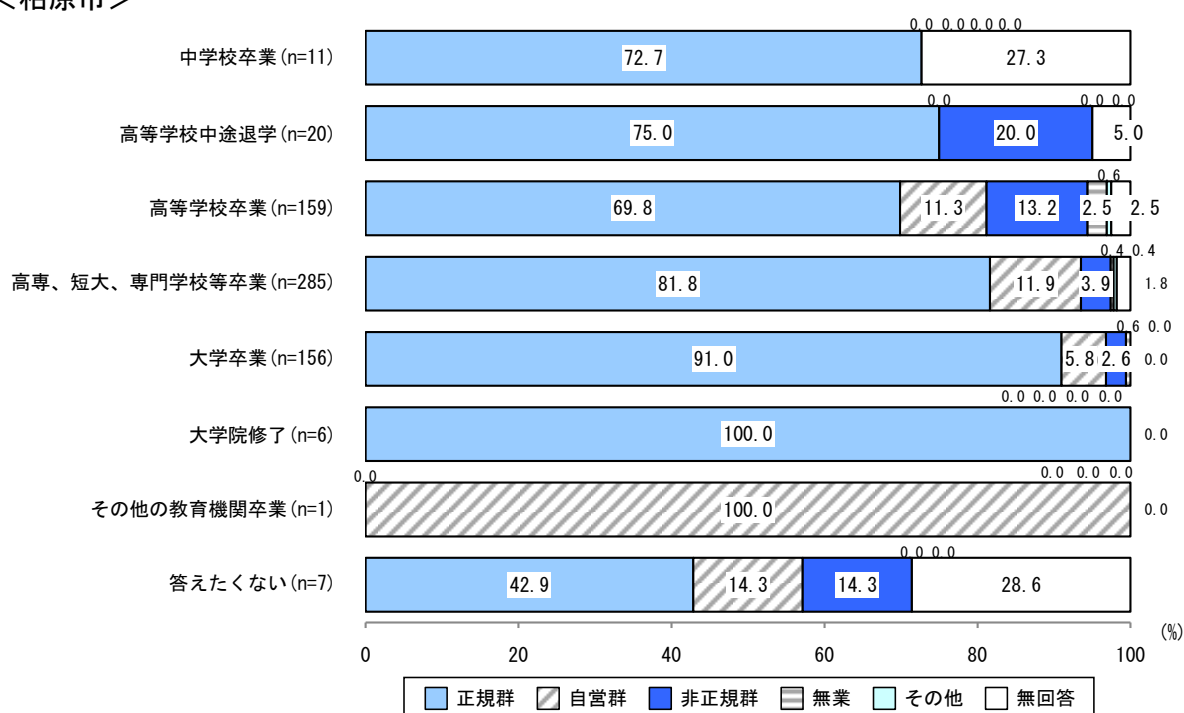
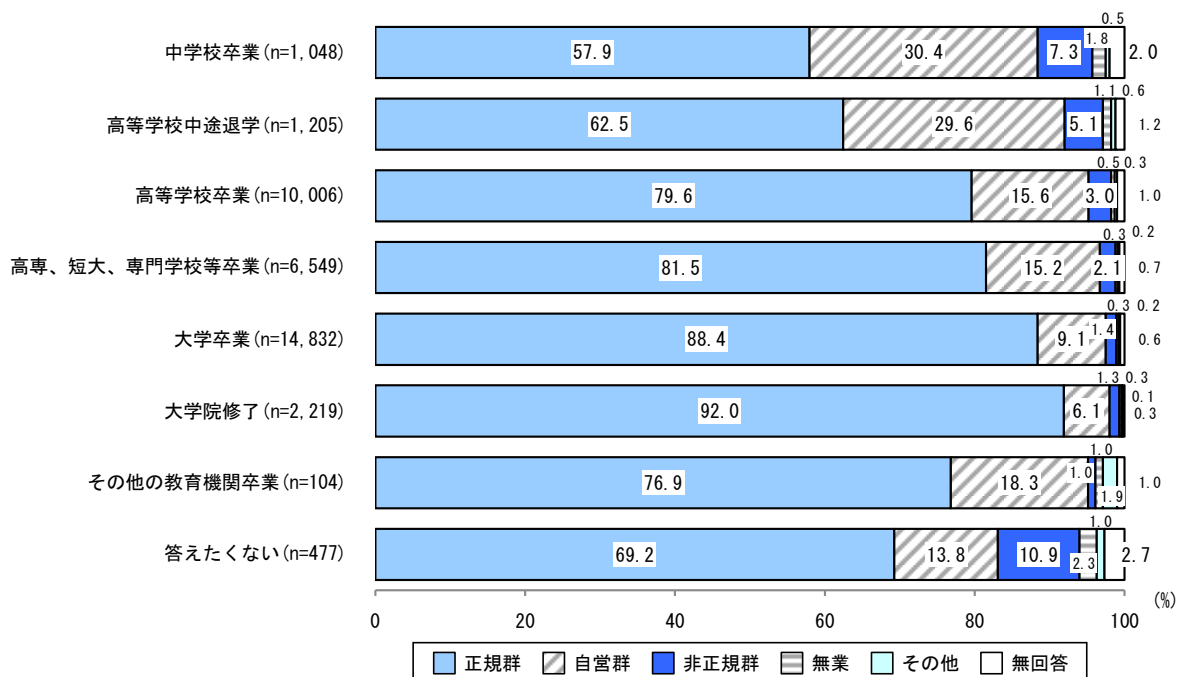


図 55. お母さんの最終学歴別に見た、就労状況

母親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、「母親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

お父さんの最終学歴別に見た、就労状況（保護者票問8×保護者票問9）

<大阪府内全体>



<柏原市>

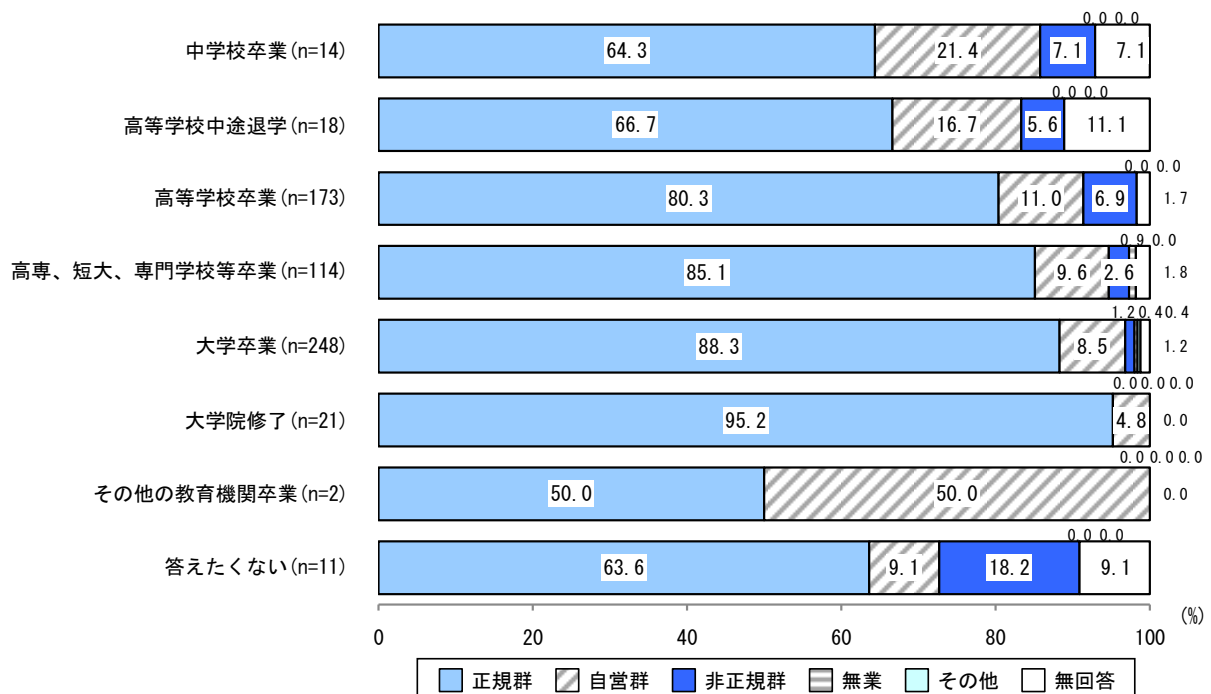
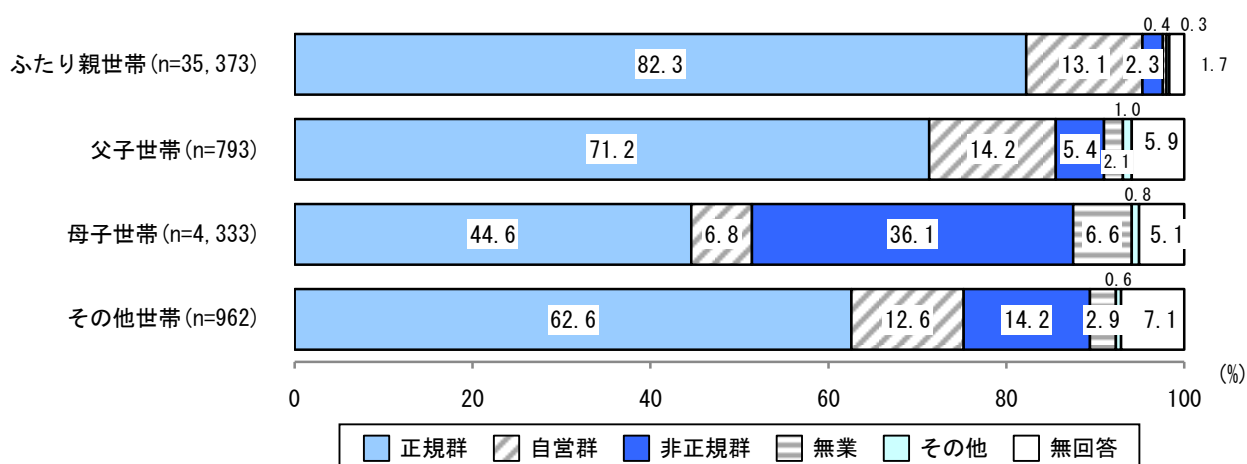


図 56. お父さんの最終学歴別に見た、就労状況

父親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、父親の最終学歴が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

世帯構成別に見た、就労状況（保護者票問2×保護者票問9）

<大阪府内全体>



<柏原市>

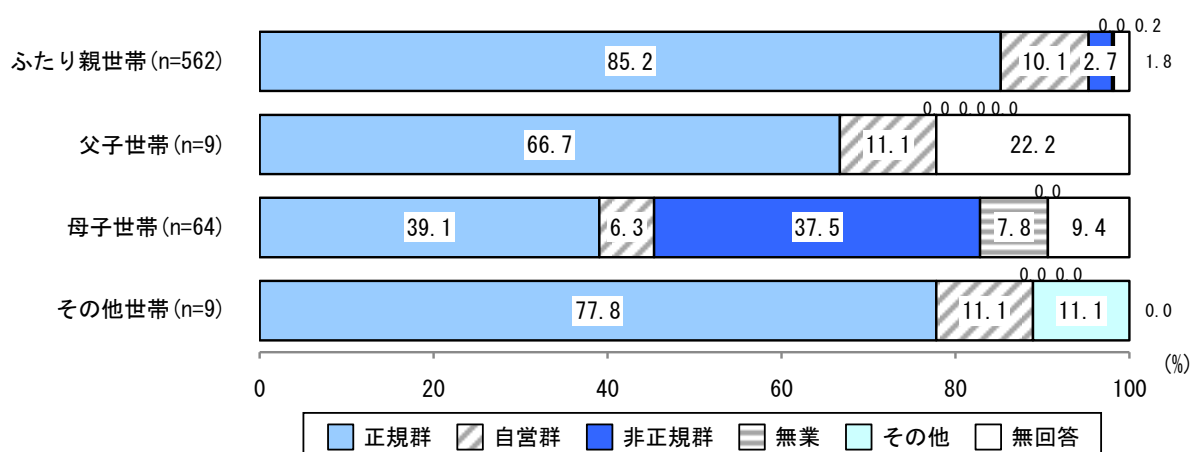
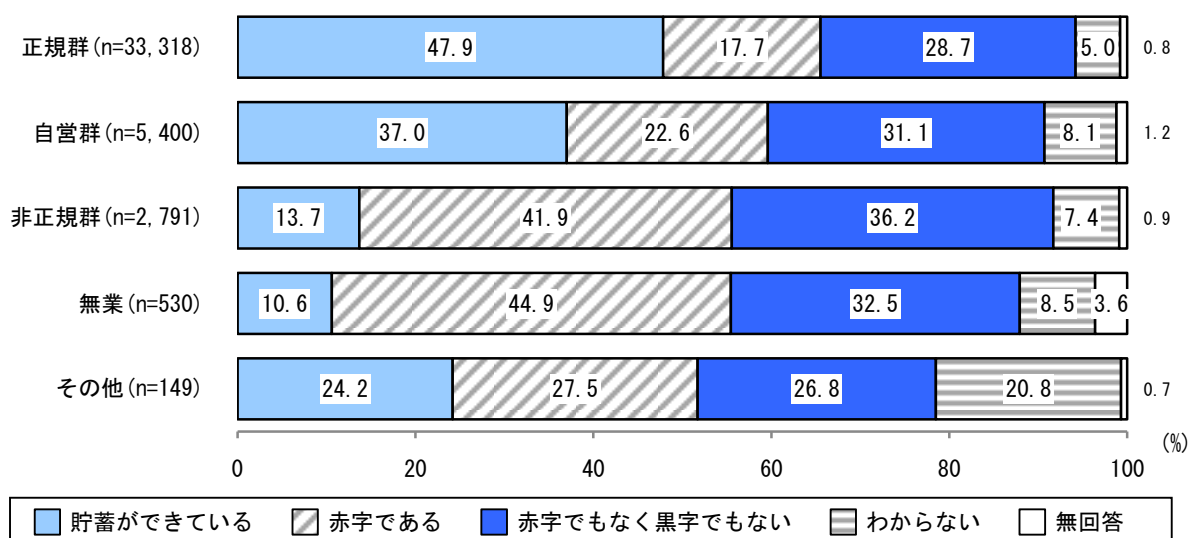


図 57. 世帯構成別に見た、就労状況

世帯構成別に就労状況を見ると、「ふたり親世帯」では「正規群」の割合が85.2%であるが、「父子世帯」では66.7%、「母子世帯」では39.1%と低くなる。「非正規群」は、「母子世帯」では37.5%となっている。

就労状況別に見た、家計の状況（保護者票問9×保護者票問6（1））

<大阪府内全体>



<柏原市>

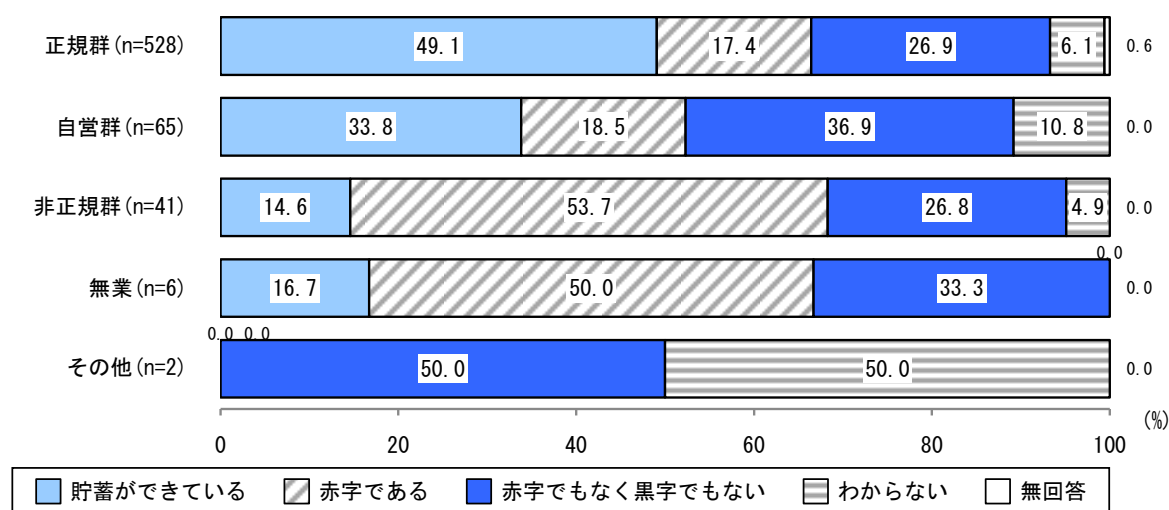


図 58. 就労状況別に見た、家計の状況

就労状況別に家計状況を見ると、「正規群」、「自営群」では「貯蓄ができています」割合がそれぞれ、49.1%、33.8%である。「非正規群」、「無業」では「赤字である」と回答した人が53.7%、50.0%にのぼっている。

＜雇用に関する考察＞

はじめに、困窮度別の保護者の就労状況と最終学歴について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間で差が大きい項目に着目して述べる。親の就労状況を困窮度別に見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「正規」群（92.2%対50.0%）が約42ポイント高く、大きな開きがある。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「非正規」群（28.4%対1.9%）が25ポイント以上高くなっている。母親の最終学歴を困窮度別に見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「高等学校中途退学」群（11.4%対1.9%）が約10ポイント、「高等学校卒業」群（37.5%対20.0%）は15ポイント以上高くなっている。一方で、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「高専、短大、専門学校等卒業」群（44.4%対28.4%）が15ポイント以上高く、大学以上（「大学卒業」と「大学院修了」）群（30.4%対15.9%）は約2倍となっている。同様に、父親の最終学歴においても、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「高等学校中途退学」群（4.5%対1.5%）は3倍であり、「高等学校卒業」群（30.7%対22.2%）は5ポイント以上高くなっている。また、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「高専、短大、専門学校等卒業」群（19.3%対8.0%）は10ポイント以上、大学以上（「大学卒業」と「大学院修了」）群（53.3%対20.5%）は約33ポイント高くなっている。これらの結果から、経済的に困難な世帯の保護者の雇用形態が所得階層の分布に反映されていることがわかる。また、困窮度が高い群では親の最終学歴が低い傾向が見られる。

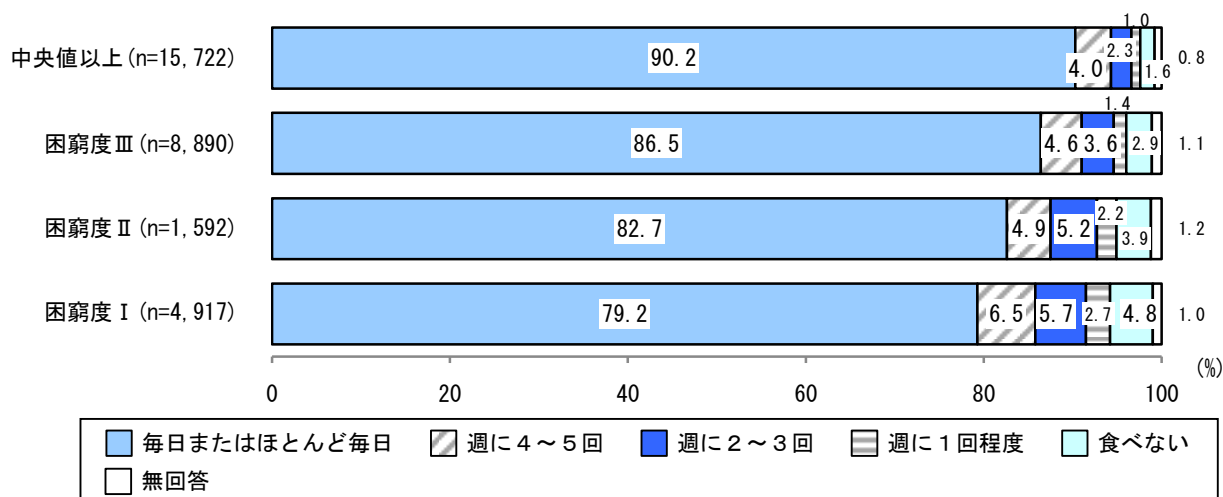
次に、世帯構成別に親の就労状況を確認すると、ふたり親世帯は母子世帯と比べ、「正規」群（85.2%対39.1%）が2倍以上であり、母子世帯の正規雇用の割合の低さが顕著である。また、母子世帯は、「非正規」群（37.5%）の割合が他の世帯構成に比べて極めて高くなっており、不安定な就労状況にあることが示唆される。

最後に、保護者の就労状況別に見る家計の状況に着目すると、「正規」群は「非正規」群と比べ、「貯蓄ができている」（49.1%対14.6%）が3倍以上である。一方で、「非正規」群は「正規」群と比べ、家計状況が「赤字である」（53.7%対17.4%）は36ポイント高く、大きな差がある。この結果から、保護者が正規雇用であるほど、貯蓄ができるなど生活が安定している傾向が見られる。

3-3. 健康

困窮度別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

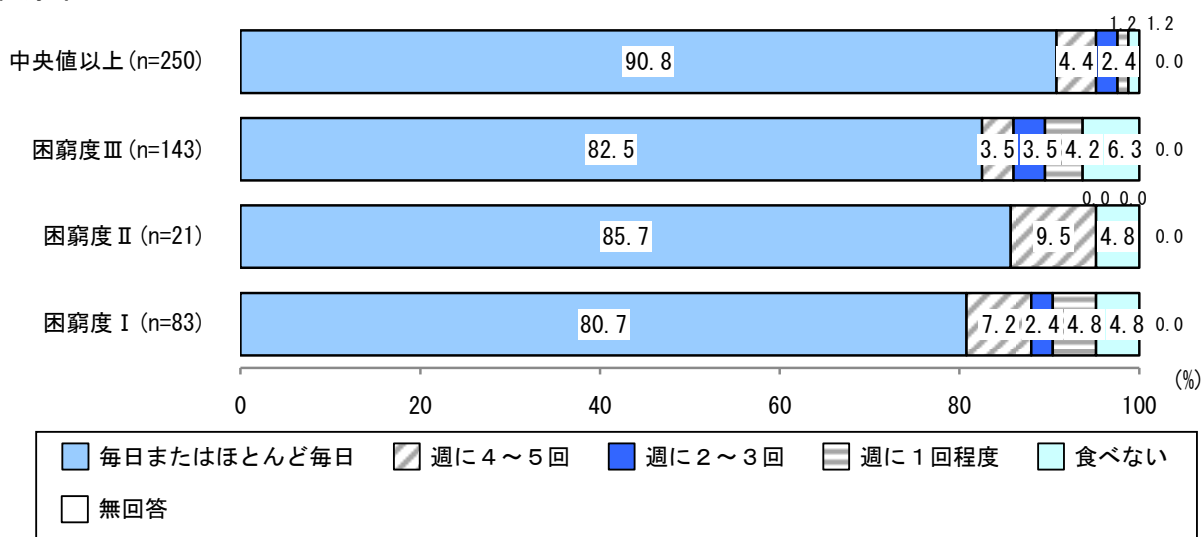
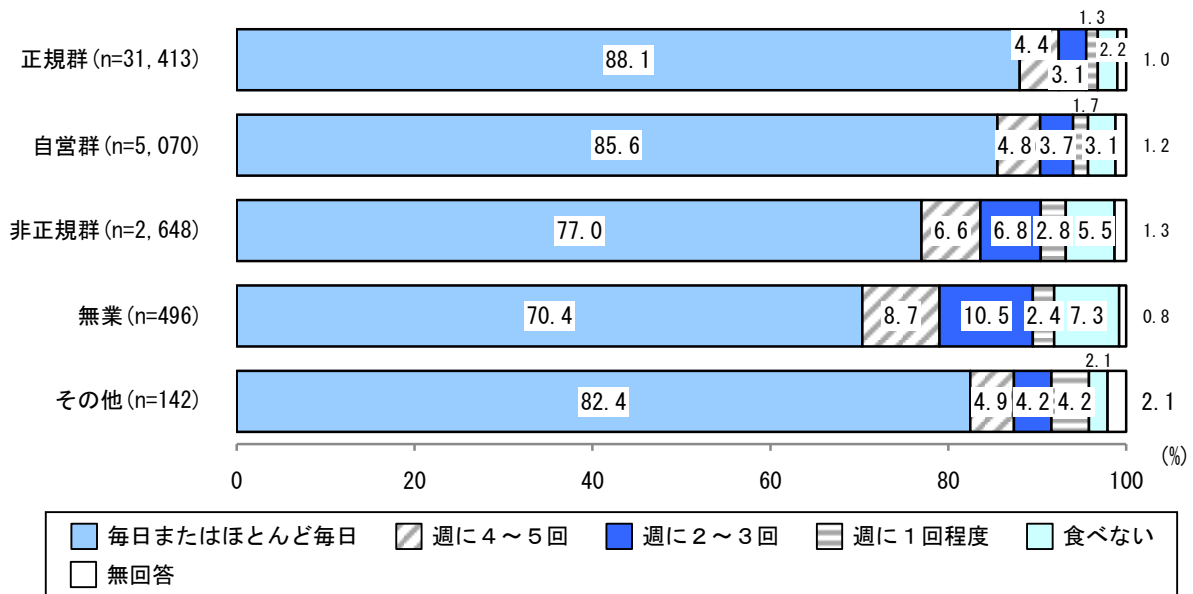


図 59. 困窮度別に見た、朝食の頻度

困窮度別に朝食の頻度を見ると、中央値以上では「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べる頻度が90.8%と最も高く、朝食の頻度が「週に1回程度」「食べない」割合がともに1.2%と最も低かった。困窮度Ⅰ群では、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる頻度が80.7%と最も低かった。

就労状況別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

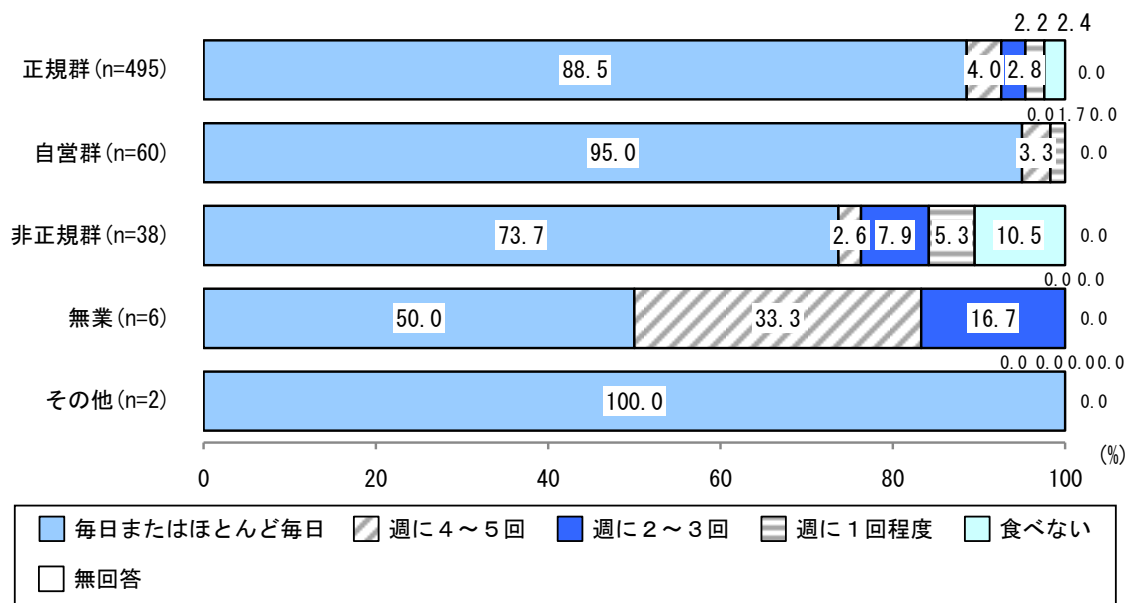
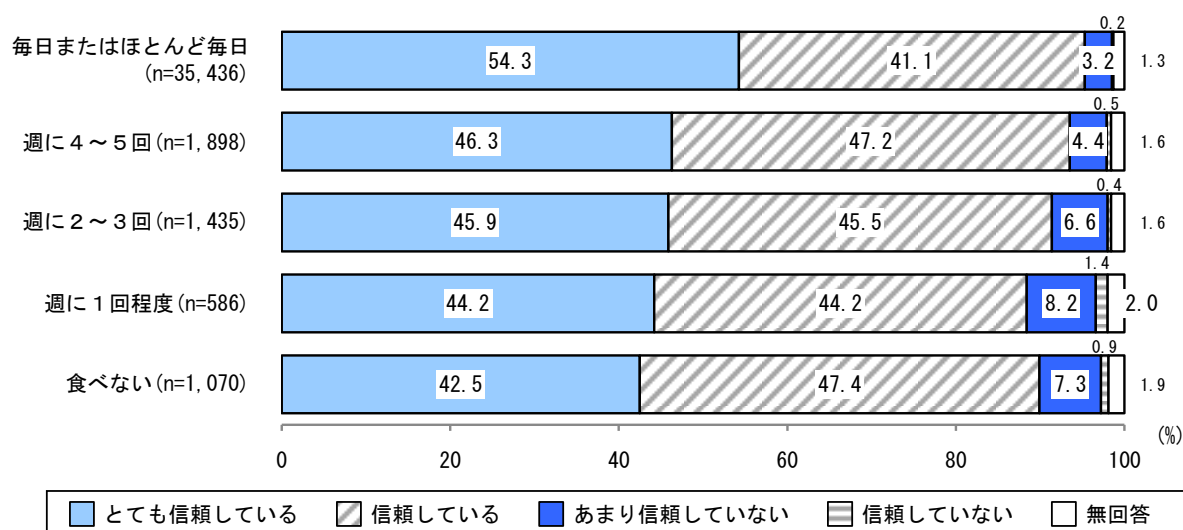


図 60. 就労状況別に見た、朝食の頻度

就労状況別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる割合は、「自営群」(95.0%)が最も高く、次いで、「正規群」(88.5%)、「非正規群」(73.7%)、「無業」(50.0%)の順で朝食の頻度が低くなる。

朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度（子ども票問4(1)×保護者票問13(1)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

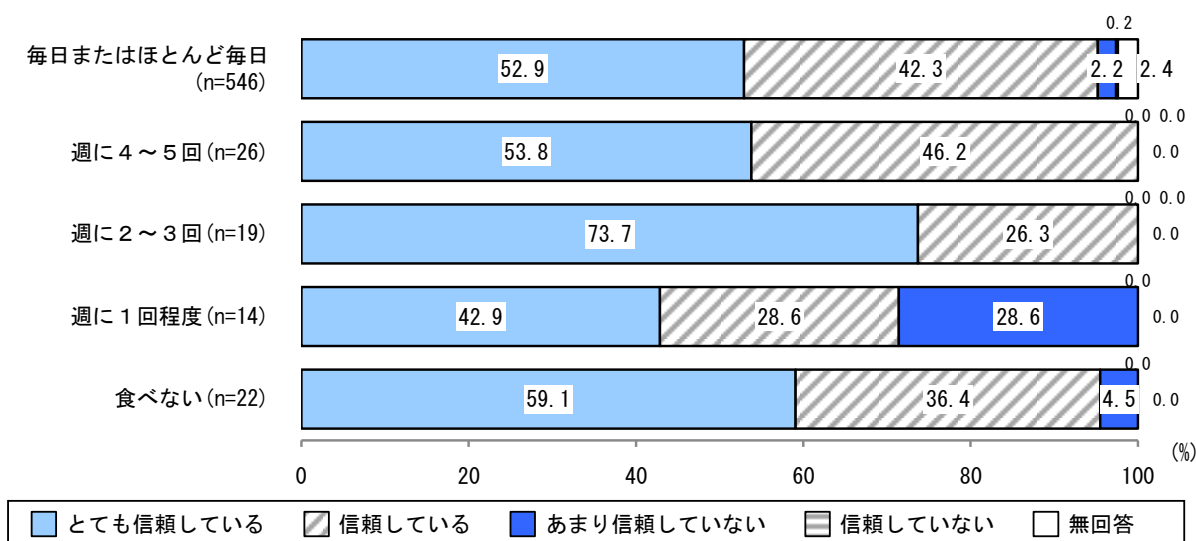
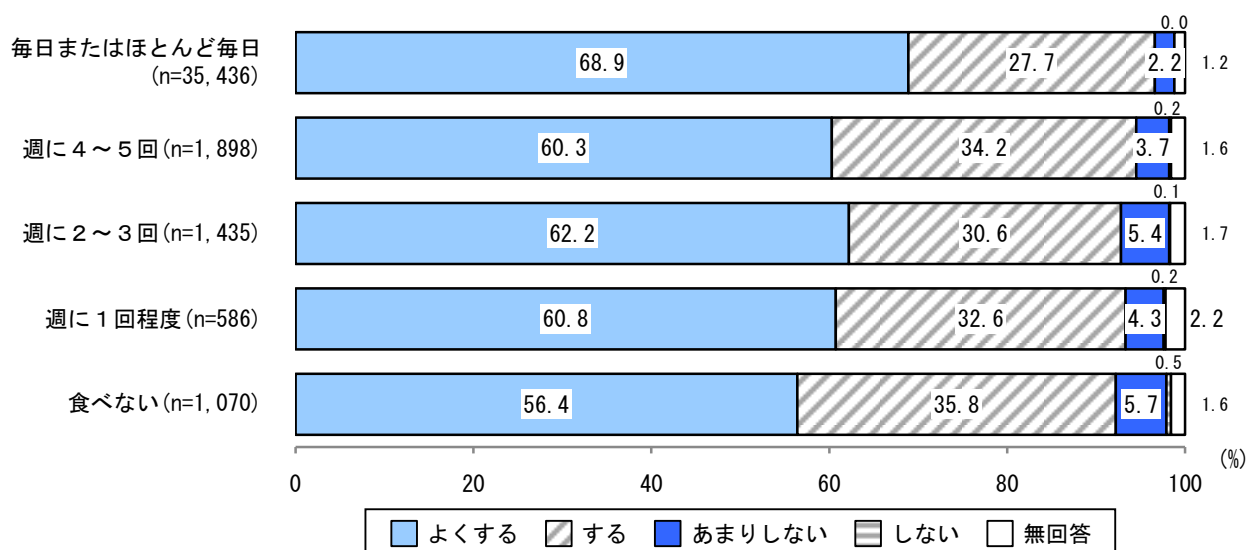


図 61. 朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度

朝食の頻度別に子どもへの信頼度を見ると、「週2～3回」朝食をとっていると回答した人では、子どもを「とても信頼している」との回答が73.7%であるのに対し、「食べない」では、「とても信頼している」と回答した人は59.1%となっている。

朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度（子ども票問 4 (1) × 保護者票問 13 (2)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

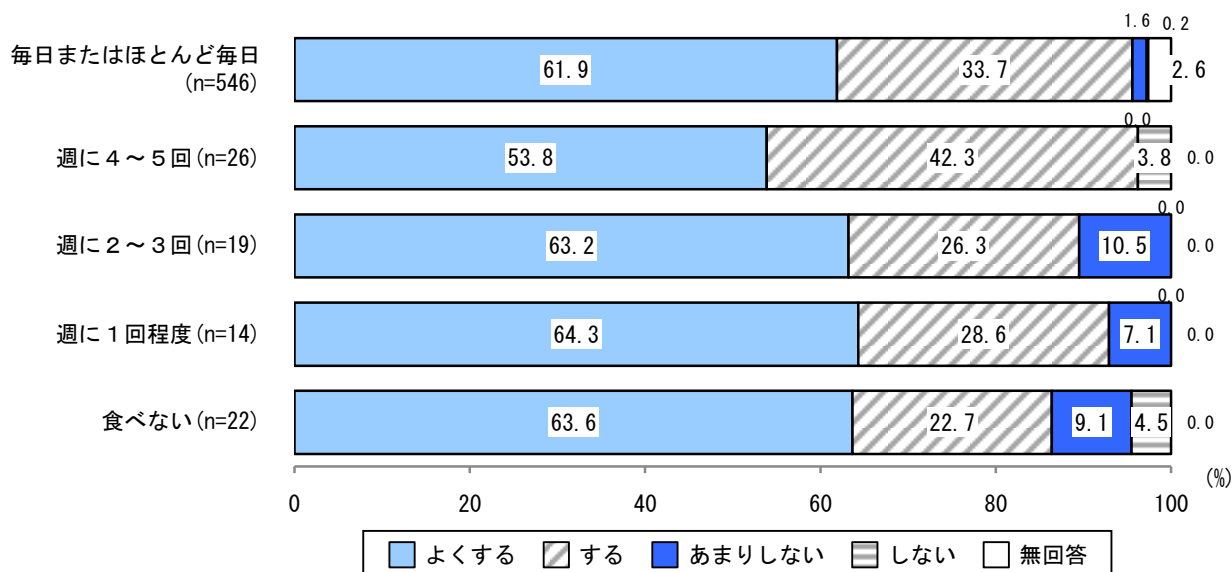
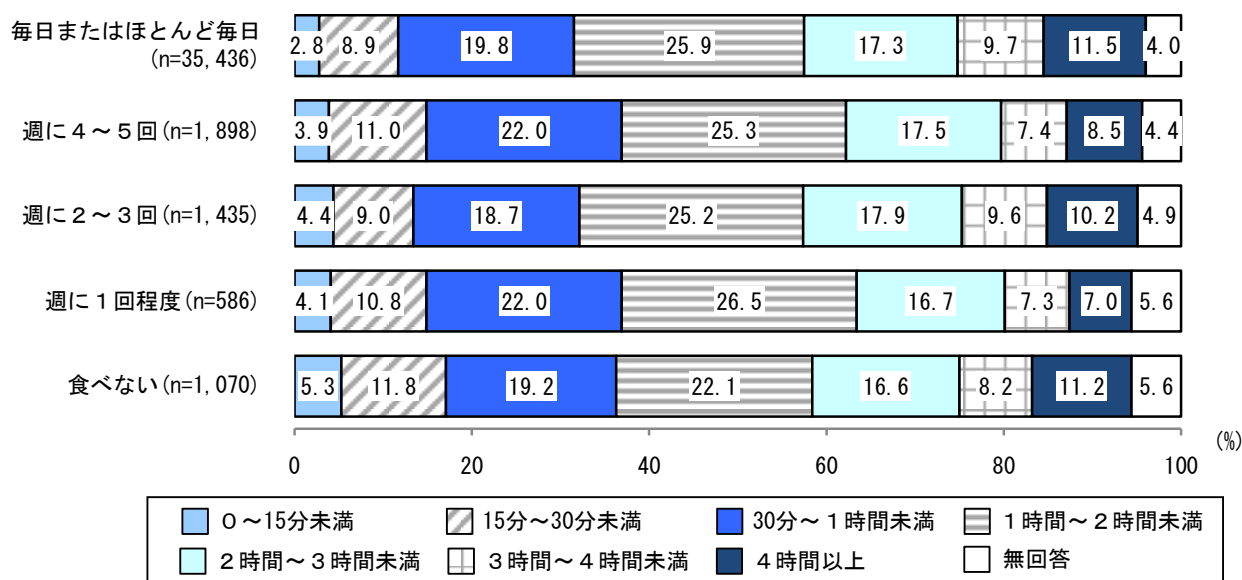


図 62. 朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度

朝食の頻度別に子どもとの会話頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている
と回答した人では、会話を「よくする」との回答が61.9%であるのに対し、「週に 4～5 回」で
は、「よくする」と回答した人は53.8%と低い。

朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間（子ども票問4(1)×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

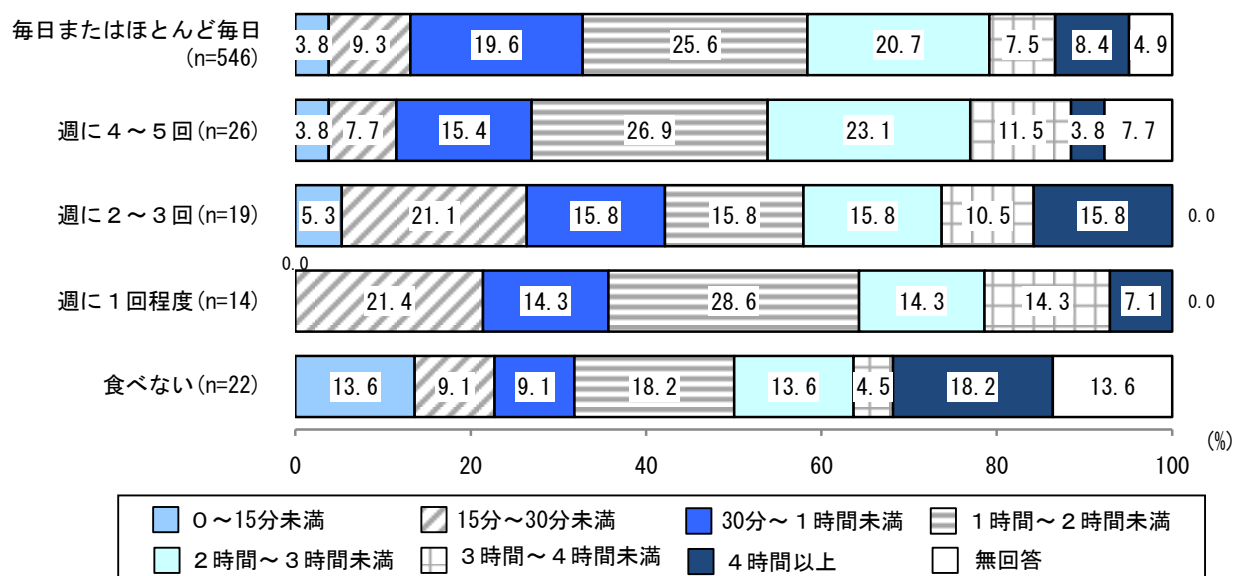
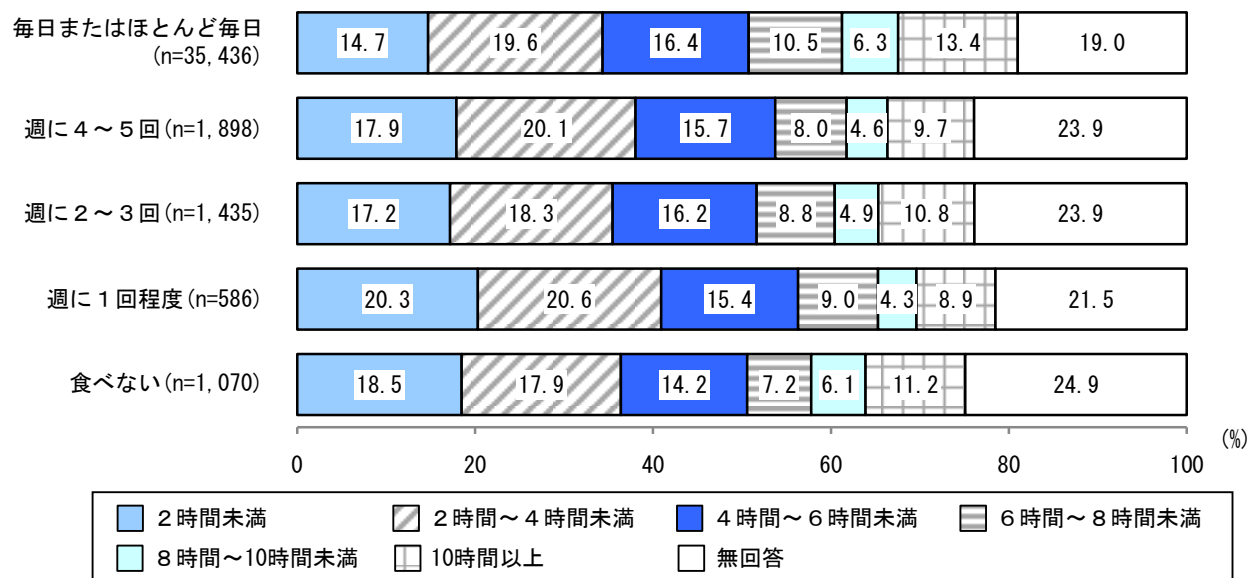


図 63. 朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間

朝食の頻度別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」「週に4～5回」朝食をとっている人が「0～15分未満」の割合が3.8%に対し、朝食を「食べない」人は「0～15分未満」の割合が13.6%と最も高い。

朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間（子ども票問4(1)×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

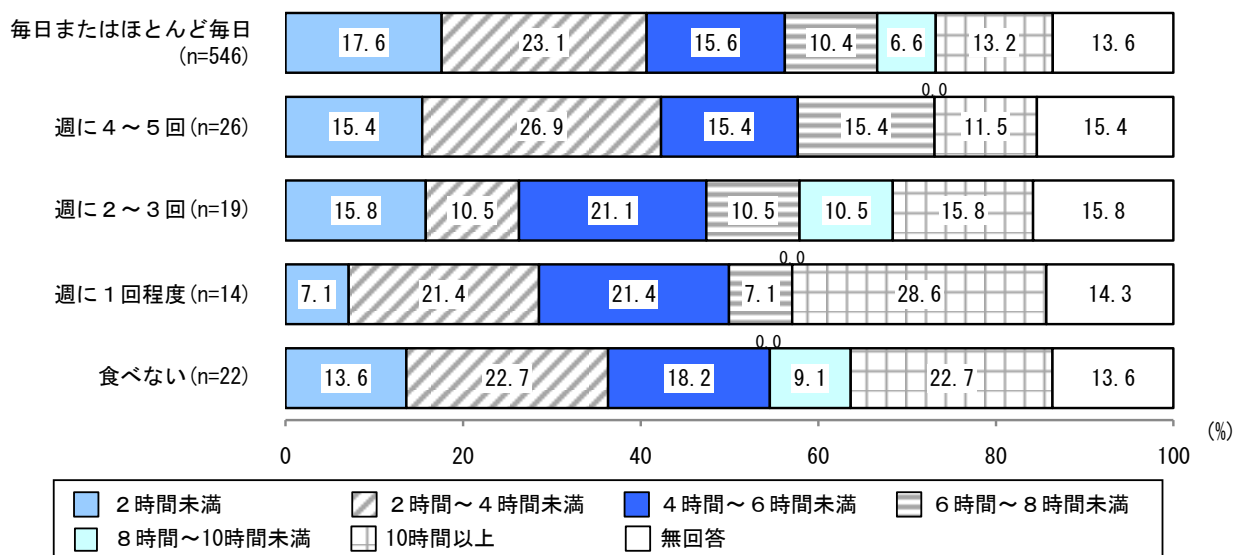
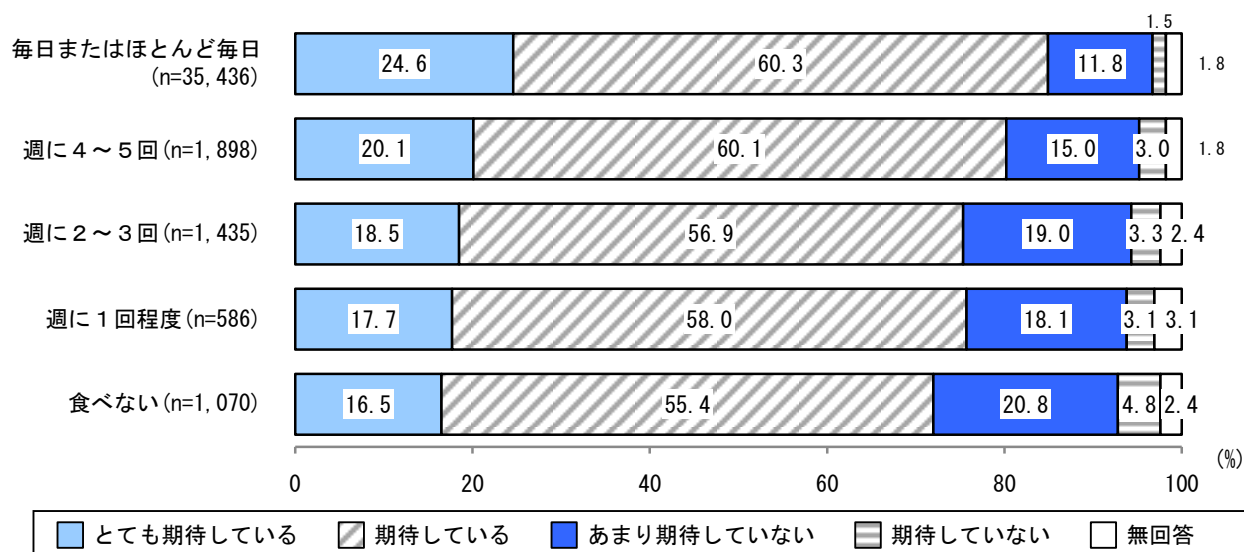


図 64. 朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間

朝食の頻度別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人で、休日に子どもと一緒にいる時間が「2時間未満」の割合が17.6%と最も高い。

朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度（子ども票問 4 (1) × 保護者票問 13 (4)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

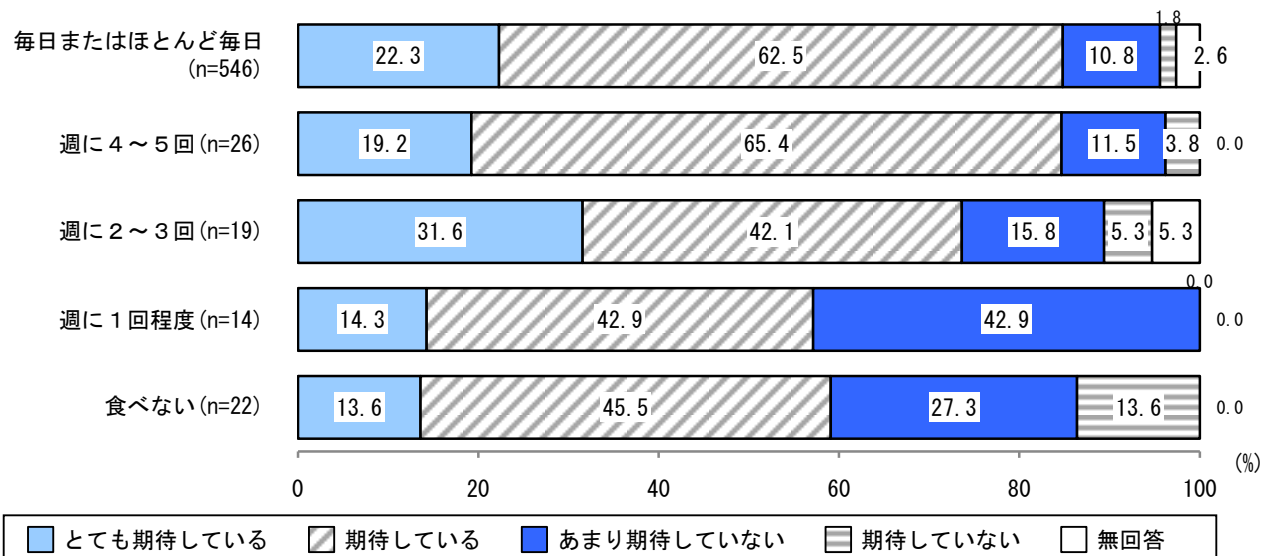


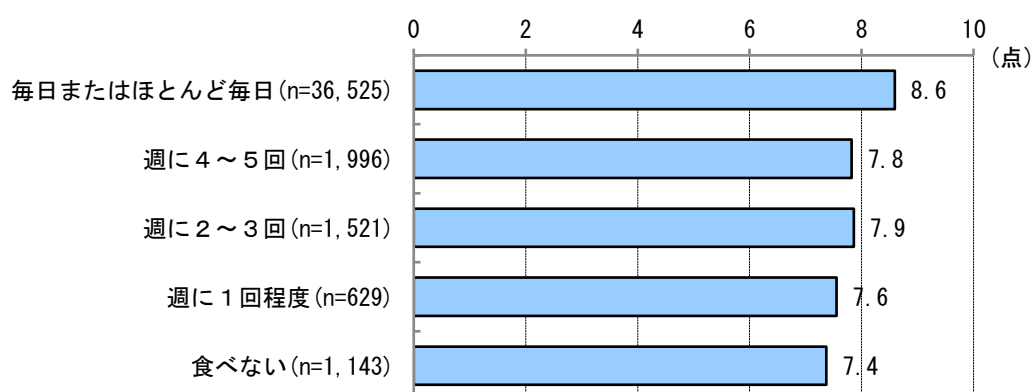
図 65. 朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度

朝食の頻度別に子どもの将来への期待度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人では、「とても期待している」「期待している」をあわせて、84.8%であるのに対して、「食べない」の人では、「とても期待している」「期待している」と回答した人をあわせて59.1%と、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人のほうが子どもの将来に対する期待が高い結果となった。

朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問4（1）×子ども票問23）

※「自分に自信がある」「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」「自分の将来の夢や目標を持っている」の3項目について、それぞれ4段階で評価させ、その値を合計した得点を、セルフ・エフィカシー得点とした。得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表す。

<大阪府内全体>



<柏原市>

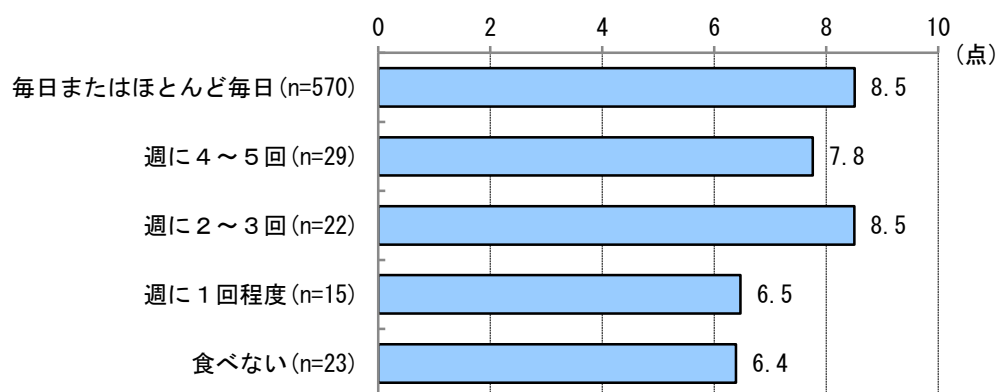
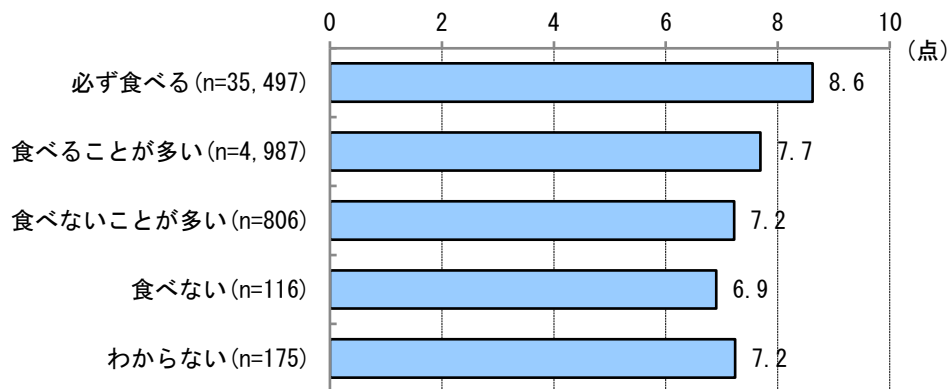


図 66. 朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、8.5点であるのに対して、「食べない」では、6.4点と、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が最も低い結果となった。

休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問6(1)×子ども票問23）

<大阪府内全体>



<柏原市>

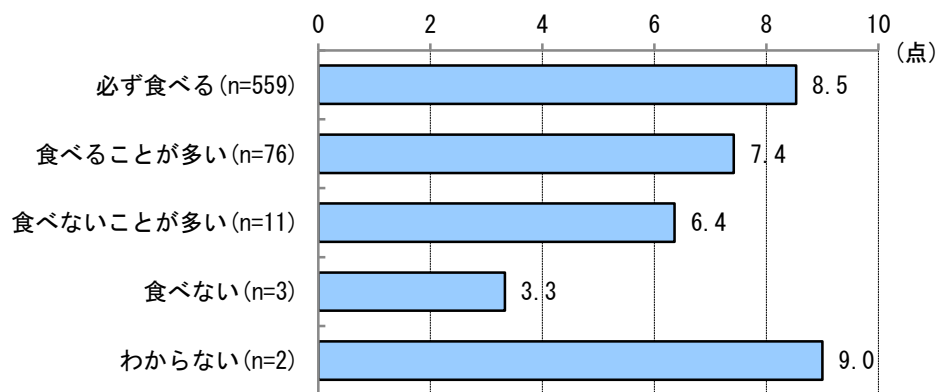
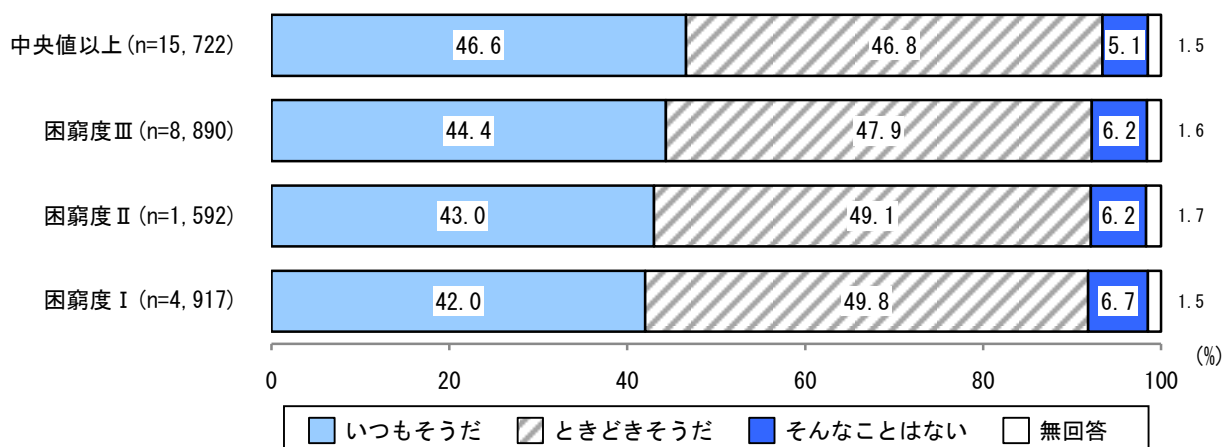


図 67. 休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

休日の昼食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「必ず食べる」と回答した人の得点が8.5点であるのに対して、「食べない」と回答した人は3.3点と昼食を「必ず食べる」と回答した人のほうが、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある
(子ども票問 19①)

<大阪府内全体>



<柏原市>

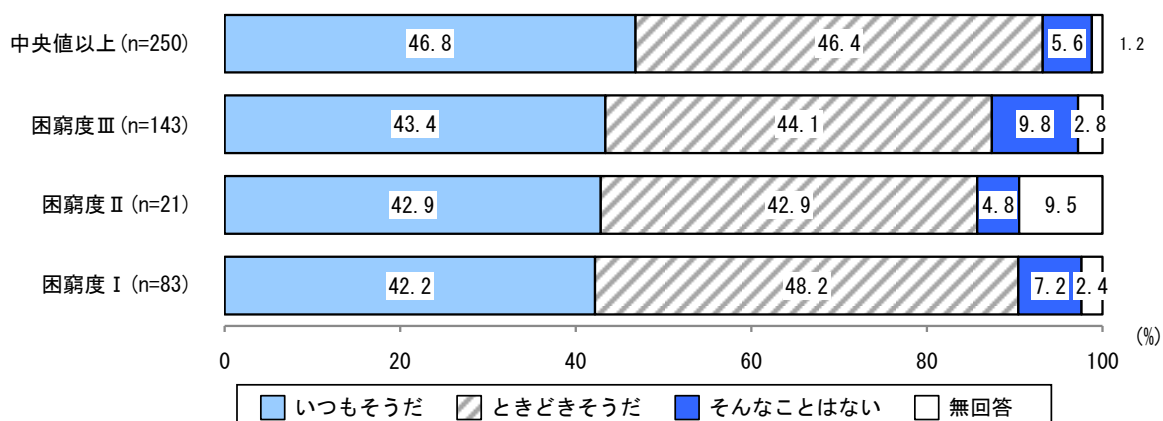
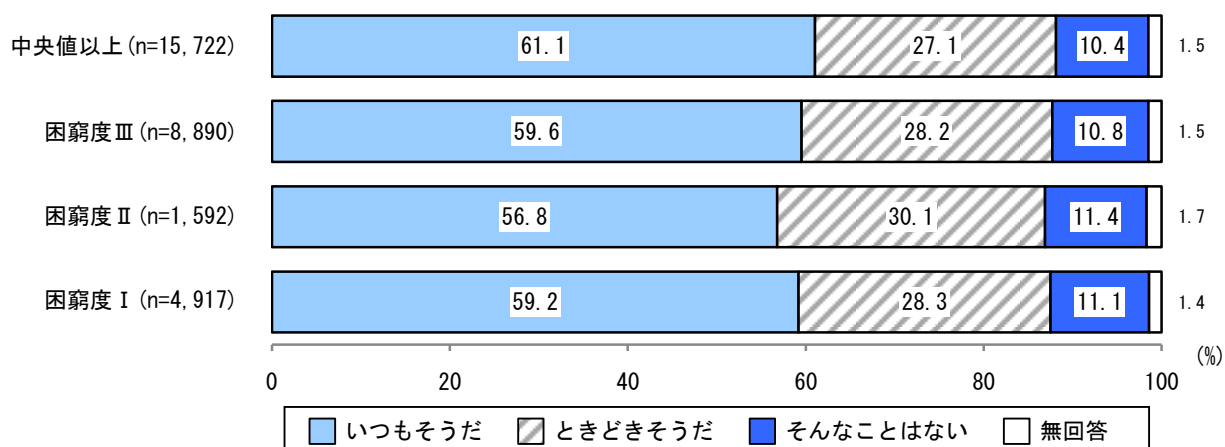


図 68. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で楽しみにしていることがたくさんあるを見ると、困窮度が高まるにつれ、「いつもそうだ」と回答する割合が低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ(子ども票問 19②)

<大阪府内全体>



<柏原市>

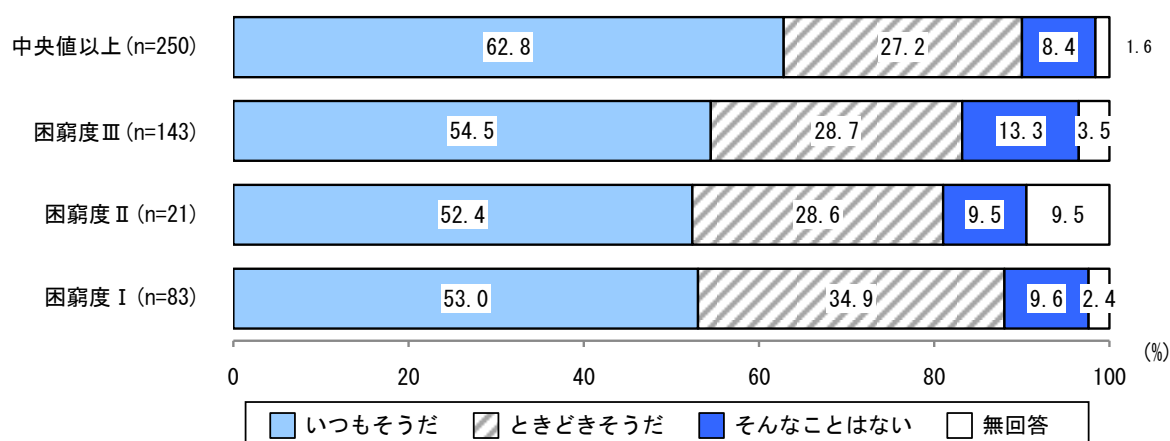
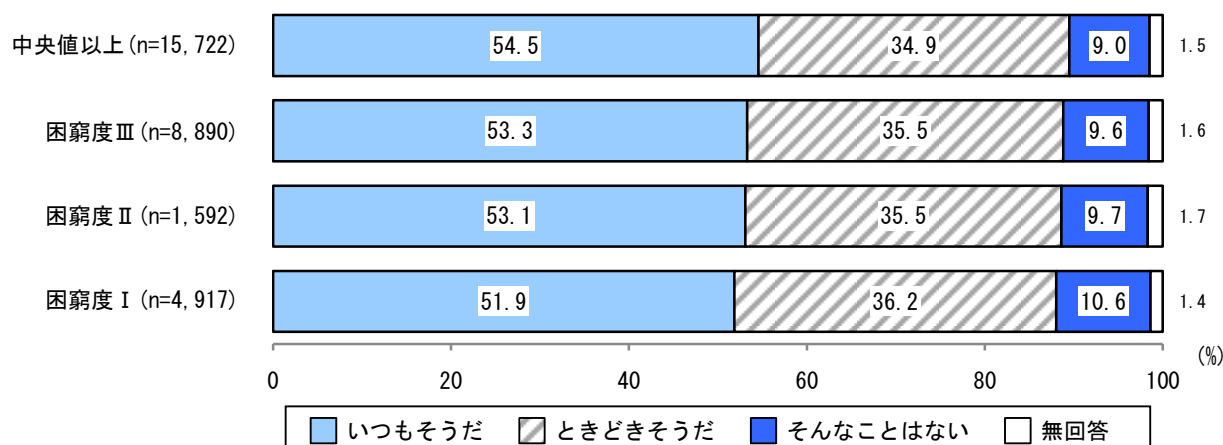


図 69. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で遊びにでかけるのが好きだを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅱ群（52.4%）で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ（子ども票問 19③）

<大阪府内全体>



<柏原市>

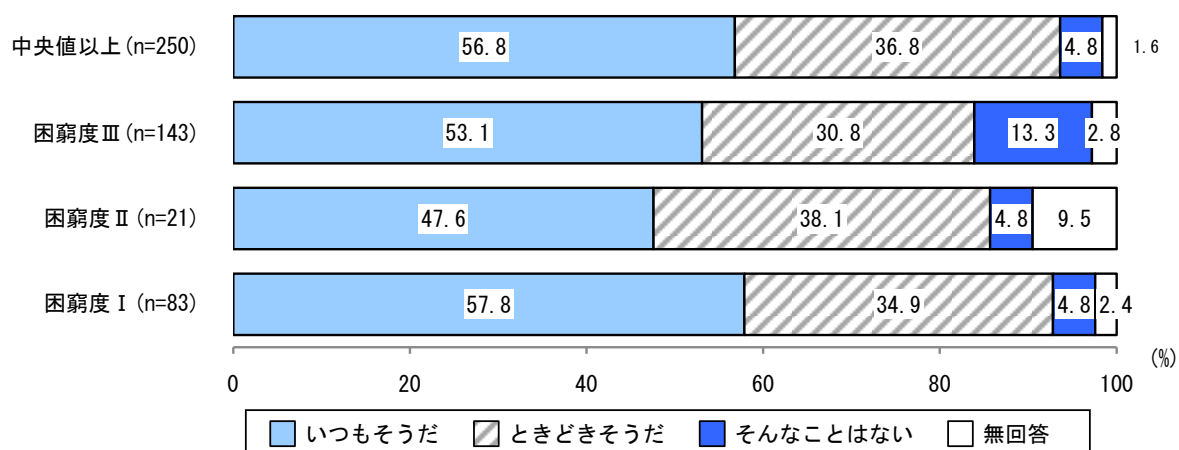
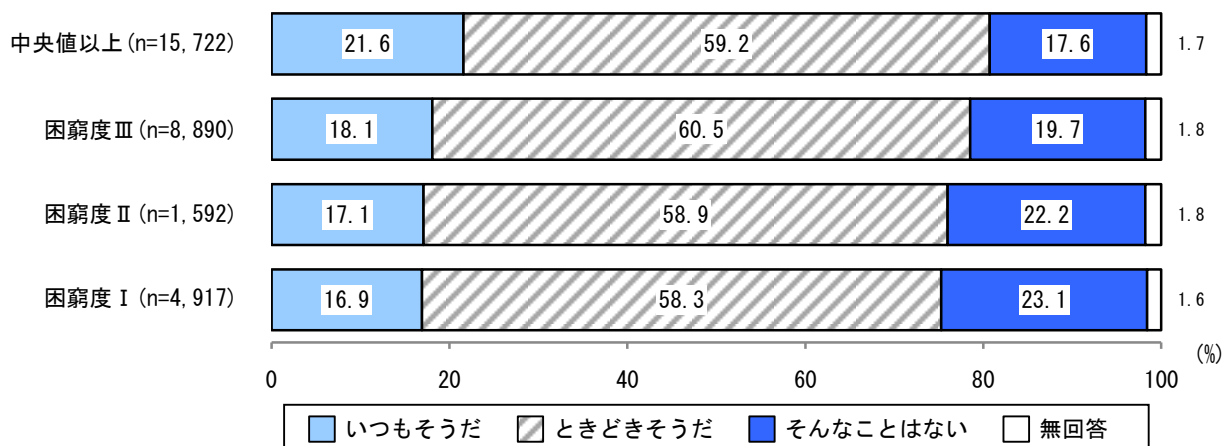


図 70. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で元気いっぱいだを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅱ群（47.6%）で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる
(子ども票問 19④)

<大阪府内全体>



<柏原市>

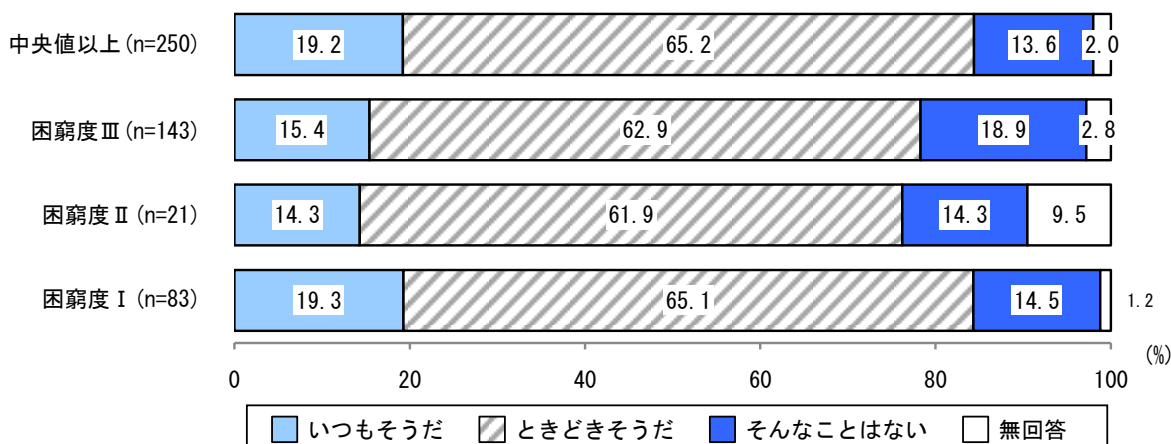
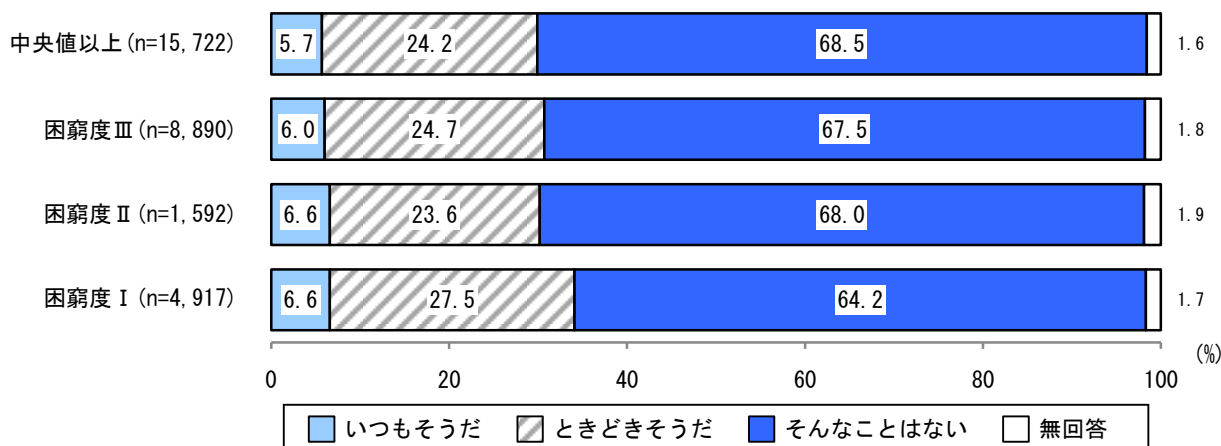


図 71. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でやろうと思ったことがうまくできるを見ると、「そんなことはない」と回答した人は中央値以上群（13.6%）で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする
(子ども票問 19⑤)

<大阪府内全体>



<柏原市>

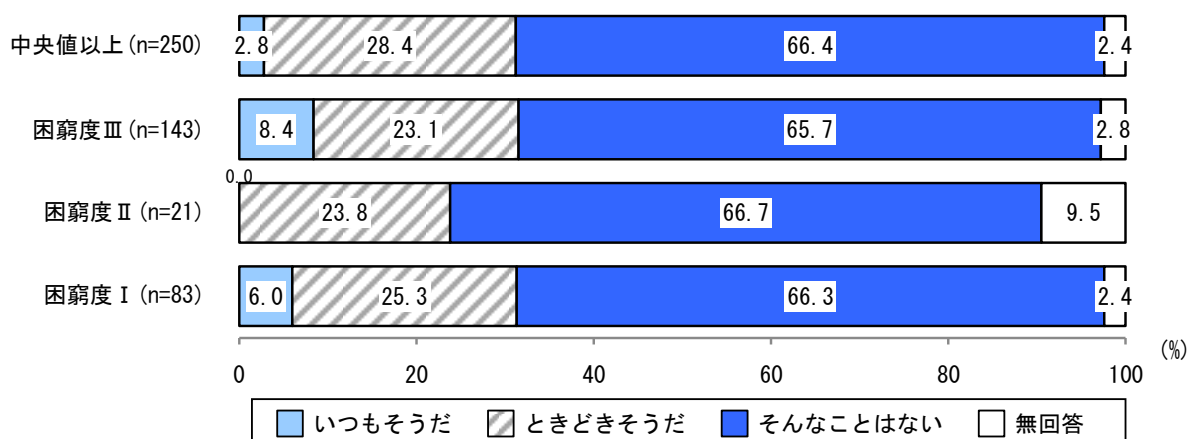
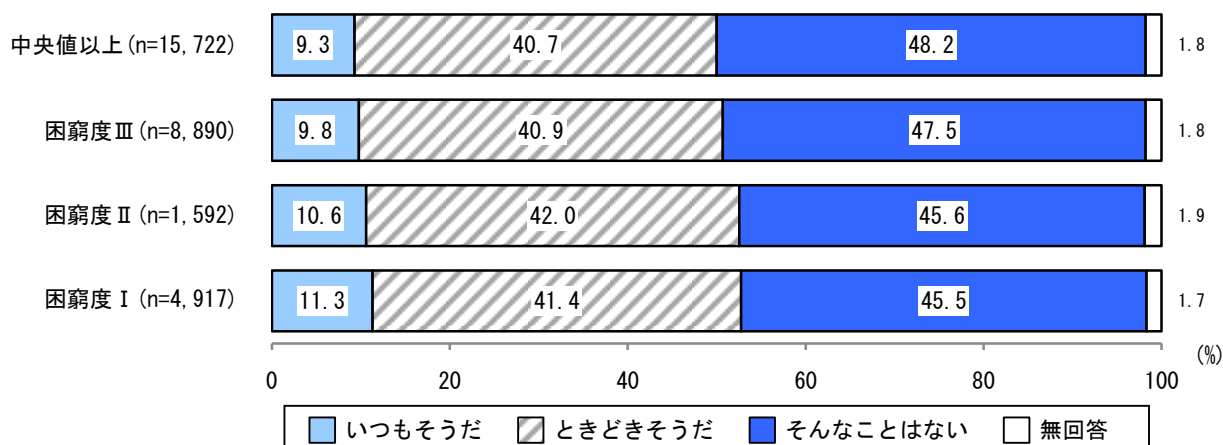


図 72. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅲ群（8.4%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる（子ども票問 19⑥）

<大阪府内全体>



<柏原市>

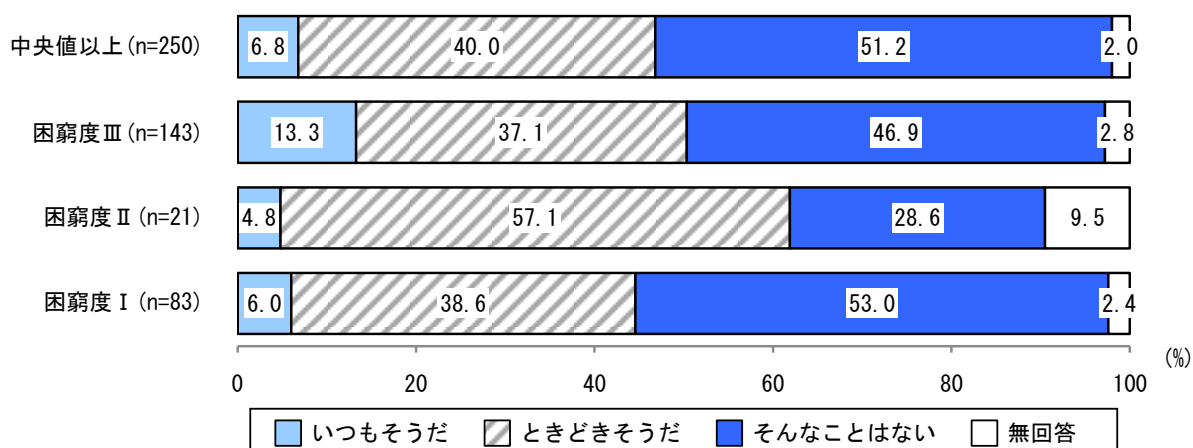
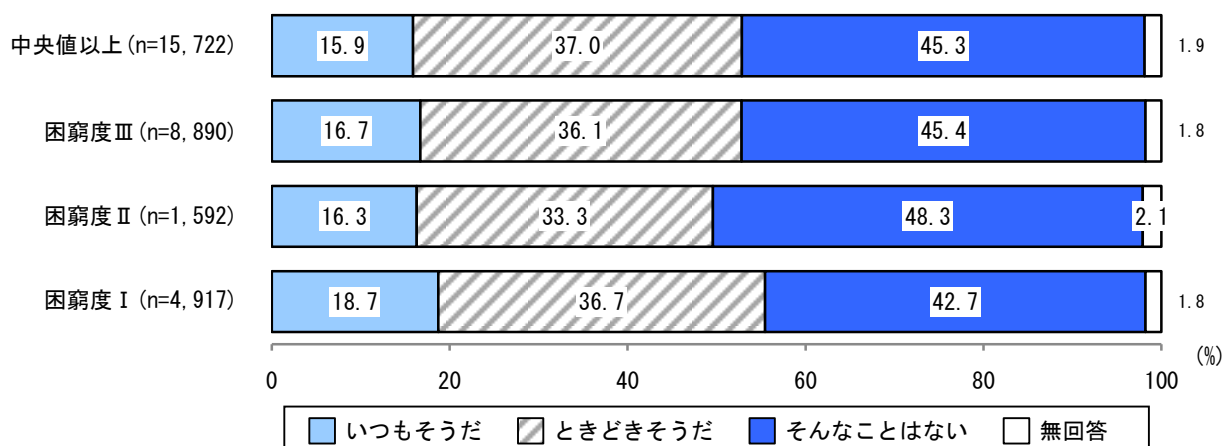


図 73. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で不安な気持ちになるを見ると、「そんなことはない」と回答した人は困窮度Ⅰ群（53.0%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる（子ども票問 19⑦）

<大阪府内全体>



<柏原市>

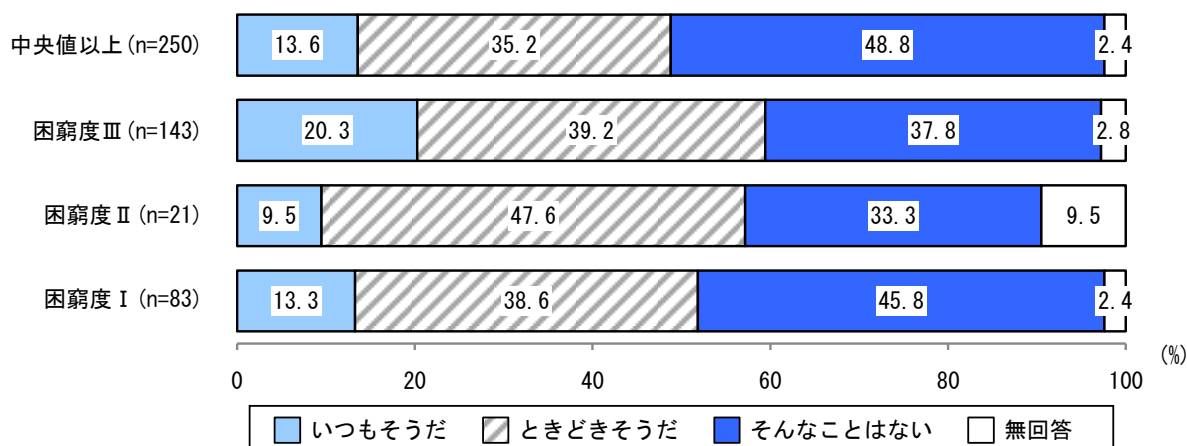
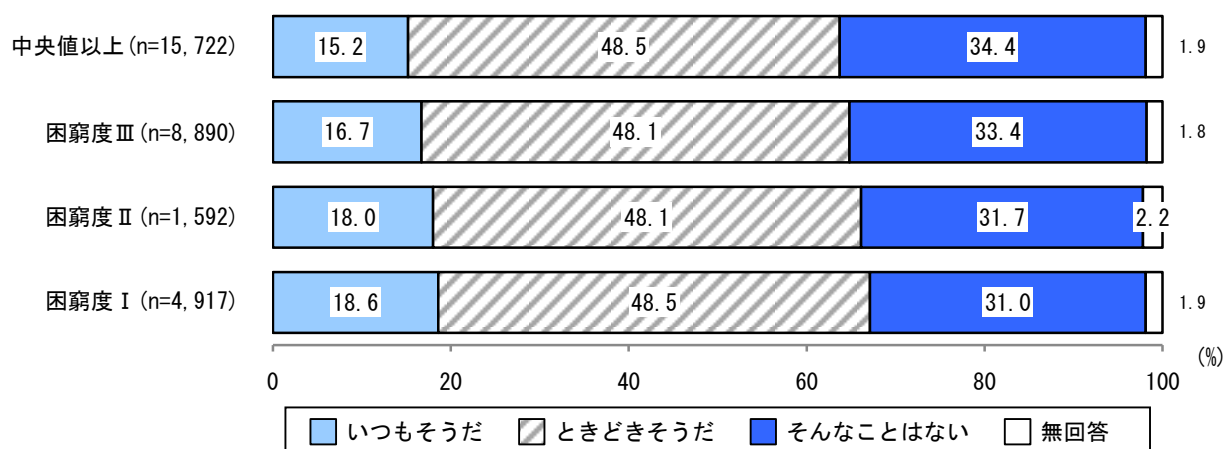


図 74. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でまわりが気になるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅲ群（20.3%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない（子ども票問 19⑧）

<大阪府内全体>



<柏原市>

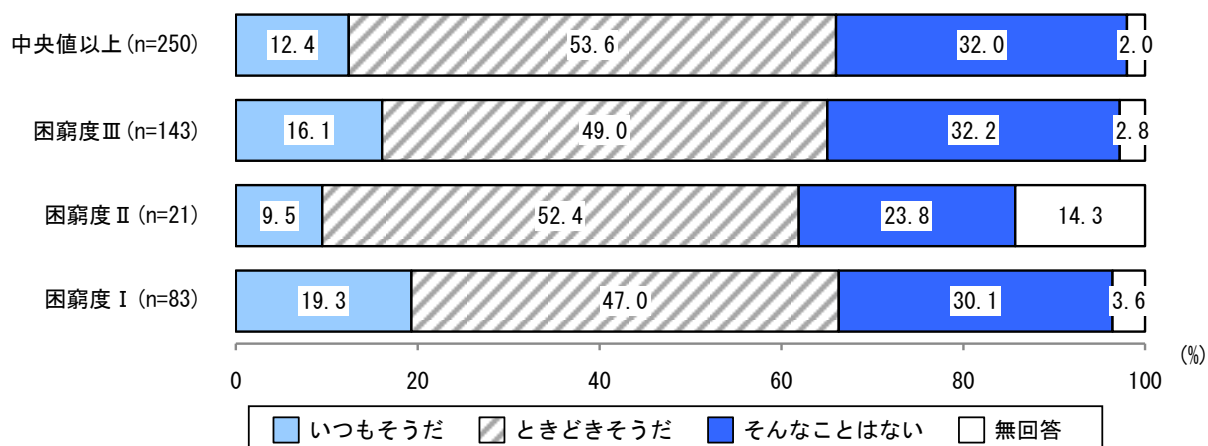
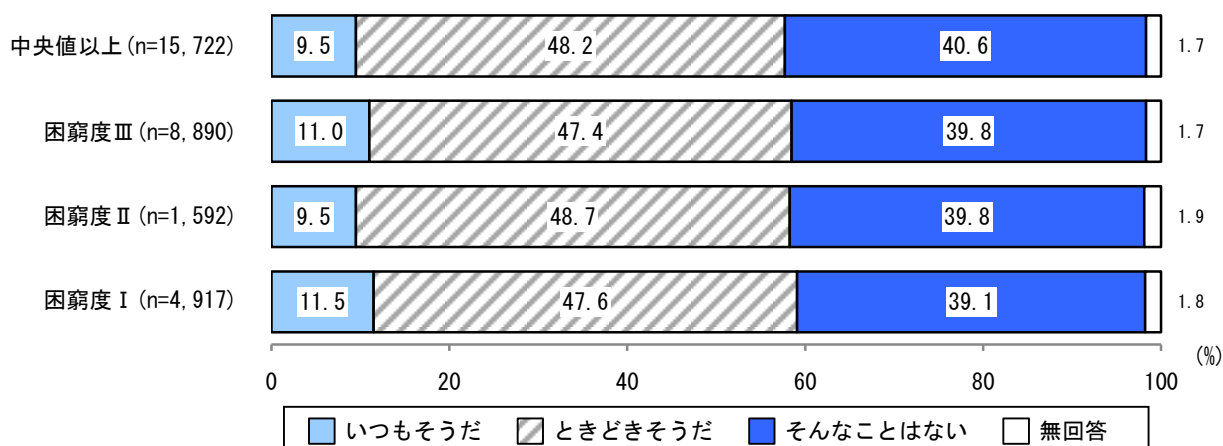


図 75. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でやる気が起きないを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅰ群（19.3%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする（子ども票問 19⑨）

<大阪府内全体>



<柏原市>

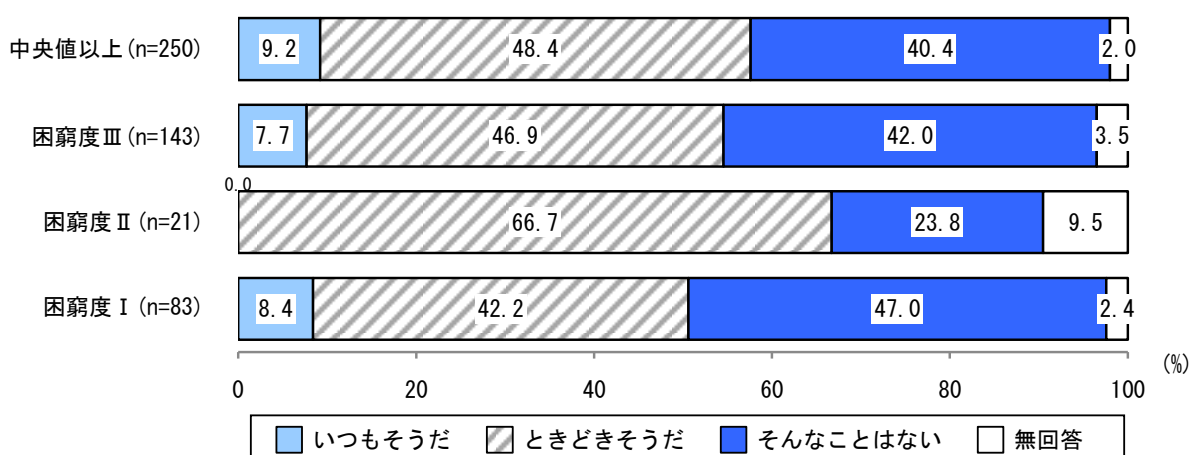
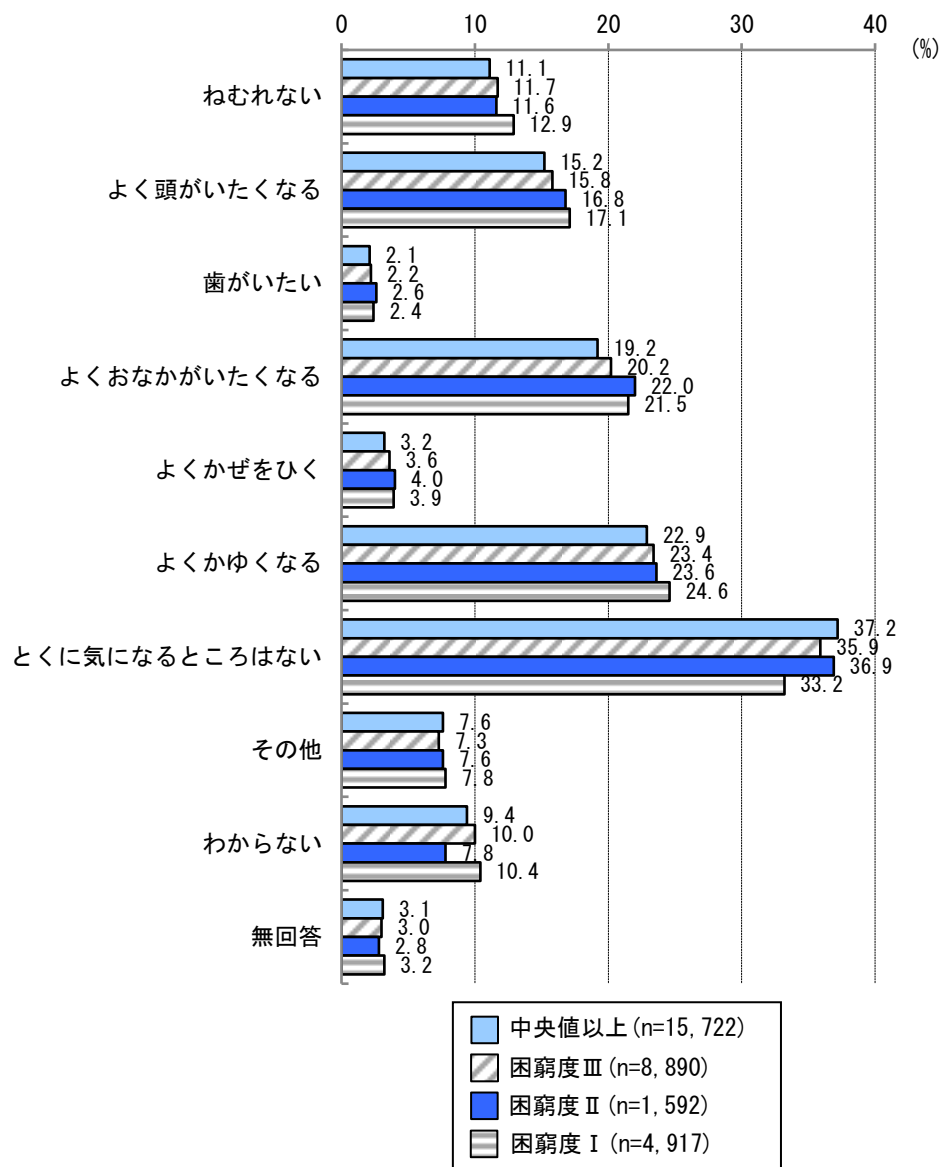


図 76. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でいらいらするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は中央値以上群（9.2％）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること（子ども票問 20）

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

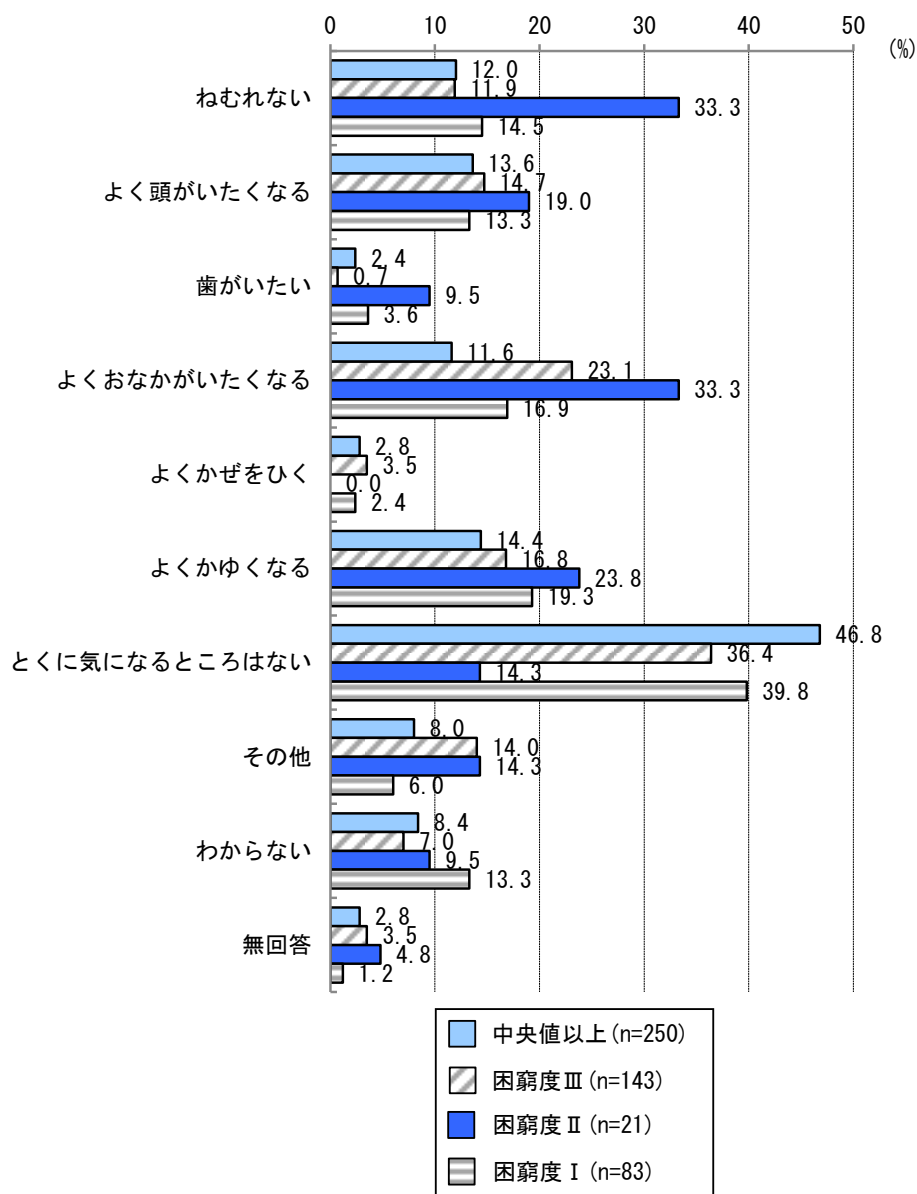
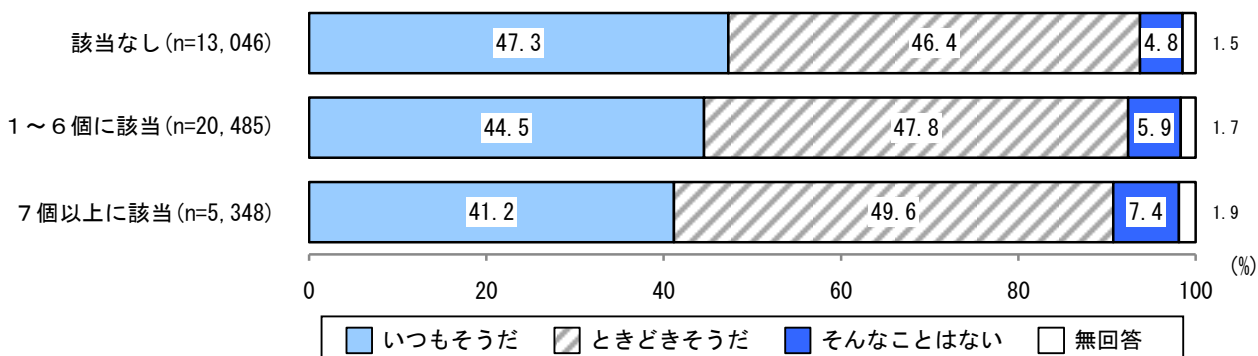


図 77. 困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること

困窮度別に自分の体の状態で気になることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「歯がいたい」3.6%（中央値以上群に対して1.5倍）、「よくおなかがいたくなる」16.9%（同じく1.5倍）となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある（保護者票問7×子ども票問19①）

<大阪府内全体>



<柏原市>

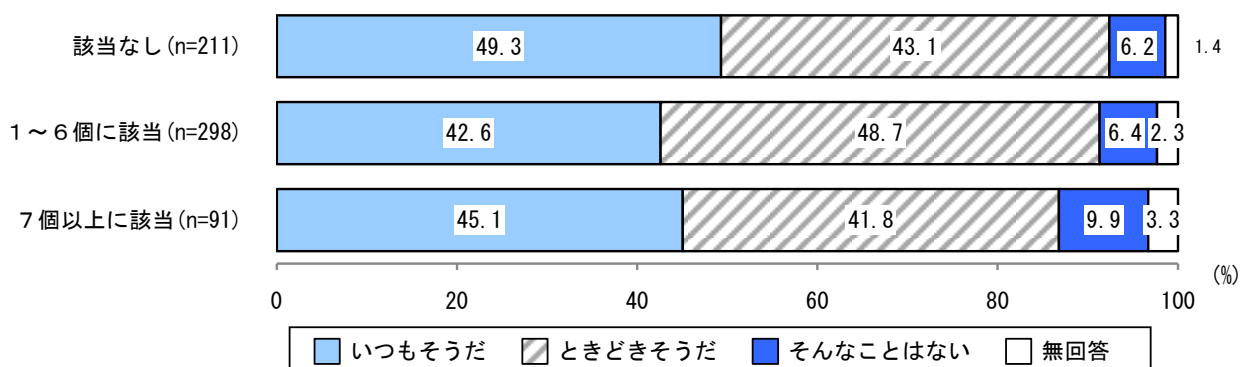


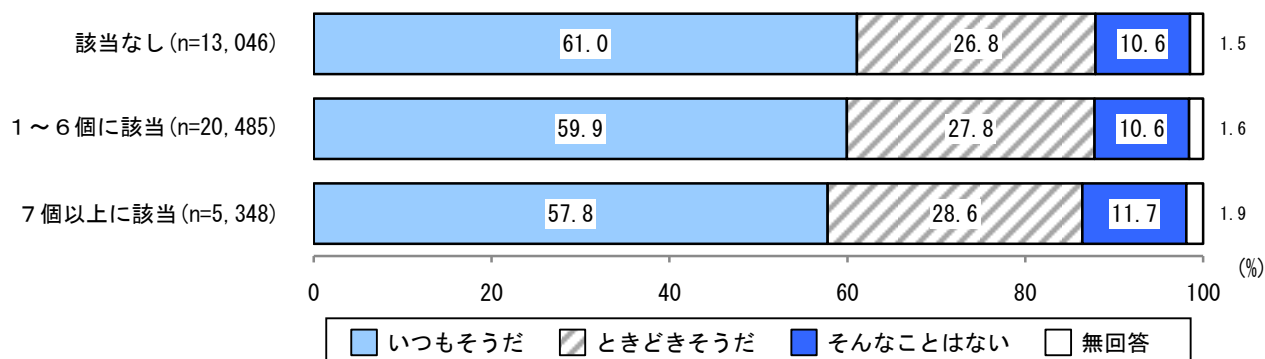
図 78. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況

①楽しみにしていることがたくさんある

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で楽しみにしていることがたくさんあるを見ると、「いつもそうだ」の割合が「該当なし」（49.3％）で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ（保護者票問7×子ども票問19②）

<大阪府内全体>



<柏原市>

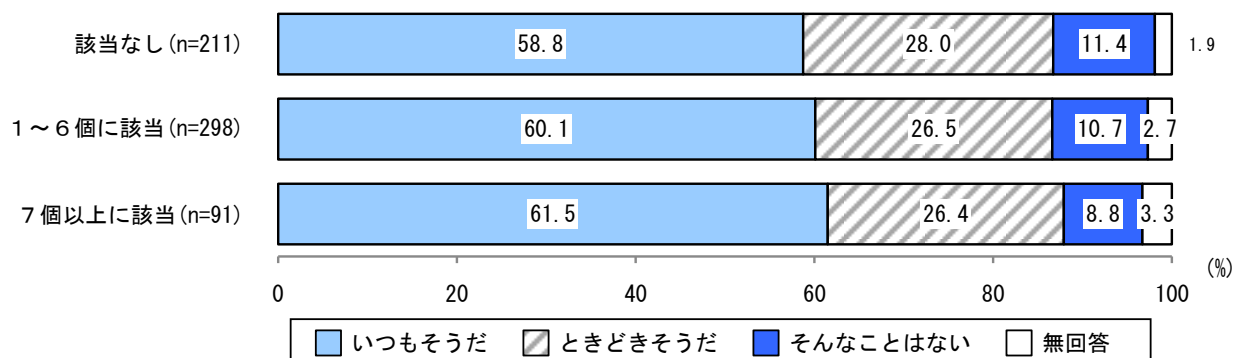
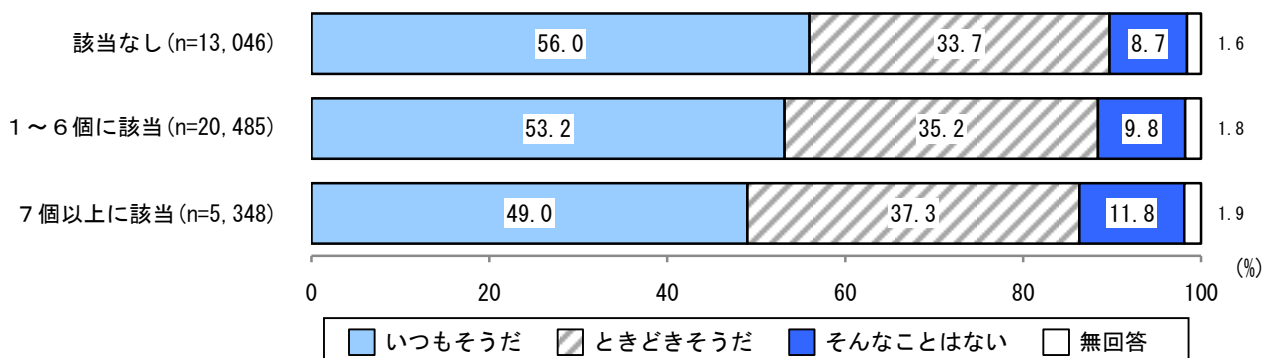


図 79. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
②遊びにでかけるのが好きだ

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で遊びにでかけるのが好きだを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は該当数が多い人ほど割合が高く、「7個以上に該当」(61.5%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい
(保護者票問7×子ども票問19③)

<大阪府内全体>



<柏原市>

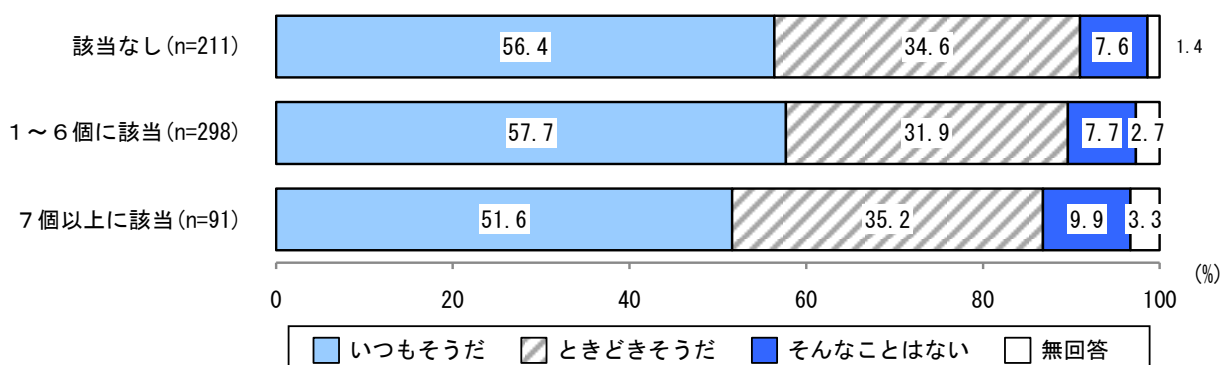
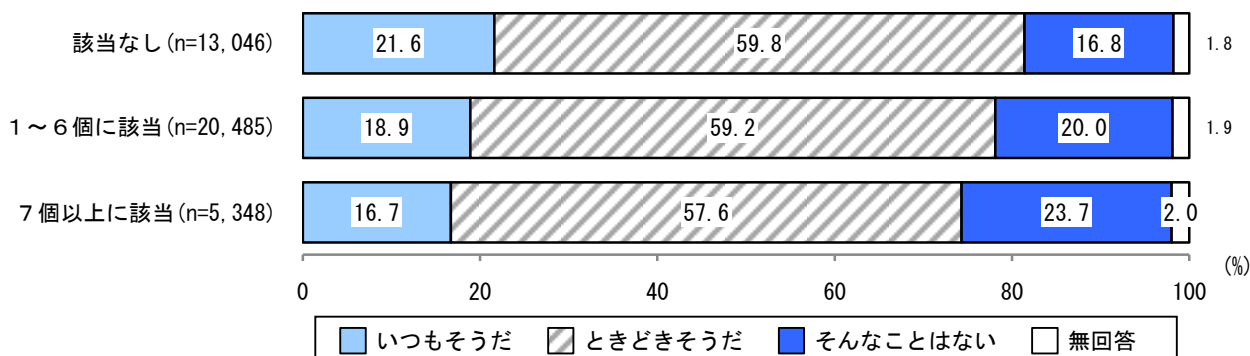


図 80. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で元気いっぱいだを見ると、「いつもそうだ」「ときどきそうだ」と回答した人をあわせると概ね、該当数が多い人ほど割合が低く、「7個以上に該当」が86.8%となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる（保護者票問7×子ども票問19④）

<大阪府内全体>



<柏原市>

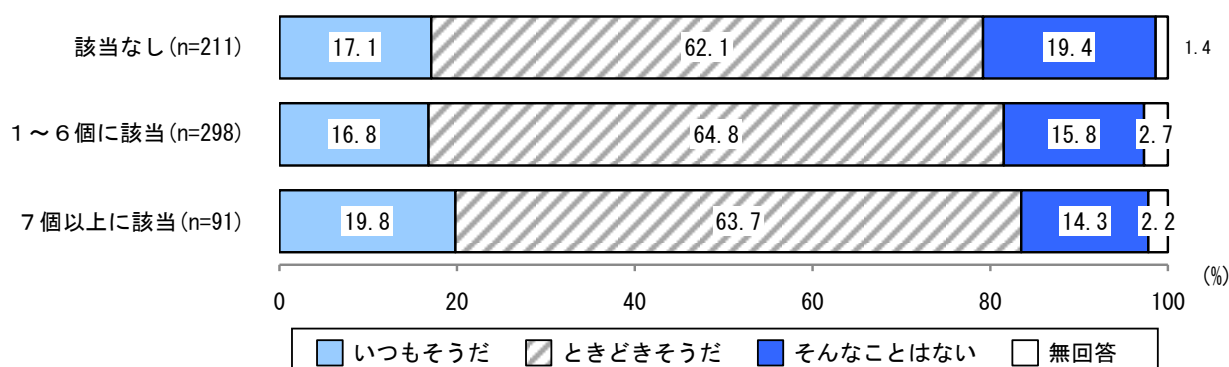
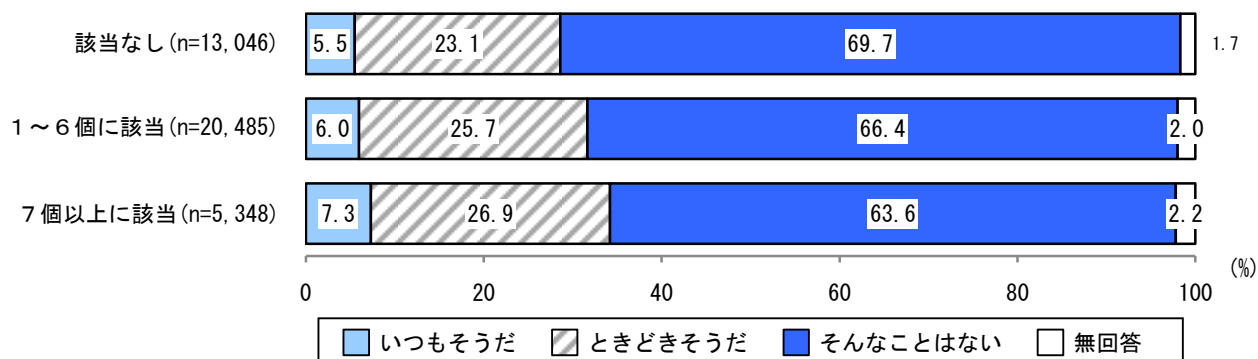


図 81. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
④やろうと思ったことがうまくできる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でやろうと思ったことがうまくできるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「7個以上に該当」(19.8%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする（保護者票問7×子ども票問19⑤）

<大阪府内全体>



<柏原市>

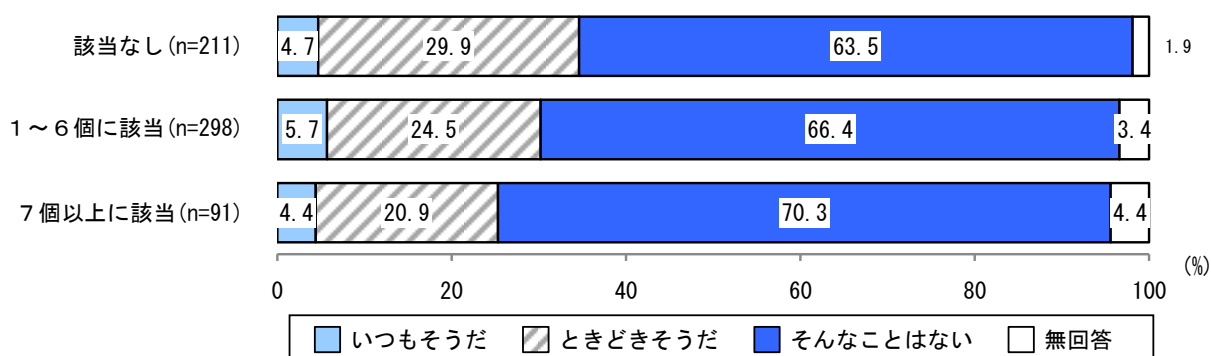


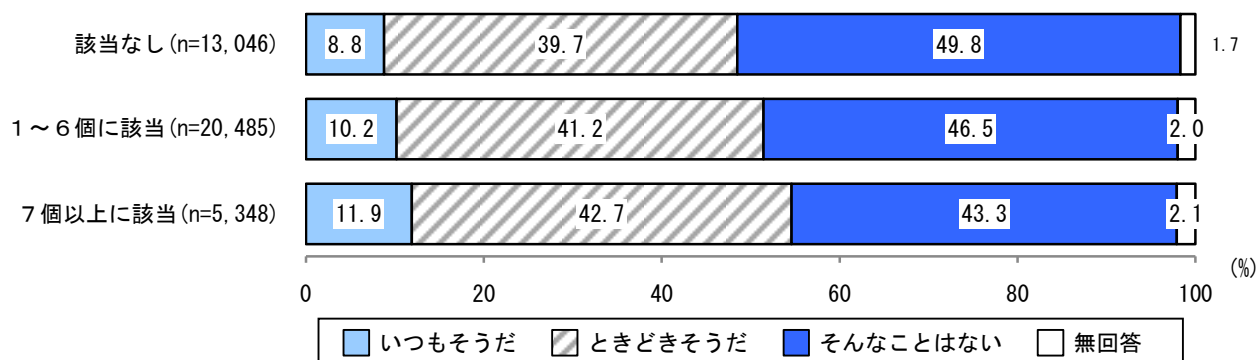
図 82. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
⑤一人ぼっちのような気がする

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「1～6個に該当」(5.7%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況

⑥不安な気持ちになる（保護者票問7×子ども票問19⑥）

<大阪府内全体>



<柏原市>

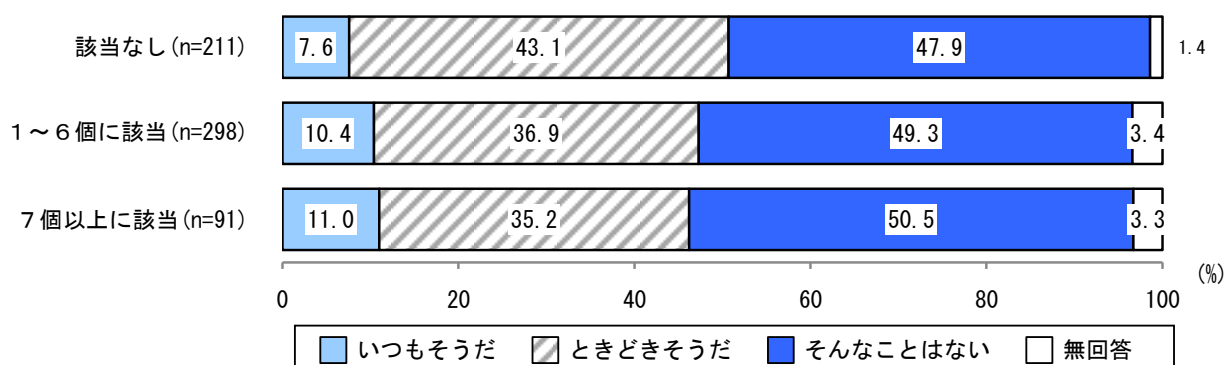
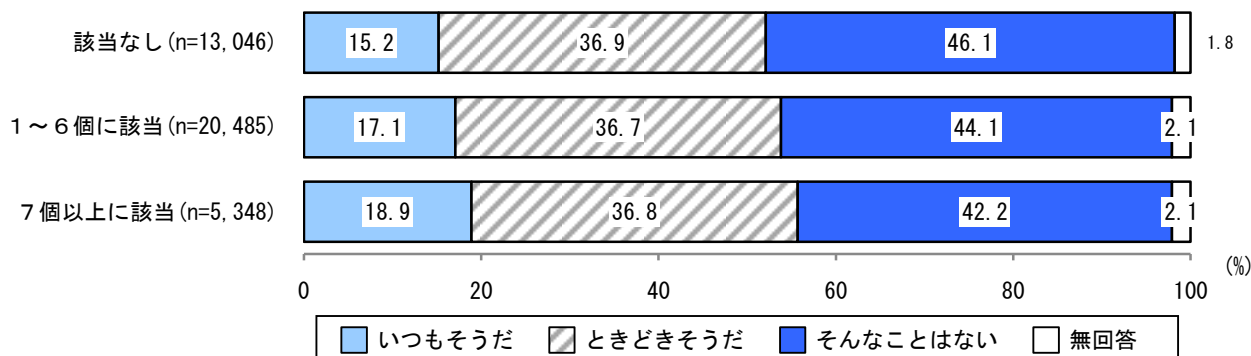


図 83. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で不安な気持ちになると、「いつもそうだ」と回答した人は「7個以上に該当」（11.0％）で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる
(保護者票問7×子ども票問19⑦)

<大阪府内全体>



<柏原市>

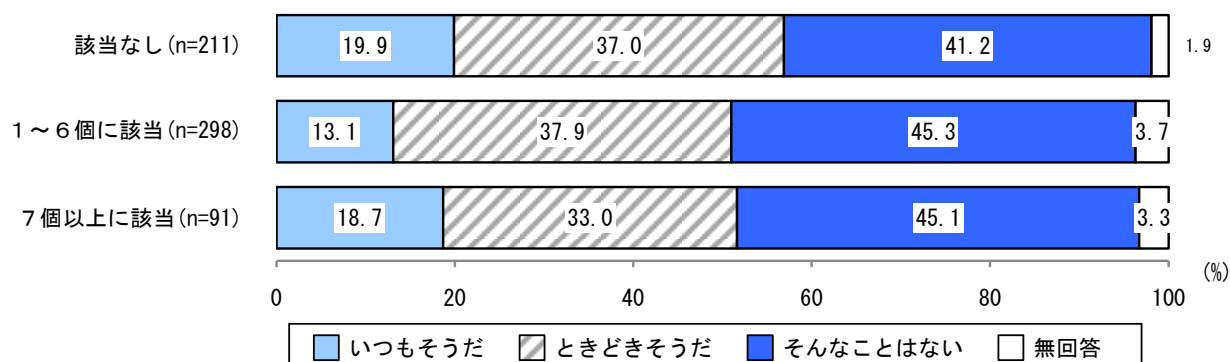
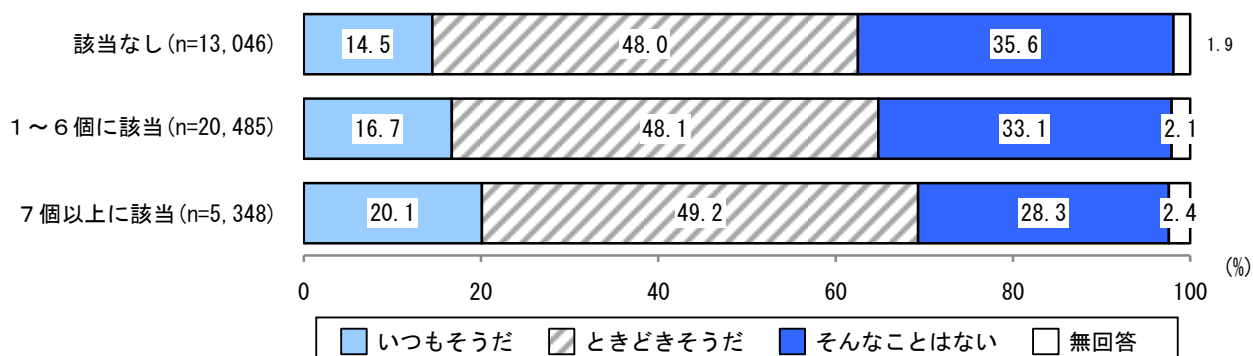


図 84. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でまわりが気になるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「該当なし」(19.9%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない
(保護者票問7×子ども票問19⑧)

<大阪府内全体>



<柏原市>

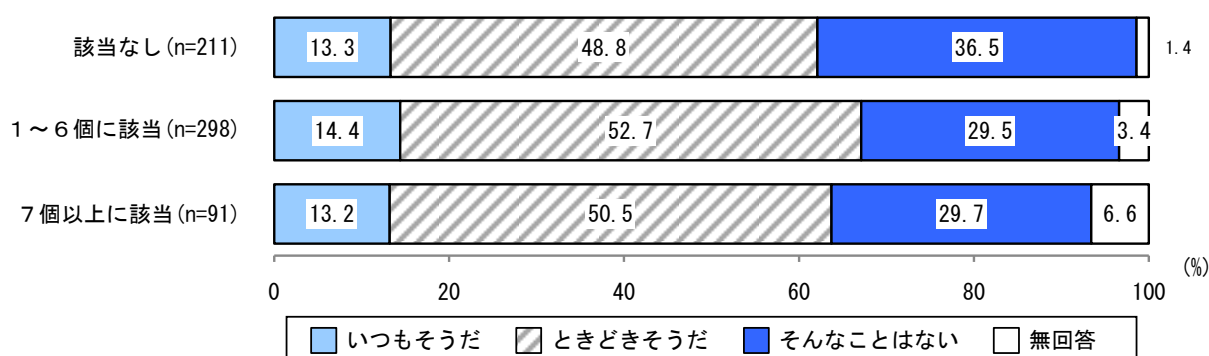
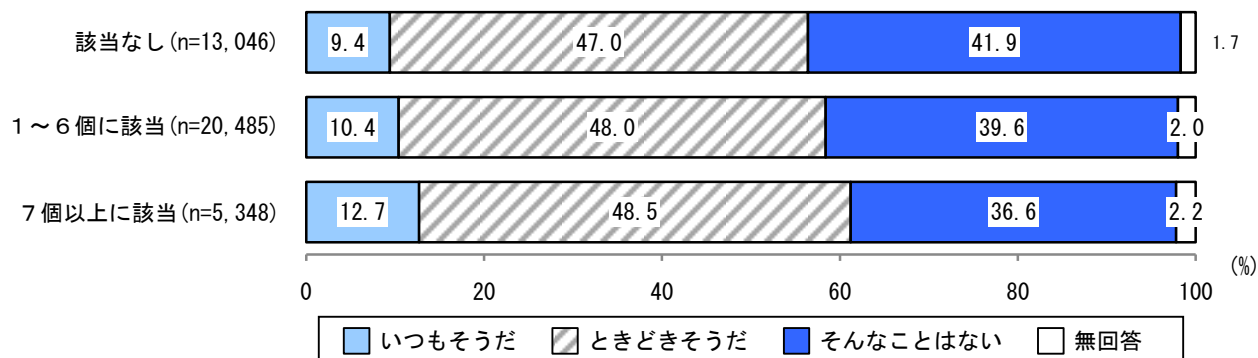


図 85. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でやる気が起きないを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「1～6個に該当」が14.4%で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いろいろする
(保護者票問7×子ども票問19⑨)

<大阪府内全体>



<柏原市>

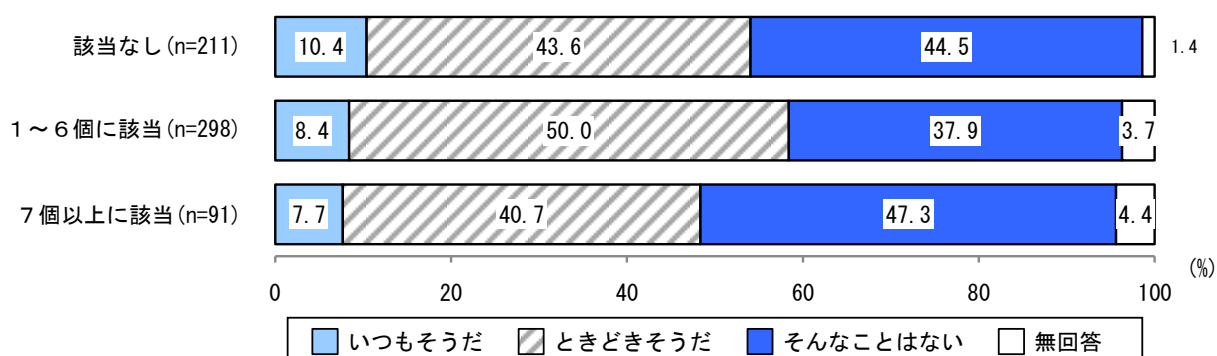
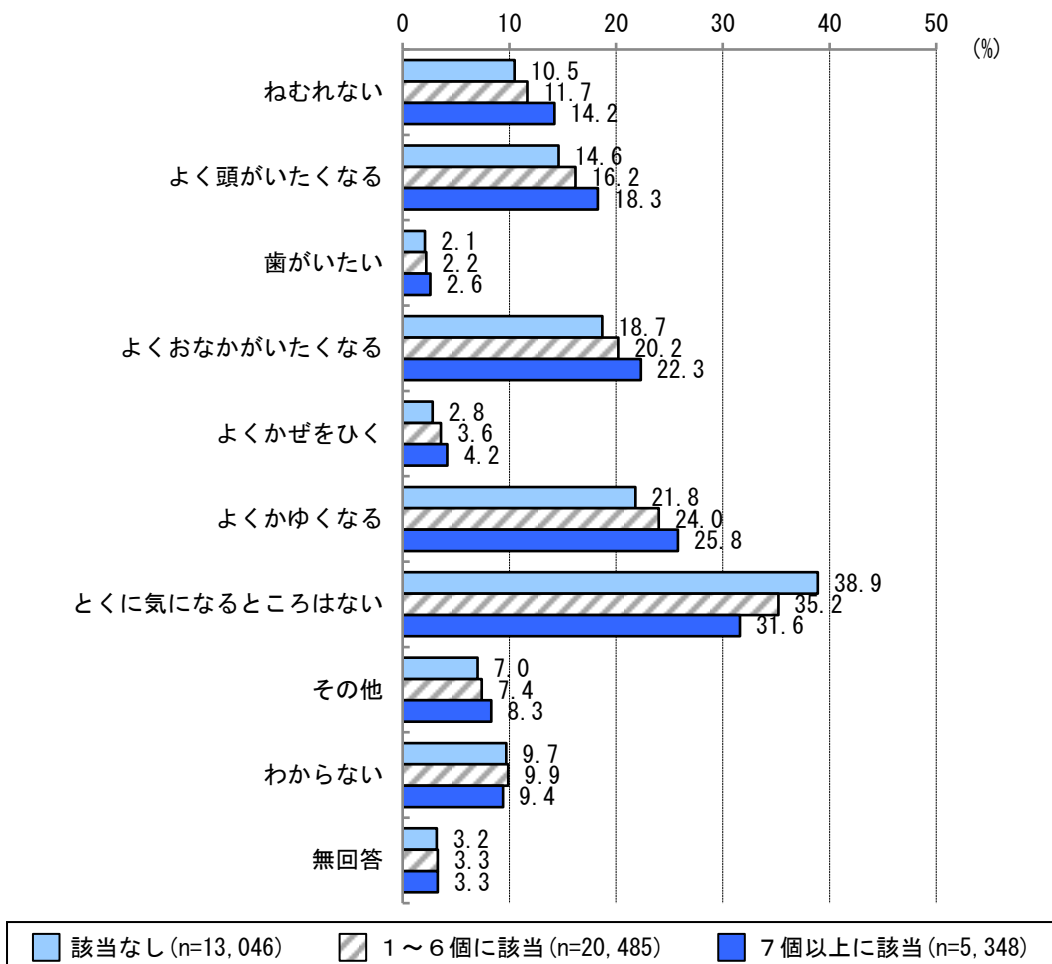


図 86. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いろいろする

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でいろいろするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「該当なし」が10.4%で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること
 (保護者票問7×子ども票問20)

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

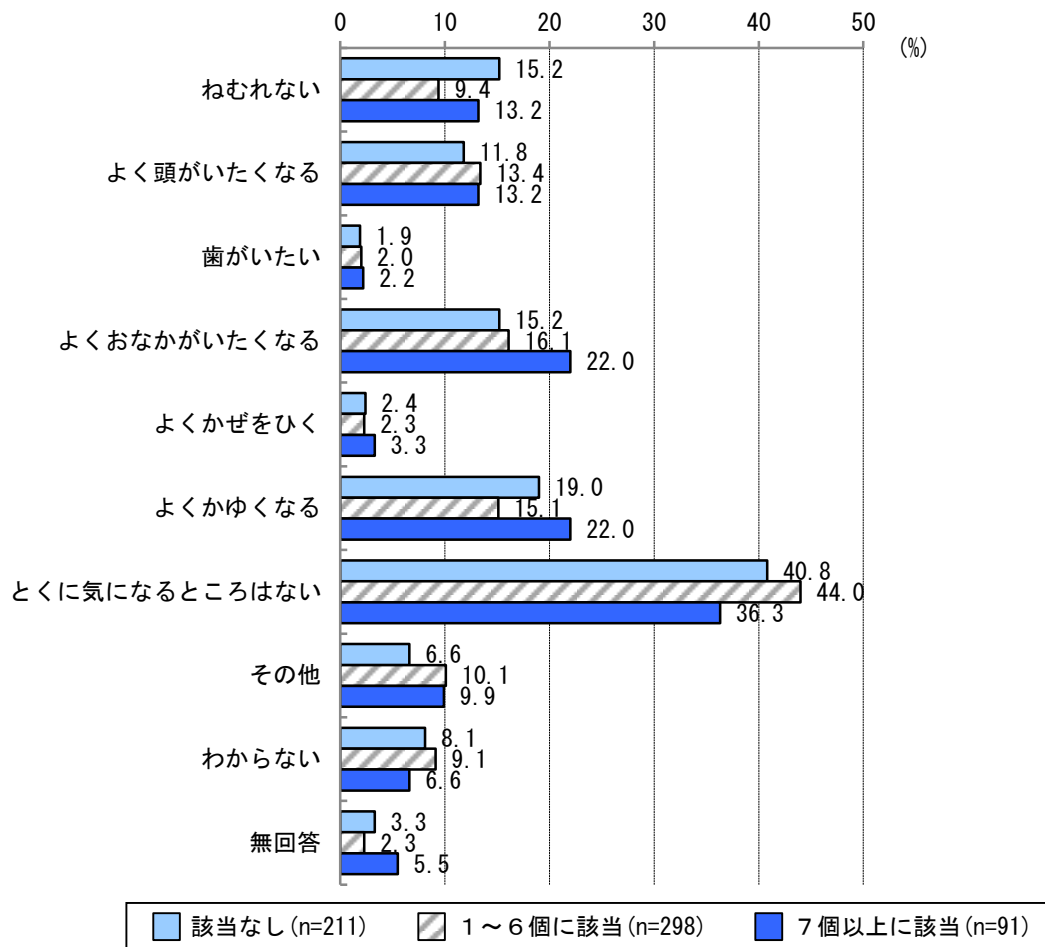


図 87. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体の状態で気になることを見ると、「7個以上に該当」群と「該当なし」群間で差が大きい項目に着目しながら、「7個以上に該当」群の数値を挙げると、「よくおなかがいたくなる」22.0%（「該当なし」群に対して1.4倍）、「よくかぜをひく」3.3%（同じく1.4倍）、となっている。

< 柏原市 >

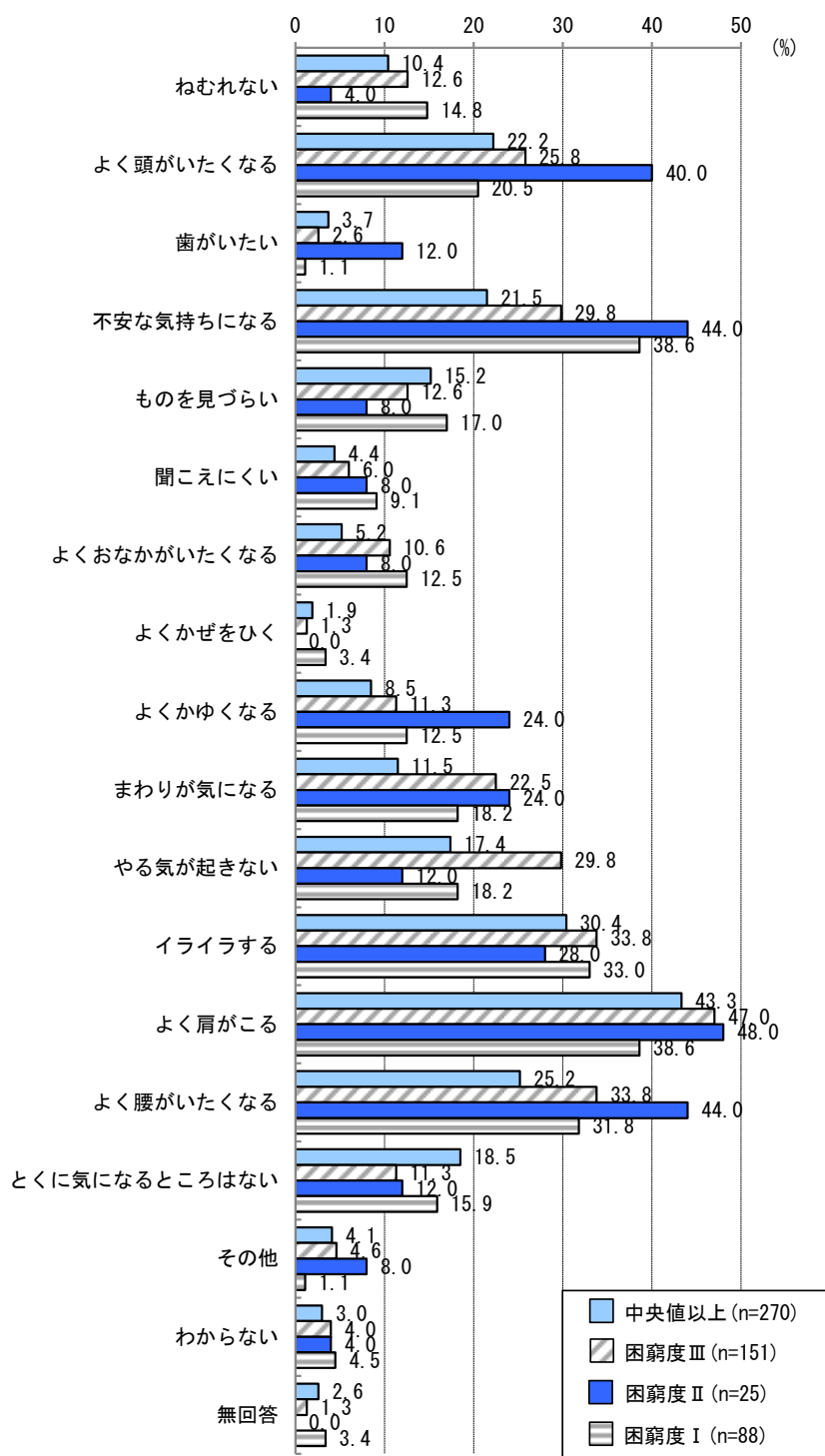
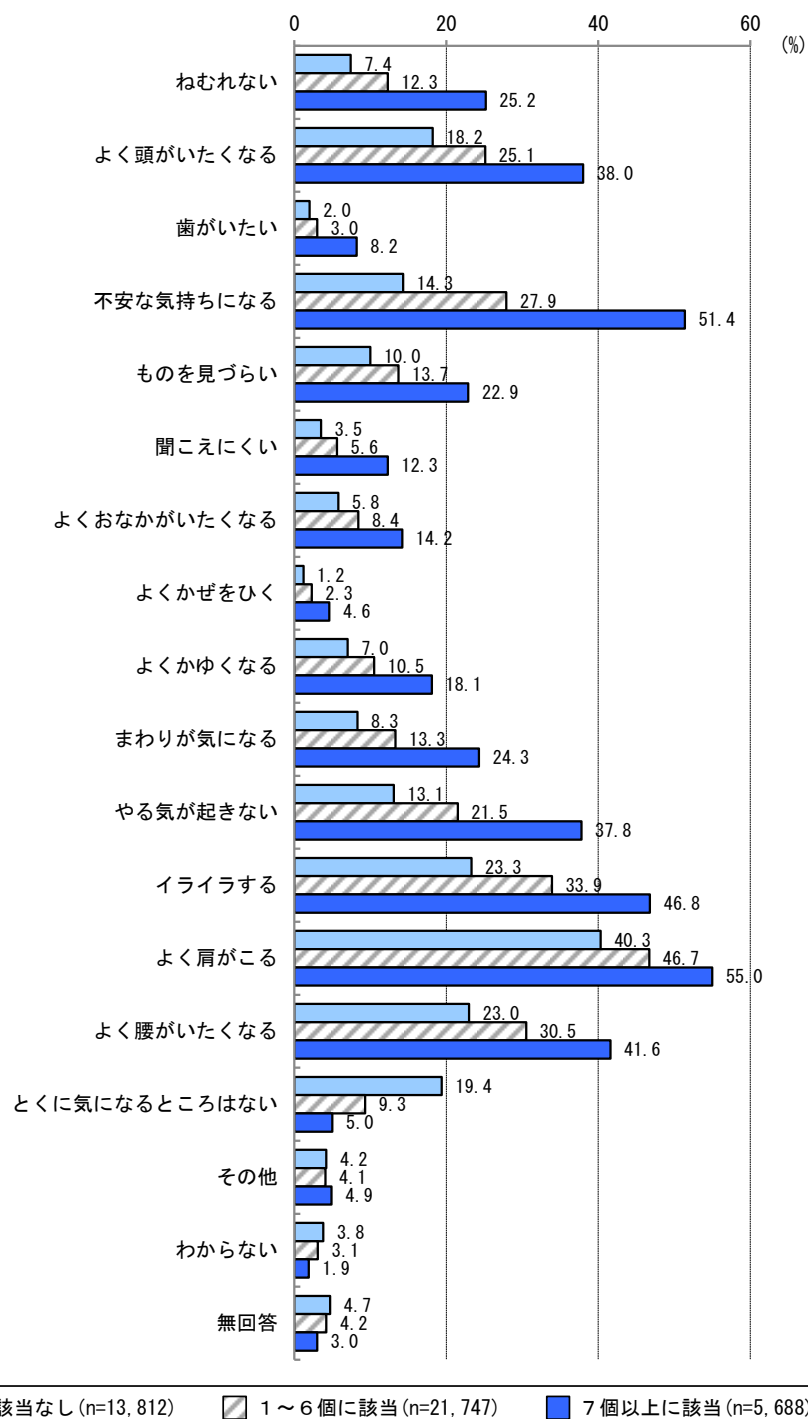


図 88. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること

困窮度別に自分の体や気持ちで気になること（保護者）を見ると、多くの項目において、困窮度が高まるにつれ、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に、困窮度Ⅰ群に着目して、中央値以上群との差が大きい順に挙げると、「よくおなかがいたくなる」12.5%（中央値以上群に対し2.4倍）、「聞こえにくい」9.1%（2.1倍）、「不安な気持ちになる」38.6%（1.8倍）となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること
(保護者票問7×保護者票問22)

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

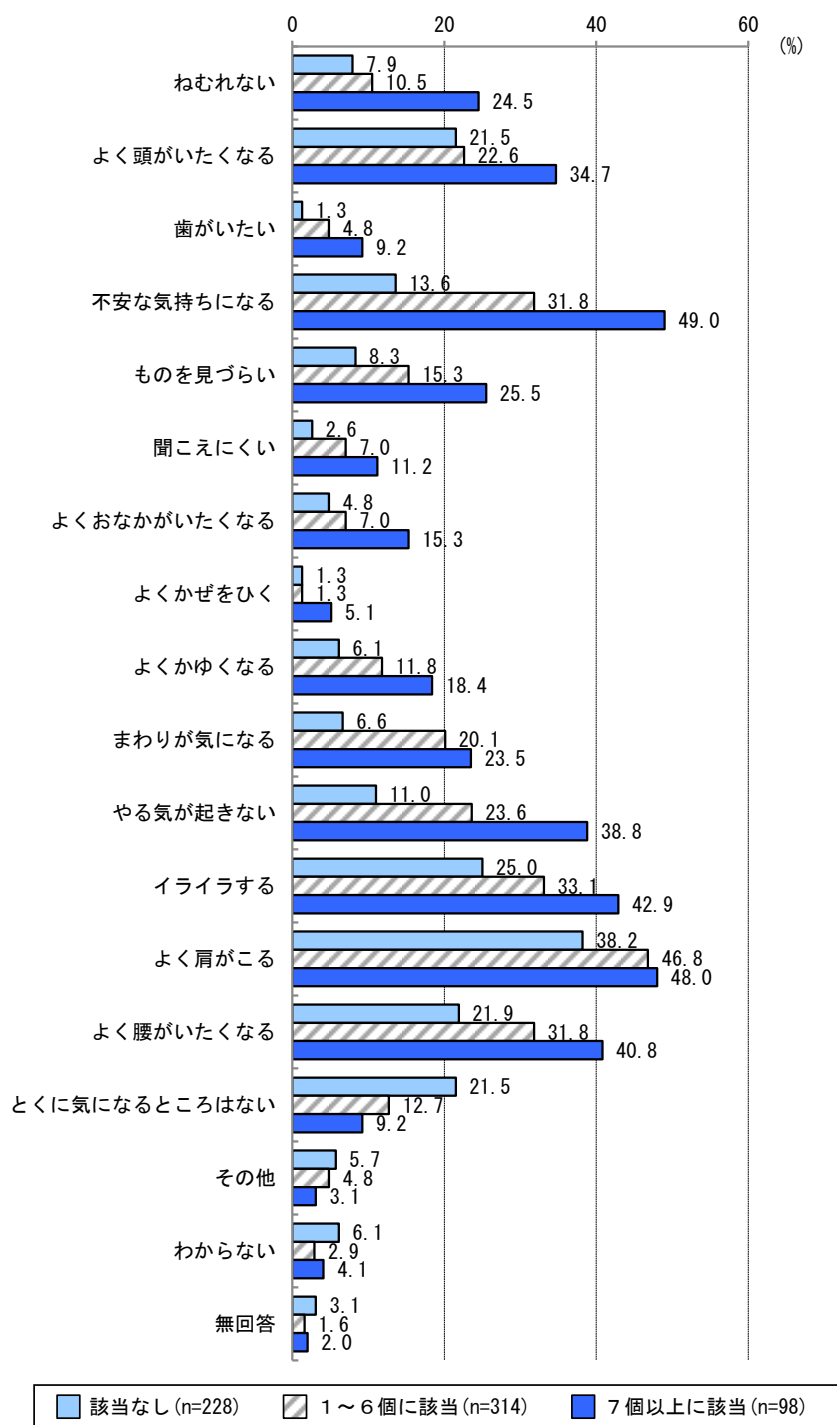
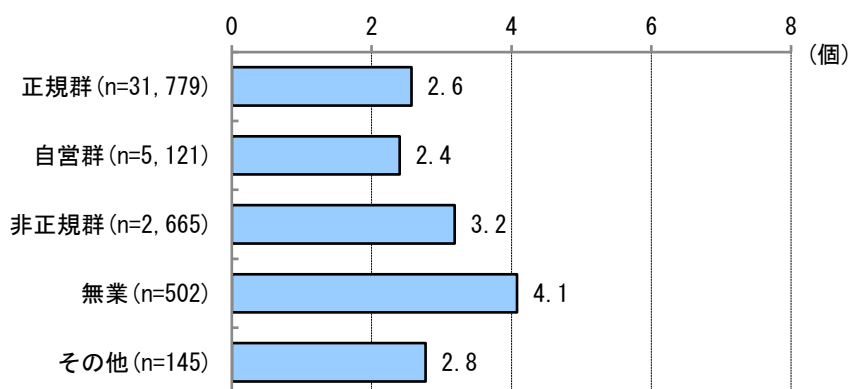


図 89. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体や気持ちで気になること(保護者)を見ると、すべての項目において、経済的な理由による経験の該当数が多くなるにつれて、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に、「7個以上に該当」した人と「該当なし」と回答した人との差が大きく開いている。「7個以上に該当」群について、「該当なし」との差が大きい順に挙げると、「歯がいたい」9.2%（「該当なし」に対して7.1倍）、「聞こえにくい」11.2%（同じく4.3倍）、「よくかぜをひく」5.1%（3.9倍）となっている。

就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票問 22）

<大阪府内全体>



<柏原市>

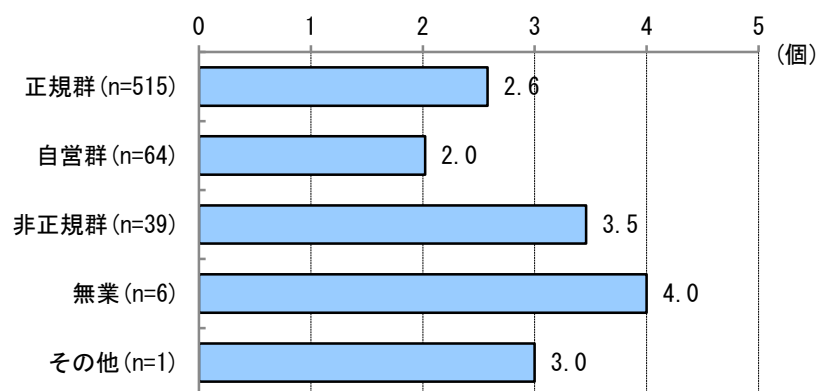


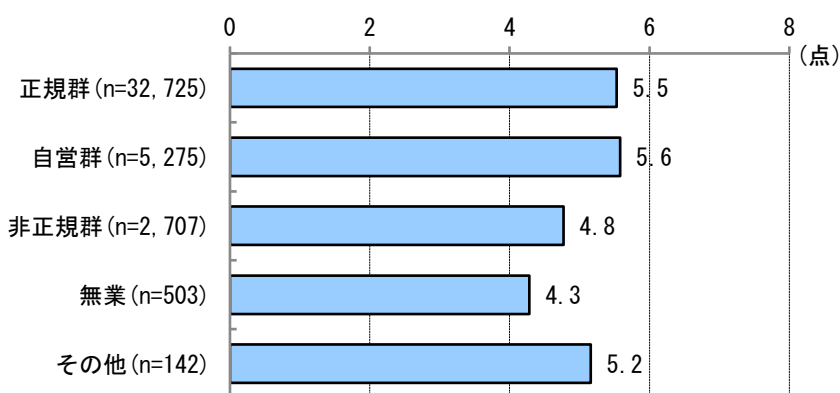
図 90. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

就労状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、「正規群」、「自営業」に対して、「非正規群」、「無業」、「その他」群において、自分の体や気持ちで気になることの該当個数が増える結果となった。

就労状況別に見た、支えてくれる人得点（保護者票問18）

※「あなたを支え、手伝ってくれる人はいますか」という質問について、「心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人」「あなたの気持ちを察して思いやってくれる人」「趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人」「子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人」「子どもの学びや遊びを豊かにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）」「子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人」「留守を頼める人」の7項目を提示した。それぞれの人物が「いる」か「いない」かで評定させたうえで、「いない」を0点、「いる」を1点とし、7項目の合計得点を「支えてくれる人得点」とした。得点が高いほど、身近に支えてくれる人が多く存在することを表す。

<大阪府内全体>



<柏原市>

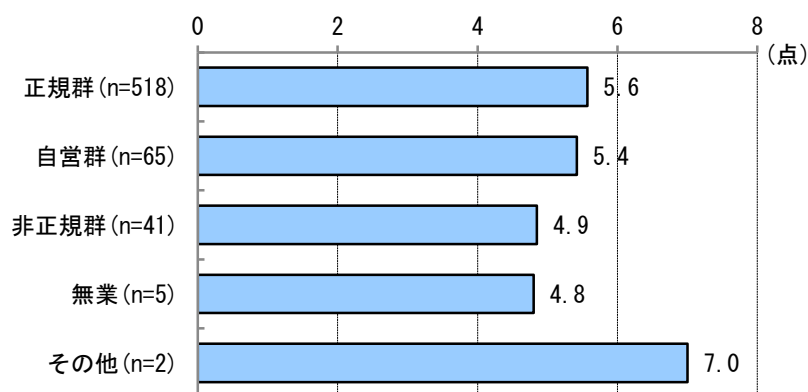
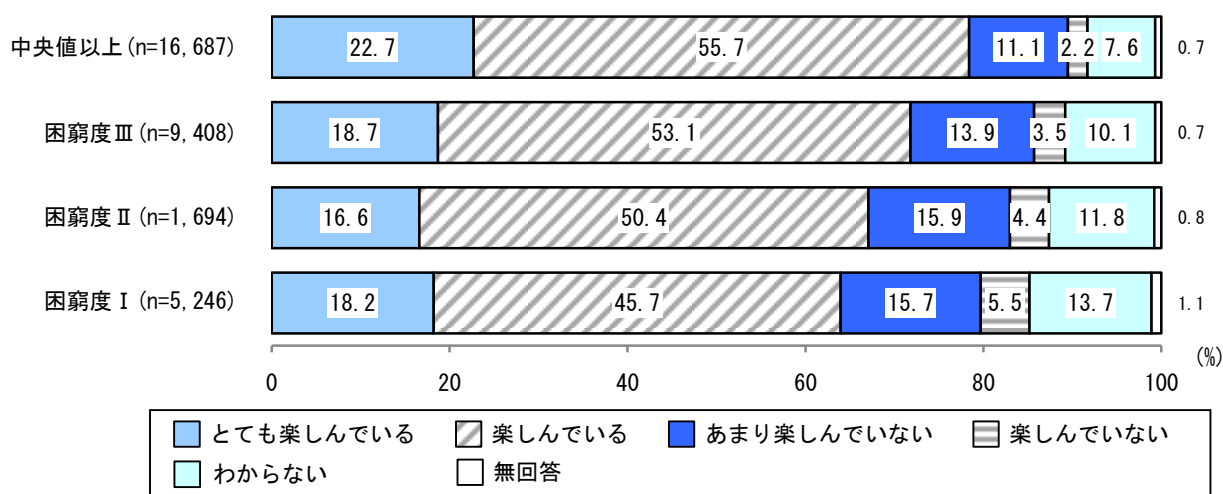


図 91. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点

就労状況別に「支えてくれる人」の有無を得点化し、その平均値を見ると、「正規群」(5.6点)、「自営群」(5.4点)が高く、「非正規群」で4.9点と低下し、「無業」で4.8点と最も低い結果となった。

困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）（保護者票問 21(1)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

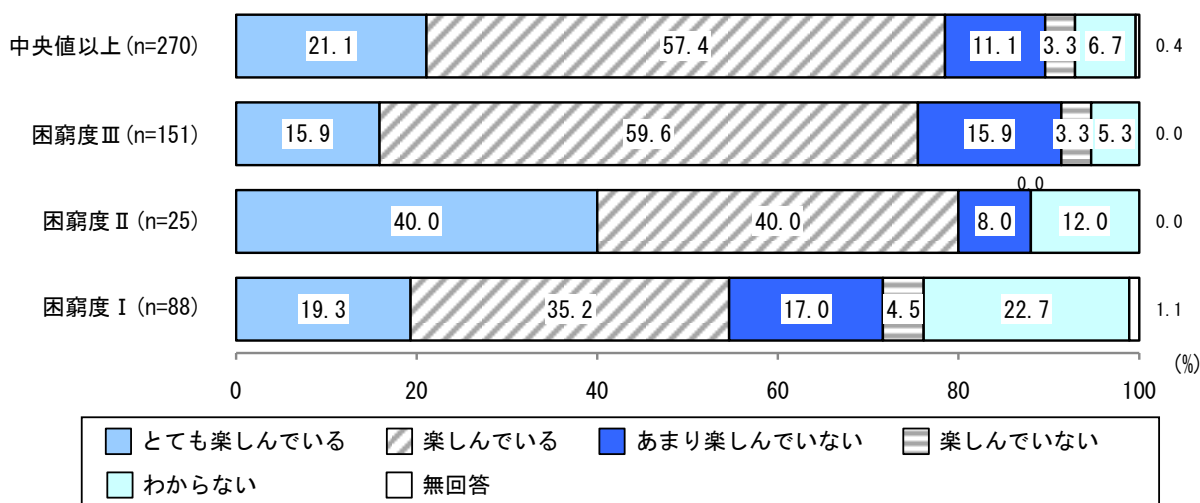
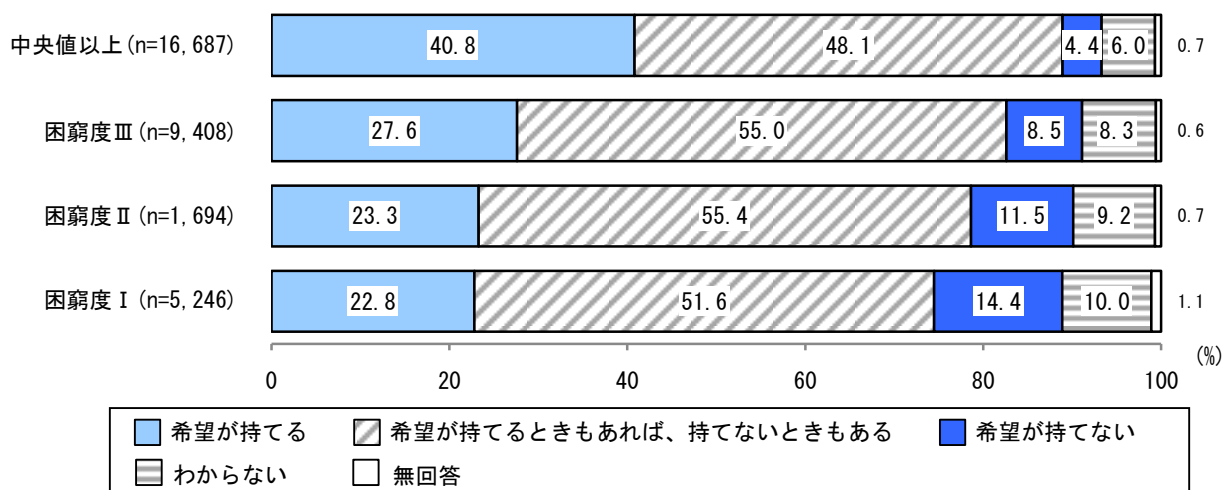


図 92. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

困窮度別に生活を楽しんでいるかを見ると、「とても楽しんでいる」「楽しんでいる」をあわせてなんらか『楽しんでいる』割合では、困窮度Ⅱ群で80.0%と最も高く、それ以外の群では、なんらか『楽しんでいる』割合が低くなった。続いて、中央値以上群で78.5%、困窮度Ⅲ群が75.5%、困窮度Ⅰ群において54.5%と最も低くなった。逆に「楽しんでいる」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群が4.5%と最も高く、次いで、中央値以上群、困窮度Ⅲ群で3.3%となった。

困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）（保護者票問 21 (2)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

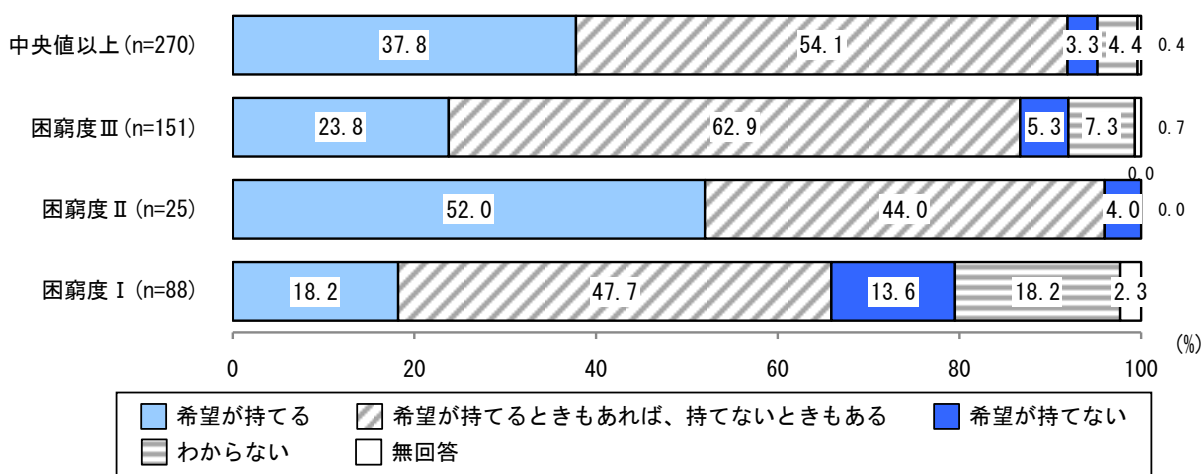
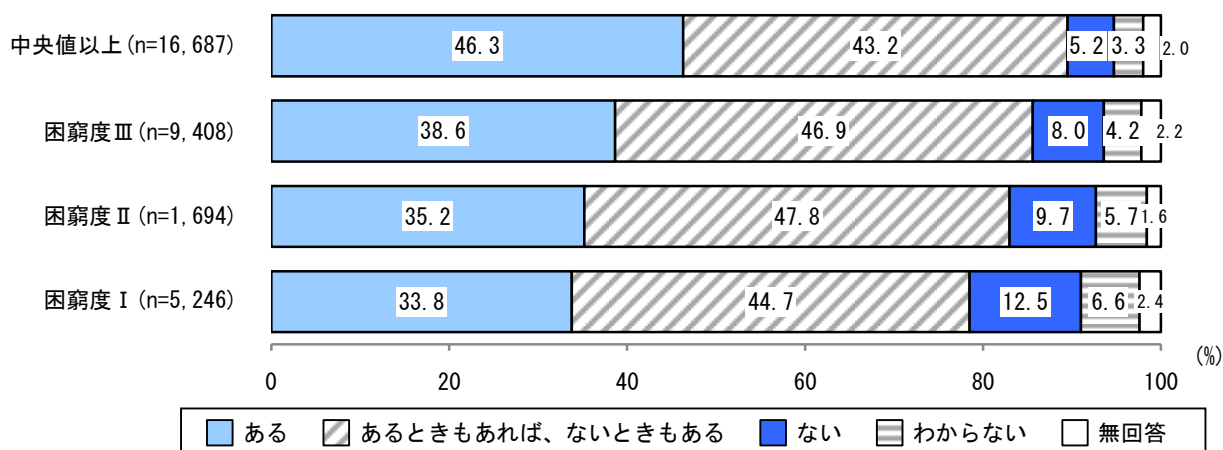


図 93. 困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）

困窮度別に将来への希望を見ると「希望が持てる」と回答する割合は、困窮度Ⅱ群で52.0%と最も高く、次いで、中央値以上群で37.8%となった。逆に「希望が持てない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群が13.6%と最も高く、次いで、困窮度Ⅲ群で5.3%となった。

困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）（保護者票問 21(3)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

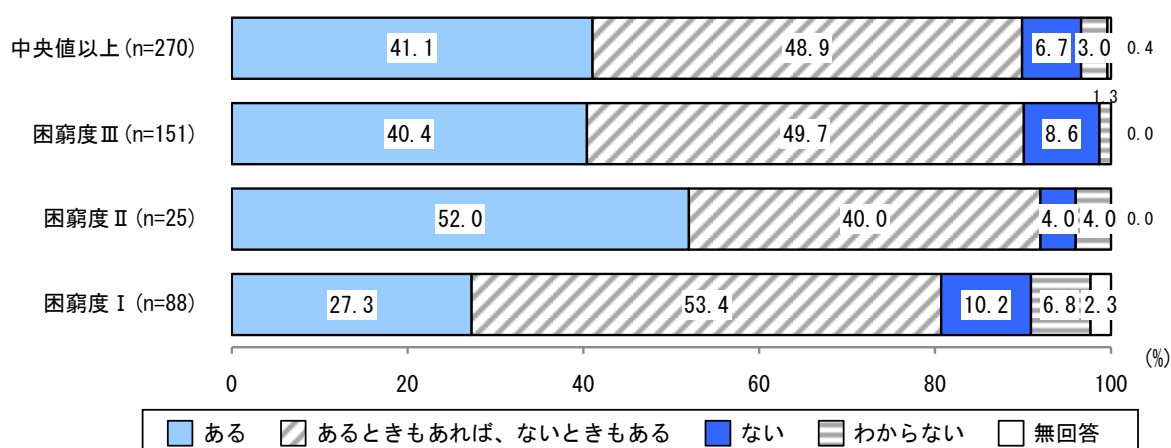
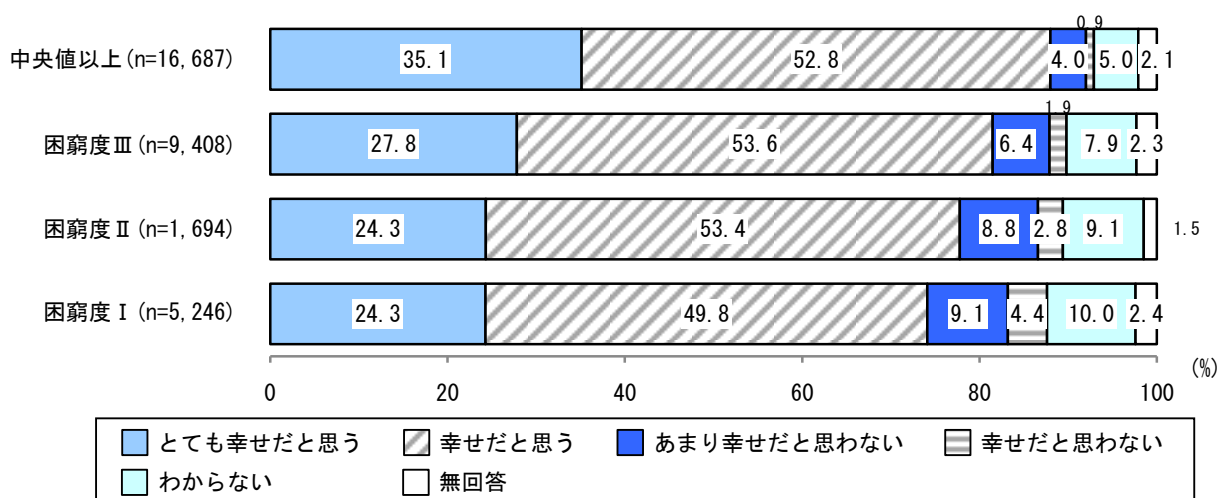


図 94. 困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）

困窮度別にストレスを発散できるものについて、ストレスが発散できるものが「ない」という回答に着目すると、困窮度Ⅰ群が10.2%と、「ない」と回答する割合が最も高くなっている。困窮度Ⅱ群では、4.0%で最も低く、中央値以上群6.7%、困窮度Ⅲ群8.6%となっている。

困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）（保護者票問 21(4)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

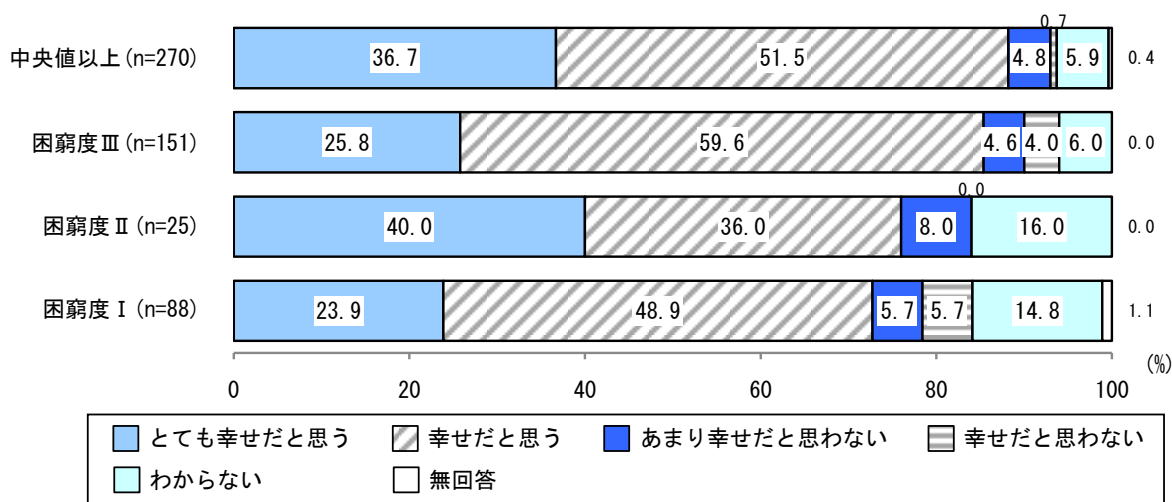


図 95. 困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）

困窮度別に幸せだと思うかを見ると、「とても幸せだと思う」と「幸せだと思う」をあわせて、なんらか『幸せと思う』と回答した割合は、困窮度が高まるにつれて低くなり、困窮度Ⅰ群（72.8%）で最も低くなっている。逆に、なんらか『幸せではない』（「あまり幸せだと思わない」と「幸せだと思わない」をあわせた割合）と回答する割合は、中央値以上群で5.5%にとどまるのに対して、困窮度Ⅲ群で8.6%、困窮度Ⅱ群で8.0%、困窮度Ⅰ群で11.4%となっている。

<健康に関する考察>

まず、困窮度別に生活習慣と健康状態について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目して述べる。朝食の頻度では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「毎日またはほとんど毎日」(90.8%対80.7%)が約10ポイント高くなっている。子どもの自覚症状では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「よくおなかがいたくなる」(16.9%対11.6%)、「よくかゆくなる」(19.3%対14.4%)が約5ポイント高く、一方で、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「とくに気になるところはない」(46.8%対39.8%)が5ポイント以上高くなっている。保護者の自覚症状では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「よくおなかがいたくなる」(12.5%対5.2%)、「まわりが気になる」(18.2%対11.5%)、「よく腰がいたくなる」(31.8%対25.2%)がいずれも5ポイント以上、「不安な気持ちになる」(38.6%対21.5%)では10ポイント高くなっている。また、保護者の心の状態を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、生活を「あまり楽しんでいない」(17.0%対11.1%)が5ポイント以上、将来に対して「希望が持てない」(13.6%対3.3%)が10ポイント以上高くなっており、一方で中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、ストレスを発散できるものが「ある」(41.1%対27.3%)、自分が「とても幸せだと思う」(36.7%対23.9%)が10ポイント以上高くなっている。

次に、経済的な理由による経験の該当数を見ると、個数が増えるにしたがって、「元気いっぱい」で「いつもそうだ」の割合が低くなる傾向にある。自覚症状では、個数が増えるにしたがって子どもは「よくかゆくなる」の割合が高くなる傾向にあり、保護者では「ねむれない」「よく頭がいたくなる」「歯がいたい」「不安な気持ちになる」「ものを見づらい」「聞こえにくい」「よくかぜをひく」「よくかゆくなる」「やる気が起きない」「イライラする」「よく腰がいたくなる」の割合が高くなる傾向にある。これらの結果から、経済的に困難な世帯では、保護者では不安やイライラなどのメンタルヘルスに影響が出ている可能性があり、同時に腰痛が多く、肉体労働に従事している可能性や、心身の休養が不十分である可能性がうかがえる。また、経済的に困難な世帯では、保護者・子どもいずれもかゆみを感じており、衛生状態が懸念される。一方で経済的に困難のない世帯の保護者は、ストレス発散ができていたり、幸福感を感じていたりするなど、望ましい状態で過ごすことができている。

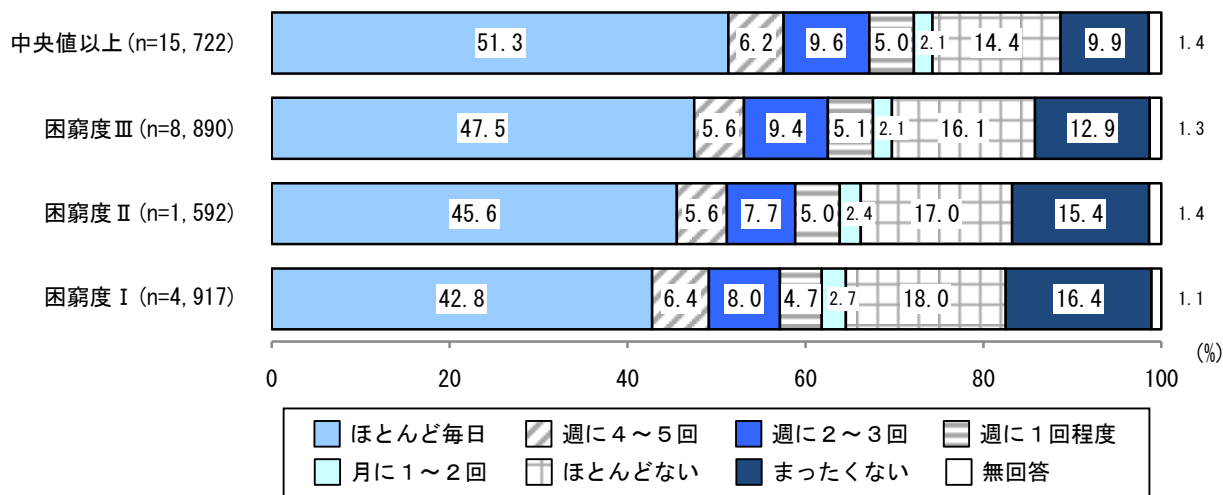
続いて、保護者の就業状況別の生活習慣や健康状態を見てみる。親の就業状況別の朝食の頻度では、「非正規群」および「無業群」において、「毎日またはほとんど毎日」朝食を摂っている割合が低く(73.7%、50%)、その他では80%以上となっている。この結果から、親が非正規の職に就いている、もしくは無業の世帯では、毎日朝食を摂る習慣が根付いていないことがうかがえる。

最後に、食事習慣別の親子関係や健康状態に着目する。朝食の頻度別に見ると、朝食を「毎日またはほとんど毎日」食べている群では、「食べない」群と比べ、子どもを「信頼している」(42.3%対36.4%)、子どもと会話を「する」(33.7%対22.7%)、子どもの将来に「とても期待している」(22.3%対13.6%)がいずれも5ポイント以上高くなっている。また、「食べない」群では「毎日またはほとんど毎日」食べている群に比べ、平日での子どもとの関わり時間が「0～15分未満」(13.6%対3.8%)が10ポイント以上高くなっている。子どもの自己効力感では、朝食を「毎日またはほとんど毎日」食べている群では、「食べない」群と比べ、2点以上高くなっており、学校が休みの日の昼食を「必ず食べる」群では他の群に比べ高い傾向がある。これらの結果から、ほぼ毎日規則正しく朝食・昼食を摂ることは、保護者と子どもの関係をよりよくするとともに、子どもの自己効力感を高める可能性が示唆された。

3-4. 家庭生活、学習

困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか（子ども票問8①）

<大阪府内全体>



<柏原市>

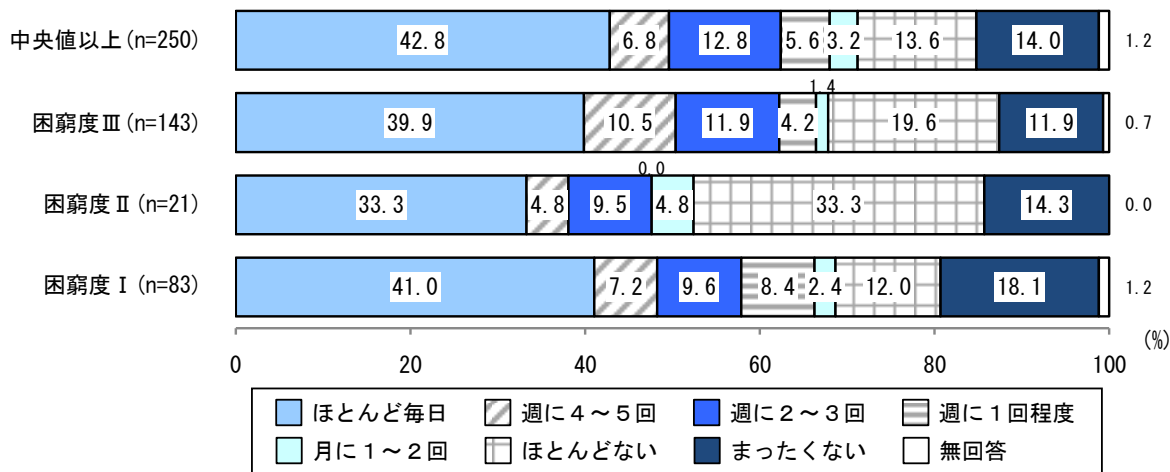
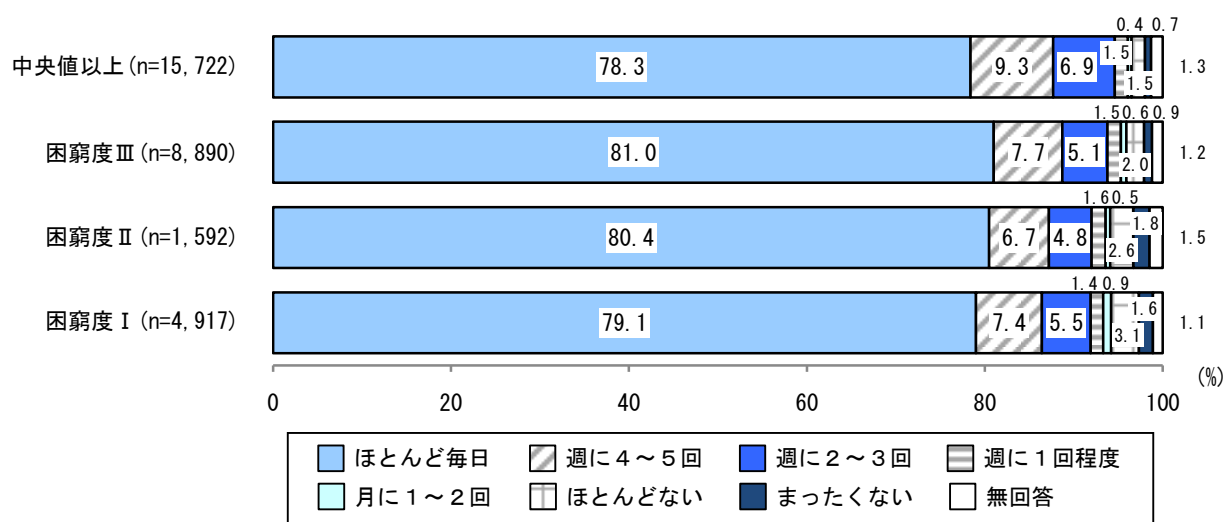


図 96. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

困窮度別におうちの大人の人と一緒に朝食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は中央値以上群が42.8%と最も高くなっている。一方、「まったくない」の割合は困窮度Ⅰ群が18.1%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか（子ども票問8②）

<大阪府内全体>



<柏原市>

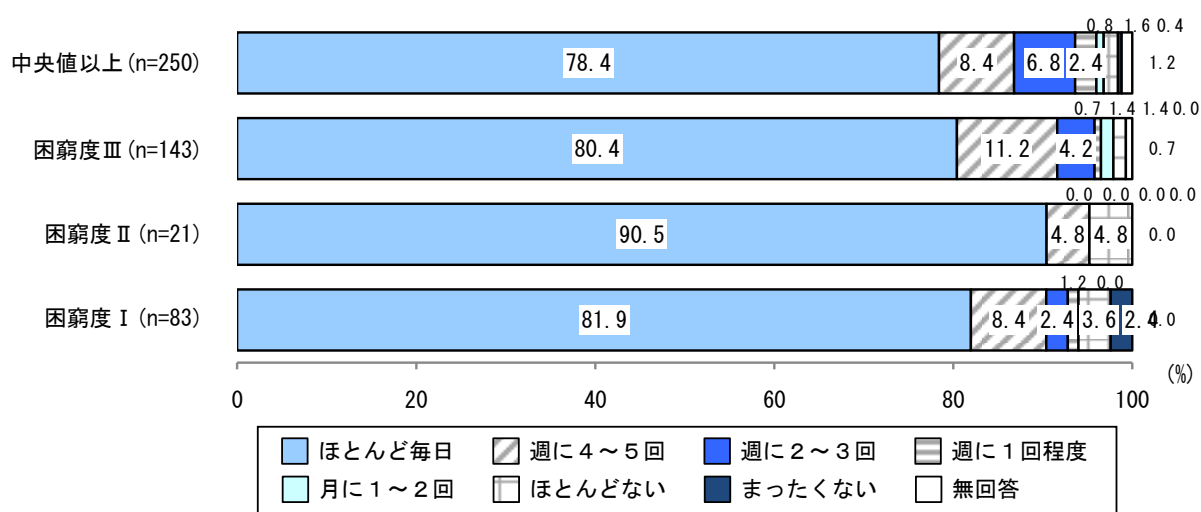
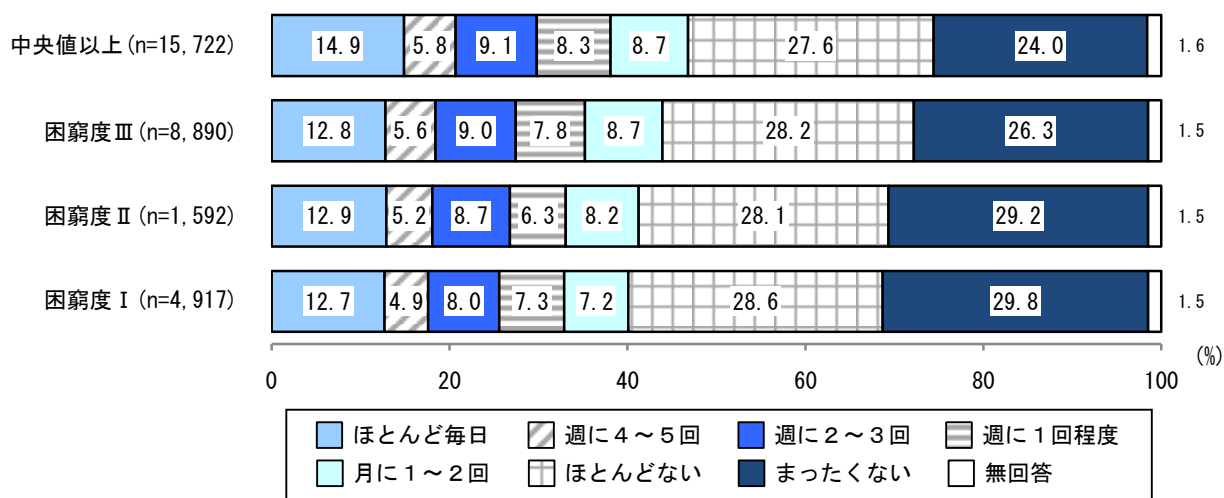


図 97. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

困窮度別におうちの大人の人と一緒に夕食を食べているかを見ると、困窮度Ⅱ群において、「ほとんど毎日」の割合が90.5%と高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか（子ども票問8⑤）

<大阪府内全体>



<柏原市>

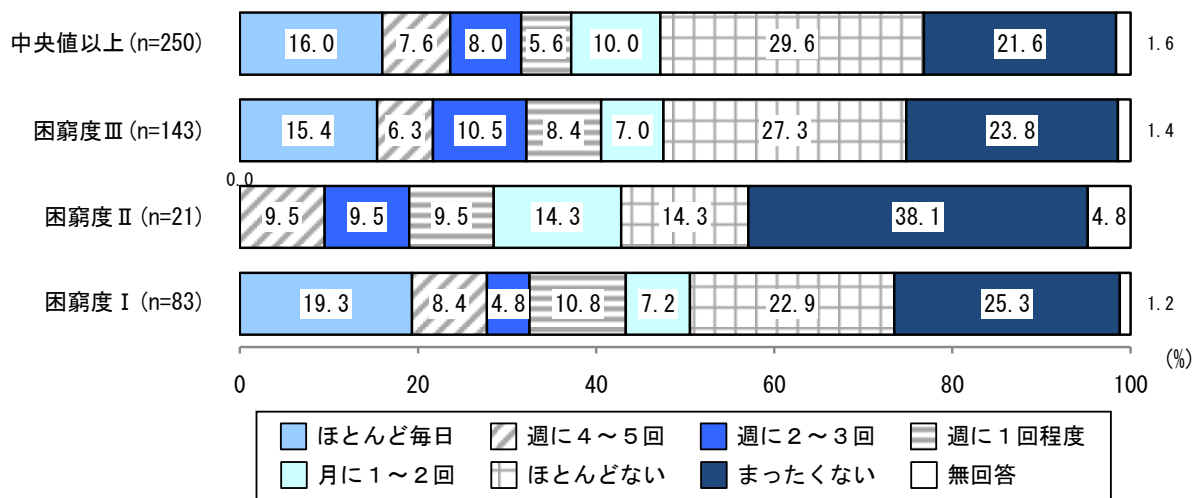
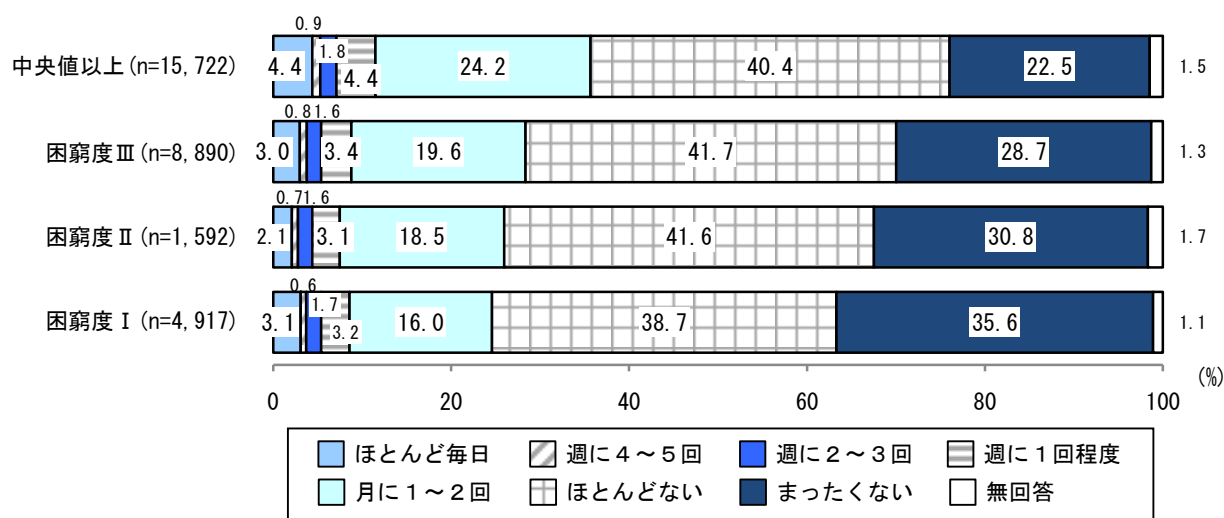


図 98. 困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、困窮度Ⅱ群では、「まったくない」と回答した人は38.1%で最も高くなっている。また、「ほとんど毎日」と回答した人の割合が、困窮度Ⅰ群では19.3%と最も高く、次いで、中央値以上群の16.0%、困窮度Ⅲ群の15.4%となった。

困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか（子ども票問8⑨）

<大阪府内全体>



<柏原市>

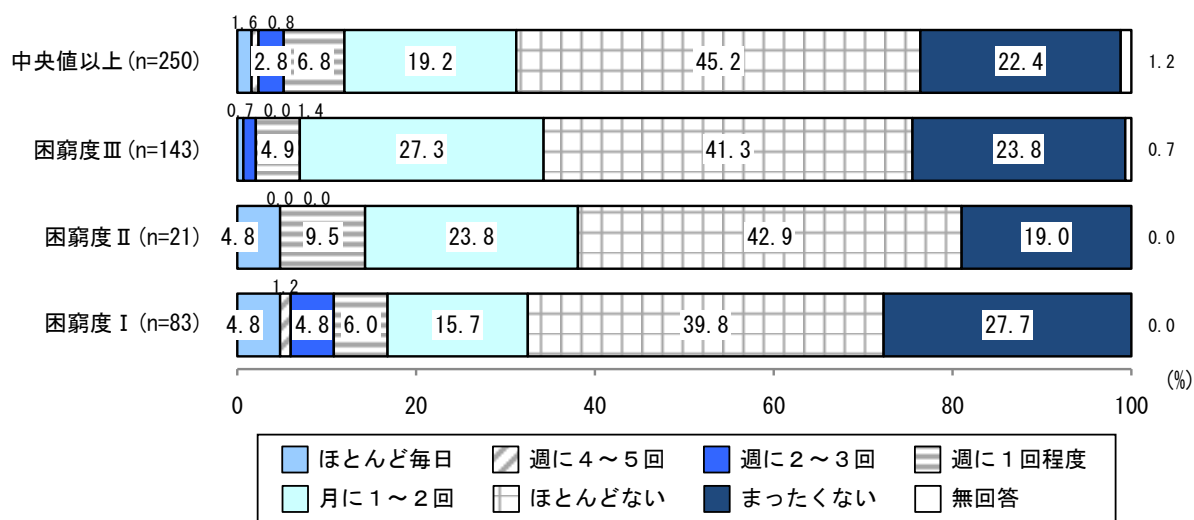
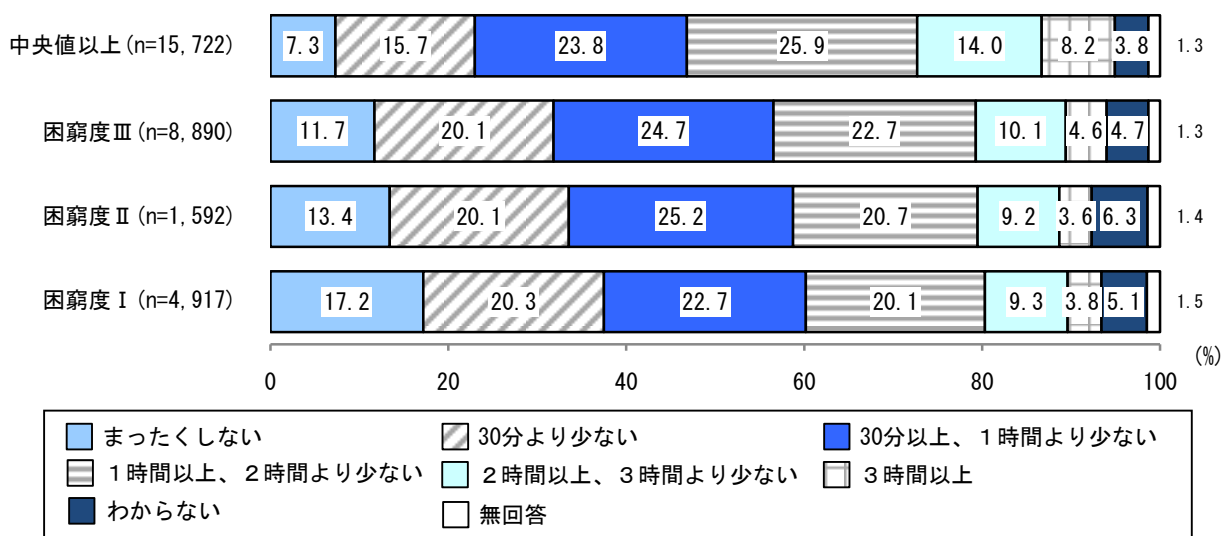


図 99. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか

困窮度別におうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「まったくない」と回答した人の割合が困窮度Ⅰ群で27.7%と最も高い。「ほとんどない」と回答した人は中央値以上群で45.2%と最も高く、次いで、困窮度Ⅱ群の42.9%となった。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）
（子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<柏原市>

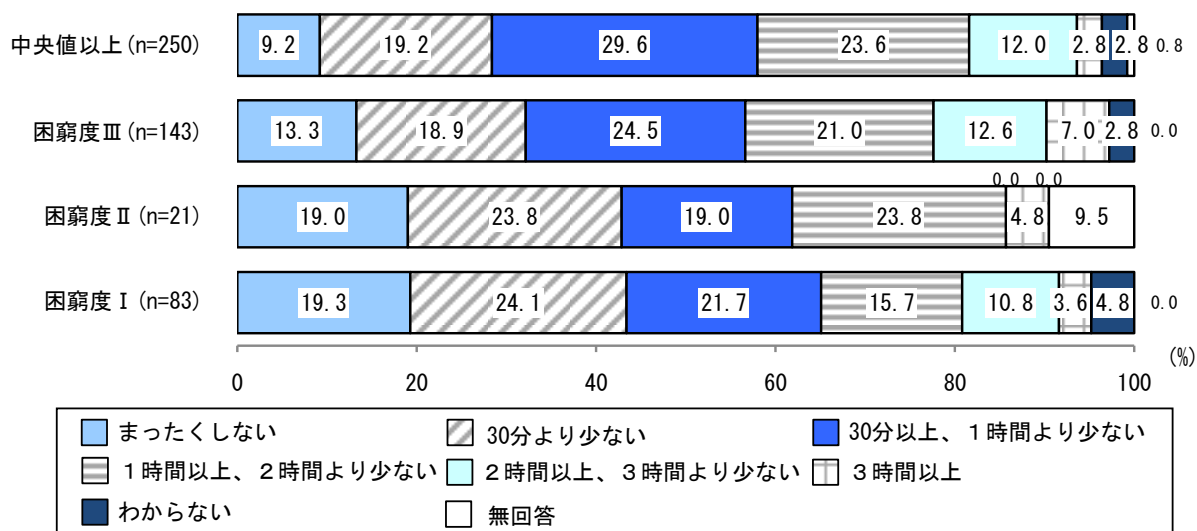
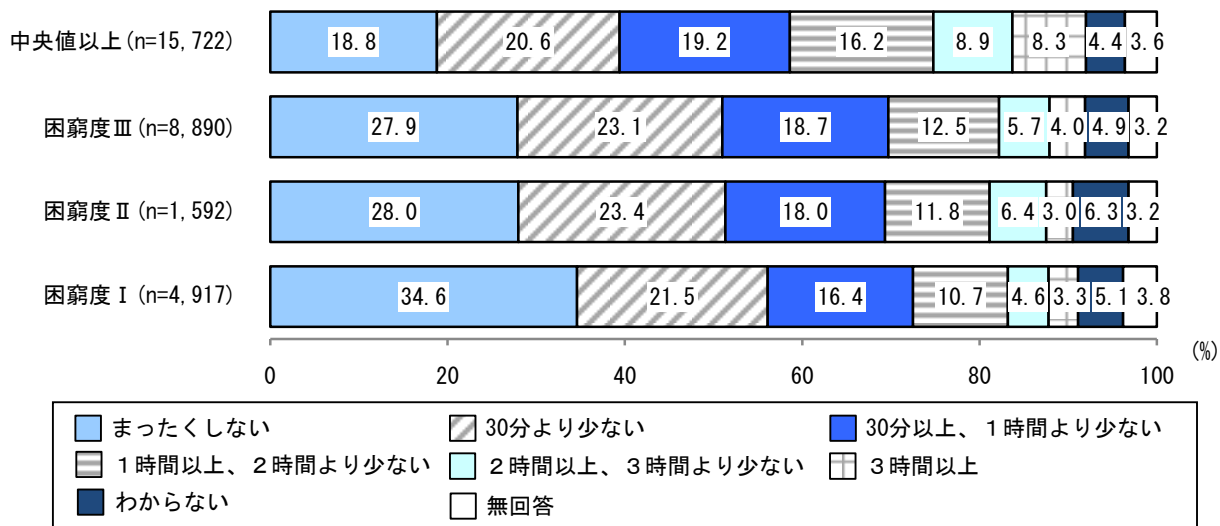


図 100. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

困窮度別に授業以外の勉強時間を見ると、学校のある日では、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」と回答した人の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人は19.3%、「30分より少ない」と回答した人は24.1%である。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）
（子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<柏原市>

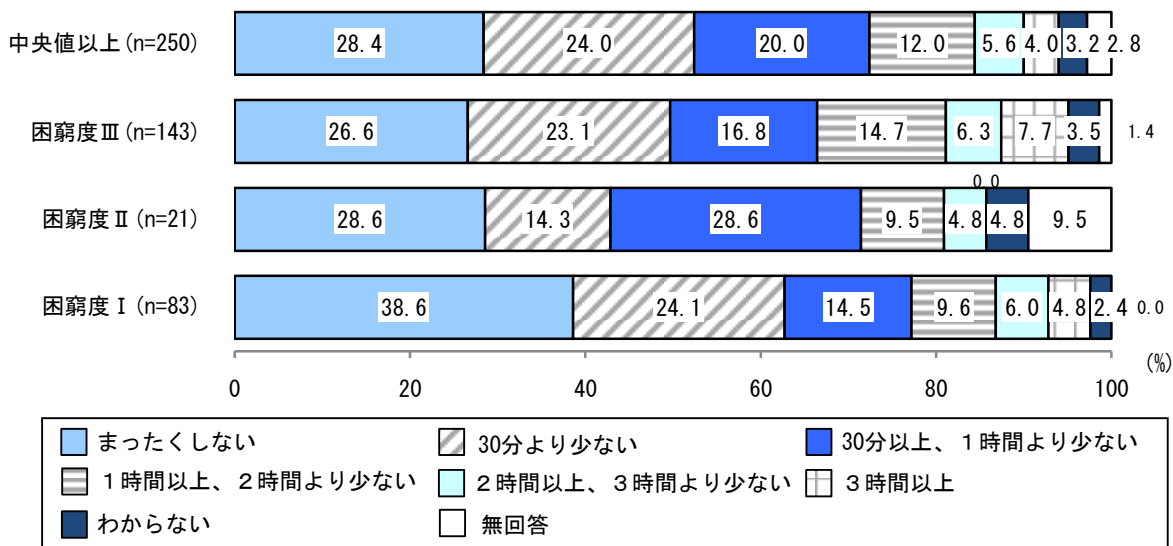
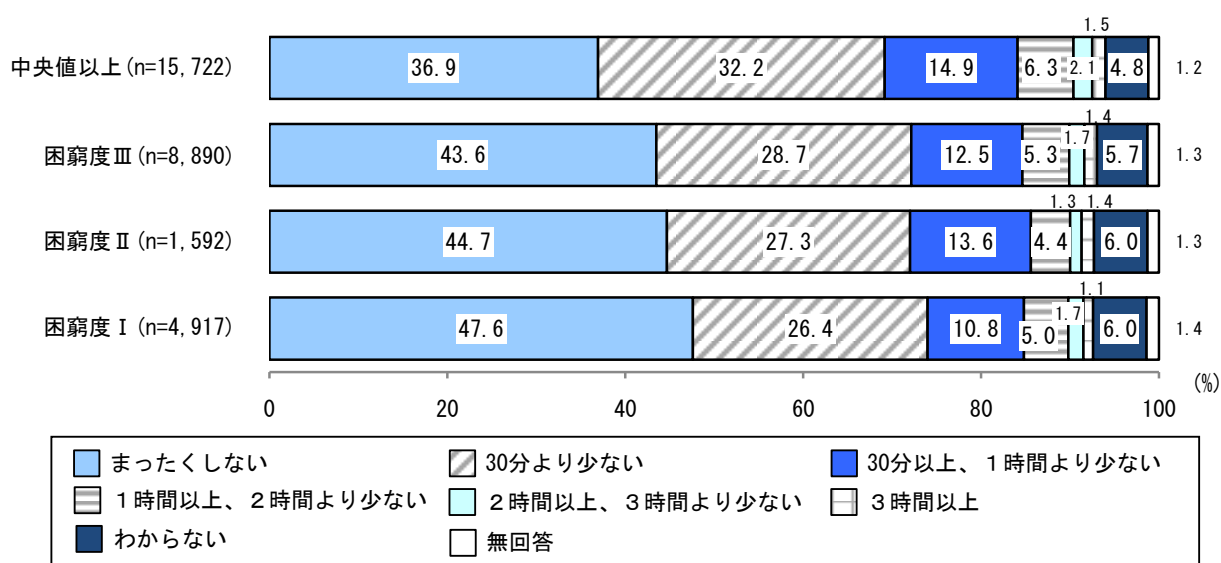


図 101. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

困窮度別に授業以外の勉強時間を見ると、学校がない日では、困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人は38.6%と最も高くなっている。「まったくしない」以外の勉強時間をいずれか回答した割合は、困窮度Ⅲ群で72.1%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問 15）

<大阪府内全体>



<柏原市>

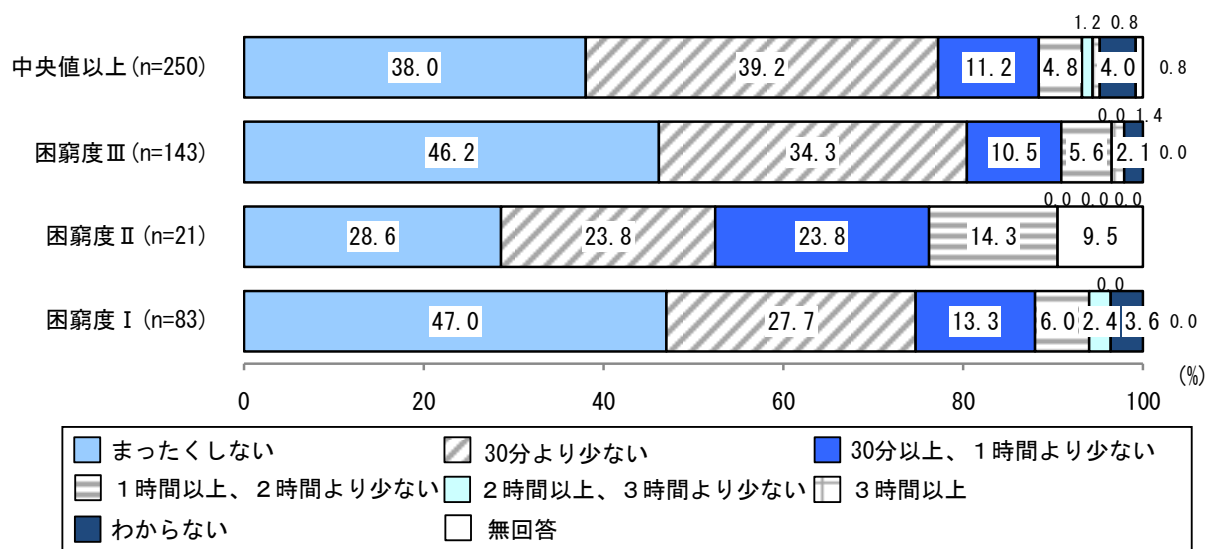
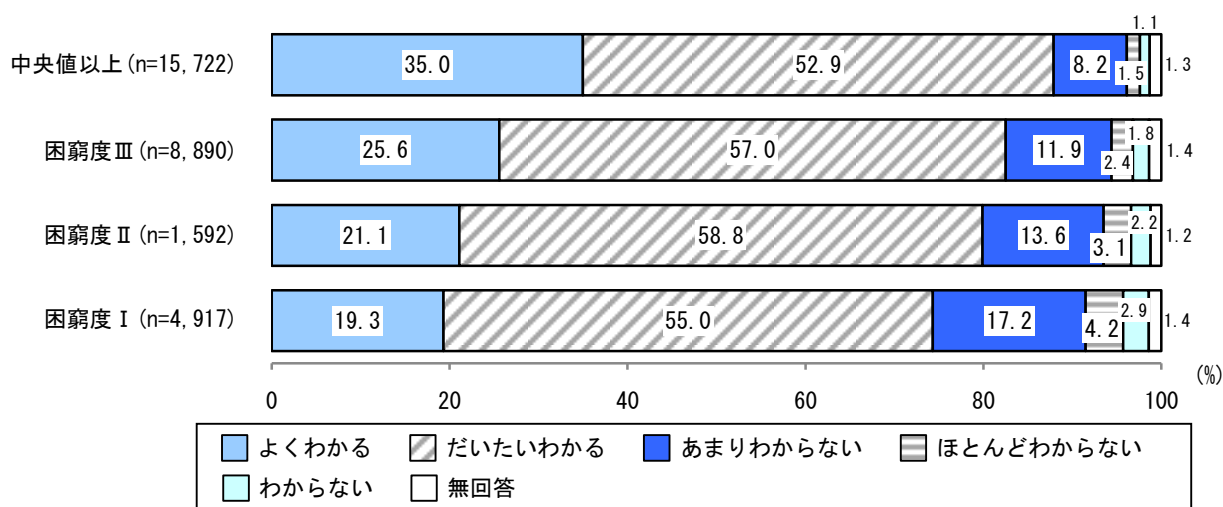


図 102. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間

困窮度別に授業以外の読書時間を見ると、困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人が47.0%で最も高く、次いで、困窮度Ⅲ群では46.2%となった。

困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問 14(1)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

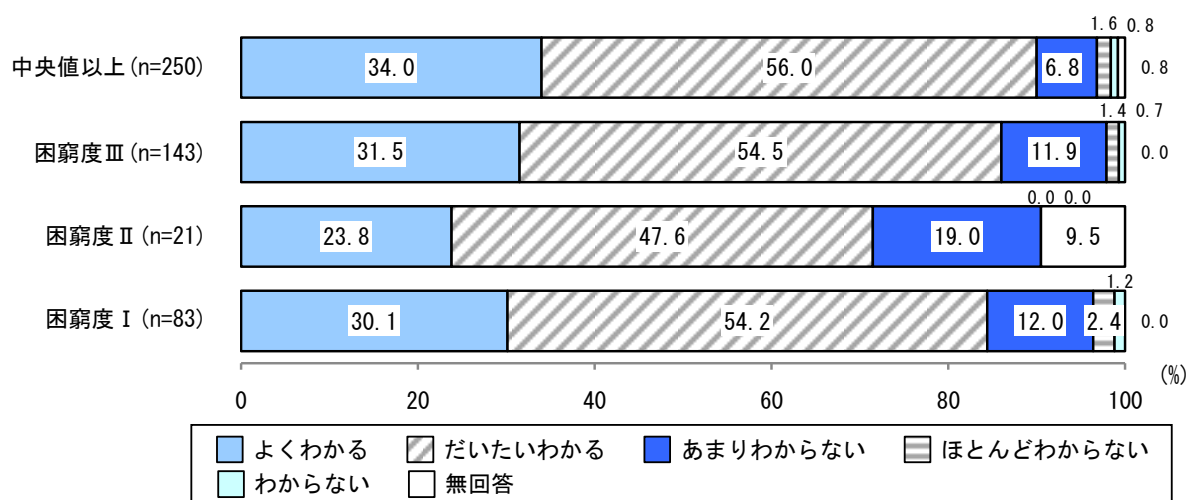


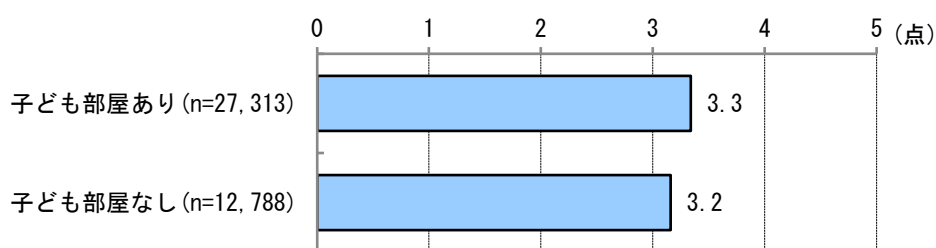
図 103. 困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの

困窮度別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、「よくわかる」と「だいたいわかる」をあわせた『わかる』と回答した割合は、中央値以上群が90.0%で最も高く、困窮度Ⅱ群が71.4%で最も低くなっている。

子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 ①学校がある日
(月～金曜日)(子ども票問21×子ども票問13①)

※勉強時間について、「1. まったくしない」「2. 30分より少ない」「3. 30分以上、1時間より少ない」「4. 1時間以上、2時間より少ない」「5. 2時間以上、3時間より少ない」「6. 3時間以上」の6つの時間枠からひとつを選択させた(「7. わからない」は除く)。項目番号を勉強時間の得点とみなし、得点が高いほど、勉強時間が長いことを表す。

<大阪府内全体>



<柏原市>

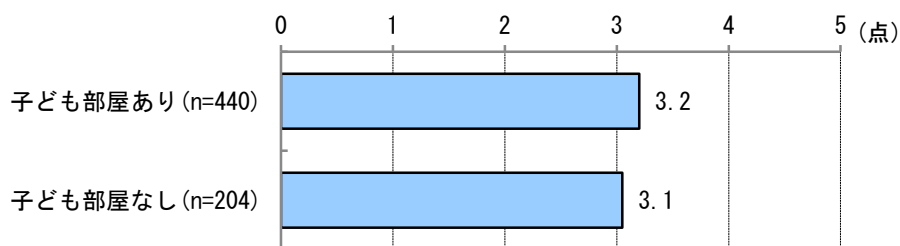
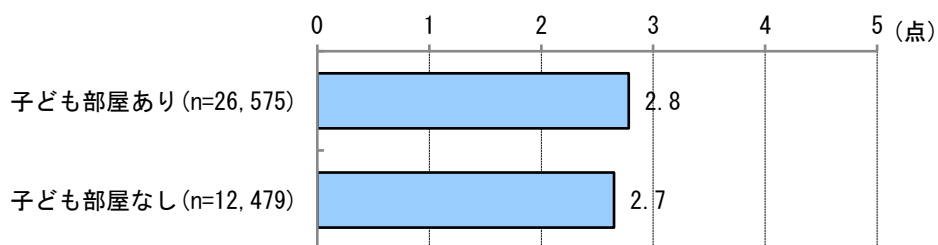


図 104. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 (学校がある日)

子ども部屋の有無別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、子ども部屋がある子どもの方が、勉強時間が長い。

子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 ②学校がない日
(土・日曜日・祝日)(子ども票問21×子ども票問13②)

<大阪府内全体>



<柏原市>

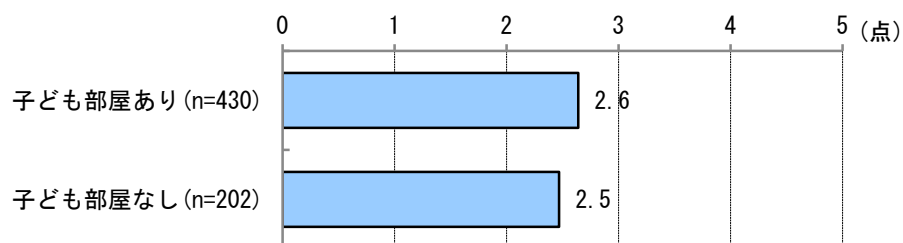
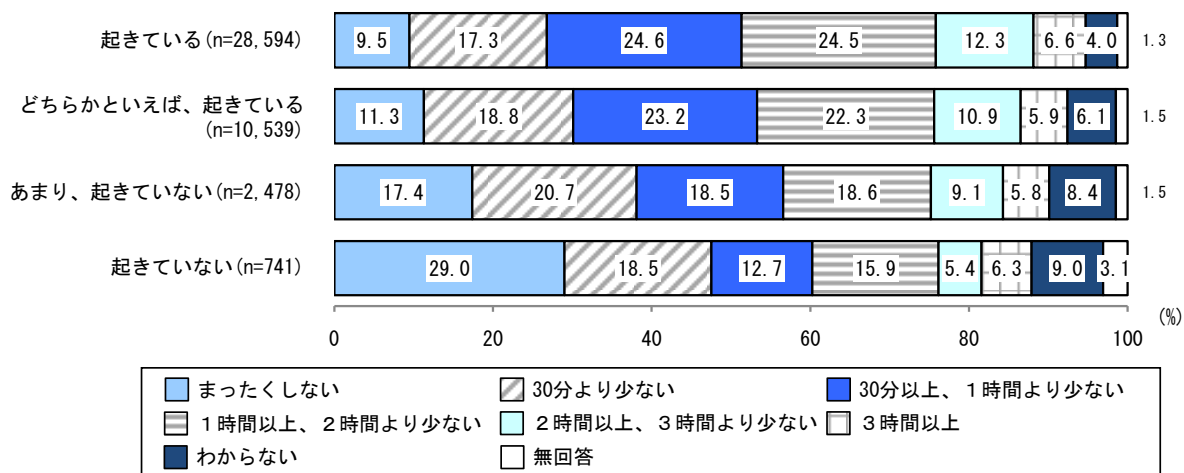


図 105. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 (学校がない日)

子ども部屋の有無別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、子ども部屋がある子どもの方が、勉強時間が長い。

起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）（子ども票問2×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<柏原市>

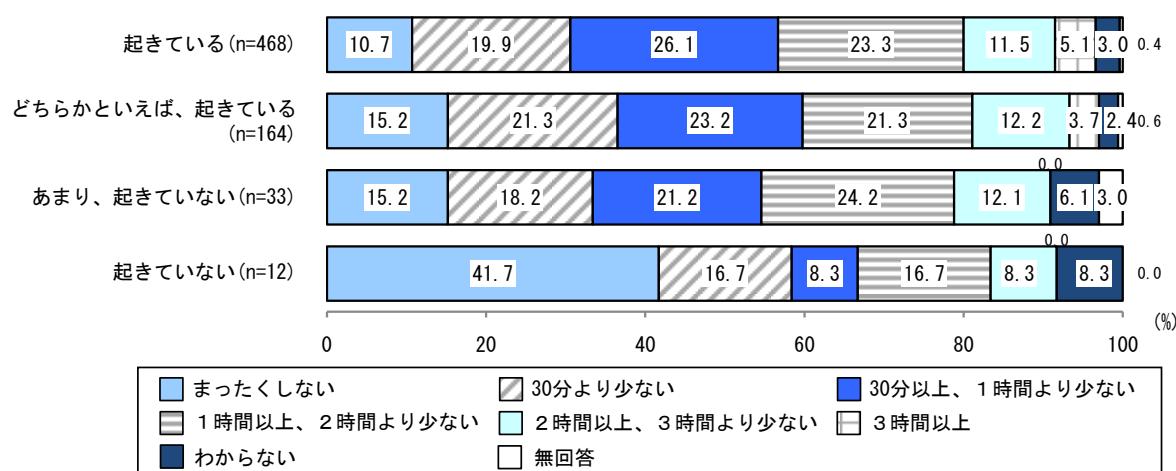
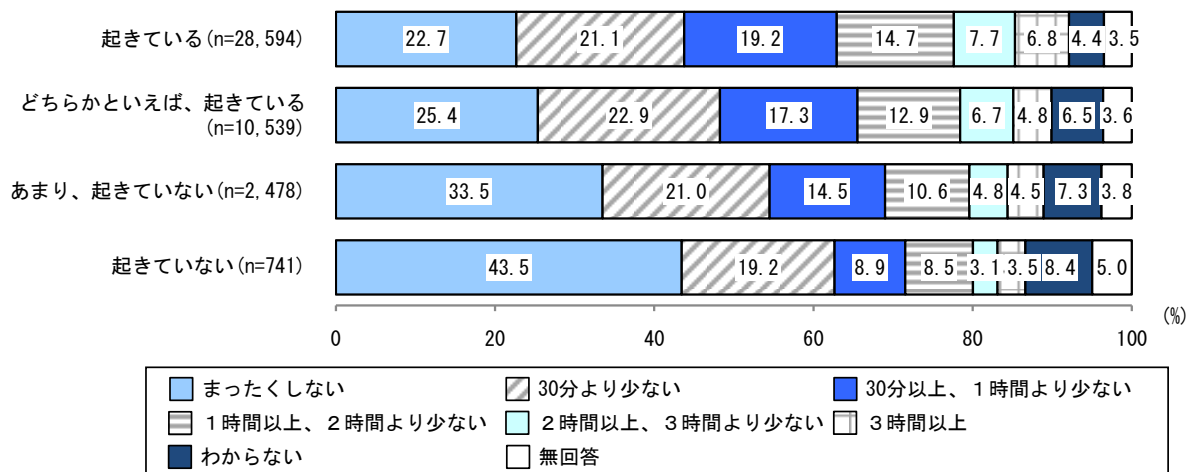


図 106. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

起床時間の規則性別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、ふだん同じ時刻に起きていない人ほど「まったくしない」の回答の割合が高くなっている。「30分以上、1時間より少ない」、「3時間以上」の割合は起きていますの割合が最も高くなっている。一方、「まったくしない」の割合は起きていない人が41.7%で最も高くなっている。

起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問2×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<柏原市>

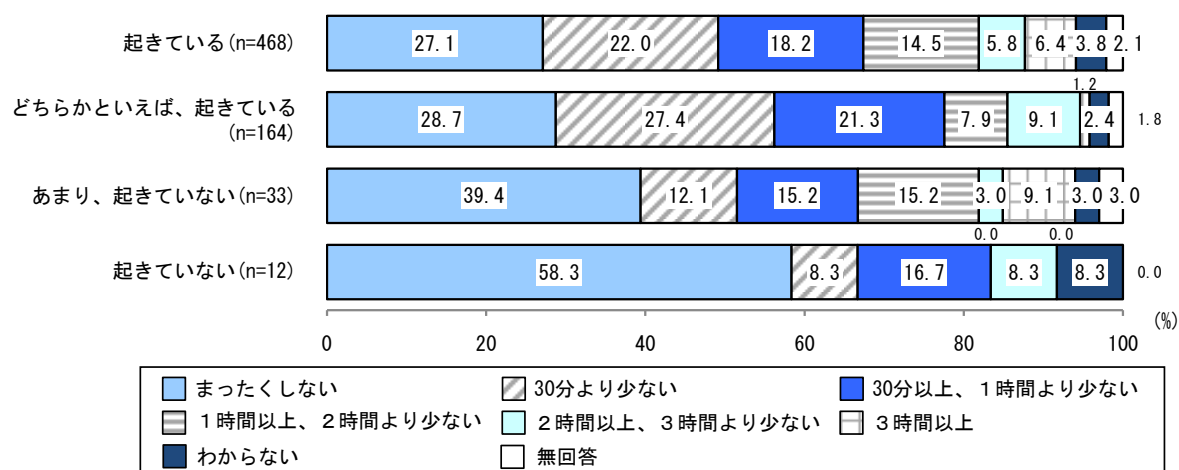
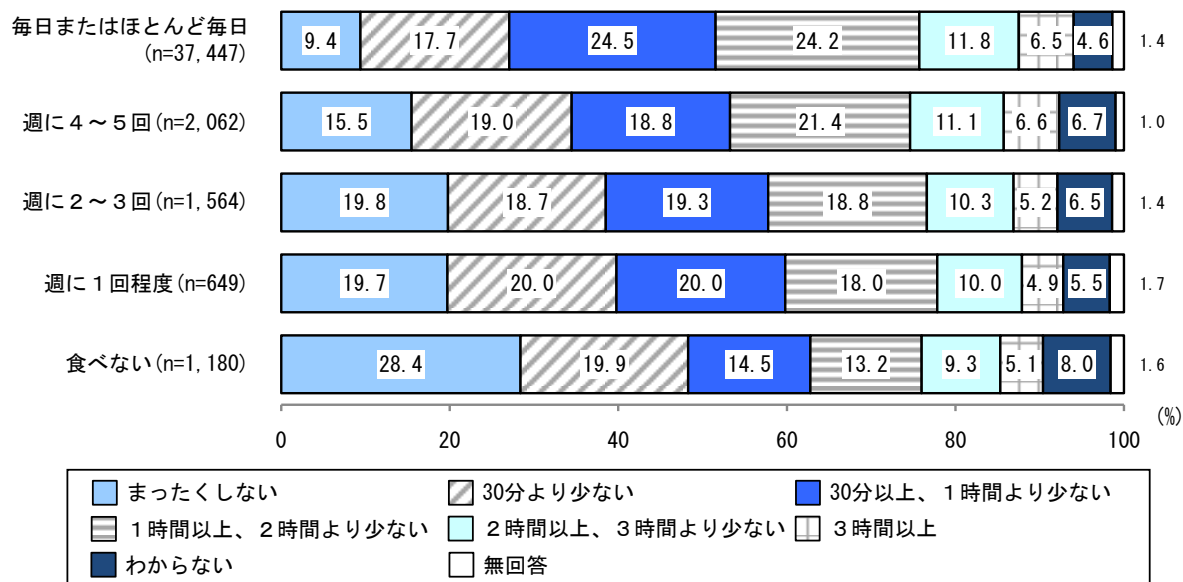


図 107. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

起床時間の規則性別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、ふだん同じ時刻に起きていない人ほど「まったくしない」の回答の割合が高くなっている。「まったくしない」の割合は起きていない人が58.3%で最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）
（子ども票問4(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<柏原市>

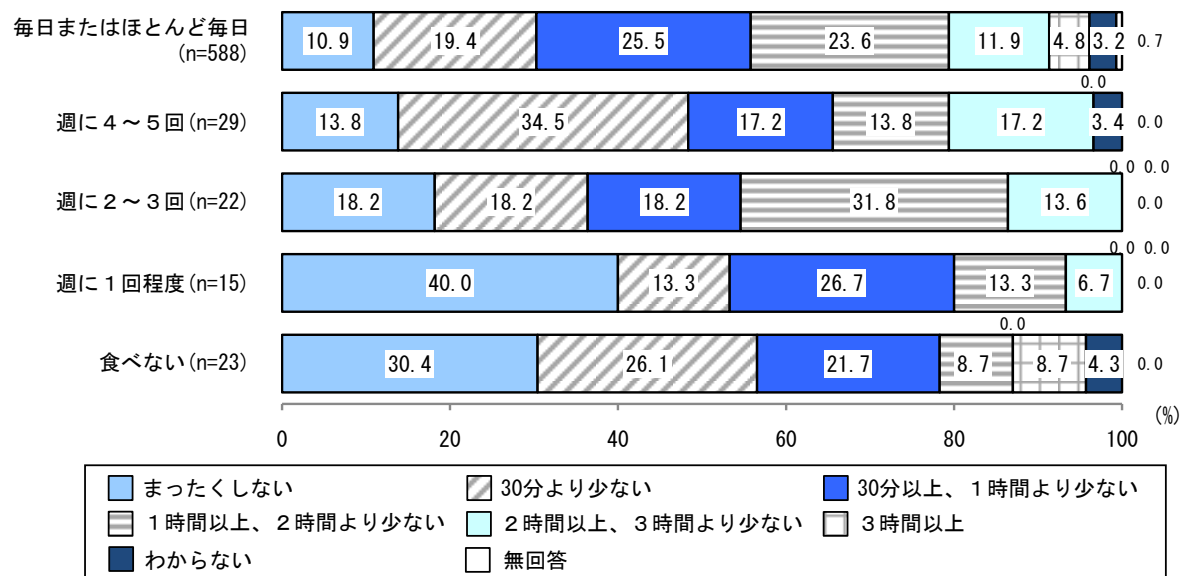
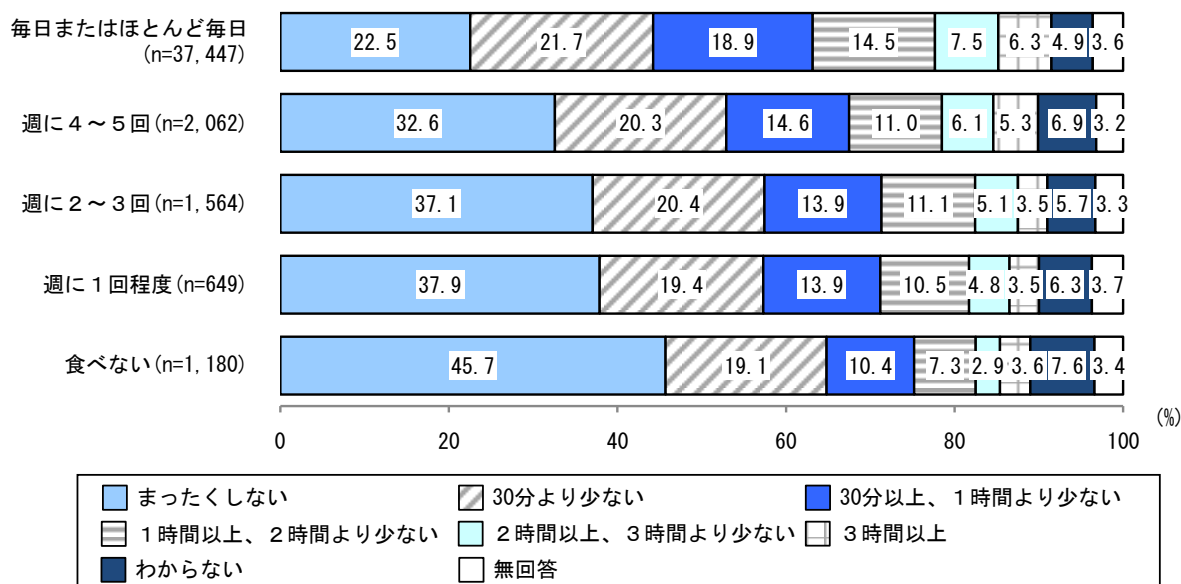


図 108. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

朝食の頻度別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、朝食の頻度が少ない人ほど「まったくしない」の回答の割合が高く、朝食の頻度が週に1回程度が40.0%で最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問4(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<柏原市>

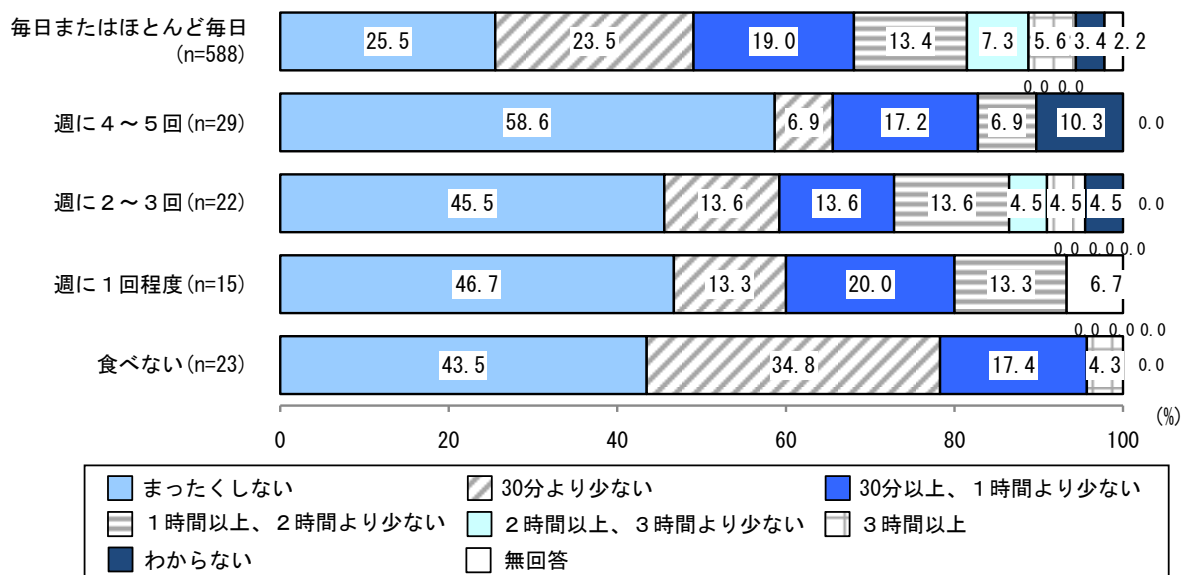
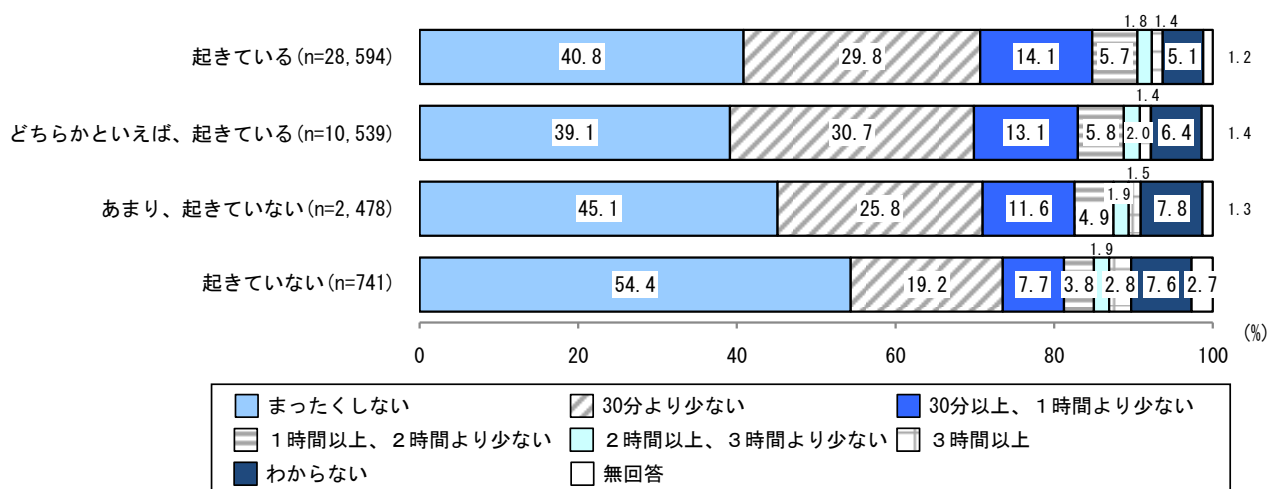


図 109. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

朝食の頻度別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、朝食を毎日またはほとんど毎日食べる人は「まったくしない」の回答が25.5%と最も低く、週に4～5回食べる人が58.6%で最も高くなっている。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問2×子ども票問15）

<大阪府内全体>



<柏原市>

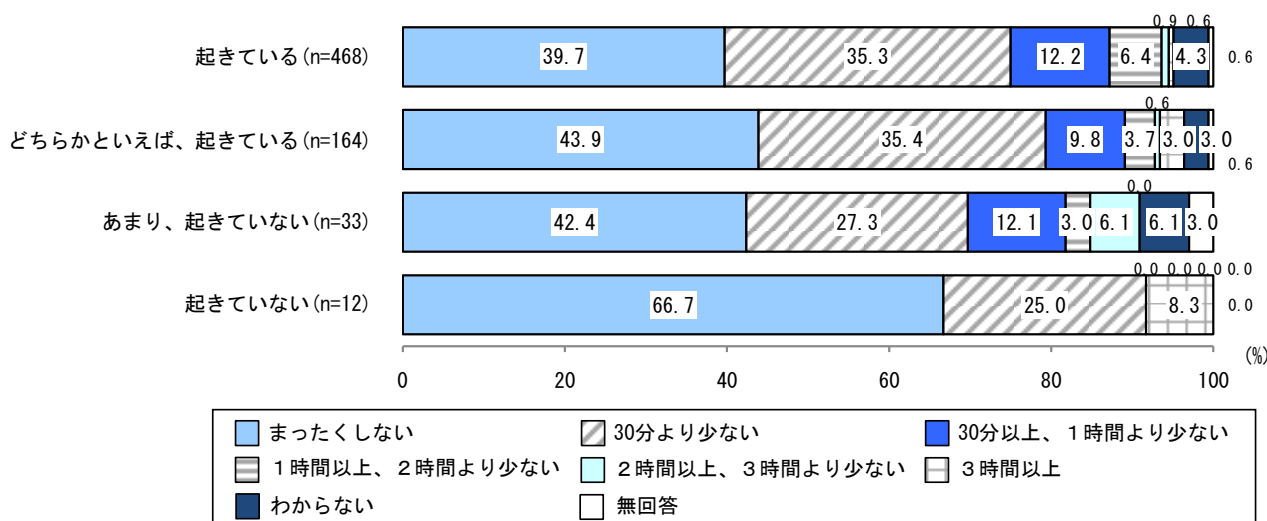
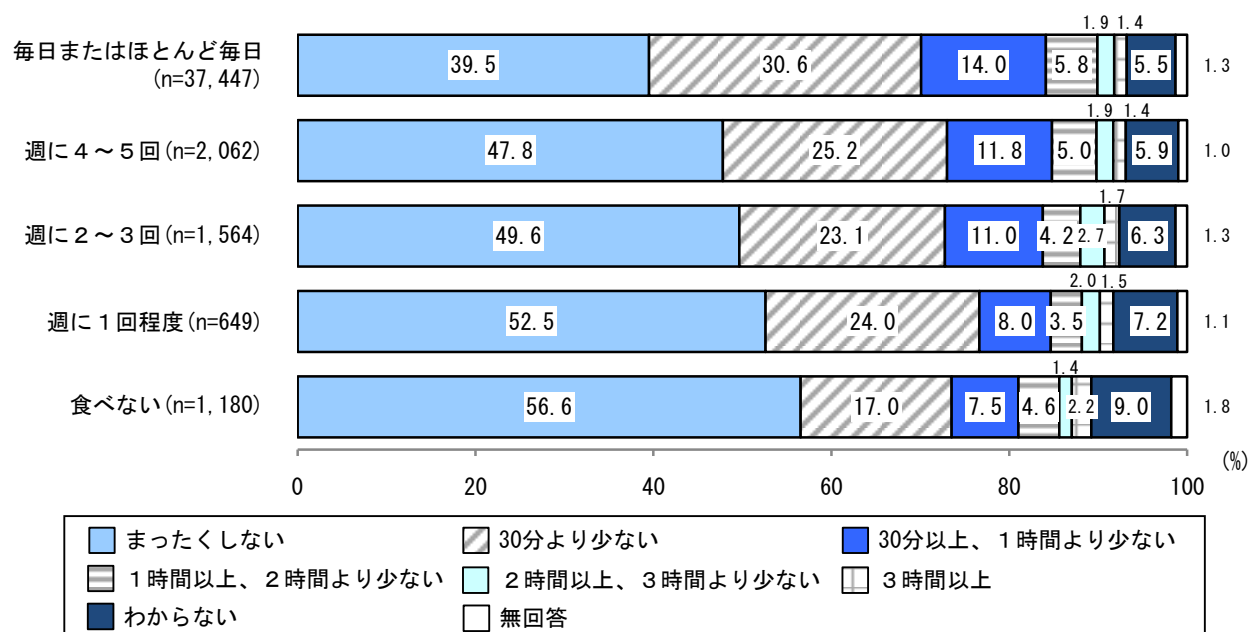


図 110. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間

起床時間の規則性別に授業以外の読書時間を見ると、ふだん同じ時刻に起きていない人ほど、「まったくしない」と回答した割合が高くなっている。起きていない人では、「まったくしない」と回答した人は66.7%となっている。

朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問4(1)×子ども票問15)

<大阪府内全体>



<柏原市>

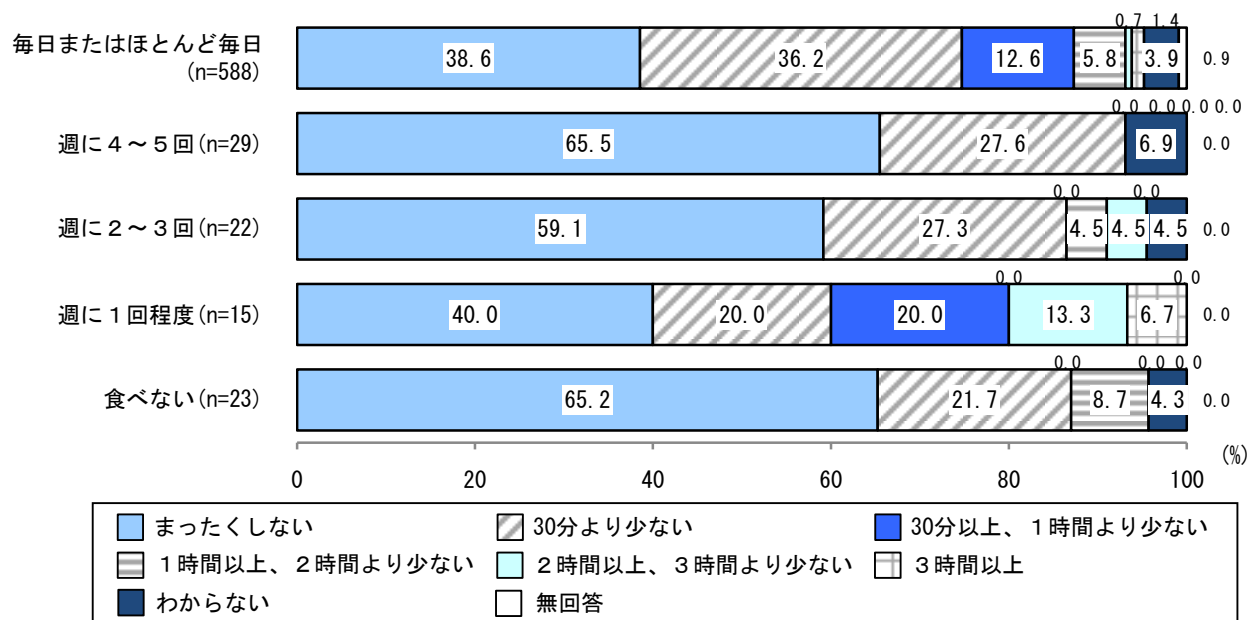
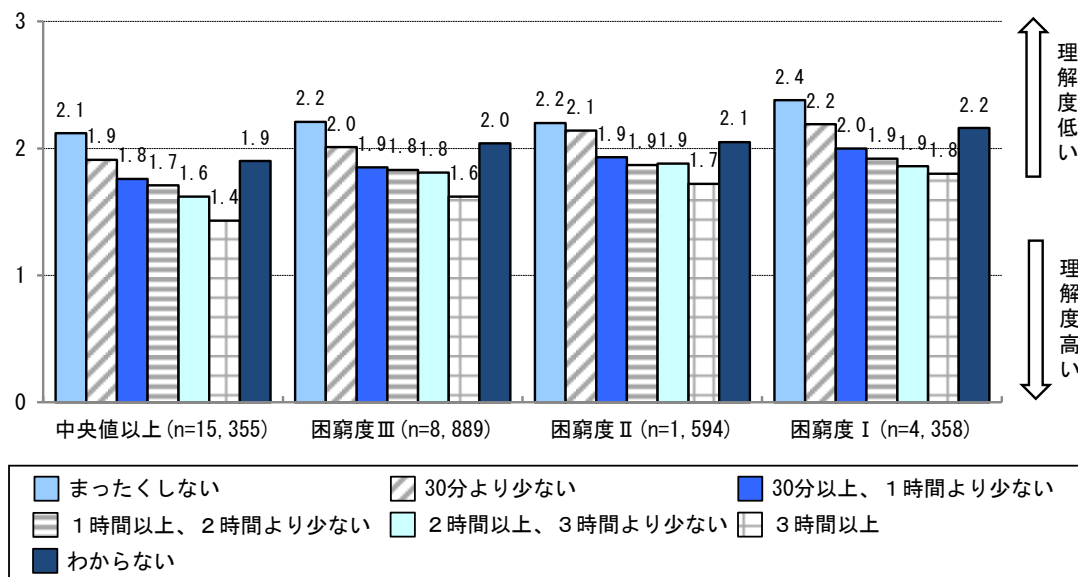


図 111. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間

朝食の頻度別に授業以外の読書時間を見ると、「まったくしない」と回答した人は、毎日またはほとんど毎日食べる人では38.6%と最も低く、次いで週1回程度食べる人が40.0%となっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連
（子ども票問14(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<柏原市>

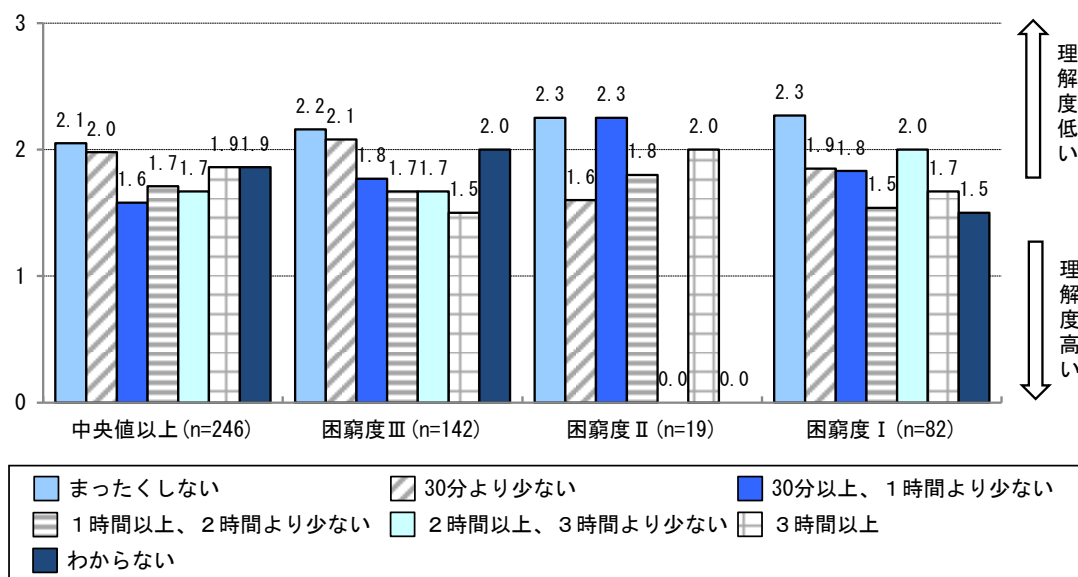
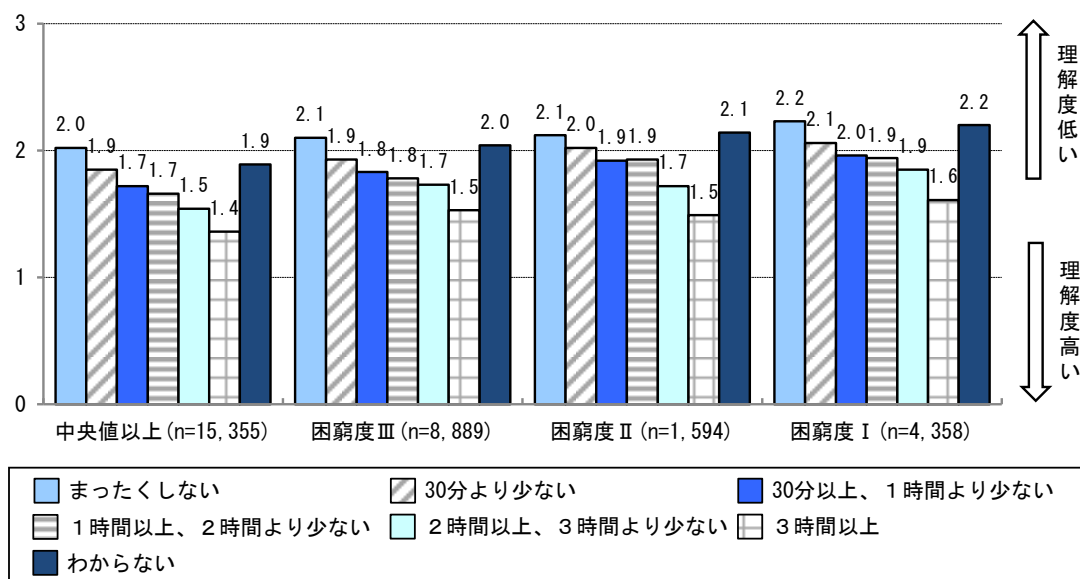


図 112. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連

困窮度別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間と学習理解度の関連を見ると、中央値以上群の子どもに比べ、それ以外の群の子どもは「まったくしない」の学習理解度は下がるが、学習時間と学習理解度が関連しない。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連
（子ども票問14(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<柏原市>

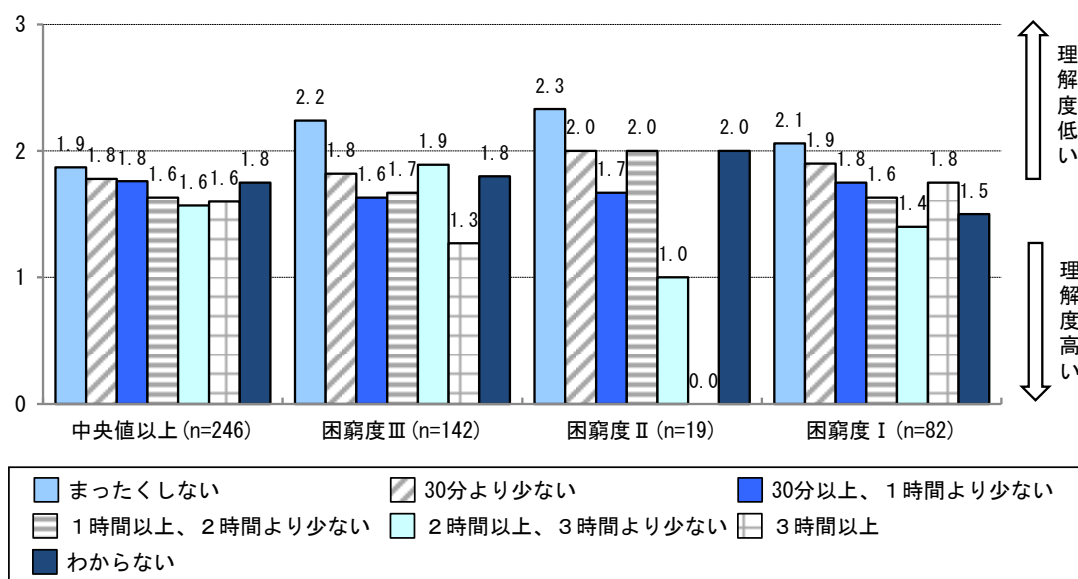
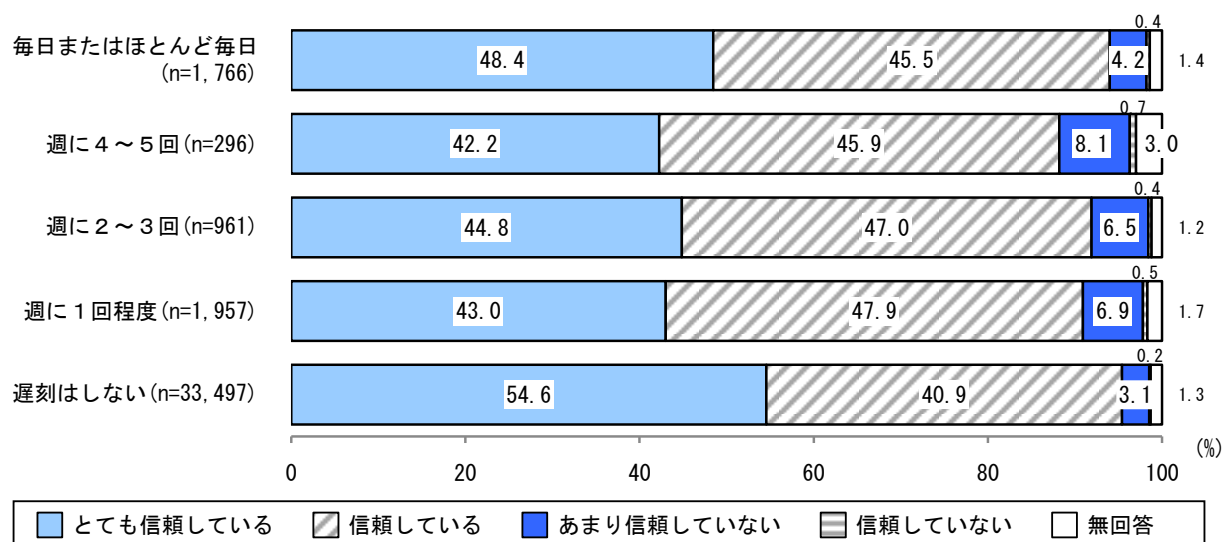


図 113. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連

困窮度別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間と学習理解度の関連を見ると、中央値以上群の子どもは、勉強時間が長くなるほど、学習理解度が概ね高まるが、それ以外の群の子どもは「全くしない」の学習理解度はほかに比べて下がるが、学習時間と学習理解度が関連しない。

学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度（子ども票問7×保護者票問13(1)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

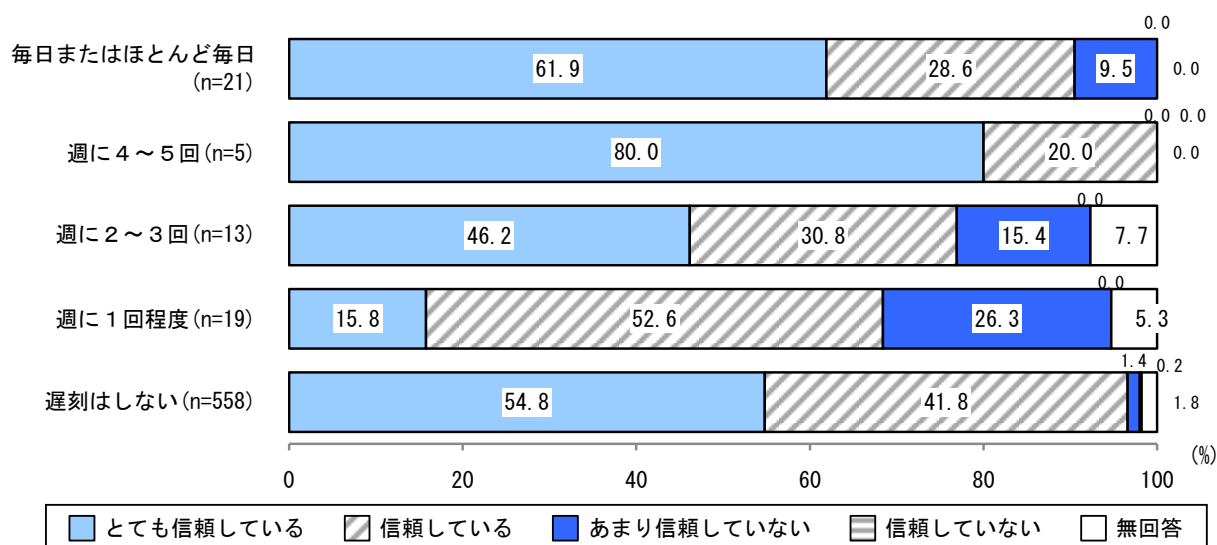
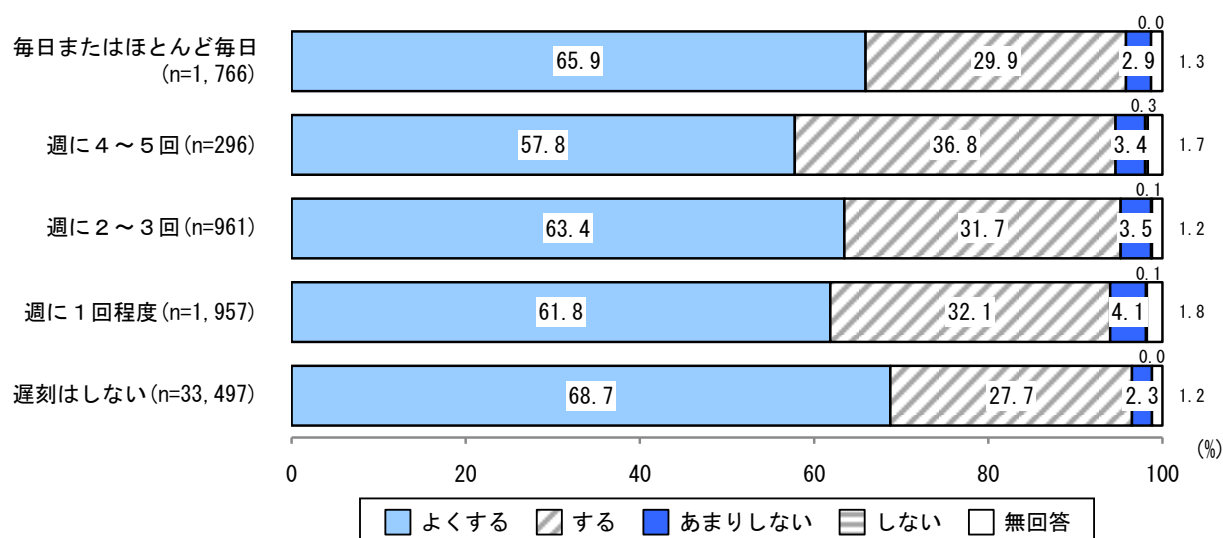


図 114. 学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度

学校への遅刻別に子どもへの信頼度を見ると、「週に4～5回」の子どもにおいて、保護者は「とても信頼している」割合が80.0%と最も高い。一方で、「あまり信頼していない」割合は、「週に1回程度」の子どもの保護者が高く、26.3%である。

学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度（子ども票問7×保護者票問13(2)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

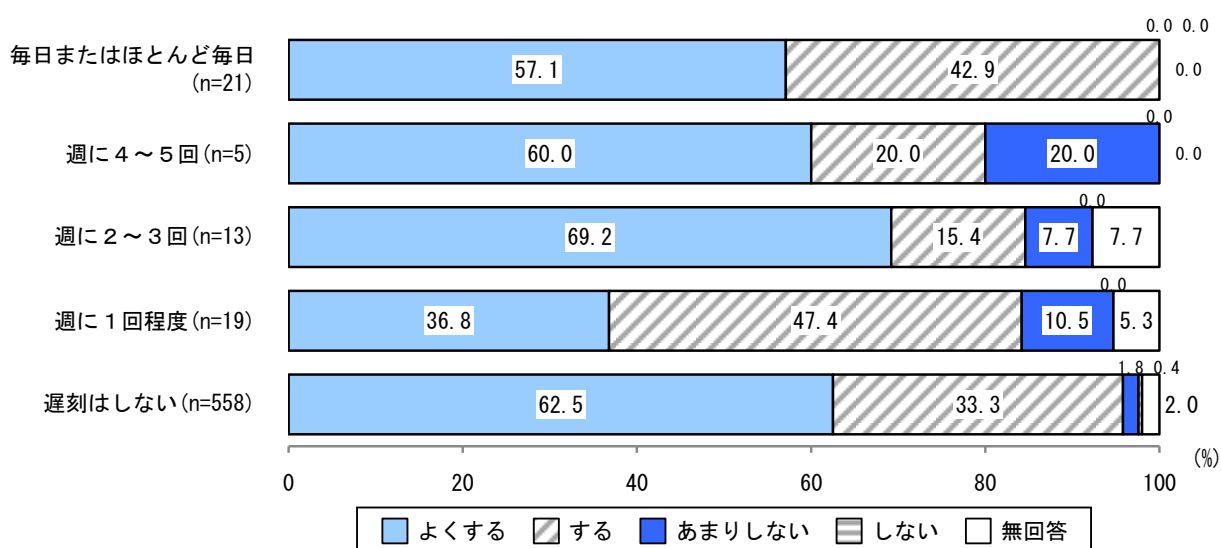
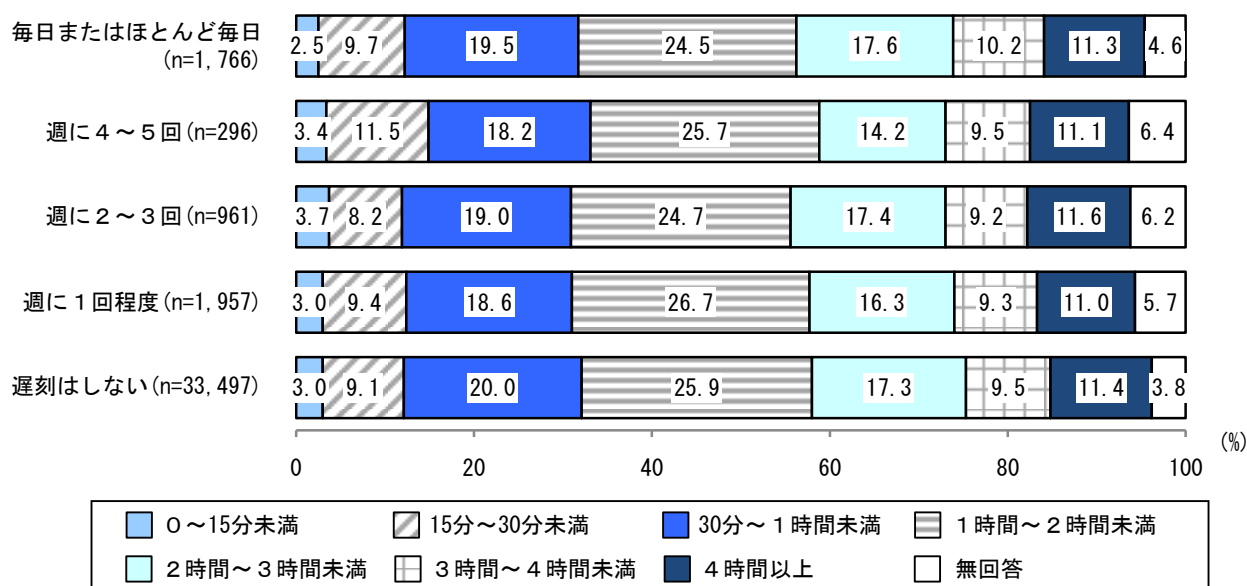


図 115. 学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度

学校への遅刻別に子どもとの会話頻度を見ると、「週に2～3回」の子どもにおいては、会話を「よくする」割合が高く、69.2%である。次いで「遅刻はしない」子どもが62.5%である。

学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間（子ども票問7×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

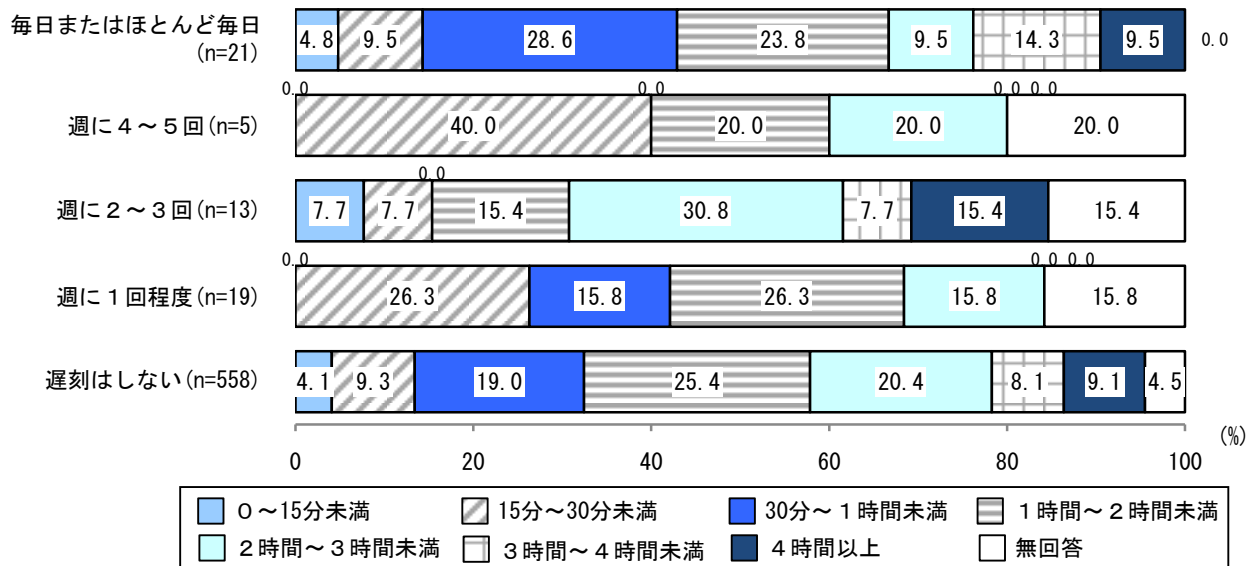
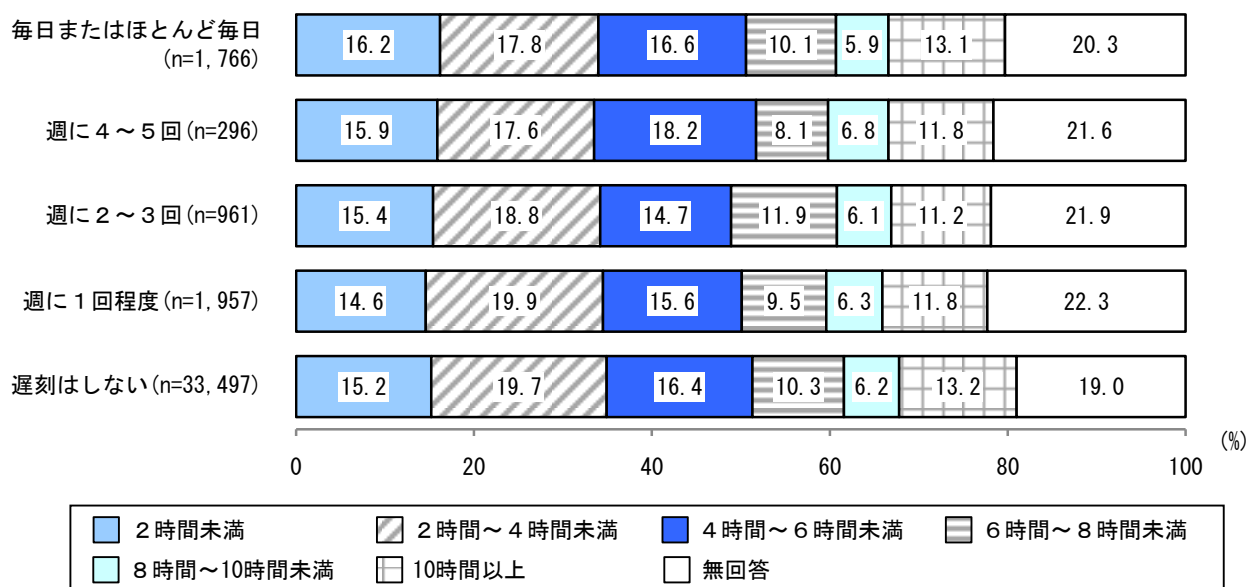


図 116. 学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間

学校への遅刻別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」の子どもにおいては、「30分～1時間未満」(28.6%)、「1時間～2時間未満」(23.8%)の割合が最も高くなっている。「週に2～3回」の子どもにおいては、「2時間～3時間未満」(30.8%)の割合が最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間（子ども票問7×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

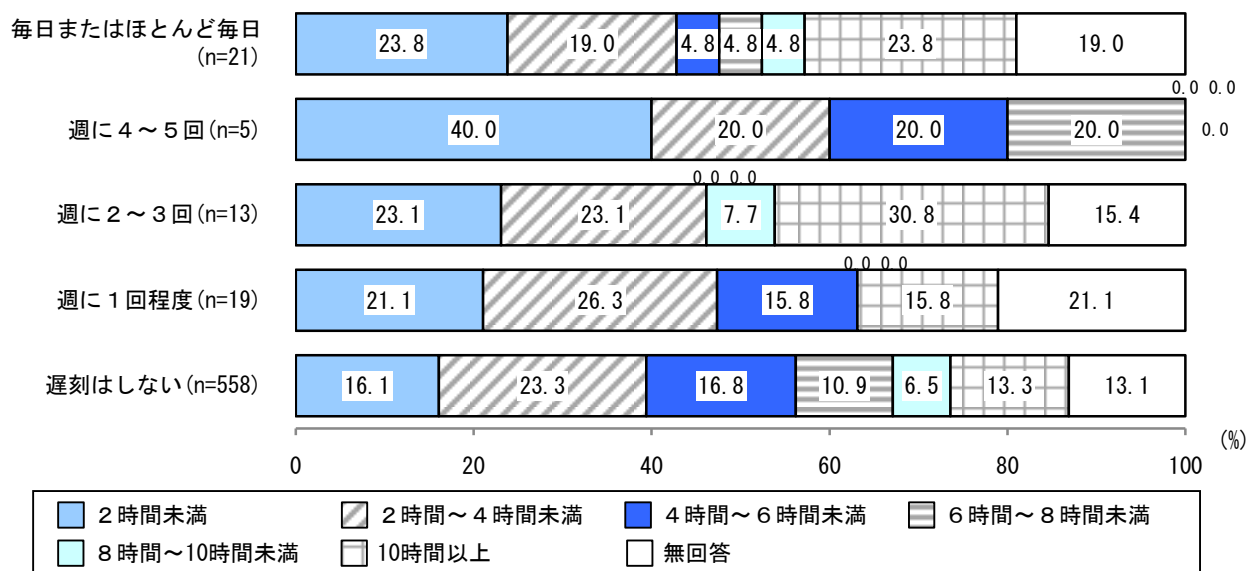
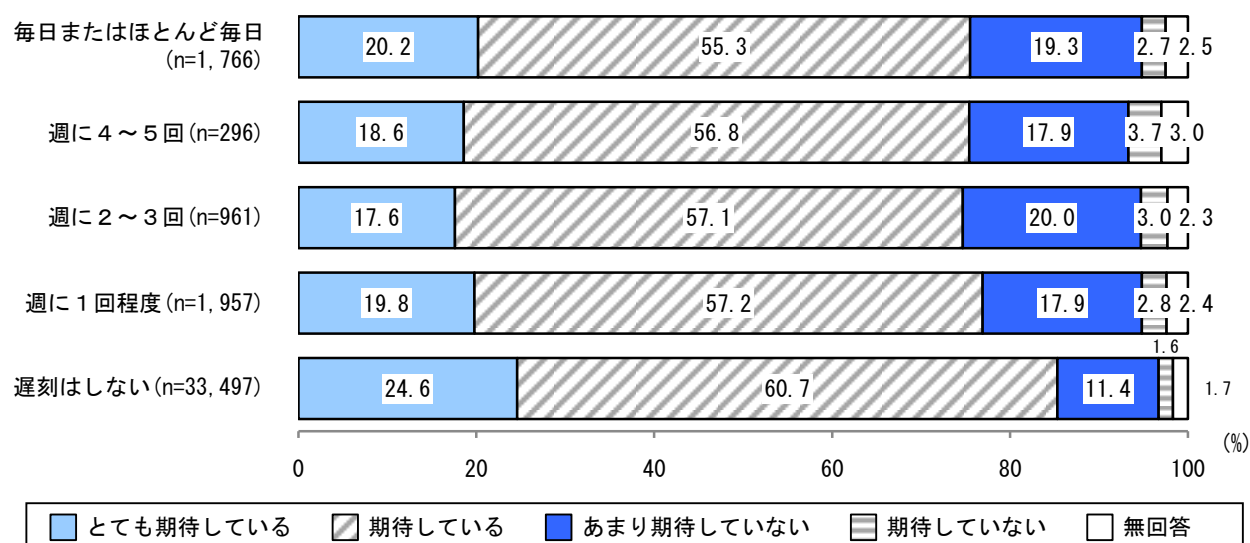


図 117. 学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間

学校への遅刻別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」の子どもにおいては、「2時間未満」（23.8%）、「10時間以上」（23.8%）の割合が最も高くなっている。「週に4～5回」の子どもにおいては、「2時間未満」（40.0%）、「週に2～3回」の子どもにおいては、「10時間以上」（30.8%）の割合が最も高い。

学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度（子ども票問 7 × 保護者票問 13(4)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

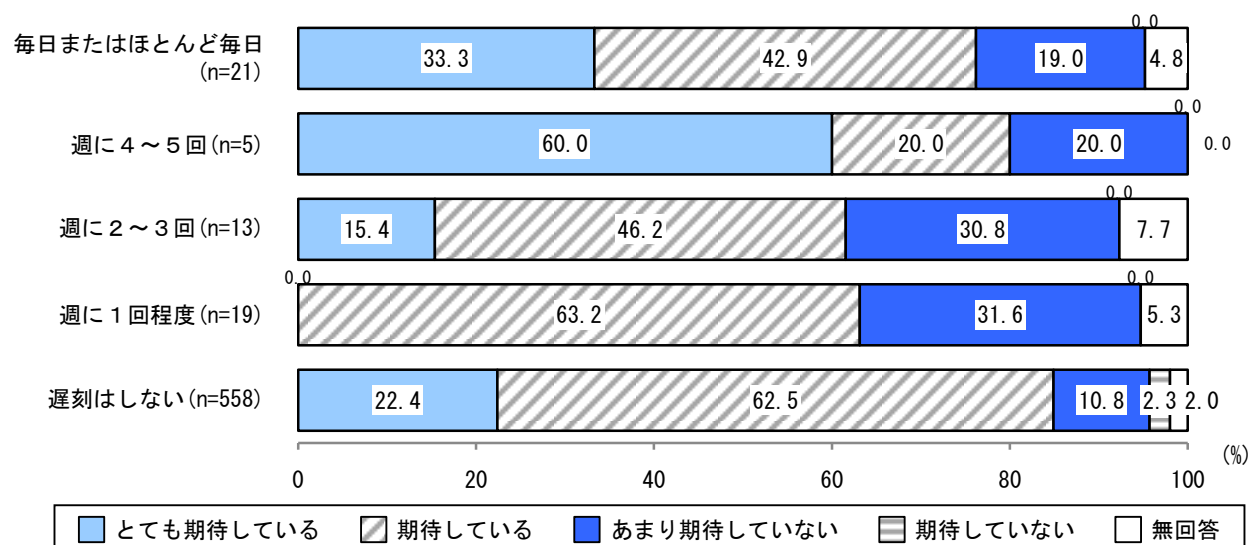
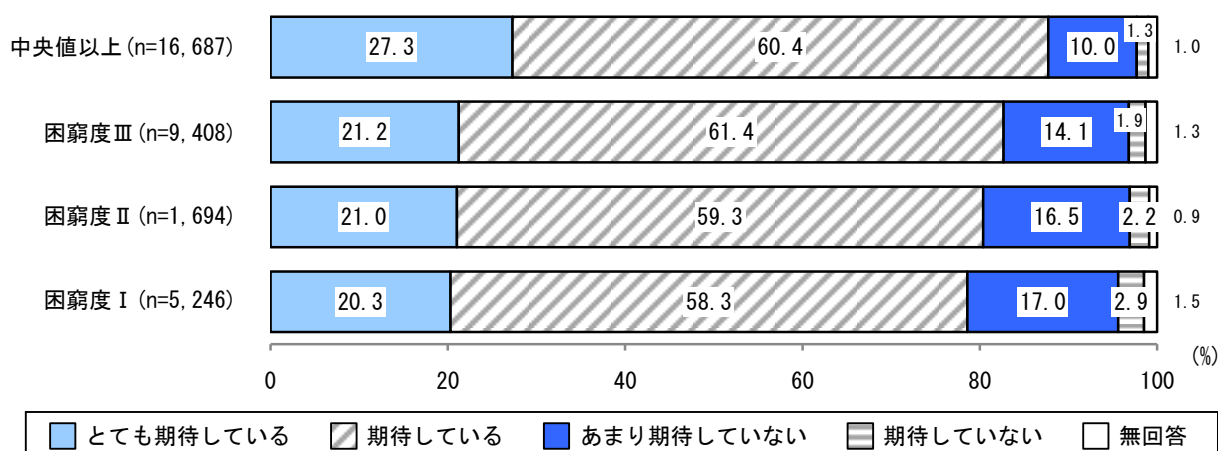


図 118. 学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度

学校への遅刻別に子どもの将来への期待度を見ると、「週に 4 ～ 5 回」の子どもにおいては、「とても期待している」の割合が60.0%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの将来への期待度（保護者票問 13(4)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

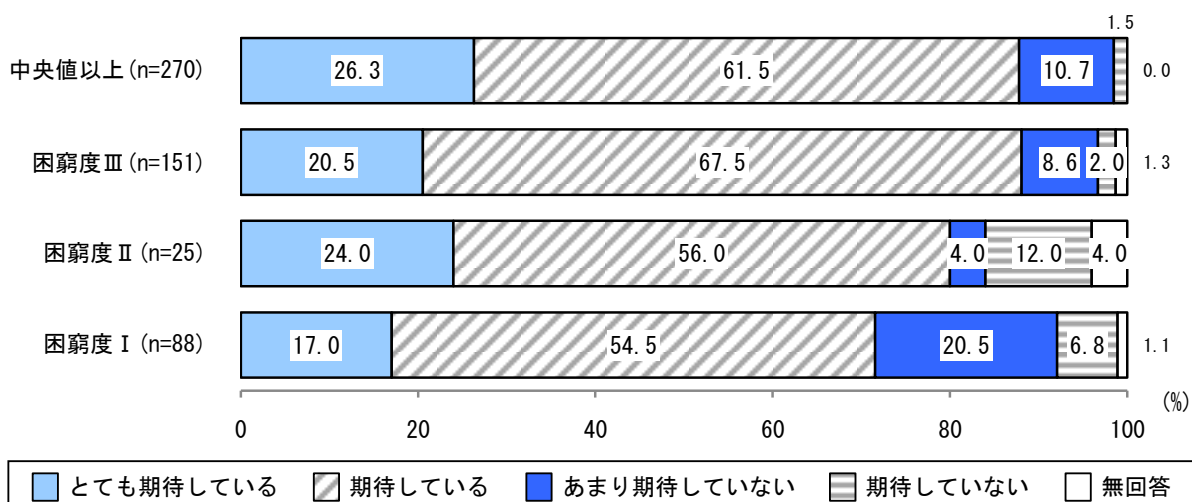
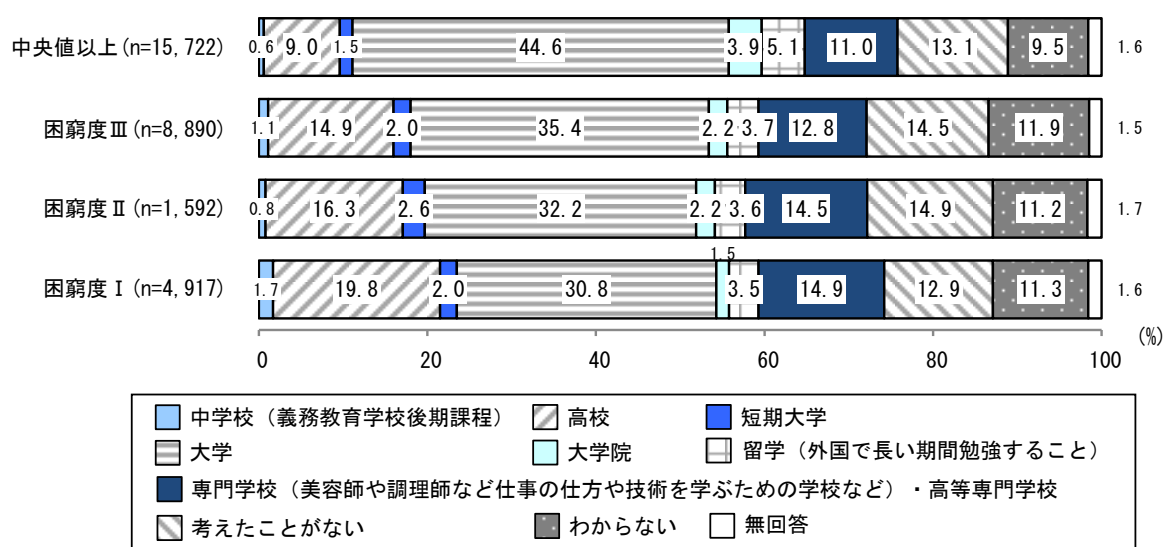


図 119. 困窮度別に見た、子どもの将来への期待度

困窮度別に子どもの将来への期待度を見ると、「とても期待している」の割合は中央値以上群が26.3%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、希望する進学先（子ども票問 24）

<大阪府内全体>



<柏原市>

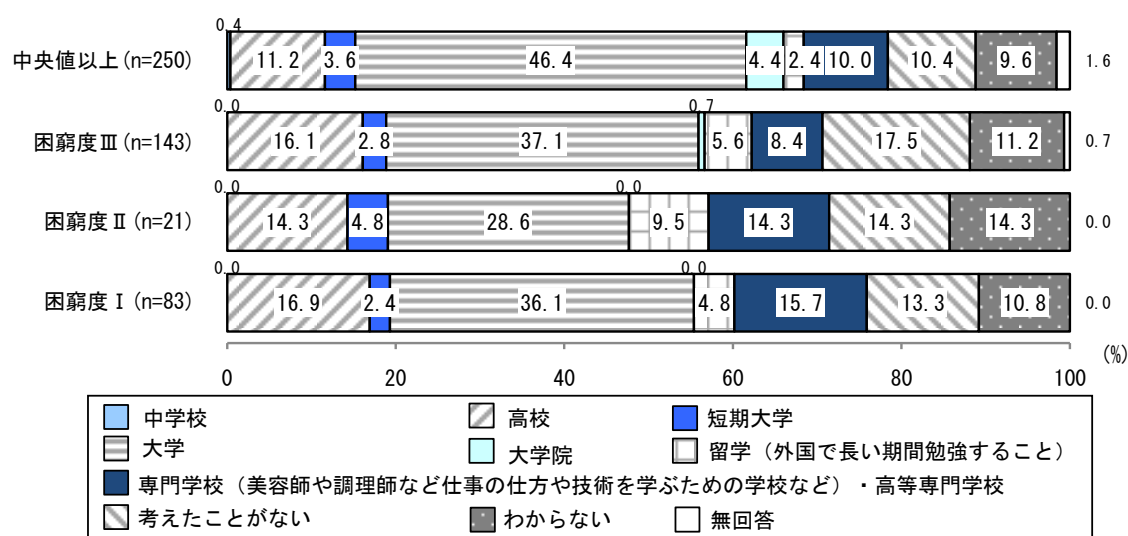
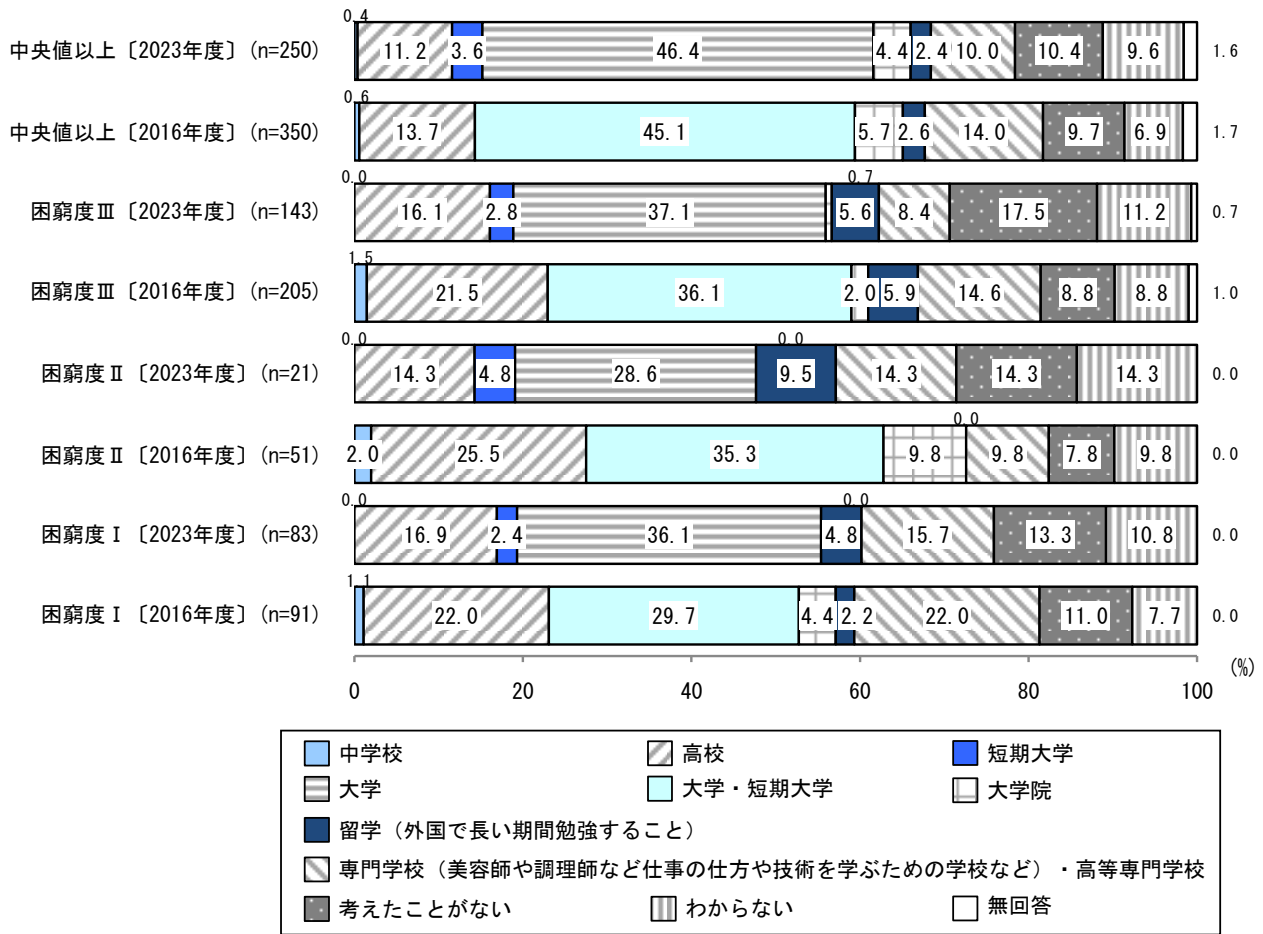


図 120. 困窮度別に見た、希望する進学先

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、困窮度が高まるにつれ、高校卒業までの割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「高校」と回答した子どもは16.9%である。中央値以上群において「大学」と回答した割合は高く、46.4%である。

<2016 年度調査との比較／柏原市>



※1 「短期大学」「大学」は、2016 年度調査では「大学・短期大学」

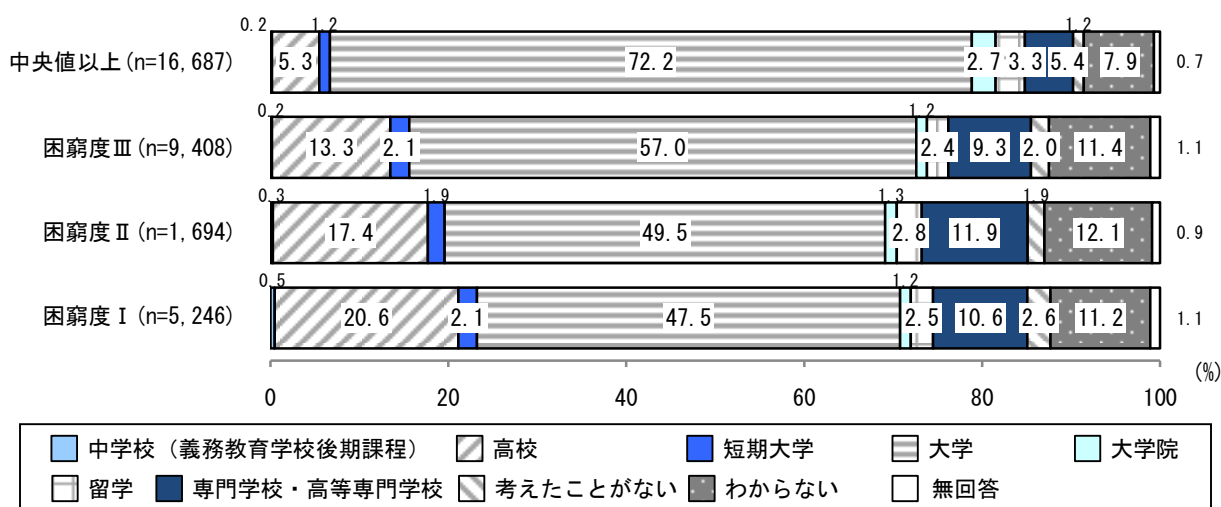
※2 「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」は、2016 年度調査では「専門学校」

図 121. 困窮度別に見た、希望する進学先（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「高校」と回答した割合は、いずれの困窮度も2016年度調査に比べて低くなっている。

困窮度別に見た、子どもに希望する進学（保護者票問 14）

<大阪府内全体>



<柏原市>

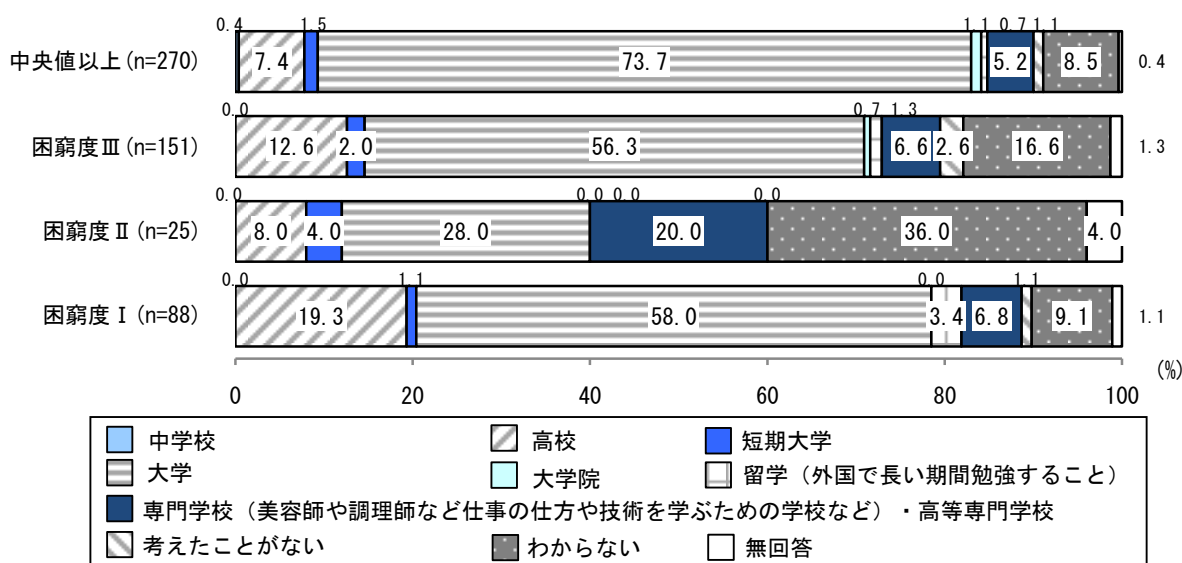
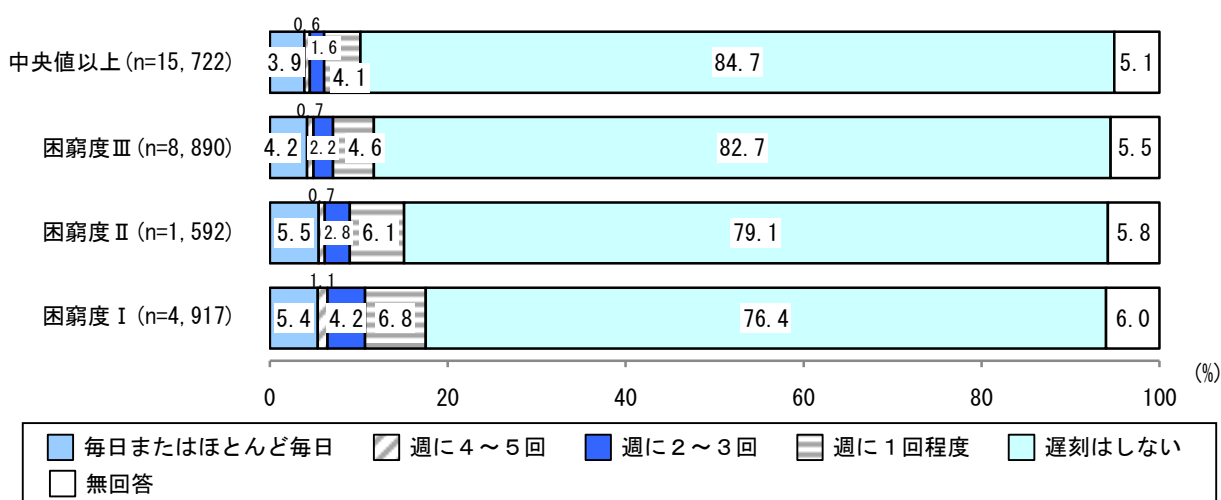


図 122. 困窮度別に見た、子どもに希望する進学

困窮度別に子どもに希望する進学先を見ると、困窮度Ⅰ群では、「高校」と回答した人は19.3%で、他の群に比べ割合が高い。中央値以上群において「大学」と回答した割合は高く、73.7%である。

困窮度別に見た、学校への遅刻（子ども票問7）

<大阪府内全体>



<柏原市>

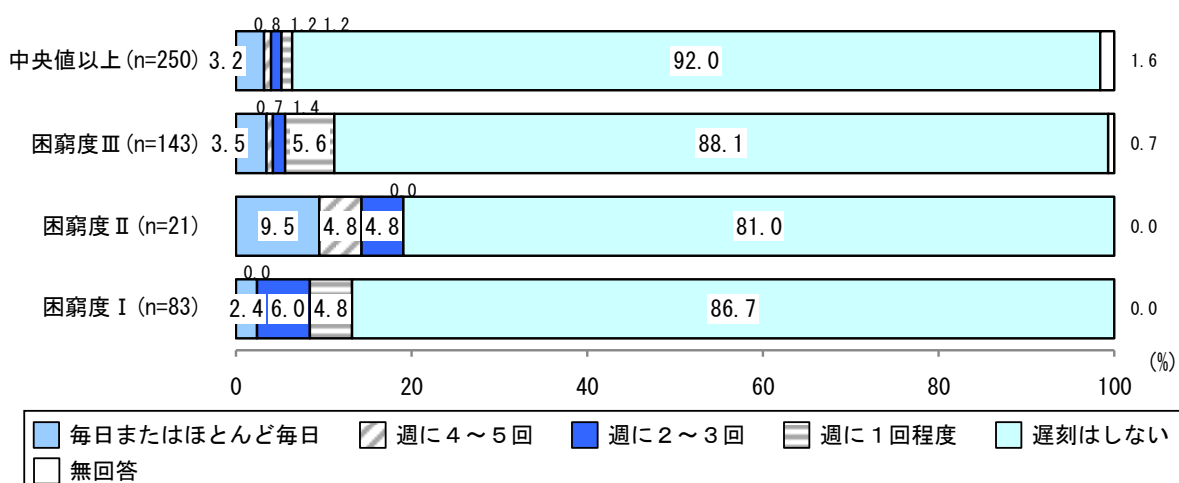
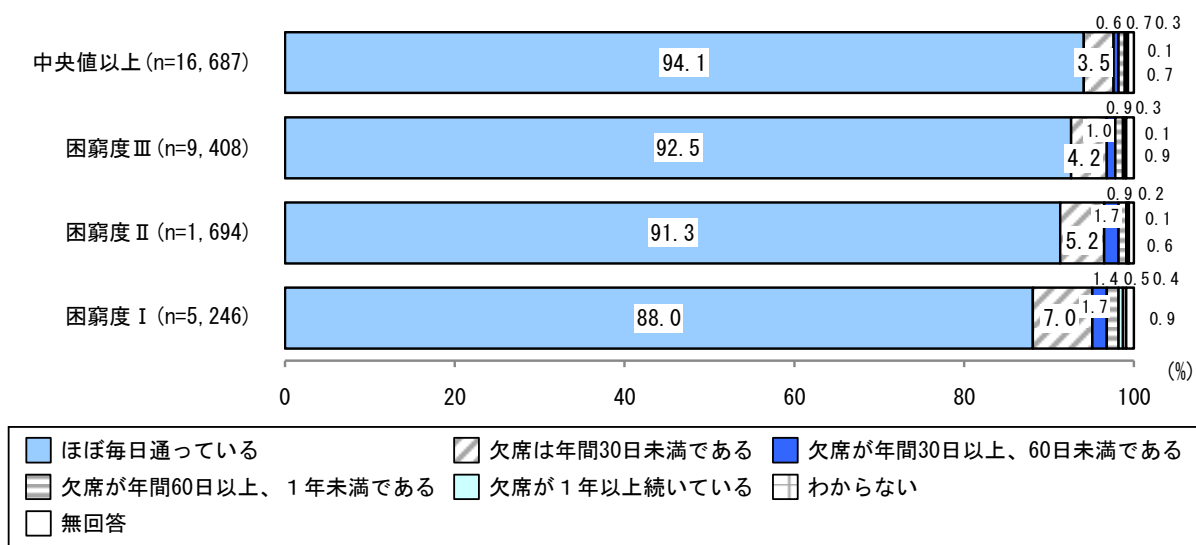


図 123. 困窮度別に見た、学校への遅刻

困窮度別に学校への遅刻を見ると、「毎日またはほとんど毎日」は困窮度Ⅱ群が9.5%、「週に4～5回」でも困窮度Ⅱ群が4.8%と最も高い。「週に2～3回」は困窮度Ⅰ群が6.0%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの通学状況（保護者票問 15）

<大阪府内全体>



<柏原市>

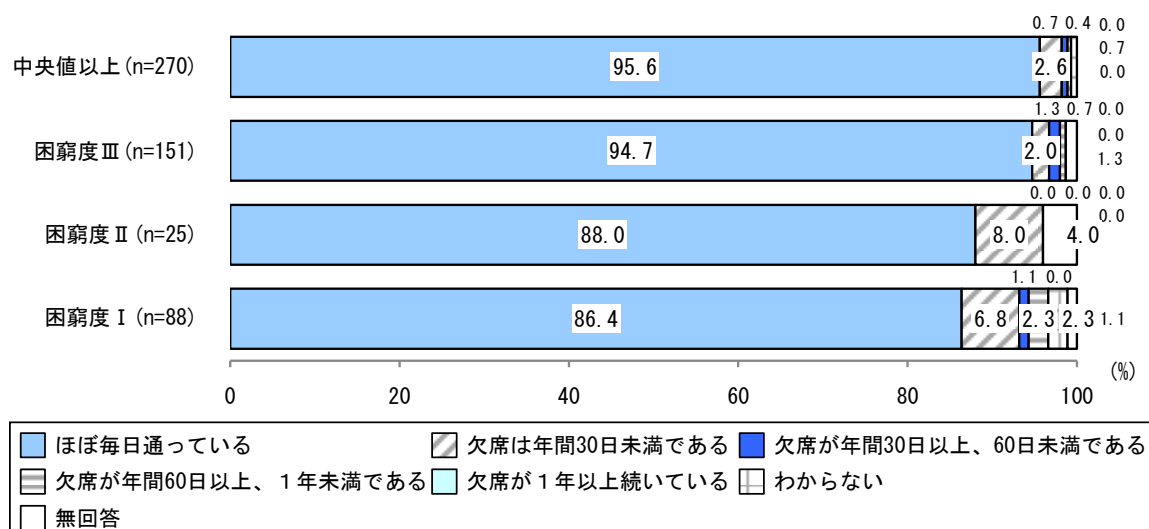
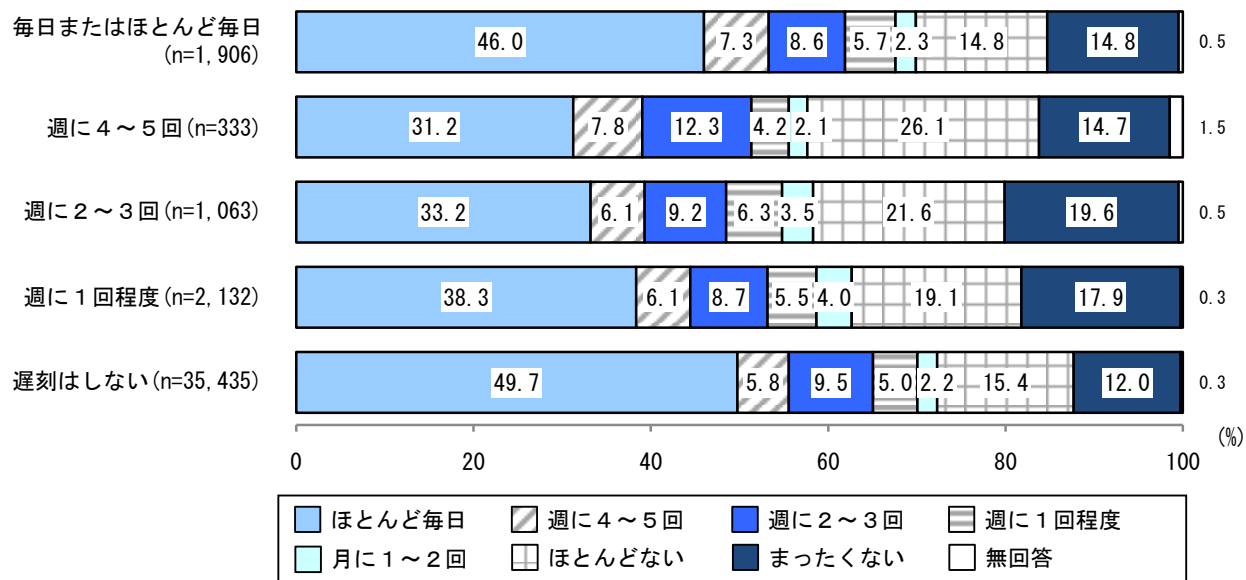


図 124. 困窮度別に見た、子どもの通学状況

困窮度別に子どもの通学状況を見ると、困窮度が高くなるにつれ、「ほぼ毎日通っている」と回答した人の割合が低くなり、困窮度Ⅰ群が86.4%と最も低くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか
(子ども票問7×保護者票問8①)

<大阪府内全体>



<柏原市>

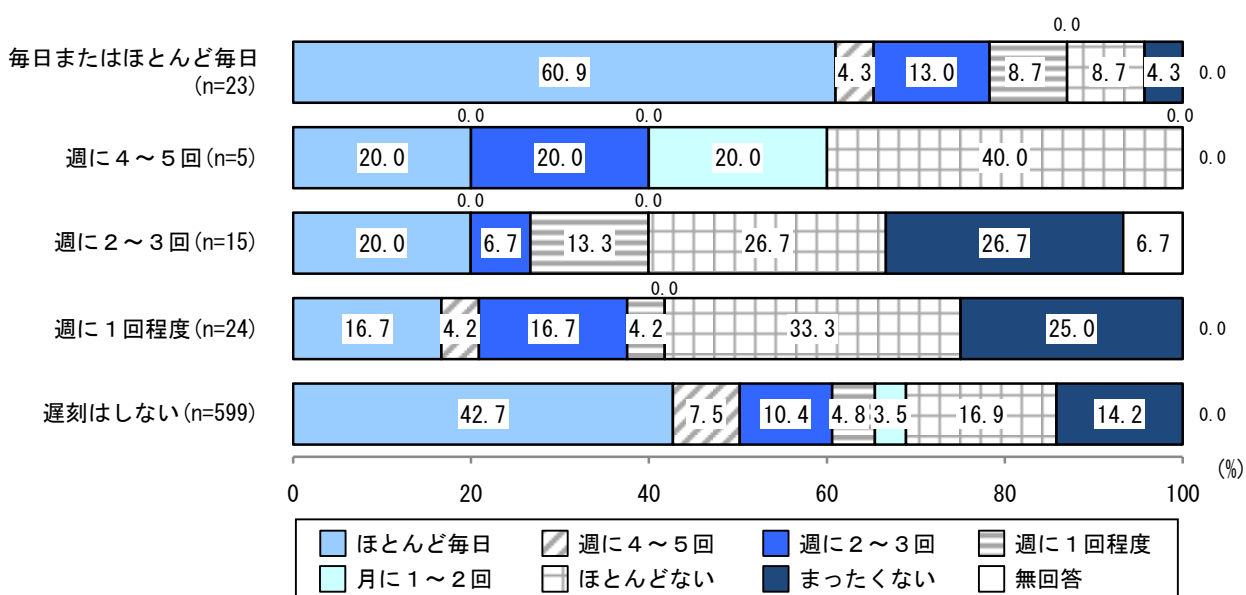
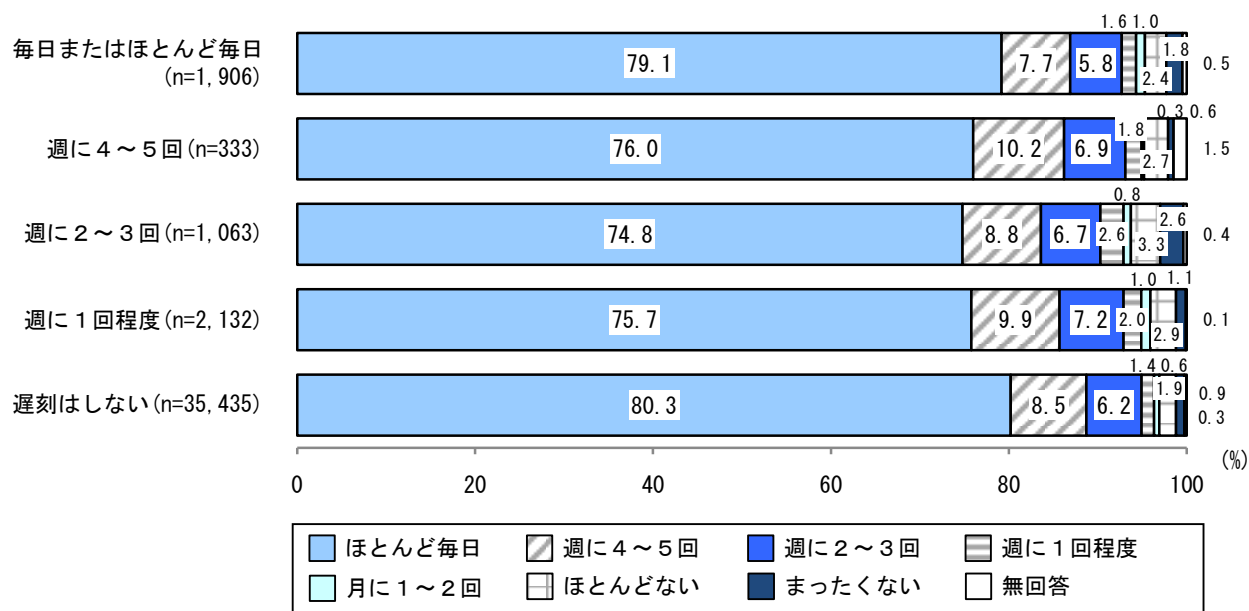


図 125. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に朝食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は、毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもが60.9%で最も高く、一方で、「まったくない」は週に2～3回遅刻をしている子どもの割合が26.7%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか
(子ども票問7×保護者票問8②)

<大阪府内全体>



<柏原市>

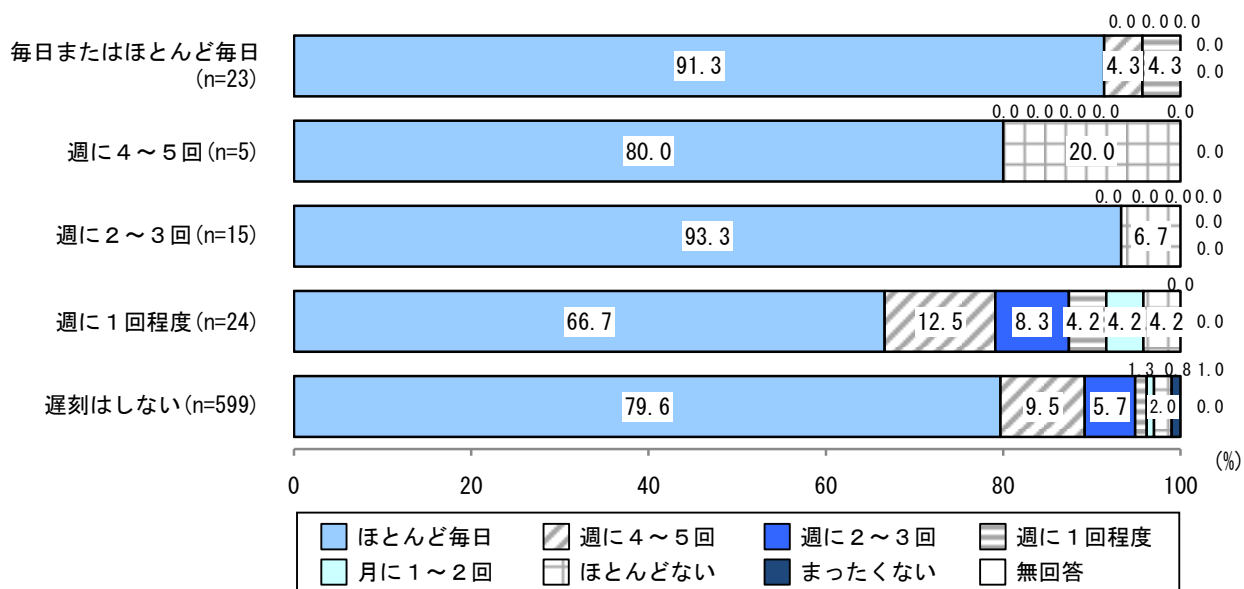
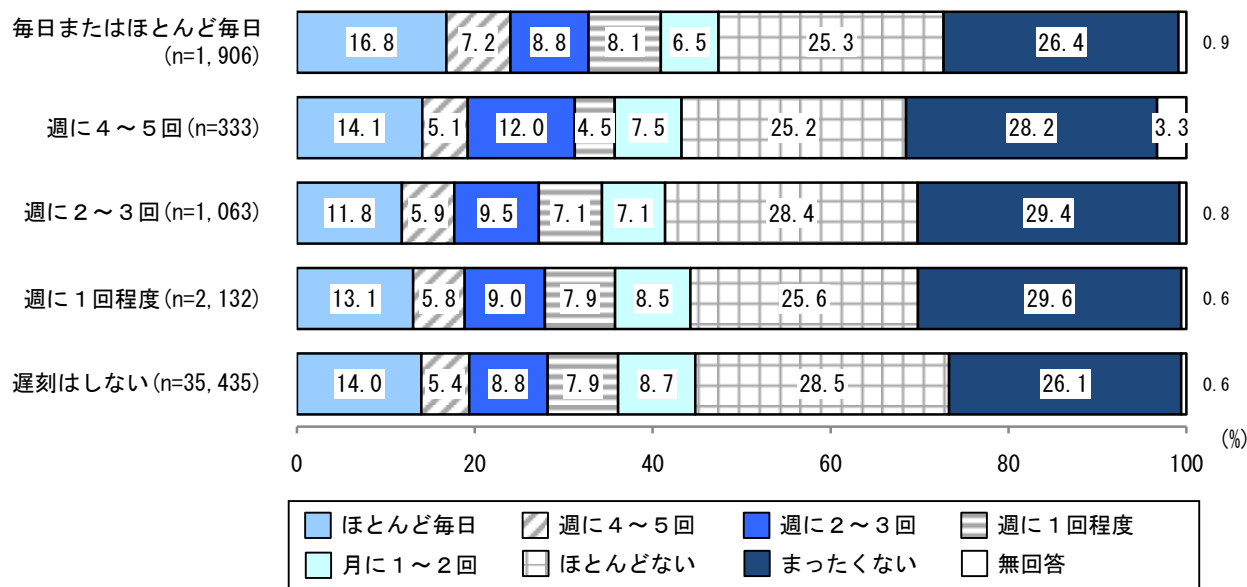


図 126. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に夕食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に2～3回遅刻をしている子どもが93.3%で割合が最も高く、一方で、「ほとんどない」は週に4～5回遅刻をしている子どもの割合が20.0%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか
（子ども票問7×保護者票問8⑤）

<大阪府内全体>



<柏原市>

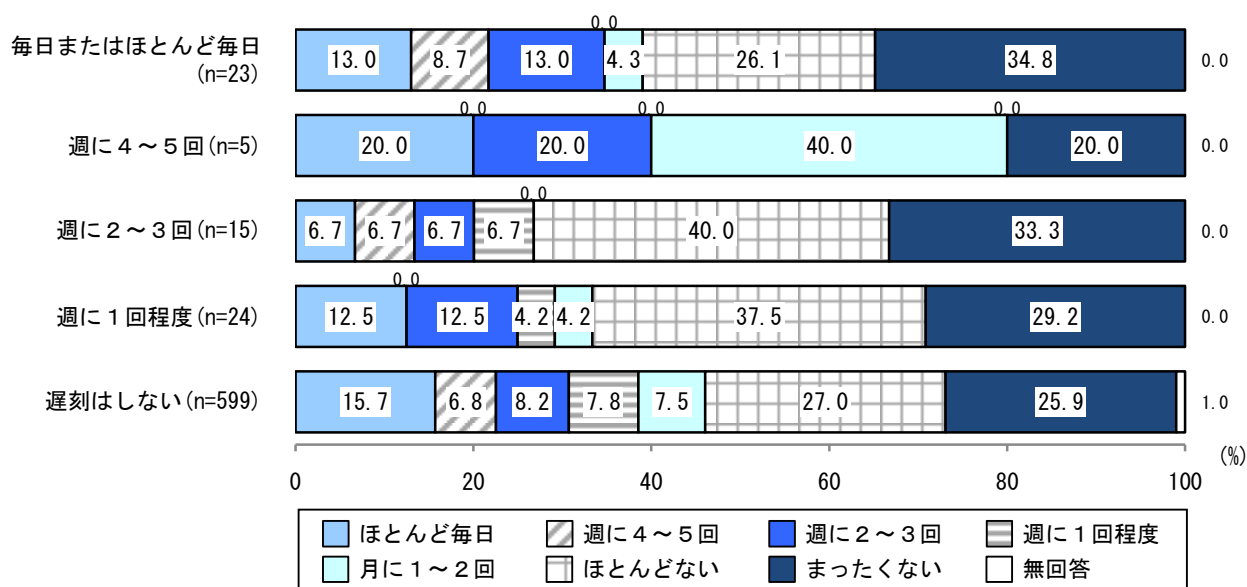
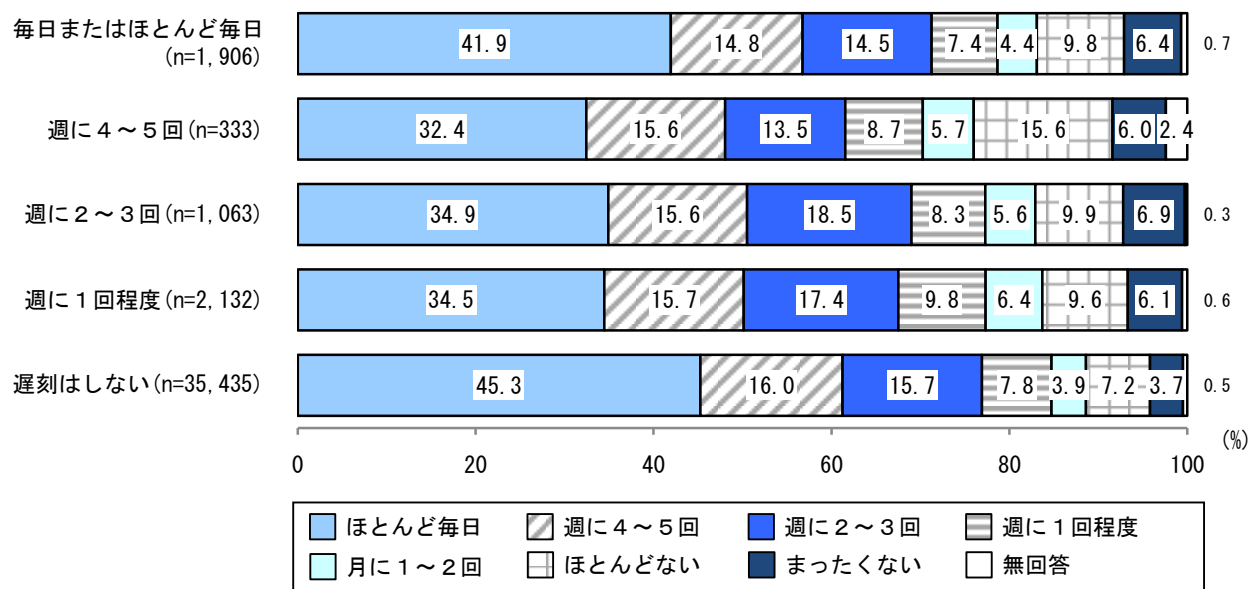


図 127. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

学校への遅刻別におうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に4～5回遅刻をしている子どもが20.0%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもの割合が34.8%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか
(子ども票問7×保護者票問8⑥)

<大阪府内全体>



<柏原市>

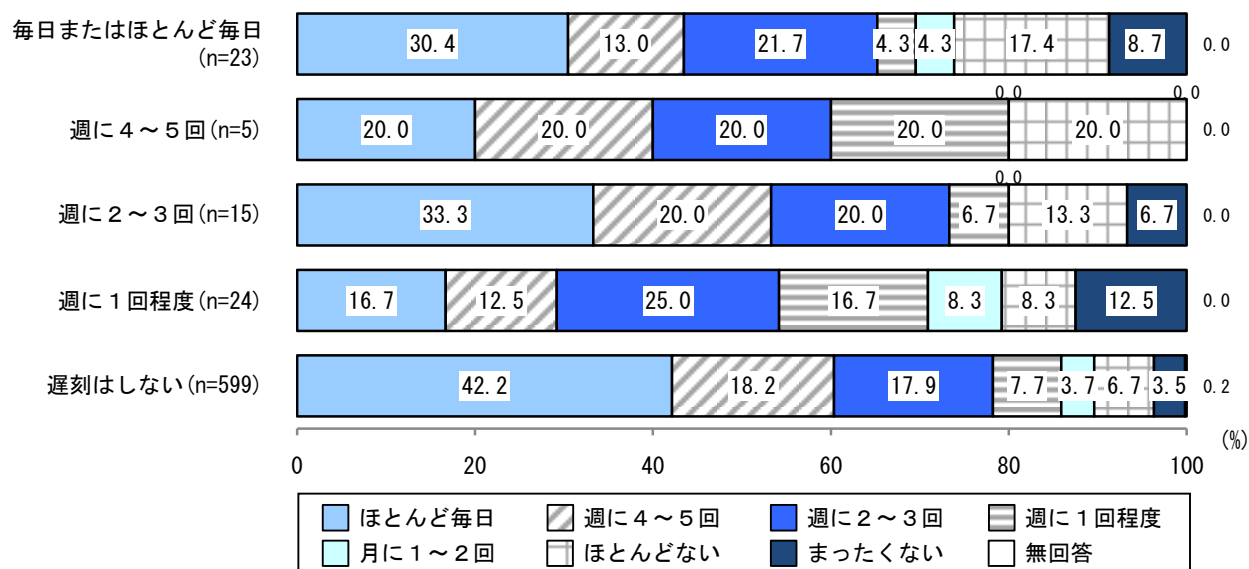
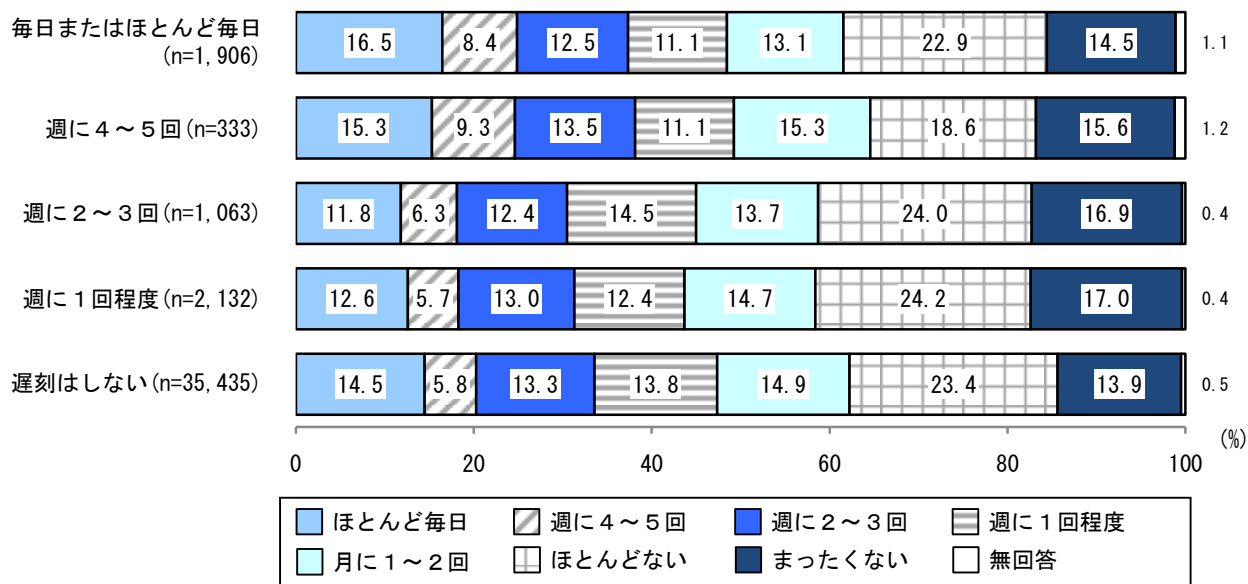


図 128. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

学校への遅刻別におうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は遅刻はしない子どもが42.2%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は週に1回程度遅刻をしている子どもの割合が12.5%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか
(子ども票問7×保護者票問8⑦)

<大阪府内全体>



<柏原市>

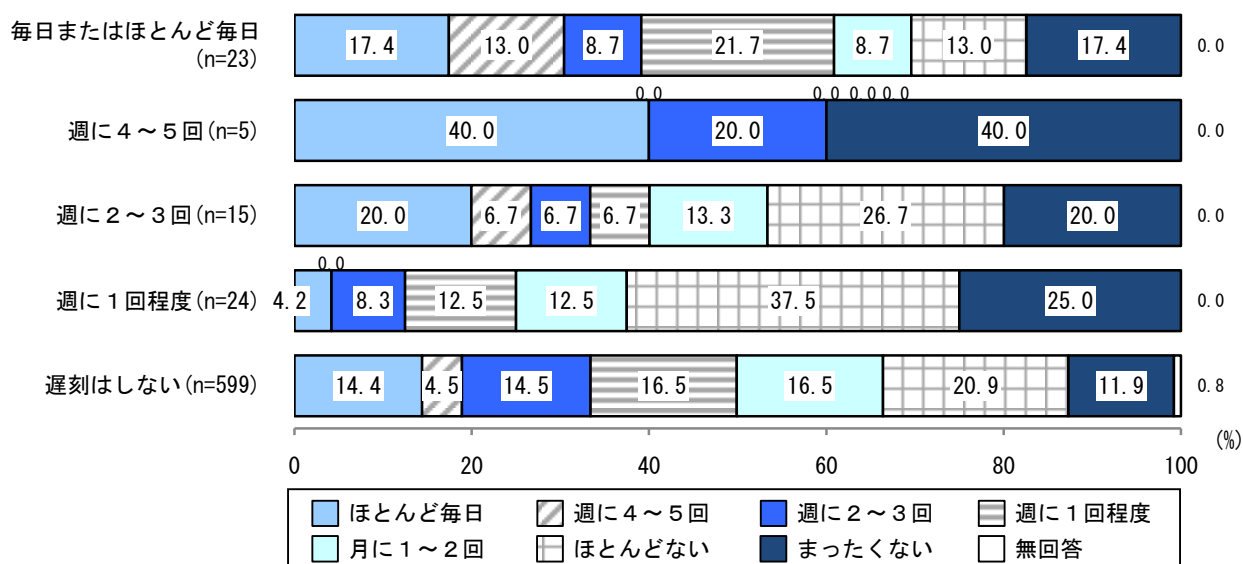
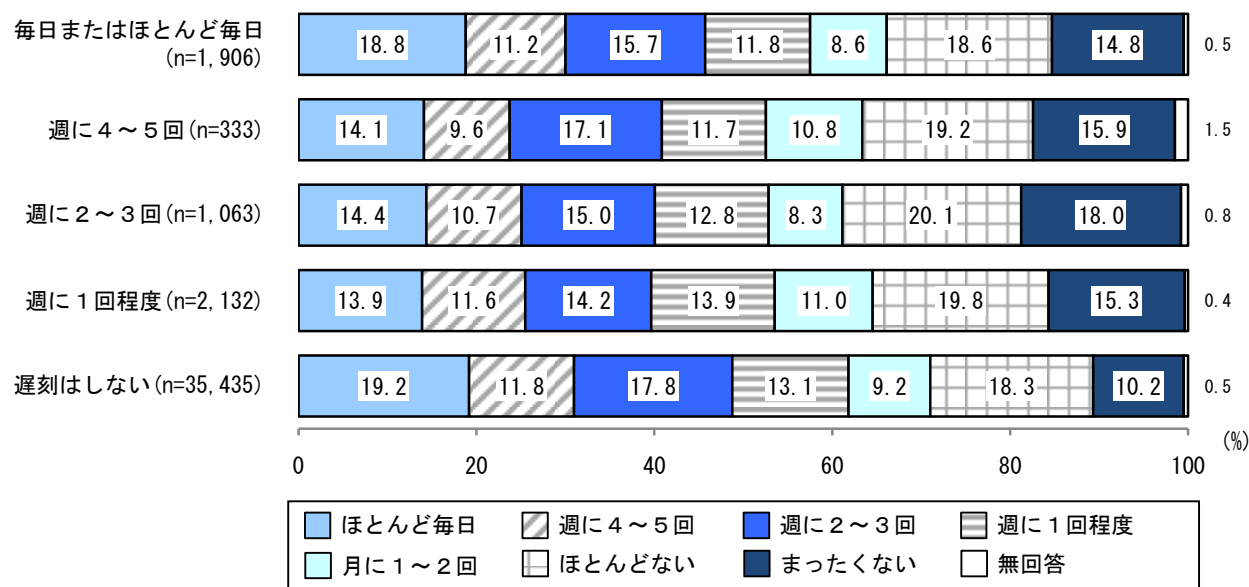


図 129. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

学校への遅刻別におうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に4～5回遅刻をしている子どもが40.0%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」でも40.0%と最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか
(子ども票問7×保護者票問8⑧)

<大阪府内全体>



<柏原市>

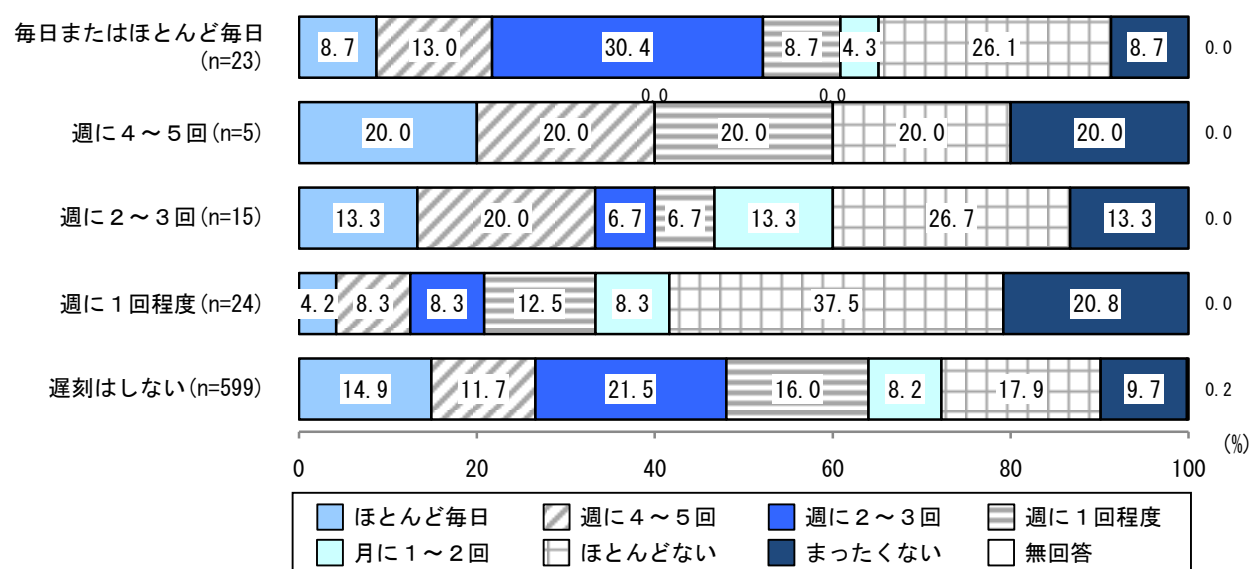
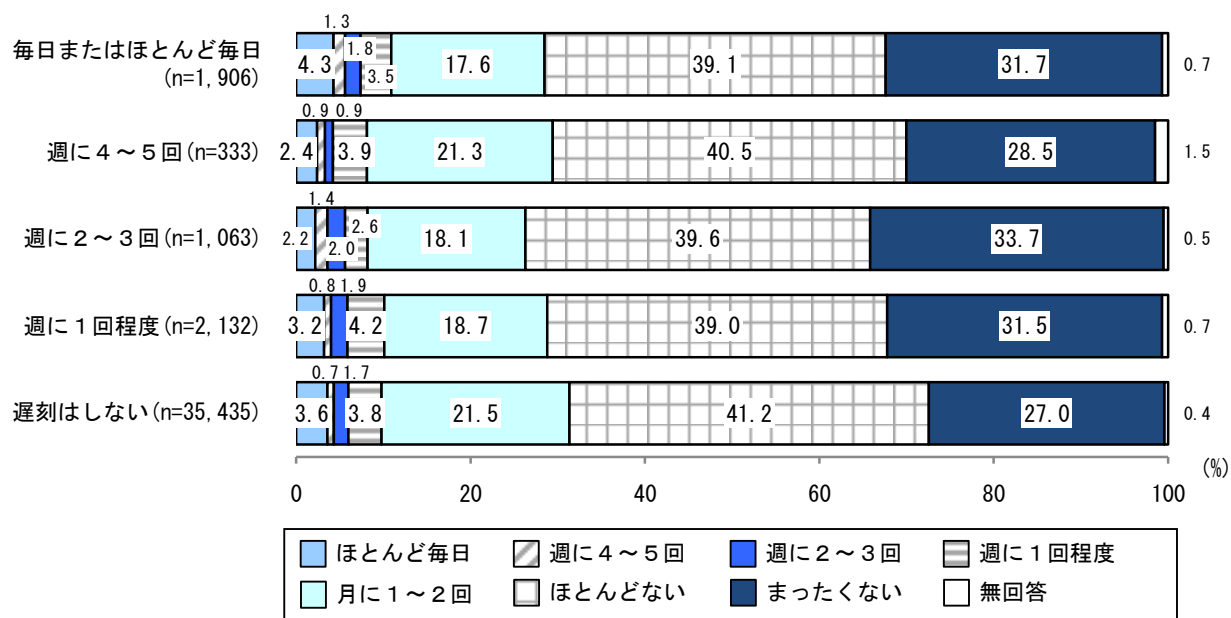


図 130. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

学校への遅刻別におうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に4～5回遅刻をしている子どもが20.0%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は週に1回程度遅刻をしている子どもの割合が20.8%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか
(子ども票問7×保護者票問8⑨)

<大阪府内全体>



<柏原市>

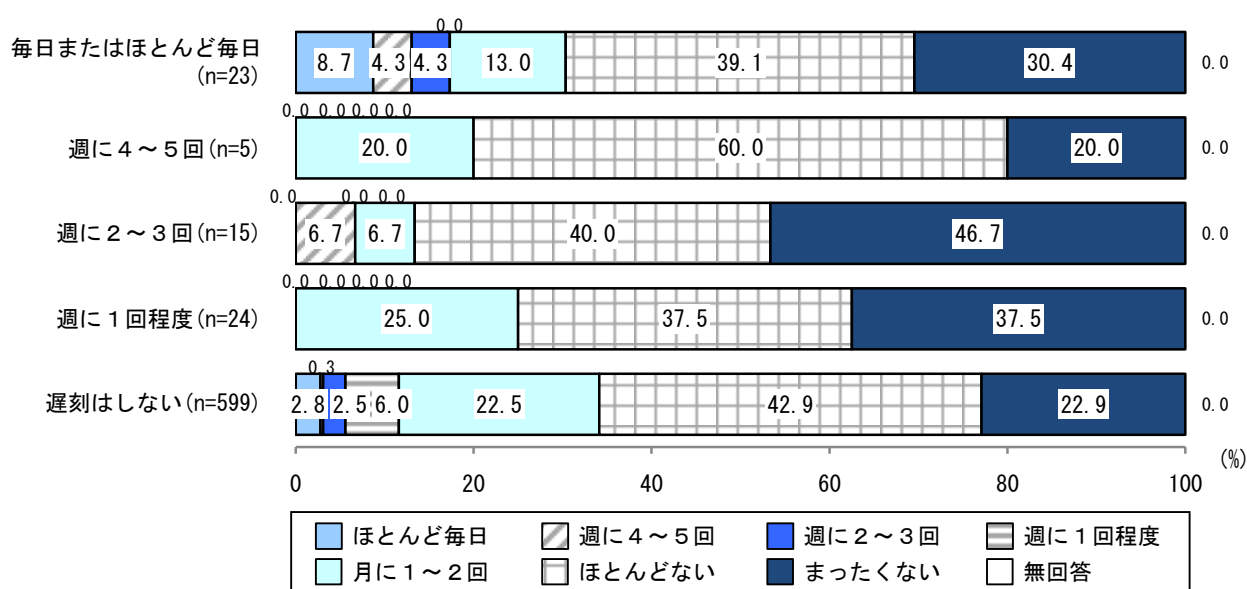
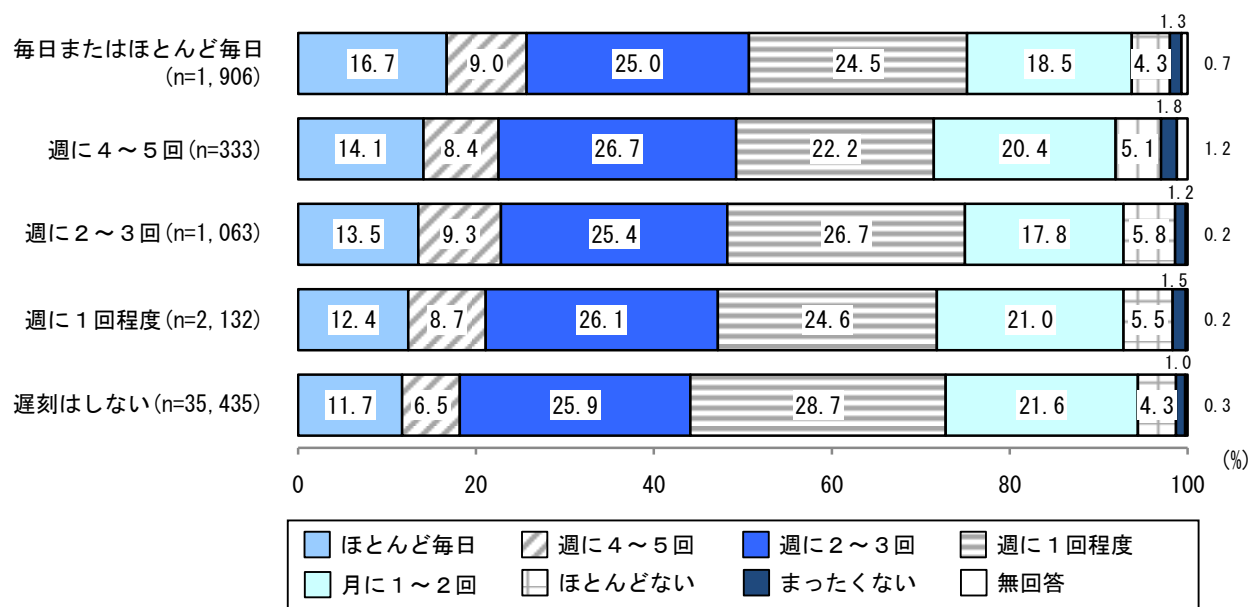


図 131. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか

学校への遅刻別におうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「ほとんどない」は週に4～5回遅刻をしている子どもの割合が60.0%、遅刻はしない子どもの割合が42.9%、週に2～3回遅刻をしている子どもの割合が40.0%で高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか
(子ども票問7×保護者票問8⑩)

<大阪府内全体>



<柏原市>

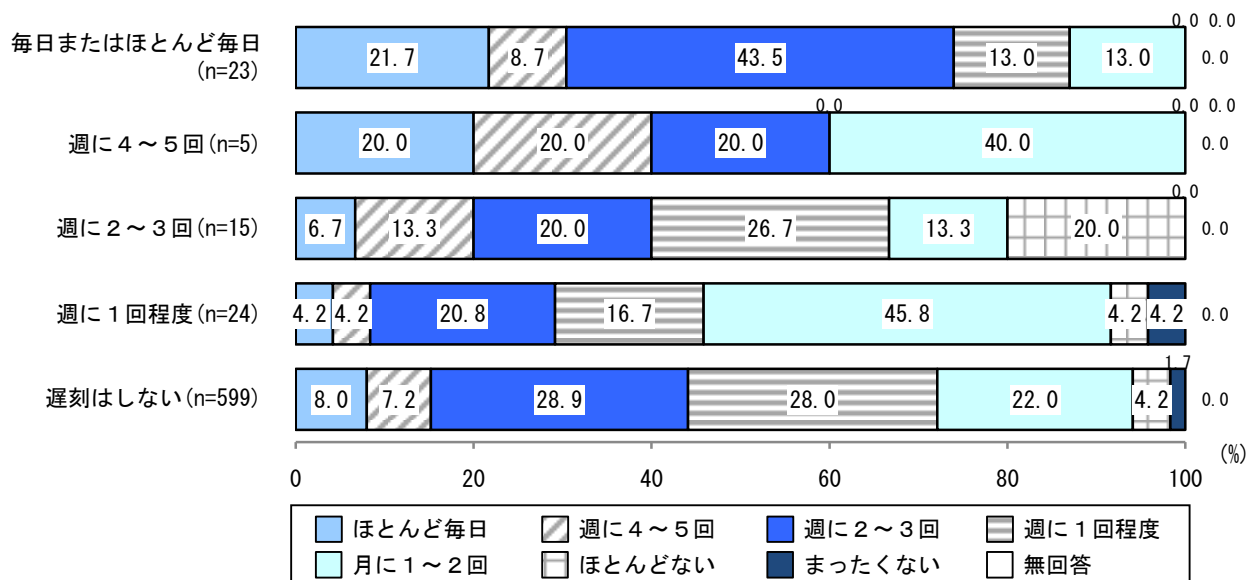
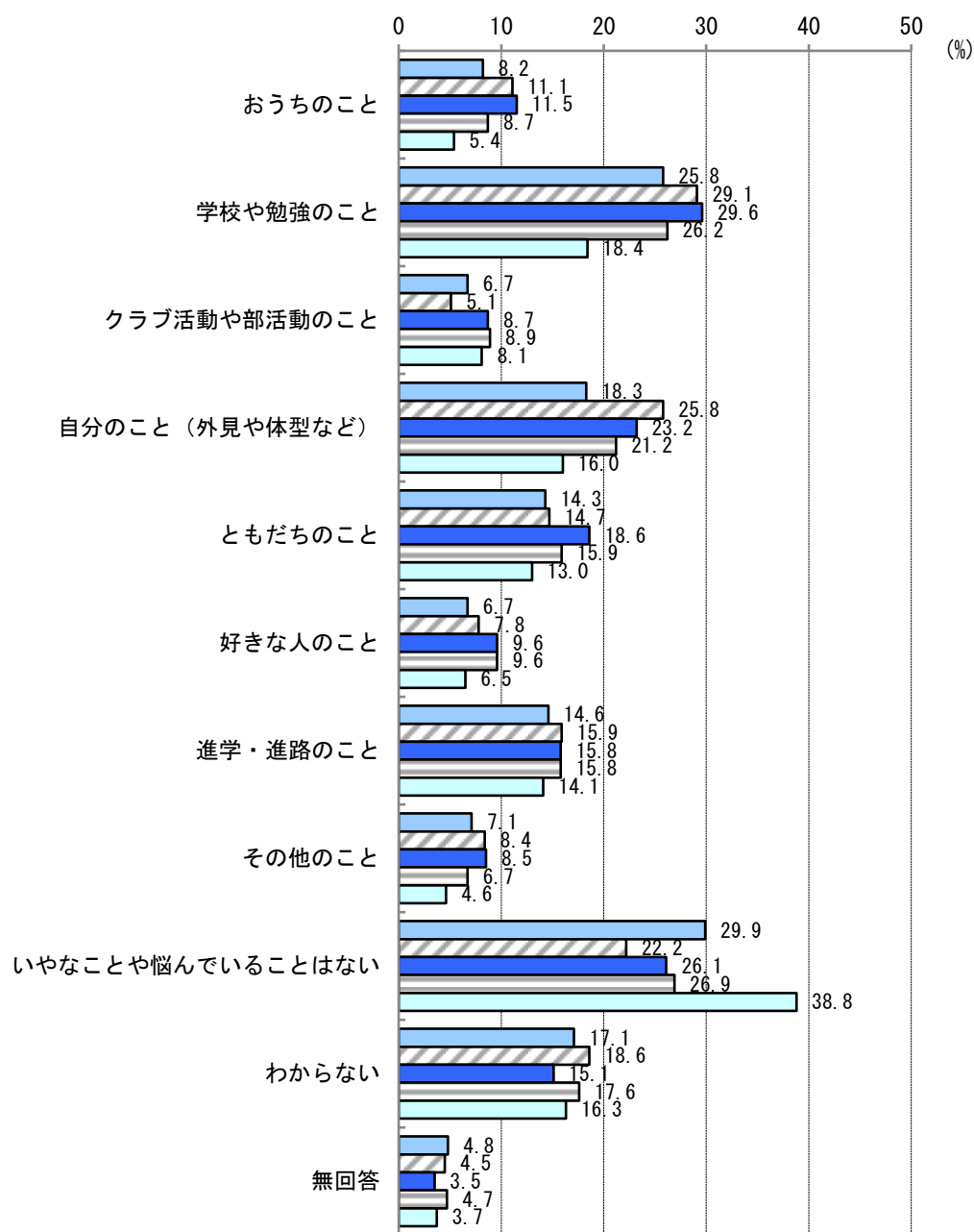


図 132. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に外出するかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもが21.7%で割合が最も高く、一方で、「ほとんどない」は週に2～3回遅刻をしている子どもの割合が20.0%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること（子ども票問7×子ども票問17）

<大阪府内全体>



■ 毎日またはほとんど毎日 (n=1,906)
 ■ 週に4～5回 (n=333)
 ■ 週に2～3回 (n=1,063)
■ 週に1回程度 (n=2,132)
 ■ 遅刻はしない (n=35,435)

< 柏原市 >

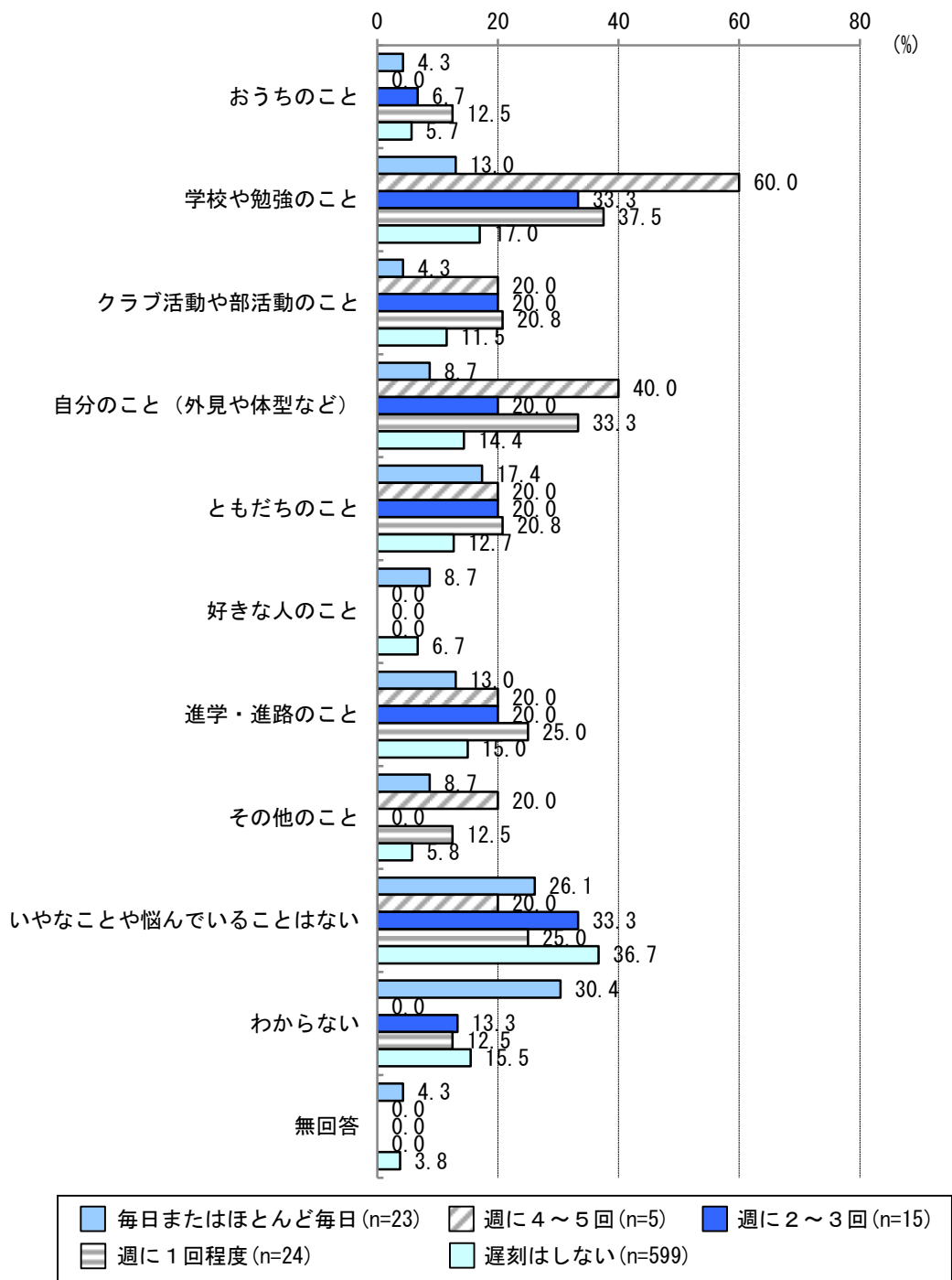
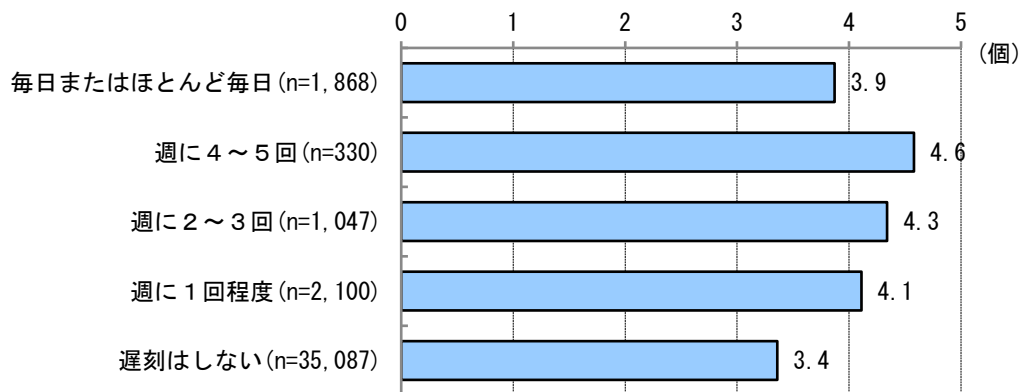


図 133. 学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること

学校への遅刻別に嫌なことや悩んでいることを見ると、「おうちのこと」の割合は週に 1 回程度遅刻をしている子どもが 12.5% で割合が最も高く、一方で、「いやなことや悩んでいることはない」は遅刻はしない子どもの割合が 36.7% で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
(子ども票問7×子ども票問19・20)

<大阪府内全体>



<柏原市>

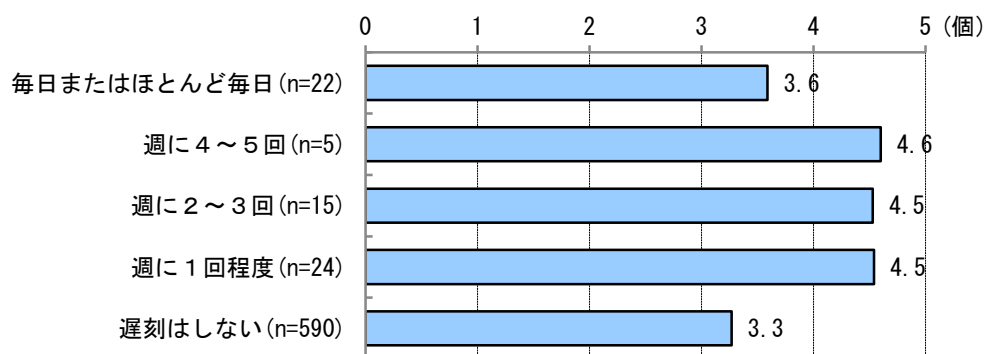
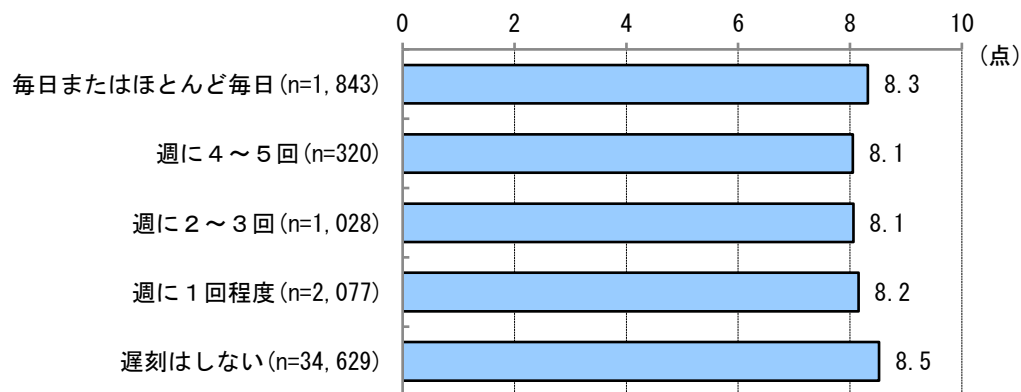


図 134. 学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

学校への遅刻別に自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「週に4～5回」遅刻をしている子どもが4.6個で最も多く、次いで「週に2～3回」、「週に1回程度」遅刻をしている子どもが4.5個となっている。

学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問7×子ども票問23）

<大阪府内全体>



<柏原市>

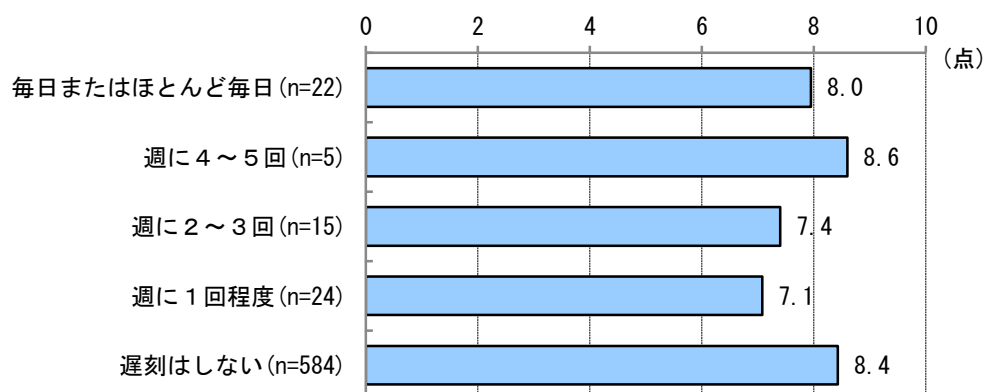
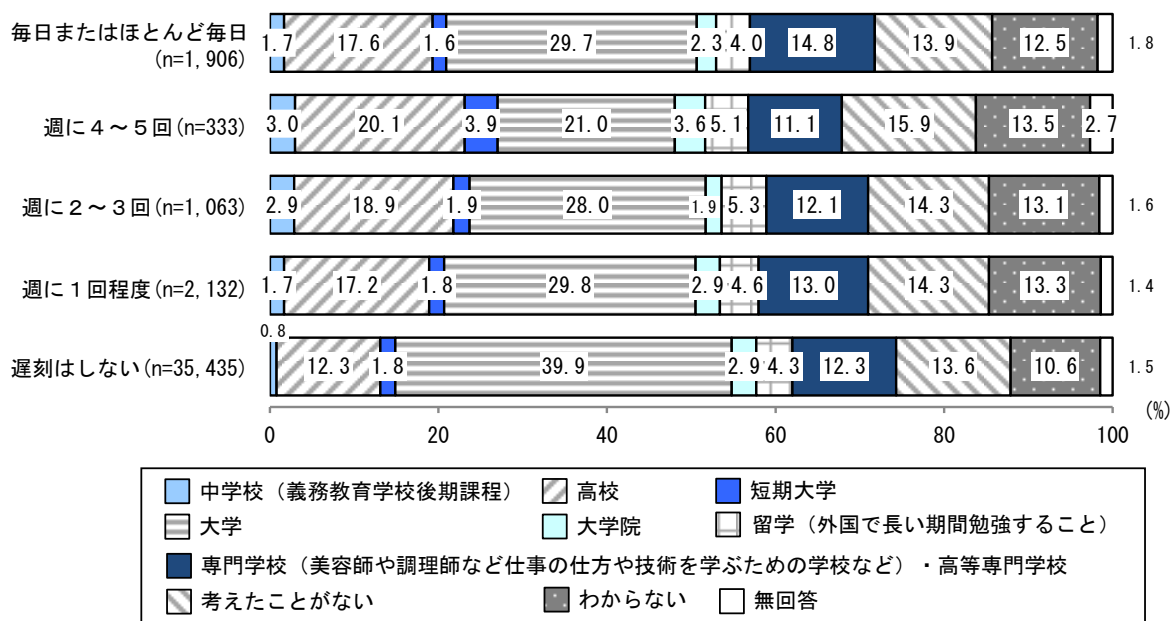


図 135. 学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

学校への遅刻別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」遅刻している子どもは「遅刻はしない」子どもよりも自己効力感（セルフ・エフィカシー）が低い。

学校への遅刻別に見た、希望する進学先（子ども票問7×子ども票問24）

<大阪府内全体>



<柏原市>

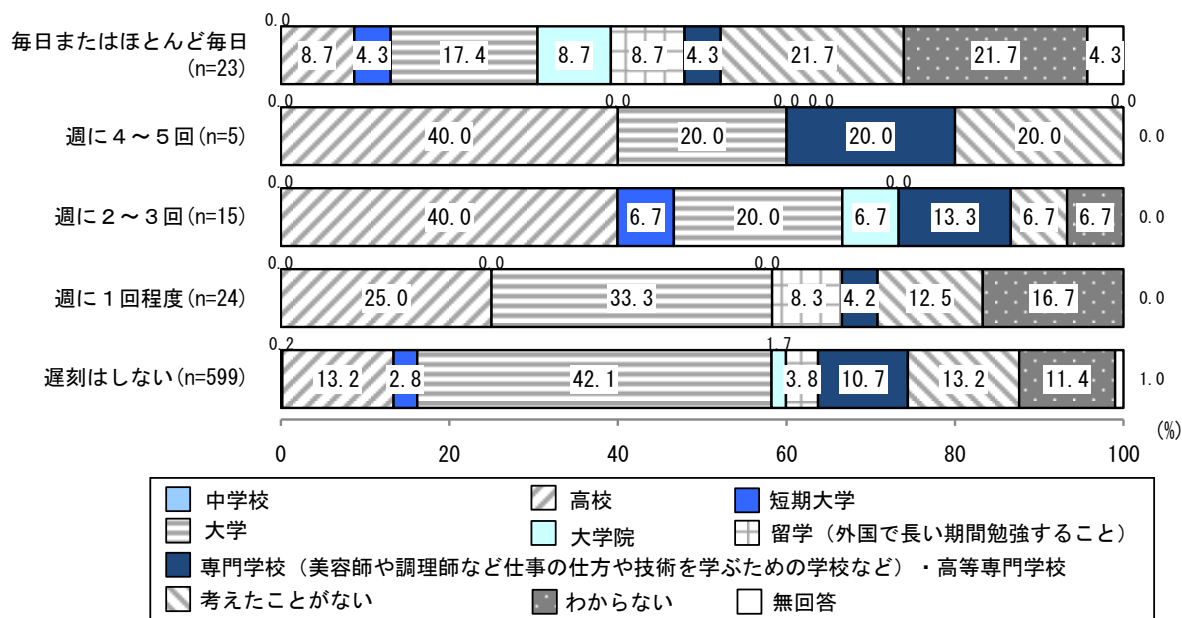
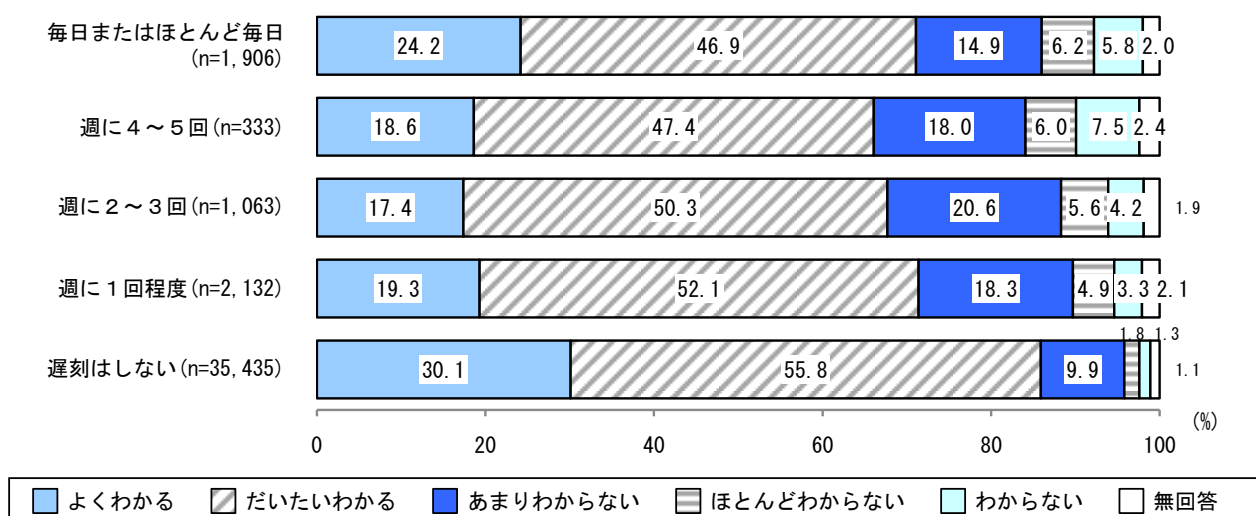


図 136. 学校への遅刻別に見た、希望する進学先

学校への遅刻別に希望する進学先を見ると、「大学」は遅刻はしない子どもの割合が42.1%で最も高く、次いで週に1回程度遅刻をしている子どもの割合が33.3%となっている。

学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問7×子ども票問14(1)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

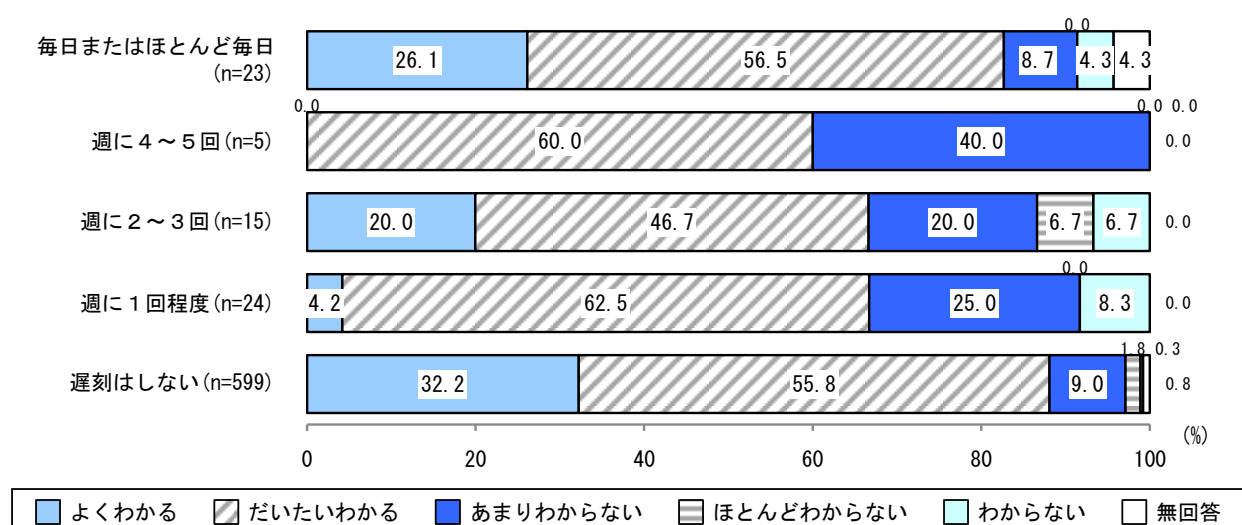
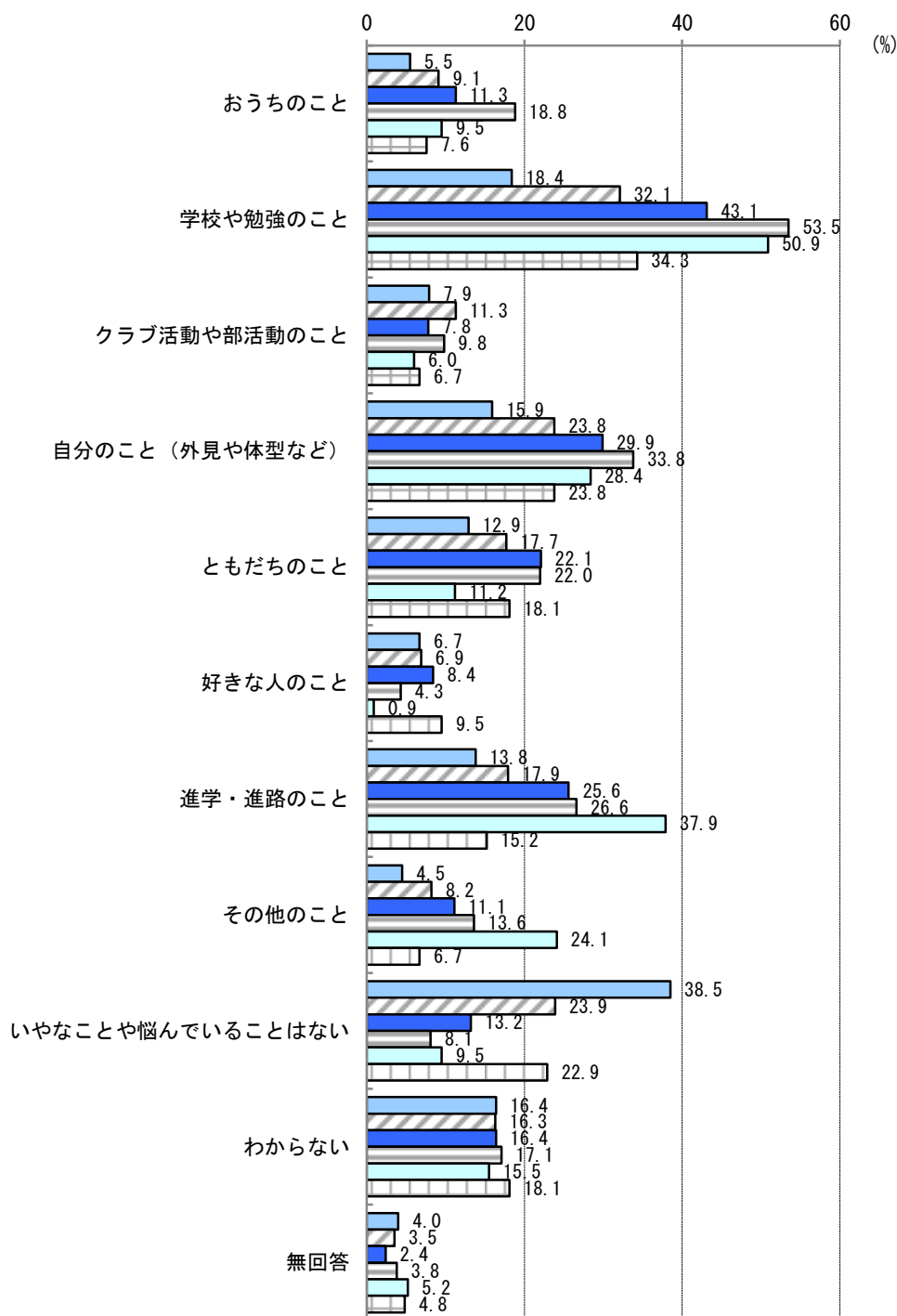


図 137. 学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの

学校への遅刻別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、「よくわかる」は遅刻はしない子どもの割合が32.2%で最も高く、「だいたいわかる」は週に1回程度遅刻している子どもの割合が62.5%で最も高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること（保護者票問 15×子ども票問 17）

<大阪府内全体>



■ ほぼ毎日通っている (n=37,661) ■ 欠席は年間30日未満である (n=1,775)
■ 欠席が年間30日以上、60日未満である (n=371) ■ 欠席が年間60日以上、1年未満である (n=346)
■ 欠席が1年以上続いている (n=116) ■ わからない (n=105)

< 柏原市 >

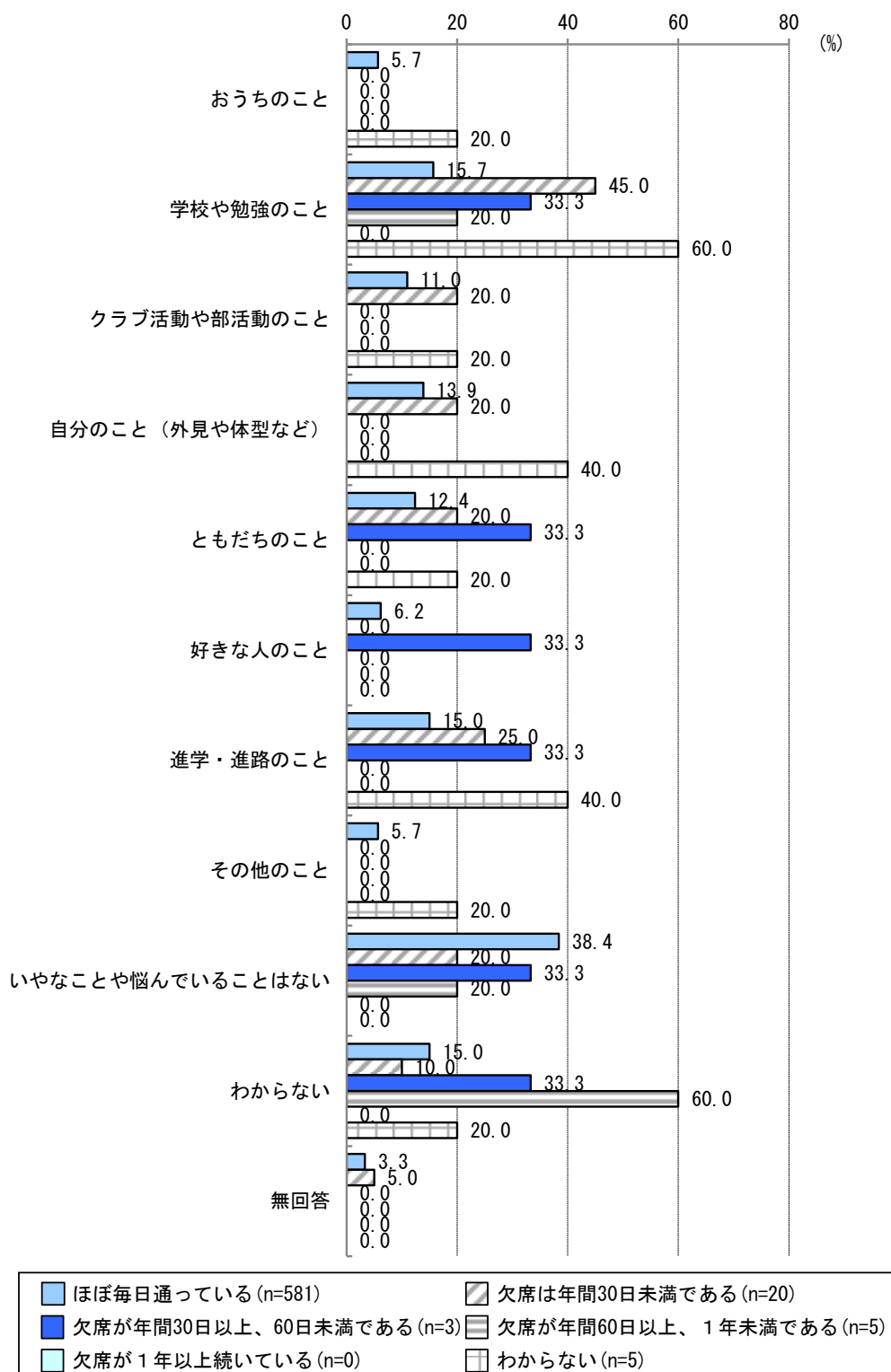
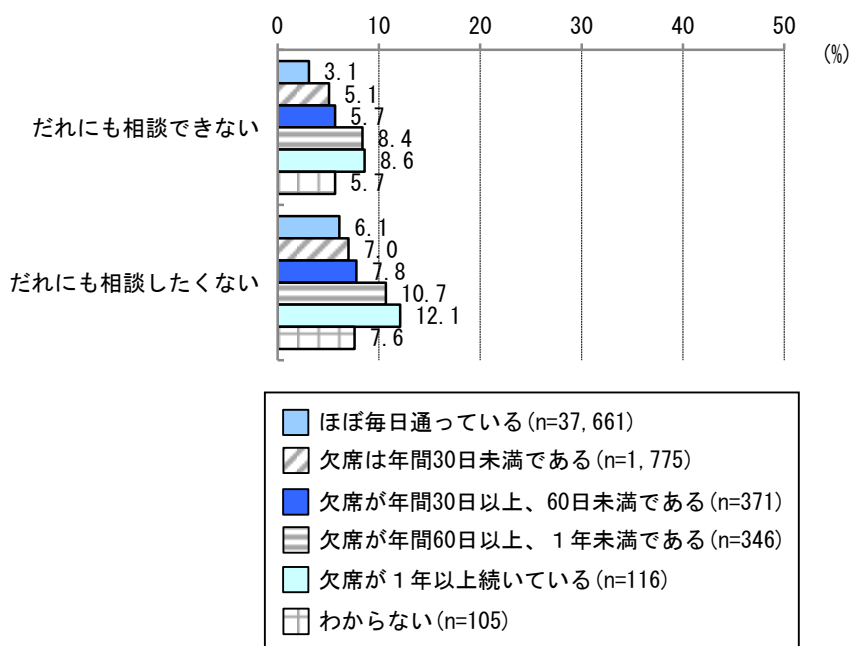


図 138. 子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること

子どもの通学状況別に嫌なことや悩んでいることを見ると、「ともだちのこと」や「進学・進路のこと」は概ね子どもが欠席が多くなるほど割合が高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合
(保護者票問 15×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<柏原市>

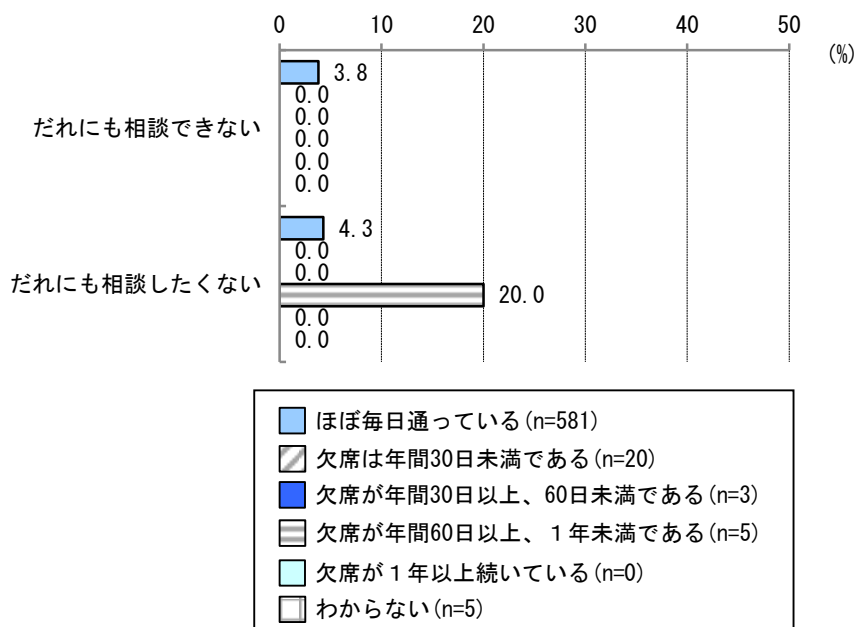
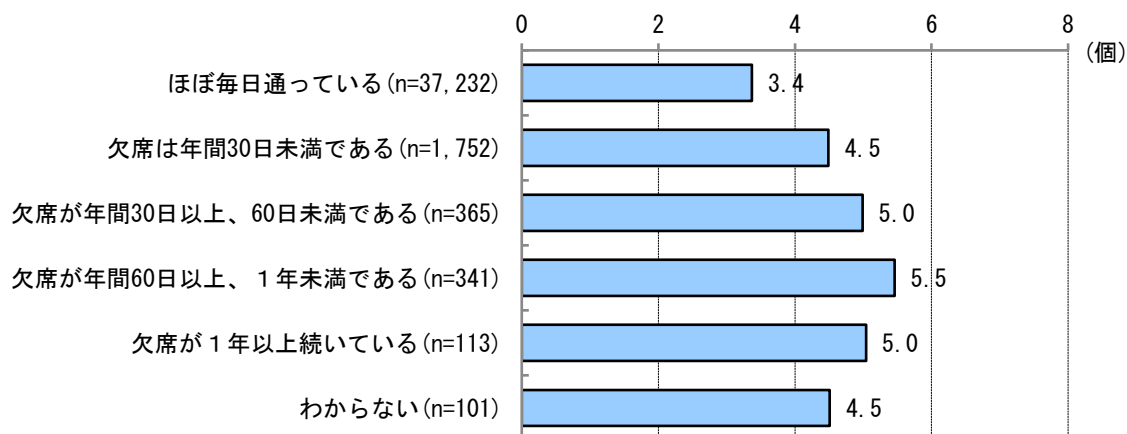


図 139. 子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合

子どもの通学状況別に悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合を見ると、「だれにも相談したくない」と回答した人の割合は欠席が年間60日以上、1年未満である人の割合が最も高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
(保護者票問 15×子ども票問 19・20)

<大阪府内全体>



<柏原市>

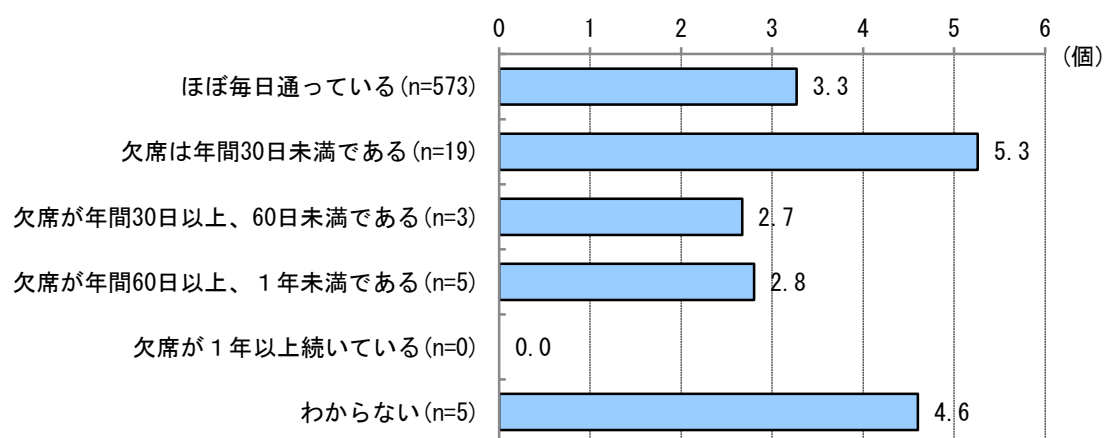
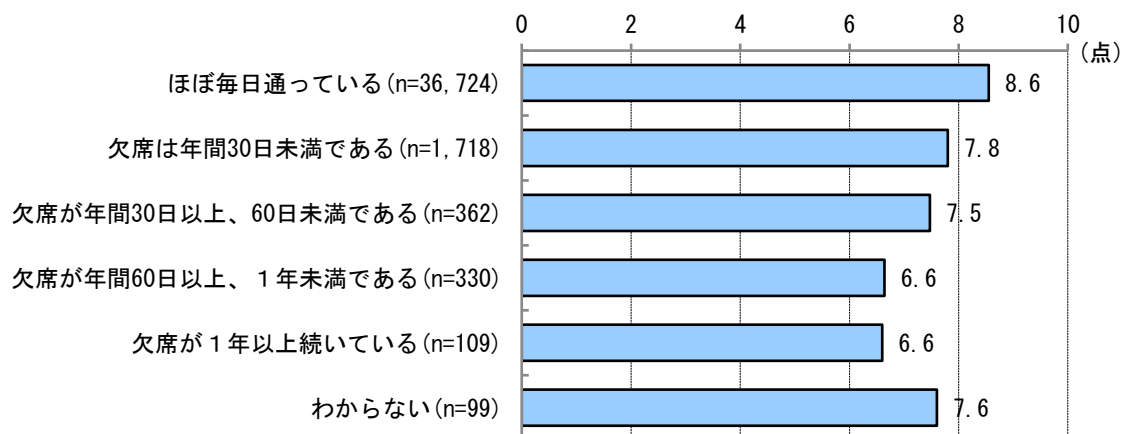


図 140. 子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

子どもの通学状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、欠席は年間30日未満であると回答した人が5.3個で最も多く、次いでほぼ毎日通っていると回答した人が3.3個となっている。

子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（保護者票問 15×子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<柏原市>

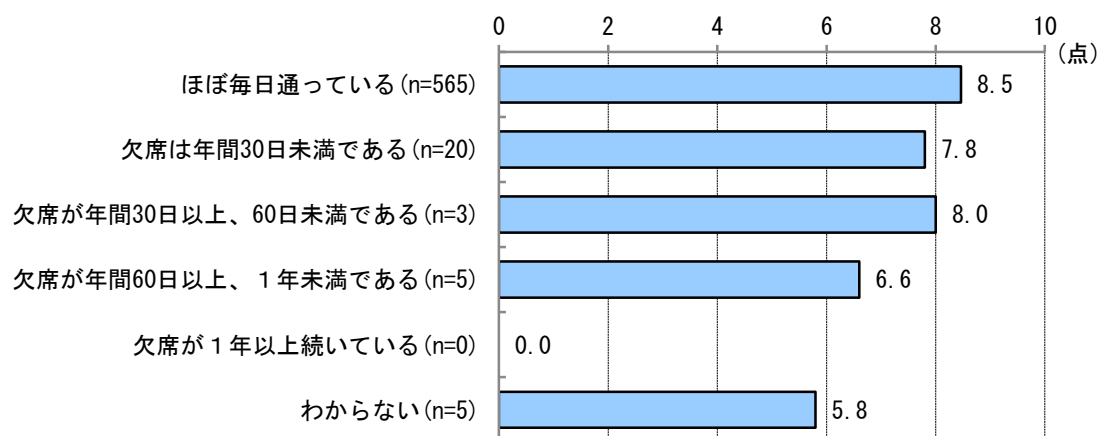
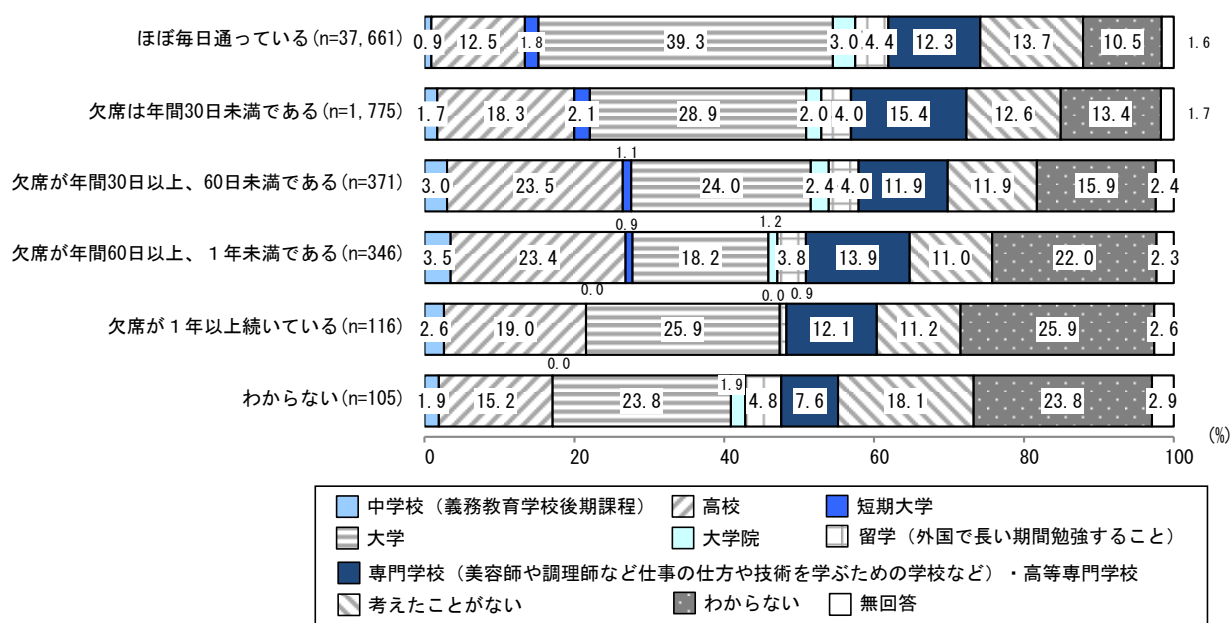


図 141. 子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもの通学状況別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、「ほぼ毎日通っている」と回答した人の得点が8.5点であるのに対して、「欠席が年間60日以上、1年未満である」と回答した人は6.6点、「欠席は年間30日未満である」と回答した人は7.8点、「欠席が年間30日以上、60日未満である」と回答した人は8.0点と通学日数が少ない子どもほど、セルフ・エフィカシーが低い結果となった。

子どもの通学状況別に見た、希望する進学先（保護者票問 15×子ども票問 24）

<大阪府内全体>



<柏原市>

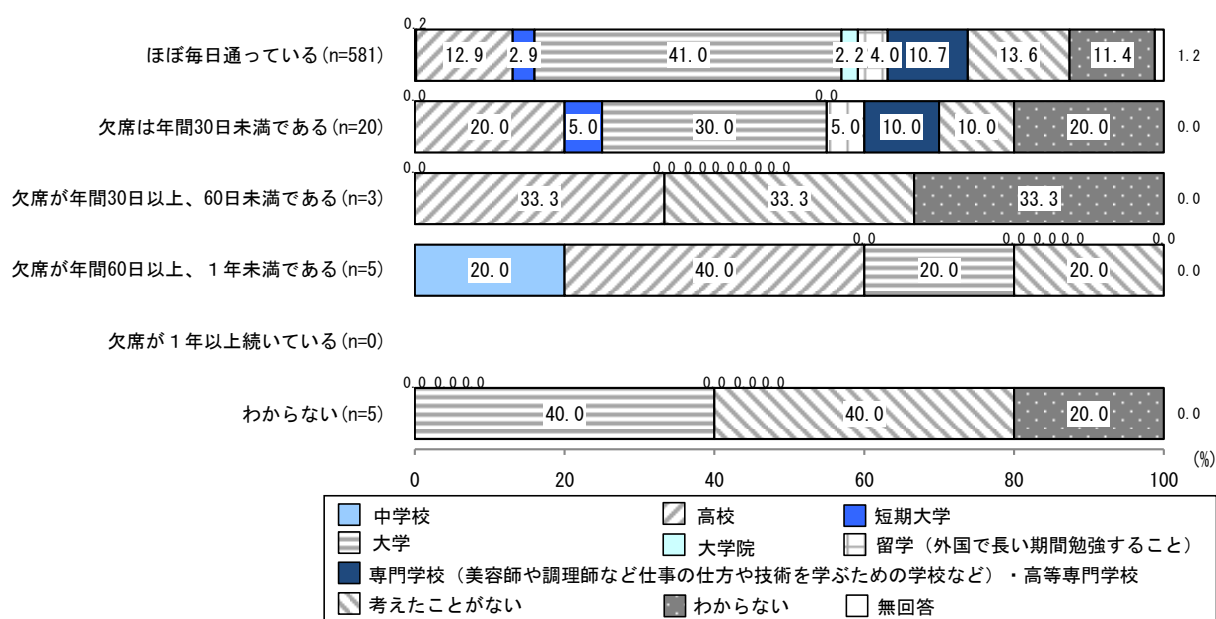
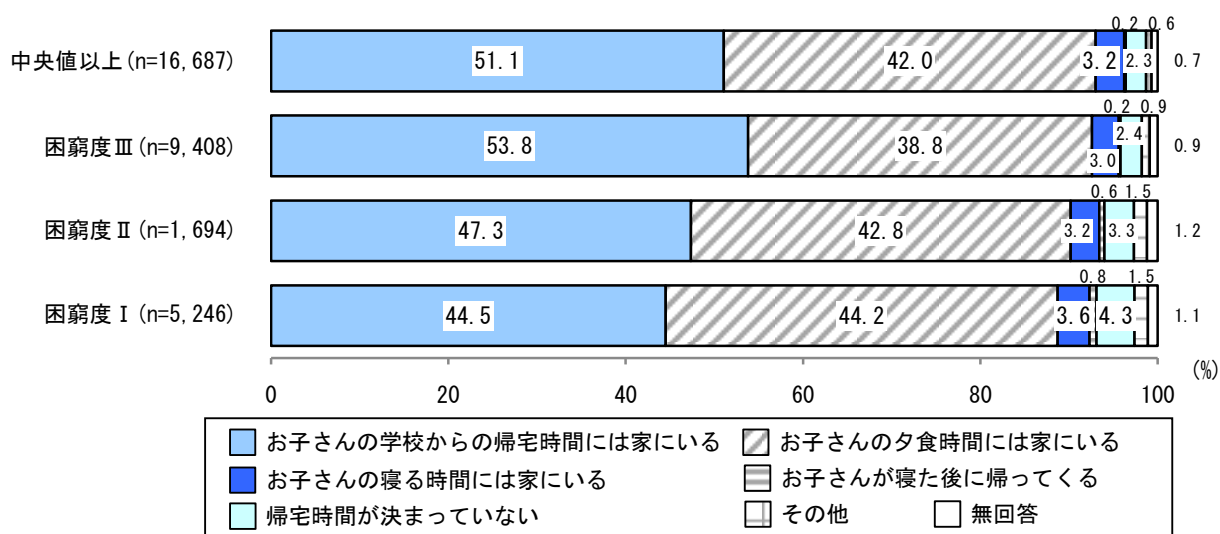


図 142. 子どもの通学状況別に見た、希望する進学先

子どもの通学状況別に希望する進学先を見ると、「大学」はほぼ毎日通っていると回答した人の割合が41.0%で最も高く、「中学校（義務教育学校後期課程）」、「高校」は欠席が年間60日以上、1年未満であると回答した人の割合がそれぞれ20.0%、40.0%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯（保護者票問 10）

<大阪府内全体>



<柏原市>

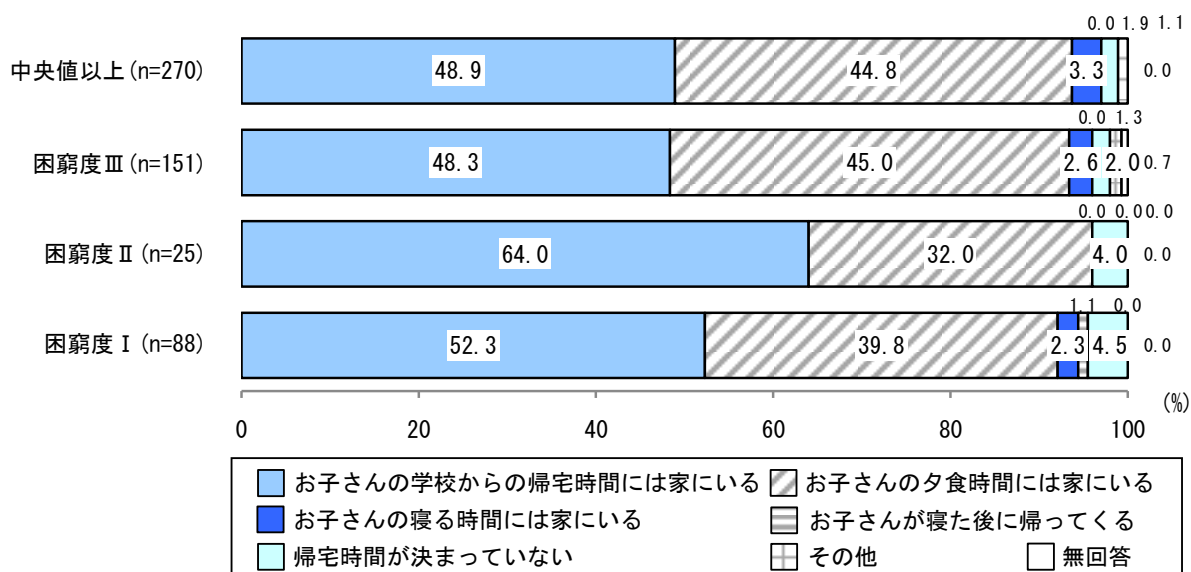
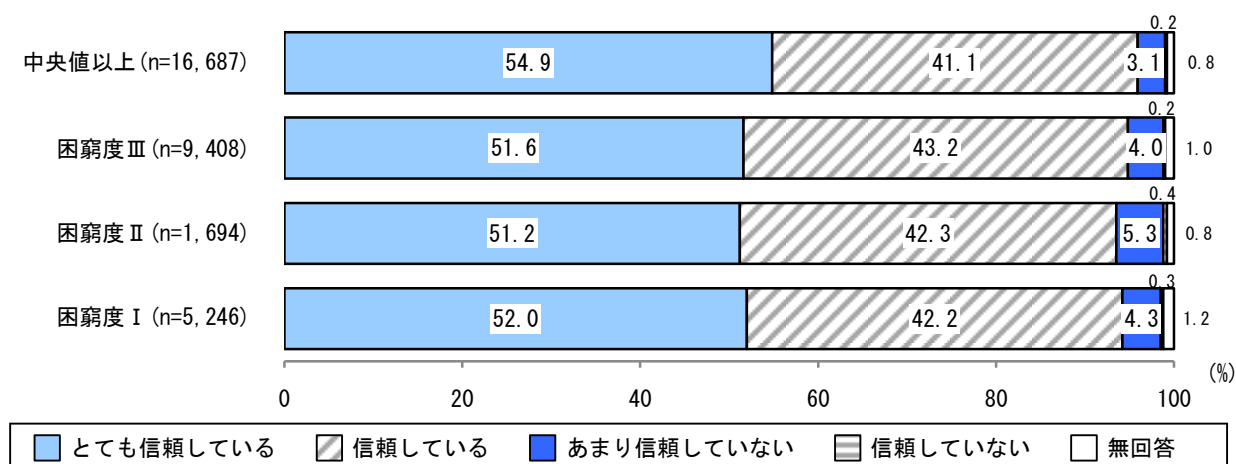


図 143. 困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯

困窮度別に保護者が家にいる時間帯を見ると、困窮度Ⅱ群が「お子さんの学校からの帰宅時には家にいる」と回答した割合が64.0%と最も高い。また、「帰宅時間が決まっていない」と回答した割合が困窮度Ⅰ群では4.5%と最も高い。

困窮度別に見た、子どもへの信頼度（保護者票問 13(1)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

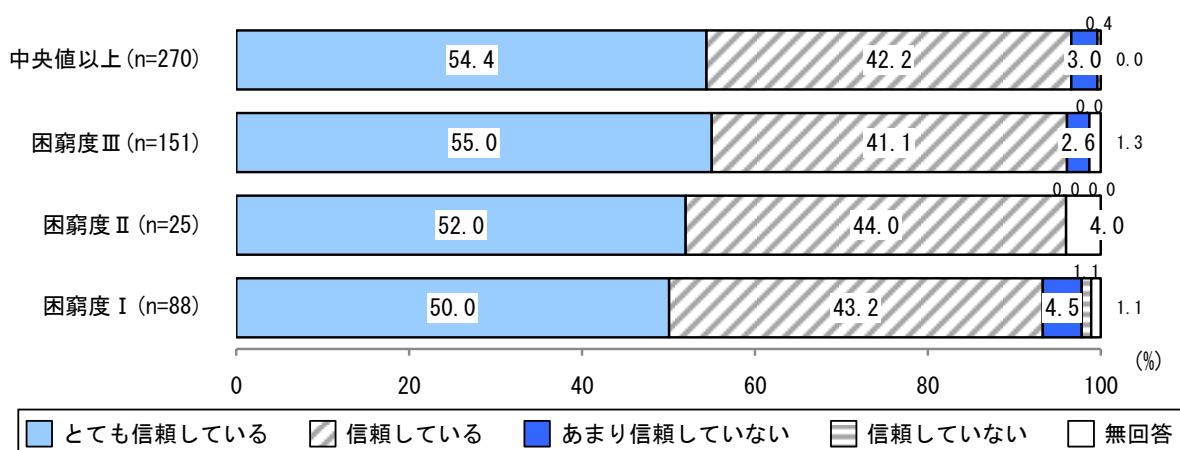
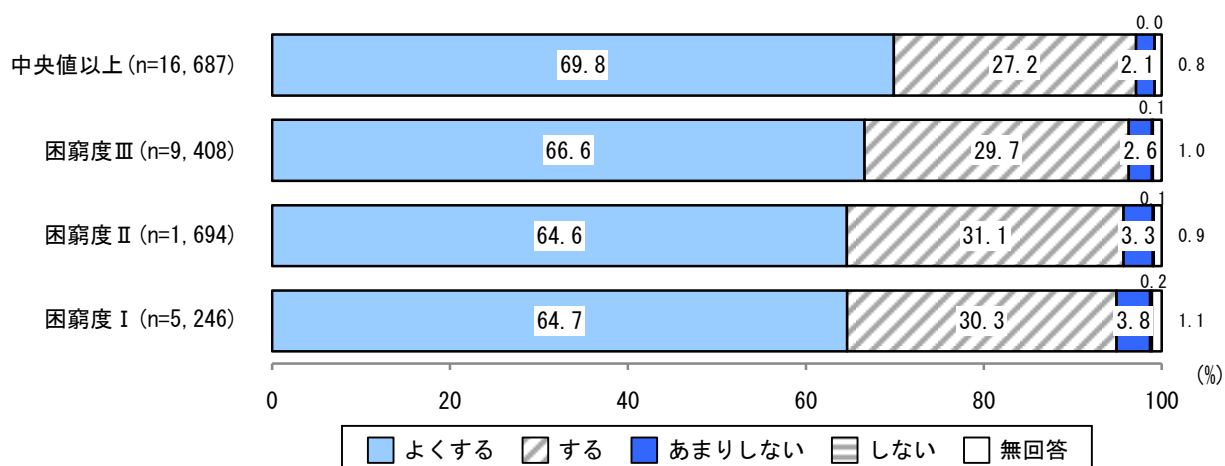


図 144. 困窮度別に見た、子どもへの信頼度

困窮度別に子どもへの信頼度を見ると、困窮度が高まるにつれ、「とても信頼している」と回答した割合が概ね低く、困窮度Ⅰ群が50.0%で最も低い。

困窮度別に見た、子どもとの会話頻度（保護者票問 13(2)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

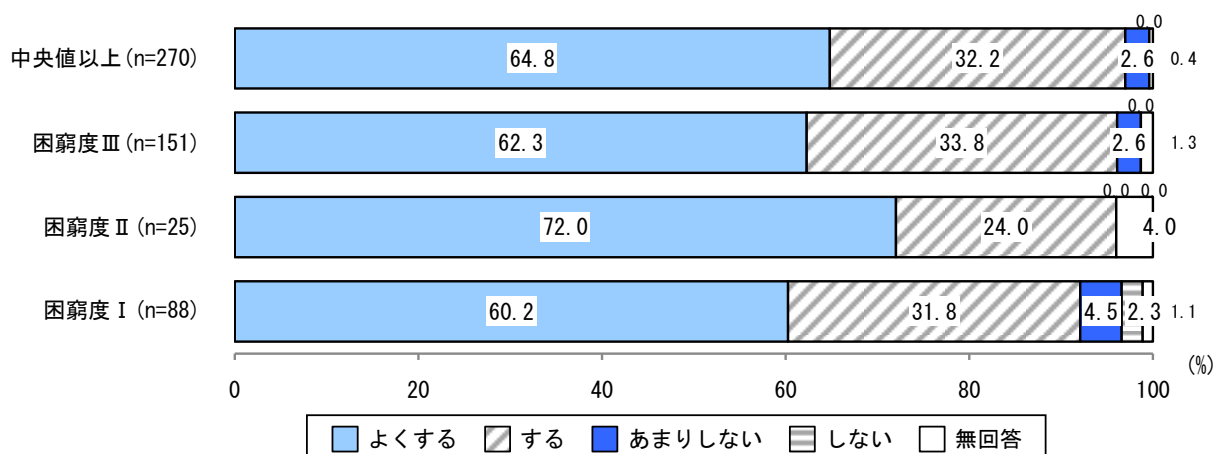
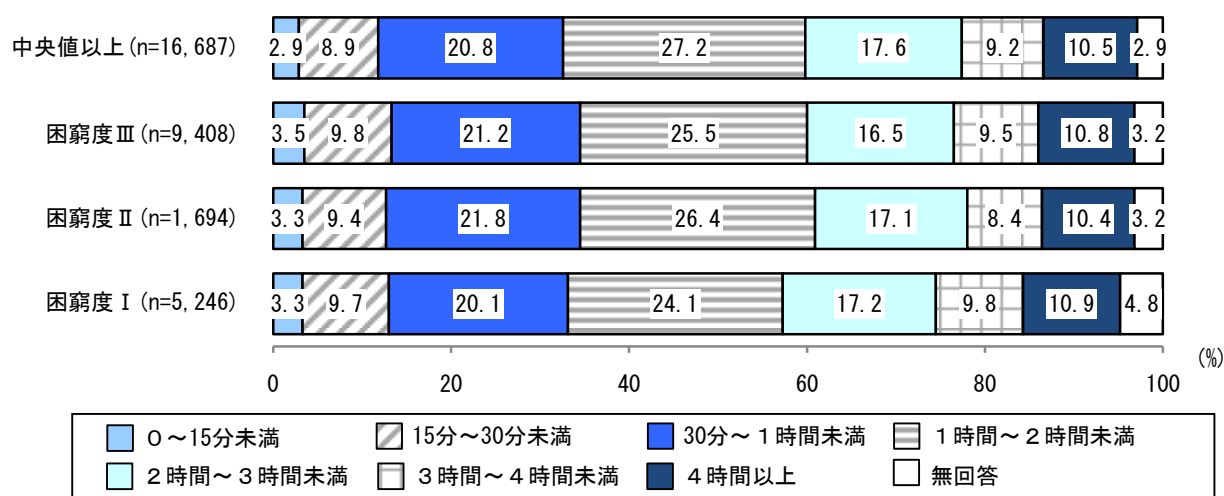


図 145. 困窮度別に見た、子どもとの会話頻度

困窮度別に子どもとの会話頻度を見ると、困窮度Ⅰ群では「よくする」と回答した割合が最も低く、60.2%である。

困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間（保護者票問 13(3)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

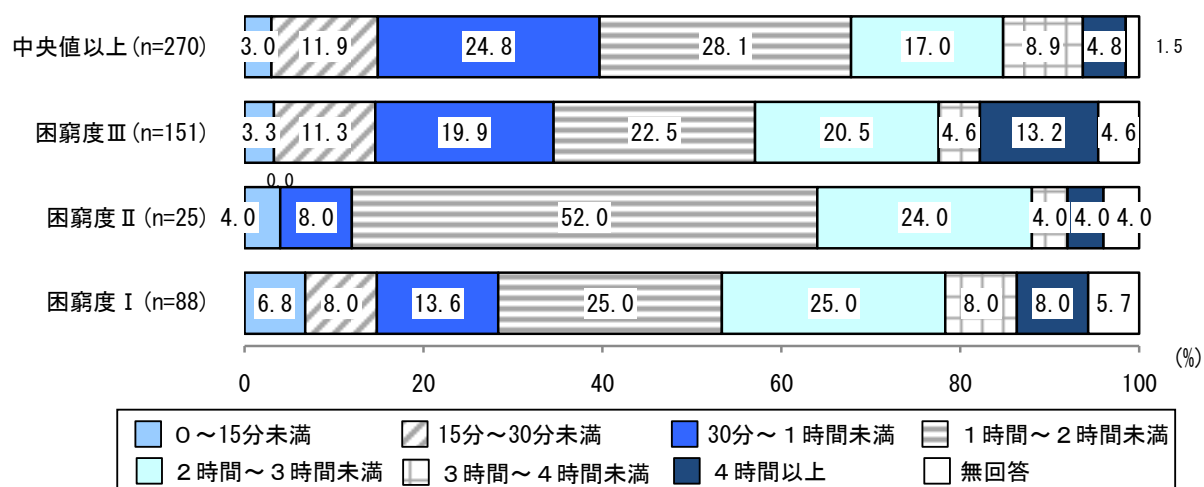
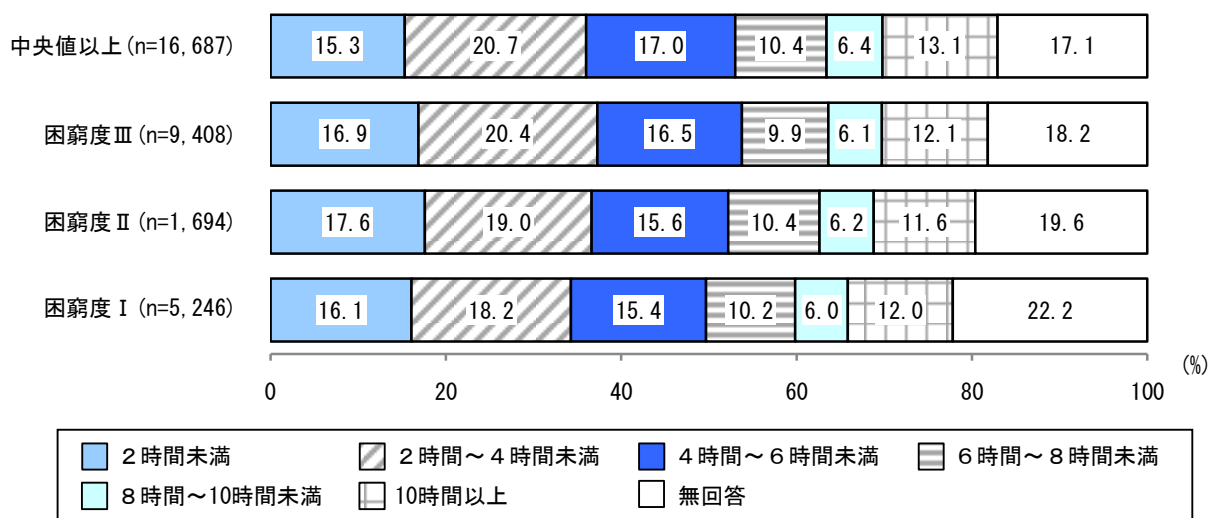


図 146. 困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間

困窮度別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「4時間以上」と回答した割合が困窮度Ⅲ群で最も高く、13.2%である。

困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間（保護者票問 13(3)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

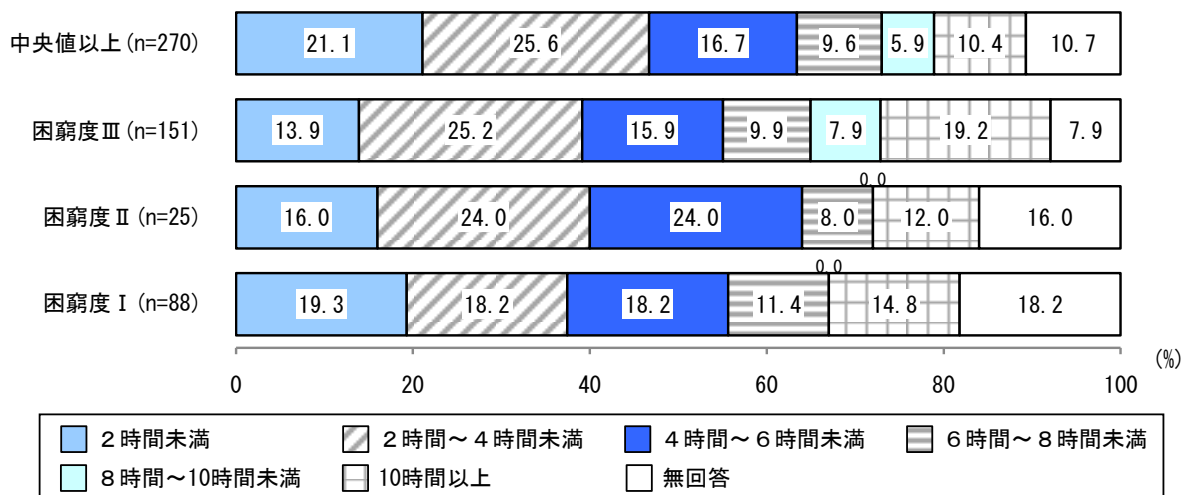
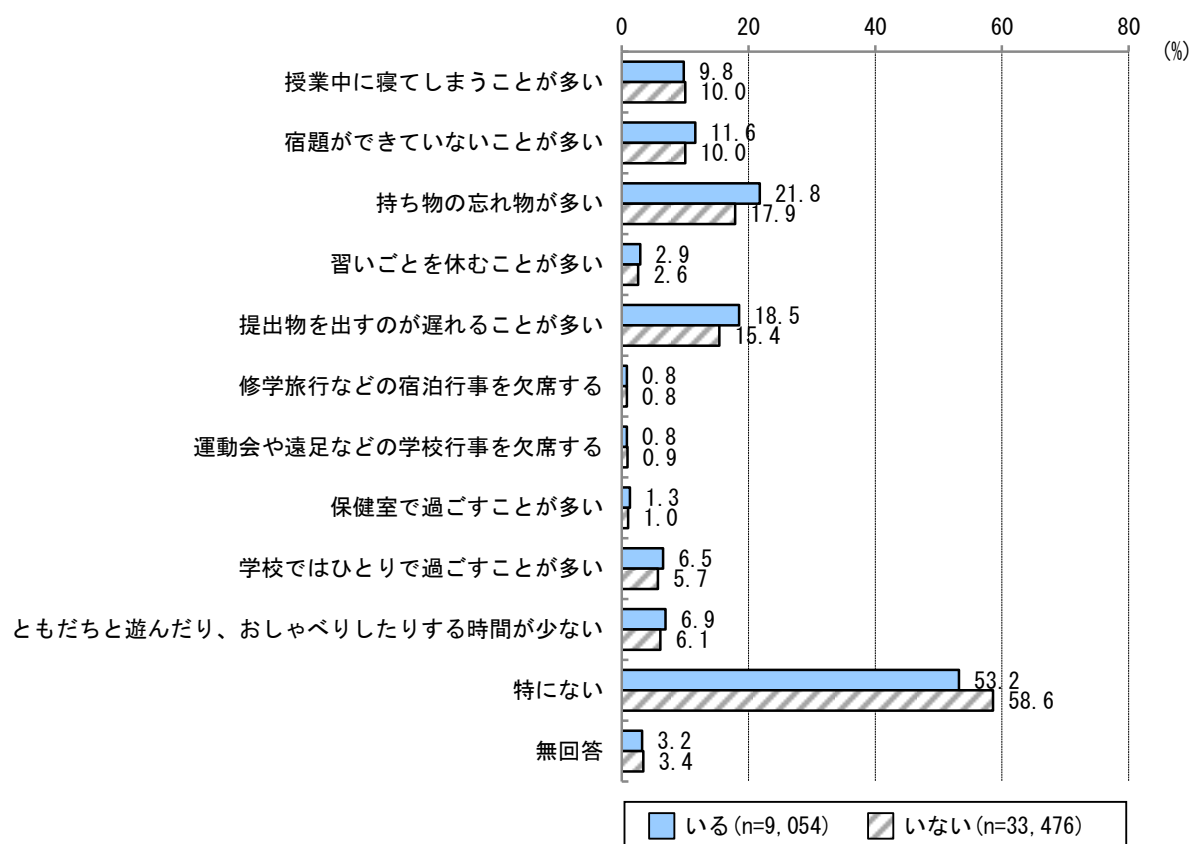


図 147. 困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間

困窮度別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「2時間未満」「2～4時間未満」と回答した割合が中央値以上群で最も高く、それぞれ21.1%、25.6%である。また、「10時間以上」と回答した割合は困窮度Ⅲ群で最も高く、19.2%となっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 16)

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

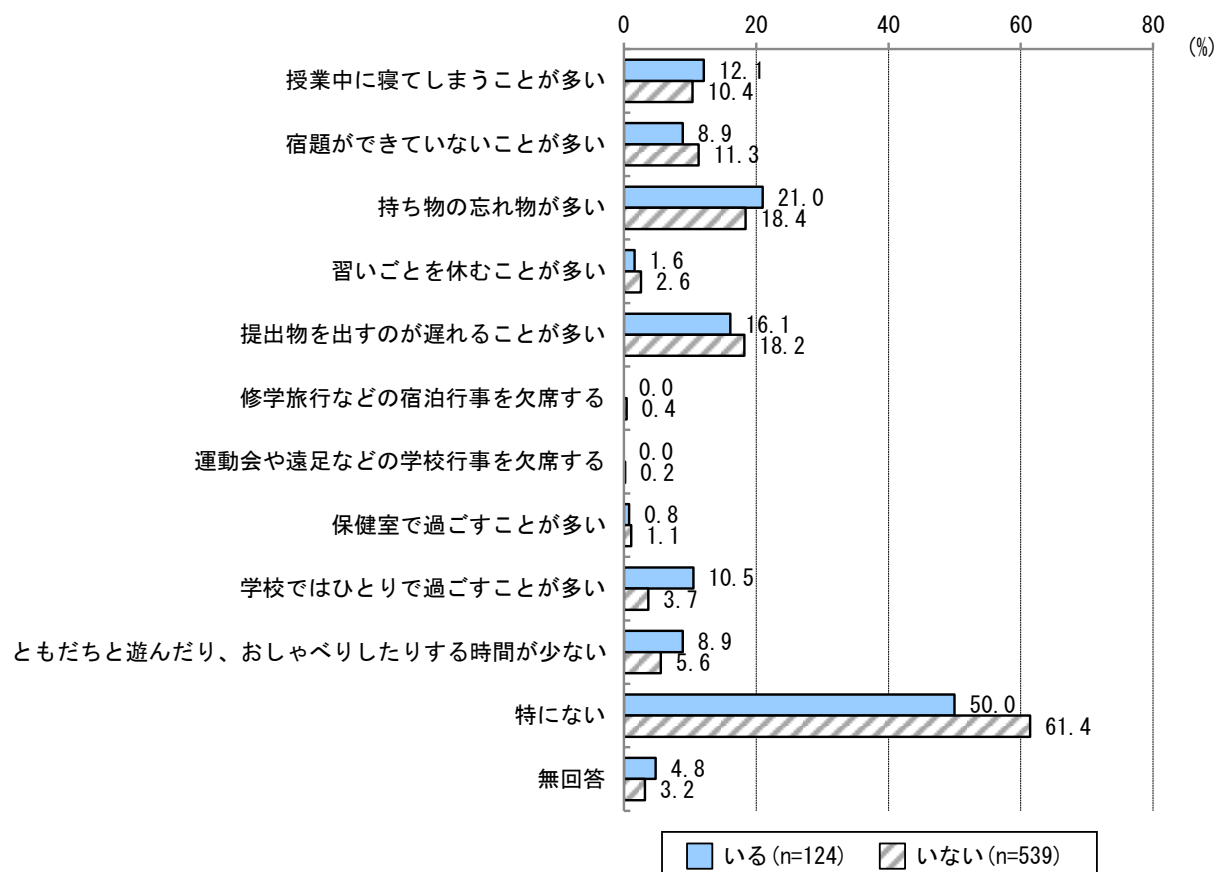
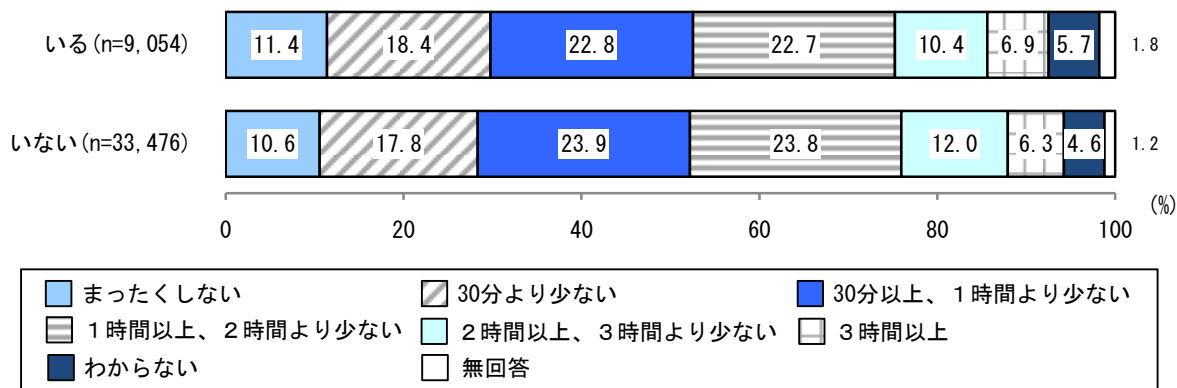


図 148. 自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況

自分が世話をしている人の有無別に学校や学校の行事等の状況を見ると、「持ち物の忘れ物が多い」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いない」割合より「いる」割合のほうが高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）（子ども票問26(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<柏原市>

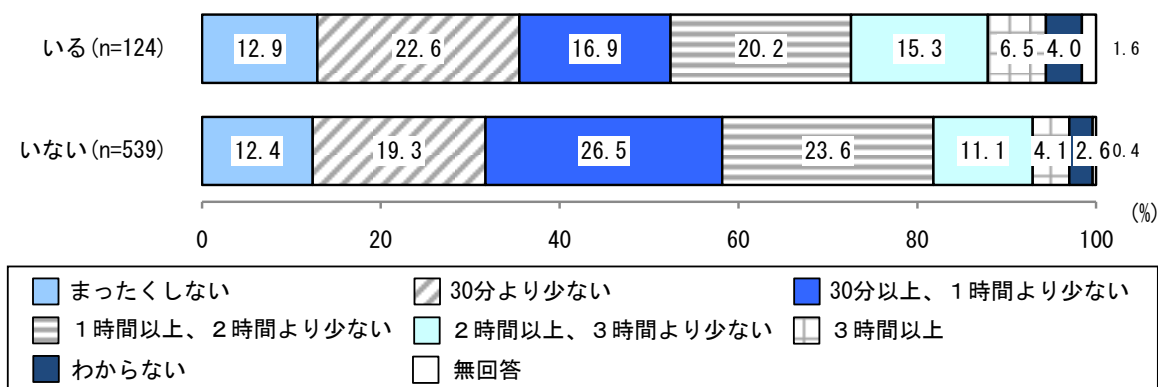
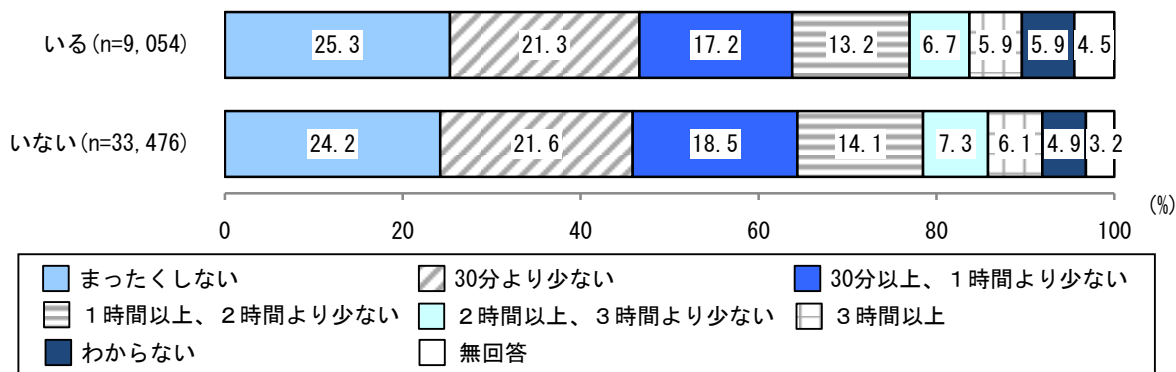


図 149. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

自分が世話をしている人の有無別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「30分より少ない」と回答した割合は、世話をしている人が「いない」人より「いる」人のほうが高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問26(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<柏原市>

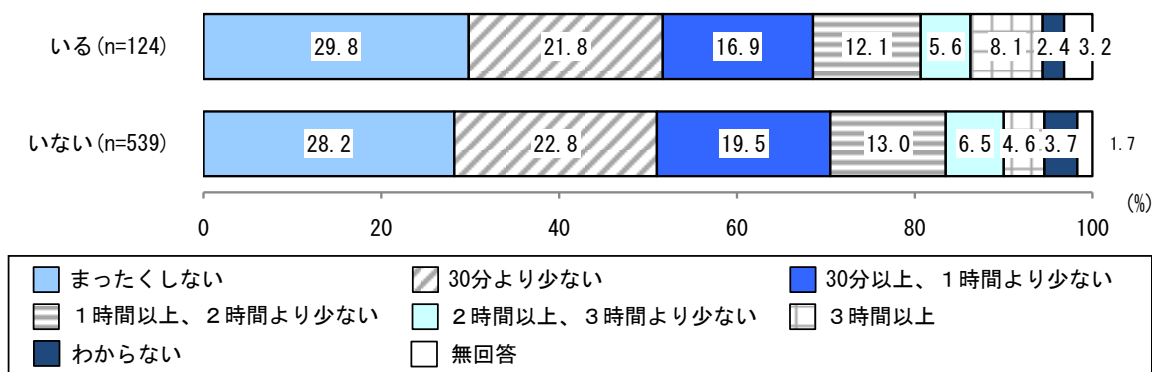


図 150. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

自分が世話をしている人の有無別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いない」人より「いる」人のほうが割合が高くなっている。

<家庭生活・学習に関する考察>

まず、経済状況と家庭生活における子どもと保護者のかかわりの関連について、困窮度が中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間の差に着目しながら確認する。おうちの大人の人と朝食をとる頻度を見ると、概ね大きな乖離はなく、最も差が大きいものは「まったくない」(18.1%対14.0%)で困窮度Ⅰ群が中央値以上群より4.1ポイント高く、次いで「週に1回程度」(8.4%対5.6%)で困窮度Ⅰ群が中央値以上群と比べ2.8ポイント高くなっている。保護者が家にいる時間帯を見ると、「お子さんの夕食時間には家にいる」(44.8%対39.8%)が中央値以上群では困窮度Ⅰ群と比べ5ポイント高くなっている。その一方で、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」(52.3%対48.9%)が困窮度Ⅰ群では中央値以上群より3.4ポイント高くなっている。保護者のこどもとの会話頻度を見ると、大きな乖離はないが、「よくする」(64.8%対60.2%)、「する」(32.2%対31.8%)が中央値以上群では困窮度Ⅰ群より高くなっている。平日での子どもとのかかわり時間では「0～15分未満」「15分～30分未満」「30分～1時間未満」の合計(39.7%対28.4%)が中央値以上群では困窮度Ⅰ群より10ポイント以上高く、「2時間～3時間未満」「3時間～4時間未満」「4時間以上」の合計(41.0%対30.7%)が困窮度Ⅰ群では中央値以上群と比べ10ポイント以上高くなっている。これらの結果から、経済状況が、保護者と子どもとの関係に大きな影響を及ぼしているとは言えず、ライフスタイルに合わせて保護者が子どもとの関係をしっかりと維持しようとしている様子が示唆された。

次に、学校への遅刻状況と家庭生活における子どもと保護者のかかわりの関連について確認する。おうちの大人の人と朝食をとる頻度を見ると、「ほとんど毎日」(60.9%対42.7%)が「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群は「遅刻はしない」群と比べ18.2ポイント高くなっており、大阪府全体の結果と比較すると対極的な結果が示されている。また、保護者と子どもの会話頻度を見ると、遅刻頻度との間に大きな差は見られなかった。一方で、学校でのできごとについて話す頻度を見ると、「ほとんど毎日」と「週に4～5回」の合計(60.4%対43.4%)が「遅刻はしない群」は「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群と比べ17ポイント高くなっており、「ほとんどない」と「まったくない」の合計(26.1%対10.2%)が「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群は「遅刻はしない」群と比べ15.9ポイント高くなっている。これらの結果から、遅刻頻度が高いと、朝食時の孤食の可能性は低まる一方で、学校でのできごとに限ると保護者と情報を共有しにくい傾向が見られた。

経済状況と子どもの学習にかかわる習慣や進学希望の関連について、困窮度が中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間の差に着目して述べる。通学状況を見ると、「ほぼ毎日通っている」(95.6%対86.4%)で中央値以上群が困窮度Ⅰ群より9.2ポイント高くなっている。学校のある日の勉強時間を見ると、困窮度Ⅰ群では中央値以上群と比べ、「まったくしない」(19.3%対9.2%)が10.1ポイント、「30分より少ない」(24.1%対19.2%)が4.9ポイント高くなっている。こうした傾向は学校のない日の勉強時間でも見られ、困窮度Ⅰ群では中央値以上群と比べ、「まったくしない」(38.6%対28.4%)が10.2ポイント高くなっている。希望進学先を見ると、「大学」、「高校」、「専門学校」に子ども、保護者共に回答の集中が見られ、「大学」、「高校」、「専門学校」への回答率は、中央値以上群、困窮度Ⅰ群共通して、子どもで約70%、保護者で約85%となっており、「大学」への希望率が最も高い。しかし、「大学」を希望する子ども(46.4%対36.1%)は中央値以上群が困窮度Ⅰ群より10.3ポイント高いのに対して、保護者(73.7%対58.0%)では中央値以上群が困窮度Ⅰ群を15.7ポイント上回る結果となっており、保護者の関与度の弱さと経済状況の悪化が子ども進路希望先を下方修正させる可能性が示唆されている。子どもの将来への期待度を見ると、「とても期待している」(26.3%対17.0%)、「期待している」(61.5%対54.5%)では中央値以上群が困窮度

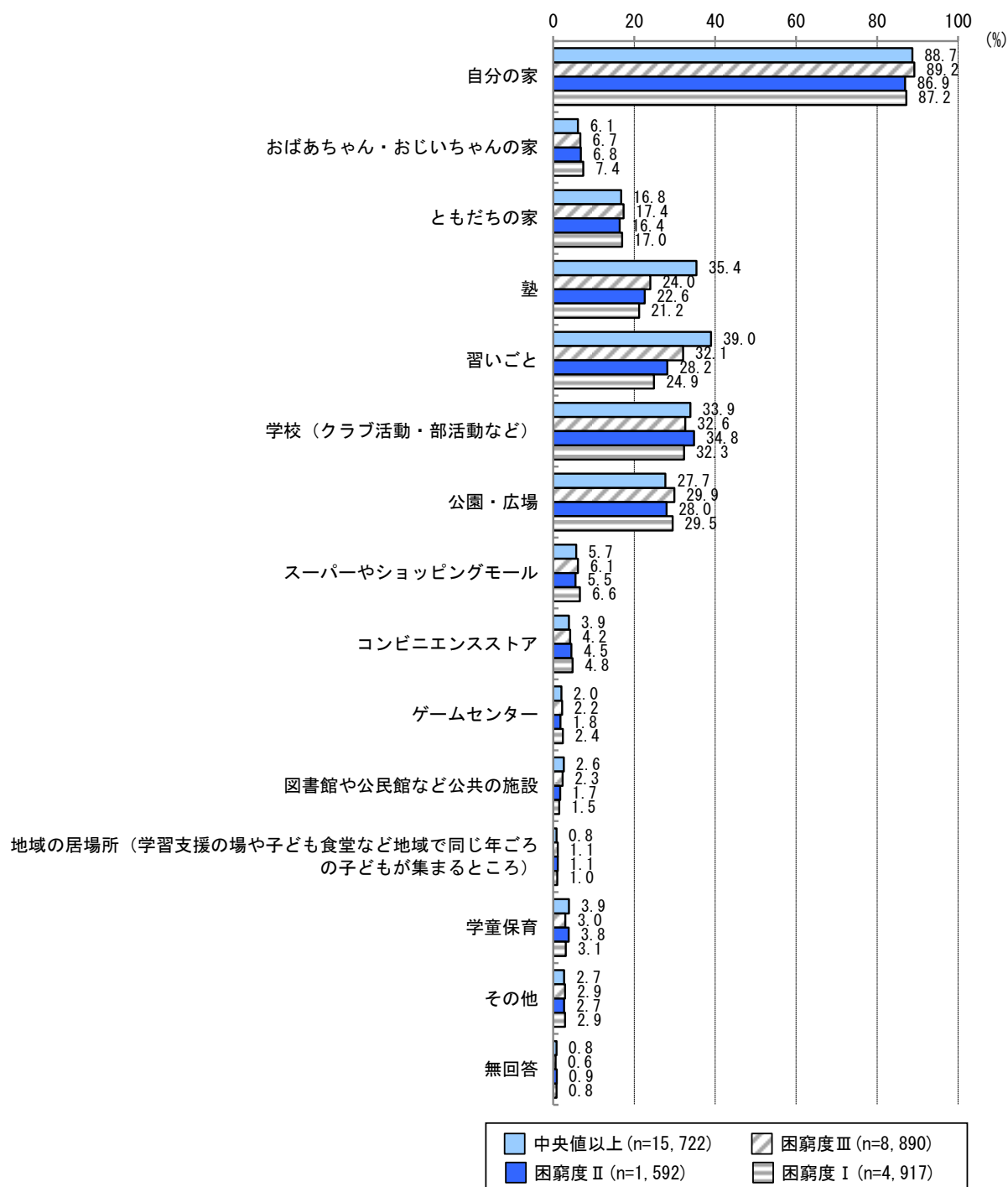
I 群より5ポイント以上高く、「あまり期待していない」(10.7%対20.5%)、「期待していない」(1.5%対6.8%)では反対に中央値以上群よりも困窮度 I 群の方が5ポイント以上高くなっており、経済状況の悪化が子ども将来への期待度を低下させることが示唆されている。これらの結果から、保護者の経済状況の悪化は、子どもの学習習慣や就学環境に影響し、それが遠因となって子どもの進路希望に影響させている可能性が示唆されている。

最後に、朝の習慣や学校への遅刻状況と子どもの学習にかかわる習慣の関連について確認する。起床時間の規則性別に学習時間を見ると、ほぼ同じ時刻に「起きていない」群は「起きている」群と比べ、学校がある日の勉強時間では「まったくしない」(41.7%対10.7%)が31ポイント高くなっている。また、朝食頻度別に学習時間を見ると、「食べない」群は「毎日またはほとんど毎日」食べる群と比べ、学校がある日の勉強時間では「まったくしない」(30.4%対10.9%)が19.5ポイント高くなっている。起床時間の規則性別、朝食頻度別ともに、学校がない日の勉強時間についても同様の傾向が見られる。これらの結果から、朝の習慣が身についていないことは、学習習慣の形成に影響が出ている可能性を指摘できる。

3-5. 対人関係

困窮度別に見た、放課後を過ごす場所（子ども票問11）

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

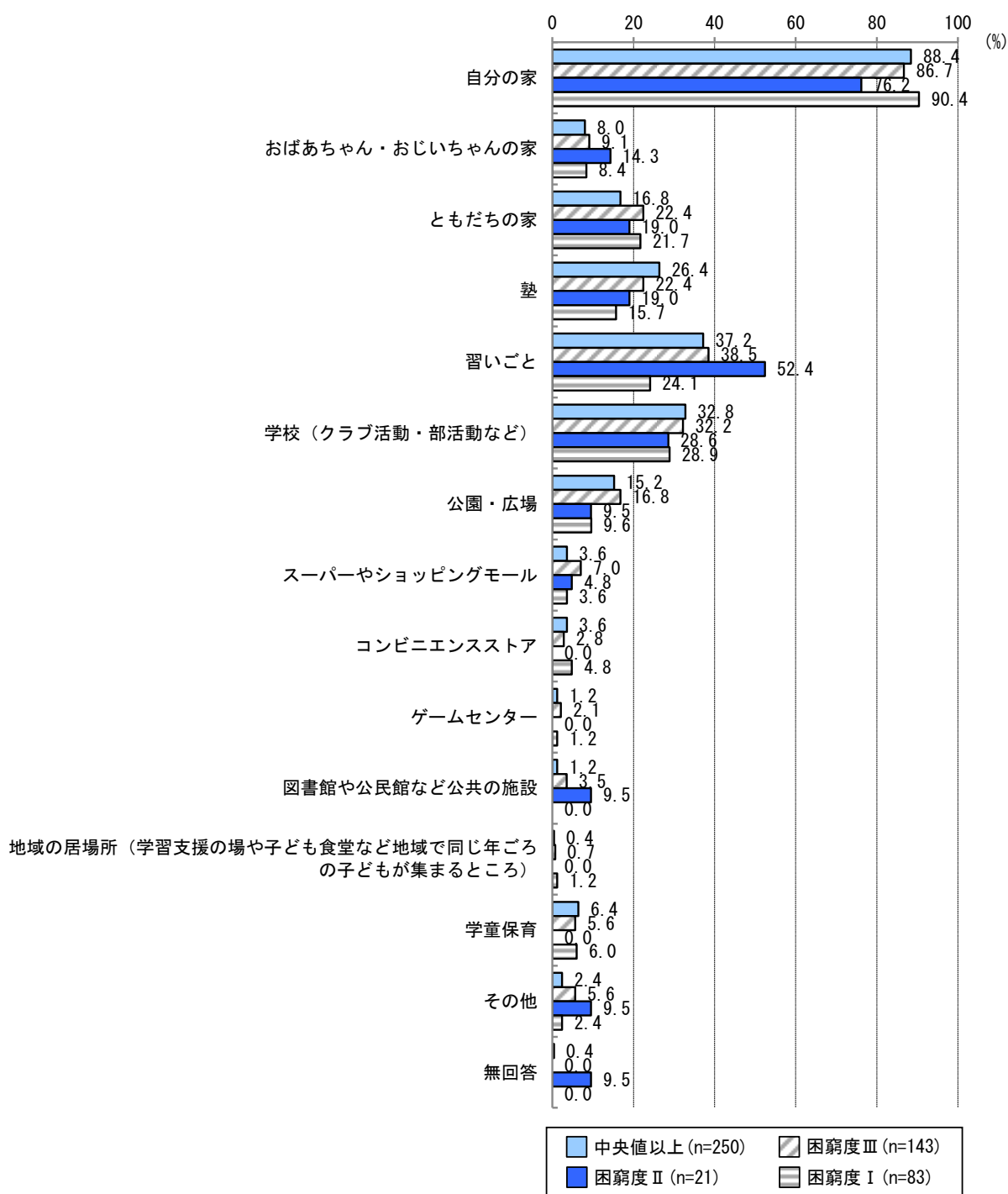
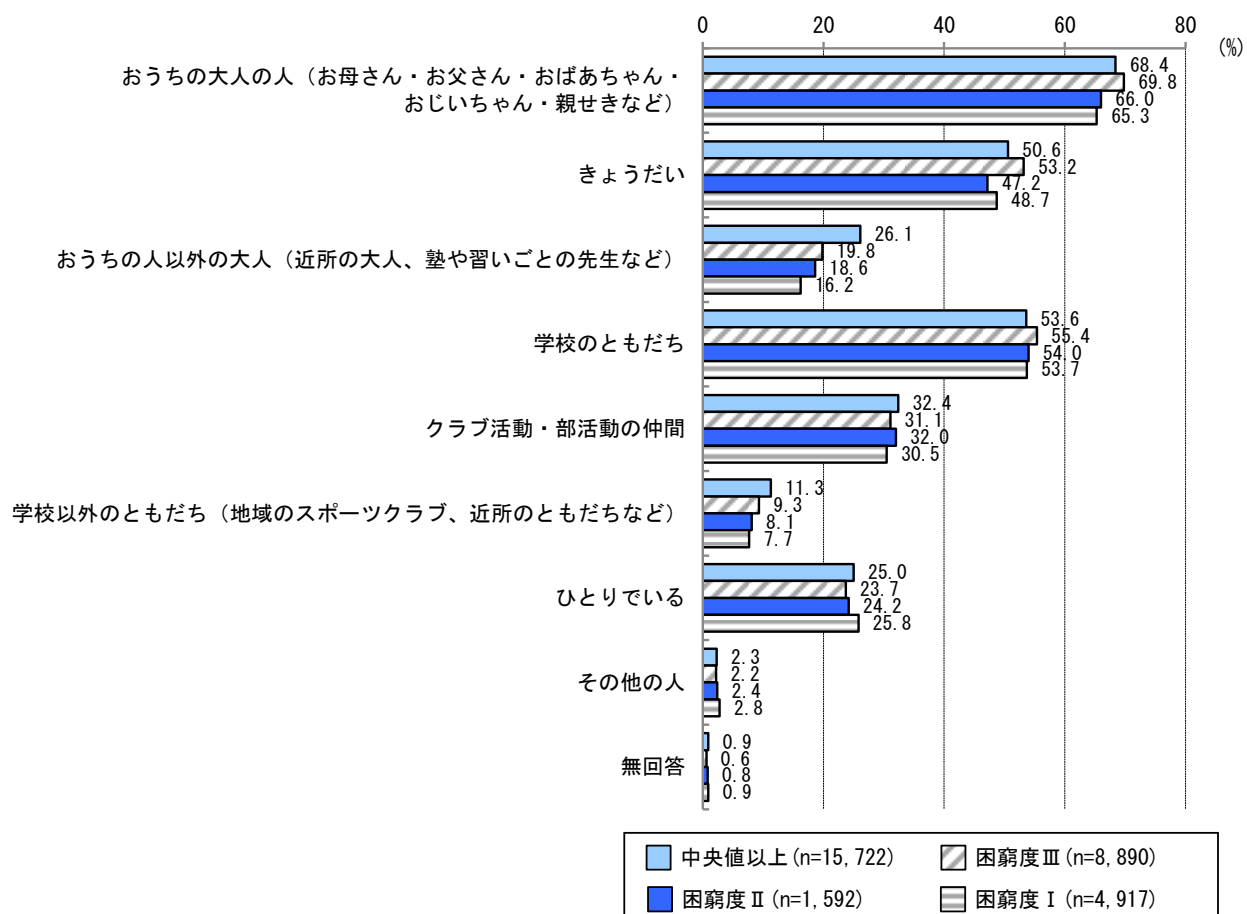


図 151. 困窮度別に見た、放課後を過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「地域の居場所（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所）」1.2%（中央値以上群に対して3.0倍）、「ともだちの家」21.7%（同じく1.3倍）、「コンビニエンスストア」4.8%（同じく1.3倍）となっている。一方、中央値以上群では、「塾」26.4%（困窮度Ⅰ群に対して1.7倍）、「公園・広場」15.2%（同じく1.6倍）、「習いごと」37.2%（同じく1.5倍）などが高かった。

困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人（子ども票問10）

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

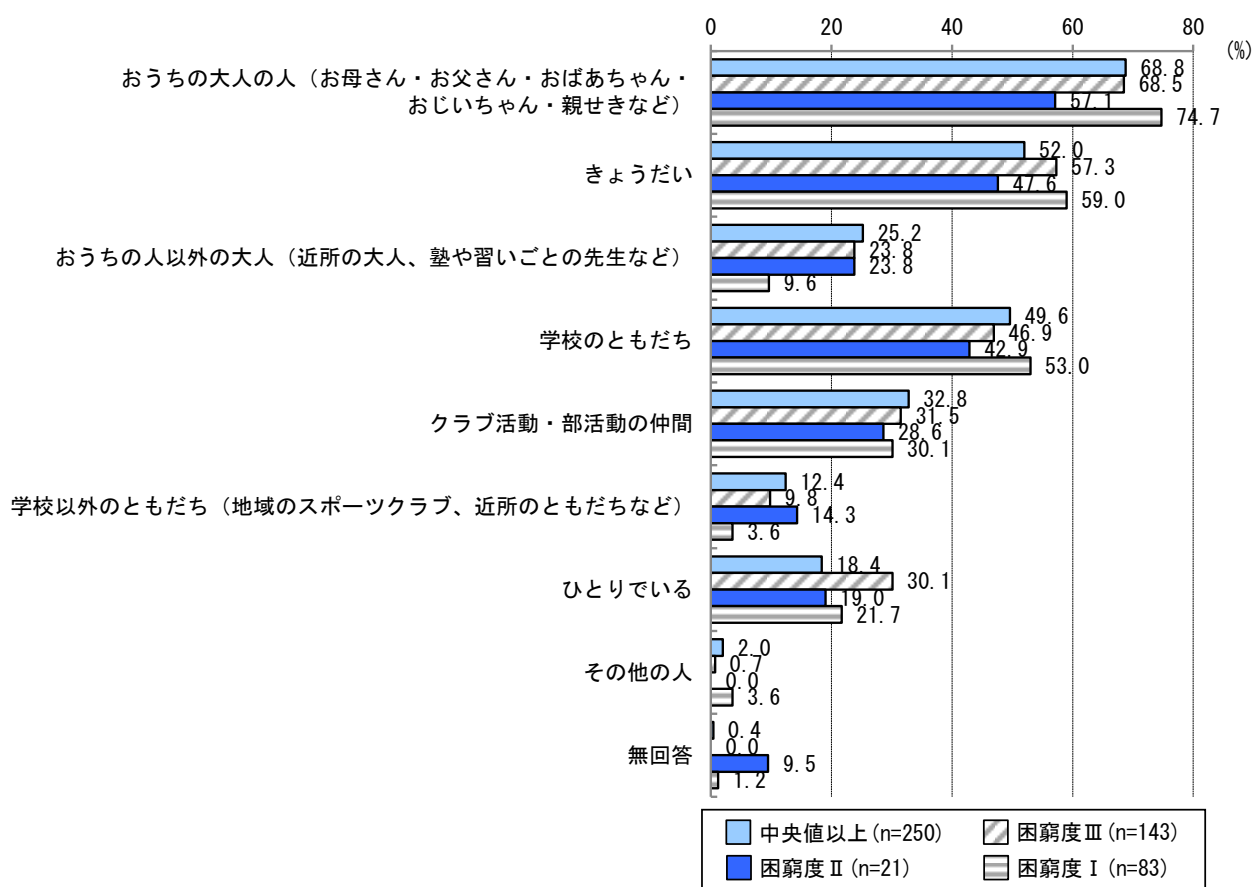
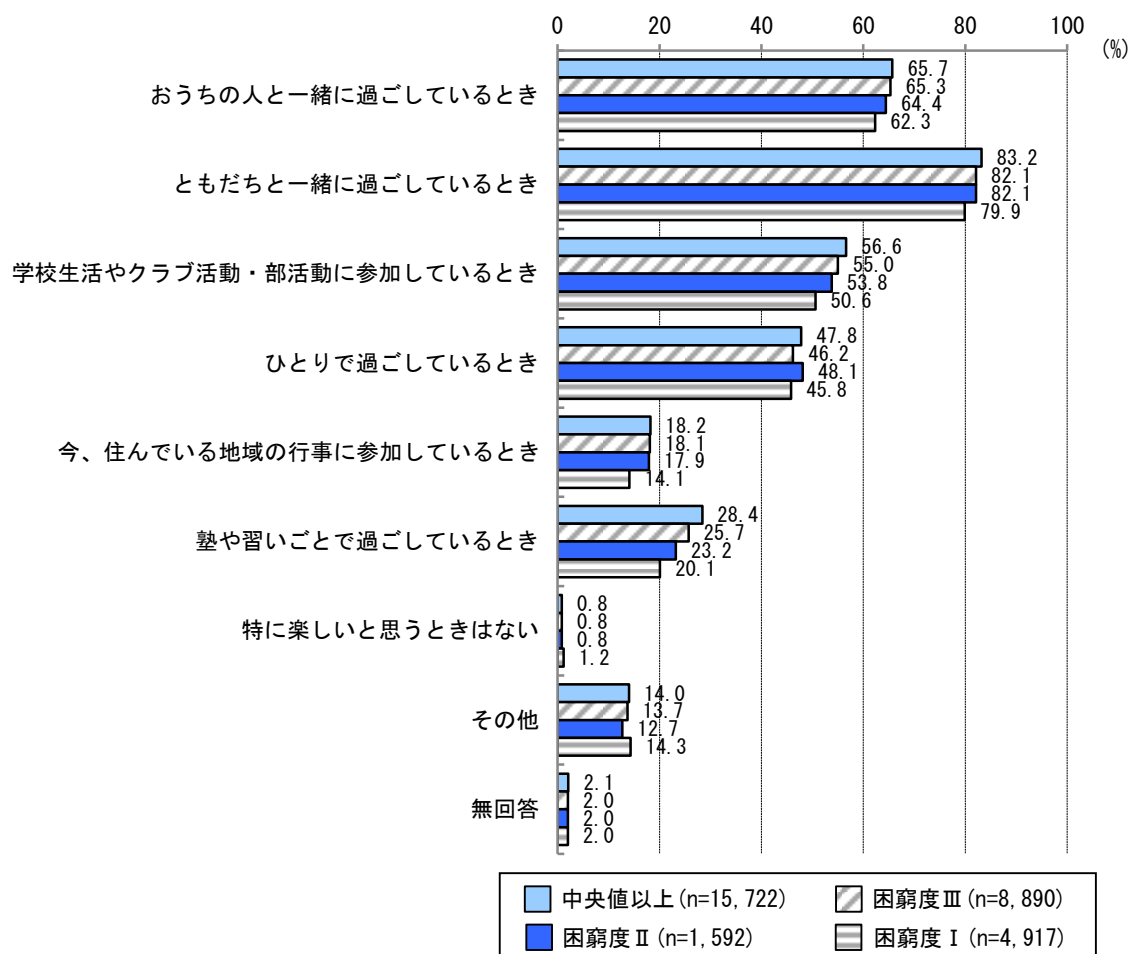


図 152. 困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目すると、中央値以上群では「学校以外のともだち (地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど)」12.4% (困窮度 I 群に対して3.4倍)、「うちの人以外の大人 (近所の大人、塾や習いごとの先生など)」25.2% (同じく2.6倍)、「クラブ活動・部活動の仲間」32.8% (同じく1.1倍) が高かった。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票問9）

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

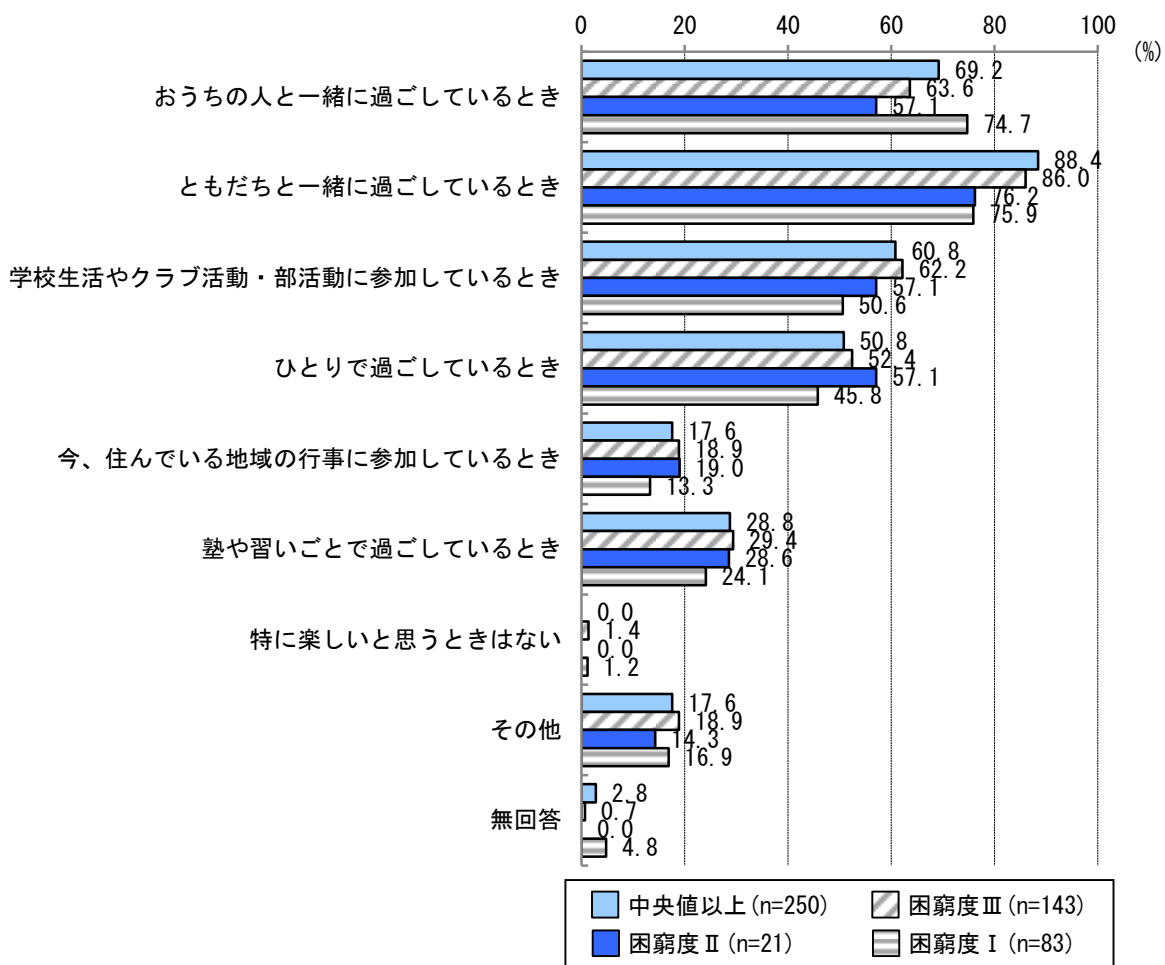
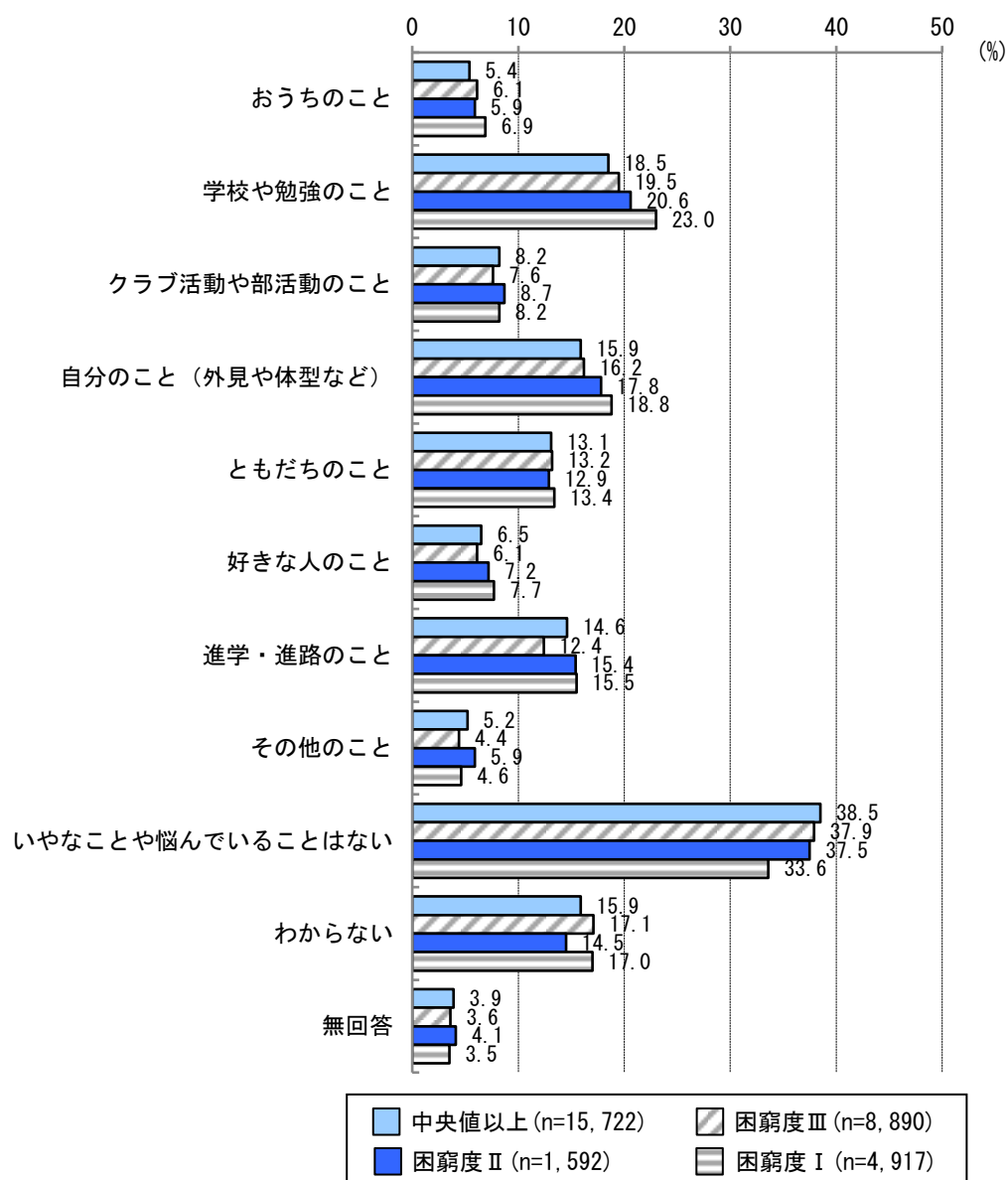


図 153. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、中央値以上群の数値を挙げると、「塾や習いごとで過ごしているとき」28.8%（困窮度Ⅰ群に対して1.2倍）、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」60.8%（同じく1.2倍）、「今、住んでいる地域の行事に参加しているとき」17.6%（同じく1.3倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること（子ども票問17）

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

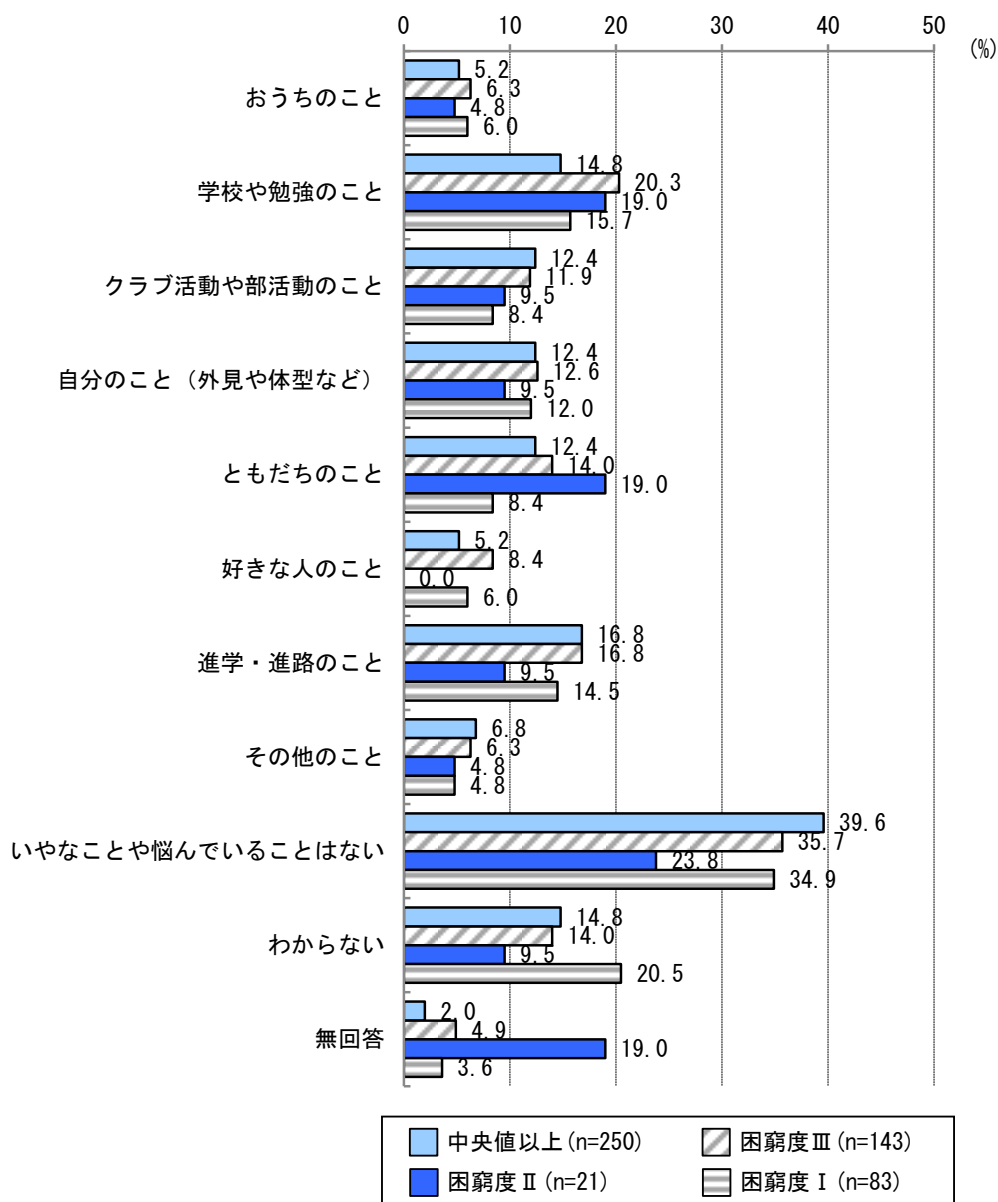
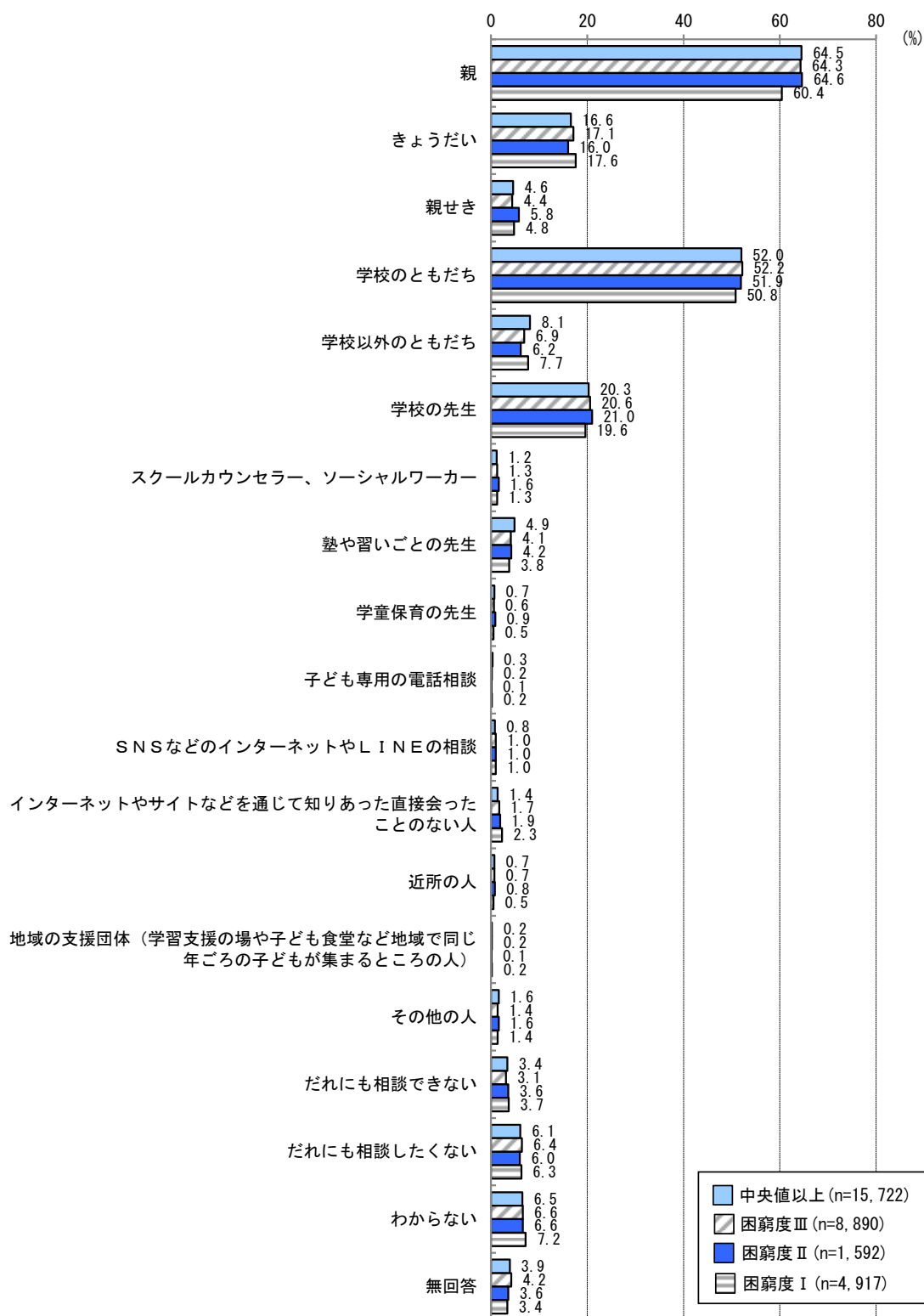


図 154. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること

困窮度別に子どもが悩んでいることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、困窮度Ⅰ群では、「おうちのこと」6.0%（中央値以上群に対して1.2倍）、「学校や勉強のこと」15.7%（同じく1.1倍）、「好きな人のこと」6.0%（同じく1.2倍）が高く、中央値以上群では「ともだちのこと」12.4%（困窮度Ⅰ群に対して1.5倍）、「クラブ活動や部活動のこと」12.4%（同じく1.5倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票問 18）

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

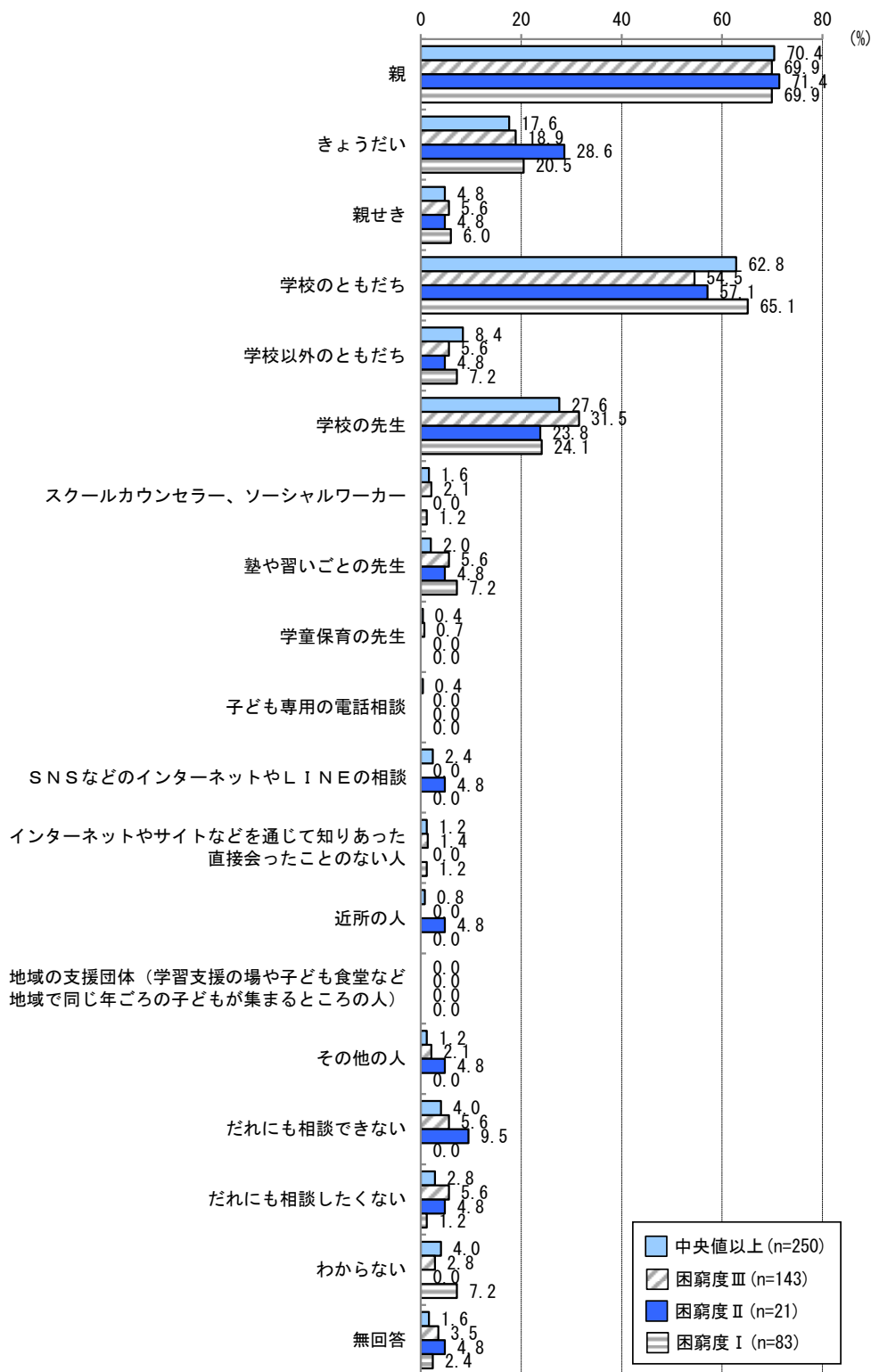
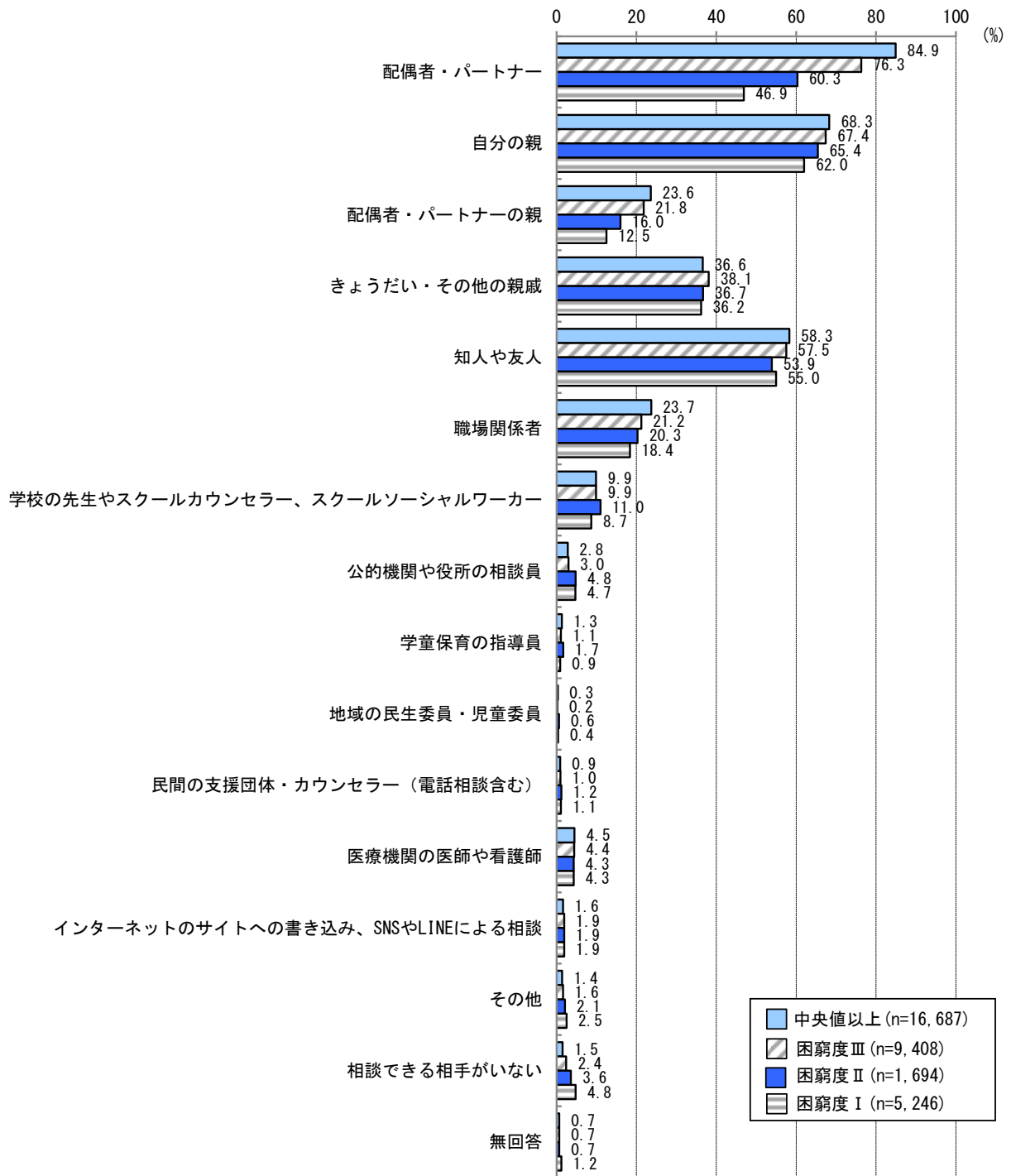


図 155. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

困窮度別に子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「きょうだい」20.5%（中央値以上群に対して1.2倍）、「親せき」6.0%（同じく1.3倍）、「塾や習いごとの先生」7.2%（同じく3.6倍）となっている。

困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（保護者票問 19）

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

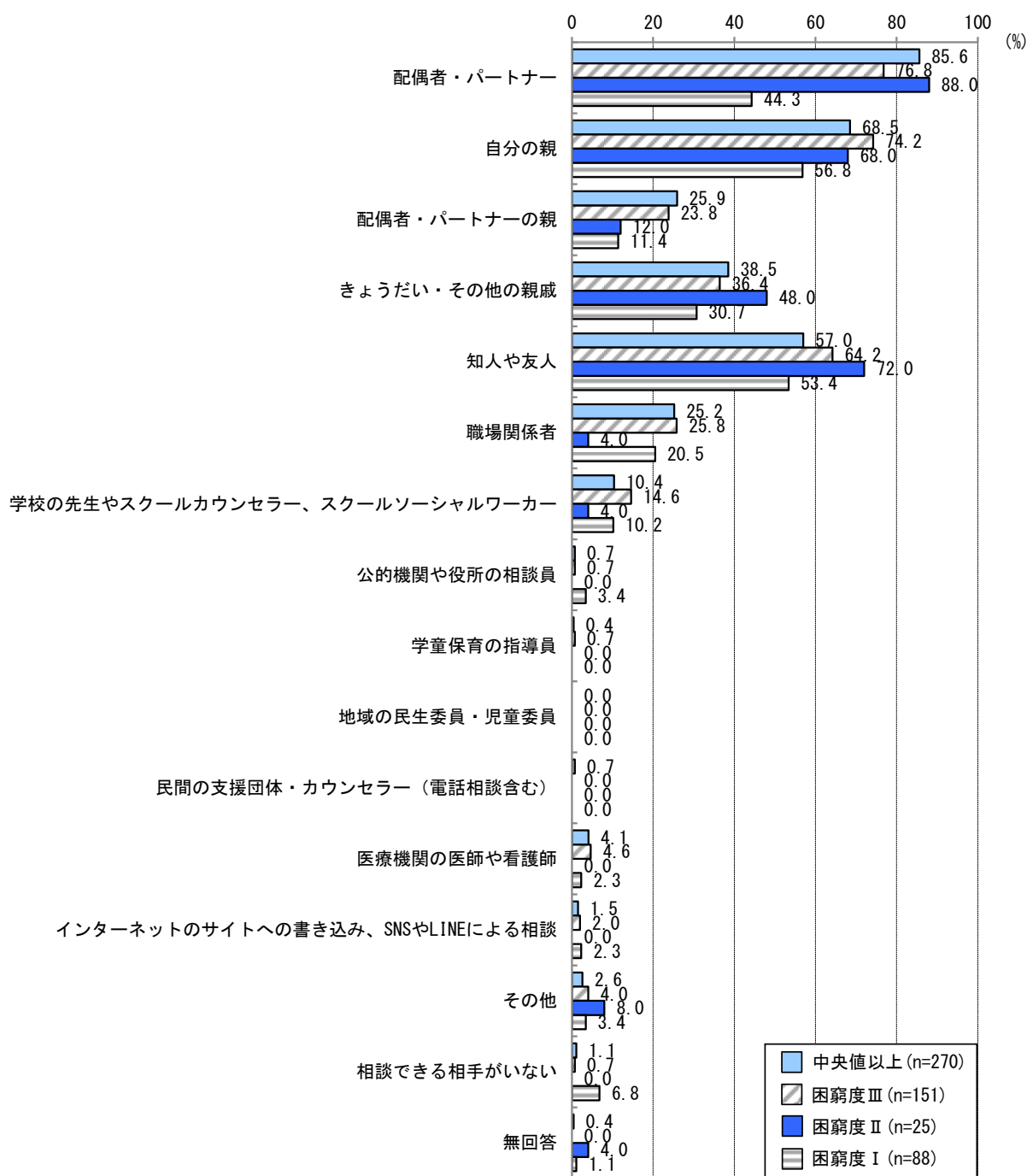
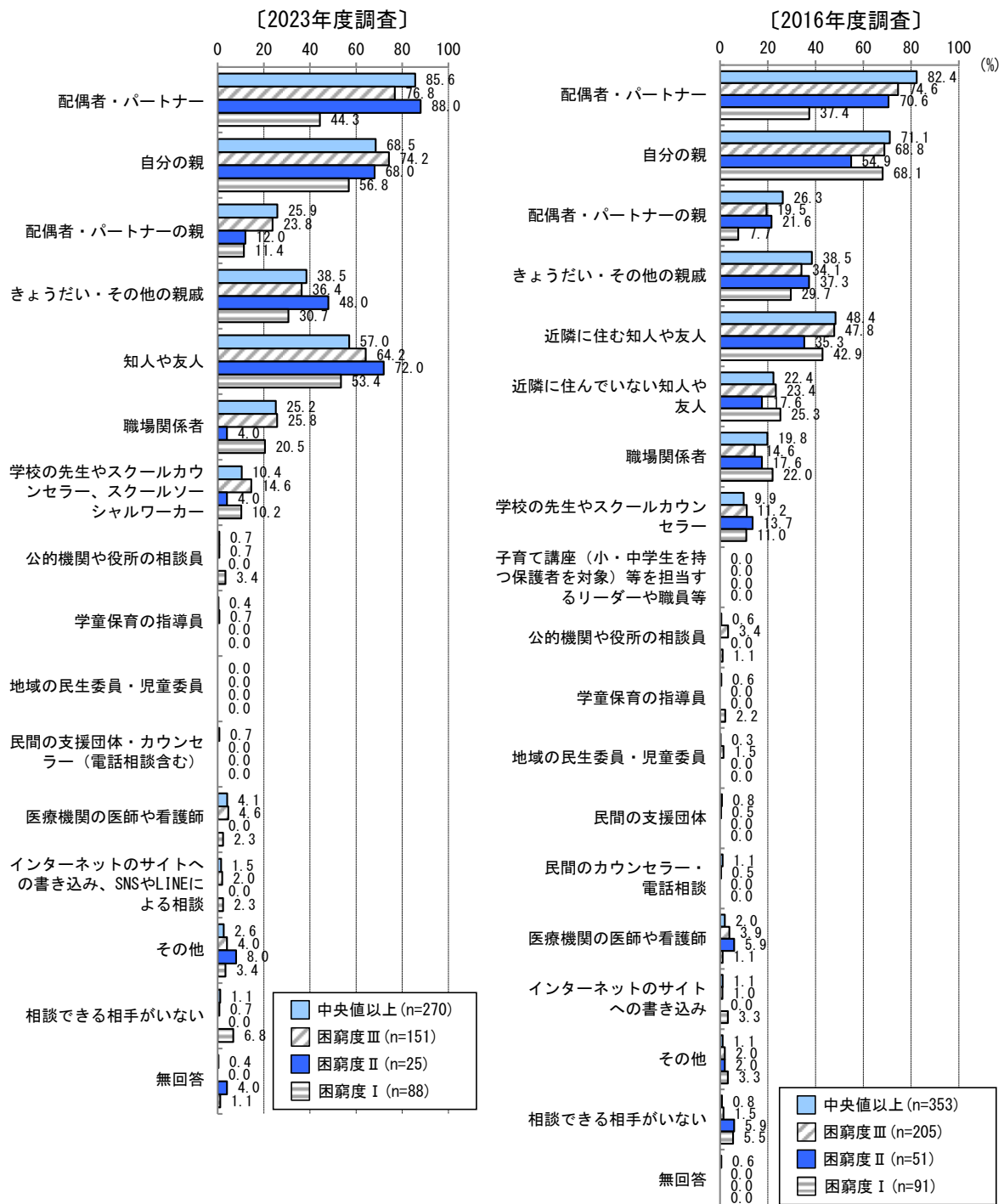


図 156. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

困窮度別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「相談できる相手がいない」6.8%（中央値以上群に対して6.2倍）、「公的機関や役所の相談員」3.4%（同じく4.9倍）、「インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談」2.3%（同じく1.5倍）となっている。中央値以上群の数値を挙げると、「配偶者・パートナーの親」25.9%（困窮度Ⅰ群に対して2.3倍）、「配偶者・パートナー」85.6%（同じく1.9倍）、「医療機関の医師や看護師」4.1%（同じく1.8倍）となっている。

<2016 年度調査との比較／柏原市>



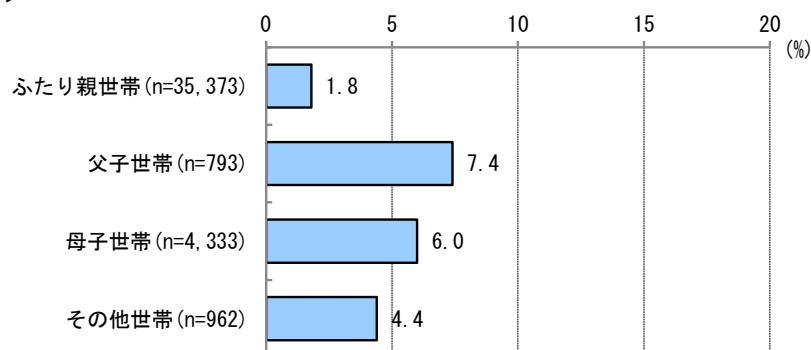
- ※1 「知人や友人」は、2016年度調査では「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」
 ※2 「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」は、2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」
 ※3 2016年度調査の「子育て講座（小・中学生を持つ保護者を対象）等を担当するリーダーや職員等」は今回は削除
 ※3 「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」は、2016年度調査では「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」
 ※4 「インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談」は、2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

図 157. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「配偶者・パートナー」と回答した割合は、いずれの困窮度も2016年度調査に比べて高くなっている。

世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合
(保護者票問2×保護者票問19)

<大阪府内全体>



<柏原市>

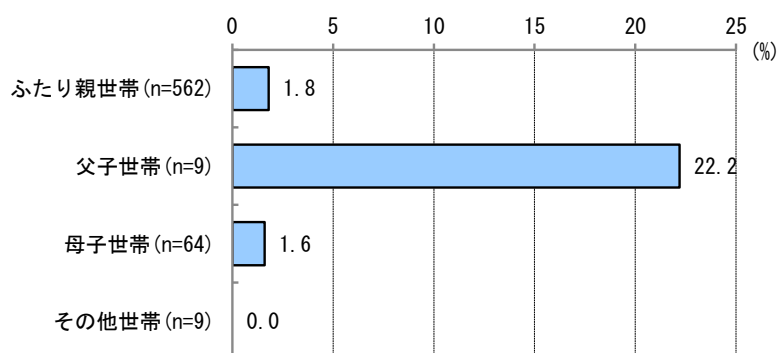


図 158. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合

世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「相談できる相手がない」と回答した人は、父子世帯で22.2%、母子世帯で1.6%いる。

<2016年度調査との比較／柏原市>

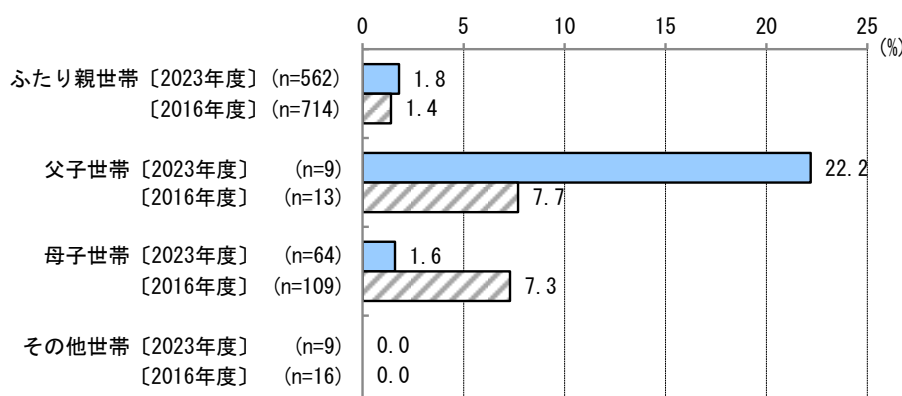
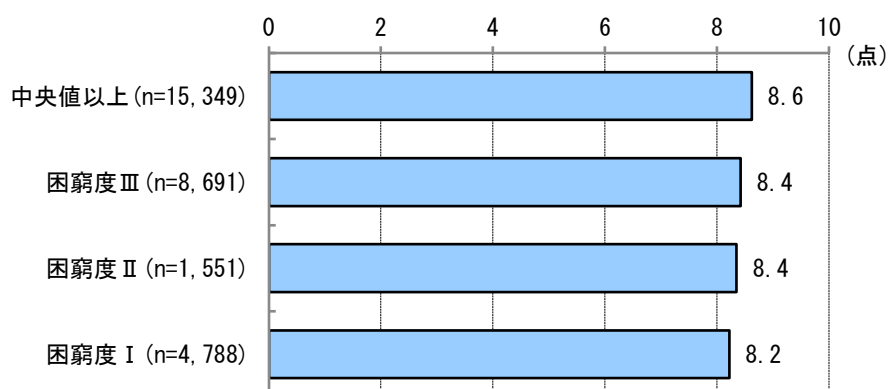


図 159. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合 (2016年度調査との比較)

2016年度調査と比較すると、母子世帯の割合は、2016年度調査に比べて低くなっており、一方で、父子世帯は2016年度調査に比べて割合が高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）（子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<柏原市>

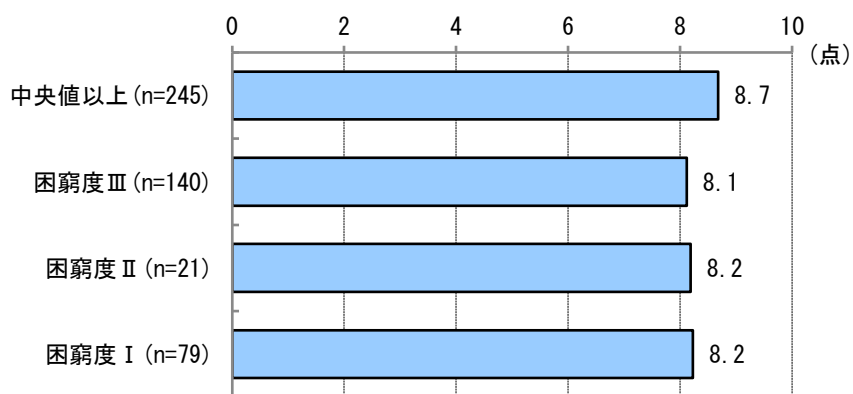
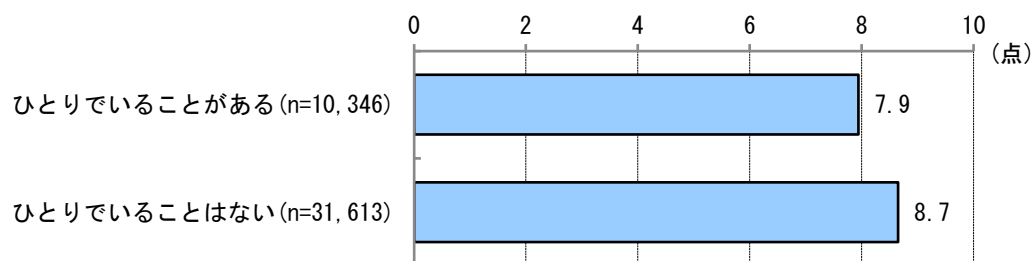


図 160. 困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、中央値以上群が8.7点で最も高くなっている。

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問 10×子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<柏原市>

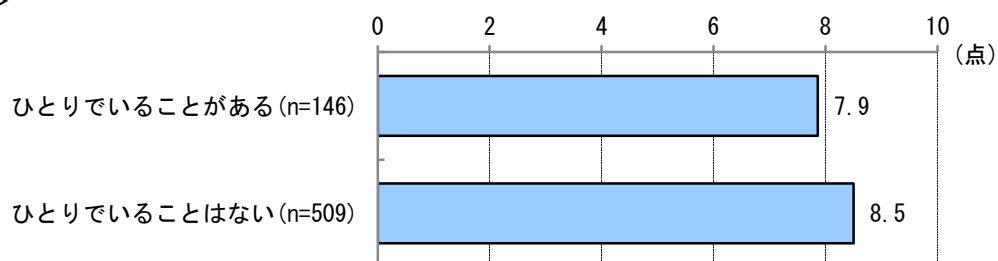


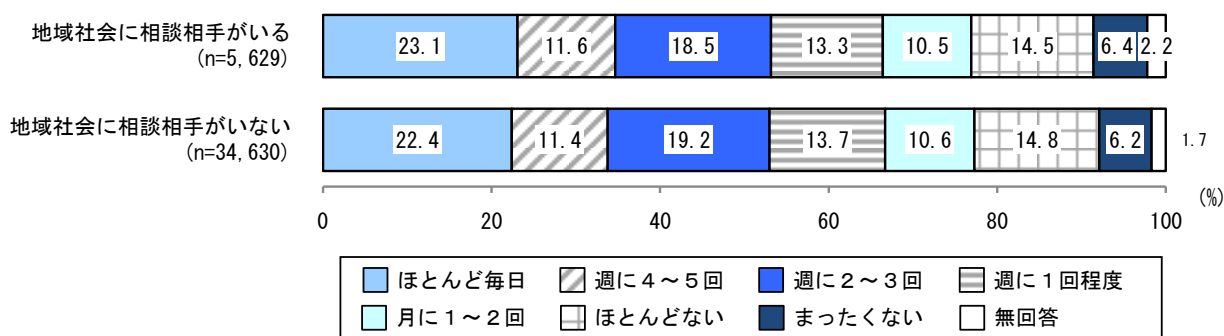
図 161. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかによって子どもの自己効力感(セルフ・エフィカシー)を見ると、放課後ひとりで過ごす子どもの方がそれでない子どもよりも自己効力感（セルフ・エフィカシー）が低かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか
(保護者票問 19×子ども票問 8④)

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問に対し、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

<大阪府内全体>



<柏原市>

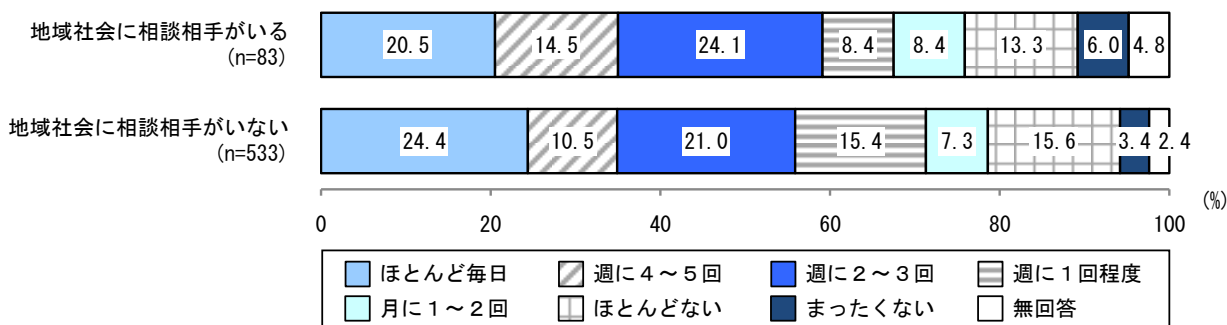
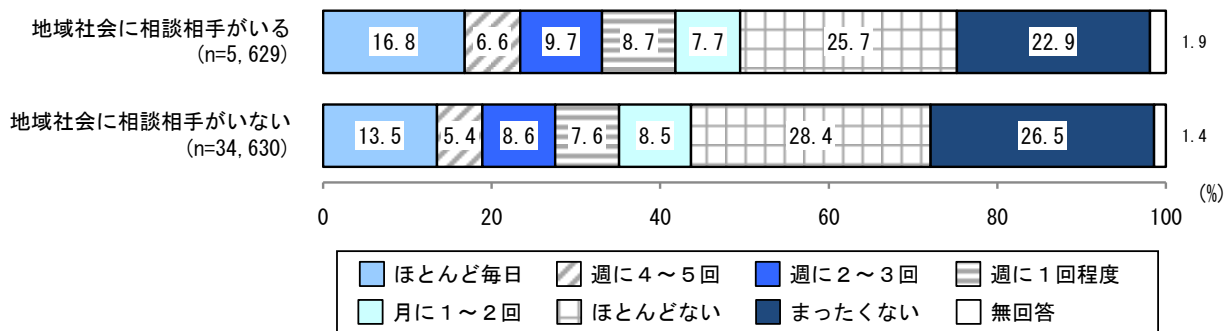


図 162. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、家の手伝いをしているかを見ると、「地域社会に相談相手がない」人の方が、「地域社会に相談相手がいる」人よりも、子どもがおうちの手伝いをしているかに「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか
（保護者票問 19×子ども票問 8 ⑤）

<大阪府内全体>



<柏原市>

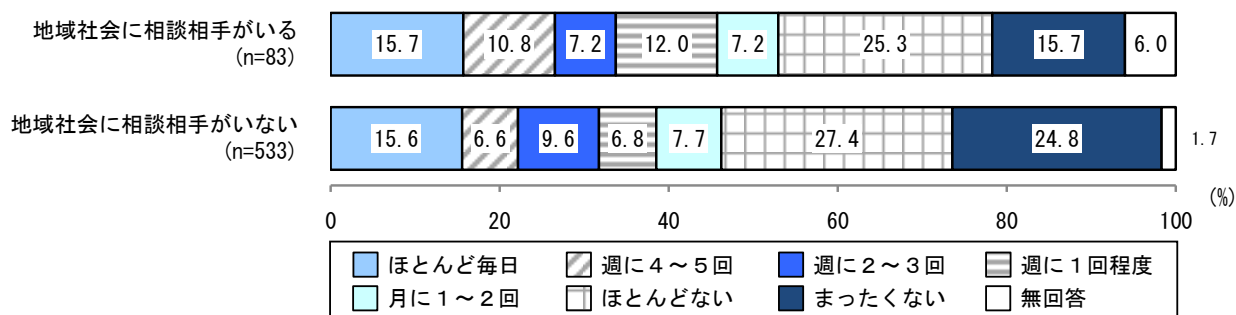
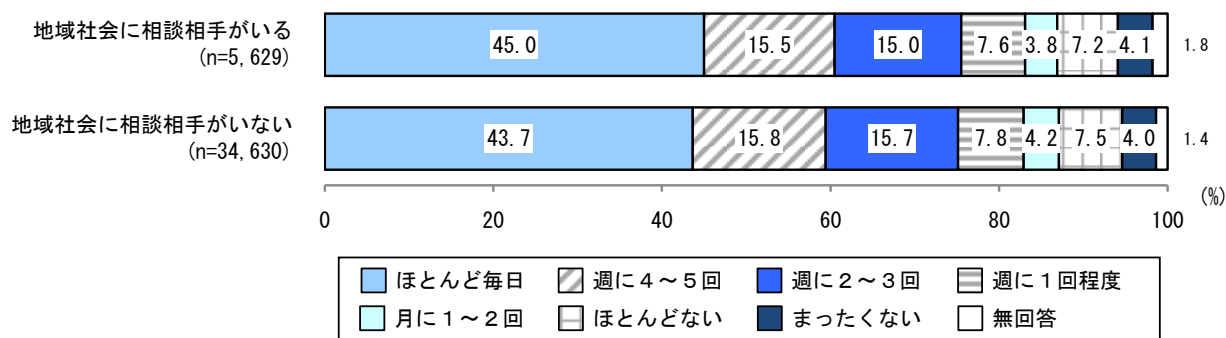


図 163. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人に宿題（勉強）を見てもらっているかに「ほとんど毎日」、「週に4～5回」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑥)

<大阪府内全体>



<柏原市>

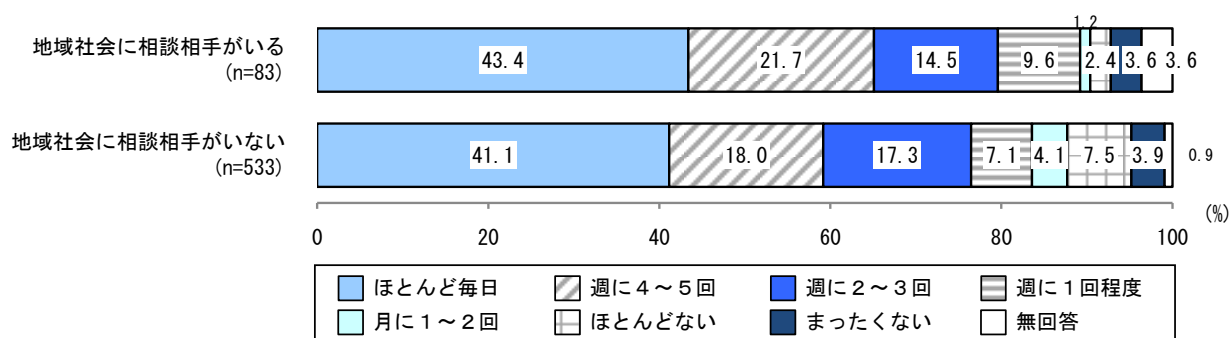
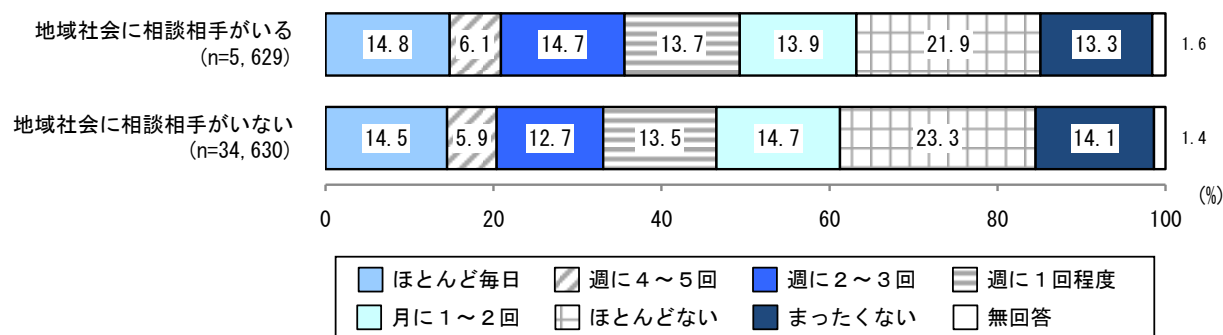


図 164. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかに「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑦)

<大阪府内全体>



<柏原市>

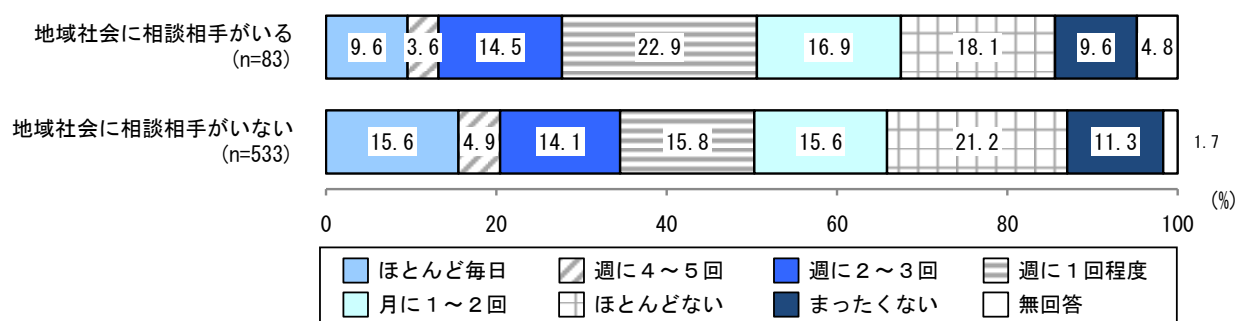
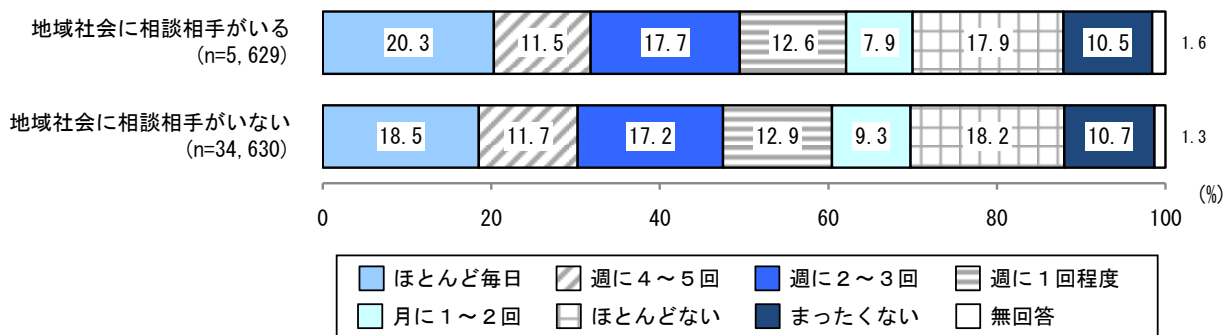


図 165. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかを見ると、「地域社会に相談相手がない」人の方が、「地域社会に相談相手がいる」人よりも、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかに「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか（保護者票問 19×子ども票問 8 ⑧）

<大阪府内全体>



<柏原市>

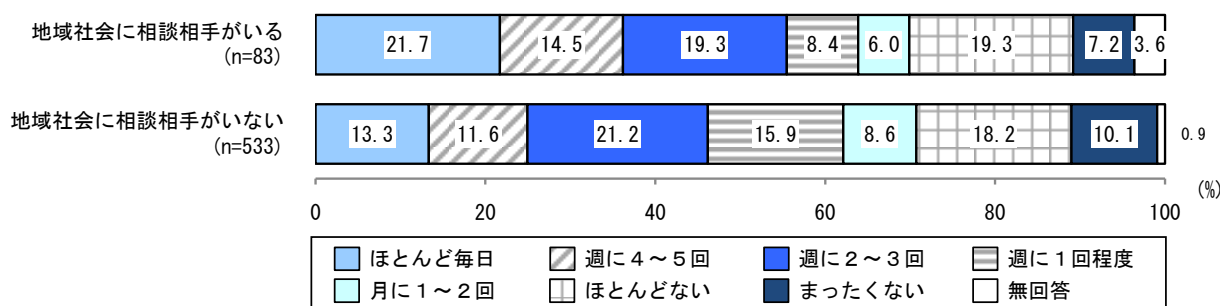
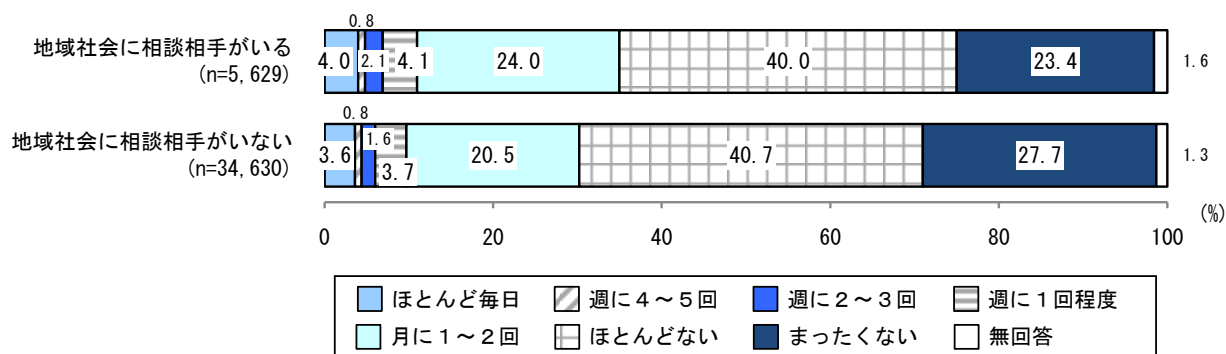


図 166. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかに「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑨)

<大阪府内全体>



<柏原市>

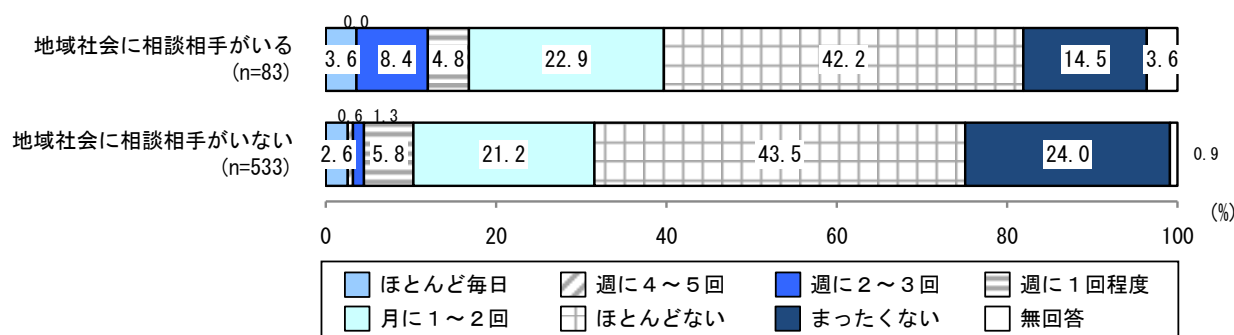
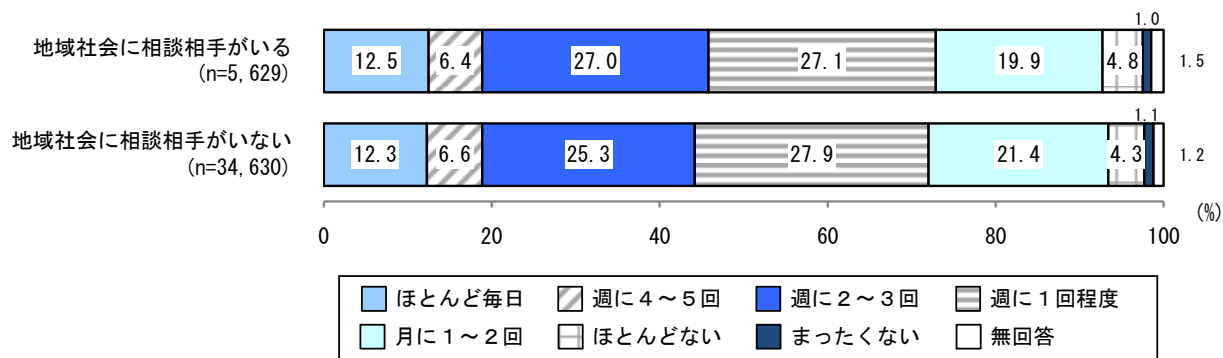


図 167. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と文化活動をするに「ほとんど毎日」、「週に2～3回」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑩)

<大阪府内全体>



<柏原市>

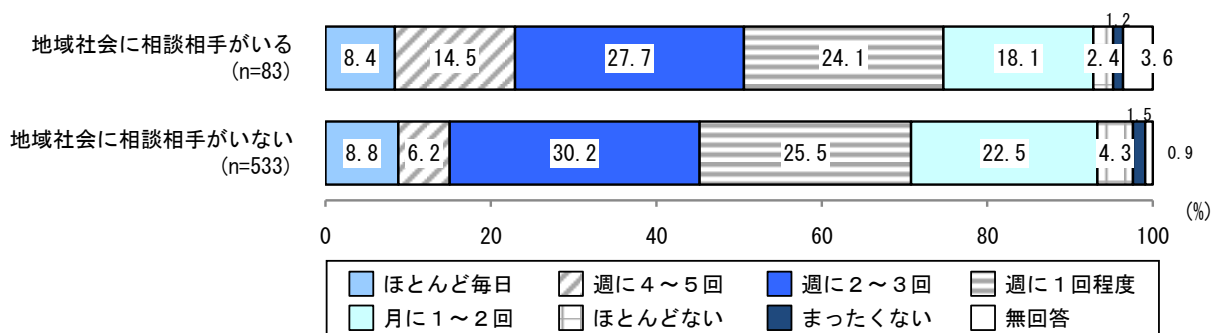
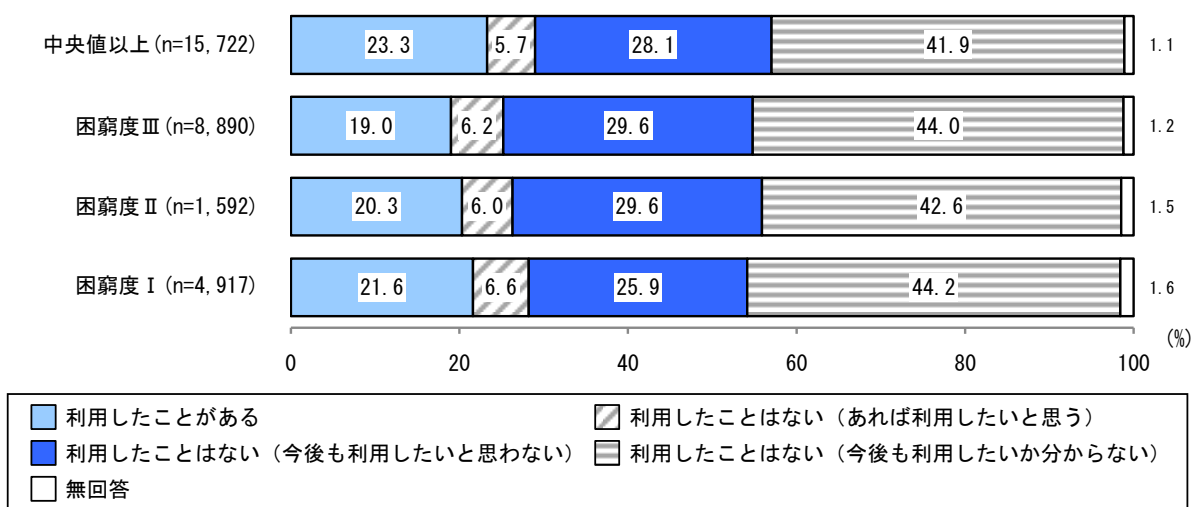


図 168. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と一緒に外出するに「週に4～5回」と回答する割合が高かった。

困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所（子ども票問 25(1)①）

<大阪府内全体>



<柏原市>

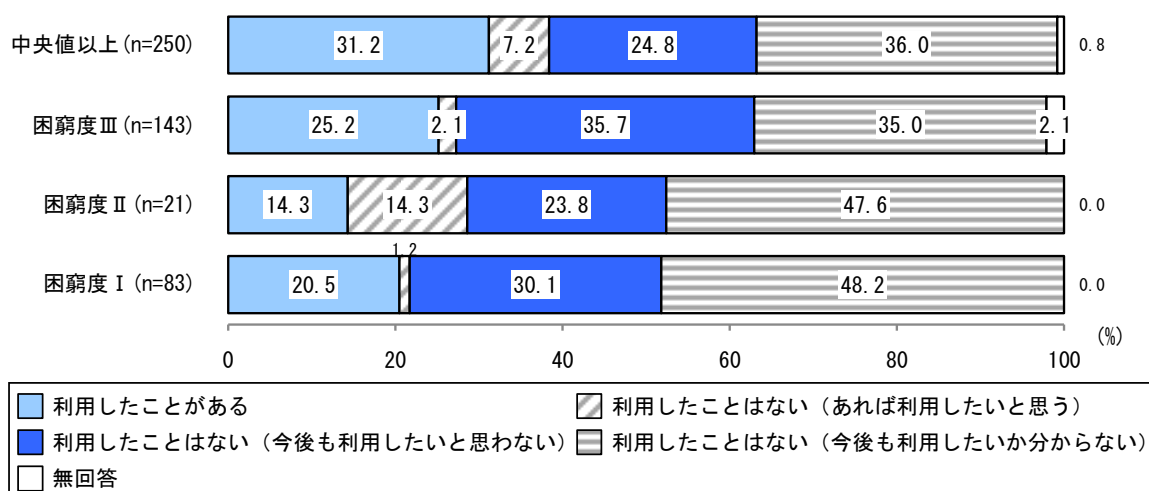
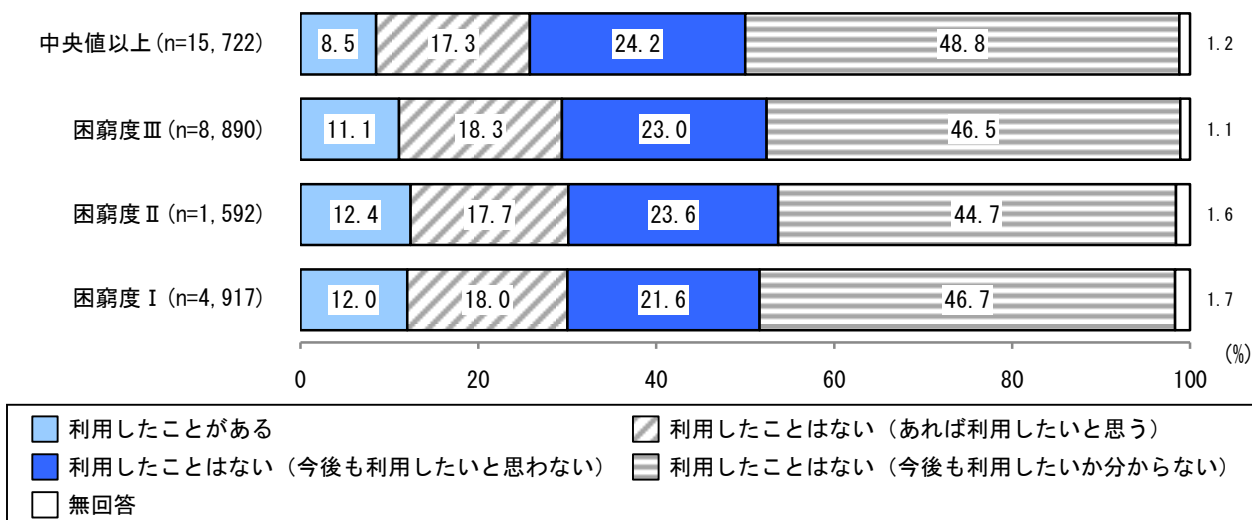


図 169. 困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

困窮度別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、困窮度が高まるにつれて、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」と回答する割合が高くなっている。一方、「利用したことがある」と回答した割合は、中央値以上群で31.2%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所
(子ども票問 25(1)②)

<大阪府内全体>



<柏原市>

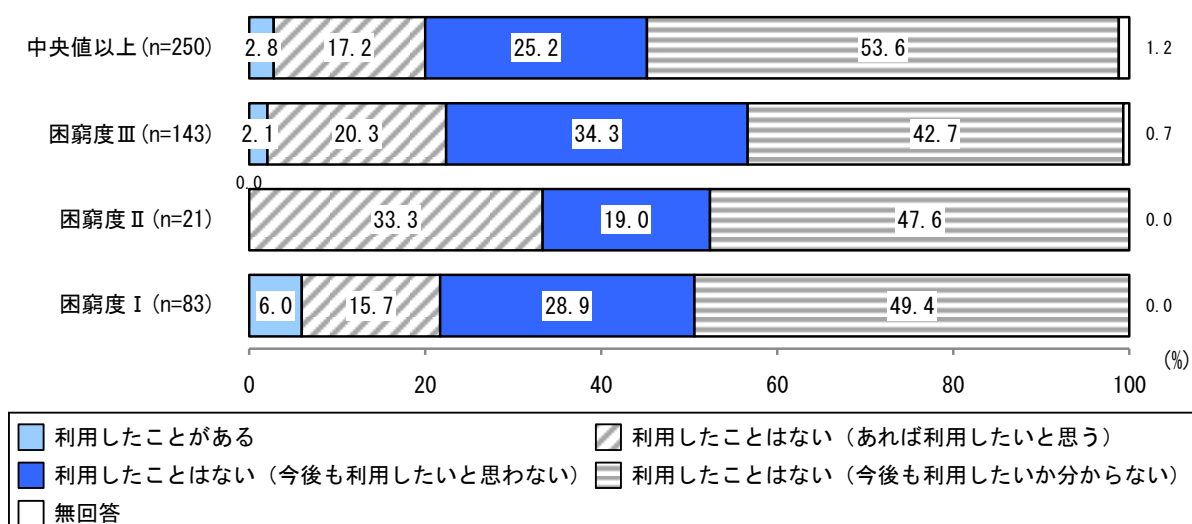
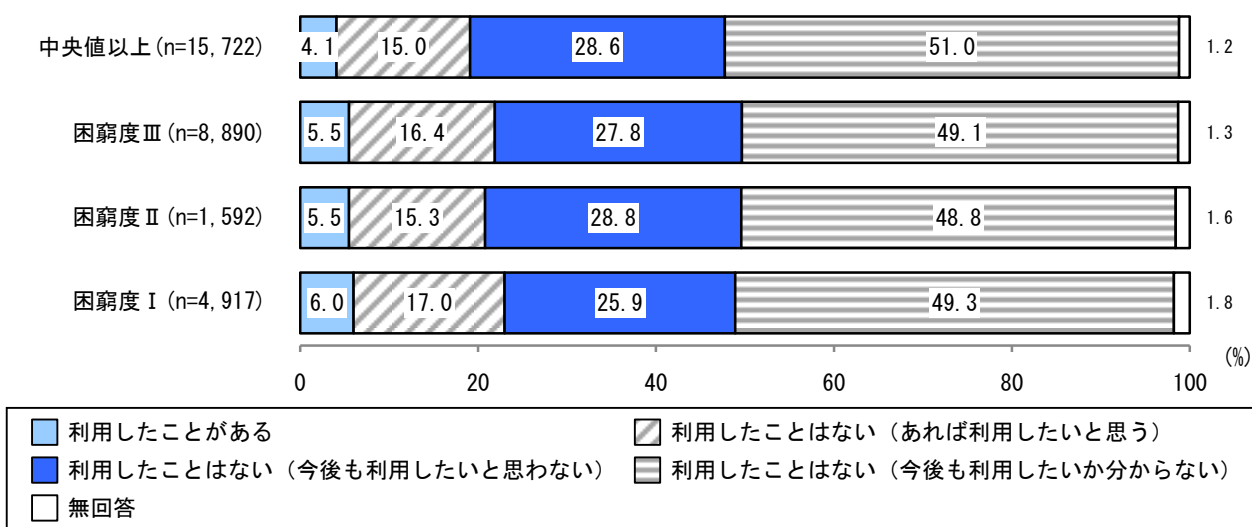


図 170. 困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

困窮度別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答する割合が困窮度Ⅰ群で6.0%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所（子ども票問 25(1)③）

<大阪府内全体>



<柏原市>

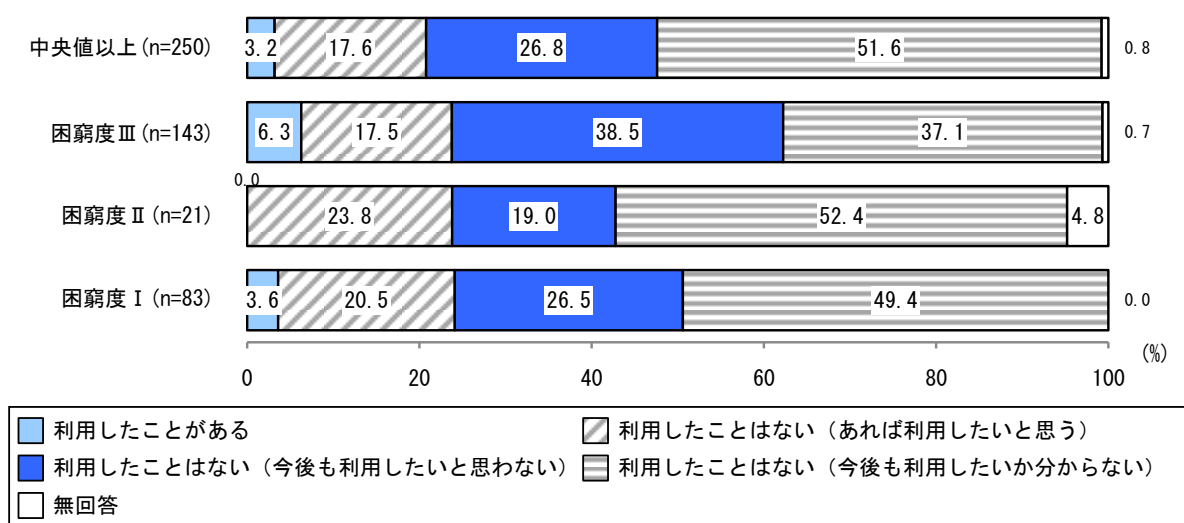
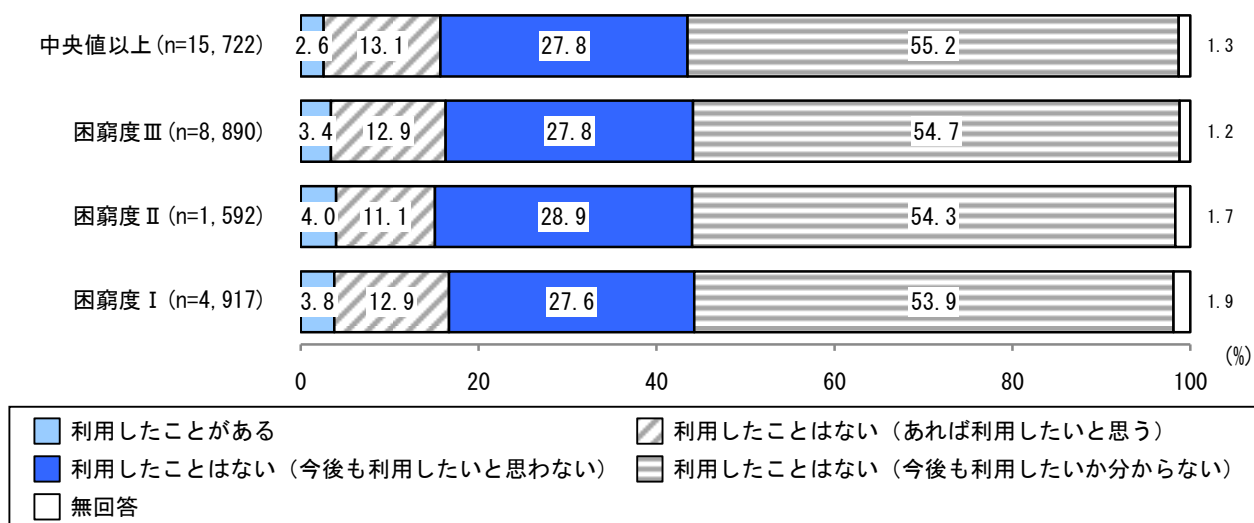


図 171. 困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

困窮度別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことがある」と回答する割合が困窮度Ⅲ群で6.3%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、何でも相談できる場所（子ども票問 25(1)④）

<大阪府内全体>



<柏原市>

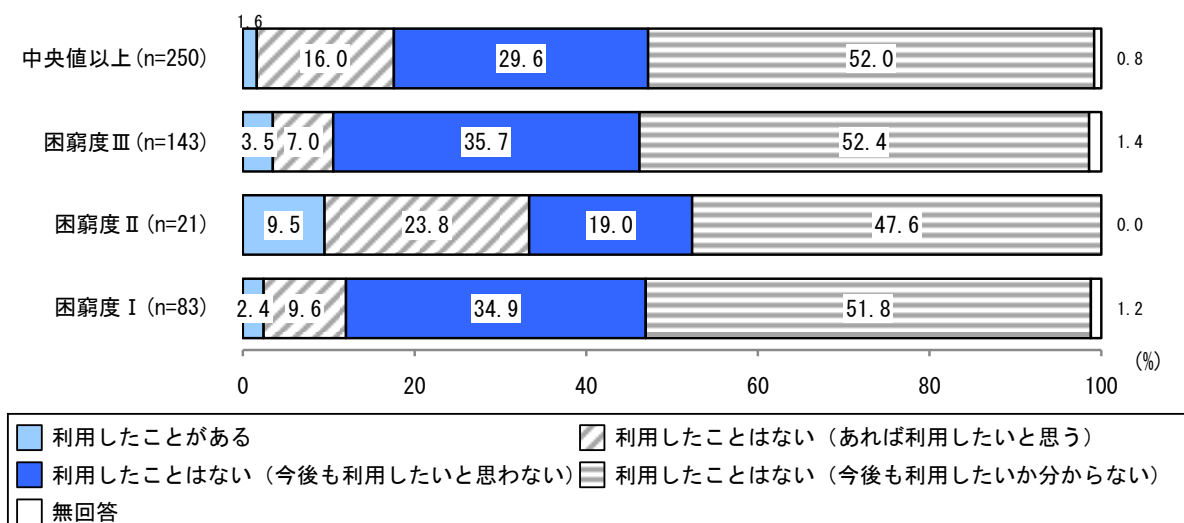
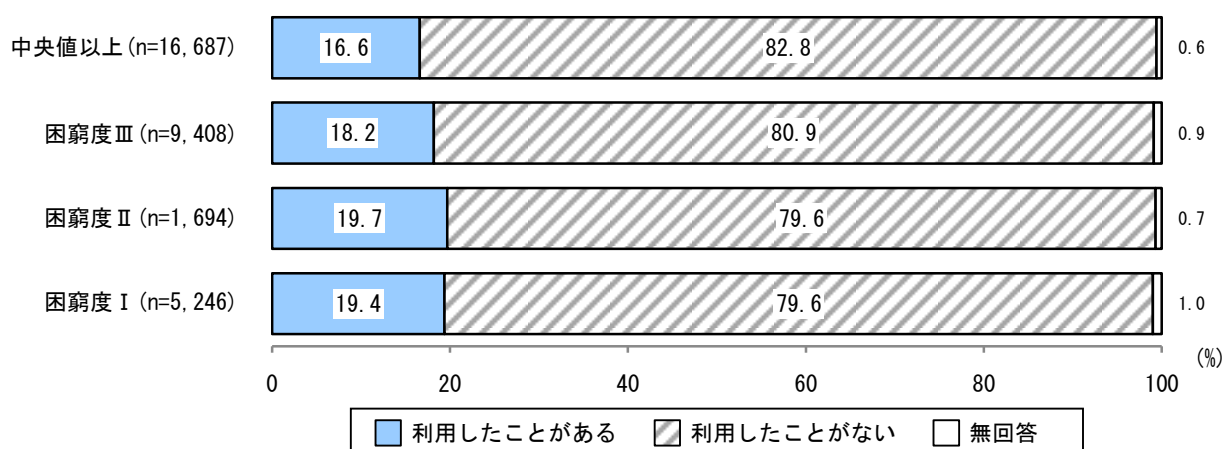


図 172. 困窮度別に見た、何でも相談できる場所

困窮度別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群で9.5%と最も高く、次いで、困窮度Ⅲ群の3.5%であった。

困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験（保護者票問 16(1)）

<大阪府内全体>



<柏原市>

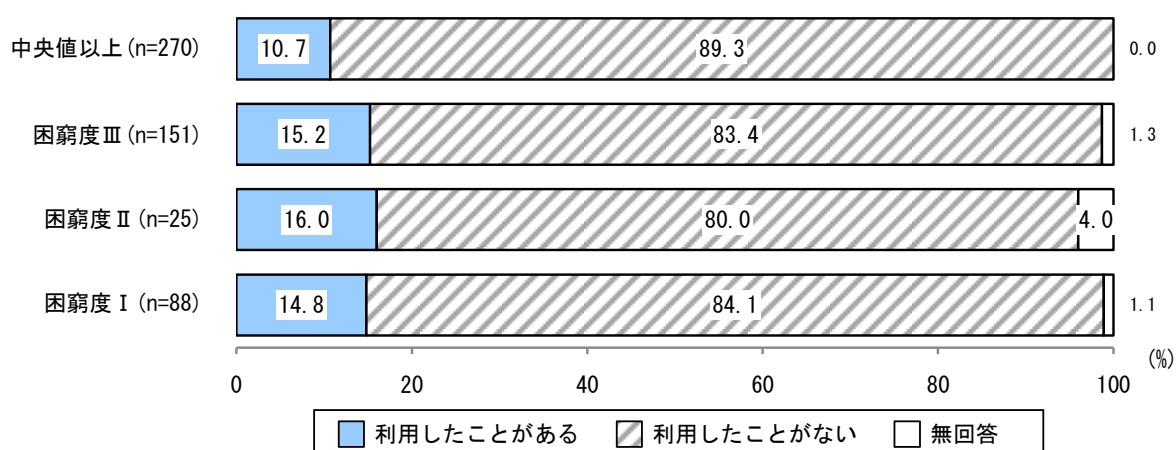
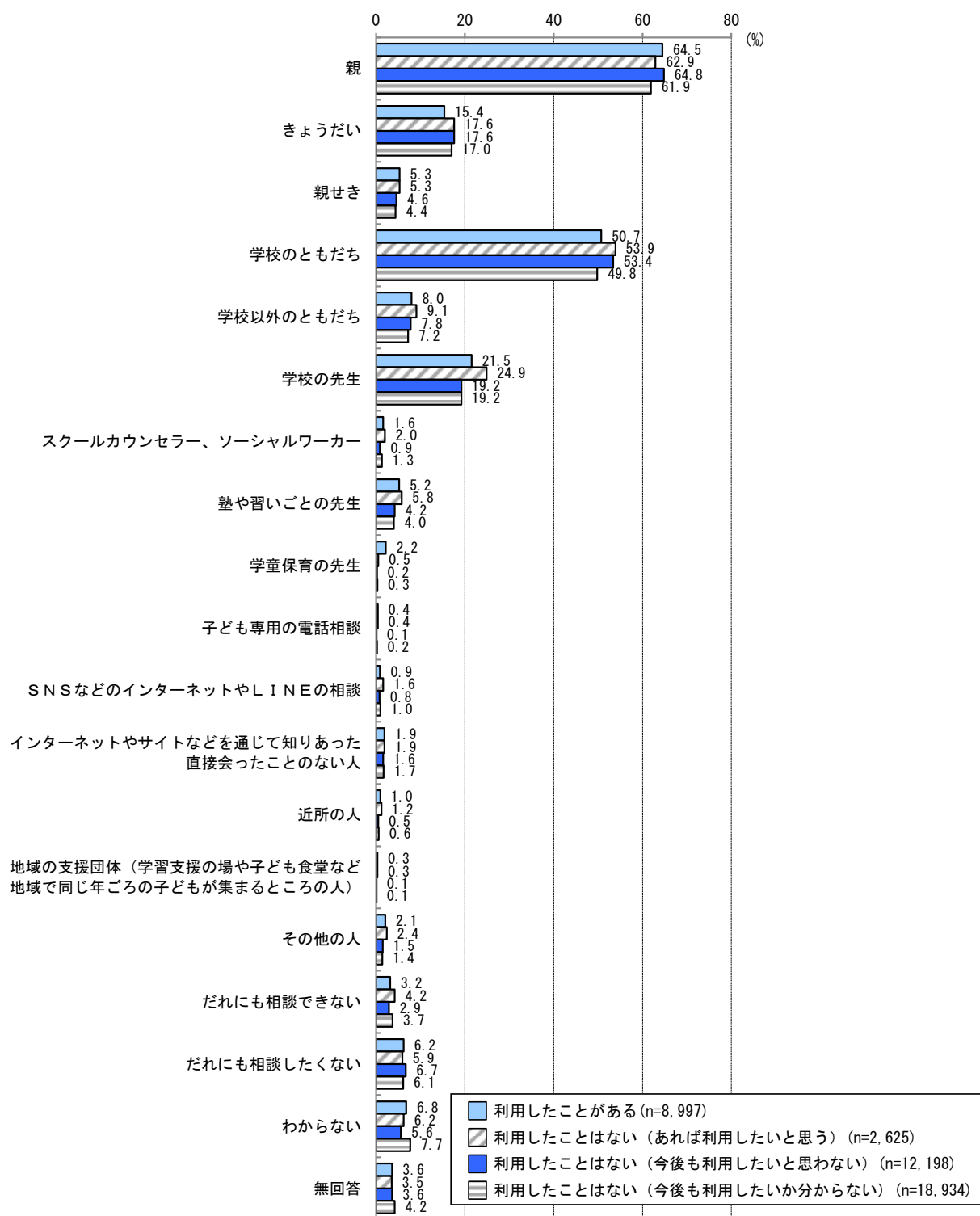


図 173. 困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験

困窮度別に子どもの居場所の利用経験を見ると、「利用したことがある」と回答する割合は中央値以上群が10.7%で最も低く、困窮度Ⅱ群が16.0%で最も高くなっている。

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)①×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

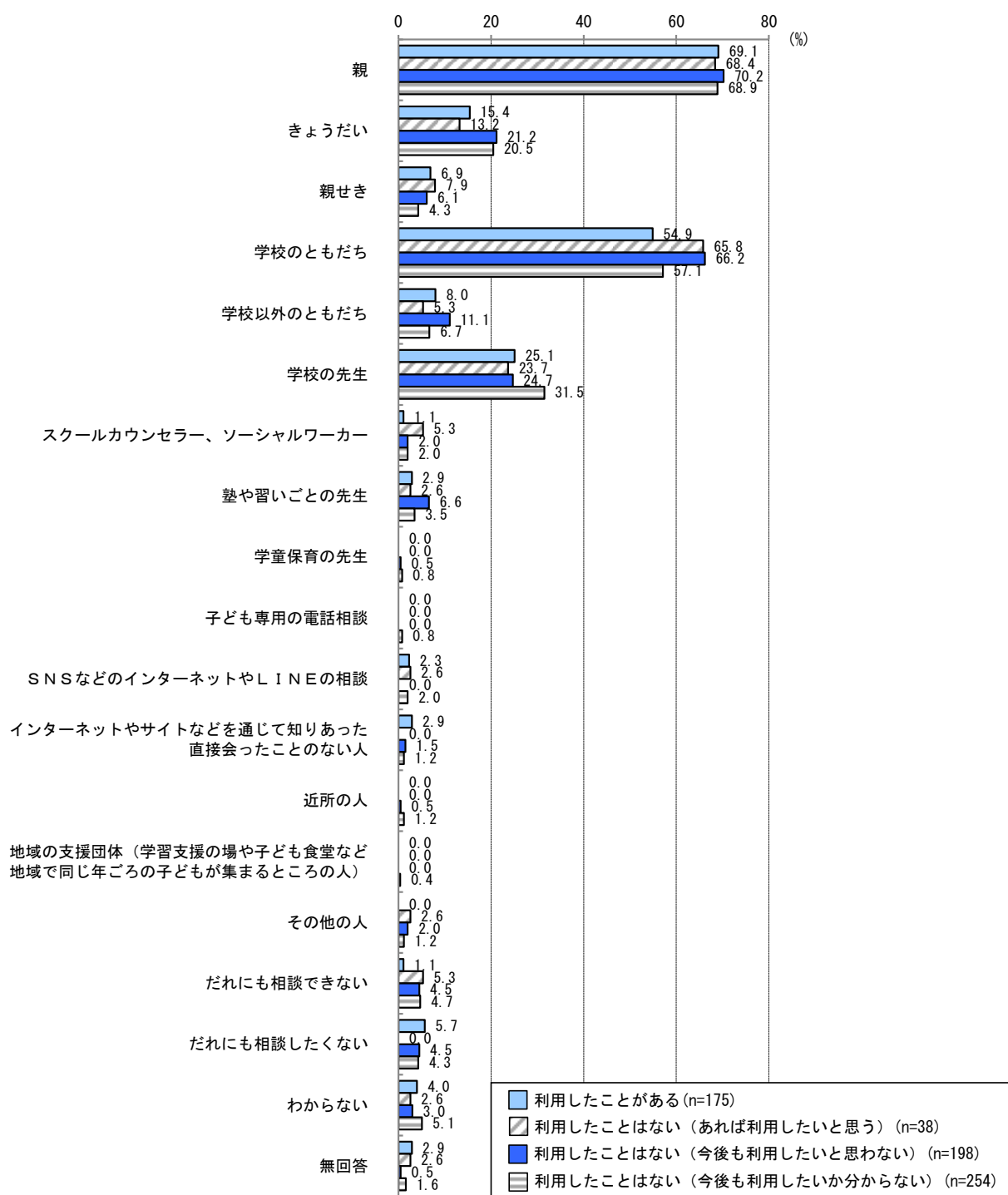
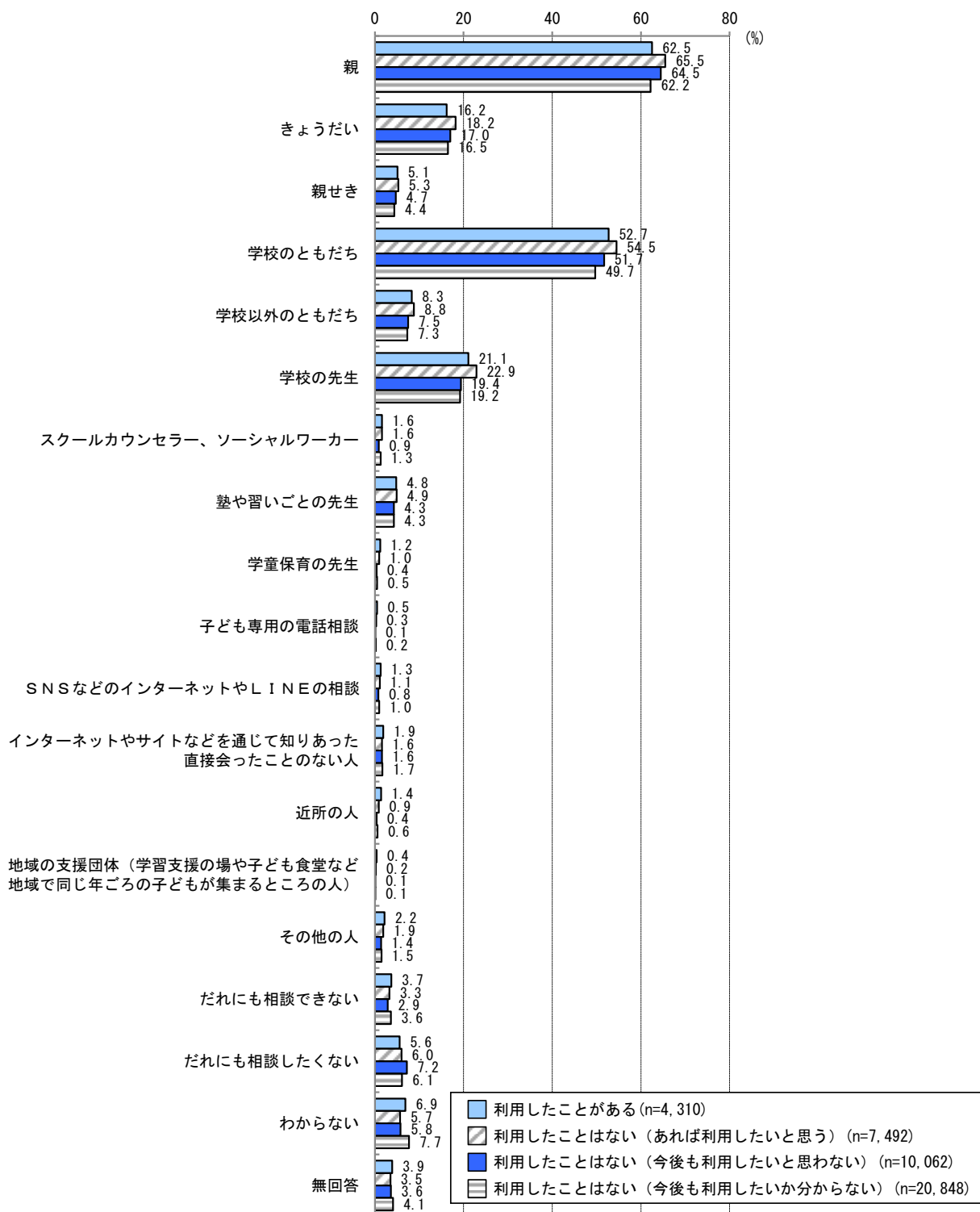


図 174. 平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が高くなっている。

昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金を食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票問 25 (1)②×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

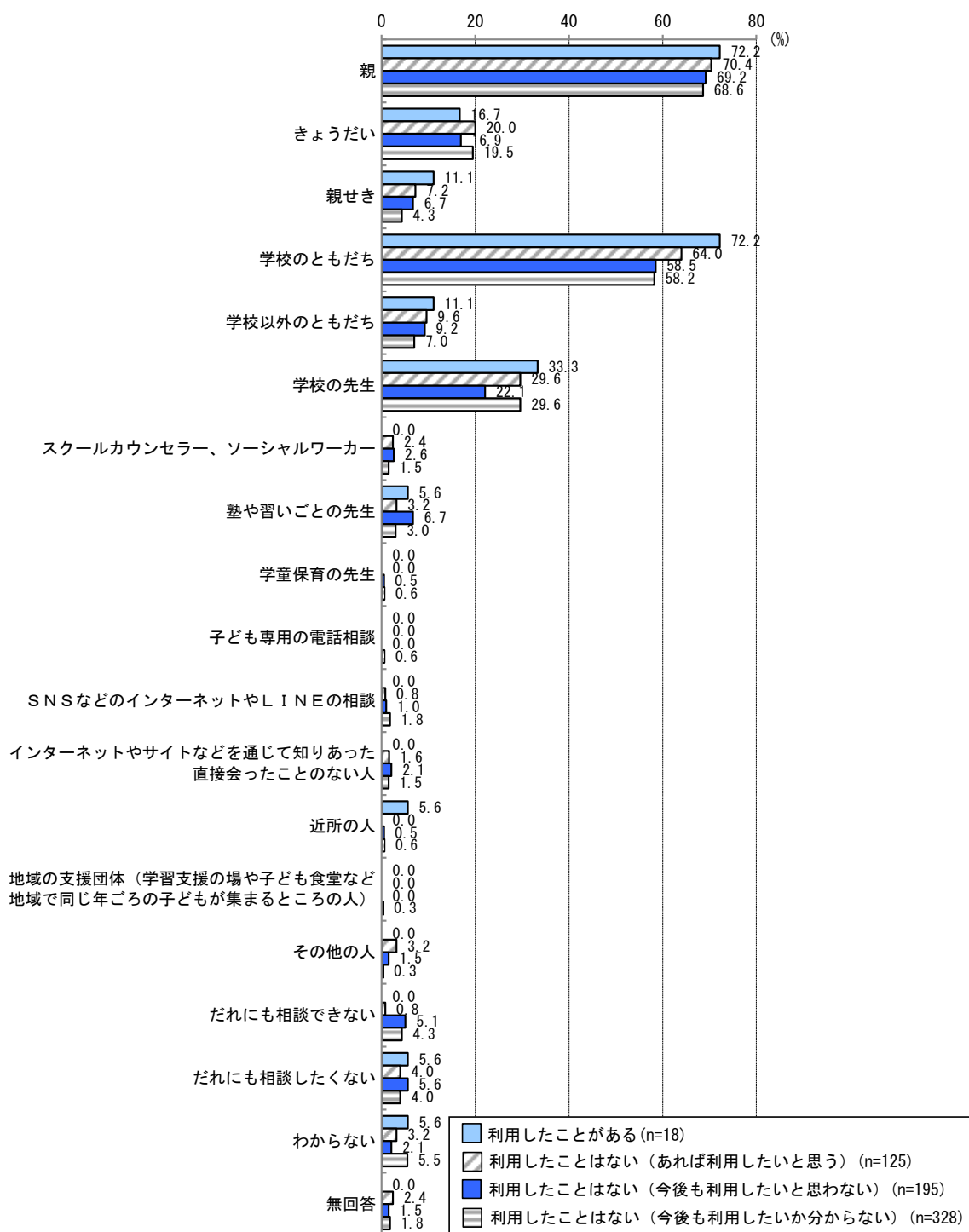
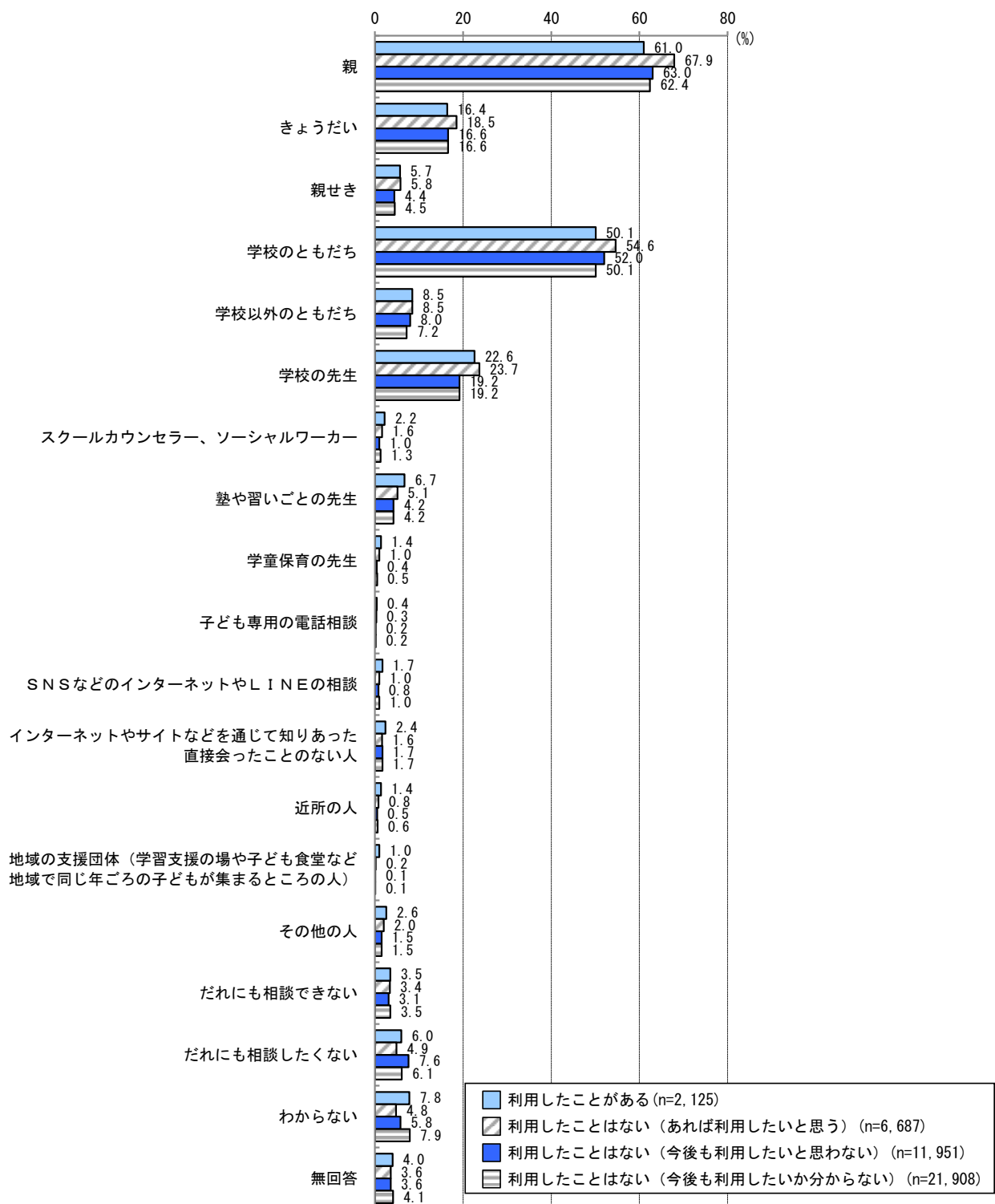


図 175. 昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が高くなっている。

勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)③×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

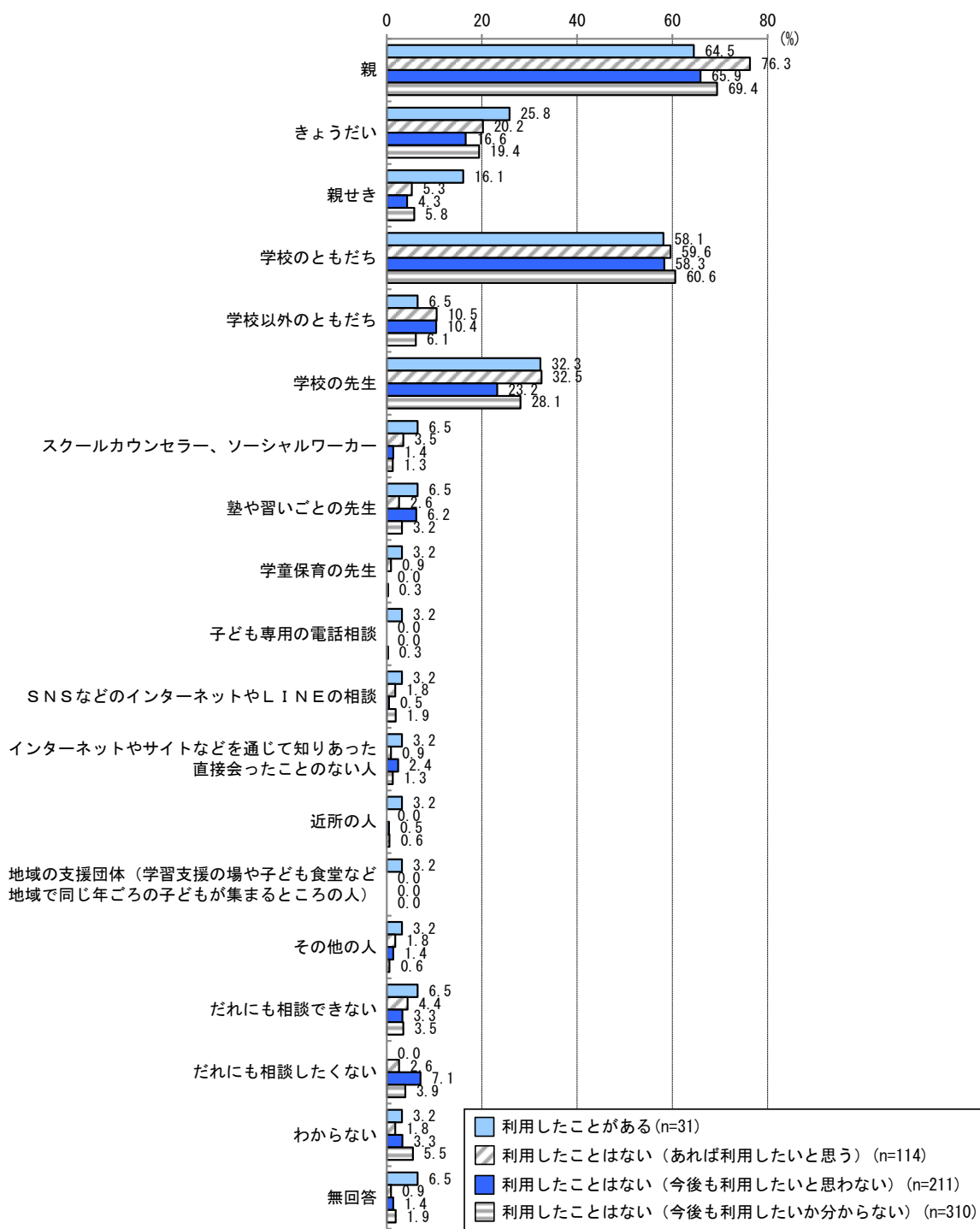
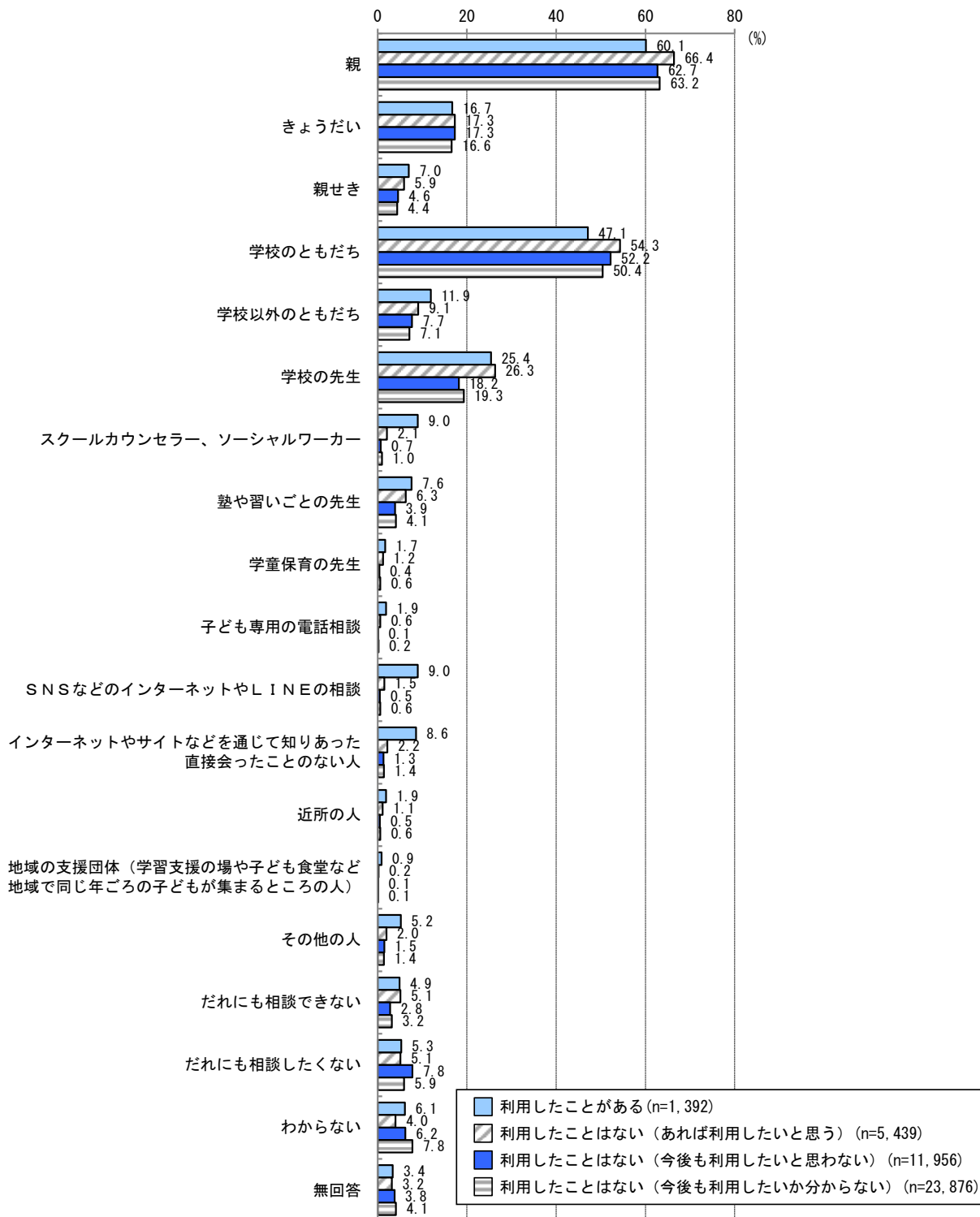


図 176. 勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」や「学校のともだち」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が低くなっている。

何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)④×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

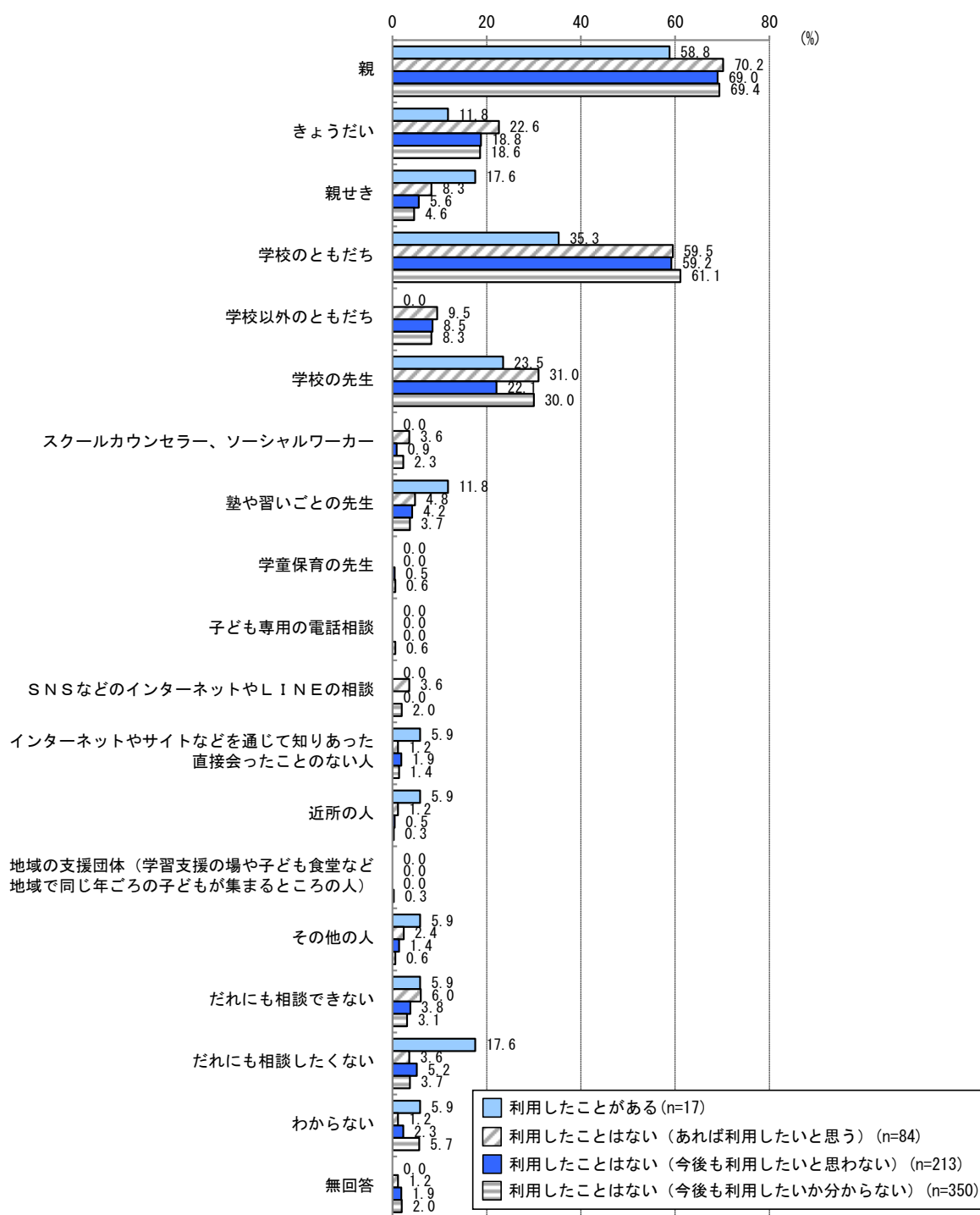
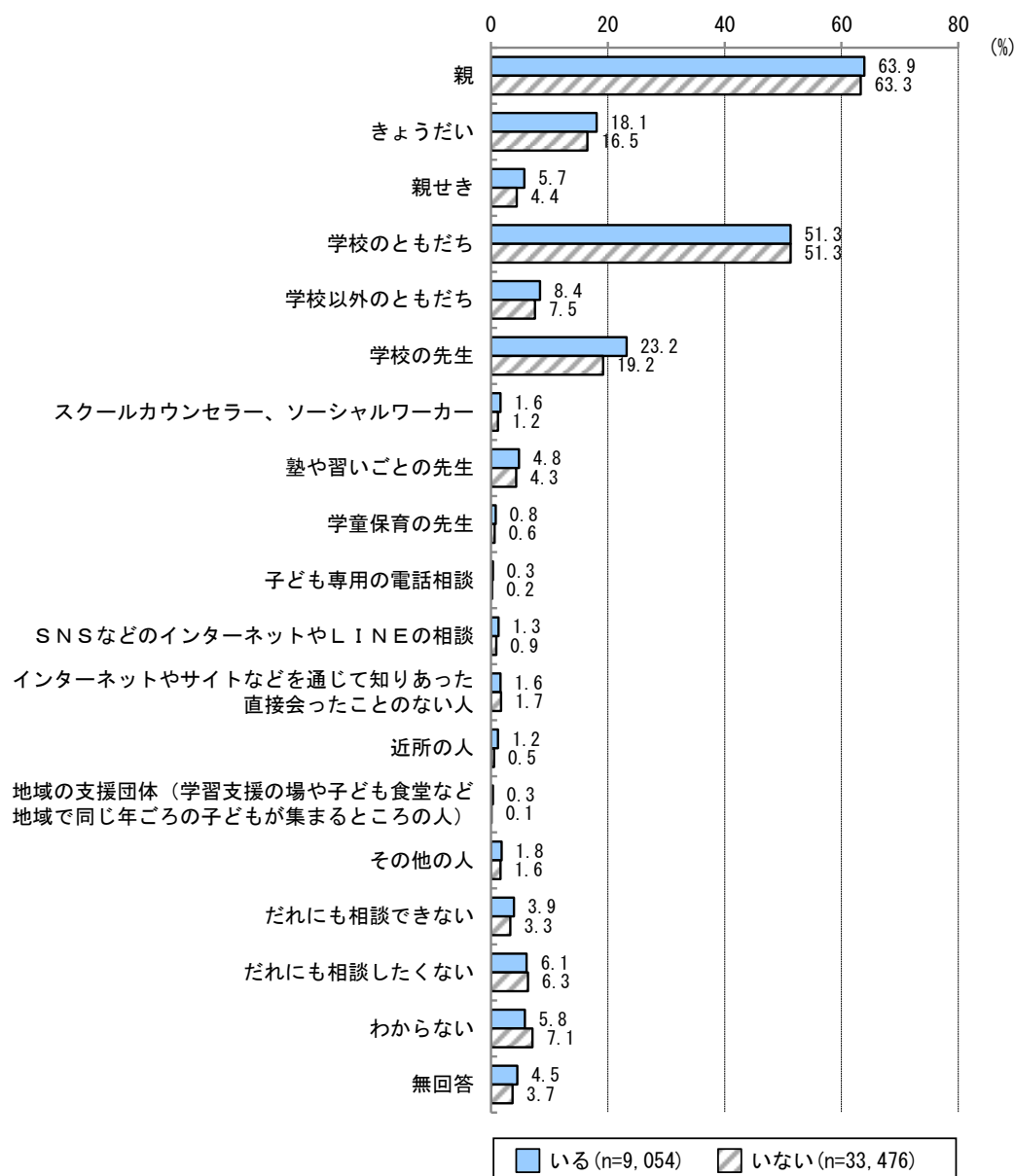


図 177. 何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

何でも相談できる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」や「きょうだい」、「学校のともだち」、「学校の先生」、「スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が低くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 18)

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

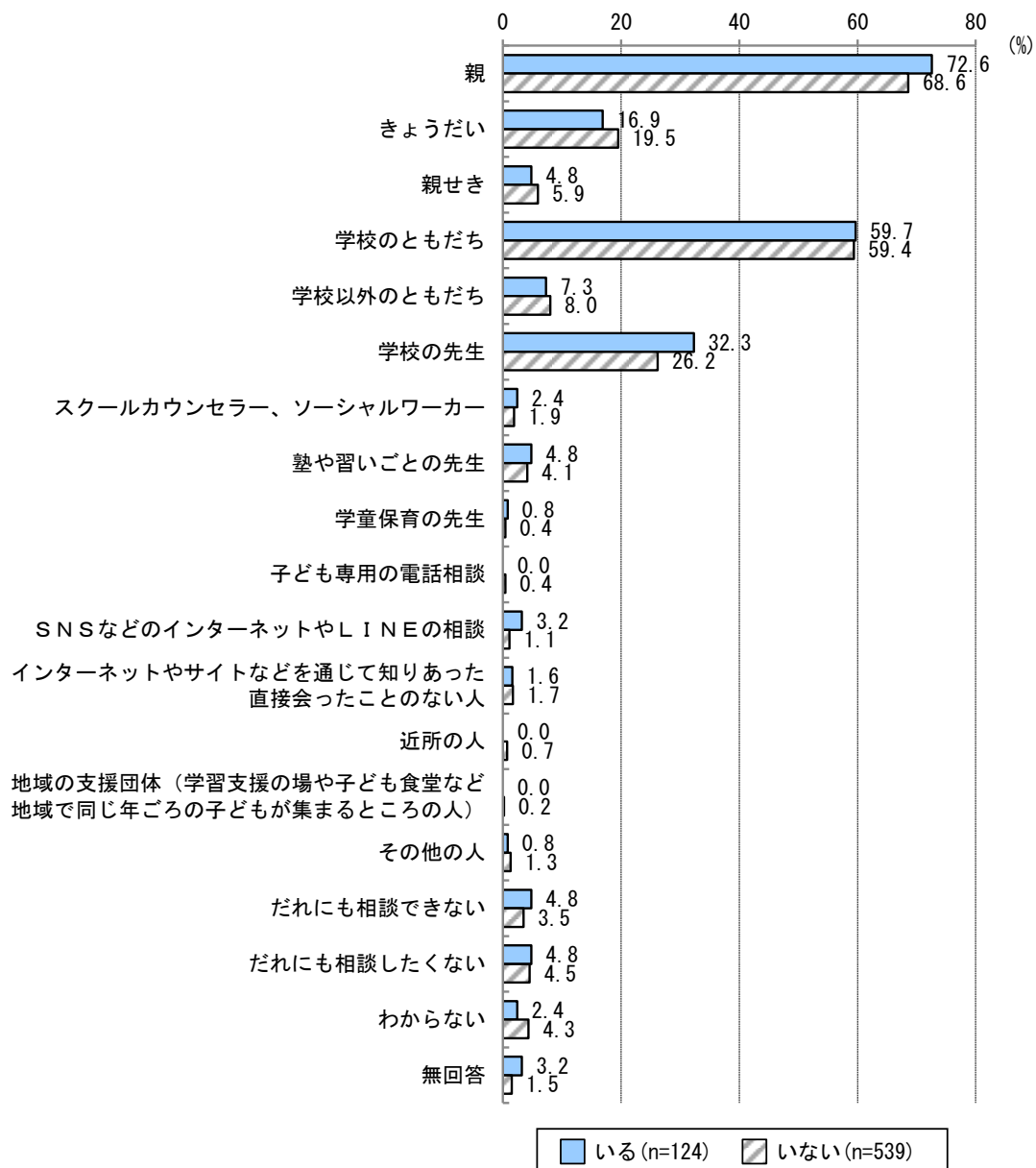
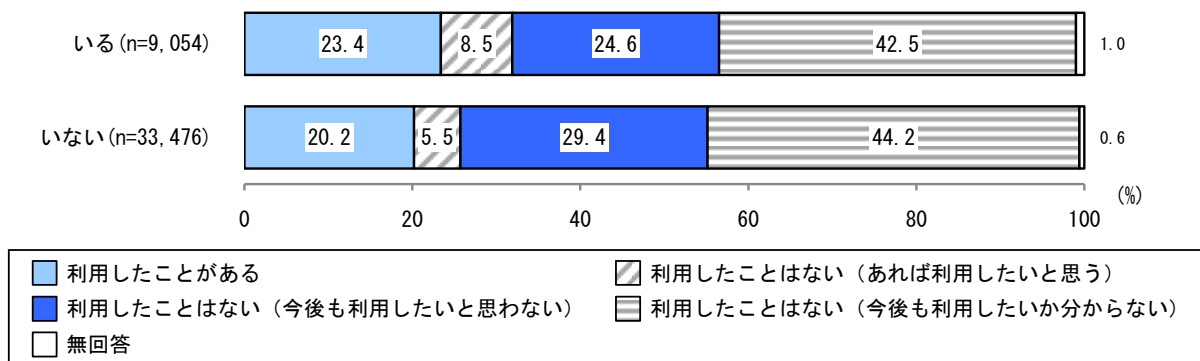


図 178. 自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

自分が世話をしている人の有無別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手をみると、相談相手が「親」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高く、世話をしている人では72.6%となっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<柏原市>

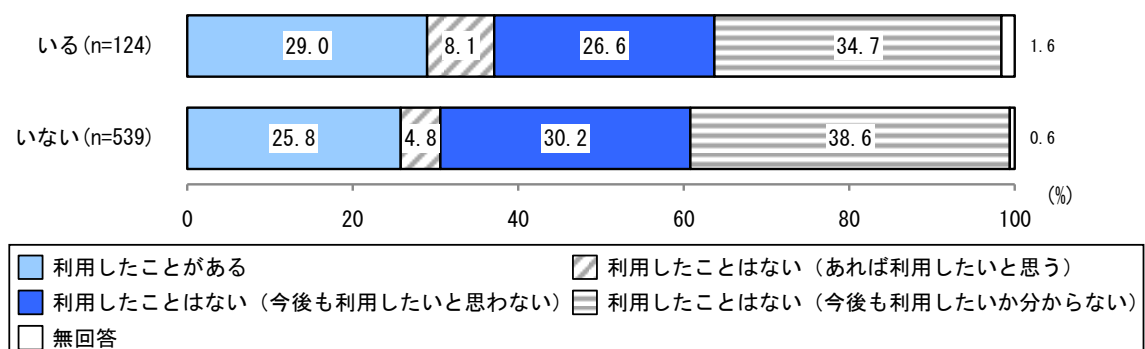
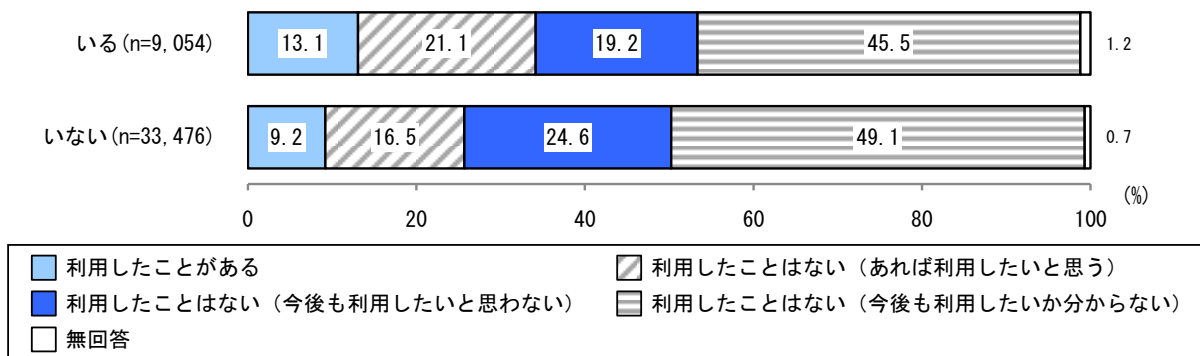


図 179. 自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

自分が世話をしている人の有無別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、平日の夜や休日を過ごすことができる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<柏原市>

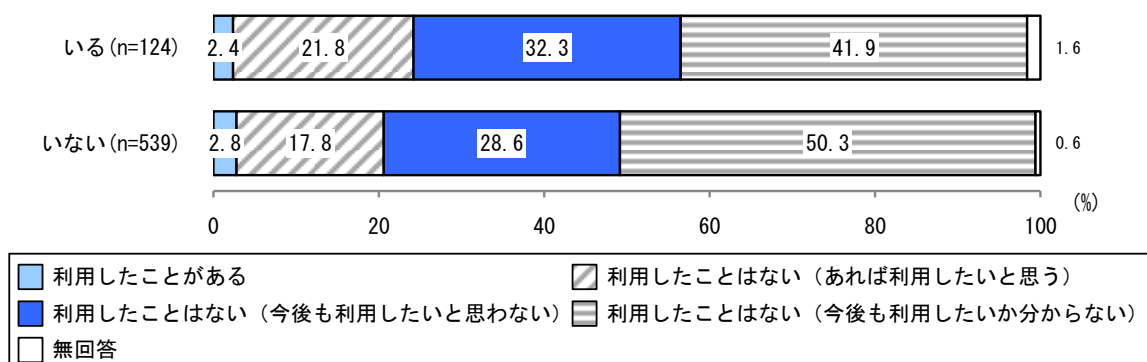
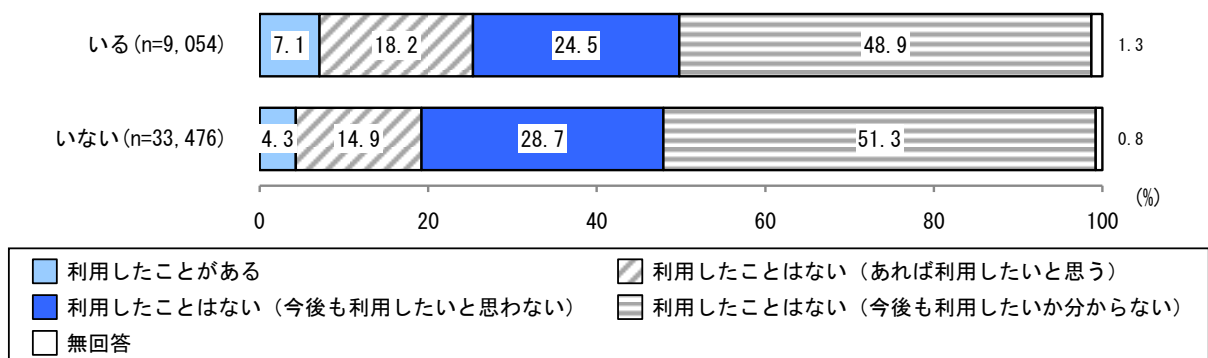


図 180. 自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

自分が世話をしている人の有無別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<柏原市>

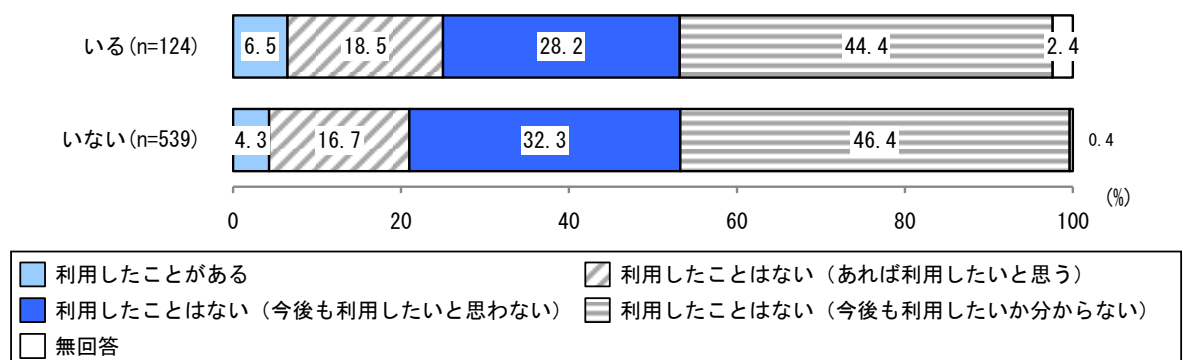
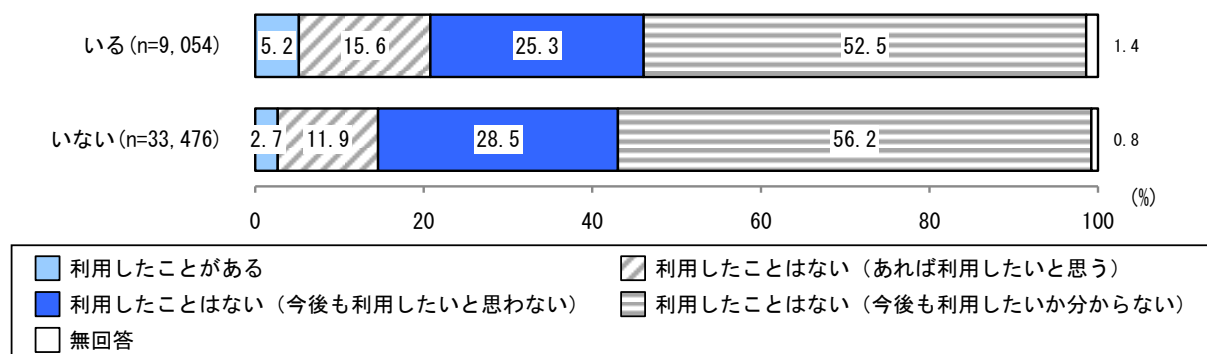


図 181. 自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてる場所

自分が世話をしている人の有無別に勉強を無料か安い料金でみてる場所を見ると、勉強を無料か安い料金でみてる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<柏原市>

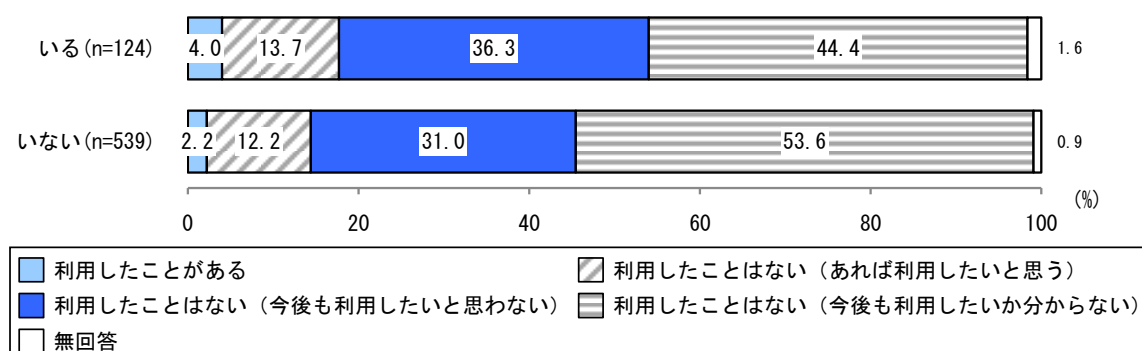
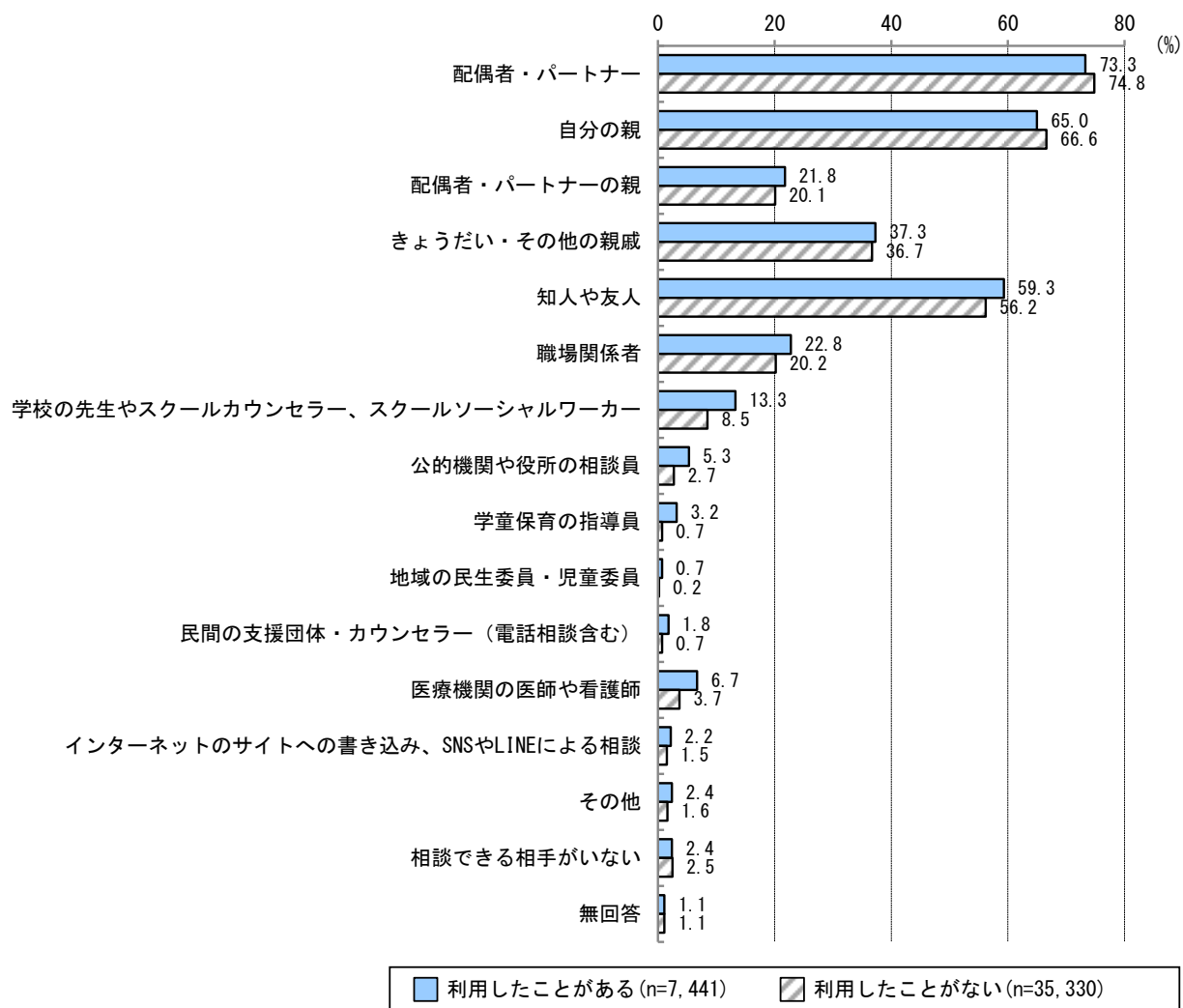


図 182. 自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所

自分が世話をしている人の有無別に何でも相談できる場所を見ると、何でも相談できる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 19)

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

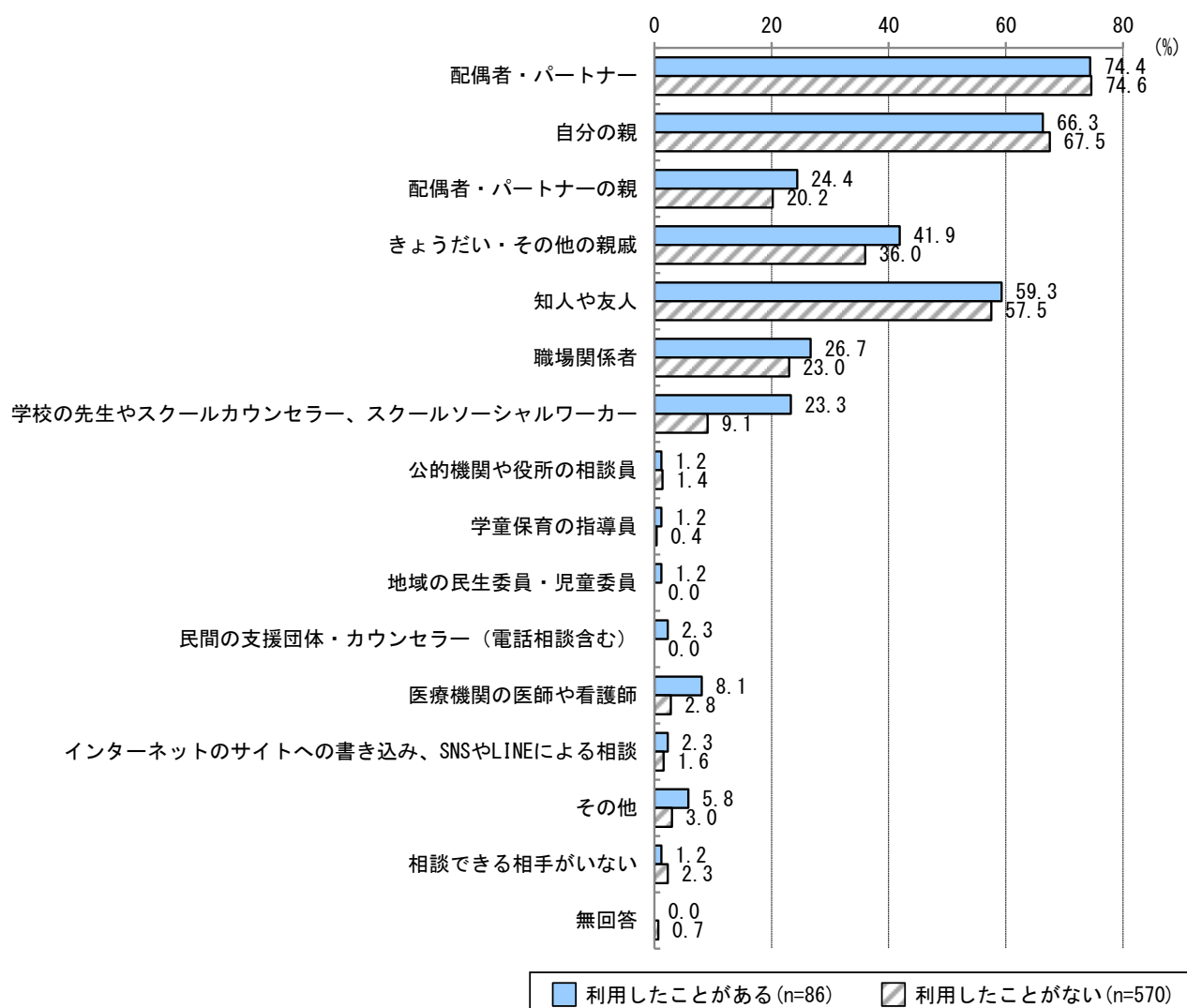
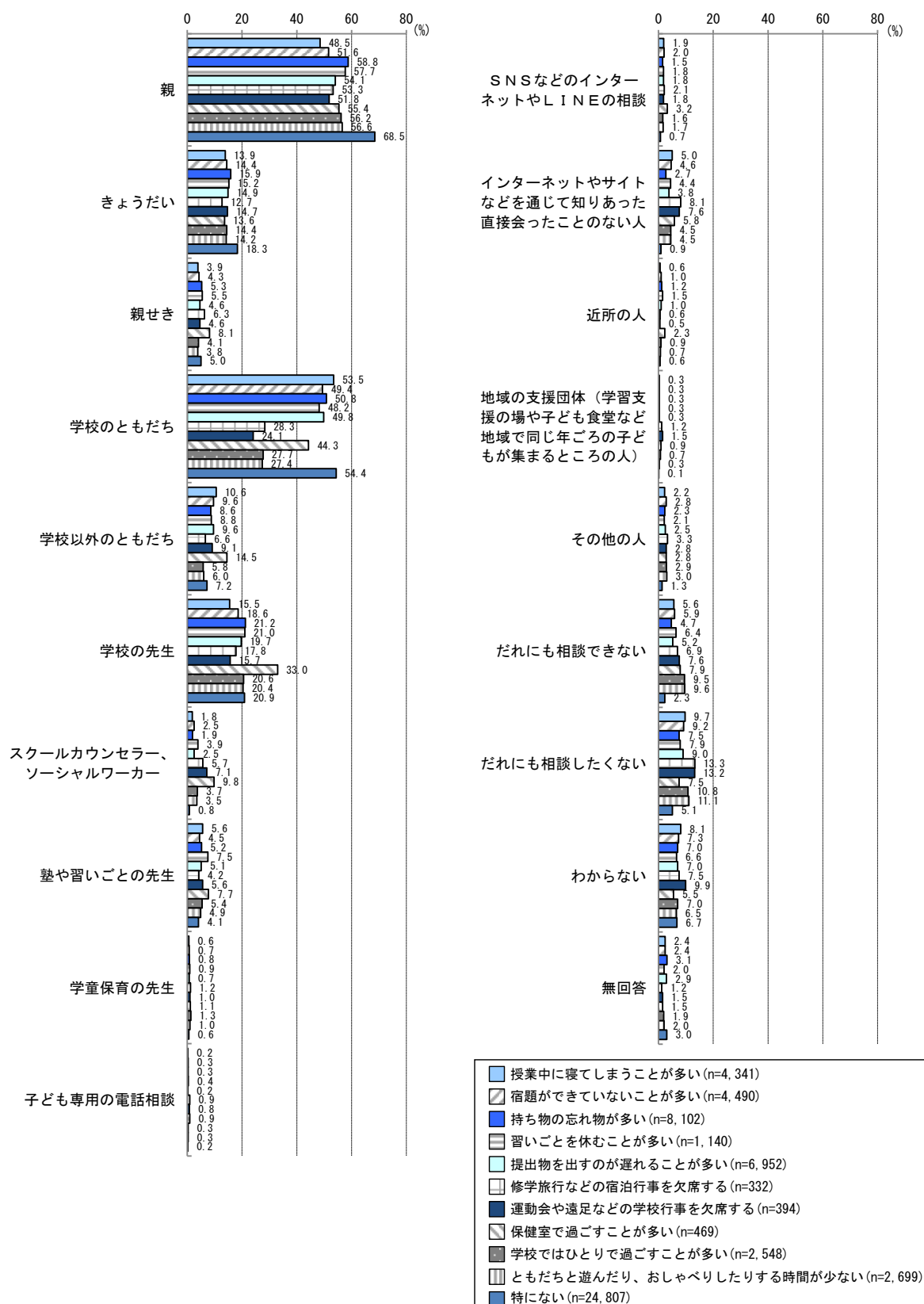


図 183. 子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

子どもの居場所の利用経験別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「自分の親」と回答した人の割合は、子どもの居場所を利用したことがある人より利用したことがない人のほうが割合が高くなっている。一方、「職場関係者」や「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」、「医療機関の医師や看護師」と回答した人の割合は子どもの居場所を利用したことがない人より利用したことがある人のほうが割合が高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 16×子ども票問 18)

＜大阪府内全体＞



＜柏原市＞

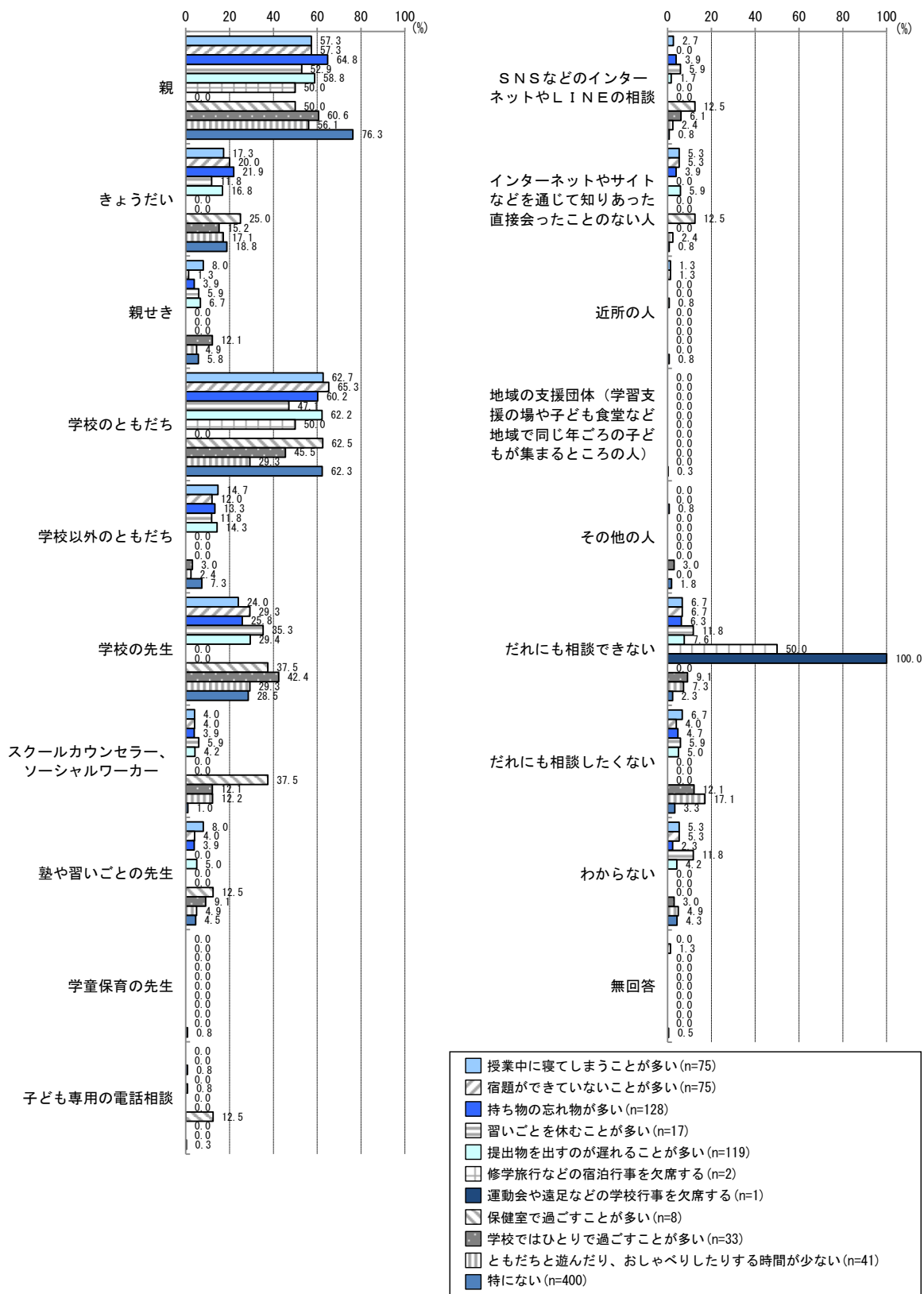
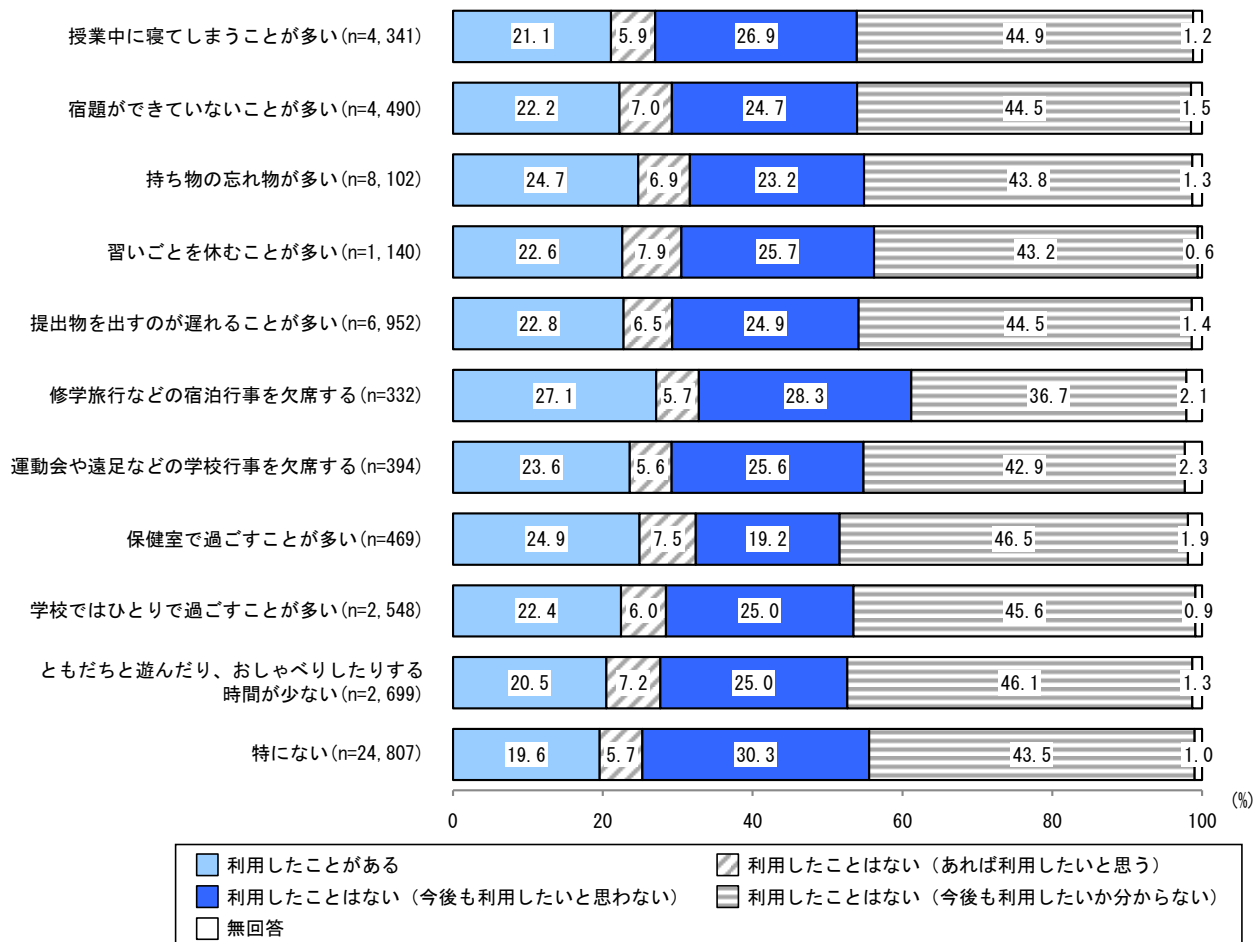


図 184. 学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

学校や学校の行事等の状況別に見た嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、「親」と回答した人の割合は、「持ち物の忘れ物が多い」と回答した人の割合が64.8%と最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

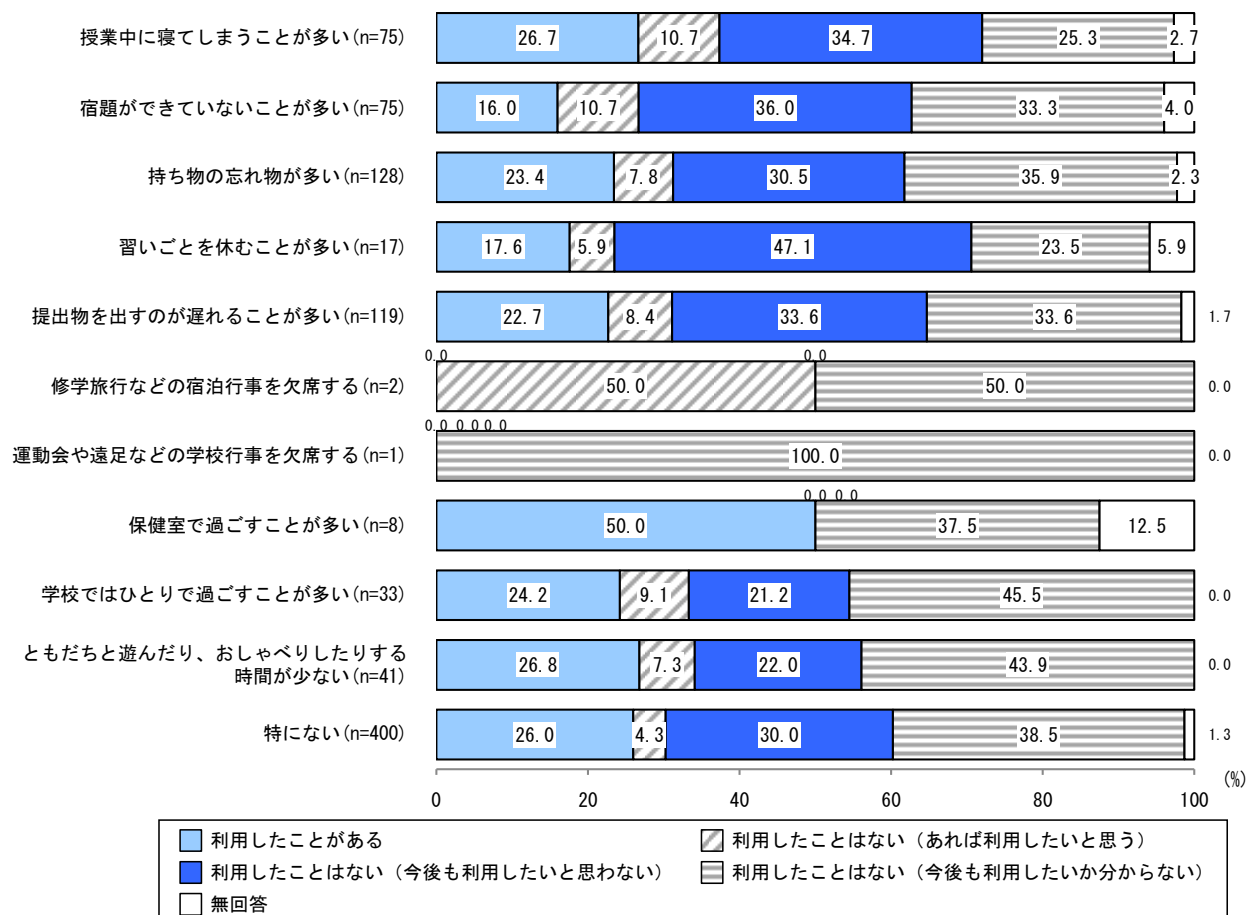
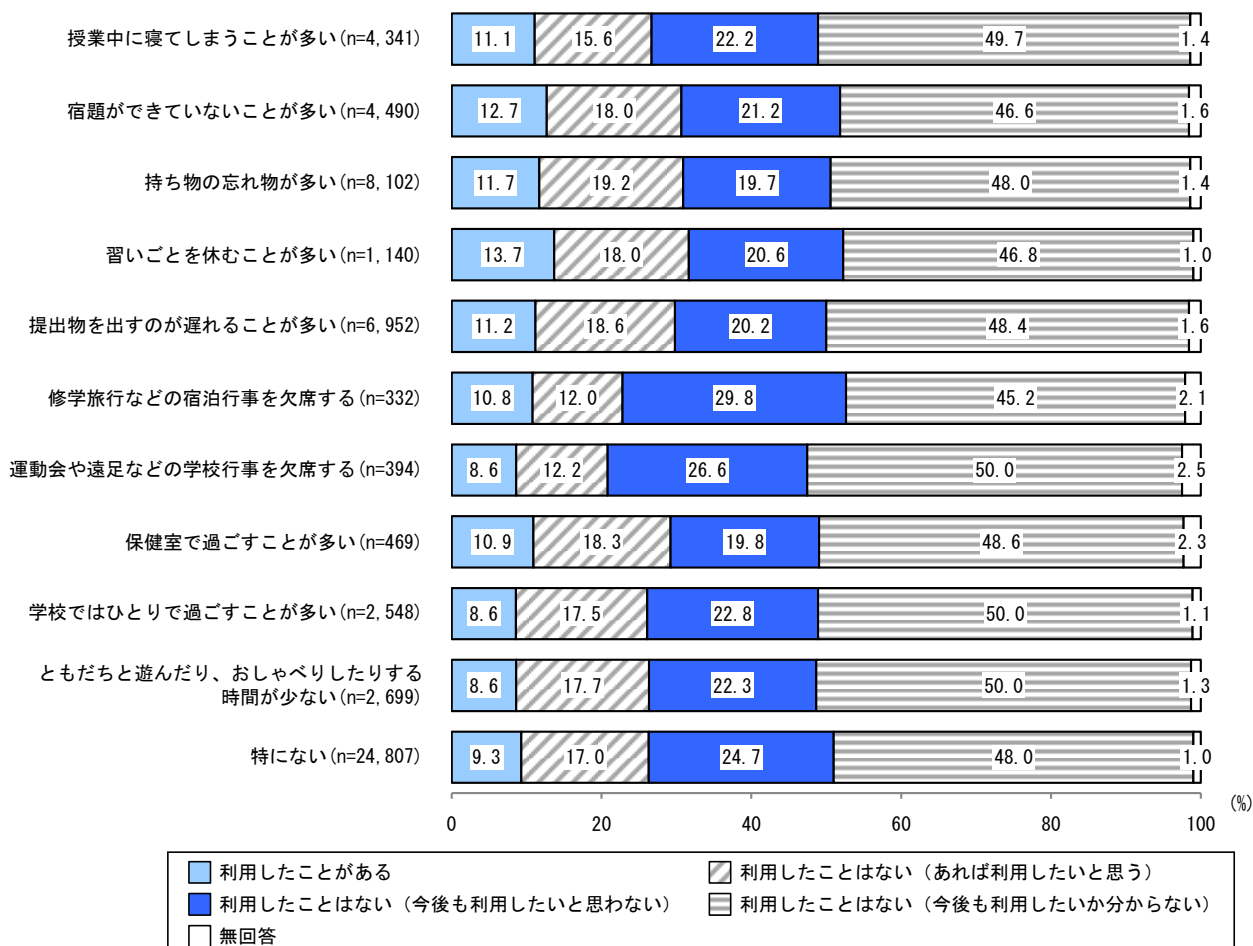


図 185. 学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

学校や学校の行事等の状況別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は、「保健室で過ごすことが多い」が50.0%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども票問 16×子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

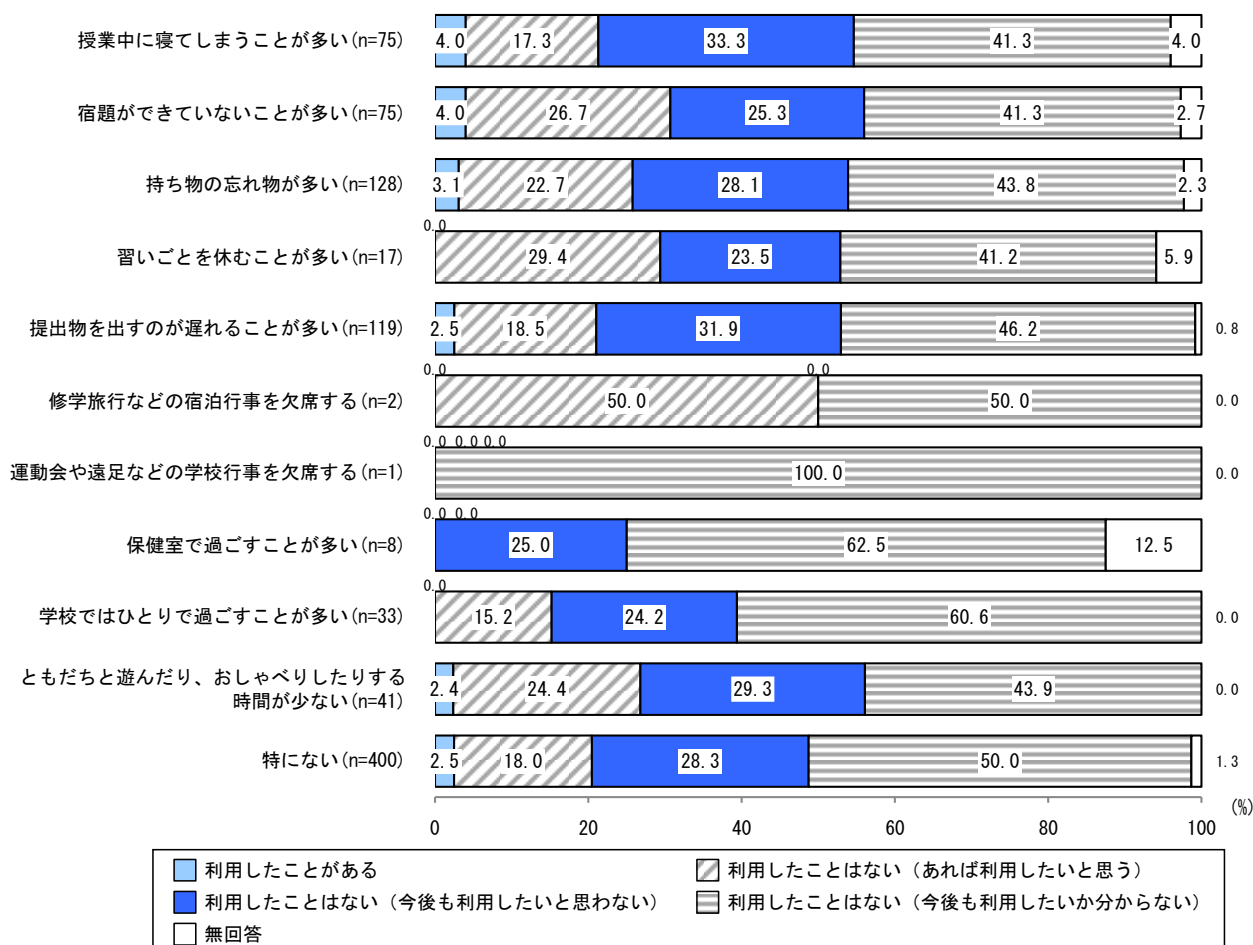
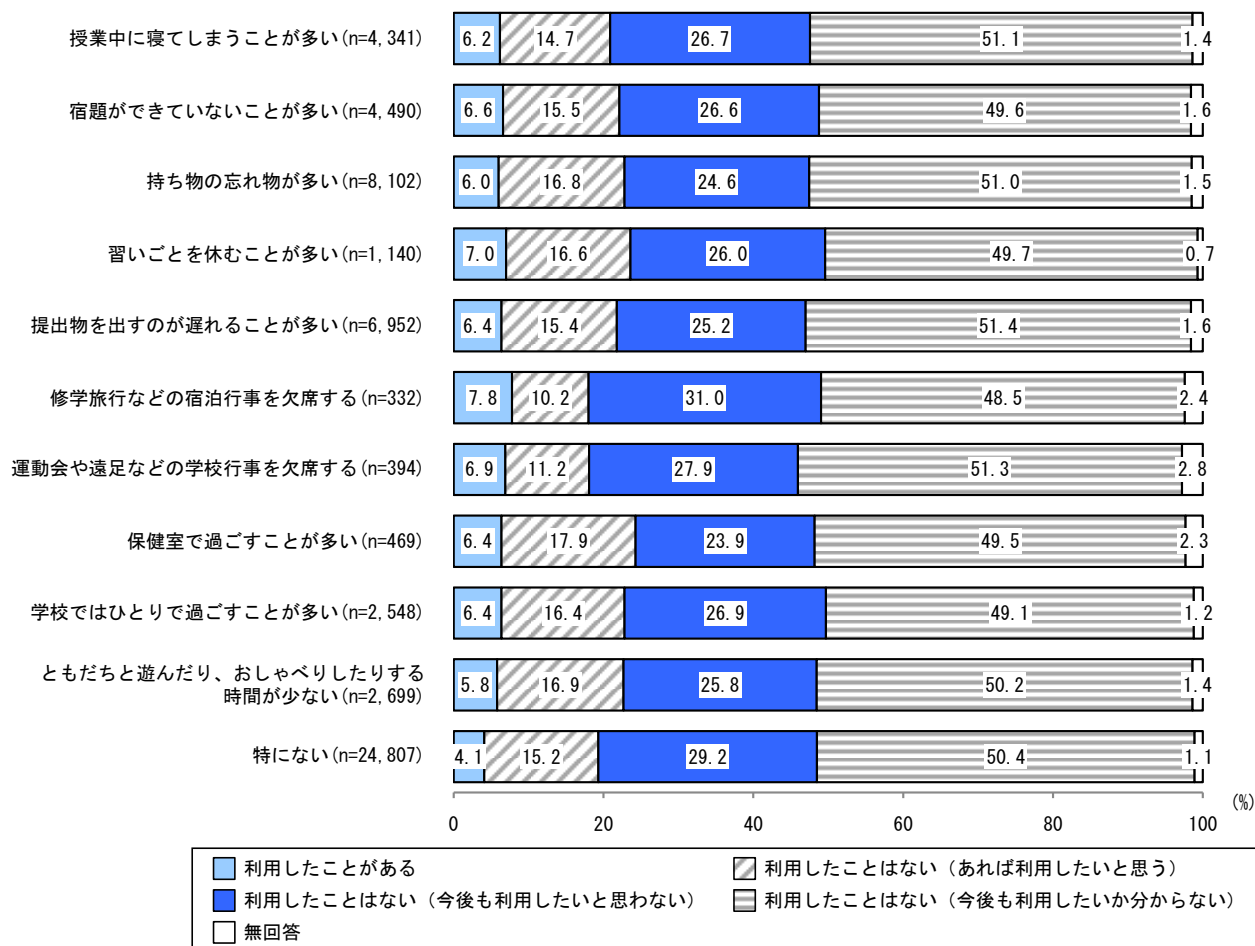


図 186. 学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

学校や学校の行事等の状況別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「授業中に寝てしまうことが多い」「宿題ができていないことが多い」が4.0%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

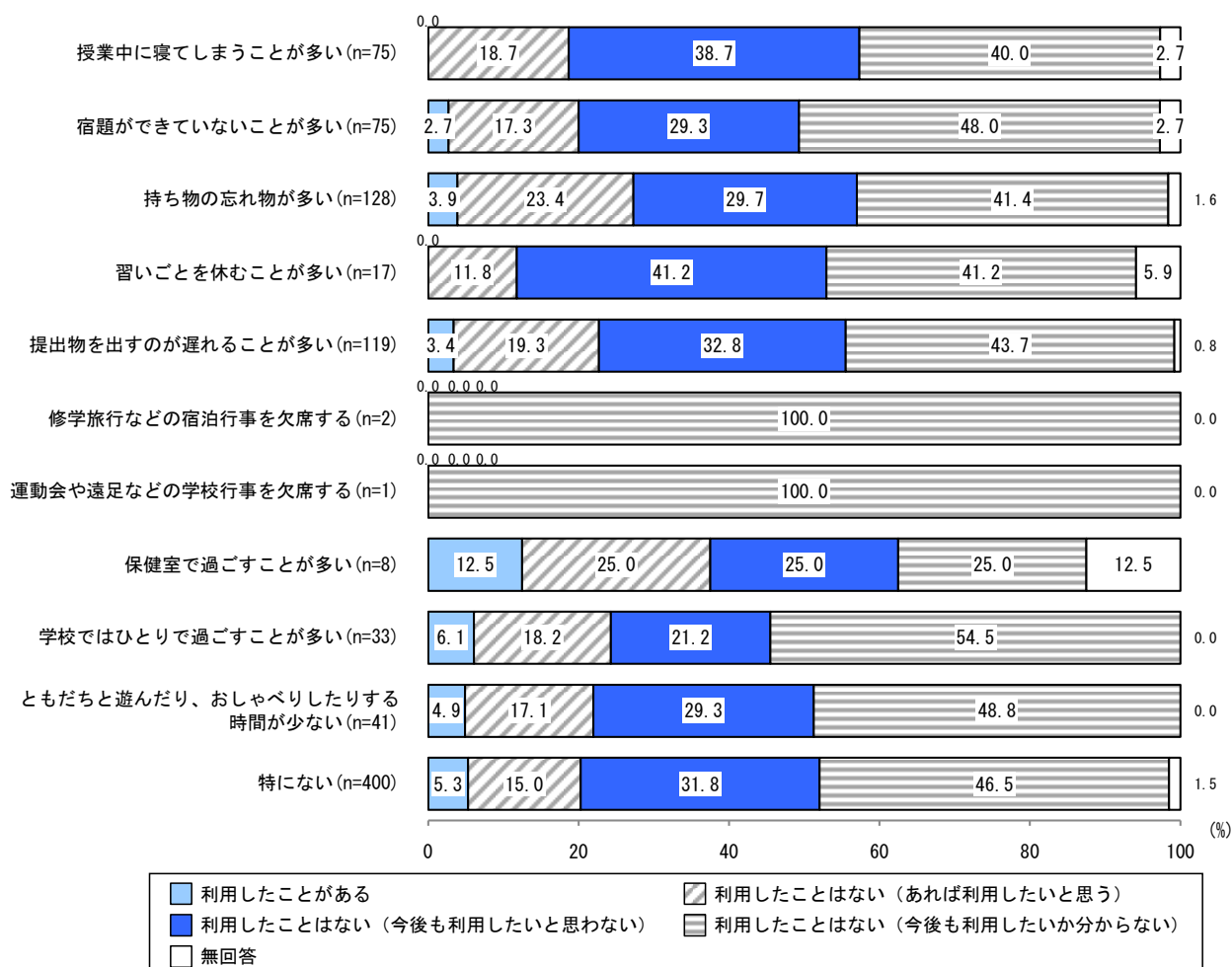
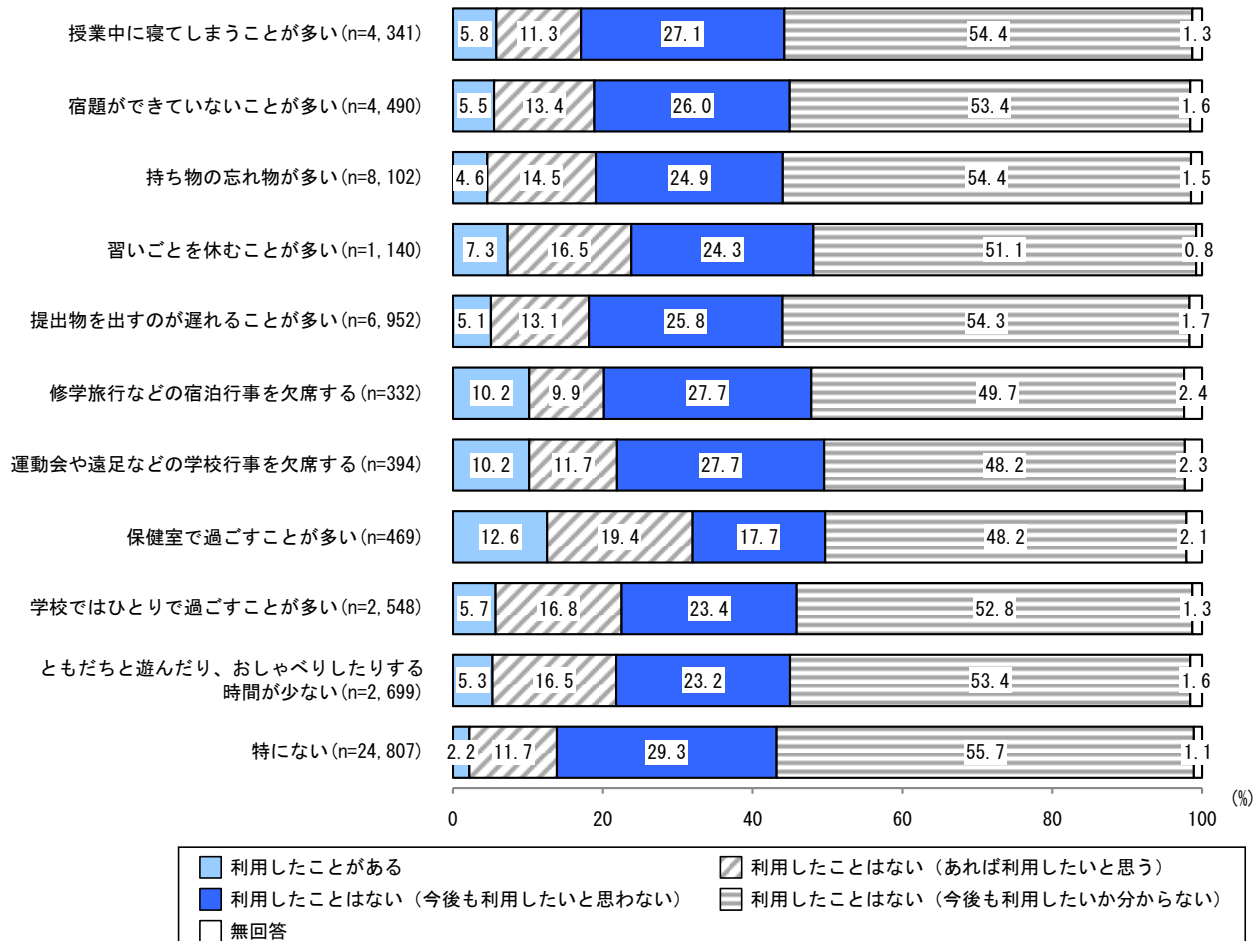


図 187. 学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

学校や学校の行事等の状況別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「保健室で過ごすことが多い」が12.5%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

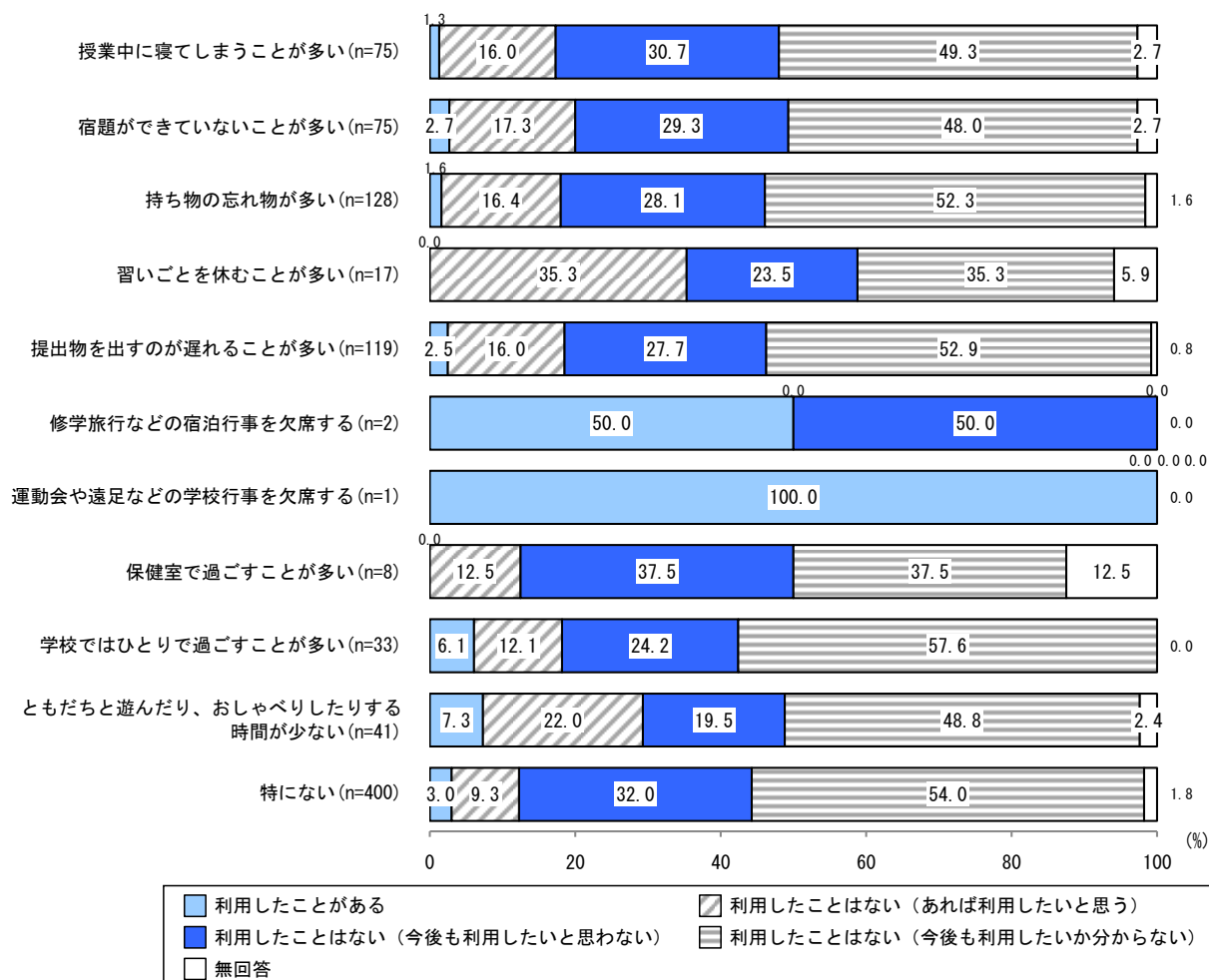
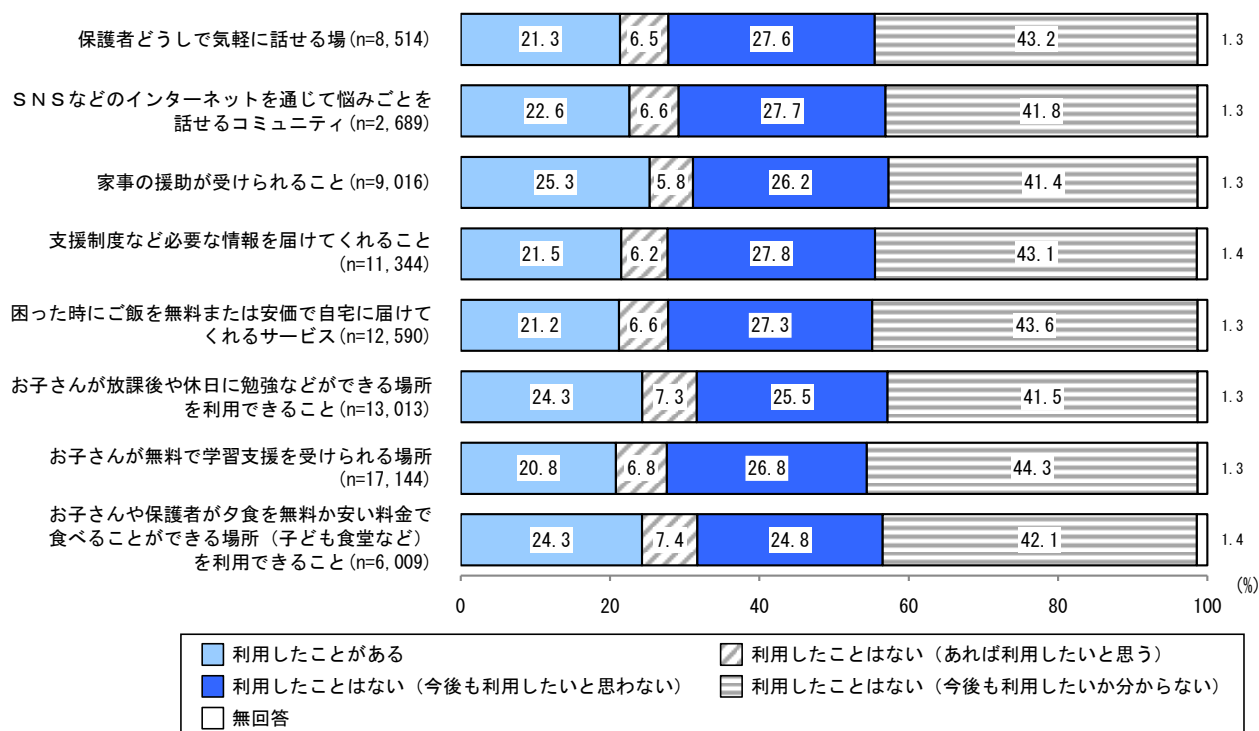


図 188. 学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所

学校や学校の行事等の状況別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「運動会や遠足などの学校行事を欠席する」が100.0%で最も高く、次いで「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」が50.0%、「ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」が7.3%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

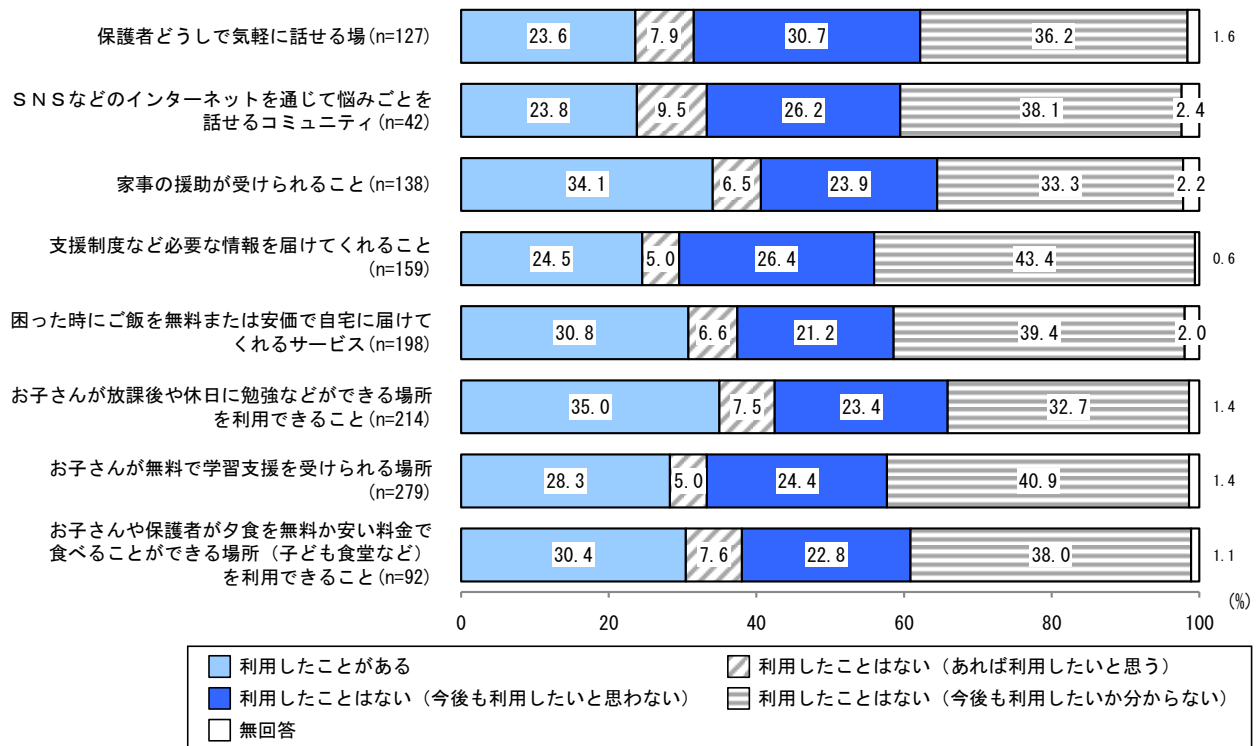
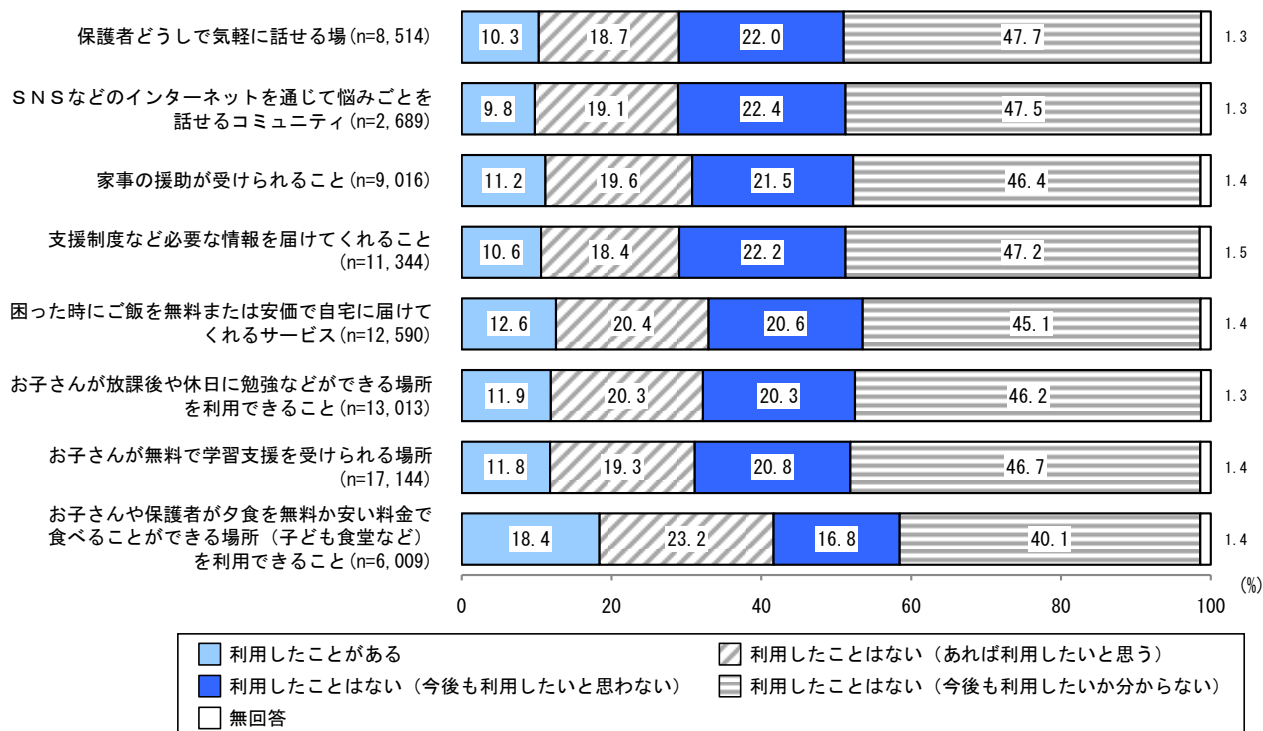


図 189. 身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

身近にあるといいと思うこと別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が35.0%で最も高く、次いで「家事の援助が受けられること」が34.1%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金を食べることができる場所（保護者票問 20×子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

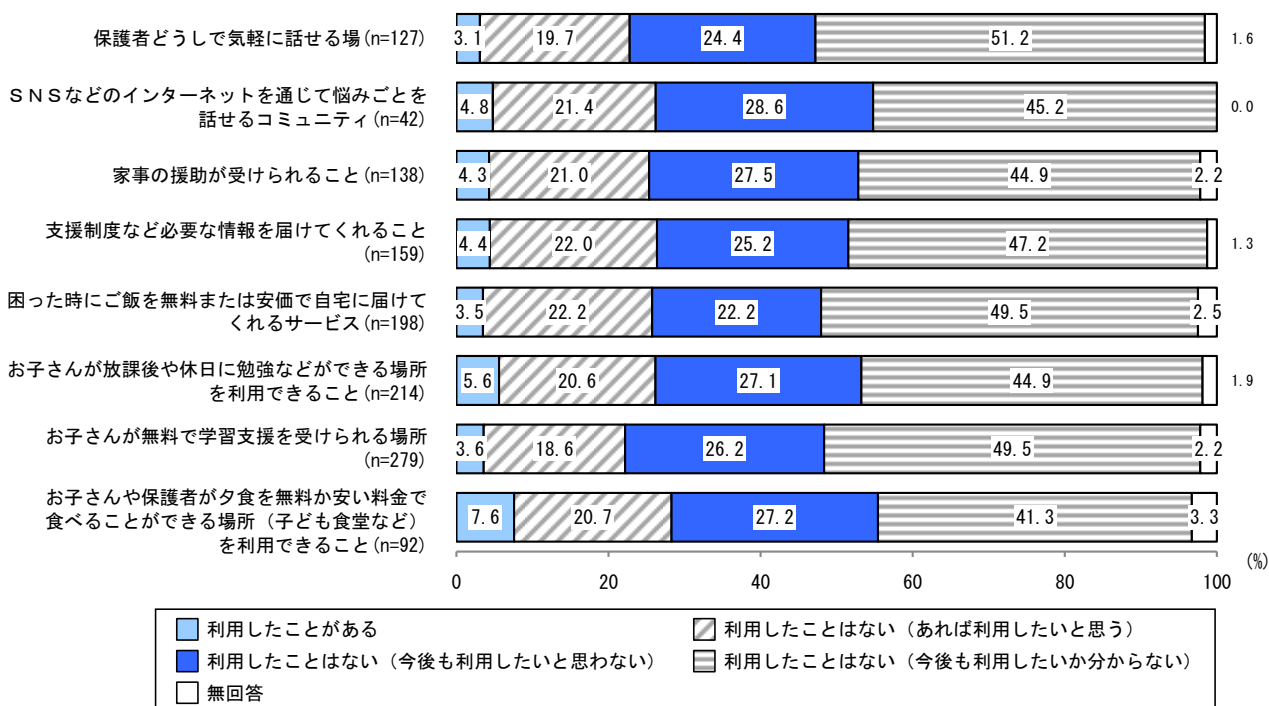
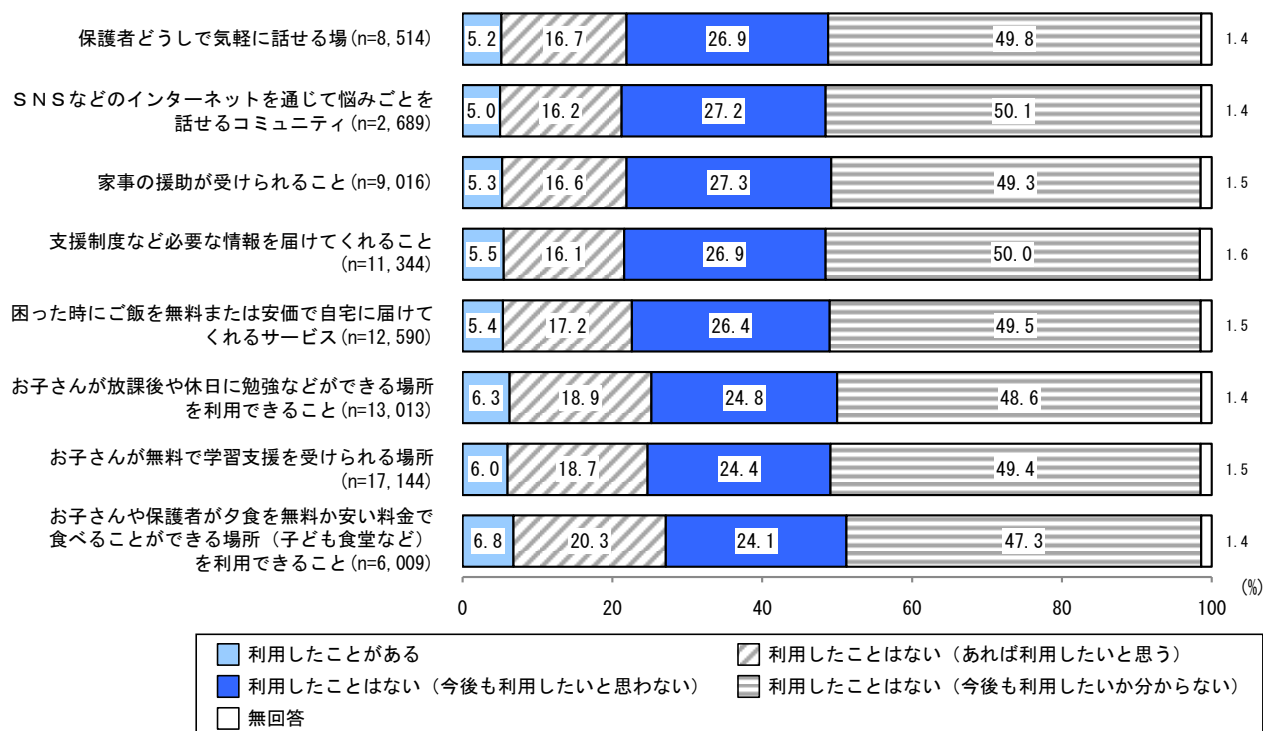


図 190. 身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

身近にあるといいと思うこと別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」が7.6%で最も高く、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」では「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が22.2%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

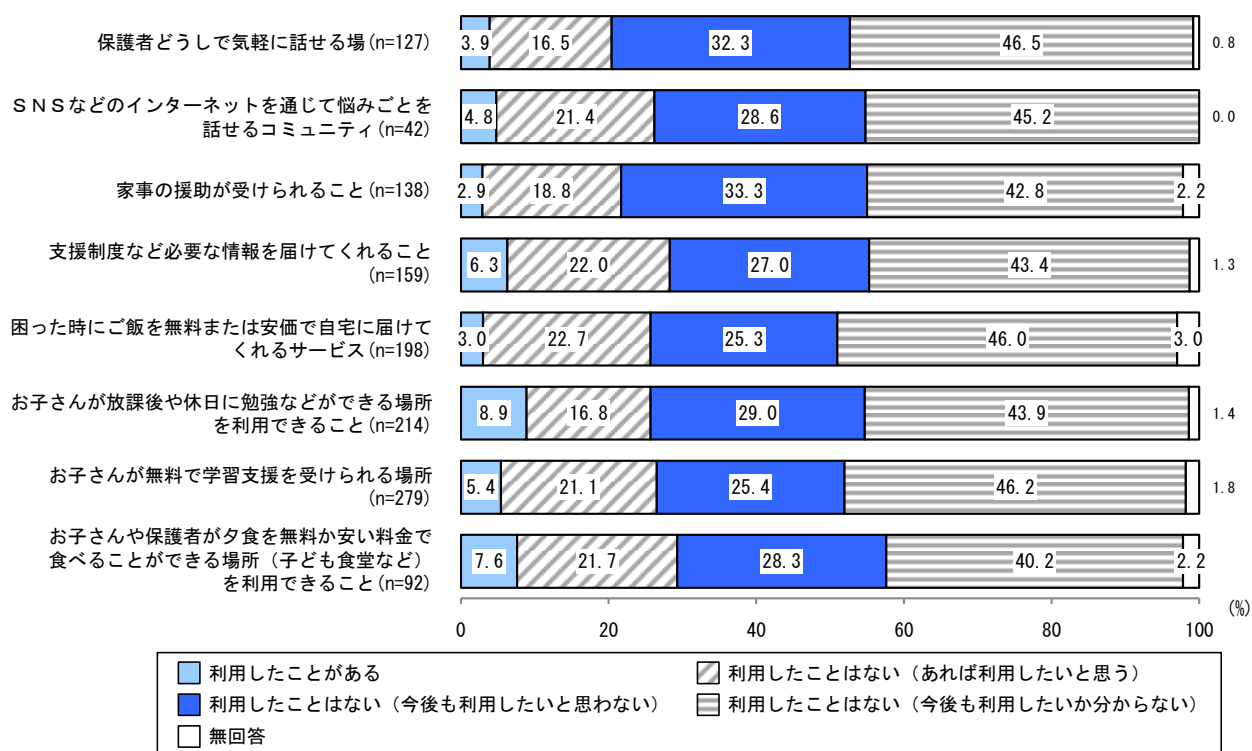
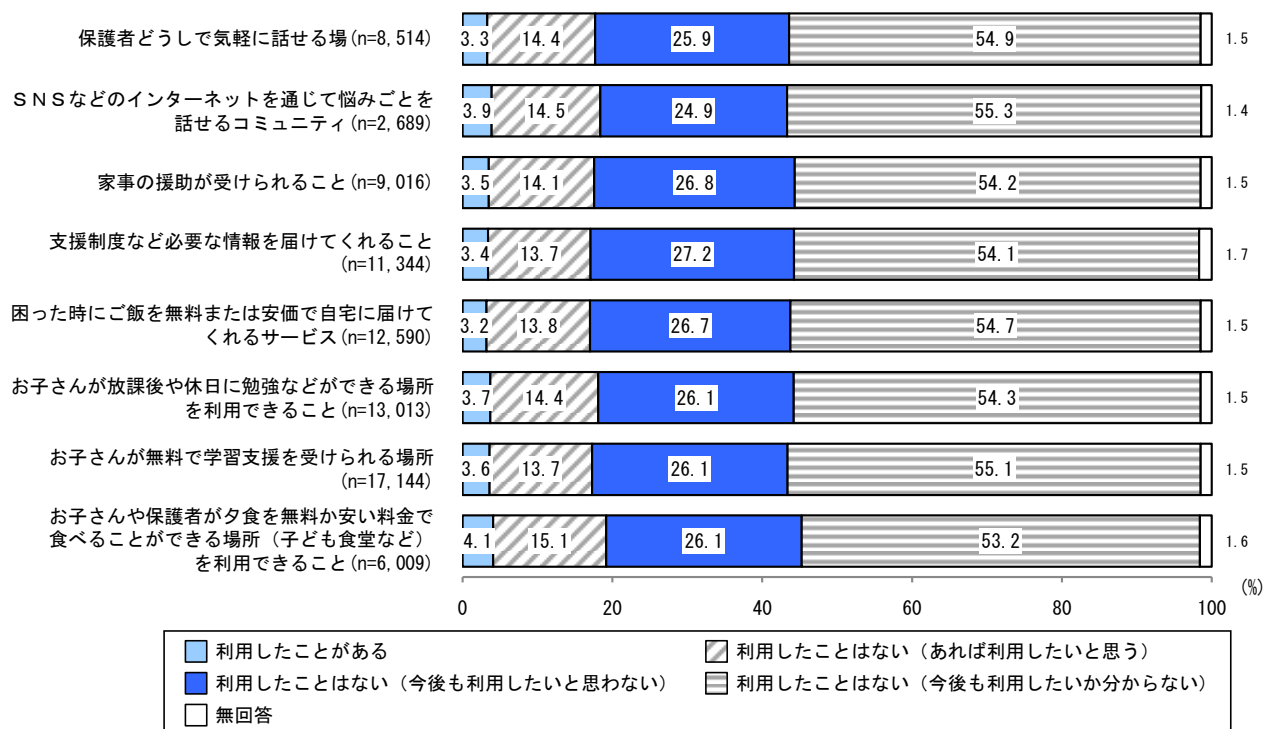


図 191. 身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

身近にあるといいと思うこと別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」と回答した人の割合は、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が22.7%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

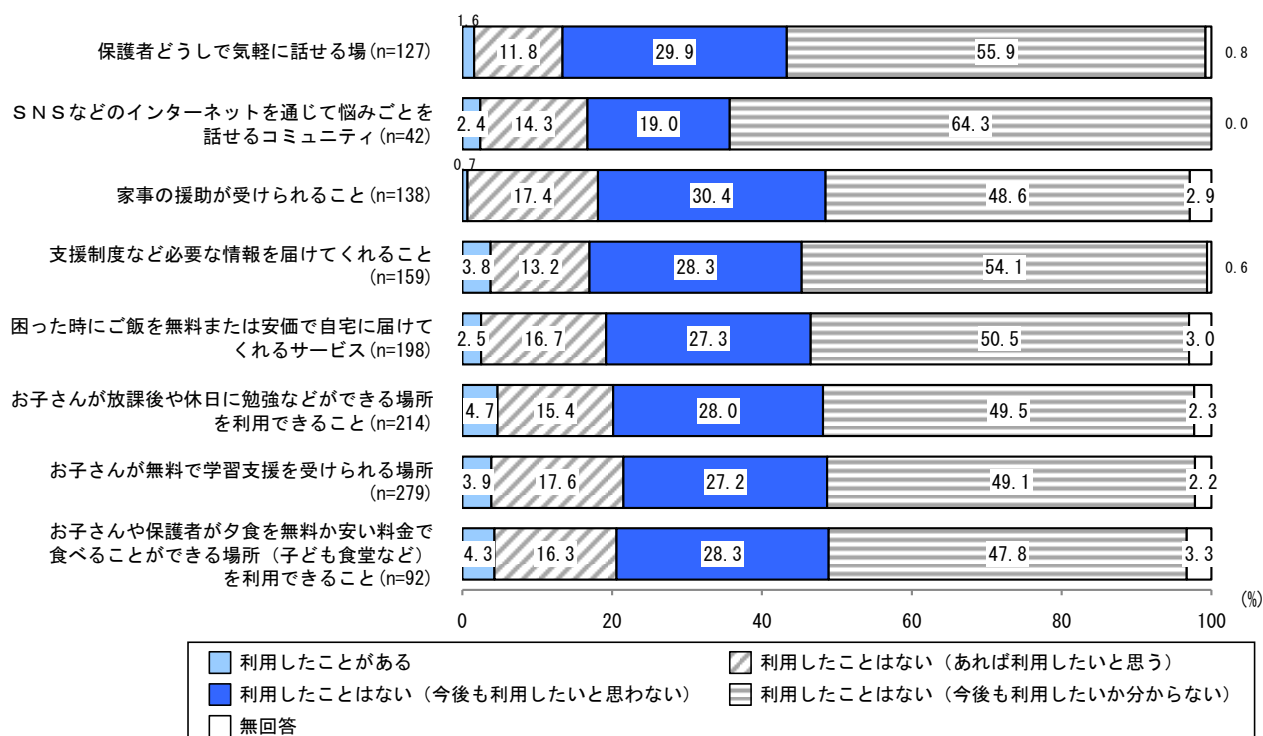
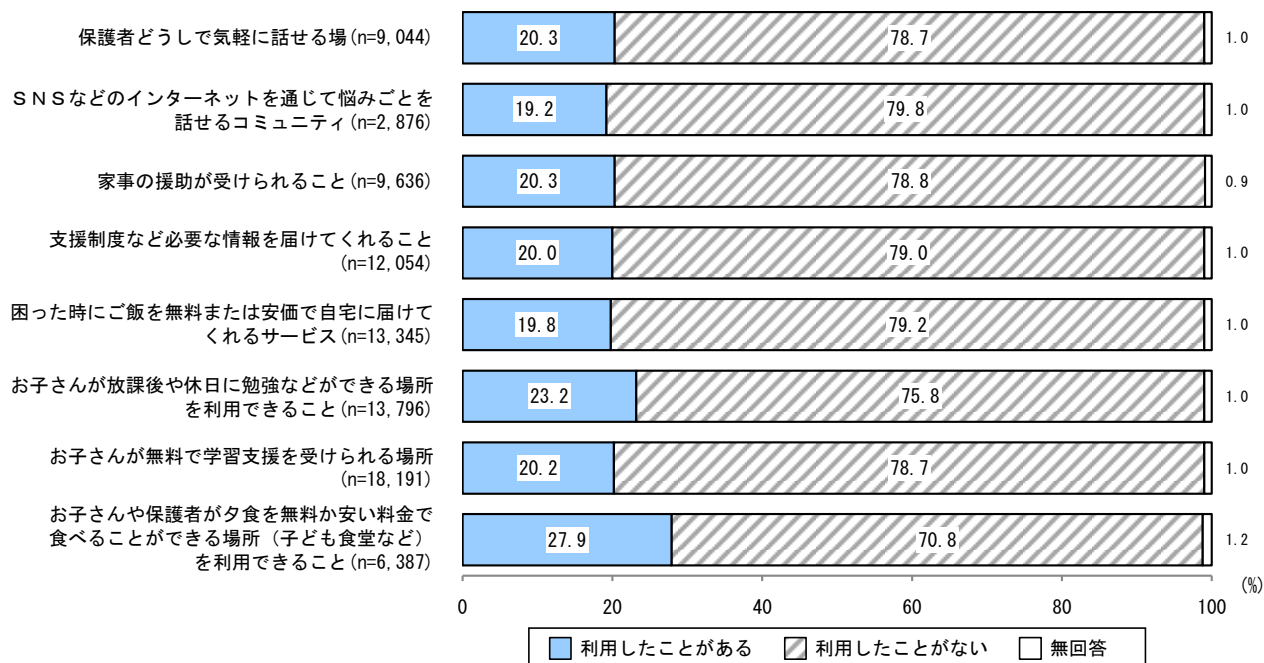


図 192. 身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所

身近にあるといいと思うこと別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が17.6%で最も高く、次いで「家事の援助が受けられること」が17.4%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無
(保護者票問 20×保護者票問 16(1))

<大阪府内全体>



< 柏原市 >

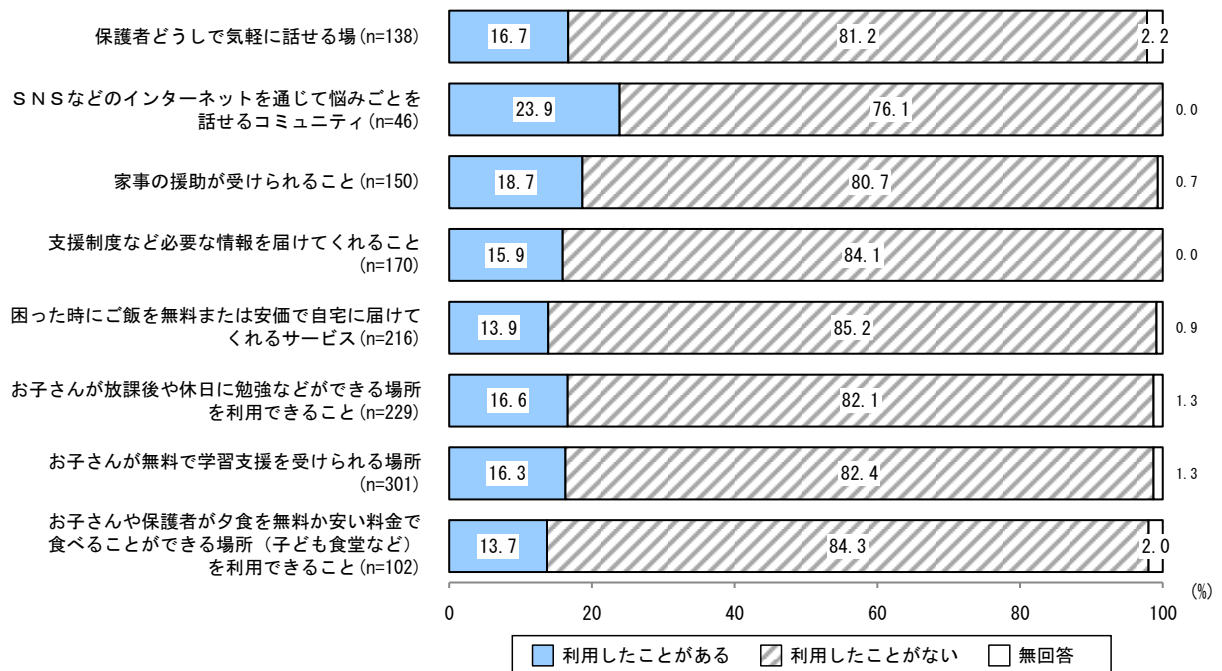
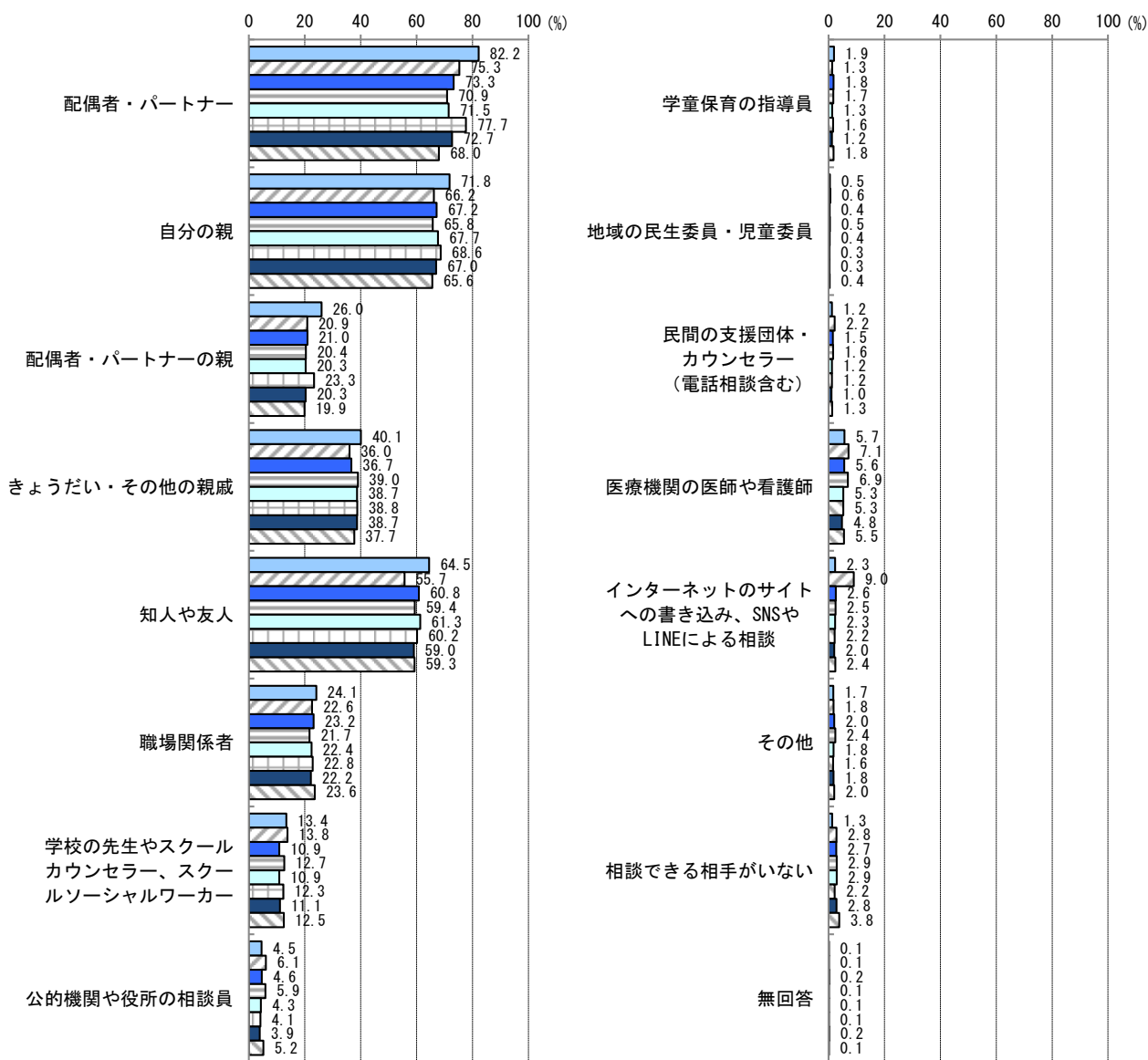


図 193. 身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無

身近にあるといいと思うこと別に子どもの居場所の利用有無を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は、「SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ」が23.9%で最も高く、次いで「家事の援助が受けられること」が18.7%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（保護者票問 20×保護者票問 19）

<大阪府内全体>



- 保護者どうして気軽に話せる場 (n=9, 044)
- SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ (n=2, 876)
- 家事の援助が受けられること (n=9, 636)
- 支援制度など必要な情報を届けてくれること (n=12, 054)
- 困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス (n=13, 345)
- お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること (n=13, 796)
- お子さんが無料で学習支援を受けられる場所 (n=18, 191)
- お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること (n=6, 387)

< 柏原市 >

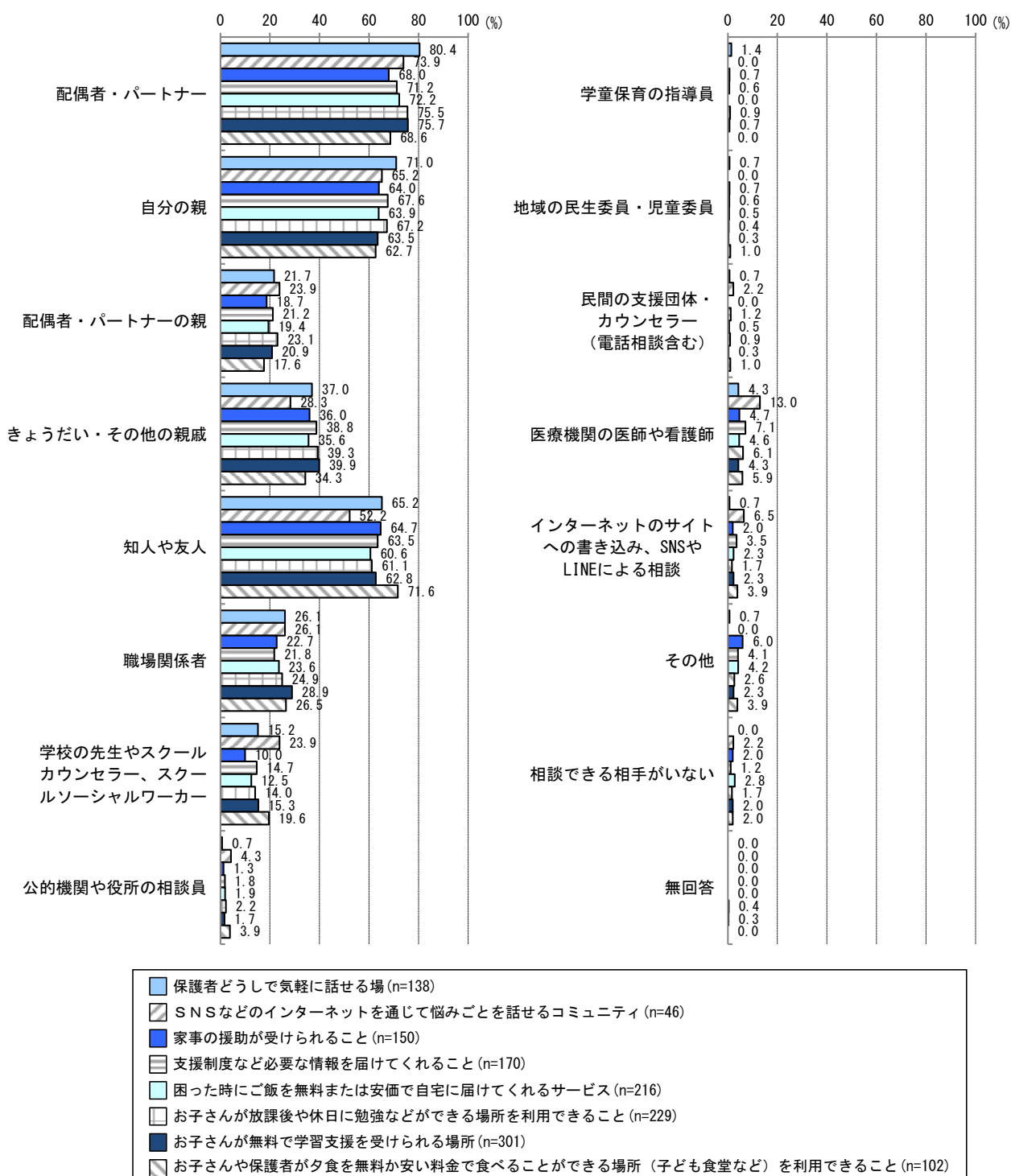


図 194. 身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

身近にあるといいと思うこと別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「配偶者・パートナー」と回答した人の割合は、「保護者どうして気軽に話せる場」が80.4%で最も高く、次いで「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が75.7%となっている。

<対人関係に関する考察>

中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目した分析結果を以下にまとめる。子どもが「放課後に過ごす場所」では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「習いごと」(37.2%対24.1%)の利用率が約13ポイント高くなっている。次いで「塾」(26.4%対15.7%)の利用率が約11ポイント高く、「公園・広場」(15.2%対9.6%)の利用率が約6ポイント高くなっている。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上と比べ、「ともだちの家」(21.7%対16.8%)の利用率が約5ポイント高くなっている。子どもが「放課後に一緒に過ごしている人物」では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「おうちの人以外の大人」(25.2%対9.6%)と一緒に過ごす割合が約16ポイント高く、次いで「学校以外のともだち」(12.4%対3.6%)と一緒に過ごす割合が約9ポイント高くなっている。一方で困窮度Ⅰ群は中央値以上と比べ、「きょうだい」(59.0%対52.0%)と一緒に過ごす割合が約7ポイント高く、次いで「おうちの大人の人」(74.7%対68.8%)と一緒に過ごす割合が約6ポイント高くなっている。「毎日の生活で楽しいこと」では中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「ともだちと一緒に過ごしているとき」(88.4%対75.9%)が楽しいと考えている子どもの割合が約13ポイント高く、次いで「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」(60.8%対50.6%)が楽しいと考えている子どもの割合が約10ポイント高くなっている。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「おうちの人と一緒に過ごしているとき」(74.7%対69.2%)が楽しいと考えている子どもの割合が約6ポイント高くなっている。「悩んでいること」では中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「クラブ活動や部活動のこと」(12.4%対8.4%)、「ともだちのこと」(12.4%対8.4%)に悩んでいる割合が約4ポイント高くなっている。これらの結果から、経済状況によって子どもの教育的な活動へのアクセスが制限されるだけでなく、家族以外の社会的交流や人間関係を築く機会が制限されていることが示唆される。一方で、その制限は家族内での交流を密にする傾向が示唆される。

困窮度別に子どもの世話をしている人の有無をみると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、誰かの世話をしている割合が高くなっている(25.3%対12.4%)。また、子どもの世話している人の有無別に相談相手をみると、世話をしている子どもはそうでない子どもと比べて、「親」(72.6%対68.6%)、「SNSなどのインターネットやLINEの相談」(3.2%対1.1%)に相談する割合が高く、「平日の夜や休日を過ごすことができる場所」(29.0%対25.8%)、「勉強を無料か安い料金でみてる場所」(6.5%対4.3%)、「何でも相談できる場所」(4.0%対2.2%)といった居場所を利用している割合が高くなっている。これらの結果から、経済的困難な家庭では、子どもが家族の世話を担っているケースが多く、家族の世話をしている子どもにとって、周りの支えが重要であり、社会的支援を必要としていることが示唆される。

一方、困窮度別に保護者の相談相手をみると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「配偶者・パートナー」(85.6%対44.3%)、「配偶者・パートナーの親」(25.9%対11.4%)、「医療機関の医師や看護師」(4.1%対2.3%)に相談する割合が約2倍である。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「相談する相手がいない」(6.8%対1.1%)割合が約6ポイント高くなっている。さらに世帯構成別の保護者の相談相手をみると、父子世帯群は母子世帯群及びふたり親世帯群と比べ、「相談できる相手がいない」(22.2%対1.6%及び1.8%)割合は10倍強である。これらの結果は、経済状況や世帯構成によって保護者の相談相手が異なり、特に困難な経済状況にある世帯や特定の世帯構成の保護者が支えや相談相手の不足を経験していることが示唆される。特にその傾向は父子家庭において顕著である可能性が高い。

また、子どもの居場所の利用有無別に保護者の相談相手・相談先をみると、子どもが居場所を利用している家庭は、そうでない家庭と比べて、「きょうだい・その他の親戚」(41.9%対36.0%)、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」(23.3%対9.1%)に相談す

る割合が高くなっている。これらの結果から、子どもの居場所が「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」との連携を可能にしており、サポート体制として機能していると考えられる。

Ⅲ 総合考察

本報告書における「子どもの貧困」概念の捉え方であるが、基本的に、2016年の調査で扱った貧困概念に基づいている。簡単に述べると、子どもの貧困を相対的貧困で捉えた上で、①所得や資産などの経済的資本、②健康や教育などのヒューマン・キャピタル、③つながりやネットワークなどのソーシャル・キャピタルの3つのキャピタルの欠如を枠組みとしている。この数年で、「子どもの貧困」「相対的貧困」概念も十分に知られるようになったことから、詳細な説明はここでは割愛するが、山野則子編著（2019）を参照されたい。

次に、総合考察においては大阪府、つまりほかにも各市町村が実施した数値で検討を行う（大阪府は府が直接実施した25市町村分であり、前回比較は2016年度実施の30市町村分で行う）。各ページにはグラフコメントやクロス分析を考察したセクションコメント（経済状況、雇用、健康、家庭状況制度、家庭生活と学習、対人関係）を記載している。総合考察において、同じことを書くのではなく、総合考察として、これらセクションコメントを踏まえ、2016年度と比較し変化のあるものや新規項目など、まさに考察すべきものを中心に記載している（一部、要望により同傾向でも記載あり）。単純集計はセクションコメントに出てこないもので、可能な限り数字を入れて説明する。そして、全体はこれらの結果から政策の評価を行うものである。

1) 大阪府共同調査の意義

本調査では、柏原市の調査のみならず大阪府内43自治体で共同実施して把握したことは、その回答者数の多さにおいても都道府県レベルで域内すべての自治体の対象者が入っている点においても、意義がある。その上で、大阪府内全自治体の結果は、傾向として柏原市の調査結果を裏付けるものであった。これは無作為抽出であっても全体と比較してみることで、傾向の把握が可能であり、信頼性があることを示すものとなった。

本報告では、すべての項目に大阪府内全自治体のグラフを入れることで、結果をわかりやすくしている。本調査は、子どもの貧困対策の評価につながる基礎調査である。

2) 単純集計

<経済面・家庭状況制度面>

2016年度と比較して、柏原市の可処分所得の分布はほぼ前回と同じような形になっており、世帯構成や人数などに関しても大きな差は見られない。

柏原市では、2016年度の前回調査（以後、前回調査とする）では23.4%の世帯が赤字であったが、今回はやや低くなり、20.2%であった。この数値は、前回は中2の世帯が小5の世帯よりも高くなっていたが、本調査ではほぼ同値である。前回と同傾向であったことから、前回明らかにした、クラブや塾などが小学生よりも中学生において家計を圧迫していることへの対応が進んだと考えられる。また、子どものための貯蓄をしたいができない状態が、前回36.2%が今回30.8%に、持ち家率は前回80.3%が今回81.6%とほぼ変わらない。赤字・貯蓄の改善と比較して持ち家率の変化が緩やかであることは、コロナも含め災害が多発することで持ち家への価値観が変化してきたとも考えられる。

経済的な理由で経験できなかったこと（はく奪項目）について、「生活における食費の切りつめ」や「冷暖房の使用を控えた」などの項目は、2016年に比較して該当率が下がっている。それに呼応して、「どれにもあてはまらない」という回答は前回25.8%、今回34.1%と高くなって

いる。家計の赤字の数も減り、全体を見たときに、2016年度から少しではあるが、好転しているようにとらえられる。また、「友人・知人との外食を控えた」が約7ポイント上昇しており、消費税の複数税率の導入、物価上昇、コロナ禍による生活様式の変容などが示唆される。

ただし、経済的理由による子どもに関する経験（子どものはく奪）に関しては、「子どもを医療機関に受診させることができなかった」が前回3.0%から今回0.6%に、「子どもを習い事に通わすことができなかった」が前回10.4%から今回8.4%に、「子どもを学習塾に通わすことができなかった」が前回13.3%から今回9.6%に改善しており、「どれにもあてはまらない」という回答も前回56.3%から今回68.3%に増加している。一方、ほかは残念ながら好転がみられない。この結果は、医療面での子どものいる世帯での施策が各自治体において広く実施され、その成果が出たものと思われる。

また、子どもが持っているものや使えるものを見ると、本は前回73.6%、今回69.7%、子ども部屋前回73.0%、今回66.8%、自転車前回88.6%、今回87.6%、インターネットにつながるパソコンが前回39.9%、今回33.1%と下がっているものが多い一方で、ゲーム機(前回78.7%、今回87.1%)、自分で選んだ服(前回66.7%、今回75.2%)が上がっている。特に、スマートフォンやタブレットは極端に上がっており(前回59.8%、今回76.8%)、これらは学校からの配布の成果であろう。

以上から、家計の状況は少し改善がみられ、医療補助を受けられない究極の場合は少なくなるなど効果的であり、家計の改善も幾分か子どもに回されていることが読み取れる。経済的理由による子どもにできなかった経験（上記に挙げたようなこと）がどの家庭でも実現できるような方策が非常に重要である。

2016年度に養育費の取り決めについては設問を入れていなかったため、大阪府での正確な比較はできないが、今回、養育費の取り決めをして受け取っているのは約3割であった。反面、養育費の取り決めをしておらず受け取っていないのは4割を超えていた。2016年度全国ひとり親世帯等調査（厚生労働省2017）では、ひとり親家庭のうち養育費についての取り決めをしている割合が母子世帯で62.9%、父子世帯で20.8%、ひとり親家庭で養育費を受け取っていない子どもの割合が、母子世帯69.8%、父子世帯90.2%という値であり、今回の結果は、養育費関連の施策の成果はあったのではないかと推測できる。

<雇用・健康>

持ち家など居住形態は2016年度と大きな変化はない。学歴については、母親の学歴を取り上げると、高校卒業が前回29.5%、今回23.8%と約6ポイント減少、大学卒業が前回13.6%、今回23.3%、約10ポイント上昇した。また、父親の学歴では、大学卒業が前回29.6%、今回37.1%と約8ポイント上昇した。雇用状況では、何らかの仕事をしている母親は、前回89.6%、今回91.3%と大きく変わらないものの、正規職員が前回18.5%、今回30.8%で約12ポイント増えている。これらは、世の中の人手不足と相まって働く人が増加したことにより、可処分所得も増加したことと関連するであろう。社会の認識の変化や政策による変化があったのではないかと考えられる。子どもの貧困の世論が広まり、各所に出された政策の効果と考えられよう。

支援制度の利用状況は、就学援助は前回13.9%、今回9.4%、児童扶養手当が前回9.2%、今回14.9%、生活保護が前回1.0%、今回0.6%であった。就学援助制度について、「利用したことがない」との回答が前回47.9%、今回81.0%であり、かなり増加し、その理由を今回のみ聞いているが、「自身が該当しない」が84.7%でほぼ皆がそう思っていることがわかった。この数値は可処分所得の結果から考えてももっと受けることができる世帯があると思われるが、受けていない。前回は「あなたには受ける権利がある」メッセージを必要な人にどう届けるのか大き

な課題であったが、改善に至っていない。各制度を正しく知らせ、他人ごとにせず、そこでのスティグマを無くし受けやすくする工夫がさらに必要である。

<健康・家庭生活・学習・対人関係>

まず食事から確認する。「朝食を食べない」(週に1回も食べていない)が前回0.9%、今回3.4%、約3ポイントではあるが増えている。食べない理由に「おなかがすいていない」が、前回43.8%、今回39.3%と約5ポイント下がる一方、「食べる習慣がない」が前回3.4%、今回12.4%と9ポイント上昇している。小学生の8名、中学生の15名が毎日食べていない。このことは、2016年度も話題になったが、改善すべき喫緊の課題である。また、家族の人と食事をしていない子どもは、「ほとんどない」、「まったくない」を合計して、朝食では、小学5年生の子どもが80名いること、夕食では小学5年生で4名の子どもがおうちの人と夕食を食べていない。これらは2016年の1回目に警鐘をならすべきこととしてとらえられていたが、より重視すべきである。特に、「ほとんど毎日」が前回50.7%、今回41.2%と約10ポイント減少しており、正規職員としての就業で朝に十分な時間が取れていないことが考えられる。

おうちの人と関わる設問は、2016年と傾向はほぼ変わらなかった。放課後過ごす場所は、「友だちの家」が前回27.7%、今回18.9%、「学校(クラブ活動など)」が前回37.0%、今回33.4%と減り、「自分の家」が前回80.6%、今回88.8%と増加していることは、コロナの影響による社会的交流が減ったことからの可能性が考えられる。友人との関係性が薄れることは、孤立や孤独へ向かう懸念も生じる。

勉強に関しては、今回調査から「授業がわからなくなった時期」小学生なら3,4年生(63.6%)、中学生なら1年生(64.8%)でつまづいていることがわかった。相談相手では、誰にも相談できない、相談したくないと感じている子どもは、前回15.6%、今回は8.2%と2016年よりも減っている。前は身体や気持ちで気になることを聞き、今回は身体の状態で気になること、「この1週間の気持ちの状況」で気になることを聞いているため単純に比較はできないが、「とくに気になるところはない」が前回27.6%、今回40.5%(体調)、「やる気が起きない」において「そんなことはない」が30.9%であった。

悩みについては、「学校や勉強のこと」が前回22.3%、今回18.2%、「好きな人のこと」が前回9.7%、今回6.2%と減少し、「わからない」前回12.5%、今回15.8%と増加している。

制度やサービスでいうと、子どもの居場所において、「平日の夜や休日過ごす居場所」の利用では小5で31.3%、中2で20.3%の子どもが利用したことがあり、「食事提供の居場所」は小5で2.9%、中2で2.1%、「学習支援の居場所」は小5で5.3%、中2で3.6%、「何でも相談できる場所」は、小5で2.7%、中2で2.4%の子どもが利用したことがあった。これらと併せて、居場所の効果として「友だちの増加」が小学生で39.8%、中学生で35.7%、「生活の中に楽しみなことが増えた」は小5が14.6%、中2が7.1%、「気軽に話せる大人が増えた」は小5で13.0%、中2で3.6%という結果であった。このことは今後の展開に大きな意味をなすであろう。ただし、中学2年生は、友達が増えたと回答する反面、同じくらい「特に変化なし」(23.8%)と回答している。そのため、早期に居場所に繋ぎ、居場所が誰にとっても当たり前の選択肢にする必要がある。「平日の夜や休日過ごす居場所」以外は、利用頻度は「学習支援の居場所」4.6%、「食事提供の居場所」2.7%、「何でも相談できる場所」は2.5%と少なくなり、将来の利用に関する積極的な利用希望も「食事提供の居場所」が小中合わせて18.5%、「学習支援の居場所」が小中合わせて16.8%になる。子どもたちの希望があるととらえられ、「放課後過ごす場所」において、「友だちの家」や「学校(クラブ活動など)」が減少していることと併せて、子どもたちに多くの選択肢を提供できる方がよいと考えられること、自分には関係ない考える傾向があるかもしれな

いこと、などから居場所の充実とより自然な提供が望まれる。

最後に、ヤングケアラーの項目である「家族に世話をしている人」がいるかどうかについては、厚生労働省の研究事業として実施された調査結果と比べると、小学生6.5%（日本総研2022）、中学生5.7%（MURC2021）という値よりはるかに高い、小5が22.4%、中2が14.0%であり、内容もきょうだいの世話が最も多く、小5は76.3%（小学6年生28.5%：日本総研2022）、中2が76.6%（中学生79.8%：MURC2021）である。小学生の世話が国に比べてきょうだいの世話の割合が高い。「家事」は、本調査では複数の質問にまたがっていることや複数回答可にしていることから単純に比較できないが、先述した厚生労働省の研究事業では、小6の世話の内容を家事と答えたのが、35.2%（日本総研2022）できょうだいの世話より高いが、本調査では逆であった。時間をみると1時間未満が最も多く、定義のあいまいさが子どもに答えにくくさせている可能性もあるであろう。今後、イギリスのように定義を明確にしていくことも検討を行う必要がある。

今回の調査で保護者が身近にあるといいと思うことは、上位3つが「無料で学習支援が受けられる場所」45.0%、「放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」34.2%、「困ったときにご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」32.3%であった。学習に関して最も気にしていることがわかり、これらのサービスを利用している率の低さから、身近に届けられるような工夫が必要である。

3) クロス集計

各セクションコメントでは、2023年度の項目のみで確認してきたが、ここでは可能な限り2016年と比較する。まず経済面では、できなかった経験、つまりはく奪指標として、2016年度も検討してきた項目でまず確認する。

経済面から確認する。「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」電気・ガス・水道などが止められた」などの項目では2016年度よりも減少、特に困窮度Ⅰ群においては半減に近い減少がみられる。ただし「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」の減少はそこまで大きくなく、将来への不安感の減少にまで至っていない。経済的な大人のはく奪に比べ、子どものはく奪に関して、困窮度Ⅰ群では「お子さんの進路を変更した」、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」など2016年度と比較して増加している。これは、コロナ禍となったこともあり、経済的リスクのしわ寄せが子どもに向かったと考えられる。しかし、これは絶対に避けなければならないことであり、警鐘を鳴らす必要性とともに対策を講ずべきである。また、子どものために「貯蓄したいが、できていない」割合が約6割（前回70.3%、今回64.8%）と他と比較して家計の厳しさが示されたと言える。

支援制度に関しては、まず就学援助制度は、申請すれば利用できるはずである困窮度Ⅰ群であっても利用したことがない人が、2016年度13.2%あり、これを減らすことを第一目的に考えたほどであったが、2023年度最も厳しい困窮度Ⅰ群において47.7%と30ポイント以上増加している。現在利用している人をとってみても、2016年度59.3%だったところ2023年度は42.0%と減少している。児童扶養手当は困窮度Ⅰ群で利用したことがない人が、2016年度35.2%、2023年度18.8%と大きく減少している。「生活保護制度」について、困窮度Ⅰ群において「利用している」が2016年度5.5%から2023年度3.4%と減少し、「利用したことがない」が2016年度57.1%から2023年度80.7%と20ポイント以上増加している。これら設問の文言（例「受けたことがある」→「利用したことがある」など）の違いはあるものの、困窮度Ⅰ群にとって、つまり厳しい家庭にとって、制度利用は決して進んでおらず、前回調査においても低い利用率がさらに厳しい状況となったとも推察できる。

子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況は、本調査において全体で7.4%、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金は1.3%である。全国レベルのデータを見ると、2020年コロナ発生後の10月の調査（厚生労働科学特別研究）において、収入200万未満の世帯で35.6%（山野研究室2021）である。これらの数値を直接比較することはできないが、いずれにおいても割合の低さから、2016年以降子どもの貧困が周知されるようになり、コロナ禍となって、さらに支援制度の広がりや周知が今まで以上になされたが、大阪においてもその活用が広がり切れなかったと言わざるを得ない。これら最も厳しい世帯における利用が減少した要因を探る必要がある。

10代で親になった世帯の厳しさは2016年度同様であり、たとえば母親の最終学歴について初めて親となった年齢別では、中卒（「中学校卒業」および「高等学校中途退学」）が半数近く、他の年齢群に比べて高い割合を示している。また、就労状況において正規社員の割合が、他の年齢群と比べて低くなっている。出産などによって学業を中断せざるを得なかった10代への教育支援や就業支援もさることながら、そもそもの予防的支援として、自分を大切にすることや将来を見えるような教育的支援が必要である。例えば、小学生から高校生まで、性教育含む生きる教育（西澤・西岡ほか2022）の積極的な導入を進めるべきである。またスウェーデンで行われる、実際の社会問題と向き合い、制度を知り選択できる力を養う社会科授業の実施など、思い切った根本的な教育改革が必要である。

雇用に関しては、質問形態が違うため安易に2016年と比較できないが、非正規雇用の方が、困窮度が増すことや、最終学歴が低いほど困窮度Ⅰ群に占める割合が高くなる傾向は2016年と同じである。世帯構成と就労状況の関係を見ると、ふたり親世帯と比べて、母子世帯では非正規雇用の割合が前回34.1%、今回37.5%とやや高くなっており、母子世帯へのさらなる重点支援を検討すべきである。健康に関しても傾向は、2016年度と2023年度はほぼ変わらない。つまり困窮度が増すほど身体面、精神面不調が高くなる。セクションコメントで述べてきたように、毎日の規則正しい朝食・昼食摂取が、保護者と子どもがよりよい関係となって、子どもの自己効力感を高める可能性があり、自己肯定感や将来の夢や目標があるほど、日常生活の中で元気に過ごしているという傾向があることから、基本的な生活習慣を維持できるような取り組み、将来の夢や目標が持てるような取り組みの工夫が必要である。

家庭生活や学習に関する傾向も2016年度の調査と変わらない。経済状況が保護者と子どもの間のコミュニケーションや子どもの生活リズムに影響を及ぼしうると考えられる。遅刻頻度の多さは保護者と子どものコミュニケーション不足を暗示しうる。経済的に困難な世帯の子どもは、通学が難しくなっているほか、学習習慣や家庭内での文化活動の習慣がなく、結果的に学習理解が不十分となっている可能性が示された。また、子ども自身も保護者も大学以上の高いレベルの教育を望まなくなっており、これは経済的事情と学習理解の低さのいずれもが要因となっている可能性がある。子どもの将来に関して、困窮度Ⅰ群と中央値以上群の差は2016年から変わっていない。つまり、経済的に困難な世帯の子どもは、将来への希望が持てていない。

経済状況が生活習慣や学習習慣・読書習慣の形成に影響が出ている可能性が示唆された。また、生活習慣が身についていないと遅刻につながり、学習理解に影響が出ている可能性がある。こうした学習習慣と家庭状況は大きく関係するため、横断的に判断できて支援に繋ぐような、例えば家庭学習を補完するためにも、学習支援や学校での少し先輩である就学前児童なら小学生、小学生なら中学生、中学生なら高校生、など年齢の近い年上の子ども・若者を各所で導入する仕組みを作ったり、校内でサポートを展開するメンターの導入などが望ましい。（イギリスやアメリカで活用されるメンター制度など）

対人関係においても2016年の結果とクロスの傾向は変わらない。変わったところで述べると、放課後過ごす人の回答は「学校以外の友だち」が今回、困窮度Ⅰ群が3.6%、中央値以上群が12.4%

と3倍以上であり、前回の差（困窮度Ⅰ群が4.4%と中央値以上群が12.9%）より全体が低く、差は広がった。また、場所としても、前回は困窮度Ⅰ群対中央値以上群ではスーパーが4.4%対3.7%、コンビニ4.4%対1.4%、ゲームセンター1.1%対0.6%が特徴的で困窮度Ⅰ群の方が高かったが、今回は同じく、スーパーが3.6%対3.6%、ゲームセンター1.2%対1.2%と同率であった。また、「公園・広場」は前回19.8%対13.7%であったのが、今回9.6%対15.2%と逆転している。困窮度Ⅰ群では「自分の家」が前回82.4%今回90.4%と増加している。塾や習い事は、前回は困窮度Ⅰ群対中央値以上群では、塾18.7%対28.3%、習い事23.1%対33.7%が、今回は同じく塾15.7%対26.4%、習い事24.1%対37.2%と格差が広がった。

経済状況によって、子どもの教育的な活動へのアクセス、家族以外の社会的交流や人間関係を築く機会が制限されるだけでなく、子どもの自己効力感にも影響を及ぼす可能性があることが示唆された。また、経済的困難な家庭では、子どもが家族の世話を担っているケースが多く、家族の世話をしている子どもにとって、周りの支えが重要であり、社会的支援を必要としていることが示唆された。経済状況や世帯構成によって保護者の相談相手が異なり、特に困難な経済状況にある世帯や特定の世帯構成の保護者が支えや相談相手の不足を経験していることが示された。子どもの居場所が様々な専門家や機関との連携を可能にしており、総合的なサポート体制として機能していると考えられる。

最後に、子どもが保護者以外と話せる機会が必要である。しかし、家庭と学校しかソーシャル・キャピタルを持たない子どもたちにとって、今回の調査において、「おうちの人に関する悩み」は「おうちの人」と「学校の友だち」に話しにくいという結果であった。これは、ますます経済的に厳しい子どもたちを孤立させ、ソーシャル・キャピタルを欠如させてしまう。おうちの人や学校の友だちに相談すること自体難しいと考えられるが、おうちの人や友だちに話せないという今回の結果から、自然と話せるような場や人材を確保し、すべての子どもが自然に通う、学校から自然に構えずに参加できる、流れるような仕組みを創設または充実させる必要がある。

まとめ

今回の調査結果から、子どもの貧困に関する対策の結果として、親の就労や学歴、所得状況は改善がみられ、中央値は上昇する結果であった。これは2021年度の厚生労働省の国民生活基礎調査の結果をみても同様の傾向である。

しかし、その分が子どもに回っておらず、物価高の影響等々考えられる。肝心の困窮度Ⅰの世帯あるいは子どもの状況の改善は見られず、悪化している部分もあった。このことは子どもの貧困を考える立場にとっては厳しい結果である。この解決には、国が縦割りを解消しようとする子ども家庭庁を設立し、データ連携等々新たな動きをしているなか、同様に教育や福祉という既存の枠組みを越えて、子どもをまんやかに実行できる体制や制度設計を早急に考えるべきである。以下のような覚悟ある対策をとる必要がある。

- ① 経済面：母子世帯への支援や収入のアップを企業側が実行できるような施策が必要である。
また、特に困窮度Ⅰ群において就学援助や生活保護を「利用したことがない」の割合が増加しており、十分な周知や適切な認定が行われているか検証する必要がある。
- ② 学習面：学校だけでなく、しかしすべての子どもが通う学校と連携した学びの保障を検討する。方策として、コミュニティスクールや学習支援、無料塾の創設などが想定される。保護者のニーズのある無料塾は、例えば沖縄で導入している。貧困調査の結果から支援員を多数投入し、訪問による給付や支援の申請作成のサポートなどの人的支援方策を実施した。そういう方法を検討する必要がある。あるいはそれをクラウドデータで行えるようなデータ連携と

社会資源を選択できるよう可視化と自治体内でどここの部署でも所持するような共有化が必要である。

- ③ 無償化の対象にならない部活の費用などの補助を行う。塾代助成のような方策を検討し、かつ申請をしなくても必要な人には利用できるよう、塾側に措置費のような形で配分する枠組みの提示や方策の提案を行う。
- ④ 価値の創造：教育の力はすべての子どもに影響することが出来る。年齢に応じて子どもの人権や生きる価値など人間尊重の理念から獲得できるような学びとその方法を導入する。小学1年生から体験的に教育を受ける生きる教育（西澤・西岡 2022）やブレインストーミングの教育（若竹 2019）、実際的な生活課題から制度やサービス、権利に関して体験的に学ぶスウェーデンの社会科（リンドクウィスト・ウエステル 1997）のように、その年齢に合わせて体験型であり、自身の意見を出し、周りの意見を聞きながら進めるレクチャー型ではない教育の進め方を根本から検討すべきである。そのことによって、10代の妊娠やいじめ、ヤングケアラーなど家庭状況を抱えるようになってからも早期にSOSが出せたり、自身で支援を選択できる力を養うことができる。
- ⑤ 地域資源：相談や支援の場所を周知することである。支援施策や支援を受ける方法などをパンフなどの形にまとめ、市内の施設や学校で配布するなど拡充する必要がある。子ども食堂に限らず、様々な機能（駄菓子屋や公園などほっと寄れるような場を使ったりたまり場など）を持つ居場所や体験交流できる場かつ子どもが自力で行ける小学校区に必要である。学校が場所を開放するのがベストである。その場所が子どもにとっても親にとってもわかりやすく、行きやすい場所にあり、選択肢が増え、可視化し利用しやすくする必要がある。相談機関を増やしても子どもや親からの相談の数値は決して上がらず、居場所などの場の方が有効である。
- ⑥ 連携の考え方：連携とは個人情報共有をしなければできないわけではない。個人情報は把握しないまま連携することが重要である。これが社会資源を知らない教師と個人情報を持ってない地域の居場所の新しい連携の方法であり、これらを周知徹底させることである。
- ⑦ すべての子どもを視野に入れ、そこから自然につながる仕組みなど、今までの縦割りとは次元の違う支援の仕組みが必要である。
- ⑧ 社会福祉協議会など居場所の中間支援を行う機関の役割を明確化し、機能的に促進させる。社会教育分野が持つ公民館や図書館や博物館なども場であり、さらなる協働を明確にする。（子ども食堂等居場所の活動団体が無料で入れる、利用できるなど）
- ⑨ 全数からの仕組み：必要な子どもが確実に発見され自然につながるためには、スクリーニングから繋ぐ機能まで持った、例えば文部科学省推奨（2020）のYOSSスクリーニング（山野研究室 2021）の仕組みが必要である。今回の調査で2016年からの比較によってアウトリーチでは乗り越えられなかった壁が明かになった。相談ではなく、自然に伴走する支援を厳しい家庭の保護者や子どもたちは求めていることがわかる。必要な子どもを早期に発見し、伴走しながら、必要な制度や仕組みを紹介し、利用を増やすことで生活の改善をはかることと、伴走することで子どもや保護者本人の力をアップさせ、資源を活用できるようにする機能が必要である。
- ⑩ システム化：洩れなく持続可能に巡回させるためには、人に頼るだけでなく、福祉と学校のデータ連携を推奨し、地域資源の可視化のためにクラウド化することも考慮すべき点である。クラウドによっていち早く支援場所や居場所が学校にもすぐにわかり、地域活動と支援の必要な子どもを結び、支援提供を展開する必要がある。
- ⑪ 人材：これら学校においてすべての子どもの検討、発見から支援に繋ぐ校内の体制作りができる人材養成に力を入れる必要がある。スキルを取得する訓練講座の予算化や新たな認定制

度になることも家庭ソーシャルワーカー養成制度の活用などである。

- ⑫ その専門職の 1 つがスクールソーシャルワーカーである。各校に 1 名配置できるよう、正規職化への働きかけ、あるいは各自治体での正職化計画を立てる必要がある。
- ⑬ 法制化：これらは連携ではなく仕組み作りであり、制度化である。要項や規定を作成し、自治体や機関として動きやすいように作成すべきである。
- ⑭ 制度設計：デジタル化のために補助金や助成金を検討することも必要である。なぜなら、どこに必要な子どもが存在するのかがわからない。データ連携することでどこに必要な子どもが存在し、様々な制度を活用してどうだったかを検証できるように作りこむことである。これらのシステム費用がベンダーロックにより莫大な金額がかかる課題がある。企業を巻き込むと同時に、自治体や政府からクラウド化に向けた助成制度を創設する必要がある。

引用・参考文献

- アーネ・リンドクウィスト&ヤン・ウェステル, 川上 邦夫 (翻訳) (1997)『あなた自身の社会：スウェーデンの中学教科書』新評論.
- 大阪府 (2023)「大阪府子ども (子育て世帯) に対する食費支援事業 (第 2 弾)」
(<https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/20980/00457638/2-9.pdf>)
- 大阪府立大学 (2017)「大阪府子どもの生活実態調査」
- 北川達夫 (2005)「図解フィンランド・メソッド入門」経済界.
- 厚生労働省 (2004)「ワークシェアリング導入促進に関する秘訣集及びリーフレットについて」
(<https://www.mhlw.go.jp/houdou/2004/06/h0630-2.html>)
- 厚生労働省 (2017)「平成 28 年度 全国ひとり親世帯等調査結果報告」
(<https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11923000-Kodomokateikyoku-Kateifukishika/0000190325.pdf>)
- 厚生労働省 (2022)「2022 (令和 4) 年国民生活基礎調査の概況」
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/index.html>)
- 柴田悠 (2016)『子育て支援が日本を救う—政策効果の統計分析』勁草書房.
- 内閣府 (2010)「平成 21 年度インターネットによる子育て費用に関する調査」
(https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/13024511/www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/cyousa21/net_hiyo/mokuji_pdf.html)
- 西澤哲・西岡加名恵ほか (2022)『『生きる』教育：自己肯定感を育み, 自分と相手を大切にする方法を学ぶ』日本標準.
- 日本総研 (2022)「令和 3 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業：ヤングケアラーの実態に関する調査研究」厚生労働省.
- 三菱 UFJ リサーチコンサルティング (株) (2021)「令和 2 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業：ヤングケアラーの実態に関する調査研究」厚生労働省.
- 文部科学省 (2023)「令和 5 年度就学援助の実施状況」
(https://www.mext.go.jp/content/20210324-mxt_shuugaku-000013450_27.pdf)
- 文部科学省・山野研究室 (2020)「スクリーニング活用ガイド」
(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/_icsFiles/afieldfile/2020/03/27/20200327_mxt_kouhou02_2.pdf)
- 山野則子編著 (2019)『子どもの貧困調査—子どもの生活に関する実態調査から見えてきたもの』明石書店.

山野則子（2018）『学校プラットフォーム』有斐閣.

山野則子研究室（2021）「コロナ禍における子どもへの影響と支援方策のための横断的研究 保護者調査・子ども調査報告書」厚生労働省.

山野則子研究室（2021）「スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの常勤化に向けた調査研究」文部科学省.

柳澤靖明・福島尚子（2019）『隠れ教育費：公立小中学校でかかるお金を徹底検証』太郎次郎社エディタス.

UNESCO(2020) ‘International technical guidance on sexuality education: an evidence-informed approach (jpn)’ (<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000374167>)

図表目次

図 1. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験	183
図 2. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験	185
図 3. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの	187
図 4. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均	188
図 5. 困窮度別にみた、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均	189
図 6. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均	190
図 7. 困窮度別に見た、世帯員の構成	191
図 8. 困窮度別に見た、世帯員の構成（2016 年度調査との比較）	192
図 9. 世帯構成別に見た、家計の状況	193
図 10. 困窮度別に見た、子どもの人数	194
図 11. 困窮度別に見た、住居形態	195
図 12. 困窮度別に見た、家計の状況	196
図 13. 困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況	197
図 14. 困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無	198
図 15. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況	201
図 16. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況（2016 年度調査との比較）	202
図 17. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	203
図 18. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）（2016 年度調査との比較）	204
図 19. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況	205
図 20. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況（2016 年度調査との比較）	206
図 21. 困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（ひとり親世帯のみ）	207
図 22. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢	208
図 23. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢（母親の回答者のみ）	209
図 24. 初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（母親の回答者のみ）	210
図 25. 初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（母親の回答者のみ）	211
図 26. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況（母親の回答者のみ）	212
図 27. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること（母親の回答者のみ）	214
図 28. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（母親の回答者のみ） ...	216
図 29. 住居形態別に見た、家計の状況	217
図 30. 住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況	218
図 31. 子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況	219
図 32. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況	220
図 33. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況	221
図 34. 子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	222
図 35. 子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況	223
図 36. 子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況 ...	224
図 37. 子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況	225
図 38. 学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況	227
図 39. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況	229
図 40. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況	231
図 41. 学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	233
図 42. 学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況	235
図 43. 学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況	237
図 44. 学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況	239
図 45. 身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況	240
図 46. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況	241
図 47. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況	242
図 48. 身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	243
図 49. 身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況	244
図 50. 身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況	245
図 51. 身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況 ...	246
図 52. 困窮度別に見た、就労状況	248
図 53. 困窮度別に見た、お母さんの最終学歴	249
図 54. 困窮度別に見た、お父さんの最終学歴	250

図 55. お母さんの最終学歴別に見た、就労状況	251
図 56. お父さんの最終学歴別に見た、就労状況	252
図 57. 世帯構成別に見た、就労状況	253
図 58. 就労状況別に見た、家計の状況	254
図 59. 困窮度別に見た、朝食の頻度	256
図 60. 就労状況別に見た、朝食の頻度	257
図 61. 朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度	258
図 62. 朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度	259
図 63. 朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間	260
図 64. 朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間	261
図 65. 朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度	262
図 66. 朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	263
図 67. 休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	264
図 68. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある	265
図 69. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ	266
図 70. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ	267
図 71. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる	268
図 72. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする	269
図 73. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる	270
図 74. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる	271
図 75. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない	272
図 76. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする	273
図 77. 困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること	275
図 78. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある	276
図 79. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ ..	277
図 80. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ	278
図 81. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる	279
図 82. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする	280
図 83. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる	281
図 84. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる	282
図 85. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない	283
図 86. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする	284
図 87. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること	286
図 88. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること	288
図 89. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること	290
図 90. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数	291
図 91. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点	292
図 92. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）	293
図 93. 困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）	294
図 94. 困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）	295
図 95. 困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）	296
図 96. 困窮度別に見た、おうちの大人のひとと一緒に朝食を食べているか	298
図 97. 困窮度別に見た、おうちの大人のひとと一緒に夕食を食べているか	299
図 98. 困窮度別に見た、おうちの大人のひとに宿題（勉強）をみてもらうか	300
図 99. 困窮度別に見た、おうちの大人のひとと文化活動をするか	301
図 100. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）	302
図 101. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）	303
図 102. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間	304
図 103. 困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの	305
図 104. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値（学校がある日）	306
図 105. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値（学校がない日）	307
図 106. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）	308

図 107.	起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）	309
図 108.	朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）	310
図 109.	朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）	311
図 110.	起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間	312
図 111.	朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間	313
図 112.	困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連	314
図 113.	困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連	315
図 114.	学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度	316
図 115.	学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度	317
図 116.	学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間	318
図 117.	学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間	319
図 118.	学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度	320
図 119.	困窮度別に見た、子どもの将来への期待度	321
図 120.	困窮度別に見た、希望する進学先	322
図 121.	困窮度別に見た、希望する進学先（2016年度調査との比較）	323
図 122.	困窮度別に見た、子どもに希望する進学	324
図 123.	困窮度別に見た、学校への遅刻	325
図 124.	困窮度別に見た、子どもの通学状況	326
図 125.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと一緒に朝食を食べているか	327
図 126.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと一緒に夕食を食べているか	328
図 127.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとに宿題（勉強）をみてもらうか	329
図 128.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと学校のできごとについて話すか	330
図 129.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりするか	331
図 130.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話すか	332
図 131.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと文化活動をするか	333
図 132.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと一緒に外出するか	334
図 133.	学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること	336
図 134.	学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数	337
図 135.	学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	338
図 136.	学校への遅刻別に見た、希望する進学先	339
図 137.	学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの	340
図 138.	子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること	342
図 139.	子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合	343
図 140.	子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数	344
図 141.	子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	345
図 142.	子どもの通学状況別に見た、希望する進学先	346
図 143.	困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯	347
図 144.	困窮度別に見た、子どもへの信頼度	348
図 145.	困窮度別に見た、子どもとの会話頻度	349
図 146.	困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間	350
図 147.	困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間	351
図 148.	自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況	353
図 149.	自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）	354
図 150.	自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）	355
図 151.	困窮度別に見た、放課後を過ごす場所	359
図 152.	困窮度別に見た、放課後と一緒に過ごす人	361
図 153.	困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと	363
図 154.	困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること	365
図 155.	困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	367
図 156.	困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先	369
図 157.	困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（2016年度調査との比較）	370
図 158.	世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がいない割合	371
図 159.	世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がいない割合（2016年度調査との比較）	371
図 160.	困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	372

図 161.	子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	373
図 162.	地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか	374
図 163.	地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか	375
図 164.	地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか	376
図 165.	地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか	377
図 166.	地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか	378
図 167.	地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか	379
図 168.	地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか	380
図 169.	困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所	381
図 170.	困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所	382
図 171.	困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所	383
図 172.	困窮度別に見た、何でも相談できる場所	384
図 173.	困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験	385
図 174.	平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	387
図 175.	昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	389
図 176.	勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	391
図 177.	何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	393
図 178.	自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	395
図 179.	自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所	396
図 180.	自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所	397
図 181.	自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所	398
図 182.	自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所	399
図 183.	子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先	401
図 184.	学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	403
図 185.	学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所	405
図 186.	学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所	407
図 187.	学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所	409
図 188.	学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所	411
図 189.	身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所	413
図 190.	身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所	415
図 191.	身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所	417
図 192.	身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所	419
図 193.	身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無	421
図 194.	身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先	423

IV 資料編

おおさかふ こ せいかつ かん じったいちようさ
大阪府子どもの生活に関する実態調査

しょうがくせい ちゅうがくせい む ちようさ ちようさひよう かしわらし
小学生・中学生向け調査 調査票 【柏原市】

ちようさ きょうりよく ねが
< 調査への協力のお願い >

- ◆この調査は、大阪府内の小学生・中学生のみなさんの学校や家での生活の様子、将来についての考えや希望などについてたずねるものです。
- ◆この調査は、小学生または中学生のあなたが自分で答えてください。
- ◆名前を書く必要はありません。テストではありませんので、思ったとおりに答えてください。
- ◆答えたくない質問は答える必要はありません。
- ◆答えに迷う場合には、あなたの気持ちや考えにできるだけ近いものを選ぶようにしてください。
- ◆あなたが答えた内容は、おうちの人や先生に見せる必要はありません。
- ◆大阪府と柏原市はこの調査結果を参考に、子どもたちのために何ができるかを考えていきますので、ご協力をお願いします。
- ◆Webまたは紙の調査票のどちらかで令和5年9月22日までに回答してください。

う え ぶ かいとう
(1) Webによるご回答

- この調査は、Webから回答することができます。
- 回答方法は、16ページをざらんください。
- ※Webでの回答は1回限りです。回答を送信すると、そのあとの修正はできません。

かみ ちようさ ひよう かいとう
(2) 紙の調査票によるご回答

- ・調査票に記入後、「小学生・中学生用」と書かれた封筒に入れ、シールをはがしてフタを閉じて、おうちの人に渡してください。

きげん れいわ がつ にち きんようび
◆期限： 令和5年9月22日（金曜日）◆

ちようさ かん といあわ さき
【調査に関するお問合せ先】

かしわらしふくし ぶ こそだ し えんか こそだてしえんかかり
柏原市福祉こども部子育て支援課 子育て支援係

でんわ 072-971-0042 (直通) ※8:45~17:15 ど にちようび しゅくじつ のぞ
ファクシミリ 072-973-3782

質問の回答方法について

◆それぞれの質問について次のように教えてください。

(例) あなたの好きな色は何色ですか。

1. 赤色	3. 緑色
2. 黄色	4. その他の色

※答えは、あてはまる番号に○をつけてください。

※○のつけかたは、質問文の終わりに「あてはまる番号 1 つに○をつけてください」や「あてはまる番号すべてに○をつけてください」などを書いてありますので、それにしたがってください。

あなたについておたずねします。

問1 あなたは小学生ですか、それとも中学生ですか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 小学生	2. 中学生

あなたのふだんの生活のことについておたずねします。

問2 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時刻に起きていますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 起きている	3. あまり、起きていない
2. どちらかといえば、起きている	4. 起きていない

問3 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、何時に寝ていますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 午後9時より前	4. 午後11時台	7. きまっていない
2. 午後9時台	5. 午前0時台	
3. 午後10時台	6. 午前1時より後	

問4 朝食についておたずねします。

(1) あなたは、週にどのくらい、朝食を食べていますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 食べない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	

(2) 前の質問で「1. 毎日またはほとんど毎日」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが朝食を食べない理由は何ですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問5 夕食についておたずねします。

(1) あなたは、週にどのくらい、夕食を食べていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 食べない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	

(2) 前の質問で「1. 毎日またはほとんど毎日」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが夕食を食べない理由は何ですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問6 お休みの日の昼食についておたずねします。

(1) あなたは、学校がお休みの日に昼食を食べますか。(夏休みなどの長期のお休みの日もふくみます。)(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 必ず食べる	3. 食べないことが多い	5. わからない
2. 食べることが多い	4. 食べない	

(2) 前の質問で「1. 必ず食べる」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが、学校がお休みの日に昼食を食べない理由は何ですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問7 あなたは、学校に遅刻することがありますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 遅刻はしない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	

かしぴょん



とい 問8 あなたは、次のようなことをどのくらいしていますか。（①～⑩それぞれについて、あてはまる番号ばんごう
ひと まる
1つに○をつけてください）

	ほとんど毎日 まいにち	週に4～5回 しゅう かい	週に2～3回 しゅう かい	週に1回程度 しゅう かい	月に1～2回 つき かい	ほとんどない	まったくない
① おうちの大人のひとと一緒に朝食を食べていますか。	1	2	3	4	5	6	7
② おうちの大人のひとと一緒に夕食を食べていますか。	1	2	3	4	5	6	7
③ おうちの大人のひとに朝、起こしてもらいますか。	1	2	3	4	5	6	7
④ おうちの手伝いをしていますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑤ おうちの大人のひとに宿題（勉強）をみてもらいますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑥ おうちの大人のひとと学校でのできごとについて話しますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑦ おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりしますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑧ おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話しますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑨ おうちの大人のひとと文化活動（図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど）をしますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑩ おうちの大人のひとと一緒に外出しますか。（散歩する・買い物に出かける・外食をするなど）	1	2	3	4	5	6	7

とい 問9 あなたは、毎日の生活でどのようなときに楽しいと思いますか。
ばんごう まる
（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. おうちのひとと一緒に過ごしているとき	5. 今、住んでいる地域の行事に参加しているとき
2. ともだちと一緒に過ごしているとき	6. 塾や習いごとで過ごしているとき
3. 学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき	7. 特に楽しいと思うときはない
4. ひとりで過ごしているとき	8. その他

とい
問10 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、だれと過ごしますか。
（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. おうちの大人のひと（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）
2. きょうだい
3. おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）
4. 学校のともだち
5. クラブ活動・部活動の仲間
6. 学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）
7. ひとりである
8. その他のひと

とい
問11 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、どこで過ごしますか。
（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 自分の家	9. コンビニエンスストア
2. おばあちゃん・おじいちゃんの家	10. ゲームセンター
3. ともだちの家	11. 図書館や公民館など公共の施設
4. 塾	12. 地域の居場所（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所）
5. 習いごと	13. 学童保育（※）
6. 学校（クラブ活動・部活動など）	14. その他
7. 公園・広場	
8. スーパーやショッピングモール	

※「学童保育」とは、「放課後児童クラブ」、「いきいき放課後児童クラブ」、「留守家庭児童会（室）」、「学童クラブ」、「仲良しクラブ」もふくみます。

とい
問12 あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。
※勉強には学校の宿題もふくみます。（あてはまるものすべてに○をつけてください）

1. 自分で勉強する	6. おうちの人に教えてもらう
2. 塾で勉強する	7. ともだちと勉強する
3. 学校の補習を受ける	8. その他
4. 家庭教師に教えてもらう	9. 学校の授業以外で勉強はしない
5. 地域の人などが行う無料の勉強会に参加する	

とい 問13 あなたは、授業時間以外に1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。
 (塾などの時間もふくみます。) (①、②それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

	まったくしない	30分より少ない	30分以上、1時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	3時間以上	わからない
① 学校がある日 (月～金曜日)	1	2	3	4	5	6	7
② 学校がない日 (土・日曜日・祝日)	1	2	3	4	5	6	7

はんぶん
あと半分だよ。
がんばってね！

とい 問14 学校の勉強についておたずねします。
 (1) 学校の勉強について、一番あなたの気持ちに近いものはどれですか。
 (あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. よくわかる	3. あまりわからない	5. わからない
2. だいたいわかる	4. ほとんどわからない	

(2) 前の質問で「3. あまりわからない」「4. ほとんどわからない」「5. わからない」に○をつけた方におたずねします。いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。
 (あてはまるもの1つに○をつけてください)

1. 小学1・2年生のころ	3. 小学5年生になってから	5. 中学1年生のころ
2. 小学3・4年生のころ	4. 小学6年生のころ	6. 中学2年生になってから

とい 問15 あなたは、学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。
 (教科書や参考書、マンガや雑誌をのぞきます。) (あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. まったくしない	5. 2時間以上、3時間より少ない
2. 30分より少ない	6. 3時間以上
3. 30分以上、1時間より少ない	7. わからない
4. 1時間以上、2時間より少ない	

とい 問16 あなたは、^{がっこう}学校や^{がっこう}学校の^{ぎょうじ}行事等で次のようなことがありますか。

(^{ばんごう}あてはまる番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ^{じゅぎょうちゅう} 授業中に ^ね 寝てしまうことが多い	7. ^{うんどうかい} 運動会や ^{えんそく} 遠足などの ^{がっこうぎょうじ} 学校行事を ^{けっせき} 欠席する
2. ^{しゅくだい} 宿題ができていないことが多い	8. ^{ほけんしつ} 保健室で ^す 過ごすことが多い
3. ^も 持ち物の ^{わす} 忘れ物が ^も 多い	9. ^{がっこう} 学校では ^{ひとり} ひとりで ^す 過ごすことが多い
4. ^{なら} 新しいことを ^{やす} 休むことが ^{おほ} 多い	10. ^{ともだち} ともだちと ^{あそ} 遊んだり、 ^{おしゃべり} おしゃべりしたりする ^{じかん} 時間が
5. ^{ていしゅつぶつ} 提出物を出すのが ^だ 遅れることが ^{おほ} 多い	^{すく} 少ない
6. ^{しゅうがくりょこう} 修学旅行などの ^{しゅくはくぎょうじ} 宿泊行事を ^{けっせき} 欠席する	11. ^{とく} 特にない

とい 問17 今、あなたは、^{いま}いやなことや^{なや}悩んでいることはありますか。

(^{ばんごう}あてはまる番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ^{おうち} のこと	6. ^す 好きな ^{ひと} 人のこと
2. ^{がっこう} 学校や ^{べんきょう} 勉強のこと	7. ^{しんがく} 進学・ ^{しんろ} 進路のこと
3. ^{くらぶ} クラブ活動や ^{ぶかつどう} 部活動のこと	8. ^た その他のこと
4. ^{じぶん} 自分のこと(外見や ^{がいけん} 体型など)	9. ^{なや} いやなことや悩んでいることはない
5. ^{ともだち} のこと	10. ^{わから} ない

とい 問18 あなたは、^{なや}いやなことや悩んでいることがあるとき、^{そうだん}だれかに相談しますか。(だれに^{はな}話しますか。)

(^{ばんごう}あてはまる番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ^{おや} 親	12. ^{いんたーねっと} インターネットや ^{さいと} サイトなどを ^{つう} 通じて ^し 知りあった
2. ^{きょうだい} きょうだい	^{ちよくせつ} 直接会ったことのない ^{ひと} 人
3. ^{しん} 親せき	13. ^{きんじよ} 近所の ^{ひと} 人
4. ^{がっこう} 学校の ^{ともだち} ともだち	14. ^{ちいき} 地域の ^{しえん} 支援 ^{だんたい} 団体
5. ^{がっこう} 学校以外の ^{ともだち} ともだち	(^{がくしゅう} 学習支援の ^ば 場や ^こ 子ども ^{しょくどう} 食堂など ^{ちいき} 地域で
6. ^{がっこう} 学校の ^{せんせい} 先生	^{おな} 同じ ^{とし} 年ごろの ^こ 子どもが ^{あつ} 集まるところの ^{ひと} 人)
7. ^{すくー} スクール ^{かうん} カウンセラー、 ^{そーしゃる} ソーシャル ^{わーかー} ワーカー	15. ^た その他の ^{ひと} 人
8. ^{じゅく} 塾や ^{なら} 新しい ^{せんせい} 先生の	16. ^{だれ} だれにも ^{そうだん} 相談できない
9. ^{がくどう} 学童 ^{ほいく} 保育の ^{せんせい} 先生(※)	17. ^{だれ} だれにも ^{そうだん} 相談したくない
10. ^こ 子ども ^{せんよう} 専用の ^{でんわ} 電話 ^{そうだん} 相談	18. ^{わから} ない
11. ^{えすえぬえす} SNSなどの ^{いんたーねっと} インターネットや ^{らいん} LINEの ^{そうだん} 相談	

※「^{がくどうほいく}学童保育」とは、「^{ほうかご}放課後^{じどうくらぶ}児童クラブ」、「^{いいき}いき放課後^{じどうくらぶ}児童クラブ」、「^{りゅうしゅ}留守家庭^{じどうかい}児童会(室)」、「^{がくどうくらぶ}学童クラブ」、「^{なかよ}仲良し^{くらぶ}クラブ」もふくみます。

とい
問19 わたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。あなたが、この一週間、どんな気持ちや状況だったのか、教えてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに教えてください。

(①～⑨それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

	そいつ だも	ときどき そうだ	そんなこと はない
① 楽しみにしていることがたくさんある	1	2	3
② 遊びにでかけるのが好きだ	1	2	3
③ 元気いっぱいだ	1	2	3
④ やろうと思ったことがうまくできる	1	2	3
⑤ 一人ぼっちのような気がする	1	2	3
⑥ 不安な気持ちになる	1	2	3
⑦ まわりが気になる	1	2	3
⑧ やる気が起きない	1	2	3
⑨ いらいらする	1	2	3

とい
問20 あなたは、自分の体の状態で気になることはありますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. ねむれない	6. よくかゆくなる
2. よく頭がいたくなる	7. とくに気になるところはない
3. 歯がいたい	8. その他
4. よくおなかがいたくなる	9. わからない
5. よくかぜをひく	



かしびょん

答えたくない質問は答える必要はないよ。

答えに迷うときは、あなたの気持ちや考えに

できるだけ近いものを選んでね。

とい 問21 あなたが、持っているものや、あなたが使うことができるものを選んでください。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 本 (学校の教科書やマンガ・雑誌はのぞく)	8. テレビ
2. マンガ・雑誌	9. けいたい電話
3. 子ども部屋 (ひとり部屋やきょうだいと 一緒に使っている部屋など)	10. スマートフォン・タブレット機器
4. インターネットにつながるパソコン (学校のパソコンはのぞく)	11. 化粧品・アクセサリ
5. 運動用具 (ボール・ラケットなど)	12. 習いごとなどの道具 (ピアノなど)
6. ゲーム機	13. 自分で選んだ服
7. 自転車	14. キャラクターグッズ
	15. その他
	16. あてはまるものはない

あなたが、ふだん 考 えていることについておたずねします。

とい 問22 あなたは、つらいことがあってもすぐ立ち直ることができますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. そう思う	3. どちらかというそう思わない
2. どちらかというそう思う	4. そう思わない

とい 問23 あなたがふだん 考 えていることについて、次の (1) ~ (3) について教えてください。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

(1) 自分に自信がある

1. ある	3. どちらかというたない
2. どちらかというとある	4. ない

(2) 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

1. できる	3. どちらかというとできない
2. どちらかというとできる	4. できない

(3) 自分の将来の夢や目標を持っている

1. 持っている	3. どちらかというと持っていない
2. どちらかというと持っている	4. 持っていない

とい 問24 あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 中学校	6. 留学 (外国で長い期間勉強すること)
2. 高校	7. 専門学校 (美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など) ・高等
3. 短期大学	せんもんがっこう
4. 大学	専門学校
5. 大学院	8. 考えたことがない
	9. わからない

あともう少しだよ！

がんばってね！



かしびよん

あなたのことについて、おたずねします。

問25 自分やともだちの家以外の場所についておたずねします。

- (1) あなたは、次の①～④のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことがない場合、今後利用したいと思いますか。

(①～④それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

	利用したことがある	利用したことはない (あれば利用したい と思う)	利用したことはない (今後利用したい と思わない)	利用したことはない (今後利用したい か分からない)
① 平日の夜や休日を過ごすことができる場所 (学童保育など)	1	2	3	4
② 昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など)	1	2	3	4
③ 勉強を無料か安い料金でみてくれる場所 (一般的な学習塾とはちがう学習支援など)	1	2	3	4
④ 何でも相談できる場所 (電話やネットの相談をふくむ。)	1	2	3	4

- (2) 前の質問で、1つでも「利用したことがある」と答えた方におたずねします。そこを利用したことで、次のような変化がありましたか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ともだちが増えた	6. 勉強がわかるようになった
2. 気軽に話せる大人が増えた	7. 勉強する時間が増えた
3. 生活の中で楽しみなことが増えた	8. その他
4. ほっとできる時間が増えた	9. 特に変化はない
5. 栄養のある食事をとれることが増えた	

(3) 問25(1)の質問で、「利用したことがある」に○をつけた方以外におたずねします。利用したことがないのはなぜですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. どこにあるか知らないから	7. Wi-fi (インターネット通信環境) がないから
2. 家の近く(ひとりでいける場所)にないから	8. 行きたいと思わないから
3. 家で過ごしたいと思うから	9. 何をしているかわからないから
4. 楽しくなさそうだから	10. 利用していることを近所の人やともだちに知られたくないから
5. 「行ってもいけない」と親などの大人に言われるから	11. その他
6. 行きたい日・時間に開いていないから	

問26 あなたがおうちでしているお世話の様子についておたずねします。

(1) おうちの人のなかあなたが世話をしている人はいますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. いる	2. いない

(2) 前の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。誰のお世話をしていますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. お母さん	4. おじいちゃん
2. お父さん	5. きょうだい
3. おばあちゃん	6. その他

(3) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。あなたがやっているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 料理や買い物、食器洗いなど	5. 病院へ一緒に行くことやお風呂・トイレのお世話、見守りをする、話し相手になる、通訳をする、お金の管理、薬の管理など
2. 洗濯など	6. その他
3. そうじやゴミ捨てなど	
4. きょうだいのめんどろを見ることや保育所のおむかえなど	

(4) 前の質問で「6. その他」に○をつけた方は、具体的な内容を書いてください。

(5) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。お世話をするのはどれくらいありますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ほぼ毎日	3. 週に1日または2日
2. 週に3日～5日	4. 1か月に数日

(6) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。学校がある日に、お世話を1日のうちどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 1時間より少ない	4. 3時間以上、5時間より少ない
2. 1時間以上、2時間より少ない	5. 5時間以上、7時間より少ない
3. 2時間以上、3時間より少ない	6. 7時間より多い

(7) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。お世話をしていることによつて次のようなことがありますか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. おうちの人と話したり遊んだりすることが ふ 増える	8. とても疲れることがある
2. 時間の使い方を工夫できる	9. いろいろしやすい
3. 家の中で気持ちよく過ごすことができる	10. 気持ちが落ち込む
4. おうちの人健康に過ごすことができる	11. 学校を欠席や遅刻、早退することがある
5. 「お世話」にやりがいを感じる	12. その他
6. おうちの人以外と話す時間が減る	13. 特にな
7. 自分のことをする時間がない	

問27 あなたの性別をえらんでください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 男子	3. その他
2. 女子	4. 答えたくない

質問はこれで終わりです。調査にご協力いただきありがとうございました。

「小学生・中学生用」と書いてある封筒に入れ、シールをはがしてフタを閉じて、保護者の方に渡してください。

相談窓口のご案内

○親子やきょうだいのことなど家庭での悩みについては

<子どもの悩み相談フリーダイヤル>

TEL : 0 1 2 0 - 7 2 8 5 - 2 5

24時間 365日

LINE <https://www.pref.osaka.lg.jp/kateishien/sodanliner3/index.html>

<親子のための相談LINE>

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29751.html

○友人関係など学校での悩みについては

<すこやかホットライン>

TEL : 0 6 - 6 6 0 7 - 7 3 6 1

月曜日～金曜日 : 9時～17時30分 (※祝日・年末年始を除く)

Eメール sukoyaka@edu.osaka-c.ed.jp



©2014 大阪府もずやん

【ひとりで悩まないで、相談してね。】

パソコン・スマートフォン・タブレット端末でも回答できます！

■ WEBで回答された場合は、同封の調査票の返送は不要です。

■ 携帯電話（ガラケー）では回答できませんのでご注意ください。

- ◆ スマートフォン・タブレット端末の場合は、カメラで次の二次元バーコードを読み取ってください。

[二次元バーコード]



- ◆ パソコンの場合は、次のURL（「https…」から始まるアドレス）を検索画面に手入力し、エンターキーを押してください。

[URL] <https://src.webcas.net/form/pub/src2/2700082>

- ◆ 最初の画面がでてきたら、次のIDを入力し、「次へ」ボタンを押し、ログインしてください。

◇ ID

※ IDは、個人を特定するものではありません。

- ◆ ログイン後は、質問の番号順に沿って回答してください。

おおさかふ こ せいかつ かん じったいちようさ
大阪府子どもの生活に関する実態調査
ほ ご し ゃ む ちようさ ちようさひよう かしわらし
保護者向け調査 調査票 【柏原市】

＜ ちようさ きようりよく ねが
調査への協力をお願い ＞

- ◆この調査は、保護者の方に家庭状況などをお聞きし、大阪府と柏原市の子どものための支援策に役立てるために実施します。皆様からの回答を支援策の充実や改善につなげていきたいと考えていますので、お忙しい中お手数ですが、調査への協力をお願いします。
- ◆調査の対象は、柏原市内の公立小中学校に通う小学5年生と中学2年生全員を対象としています。
- ◆お名前や住所を書く必要はありません。調査の集計は統計的に処理し、個人や学校を特定することはありません。また、目的以外に使うことはありません。
- ◆この調査で「お子さん」とは、調査票を受け取ったお子さんのことです。「お子さん」と書かれた質問には調査票を受け取ったお子さんについてのみお答えください。
- ◆ごきょうだいなどで、この調査用紙が複数届いた場合も、お手数ですが、それぞれのお子さんについて、それぞれの調査用紙（またはWebフォーム）に回答してください。
- ◆回答するときには、お子さんと別々に、お互いの回答を見ないように記入してください。
- ◆Webまたは紙の調査票のどちらかで令和5年9月22日までに回答してください。

（1）Webによるご回答

- この調査は、Webから回答することができます。
- 回答方法は、16ページをごらんください。
- ※Webでの回答は1回限りです。回答を送信すると、そのあとの修正はできません。

（2）紙の調査票によるご回答

- ・調査票に記入後、「保護者用」と書かれた封筒に入れ、シールをはがして封をしてください。お子さんの回答の入った「小学生・中学生用封筒」と「保護者用封筒」を返信用封筒にまとめて入れ、期限までに学校に提出してください。

◆期限： 令和5年9月22日（金曜日）◆

【調査に関するお問合せ先】

柏原市福祉こども部子育て支援課 子育て支援係

電話 072-971-0042（直通） ※8:45～17:15 土・日曜日・祝日を除く
ファクシミリ 072-973-3782

質問の回答方法について

◆それぞれの質問について次のように教えてください。

(例) あなたの好きな色は何色ですか。

1. 赤色	3. 緑色
2. 黄色	4. その他の色

※答えは、あてはまる番号に○をつけてください。

※○のつけかたは、質問文の終わりに「あてはまる番号 1 つに○をつけてください」や「あてはまる番号すべてに○をつけてください」などを書いてありますので、それにしたがってください。

最初に、あなたとお子さんの関係についておたずねします。

問1 この調査に回答いただいている方におたずねします。お子さんとあなたの続柄について教えてください。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. お母さん	4. おじ、おばなど親戚
2. お父さん	5. 施設職員・ファミリーホーム・里親
3. おじいさん・おばあさん	6. その他の人

世帯の状況についておたずねします。

※あなたの世帯について、令和5年4月1日現在の状況を教えてください。

※世帯とは、普段、住居と生計を共にしている方々(世帯員)の集まりをいいます。血縁関係のない人でも同居していれば世帯に含んでください。また、単身赴任の方も含みます。

※世帯員には、旅行や出張などで一時的に自宅を離れている人や船員など就業場所を移動する人を含みます。

※また、病院・診療所に入院している人を含みますが、住民登録を病院・診療所に移している人は除きます。さらに、学業で世帯を離れている人、老人福祉施設などの社会福祉施設に入所している人を除きます。

問2 あなたの世帯の構成と人数をお答えください。（①～⑧それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください）（⑧は、あなたや対象のお子さんを含んだ人数をお答えください。）

①おばあさん	②おじいさん	③お母さん	④お父さん	⑧合計 (あなたや対象のお子さんを含む)
0. いない 1. 1人 2. 2人	0. いない 1. 1人 2. 2人	0. いない 1. 1人	0. いない 1. 1人	1. 2人 2. 3人 3. 4人 4. 5人 5. 6人 6. 7人 7. 8人 8. 9人 9. 10人以上
⑤姉・兄	対象のお子さん (本人) (※)	⑥妹・弟	⑦その他	
0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	1人	0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	

※「対象のお子さん」とは、調査票を受け取ったお子さんのことです。

問3 お子さんと同居し、生計を共にしている親の婚姻状況を教えてください。
(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 結婚している（再婚や事実婚を含む。）	4. 未婚
2. 離婚	5. わからない
3. 死別	6. いない

問4 前の質問で「2. 離婚」に○をつけた方におたずねします。

離婚相手とお子さんの養育費の取り決めをしていますか。

また養育費を現在受け取っていますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 取り決めをしており、受け取っている
2. 特に取り決めはしていないが、受け取っている
3. 取り決めをしているが、受け取っていない
4. 取り決めをしておらず、受け取っていない

問5 あなたの住居は、次のどれにあてはまりますか。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

1. 持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	4. 民間の賃貸住宅
2. 府営・市営の住宅	5. 官舎・社宅
3. UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	6. その他

問6 あなたの家計の収支状況についておたずねします。

（1）前年（2022年）の1年間のあなたの家計の状況について、あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 貯蓄ができています	3. 赤字でもなく黒字でもない
2. 赤字である	4. わからない

（2）お子さんの将来のために貯蓄をしていますか。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

1. 貯蓄をしている	3. 貯蓄をするつもりはない
2. 貯蓄をしたいが、できていない	

問7 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。おおむね半年の間でお考えください。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 食費を切りつめた	13. 鉄道やバスの利用を控え、自転車を使ったり歩くようにした
2. 電気・ガス・水道などが止められた	14. 電話（固定・携帯）などの通信料の支払いが滞ったことがある
3. 医療機関を受診できなかった	15. 家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある
4. 国民健康保険料の支払いが滞ったことがある	16. 趣味やレジャーの出費を減らした
5. 国民年金の支払いが滞ったことがある	17. 冷暖房の使用を控えた
6. 金融機関などに借金をしたことがある	18. 友人・知人との外食を控えた
7. クレジットカードの利用が停止になったことがある	19. 敷金・保証金などを用意できないので、住み替え・転居を断念した
8. 新しい衣服・靴を買うのを控えた	20. 理髪店・美容院に行く回数を減らした
9. 新聞や雑誌を買うのを控えた	21. 子ども部屋が欲しかったがつくれなかった
10. スマートフォンへの切替・利用を断念した	22. 1～21の項目には、どれもあてはまらない
11. 冠婚葬祭のつきあいを控えた	
12. 生活の見通しがたたなくて不安になったことがある	

問8 お子さんのお母さんとお父さんの最後に通った学校を教えてください。（あてはまる番号1つに○をつけてください）（現在、ひとりでお子さんを育てている場合（ひとり親の場合）はあてはまる方だけに○をつけてください。）

お母さん	お父さん
1. 中学校卒業	1. 中学校卒業
2. 高等学校中途退学	2. 高等学校中途退学
3. 高等学校卒業	3. 高等学校卒業
4. 高専、短大、専門学校等卒業	4. 高専、短大、専門学校等卒業
5. 大学卒業	5. 大学卒業
6. 大学院修了	6. 大学院修了
7. その他の教育機関卒業	7. その他の教育機関卒業
8. 答えたくない	8. 答えたくない

問9 お子さんの保護者の方の現在の就業状況についておたずねします。（複数か所にお勤めされている方はあてはまる番号をすべて選んでください）

※お母さん、お父さん以外の方が主として家計を支えている場合、「お母さん、お父さん以外の方」にもご記入をお願いします。

※現在、育児休業などで休業中の方は、復職するときの仕事の番号を選んでください。

お母さん	1. いる	2. いない



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員） 2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務） 3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務） 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ①家事や育児に専念したため ②学生のため ③おうちの人の介護や介助のため ④病気療養のため ⑤年金収入があるため ⑥家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦その他

とう お父さん	1. いる	2. いない



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員） 2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務） 3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務） 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ① 家事や育児に専念したため ② 学生のため ③ おうちの人の介護や介助のため ④ 病気療養のため ⑤ 年金収入があるため ⑥ 家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦ その他

かあ とう い がい しゅ かけい ささ かた お母さん、お父さん以外に主として家計を支えている方（おばあさん、おじいさん、おじ、おば、親戚など）	
1. いる	2. いない



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員） 2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務） 3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務） 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ① 家事や育児に専念したため ② 学生のため ③ おうちの人の介護や介助のため ④ 病気療養のため ⑤ 年金収入があるため ⑥ 家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦ その他

問10 お子さんの保護者の方が家にいる時間帯で、多い時間帯を選んでください。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

※保護者の方には、おばあさん、おじいさん、おじ、おばなど親戚を含みます。

※自宅が仕事場の場合は、お仕事が終わる時間帯を選んでください。

1. お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	4. お子さんが寝た後に帰ってくる
2. お子さんの夕食時間には家にいる	5. 帰宅時間が決まっていない
3. お子さんの寝る時間には家にいる	6. その他

問11 ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 日本語のみを使用している
2. 日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い
3. 日本語以外の言語を使うことが多い

お子さんに関することについておたずねします。

問12 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。（おおむね1年の間で考えてください。）（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. お子さんを医療機関に受診させることができなかった	9. お子さんを学習塾に通わせることができなかった
2. お子さんの進路を変更した	10. お子さんの誕生日を祝えなかった
3. お子さんのための本や絵本が買えなかった	11. お子さんにお年玉をあげることができなかった
4. お子さんにおこづかいを渡すことができなかった	12. お子さんの学校行事などに参加することができなかった
5. お子さんに新しい服や靴を買うことができなかった	13. 子ども会、地域の行事（祭りなど）の活動に参加することができなかった
6. お子さんを学校の遠足や修学旅行へ参加させることができなかった	14. 家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった
7. お子さんを習い事に通わすことができなかった	15. 1～14の項目には、どれにもあてはまらない
8. お子さんを学校のクラブ活動・部活動に参加させられなかった	

問13 あなたとお子さんとの関係について、次の項目でもっとも近いものを選んでください。

(1) あなたは、お子さんを信頼していますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. とても信頼している	3. あまり信頼していない
2. 信頼している	4. 信頼していない

(2) あなたは、お子さんとよく会話をしますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. よくする	3. あまりしない
2. する	4. しない

(3) あなたがお子さんと一緒に何かをしたり、相手をしたりしている時間は、1 日あたり平均すると、だいたいどれくらいになりますか。(平日、休日それぞれについて、あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

平日	休日
1. 0～15 分未満	1. 2 時間未満
2. 15 分～30 分未満	2. 2 時間～4 時間未満
3. 30 分～1 時間未満	3. 4 時間～6 時間未満
4. 1 時間～2 時間未満	4. 6 時間～8 時間未満
5. 2 時間～3 時間未満	5. 8 時間～10 時間未満
6. 3 時間～4 時間未満	6. 10 時間以上
7. 4 時間以上	

(4) あなたは、お子さんの将来に期待していますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. とても期待している	3. あまり期待していない
2. 期待している	4. 期待していない

(5) お子さんの授業参観や運動会などの学校行事に参加していますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. よく参加している	3. あまり参加していない
2. ととき参加している	4. まったく参加していない

問14 あなたは、お子さんの進学について、どこまで希望されていますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 中学校	4. 大学	7. 専門学校・高等専門学校
2. 高校	5. 大学院	8. 考えたことがない
3. 短期大学	6. 留学	9. わからない

問15 お子さんの通学状況について、もっとも近いもの1つに○をつけてください。

1. ほぼ毎日通っている
2. 欠席は年間30日未満である
3. 欠席が年間30日以上、60日未満である
4. 欠席が年間60日以上、1年未満である
5. 欠席が1年以上続いている
6. わからない

問16 子どもの居場所について、おたずねします。

(1) あなたのお子さんは、次のような「子どもの居場所」を利用したことがありますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- ・自宅や学校以外の場所で、子どもたちが本を読んだり、みんなで遊んだりできるような場所
- ・子どもが無料又は低額で食事ができる場所 (子ども食堂)
- ・自宅や学校、塾以外の場所で、無料でボランティアの方などが勉強を教える学習支援の場

1. 利用したことがある	2. 利用したことがない

(2) 前の質問で「1. 利用したことがある」と答えた方におたずねします。

お子さんが子どもの居場所を利用することで良いと思うことは何ですか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 地域の人とつながれるから 2. お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから 3. 栄養バランスのとれた食事がとれるから 4. 運営者が相談に乗ってくれるから 5. 低額 (または無料) でご飯が食べられるから	6. 宿題など勉強を見てくれるから 7. お子さんが楽しんでいるから 8. 特になし 9. その他

(3) 問16 (1) の質問で「2. 利用したことがない」と答えた方におたずねします。

子どもの居場所を利用しないのはなぜですか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. どこにあるか知らないから 2. 家の近く (小学校区内) にないから 3. 家で過ごしてほしいと思うから 4. 居場所のイメージがよくないから 5. お子さんが「行きたくない」と言っているから	6. 行きたい日・時間に開いていないから 7. 利用したいと思わないから 8. 何をしているかわからないから 9. その他

あなたのことについておたずねします。

問17 初めて親となった年齢はいくつですか。（実子以外も含みます）

（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 10代	3. 24～26歳	5. 31～34歳	7. 40歳以上
2. 20～23歳	4. 27～30歳	6. 35～39歳	

問18 次の①～⑦について、おうちの方を含め（お子さんは除く）、あなたを支えてくれて、手伝ってくれる人はいますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

	いる	いない	わからない
① 心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人	1	2	3
② あなたの気持ちを察して思いやってくれる人	1	2	3
③ 趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人	1	2	3
④ お子さんとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人	1	2	3
⑤ お子さんの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人 （運動や文化活動）	1	2	3
⑥ お子さんの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人	1	2	3
⑦ 留守を頼める人	1	2	3

問19 あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか。

（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 配偶者・パートナー	9. 学童保育の指導員（※）
2. 自分の親	10. 地域の民生委員・児童委員
3. 配偶者・パートナーの親	11. 民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）
4. きょうだい・その他の親戚	12. 医療機関の医師や看護師
5. 知人や友人	13. インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談
6. 職場関係者	14. その他
7. 学校の先生やスクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカー	15. 相談できる相手がいない
8. 公的機関や役所の相談員	

※「学童保育」とは、「放課後児童クラブ」、「いきいき放課後児童クラブ」、「留守家庭児童会（室）」、「学童クラブ」、「仲良しクラブ」も含みます。

問20 次のうち、身近にあるといいと思うことは何ですか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 保護者^{ほごしや}どうして気軽に^{きがる}話せる^{はな}場^ば 2. SNS^{えすえぬえす}などのインターネット^{いんたーねっと}を通じて^{つう}悩み^{なや}ごとを話せる^{はな}コミュニティ^{こみゆにてい} 3. 家事^{かじ}の援助^{えんじょ}が受け^うられること 4. 支援^{しえん}制度^{せいど}など必要な^{ひつよう}情報^{じょうほう}を届^{とど}けてくれること 5. 困^{こま}った時^{とき}にご飯^{はん}を無料^{むりよう}または安価^{あんか}で自宅^{じたく}に届^{とど}けてくれる^{さーびす}サービス	6. お子^こさんが放課^{ほうか}後^ごや休日^{きゅうじつ}に勉強^{べんきょう}などができる^{ばしよ}場所^{ばしよ}を利用^{りよう}できること 7. お子^こさんが無料^{むりよう}で学習^{がくしゅう}支援^{しえん}を受け^うられる場所^{ばしよ} 8. お子^こさんや保護^{ほごしや}者が夕食^{ゆうしよく}を無料^{むりよう}か安い^{やす}料金^{りょうきん}で食べる^たこととができる^{ばしよ}場所^{ばしよ}（子ども食堂^{こどもしきどう}など）を利用^{りよう}できること

問21 あなたの心^{こころ}の状態^{じょうたい}についておたずねします。

(1) 生活^{せいかつ}を楽し^{たの}んでいますか。（仕事^{しごと}や家事^{かじ}、育児^{いくじ}など）

（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

1. とても楽し ^{たの} んでいる	3. あまり楽し ^{たの} んでいない	5. わからない
2. 楽し ^{たの} んでいる	4. 楽し ^{たの} んでいない	

(2) 将来^{しやうらい}に対して希望^{たい}を持^もっていますか。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

1. 希望 ^{きぼう} が持 ^も てる	3. 希望 ^{きぼう} が持 ^も てない
2. 希望 ^{きぼう} が持 ^も てるときもあれば、持 ^も てないときもある	4. わからない

(3) ストレス^{すとれす}を発散^{はっさん}できるものがありますか。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

1. ある	3. ない
2. あるときもあれば、ないときもある	4. わからない

(4) あなたは、ご自分^{じぶん}が幸^{しあわ}せだと思^{おも}いますか。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

1. とても幸 ^{しあわ} せだと思 ^{おも} う	4. 幸 ^{しあわ} せだと思 ^{おも} わない
2. 幸 ^{しあわ} せだと思 ^{おも} う	5. わからない
3. あまり幸 ^{しあわ} せだと思 ^{おも} わない	

とい
問22 あなたは、自分の体や気持ちで気になることはありますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. ねむれない	10. まわりが気になる
2. よく頭 ^{あたま} がいたくなる	11. やる気が起きない
3. 歯 ^は がいたい	12. イライラする
4. 不安 ^{ふあん} な気持ち ^{きもち} になる	13. よく肩 ^{かた} がこる
5. ものを見 ^み づらい	14. よく腰 ^{こし} がいたくなる
6. 聞こえにくい	15. とくに気 ^き になるところはない
7. よくおなか ^き がいたくなる	16. その他 ^た
8. よくかぜをひく	17. わからない
9. よくかゆくなる	

こた しつもん こた ひつよう
答えたくない質問に答える必要はありません。

こた まよ ばあい
答えに迷う場合には、あなたの気持ち^{きもち}や考え^{かんが}にできるだけ近いもの^{ちか}を選ぶ^{えら}ようにしてください。

問23 あなたの世帯では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。

(a～gそれぞれについて、1～3のあてはまる番号1つに○をつけてください)

また、「3 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。(①～⑤のあてはまる番号1つに○をつけてください)

	a 就学援助 ※1	b 生活保護 ※2	c 生活困窮者の 自立支援相談窓口 ※3	d 児童扶養手当 ※4	e 母子家庭等就業・ 自立支援センター ※5	f 低所得の子育て世帯に対する子育て 世帯生活支援特別給付金 ※6	g 新型コロナウイルス感染症に伴う 生活福祉資金(貸付金) ※7
現在利用している	1	1	1	1	1	1	1
現在利用していないが、 以前利用したことがある	2	2	2	2	2	2	2
利用したことがない	3	3	3	3	3	3	3
制度の対象外 (収入などの条件を 満たさない) だと思う から	①	①	①	①	①	①	①
利用はできるが、特に 利用したいと思わな かったから	②	②	②	②	②	②	②
利用したいが、今まで この支援制度を知ら なかったから	③	③	③	③	③	③	③
利用したいが、手続きが わからなかったり、 利用しにくいから	④	④	④	④	④	④	④
それ以外の理由	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤

3に○をつけた場合、
①～⑤のあてはまるもの1つに○をつけてください

(参考)

※1 就学援助：経済的理由により子どもの就学が困難な場合に、学用品費などを補助する制度。

- ※ 2 生活保護：病気や失業などにより生活費等に困り、他に方法がないときに一定の援助が受けられる制度。
- ※ 3 生活困窮者の自立支援相談窓口：お金、仕事、住宅など、様々な課題を抱えた生活に困窮する方のための相談窓口。専門の支援員が具体的な支援プランを作成し、課題の解決に向けた支援を行う。
- ※ 4 児童扶養手当：所得が一定水準以下のひとり親世帯の生活支援のための手当。（児童手当とは異なります。）
- ※ 5 母子家庭等就業・自立支援センター：ひとり親の方が、仕事探しに関する相談や講習を受けられる支援センター。養育費の取り決めなどに関する相談も受けることができる。
- ※ 6 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金：新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で、低所得の子育て世帯（児童扶養手当受給者など）に対し子育て世帯生活支援特別給付金を支給する制度。
- ※ 7 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）：新型コロナウイルス感染症の発生による休業や失業などにより、一時的又は継続的に収入減少した世帯を対象に、生活福祉資金貸付制度における生活支援費などを支給する制度。

世帯の経済状況についておたずねします。

問24 前年（2022年）のあなたの世帯の手取り収入の合計額は、およそいくらでしたか。

（あてはまる番号1つに○をつけてください）

※収入には、働いて得た給料だけでなく、株式配当や副収入を含めて合計してください。

税金や社会保険料を払ったあとの額でお答えください。

※また、公的な援助手当や養育費・仕送りを含んだ額でお答えください。

1. 50万円未満	12. 550～600万円未満	23. 1,200～1,300万円未満
2. 50～100万円未満	13. 600～650万円未満	24. 1,300～1,400万円未満
3. 100～150万円未満	14. 650～700万円未満	25. 1,400～1,500万円未満
4. 150～200万円未満	15. 700～750万円未満	26. 1,500～1,750万円未満
5. 200～250万円未満	16. 750～800万円未満	27. 1,750～2,000万円未満
6. 250～300万円未満	17. 800～850万円未満	28. 2,000～2,250万円未満
7. 300～350万円未満	18. 850～900万円未満	29. 2,250～2,500万円未満
8. 350～400万円未満	19. 900～950万円未満	30. 2,500～2,750万円未満
9. 400～450万円未満	20. 950～1,000万円未満	31. 2,750～3,000万円未満
10. 450～500万円未満	21. 1,000～1,100万円未満	32. 3,000万円以上
11. 500～550万円未満	22. 1,100～1,200万円未満	33. わからない

新型ウイルスの感染状況についておたずねします。

問25 この1年間でお子さんを含め、同居家族が新型コロナウイルスに感染したのべ回数を教えてください。（例：母 1回、長男 1回 ⇒ 2回とお答えください。）

	かい 回

問26 あなたの住居環境についておたずねします。

(1) あなたがお住まいの住居の間取りは、次のどれにあてはまりますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. ワンルーム	3. 居室2部屋（2K、2DK、2LDK）
2. 居室1部屋（1K、1DK、1LDK）	4. 居室3部屋（3K、3DK、3LDK）以上

(2) その住居には、何人でお住まいですか。（□に数字をお書きください。）

	にん 人

質問は以上です。調査にご協力いただきありがとうございました。

相談窓口のご案内

○生活困窮者自立支援相談窓口

https://www.pref.osaka.lg.jp/shakaiengo/seikon_gaiyou/index.html#jiritu

○大阪府立母子・父子福祉センター（大阪市、堺市、豊中市は各市の窓口）

<https://osakafu-boshiren.jp/>

○子育てや親子関係の悩みについては

<親子のための相談LINE>

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29751.html

パソコン・スマートフォン・タブレット端末でも回答できます！

- WEBで回答された場合は、同封の調査票の返送は不要です。
- 携帯電話（ガラケー）では回答できませんのでご注意ください。

- ◆ スマートフォン・タブレット端末の場合は、カメラで次の二次元バーコードを読み取ってください。

にじげんばーコード
[二次元バーコード]



- ◆ パソコンの場合は、次のURL（「https…」から始まるアドレス）を検索画面に手入力し、エンターキーを押してください。

【URL】 <https://src.webcas.net/form/pub/src2/2700081>

- ◆ 最初の画面が表示されたら、次のIDを入力し、「次へ」ボタンを押し、ログインしてください。

◇ ID

※ IDは、個人を特定するものではありません。

- ◆ ログイン後は、質問の番号順に沿って回答してください。

子ども・保護者のみなさまに本調査にご協力いただきました。ご多忙の中快くお引き受けくださりご協力くださいましたことを、ここに厚くお礼申し上げます。

柏原市子どもの生活に関する実態調査

令和6年3月

柏原市

調査研究業務 受注者

公立大学法人大阪 大阪公立大学